SP-1001-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スタートアップセミナー** | | | | |
| 担当教員名 | **渡邊** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では，大学のしくみを理解し，多様な授業に興味・関心を持つことを目指す．また，大学での学修を進めるうえで必要となる基本的な知識や技能を習得するとともに，それらを活用する判断力を養う．さらに，クラス別プログラムを通じて、学生同士の人間関係を構築し，学ぶ意欲を高めることを目標とする．これらを通じて，主体的かつ充実した大学生活を送るための基盤を形成する．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ大学の教育理念などの理解 | 大学のしくみを理解するとともに，多様な授業に興味・関心を持てるようなる． |
| 2. DP2.知識・技能 | レポート作成とプレゼンテーション | 大学での学習を円滑に進めるための基本的な知識や技能を習得できる． |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 自己分析と目標設定 | 状況や対象に応じて，どのような知識を活用すべきか判断できるようになる． |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 人間関係の構築 | 課題やクラス別プログラムを通じて人間関係を構築するとともに，大学での学習に意欲的に取り組めるようになる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題およびレポート | 100 % | ： 各回で課される課題やレポートで評価する．すべての課題，レポートが合格となることで単位取得となる． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

びわこ成蹊スポーツ大学（編）『スポーツ学のすすめ』大修館書店、2008年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本授業は，特定の曜日や時間に固定されず，不定期の日程で実施されます．また，対面形式とオンライン形式の授業が含まれるほか，全体での授業とクラスごとの授業があるため，各回の形式や日程を十分に確認してください．なお，欠席のないよう注意するとともに，各回で課される課題やレポートの提出が必須です．
本科目は2単位の科目であり，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます．「授業外学修課題」に取り組むことに加え，授業内容を丁寧に復習し，必要に応じて次回の授業の予習も行ってください．

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業ガイダンスと大学での学び** | スタートアップセミナーの概要と受講上の留意点等について，資料を確認する． | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スタートアップセミナーの概要と，受講上の留意点を確認する．あわせて，びわこ成蹊スポーツ大学のポリシーや4年間の学びについて説明する． | | |
| 第2回 | **大学教育のしくみ**<br><br>びわこ成蹊スポーツ大学の建学の精神と行動指針を確認し，8つのコースの概要について説明する．また，カリキュラムの構成や単位取得の方法，出席管理のルール，成績評価の基準についても解説する． | 建学の精神と行動指針の意味を振り返り，その理解を深める． | 4時間 |
| 第3回 | **大学ICT教育の基礎理解**<br><br>Microsoft Teamsの利用方法を学ぶとともに，メールの設定を行う． | 大学教育におけるICTについてレポートにまとめる． | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツと学業**<br><br>本学が目標として掲げる『タバコの無いキャンパス』の意味を理解するとともに，薬物やアルコールの摂取による精神的・身体的影響の観点からスポーツと健康について学ぶ．<br>「学習のつまずぎ」に関する知識を得るとととともに，スポーツと学業を両立させるための本学の支援体制について知る． | たばこ，薬物，アルコールの精神的・身体的影響について復習し，健康面でとるべき行動についてレポートにまとめる． | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツと地域貢献**<br><br>スポーツを通じた地域貢献について，スポーツ開発支援センターが取り組む「びわスポキッズプログラム」や公開講座として行っているスポーツプログラムについて学ぶ． | スポーツを通じた地域貢献の実践事例を復習し，地域貢献の観点でめざす行動についてレポートにまとめる． | 4時間 |
| 第6回 | **クラス別プログラムA：大学での目標の設定**<br><br>卒業後の目標を設定し，達成に必要なステップを整理する． | 目標の達成に必要な内容をワークシートにまとめる． | 4時間 |
| 第7回 | **クラス別プログラムA：設定した目標の共有**<br><br>大学での目標をスライド（パワーポイント）にまとめて発表する． | 大学での目標と達成に必要な内容をスライド（パワーポイント）にまとめる． | 4時間 |
| 第8回 | **学生生活の自己分析と評価①大学での学びの理解**<br><br>高校と大学の違いを整理するとともに，大学での行動計画を作成する．あわせて担任との面談を実施する． | 高校と大学の違いの観点から，自己分析シートを作成する． | 4時間 |
| 第9回 | **ディグニティ教育**<br><br>ディグニティ（品格）やマナーについて学ぶ． | ディグニティ（品格）についてのレポート課題に取り組む． | 4時間 |
| 第10回 | **クラス別プログラムB：ディグニティワーク**<br><br>個人ワーク，グループワークを通してディグニティ（品格）やマナーの理解を深め，実践を目指す． | 自身が考える理想的なあり方とそれを体現するために実践することをレポートにまとめる． | 4時間 |
| 第11回 | **学生生活の自己分析と評価②前期の学生生活の振り返り**<br>前期の学生生活を振り返り，後期の目標を設定する．あわせて担任との面談を実施する． | 前期を振り返り，自己分析シートを作成する． | 4時間 |
| 第12回 | **クラス別プログラムC：レクリエーション①**<br><br>スポーツを通じてクラス内外の仲間との関係性を深める． | スポーツイベントの意義を人間関係構築の視点から考察する． | 4時間 |
| 第13回 | **クラス別プログラムC：レクリエーション②**<br><br>レクリエーションを活用した人間関係の発展を目指す． | 体験を踏まえ，スポーツとレクリエーションが人間関係に与える影響をレポートにまとめる． | 4時間 |
| 第14回 | **学生生活の自己分析と評価③1年間の振り返り**<br><br>入学後の約1年間の学生生活を振り返り，自己評価を行う．あわせて担任との面談を実施する． | 入学からの約1年を振り返り，自己分析シートを作成する． | 4時間 |

SP-1002-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | フレッシュマンキャンプセミナー（フレッシュマンキャンプ演習） | | | | |
| 担当教員名 | 学部長・林綾子・橋本・クラス担任 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本学に入学した学生全員が必修で受講する授業で、初年次教育として実施する。クラス集団を中心に自然環境の中（琵琶湖畔・野性の森など）を活用し、冒険的な活動を含んだキャンプ活動に取り組むことから、びわこ成蹊スポーツ大学で4年間の学びを深め、スポーツの専門家として必要な資質・能力を向上するための基盤となる「集団への適応能力（人間関係構築）」を高めるとともに、様々な「環境への配慮ができる能力」を養うことを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 大学周辺の環境を活かしたクラス単位での野外スポーツ（仲間づくり野外ゲーム・キャンプ・登山）の実践 | 非日常生活の中での、多様な人との新たな挑戦を通して、大学生活の基礎となる人間関係を構築する。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 大学周辺の環境を活かしたクラス単位での野外スポーツ（仲間づくり野外ゲーム・キャンプ・登山）の実践 | 集団活動を通して、多様な立場や価値観を理解し、他者との関わり方を学ぶ。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 大学周辺の環境を活かしたクラス単位での野外スポーツ（仲間づくり野外ゲーム・キャンプ・登山）の実践 | 自然の中での活動を通して、環境との関わり方を学ぶ。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 大学周辺の環境を活かしたクラス単位での野外スポーツ（仲間づくり野外ゲーム・キャンプ・登山）の実践 | 本学の学生としてふさわしい態度や行動について自ら考え、実践することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 実技課題評価 | 60 % | ： | キャンプ中の日々の課題に対する取り組みを評価する（20%x3日分）。 |
| レポート | 40 % | ： | キャンプ全体を通した学びについての最終課題レポートを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

1年生になって初の授業であり、初の実習になります。４年間生活を共にする仲間とのオリエンテーションも兼ねた実習になります。学生生活を充実したものにするかどうかはこの実習にかかっているといってもよいくらい、重要な実習になります。比良の自然の中でリラックスし、これから4年間の大学生活を共にする仲間や教員の中で自分の心の扉を開けてみましょう。新しい世界が見えてくるはずです。気候が不安定な春先に自然環境の中での活動となるため、多様な状況に備えるための持ち物・服装の準備は念入りに行い、体調を整えて参加しましょう。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **FCガイダンス①**<br><br>＜４月１日＞<br>３日の実習についての目的や意義、準備物等の説明を受け、実習ついての理解を深める。 | 実習に向けた準備を行う | 4時間 |
| 第2回 | **FCガイダンス②**<br><br>＜４月２日＞<br>入学式にて建学の精神等学んだ後に、本学で行う野外スポーツの意義や、フレッシュマンキャンプの初年次教育としての意義を理解し、実習実施に向けた準備を行う。 | 実習に向けた準備を行う | 4時間 |
| 第3回 | **キャンプ実習**<br><br>＜クラス毎にキャンプA・B・Cに分かれ、３日間の実習を行う＞<br>１日目：集合・オリエンテーション・仲間づくり野外ゲーム・夕食づくり・キャンプ<br>２日目：比良山登山・野外パーティー・キャンプファイヤー<br>３日目：ふりかえり・撤収・解散 | 活動をふりかえり、最終課題に取り組む | 4時間 |
| 第4回 | **事後報告会**<br><br>活動をふりかえり、実習体験からの学びを理解し、今後の大学生活での学びへどう活かしていくか考える。 | 今後についての明確な課題を明らかにする。 | 4時間 |

SP-1003-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **アカデミックスキル（スタディスキルⅠ）** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤・北村・大西・高道・金森・福田・深谷** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業の目的は、文章読解とレポート作成の基本事項を修得することである。
さらに、各種メディア（新聞・テレビ・インターネット・雑誌等）のニュース・情報との接し方、読み取り方についても学修する。
そのために、教科書（「はじめてのニュース・リテラシー」）をワークシートに基づいて読み進める。毎回の授業で、一章毎にワークシートに沿って読解し、一章毎の要約文を作成する。
授業の終盤では、各人の関心や課題意識に沿ってテーマを設定し、そのテーマの関連情報等を収集・分析した上で構想をまとめ、レポートを作成する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツを学ぶ姿勢の獲得 | スポーツ学を学ぶ上で必要な学びの姿勢を身に付けることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 文章読解力と情報収集力 | 評論調の文章を読み論理的に理解し、分かり易く要約することができる。課題テーマについて、各種メディア、データベース等から適切な情報を収集できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 説得力ある主張の提示 | 課題テーマについて、レポートを通して、論理的で説得力ある主張を提示することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

やむを得ず欠席した場合は、翌週までに欠席した週の課題に取り組んでおくこと。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 振り返りレポート | 24 % | ： 各講義で学んだこと、疑問に思ったこと等が適切に記述できているかという観点で評価する。（3点×8回） |
| 要約レポート | 40 % | ： 教科書一章毎の要約。要旨を把握し、論理的に分かり易く記述できているかという観点で評価する。（10点×4回） |
| 課題レポート① | 6 % | ： 授業序盤で提出。自分の考えを整理し、論理的に分かり易く記述できているかという観点で評価する。（6点×1回） |
| 課題レポート② | 10 % | ： 授業終盤で提出。必要な情報を収集・分析し、説得力のある主張ができいるかという観点で評価する。（10点×1回） |
| 最終レポート | 20 % | ： 全14回終了後に提出。授業で学んだことを踏まえ、必要な情報を収集・分析し、説得力のある主張ができいるかという観点で評価する。（20点×1回） |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 白戸圭一 | ・はじめてのニュース・リテラシー | ・筑摩書房 | ・2021　年 |

**参考文献等**

適宜、資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **【ガイダンス】シラバスの理解・課題レポート作成**<br>(1)本科目の目的<br>(2)授業の構成と進め方<br>(3)評価方法<br>(4)課題レポート①作成 | 復習：課題レポート①を作成する。 | 4時間 |
| 第2回 | **【読解】はじめに・第１章の読解**<br>(1)前回課題レポート①の振り返り。<br>(2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。<br>(3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。<br>(4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 | 予習：教科書のはじめに・第１章を熟読しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **【読解】はじめに・第１章の読解・要約レポート作成**<br>(1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。<br>(2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。<br>(3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。<br>(4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。<br>(5)要約レポートの作成。 | 復習：教科書のはじめに・第１章の要約レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第4回 | **【読解】第２章の読解**<br>(1)前回要約レポートの振り返り。<br>(2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。<br>(3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。<br>(4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 | 予習：教科書の第２章を熟読しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **【読解】第２章の読解・要約レポート作成**<br>(1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。<br>(2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。<br>(3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。<br>(4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。<br>(5)要約レポートの作成。 | 復習：教科書の第２章の要約レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第6回 | **【PROG】PROG受験回**<br>(1) PROGを受験する | 予習：自分自身について考える | 4時間 |
| 第7回 | **【読解】第３章の読解**<br>(1)前回要約レポートの振り返り。<br>(2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。<br>(3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。<br>(4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。 | 予習：教科書の第３章を熟読しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **【読解】第３章の読解・要約レポート作成**<br>(1)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。<br>(2)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。<br>(3)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。<br>(4)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。<br>(5)要約レポートの作成。 | 復習：教科書の第３章の要約レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第9回 | **【読解】おわりにの読解・要約レポート**<br>(1)前回要約レポートの振り返り。<br>(2)ワークシートに沿って当該箇所の文章を読み進める。<br>(3)語句、文法事項、表現上の留意点、関連情報等について解説する。<br>(4)当該箇所の要旨を考察する。受講生相互の意見交換。<br>(5)レポート作成の留意点、ルールについて解説する。<br>(6)要約レポートの作成。 | 予習：教科書のおわりにの要約レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第10回 | **【PROG】PROG解説回**<br>(1) PROGテストに関する解説を聞き、自分のテスト結果を振り返る。 | 復習：テスト結果を振り返り、これからの大学生活でどのようなことに取り組めば良いか考える。 | 4時間 |
| 第11回 | **【レポート作成】レポートの書き方**<br>(1)レポートの種類<br>(2)レポートの構成（序論・本論・結論）<br>(3)序論の書き方<br>(4)文法上の注意事項 | 予習：関心に基づいて課題レポート②のテーマを考えておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第12回 | **【レポート作成】本論の書き方・情報収集**<br><br>(1)本論の書き方<br>(2)事実と意見<br>(3)情報の収集と活用<br>(4)引用のルール<br>(5)情報収集の手法（図書館・各種データベース・インターネット等）の解説と実践 | 復習：課題レポート②の作成に必要な情報を収集する。 | 4時間 |
| 第13回 | **【レポート作成】結論の書き方**<br><br>(1)結論の書き方<br>(2)論旨の一貫性<br>(3)参考文献リスト<br>(4)推敲<br>(5)課題レポート②の提出 | 復習：課題レポート②を作成する。 | 4時間 |
| 第14回 | **【レポート作成】最終レポートの作成**<br><br>(1)課題レポート②の振り返り<br>(2)課題解決策の考察<br>(3)最終レポートの提出 | 復習：最終レポートを作成する。 | 4時間 |

SP-1004-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スタディスキルⅡ** | | | | |
| 担当教員名 | **松本　圭将** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目の目的は、大学での学びを進める上で必要なスキルを獲得しながら、大学での学びへの関心を高めていくことである。
具体的には、レポートの作成技術とプレゼンテーション技術の2点である。
各種の社会課題をテーマとして、自分の考えをレポートにまとめるほか、そのレポートをもとに発表資料にまとめ、プレゼンテーション（大勢の聴衆に向けた意見発表）を行う。
さらに、他の受講生のプレゼンテーションに触れることで、自分とは異なる多様な考え方や価値観があることを理解する。
そうしたスポーツに関心を持つ基礎として、スポーツを題材にしつつ社会課題についても学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 社会課題について、問題点や解決策の検討 | スポーツとその周辺にある各種の社会課題について関心を持つことができる |
| 2. DP2.知識・技能 | 情報収集力 | 特定のテーマについて、図書館、各種メディア、各種データベース等から適切な情報を収集し、習得したレポート・プレゼンテーション資料に関する技法をもとにまとめることができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 説得力あるプレゼンテーションの実施 | 自分の主張を説得力をもって聴衆に伝えられるスキルを修得できる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツを学ぶ姿勢の獲得 | スポーツ学を学ぶ上で必要な学びの姿勢を身に付けることができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 振り返りレポート | 15 % | ： 各講義において、学んだことや疑問に感じたこと等が適切に記述できているかを評価する |
| 感想レポート | 20 % | ： 【社会課題】回において、テキストを読んでどのようなことに関心を持ち、疑問を持ったか適切に記述できているかを評価する |
| 課題レポート | 30 % | ： 【レポート】回において、自分が選んだテーマ（社会課題）の問題点や解決策までを検討し、独自の意見が主張されているかを評価する |
| 発表資料 | 15 % | ： 【プレゼンテーション】回において、自分の主張を効果的に伝えられるプレゼンテーション資料が作成できているかを評価する |
| プレゼンテーション | 20 % | ： 【プレゼンテーション】回において、自分の主張を説得力をもって聴衆に伝えるプレゼンテーションが行えているかを評価する |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 山口香 | ・ スポーツの価値 | ・ 集英社 | ・ 2023　年 |

**参考文献等**

適宜、資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

(1)授業はすべて遠隔にて実施する。そのため、授業開始前にteamsに必ず参加し、課題等の指示を確認し損ねないよう、日常的にteamsを確認しておくこと。
(2)本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **【ガイダンス】シラバスの理解・社会課題**<br>(1)本科目の目的<br>(2)授業の構成と進め方<br>(3)評価方法<br>(4)社会課題とは | 予習：各種の社会課題について調べておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **【社会課題】『スポーツの価値』はじめに・序章**<br>(1)はじめにを読む<br>(2)序章を読む<br>(3)感想レポートを書く | 予習：わからない語句を調べておく。復習：感想レポートを完成させる。 | 4時間 |
| 第3回 | **【社会課題】『スポーツの価値』第1章**<br>(1)第1章を読む<br>(2)感想レポートを書く | 予習：わからない語句を調べておく。復習：感想レポートを完成させる。 | 4時間 |
| 第4回 | **【社会課題】『スポーツの価値』第2章**<br>(1)第２章を読む<br>(2)感想レポートを書く | 予習：わからない語句を調べておく。復習：感想レポートを完成させる。 | 4時間 |
| 第5回 | **【社会課題】『スポーツの価値』第3章・おわりに**<br>(1)第3章を読む<br>(2)おわりにを読む<br>(3)感想レポートを書く | 予習：わからない語句を調べておく。復習：感想レポートを完成させる。 | 4時間 |
| 第6回 | **【レポート】レポートとは何か、序論の書き方**<br>(1)レポートの種類<br>(2)レポートの構成（序論・本論・結論）<br>(3)序論の書き方<br>(4)文法上の注意事項 | 予習：自分のテーマとする社会課題を選んでおく。 | 4時間 |
| 第7回 | **【レポート】本論の書き方、引用の方法**<br>(1)本論の書き方<br>(2)事実と意見<br>(3)情報の収集と活用<br>(4)引用のルール | 復習：自分のテーマに関する情報を収集する。 | 4時間 |
| 第8回 | **【レポート】結論・参考文献の書き方**<br>(1)結論の書き方<br>(2)論旨の一貫性<br>(3)参考文献リスト<br>(4)推敲 | 復習：自分のテーマに関するレポートの構成を検討する。 | 4時間 |
| 第9回 | **【レポート】レポート作成**<br>(1)課題レポートの執筆<br>(2)課題解決策の考察<br>(3)課題レポートの提出 | 課題：自分のテーマに関する課題解決策までを含んだレポートを作成する。 | 4時間 |
| 第10回 | **【プレゼンテーション】資料作成**<br>(1)プレゼンテーションとは<br>(2)資料作成の要点<br>(3)プレゼンテーションの技法<br>(4)パワーポイントの使い方 | 復習：課題レポート②を基に発表のプロットを作成する。 | 4時間 |
| | (1)発表のプロットを作成<br>(2)発表資料の作成 | | |
| | (1)発表資料の作成<br>(2)発表資料の完成 | | |
| 第13回 | **【プレゼンテーション】発表（第1回目）**<br>(1)各自が作成したプレゼンテーション動画（発表）を視聴<br>(2)評価シートを基にした学生間の相互評価とフィードバック<br>(3)各人の発表に対する講師からの講評 | 予習：発表準備を行う。復習：フィードバックを基にプレゼンテーションを改善する。 | 4時間 |
| 第14回 | **【プレゼンテーション】発表（第2回目）**<br>(1)各自が作成したプレゼンテーション動画（発表）を視聴<br>(2)評価シートを基にした学生間の相互評価とフィードバック<br>(3)各人の発表に対する講師からの講評<br>(4)授業全体の振り返り | 予習：発表準備を行う。復習：フィードバックを基にプレゼンテーションを改善する。 | 4時間 |

SP-1005-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **情報処理論** | | | | |
| 担当教員名 | **松永　順子** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

この授業では、情報に接する上で基本となる知識や技術を身に着けることで、身の回りの情報をコンピュータにより処理し、適切に表現することで大学での学びに寄与することを目指す
具体的には、文書作成ソフトによる文書表現の方法と表計算ソフトによるデータの整理と加工の方法を、演習を通して身につける
また、情報を扱う上で必要なセキュリティや知的財産権についての知識を学ぶことで、安全にコンピュータを使用できるようになる

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 情報を扱う上で知っておくべき、コンピュータについての知識、知的財産権やネットにおけるマナー | 情報倫理の扱い方を習得し、コンピュータを安全に使うことができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 情報を表現するための方法 | 情報を取捨選択し、文書や表・グラフなどの手段を用い表現することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 確認問題 | 55　% | ： 各回の授業内容の理解度を各5点満点で評価する（計11回）<br>問題は各授業内にて出題し、時間内に提出するものとする |
| 授業内演習成果 | 30　% | ： 授業終了時に、その日の演習成果を回収し授業への取り組みを評価する<br>数回の回収を予定 |
| 授業姿勢 | 15　% | ： 自ら学ぼうとする姿勢を評価する<br>授業に関係のない私語や携帯電話・居眠りは禁止 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 杉本くみ子、大澤栄子 | ・30時間アカデミック　Office2021 Windows 11対応 | ・実教出版 | ・2022　年 |

**参考文献等**

AIデータサイエンスリテラシー入門（技術評論社）
その他、適宜資料を配布する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる
授業で学んだことは、授業外で繰り返し復習し確実に習得すること
本科目では、各自のPCを使用するので，忘れず持参すること
PCの操作が苦手な者は、授業外で日常的にコンピュータを使用し、慣れるようにすること

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 授業の前後

**場所：** 授業の教室

**備考・注意事項：** 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます
連絡先は第1回のガイダンス時に説明し、本授業のTeams内に掲載します

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業ガイダンス、Teamsの使用方法、ファイル操作、ウェブ上のアプリ、eメール、セキュリティ**<br>授業の目標、学習内容、評価方法、受講に際しての諸注意を説明する<br>各自のPCで、Teamsの使用方法について学ぶ<br>また、PC内部とクラウドストレージ上でのファイルの扱い方について学ぶ<br>Teamsを始めとするWeb上のアプリケーションの使用方法やメールの送信方法について学ぶ<br>インターネットセキュリティについて学び、安全にインターネットを使用する方法を習得する | PCを使用し、Teams内の授業ページを確認する | 4時間 |
| 第2回 | **社会におけるデータ・AI利活用**<br>社会におけるデータの活用や、AIの利活用について学ぶ | データやAIの利活用について復習を行う | 4時間 |
| 第3回 | **文字の入力・Wordの基本操作**<br>Wordを使用した効率的な文字の入力・編集方法について学ぶ<br>簡単な書式変更など基本的な操作について学ぶ | 文字の入力方法について復習をしておく | 4時間 |
| 第4回 | **Wordを使用した文書作成**<br>Wordを使用して文字に適切な書式を適用し、ビジネス文書を作成する演習課題に取り組む<br>文書のページ設定や印刷について学ぶ<br>文書をPDF形式で保存する方法について学ぶ | 文字や行に対する書式設定の方法について復習しておく | 4時間 |
| 第5回 | **文書の書式設定**<br>Wordを使用して書式設定を行い、規則的で読みやすい文書を作成する方法について学ぶ<br>ヘッダーとフッター領域の編集方法について学ぶ | スタイルやヘッダー・フッターの設定方法について復習しておく | 4時間 |
| 第6回 | **表の挿入**<br>Wordを使用して、適切に表を作成する方法について学ぶ | 表の作成方法について復習しておく | 4時間 |
| 第7回 | **図や図形の挿入・ネット社会と著作権**<br>Word文書への図や図形の適切な挿入方法について学ぶ<br>また、資料を扱う上での著作権についても学ぶ | 演習課題を完成させ、苦手だと感じた要素について復習をしておくこと | 4時間 |
| 第8回 | **Excelの基本操作**<br>Excelの基本的な操作について学び、セルを対象とした操作を習得する<br>コピーや貼り付けを使用した効率的な編集方法を習得する<br>また、セル参照を使用した計算方法について学ぶ | コピー、貼り付け、オートフィルなどのExcelの基本的な操作について復習しておく | 4時間 |
| 第9回 | **Excelでの計算方法・書式設定**<br>Excel関数を使用し計算を行う方法を学ぶ<br>表に罫線を引いたり、書式を設定する方法を学ぶ | Excelでの計算式の書き方について復習しておく | 4時間 |
| 第10回 | **Excel総合演習**<br>基本的な関数の使用方法を習得し、関数や四則演算を使用する演習問題を完成させる | 四則演算や関数の使い方を復習しておく | 4時間 |
| 第11回 | **相対参照と絶対参照・Excelの関数**<br>相対参照と絶対参照の使い分けを学ぶ<br>Excelの基本的な関数について学ぶ | 相対参照と絶対参照の使い分けや、関数の使用方法を復習しておくこと | 4時間 |
| 第12回 | **グラフの作成**<br>Excelを使用してグラフを作成し、グラフを構成する各部位の設定変更の方法について学ぶ<br>グラフの作成についての演習問題を完成させる | 表の装飾やグラフの作成方法や、グラフの各部位と設定変更の方法を覚えておくこと | 4時間 |
| 第13回 | **並べ替えとフィルター**<br>表を適切に並べかえ、必要なデータをフィルターする方法について学び、並べ替えとフィルターについての演習問題を完成させる | 並べ替えとフィルターの操作や、表から適切な情報をフィルターする方法について復習しておくこと | 4時間 |
| 第14回 | **データ・AI利活用における留意事項**<br>これまで学んできた内容を踏まえ、データやAIの利活用における留意事項を学習する | これまで学んだ内容から、苦手な問題があれば再度取り組み、習得をしておくことと、データやAIの利活用における留意事項を確認しておくこと | 4時間 |

SP-1006-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ICT I | | | | |
| 担当教員名 | 松永　順子 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

表計算ソフトおよびワープロソフトは、あらゆる分野で利用されている。この科目ではそれらの代表的なソフトの一つであるMicrosoft ExcelとMicrosoft Wordを使用し、文章処理、表の作成と編集、データの統計処理、データベース機能の利用、各種の統計データの活用等を習熟する
あらゆるデータをExcelとWordを用いて処理し、分析し、レポートとしてまとめることにより、ExcelとWordを使いこなせるようになることを目標とする
また、Microsoft PowerPointの操作についても学習し、分析した結果を発表する力を養うことを目標とする

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | コンピューターに関する基礎知識<br>与えられたデータを分析する方法 | 収集したデータを分析・理解し、資料としてまとめることができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 情報を表現・発表する方法 | 情報を取捨選択し、スライドにまとめて発表することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 確認問題 | 55　% | ：　各回の授業内容の理解度を各5点満点で評価する（計11回）<br>問題は各授業内にて出題し、期間内に提出するものとする |
| 授業内演習成果 | 30　% | ：　授業終了時に、その日の演習成果を回収し授業への取り組みを評価する<br>数回の回収を予定 |
| 授業姿勢 | 15　% | ：　自ら学ぼうとする姿勢を評価する<br>授業に関係のない私語や携帯電話・居眠りは禁止 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 杉本くみ子、大澤栄子 | ・30時間アカデミック　Office2021 Windows 11対応　（情報処理論で使用するテキストと同じ） | ・実教出版 | ・2022　年 |

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる
基礎的な操作や機能の復習から入り、応用、実践と進んでいきます
今後の大学生活や社会生活においても必要な基礎知識となりますので、自信有無にかかわらず積極的に学んでいきましょう

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 授業の前後

**場所：** 授業の教室

**備考・注意事項：** 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付けます
連絡先は第1回のガイダンス時に説明し、本授業のTeams内に掲載します

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **文章処理演習(1)　文章作成機能の基礎**<br>講義の概要説明と、Wordへの入力・編集・レイアウトを整えた文章作成等の基礎機能の確認 | Word入力について、実際に操作し、復習を行う | 4時間 |
| 第2回 | **文章処理演習(2)　長文作成をサポートする機能**<br>長文作成をサポートするアウトラインやスタイル、ヘッダー・フッターについて学ぶ<br>目次の作成を学ぶ | 長文作成について、実際に操作し、復習を行う | 4時間 |
| 第3回 | **文章処理演習(3)　文章のレイアウト**<br>画像や図形などの挿入、ワードアートの利用による、より見やすい文章作成等のグラフィック機能の確認 | 文章作成について実際に操作し、復習を行う | 4時間 |
| 第4回 | **表計算演習(1)　表計算機能の基礎・表の印刷**<br>Excelへの入力、表の作成、簡単な表計算等の基礎機能の確認<br>表の印刷時の改ページ等のレイアウトについて学ぶ | 表作成について実際に操作し、復習を行う | 4時間 |
| 第5回 | **表計算演習(2)　関数の活用**<br>SUM関数・AVERAGE関数等の復習<br>RANK関数、IF関数・COUNTIF関数を学ぶ | 関数計算を実際に行い、復習を行う | 4時間 |
| 第6回 | **表計算演習(3)　関数の活用・グラフの活用**<br>文字列操作や日付の関数を学ぶ<br>複合グラフの作成 | 関数計算やグラフ作成を実際に行い、復習を行う | 4時間 |
| 第7回 | **表計算演習(4)　標準偏差・ヒストグラム**<br>関数や分析ツールを用いて標準偏差を求める<br>ヒストグラムの作成 | 標準偏差やヒストグラムの作成を実際に行い、復習を行う | 4時間 |
| 第8回 | **表計算演習(5)　散布図と相関**<br>散布図の作成、関数や分析ツールを用いて相関係数を求める | 散布図の作成や相関係数を実際に求め、復習を行う | 4時間 |
| 第9回 | **表計算演習(6)　回帰分析**<br>回帰直線と予測を行う | データ予測を実際に行い、復習を行う | 4時間 |
| 第10回 | **表計算演習(7)　Excel総合演習**<br>身近にあるデータを使い分析を行う<br>実際のスポーツデータをマトリクス・箱ひげ図を活用して分析する | データ分析を実際に行い、復習を行う | 4時間 |
| 第11回 | **プレゼンテーション演習(1)　PowerPointの基礎確認**<br>PowerPoint機能の基本操作<br>スライド作成からスライドショー開始までの基本操作を理解 | 実際にスライドを作成し、復習を行う | 4時間 |
| 第12回 | **プレゼンテーション演習(2)　図やオブジェクトの挿入**<br>図表・グラフ・表の挿入と編集 | 実際にスライドを作成し、復習を行う | 4時間 |
| 第13回 | **プレゼンテーション演習(3)　特殊効果の設定**<br>画面切り替え効果、アニメーション効果の設定 | 実際にスライドを作成し、復習を行う | 4時間 |
| 第14回 | **プレゼンテーション演習(4)　スライドショーをサポートする機能**<br>プレゼンテーションの規格から資料作成、効果的な伝え方まで、基本技能について学習 | 実際にスライドを作成し、復習を行う | 4時間 |

SP-1007-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ICTⅡ | | | | |
| 担当教員名 | 岡本　真奈 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

情報社会においては、コンピュータと情報に関する基礎的な概念を理解し、それらを応用する能力が求められている。大学や企業で幅広く利用されている表計算ソフトウェアMicrosoft Excel及びMicrosoft PowerPointを利用して、その基礎をベースにさらに深く（データの分析、関数の利用、データベース機能の利用、マスター管理など）学習します。
授業時間内の実習や演習課題を通じて具体的な問題の解決にコンピュータを活用する方法も学びます。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | Excelでの様々な関数利用方法やデータ分析など応用的な知識とPowerPointでの応用的なプレゼンテーション機能 | Excelを使ってデータ整理・分析・理解する。また、PowerPointを使って分かりやすい発表資料の作成ができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | Excelでの様々な関数利用方法やデータ分析など応用的な知識とPowerPointでの応用的なプレゼンテーション機能 | Excelを使ってデータ整理・分析・理解する。また、PowerPointを使って分かりやすい発表資料の作成ができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・その他(以下に概要を記述)

講義と実習

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業時間内で指示する課題 | 60　% | ： 主として、授業で取り扱った機能とその利用法など<br>復習として、授業時間内で作成した成果物を提出 |
| 確認テスト | 40　% | ： 授業内容の理解度を確認する |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | ・ よくわかる Microsoft Excel 2021 応用　Office 2021 ／Microsoft 365対応 | ・ FOM出版 | ・ 2022　年 |

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・テキストに沿って行いますので、授業時は必ず持参すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項：**　授業後、教室にて対応します。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業ガイダンス・Excel 基本操作**<br>基本的な関数の使用方法を復習し、演習問題を完成させる（相対参照・絶対参照・複合参照） | 情報処理論で学んだ内容の復習をしておく | 4時間 |
| 第2回 | **Excel応用 様々な関数の利用①**<br>関数を使用し、計算を行う（四捨五入・切り捨て・切り上げ・順位）IF関数・COUNTIF関数他 | 授業内で学んだ関数を復習しておく | 4時間 |
| 第3回 | **Excel応用 様々な関数の利用②**<br>関数を使用し、計算を行う　VLOOKUP関数・ネスト関数他 | 授業内で学んだ関数を復習しておく | 4時間 |
| 第4回 | **Excel応用 様々な関数の利用③**<br>関数を使用し、計算を行う　文字列・財務関数他 | 授業後、知識や理解を深めておく | 4時間 |
| 第5回 | **Excel応用　表の視覚化とルールの設定**<br>条件付き書式を設定する、ユーザー定義の表示形式を設定する、入力規則を設定する | 授業後、知識や理解を深めておく | 4時間 |
| 第6回 | **Excel応用　グラフの活用及びグラフィックの利用**<br>複合グラフを作成する、補助縦棒付き円グラフを作成する、スパークラインを作成する<br>SmartArtグラフィックを作成する、図形を作成する、テキストボックスを作成する、<br>テーマを設定する | 授業後、知識や理解を深めておく | 4時間 |
| 第7回 | **Excel応用　データベースの活用**<br>データを集計する、表をテーブルに変換する | 授業後、知識や理解を深めておく | 4時間 |
| 第8回 | **Excel応用　ピボットテーブルとピボットグラフの作成**<br>ピボットテーブルを作成、編集する、ピボットグラフを作成する | 授業後、知識や理解を深めておく | 4時間 |
| 第9回 | **Excel応用　マクロの作成及びExcel 統計**<br>マクロの作成<br>データ分析の必要性<br>平均値・中央値・最頻値・標準偏差等 | 授業後、知識や理解を深めておく | 4時間 |
| 第10回 | **Excel応用　総合演習**<br>Excelの授業で学習した総合的な課題を作成させる | 授業後、知識や理解を深めておく | 4時間 |
| 第11回 | **PowerPoint　基礎**<br>スライド作成、アニメーション効果、画面切り替え効果等 | PowerPointの基本操作を復習する | 4時間 |
| 第12回 | **Power Point　応用①**<br>スライドマスターの調整など | 効果的なプレゼンテーション資料を作成する | 4時間 |
| 第13回 | **Power Point　応用②**<br>別のアプリのデータを利用する<br>PDFエクスポートなど | 効果的なプレゼンテーション資料を作成する | 4時間 |
| 第14回 | **PowerPoint 総合演習**<br>PowerPointの授業で学習した総合的な課題を作成させる | これまでに学んだ機能を使用し復習する | 4時間 |

SP-1008-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **英語基礎** | | | | |
| 担当教員名 | **亀本　真朱** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、既習の文法を使用してCEFR A2レベルのスピーキングができるようになることを目指します。基本文法の復習をして、リスニングや発音のコツを学び、「知っている」文法知識を実際に「使える」技能へと変えてゆきます。具体的な授業内容は以下の通りです。
・English Central (e-learning教材)を使用して、既習の文法の復習、会話表現の学習及びリスニング・発音の練習を行う
・ゲームなどのアクティビティを通じて、学習した語彙・表現の定着をはかる
・レクチャーやアクティビティを通じて、復習した文法と学習した語彙・表現を使用して実際に会話を行うための方法や、語学力が不十分な中でのコミュニケーションの工夫を学ぶ

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 既習の文法事項の復習及び新たな語彙・表現の習得 | 既習の文法事項を使用してCEFR A2レベルの発話ができるようになる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 英語コミュニケーション能力 | 英語だけでなくさまざまな手段やツールを使用し、工夫してコミュニケーションが取れるようになる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（アプリの使用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| English Central Unit1-8 | 30 % | ： English Central を使用した授業課題を所定の達成度で完了できたかどうか |
| English Central HW①-⑫ | 10 % | ： English Central を使用したHW課題の達成度 |
| 小テスト（計4回） | 20 % | ： Unit1-8で学習した語彙・表現の暗記 |
| スピーキングテスト | 20 % | ： 既習の文法、授業内で学習した語彙・表現を使用してCEFR A2レベルの発話が行えるかどうか |
| ゲーム加点・自由課題 | 20 % | ： 授業内外での学習に積極的に取り組めたかどうか |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

ジェミック今井『フォニックス＜発音＞トレーニングブック』明日香出版社 2005年
ジェミック今井『＜フォニックス＞できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社 2012年
Raymond Murphy著『Basic Grammar in Use』Cambridge University Press 2017年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・e-learning教材 English Central Academic Premium アカウントの購入が必要です。
・毎回の授業でパソコンとスマートフォンを使用します。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **Course Introduction / Self Introduction**<br>・自己紹介アクティビティ<br>・授業概要、評価方法の説明<br>・English Centralの使用方法の説明<br>・英語で円滑なコミュニケーション活動を行う際の心得 | English Central使用方法の確認 | 4時間 |
| 第2回 | **Unit 1 : Basic Grammar 1**<br>・English Centralの使用方法の確認<br>・Unit 1 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 1 に取り組む | Unit 1で学習した語彙・表現の暗記 / HW① | 4時間 |
| 第3回 | **Unit 2 : Basic Grammar 2**<br>・Unit1で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・既習の文法を「知っている」から「使える」に変えるためのアクティビティ<br>・Unit 2 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 2 に取り組む | Unit 2で学習した語彙・表現の暗記 / HW② | 4時間 |
| 第4回 | **Review① : Unit 1-2**<br>・Unit 1-2で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・小テスト (Unit1-2で学んだ語彙・表現の暗記テスト)<br>・Unit 1-2 で学んだ語彙・表現を使用した会話練習<br>・スピーキングテスト①の課題提示 | スピーキングテスト①の準備/ HW③ | 4時間 |
| 第5回 | **Unit 3 : Basic Grammar 3**<br>・Unit1-2で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・既習の文法を「知っている」から「使える」に変えるためのアクティビティ<br>・Unit 3 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 3 に取り組む<br>・スピーキングテスト①-1 | Unit 3で学習した語彙・表現の暗記 / HW④ | 4時間 |
| 第6回 | **Unit 4 : Basic Grammar 4**<br>・Unit 3で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・既習の文法を「知っている」から「使える」に変えるためのアクティビティ<br>・Unit 4 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 4 に取り組む<br>・スピーキングテスト①-2 | Unit 4で学習した語彙・表現の暗記 / HW⑤ | 4時間 |
| 第7回 | **Review② : Unit 3-4**<br>・Unit 3-4で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・小テスト (Unit 3-4で学んだ語彙・表現の暗記テスト)<br>・Unit 3-4 で学んだ語彙・表現を使用した会話練習<br>・スピーキングテスト①-3 | Unit 1-4の総復習 / HW⑥/ HW⑦ | 4時間 |
| 第8回 | **Unit 5 : Everyday Conversation 1**<br>・Unit 1-4で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・既習の文法を「知っている」から「使える」に変えるためのアクティビティ<br>・Unit 5 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 5 に取り組む | Unit 5で学習した語彙・表現の暗記 / HW⑧ | 4時間 |
| 第9回 | **Unit 6 : Everyday Conversation 2**<br>・Unit 5で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・既習の文法を「知っている」から「使える」に変えるためのアクティビティ<br>・Unit 6 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 6 に取り組む | Unit 6で学習した語彙・表現の暗記 / HW⑨ | 4時間 |
| 第10回 | **Review③ : Unit 5-6**<br>・Unit 5-6で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・小テスト (Unit 5-6で学んだ語彙・表現の暗記テスト)<br>・Unit 5-6 で学んだ語彙・表現を使用した会話練習 | HW⑩ | 4時間 |
| 第11回 | **Unit 7 : Everyday Conversation 3**<br>・Unit 5-6で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・既習の文法を「知っている」から「使える」に変えるためのアクティビティ<br>・Unit 7 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 7 に取り組む | Unit 7で学習した語彙・表現の暗記 / HW⑪ | 4時間 |
| 第12回 | **Unit 8 : Everyday Conversation 4** | Unit 8で学習した語彙・表現の暗記 / HW⑫ | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・Unit 7で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・既習の文法を「知っている」から「使える」に変えるためのアクティビティ<br>・Unit 8 解説<br>・English Centralを使用し、Unit 8 に取り組む | | |
| 第13回 | **Review④：Unit 7-8**<br><br>・Unit 7-8 で学習した語彙・表現の暗記チェックゲーム(Quizlet Live)<br>・小テスト (Unit 7-8で学んだ語彙・表現の暗記テスト)<br>・Unit 7-8 で学んだ語彙・表現を使用した会話練習 | Unit 1-8 総復習 / 自由課題 | 4時間 |
| 第14回 | **Wrap-up**<br><br>・総まとめのアクティビティ<br>・自由課題発表 | Unit 1-8 総復習 | 4時間 |

SP-1009-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ実践英語Ⅰ（英語表現）** | | | | |
| 担当教員名 | **亀本・寺村・浅野・横田** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、1回50分間×28回の授業を通じて、スポーツ活動において必要とされる身体の動きに関する約100の指示表現を、実際に体を動かしながら学びます。英語での指示を聞いて体を動かせるようになるだけでなく、英語で指示を出せるようになることを目指します。後期の授業では学習した表現を使用してお互いにスポーツ活動の指導をします。また、グループワークやゲームを通じて、英語力だけでなく表情やジェスチャーなどあらゆる手段を活用したコミュニケーションの工夫を学びます。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 英語を使ってスポーツ活動を行う | スポーツ活動を通じてグローバルな視野を広げる |
| 2. DP2.知識・技能 | 動作の指示表現の獲得 | 英語で動作の指示を受け、体を動かすことができる、英語で動作の指示ができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | コミュニケーション能力 | 語学に頼らず表情やジェスチャーなどあらゆる手段を活用してコミュニケーションが取れるようになる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

2023年度以前入学生の評価方法については、第1回授業で提示します。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内での取り組み | 40 % | ： 授業内課題の達成度、積極性、提出物の完成度 |
| 学修表現の理解度 | 20 % | ： 授業内で行う実技テストの成績 |
| 課題発表 | 20 % | ： 発表の成績 |
| 自由課題 | 20 % | ： 授業中に提示する「自由課題」の完成度 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **Course Introduction**<br>授業概要、評価方法、使用教材などの説明を受ける | オリエンテーションを受けて、次回以降の授業の準備をする。 | 2時間 |
| 第2回 | **挨拶・自己紹介**<br>クラスメイトと英語でコミュニケーションをとる | 授業内アクティビティの復習 | 2時間 |
| 第3回 | **Unit 1：基本の動作（上半身）①**<br>上半身を動かす様々な動作を指示する表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit1で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第4回 | **Unit 2：基本の動作（上半身）②**<br>上半身を動かす様々な動作を指示する表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit2で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第5回 | **Unit 3 ：基本の動作（下半身）**<br>下半身を動かす様々な動作を指示する表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit3で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第6回 | **Unit 4： 基本の動作（向き・移動）**<br>体の向き・移動を指示する表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit4で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第7回 | **Unit 1～4 Review**<br>Unit 1～4で学習した表現の復習アクティビティを行う | Unit 1～4で学習した表現を定着させる | 2時間 |
| 第8回 | **実技テスト①（Unit 1～４）**<br>Unit 1～4で学んだ表現の復習及び実技テストを行う | Unit 1～4で学習した表現を定着させる | 2時間 |
| 第9回 | **Unit 5： ペア・グループワーク**<br>ペア・グループワークの指示表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit 5で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第10回 | **Unit 6 ：方向・移動**<br>方向・移動の動作の指示表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit 6で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第11回 | **Unit 7：ヨガ&ストレッチ**<br>ヨガ&ストレッチにまつわる指示表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit 7で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第12回 | **Unit 8 ：筋トレ**<br>筋トレにまつわる指示表現を、実際に体を動かしながら学ぶ | Unit 8で学習した表現を音読しながら体を動かして練習する | 2時間 |
| 第13回 | **Unit 5～8 Review**<br>Unit 5～8で学習した表現の復習アクティビティを行う | Unit 5～8で学習した表現を定着させる | 2時間 |
| 第14回 | **実技テスト② (Unit 5～8)**<br>Unit 5～8で学んだ表現の復習及び実技テストを行う | 授業内で指示された夏休み用課題 | 2時間 |
| 第15回 | **後期 Introduction**<br>夏休みの課題のチェック、後期の授業の進め方の説明を行う | アクティビティ①に必要な準備をする | 2時間 |
| 第16回 | **アクティビティ①**<br>前期に学習した表現を使用したアクティビティ<br>*場合によっては第17回授業と合わせて100分で行う | アクティビティ①に関するレポート課題 | 2時間 |
| 第17回 | **アクティビティ②**<br>前期に学習した表現を使用したアクティビティ | アクティビティ②に関するレポート課題 | 2時間 |
| 第18回 | **Unit 1～4 Review**<br>発表課題へ向けた準備として、Unit 1～4 の表現を復習する | Unit 1～4 で学習した表現を体を動かしながら発音練習 | 2時間 |
| 第19回 | **Unit 5～8 review**<br>発表課題へ向けた準備として、Unit 5～8 の表現を復習する | Unit 5～8 で学習した表現を体を動かしながら発音練習 | 2時間 |
| 第20回 | **発表準備①** | 発表の内容をイメージする | 2時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 発表課題の説明を聞いて理解する | | |
| 第21回 | **発表準備②**<br>自身の発表の大枠を決定する | 発表の準備をする | 2時間 |
| 第22回 | **発表準備③**<br>自身の発表に必要な表現を収集する | 発表の内容を完成させる | 2時間 |
| 第23回 | **発表準備④**<br>完成させた発表内容を練習する | 発表の練習 | 2時間 |
| 第24回 | **発表①**<br>発表を行う | 発表者はフィードバックを踏まえて復習。次回発表者は発表準備をする。 | 2時間 |
| 第25回 | **発表②**<br>発表を行う | 発表者はフィードバックを踏まえて復習。次回発表者は発表準備をする。 | 2時間 |
| 第26回 | **発表③**<br>発表を行う | 発表者はフィードバックを踏まえて復習。次回発表者は発表準備をする。 | 2時間 |
| 第27回 | **発表④**<br>発表を行う | 発表のまとめレポート作成 | 2時間 |
| 第28回 | **まとめ**<br>まとめのアクティビティ | １年間で学習した内容をもう一度練習する | 2時間 |

SP-1010-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | コミュニケーション英語（English Communication Ⅰ） | | | | |
| 担当教員名 | 亀本　真朱 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コミュニケーション英語では、「音」と「リズム」に注目したリスニング・スピーキング練習を通して「通じる英語」のコツを学び、発音できる音は聞き取れるようになり、聞き取れる音は発音できるようになる、という好循環を作り出します。発音に自信を持つことで堂々と英語でコミュニケーションが取れるようになることを目指します。さらに、最新のニュース記事やWebコンテンツを使用して沢山の英語インプットを行うと同時にグローバルなトレンドに触れ、国際的な舞台で活躍するための素養を身につけます。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 英語コミュニケーション能力 | 「通じる発音」を身につけ、英語で堂々とコミュニケーションをとることができる |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グローバルな視点の醸成 | 広い視野を持ち、多様な文化に興味を持つことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内の取り組み | 40 % | ： 発音練習・ディスカッション等の授業内でのパフォーマンス |
| 提出物 | 30 % | ： 授業内課題・Homework課題の点数 |
| プレゼンテーション | 10 % | ： 内容の完成度・自信を持って英語を話せているか |
| 確認テスト | 20 % | ： 授業中に行う複数回の小テスト |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 高山芳樹 | ・ Rhythm Pattern Listening | ・ 金星堂 | ・ 2023 年 |

**参考文献等**

ジェミック今井『フォニックス＜発音＞トレーニングブック』明日香出版社 2005年
ジェミック今井『＜フォニックス＞できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社 2012年
MEISO『HIP HOP ENGLISH MASTER』Gakken 2023年

芝詩史『通じる英語の発音エクササイズ』語研 2011年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本授業はディスカッションやグループワークを行うため、積極的に発言することが求められます。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **Course Introduction / Self Introduction**<br>授業内容・スケジュール等の確認<br>自己紹介/ミニディスカッション<br>英語を勉強する際の心構え・視野を広く持つということについて学ぶ | 次回のミニディスカッションの準備 | 4時間 |
| 第2回 | **Unit 1 : where's the hot spring on this map?**<br>テキストを使用し、「母音挿入の阻止」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 1) | 4時間 |
| 第3回 | **Unit 2 : Exercise more regularly to stay healthy.**<br>テキストを使用し、「英語と日本語の『音のカタマリの数』の違い」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 2) | 4時間 |
| 第4回 | **Unit 3 : We have three children and two dogs.**<br>テキストを使用し、「英語の『強弱』アクセント」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 3) | 4時間 |
| 第5回 | **Unit 4 : Enjoy the rest of your stay in Hawaii!**<br>テキストを使用し、「アクセントの位置」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 4) | 4時間 |
| 第6回 | **Unit 5 : I'm an assistant manager.**<br>テキストを使用し、「英単語リズムパターン」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 5) | 4時間 |
| 第7回 | **Unit 6 : We're looking for a drugstore.**<br>テキストを使用し、「子音結合１（語順に２つの子音）」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 6) | 4時間 |
| 第8回 | **Unit7 : Go straight down this street.**<br>テキストを使用し、「子音結合２（語頭に３つの子音）」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 7) | 4時間 |
| 第9回 | **Unit 8 : You should always help each other.**<br>テキストを使用し、「音の変化１（連結）」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 8) | 4時間 |
| 第10回 | **Unit 9 : I won't let you down.**<br>テキストを使用し、「音の変化２（同化）」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 9) | 4時間 |
| 第11回 | **Unit 10 : Did you have a good time?**<br>テキストを使用し、「音の変化３（脱落）」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 10) | 4時間 |
| 第12回 | **Unit 11 : What kind of sports do you like?**<br>テキストを使用し、「英文のリズム１（内容語と機能語）」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 11) | 4時間 |
| 第13回 | **Unit 12 : What do you think of his plan?**<br>テキストを使用し、「英文のリズム２（等間隔リズム）」について学び、練習する<br>会話練習・ディスカッションを行う | リスニング課題、発音練習(Unit 12) | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ / プレゼンテーション**<br>クラスプレゼンテーションを行う | Unit14,15を使用し半年間の復習を行う | 4時間 |

SP-1011-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | スポーツ実践英語Ⅱ（English CommunicationⅡ） | | | | |
| 担当教員名 | 東出　益代 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習型の実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

「英語基礎」、「スポーツ実践英語Ⅰ」で身につけた文法事項およびスポーツに関わる語彙文法を実際に「使う」ことを目標とする。また、国内外に関する様々な英語メディアに触れ、自身の見識を広げる。
スポーツ実技系やフィットネス系の領域においてリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの技能を磨き、互いの考えや意志を伝えあうことができるようになることを目標とする。からだ全体を動かしながら、身体と運動に関する実用的英語を学ぶ。具体的な内容は身体部位を指す英単語、ならびに身体運動の指導の際に用いられる英語表現である。その学習方法はボディワークの体験を通した英語習得である。
授業形態は実技による理解型授業ならびに課題学習となる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | グローバル視点の醸成 | スポーツにまつわる海外情報に触れ、多様な価値観、見方があることを知り自分の考えを持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 語彙・文法知識 | 身の回りのことやスポーツに関する領域に関する語彙を認識できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 英語発信能力 | 基礎的な英文法を使って自分のことを伝えたり、スポーツ活動を行うことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| ボディワーク実技 | 50 % | ： | 毎回の授業で与えられたボディワーク実技課題やペアワークの到達度とその取り組みを50点満点で評価する。 |
| 表現活動 | 30 % | ： | 英語で説明したり、英語で動作説明できるか、スポーツ活動をどれだけ適切に行えるかを30点満点で評価する。 |
| 小テスト | 20 % | ： | 授業内で学習した身体部位や動作についての確認テストから20点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて授業内で提示及び資料配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本授業は実技授業である。エクササイズができる服装及びインシューズを持参すること。
・必要に応じて講義形式、オンデマンドを用いることもある。その場合は事前に通達する。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション（クラス内での自己紹介、今後の課題について等）**<br>教員の自己紹介および授業の進め方について　理解する。英語学習の仕方について理解する。 | クラス内での自己紹介。今後の課題の理解。学習の進め方に関して理解できるようにする。 | 4時間 |
| 第2回 | **身体部位①　基礎**<br>・スポーツ英語実践イントロダクション<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | 第2回の授業で活用した語彙の復習 | 4時間 |
| 第3回 | **身体部位②　骨**<br>・前回の授業の復習<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | 第3回の授業で活用した語彙の復習 | 4時間 |
| 第4回 | **身体部位③　筋肉**<br>・前回の授業の復習<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | 第4回の授業で活用した語彙の復習 | 4時間 |
| 第5回 | **身体部位④　内臓**<br>・前回の授業の復習<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | 第5回の授業で活用した語彙の復習 | 4時間 |
| 第6回 | **ボディワークの用語①呼吸と声**<br>・前回の授業の復習<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | 第6回の授業で活用した語彙の復習 | 4時間 |
| 第7回 | **ボディワークの用語②流動性**<br>・前回の授業の復習<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | 第7回の授業で活用した語彙の復習 | 4時間 |
| 第8回 | **ボディワークの用語③空間**<br>・前回の授業の復習<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | 第8回の授業で活用した語彙の復習 | 4時間 |
| 第9回 | **身体と言語**<br>・前回の授業の復習<br>・エクササイズ動画の英語リスニングと理解<br>・実技 | グループワーク課題に備える | 4時間 |
| 第10回 | **グループワーク①実践**<br>・グループによるエクササイズの英語実践 | グループワーク課題に備える | 4時間 |
| 第11回 | **グループワーク②実践**<br>・グループによるエクササイズの英語実践 | グループワーク課題に備える | 4時間 |
| 第12回 | **グループワーク③実践**<br>・グループによるエクササイズの英語実践 | 今までに活用した語彙を復習し、確認テストの勉強をする。 | 4時間 |
| 第13回 | **確認テスト**<br>これまでの復習問題に取り組みます。 | 今までの授業の課題を見直しましょう | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツ英語実技の振り返り**<br>授業の振り返りと総括。 | 学習した語彙をまとめてみましょう | 4時間 |

SP-1012-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **中国語** | | | | |
| 担当教員名 | **福田　詩慧理** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業は、中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な発音・語彙・会話表現を習得するとともに、自己紹介や初対面の人との簡単な会話ができるようになることを目標とします。特に発音の習得を重視し、四声やピンインを正しく理解し、繰り返し練習することで、「通じる中国語」を身につけます。
グループワークやゲームを取り入れ、楽しみながら自然な表現を学び、段階的な実践練習を通じて、自信を持って中国語でのコミュニケーションを始められる力を養います。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 中国語の発音（ピンイン・四声）/ 自己紹介・基本的な挨拶・簡単な会話表現の獲得 | 中国語で自己紹介や簡単な会話ができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 状況に応じた会話を行う力 | 中国語の基礎知識を活用し、状況に応じた適切な表現で会話を組み立てることができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 異文化理解 / 積極的な発話 / クラスメイトとの協力 | 異文化に興味を持ち、主体的に学習しながら、クラスメイトと協力して積極的に会話練習を行うことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内での取り組み | 40 % | ： | 積極的な発言・グループワークの取り組み |
| 課題の提出 | 20 % | ： | 発音練習・会話練習を録音し、提出する |
| 期末発表 | 40 % | ： | 自己紹介及び質疑応答 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

プリント教材（授業内で配布）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス/中国語とは？ 発音導入（ピンイン・四声）**<br>授業概要、評価方法などの説明を受ける<br>中国語の魅力を知り、学ぶ意欲を高める<br>中国語の発音に触れる | 中国語に関するレポート課題を提出する　学習した発音を録音し、提出する　自分の氏名のピンインを調べて提出する | 4時間 |
| 第2回 | **発音(1)単母音・子音**<br>単母音・子音を聞き取り、発音できるようになる | 学習した発音を録音し、提出する | 4時間 |
| 第3回 | **発音(2)複母音・鼻母音/変調**<br>複母音・鼻母音/変調を聞き取り、発音できるようになる | 学習した発音を録音し、提出する | 4時間 |
| 第4回 | **発音(3)発音の総復習/実践練習**<br>これまでに学習した発音を組み合わせ、単語の聞き取り、発音ができるようになる | 学習した発音を録音し、提出する | 4時間 |
| 第5回 | **基本表現(1) 基本的な挨拶と自己紹介**<br>簡単な挨拶表現と名前・出身を言えるようになる | 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第6回 | **基本表現(2) 出身・職業を伝える**<br>重要表現を使用して、出身や職業を伝える | 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第7回 | **基本表現(3) 好きなこと・趣味を話す**<br>重要表現を使用して、好きなこと・趣味について話す | 予習：自己紹介で伝えたい、「趣味や自分の好きなこと」を5つ考えてくる 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第8回 | **基本表現(4) 数字と年齢**<br>数字・年齢などの数に関する表現を言えるようになる | 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第9回 | **応用表現(1) 会話を続けるためのリアクション表現**<br>相手が言ったことに対するリアクションが取れるようになる | 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第10回 | **基本表現(5) 住んでいる場所について話す**<br>自分が住んでいる場所について伝える | 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第11回 | **基本表現(6) 家族について話す**<br>家族に関する表現を言えるようになる | 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第12回 | **応用表現(2) 普段の過ごし方と休日の楽しみについて話す**<br>普段の過ごし方と休日の楽しみ方について聞かれた際に答えることができる | 学習した重要表現を録音し、提出する | 4時間 |
| 第13回 | **総復習/発表準備**<br>これまでに学習したことの総まとめを行い自身の自己紹介文を作成する | これまでに学んだ内容を復習し、自身の自己紹介文を作成して提出する 期末発表（自己紹介・質疑応答）の準備をする | 4時間 |
| 第14回 | **期末発表**<br>自己紹介及び質疑応答 | 準備した発表内容を繰り返し練習し、スムーズな自己紹介ができるようにする | 4時間 |

SP-1013-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **韓国語** | | | | |
| 担当教員名 | **魯　惠英** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

韓国語の初歩的・実用的な会話能力を、学生の視点で「身につける」ことを目指す。具体的には「ハングルが読める・書ける」、「韓国語の基本単語・基本文型を身につける」、「基本的・日常的なコミュニケーションができる」ことを目標とする。まず、韓国語の文字・発音を丁寧に学習した後、体が自然と覚えていくように「問いかけ―返事」の練習に時間をかけた演習形式で授業を行う。毎回の授業で、文字と発音の変化など韓国語学習の要になる項目を理解したうえで、基礎文法の学習へと進む。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 韓国語と韓国社会・文化に関する基礎知識 | 韓国語の基礎会話とともに韓国の社会と文化を知り、理解することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

1. 私語・携帯はほかの人に迷惑になるので禁止する。
2. 授業に積極的に参加すること。特に，声を出して読むことが大事である。
3. 課題，小テストの準備をした上で，授業に参加することを強く望む。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 参加度 | 20 % | ： 授業に積極的に参加しているかを評価する。 |
| 課題 | 20 % | ： 授業内容に関連した課題を課す。指定された期限までに提出しなければならない。 |
| 小テスト | 30 % | ： 随時行い、授業の内容を理解しているかを評価する。 |
| 期末テスト | 30 % | ： １４回目の授業で行い、授業の内容を全体的に理解しているかを評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 長谷川由紀子 | ・ コミュニケーション韓国語 聞いて話そうⅠ | ・ 白帝社 | ・ 2012 年 |

**参考文献等**

NHKハングル講座（ラジオ・テレビどちらでも可）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業前後

**場所**： E-mail

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **母音と母音字母①（ハングルの「あ行」＆「や行」）**<br><br>第１課　おはようございます（出会いⅠ）<br>１）ハングルの仕組み<br>２）文字と発音：ハングルの「あ行」と「や行」 | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第2回 | **子音と子音字母①（ハングルのあかさたな）**<br><br>第２課　おはよう（出会いⅡ）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）文字と発音：ハングルの「あかさたな」<br>３）簡単なフレーズ | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第3回 | **無声子音の有声音化（ハングルの濁り音）**<br><br>第３課　さよなら（別れⅠ）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）文字と発音：ハングルの濁り音<br>３）簡単なフレーズ | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第4回 | **子音と子音字母②（激しいかたぱちゃ）**<br><br>第４課　明日またね（別れⅡ）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）文字と発音：激しい「か」<br>３）簡単なフレーズ | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第5回 | **子音と子音字母③（硬いかたぱちゃさ）**<br><br>第５課　これ、どうですか（尋ねる・答える）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）文字と発音：硬い「か」<br>３）簡単なフレーズ | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第6回 | **母音と母音字母②（ハングルの「わ行」）、パッチム（ハングルのんとっ）**<br><br>第６、７課　ありがあとう（ございます）（感謝Ⅰ、Ⅱ）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）文字と発音：ハングルの「わ行」、ハングルの「ん」と「っ」<br>３）簡単なフレーズ | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第7回 | **発音の変化（連音化）**<br><br>第８課　何ですか（プレゼント）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）発音のルール：連音Ⅰ・Ⅱ<br>３）文法：名詞文「です（か）」 | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第8回 | **発音の変化（ㅎの弱音化・鼻音化）**<br><br>第９課　申し訳ありません（謝罪）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）発音のルール：「ㅎ」の弱音化、鼻音化Ⅰ・Ⅱ | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第9回 | **自己紹介**<br><br>第１０課　私は山崎未来です（自己紹介）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）語彙と表現：一人称代名詞<br>３）文法：主題を現す助詞「は」、～は＜疑問詞＞ですか？、名前紹介表現 | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第10回 | **発音の変化（激音化）、月日の言い表し方（漢字語数詞①）**<br><br>第１１課　誕生日はいつですか（日付）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）発音のルール：激音化<br>３）語彙と表現：月日の言い表し方 | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第11回 | **学年＆専攻の言い表し方（漢字語数詞②）**<br><br>第１２課　なに学科ですか（所属と学年）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）語彙と表現：種類を尋ねる疑問詞、学年の言い表し方<br>３）文法：追加をあらわす助詞「も」 | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第12回 | **하다用言**<br><br>第１３課　僕は音楽が好きです（サークル）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）語彙と表現：「하다用言」<br>３）文法：対象を現す助詞「を」、好みの表現「～を好みます・～が好きです」 | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |
| 第13回 | **指し示す言葉（こそあ言葉）、名詞文の否定文** | 前回学習内容を復習してから授業に参加すること。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 第１４課　未来さんの携帯じゃありませんか（持ち主）<br>１）前回学習内容の確認<br>２）語彙と表現：指し示す言葉、所有・所属表現<br>３）文法：名詞文の否定「〜ではありません（か）」 | | |
| 第14回 | **総まとめ**<br><br>１）前回学習内容の確認<br>２）学期を通じた復習およびまとめをするとともに、韓国語の習得の達成度チェックを行う | 前回学習内容を復習をしてから授業に参加すること。 | 4時間 |

SP-1014-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スペイン語** | | | | |
| 担当教員名 | **大河　ジャッケリネ** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スペイン語会話の基礎を勉強する。日常生活で必要な挨拶、表現、語彙、基礎的な文法などを、会話練習をすることにより身につける。
また、言葉を学ぶことを通して、ラテンアメリカとスペインの社会や文化に親しんでもらうことも、この授業のねらいの一つである。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スペイン語による会話練習 | スペイン語での簡単なコミュニケーションをとれるようになる。<br>スペイン語の言語習得だけではなく、ラテンアメリカとスペインの文化を学び、身につけることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・問答法・コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 中間試験 | 20　% | ：　８回目の講義において小テストを実施する |
| 最終試験 | 80　% | ：　定期試験において、授業内容の理解度を測るテストを行う |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

なし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション、スペイン語のアルファベット**<br>基本的な挨拶、主語人称代名詞 | スペイン語独特の発音を練習 | 4時間 |
| 第2回 | **テキストの第１課（定冠詞・形容詞の性）**<br>自己紹介、国籍、職業や身分を言う<br>定冠詞・形容詞の性 | 男性名詞、女性名詞の区別を知る | 4時間 |
| 第3回 | **テキストの第２課（基礎単語・定冠詞）**<br>～が好きですか　?Le gusta～?<br>基礎単語・定冠詞の練習問題 | サッカー用語など簡単な単語を覚える | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第4回 | **テキストの第３課（～ar動詞）**<br>職業　Profesiones<br>～ar動詞を習う | 動詞の変化は複雑、しっかり覚える | 4時間 |
| 第5回 | **テキストの第４課（数字と色）**<br>数字と色　Numeros y colores | UNO(１)　DOS(２)・・　数字に強くなろう | 4時間 |
| 第6回 | **テキストの第５課（形容詞の性）**<br>これは何ですか／これはどんな物ですか／形容詞の性<br>？Que es esto?　？Como es esto? | 旅行で大事な会話フレーズを覚える | 4時間 |
| 第7回 | **テキストの第６課（haber動詞）**<br>～があります　haber動詞<br>～はいくつありますか　Cuantos～hay？ | 数字を覚えたらその応用をしっかり身につける | 4時間 |
| 第8回 | **まとめ、小テスト**<br>前半のまとめ、小テストを行う | 前半の講義で学んだ内容を復習しておく | 4時間 |
| 第9回 | **テキストの第７課（tener動詞）**<br>～持っています　tener動詞　Julian tiene fax.<br>～持っていますか | 大事な動詞をしっかり覚えてくる | 4時間 |
| 第10回 | **テキストの第８課（conocer動詞）**<br>～を知っている　conocer動詞<br>Conozco Madrid. | ER、IR動詞の不規則動詞を覚える | 4時間 |
| 第11回 | **テキストの第９課（querer動詞）**<br>～が欲しい　querer動詞<br>Quiero una cerveza. | 会話で一番大事な動詞であるので、必ず復習すること。 | 4時間 |
| 第12回 | **テキストの第１０課（hacer動詞）**<br>スポーツをする　hacer動詞<br>Hacer deporte.<br>スポーツについて話す。 | この動詞の変化はよく使われるため、必ず復習すること。 | 4時間 |
| 第13回 | **テキストの第１１課（?Donde?疑問詞）**<br>～はどこにあります　?Donde?疑問詞<br>?Donde esta～? | 居場所を言う大事なフレーズであるため、必ず復習すること。 | 4時間 |
| 第14回 | **文化紹介、ラテンアメリカのお話をする。**<br>みんなで簡単なスペイン語の会話をする。 | ラテンアメリカ等について調べてくる | 4時間 |

SP-1015-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **栄養と健康** | | | | |
| 担当教員名 | **武田　哲子** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 栄養士として３年間施設や病院での献立作成、栄養指導、給食管理業務の経験がある。その経験を活かし、健康管理のための献立管理や栄養教育方法の授業を展開する（第６回、１３回、１４回）。 | | | | |

**授業概要**

人の体は食べたものからできている。何を、どのように食べるかは健康的な生活を送るために重要な課題である。この授業では食事の働きについて理解し、健康的な生活を実践するために必要な知識を修得することを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 栄養・健康に関する基礎的な知識の習得 | 栄養・食生活に関する基礎知識を身につける |
| 2. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 健康づくりへの関心・意欲の向上 | 栄養・食生活が身体にどのように影響しているかを学び、スポーツ指導や健康支援のための知識を深める |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 健康状態、食生活の評価 | 健康状態、食生活の評価方法を学び、体格や栄養状態の判断ができるようになる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | レポート課題のための情報収集 | レポート課題に適した資料を探索し内容を理解できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
  ・ICT(Excel)
  ・ICT(Word)
  ・ICT(Forms)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 中間試験 | 30 % | ： | 栄養素やその働き、食事や健康状態の評価について理解できているか30点満点で評価する |
| 期末試験 | 30 % | ： | 年代別の健康問題とそれに関わる栄養素等摂取の理解度について30点満点で評価する |
| レポート | 40 % | ： | 授業で扱った現代社会の栄養と健康の内容に関する知識を用い、指定の形式に沿って独自の意見を提示できているかという観点から評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜紹介する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜日３限

**場所**：　研究棟２階Ｂ２１４

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスと食事と健康に関する概説**<br>授業の進め方，達成目標を確認する． | 授業内容に関して配布された資料の復習を行う．次回のキーワード（エネルギー源）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第2回 | **エネルギー源**<br>エネルギー源になる栄養，食事，食生活の工夫を理解する． | エネルギー源に関する資料を復習する．次回のキーワード（身体づくり）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第3回 | **身体づくり**<br>身体づくりの材料になる栄養，食事，食生活の工夫を理解する． | 身体づくりに関する資料を復習する．次回のキーワード（身体機能の調節）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第4回 | **身体の機能調節**<br>身体の機能調節を担う栄養，食事，食生活の工夫を理解する． | 身体機能調節に関する資料を復習する．次回のキーワード（身体組成，エネルギー消費の測定）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第5回 | **健康のための身体づくりの評価**<br>体格や生活活動の評価方法を理解する． | 体格や生活活動の評価方法を復習し実践する．次回のキーワード（食事調査）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第6回 | **食生活の把握**<br>食生活評価方法を学び，自分自身の食生活をふりかえる． | 食生活評価方法を復習し実践する． | 4時間 |
| 第7回 | **前半授業内容の復習と達成度チェック**<br>前半授業のまとめを行う． | 次回のキーワード（成長期，身体的特徴）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第8回 | **成長期の食事の課題（身体的特徴と食生活）**<br>体格の変化とそれに合わせた食事についてまとめる． | 成長期の身体的特徴に関する資料を復習する．次回のキーワード（思春期，摂食障害）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第9回 | **思春期の食事の課題**<br>思春期の体や心の成長の特徴と問題点について理解する． | 思春期の体や心の成長に関する資料を復習する．次回のキーワード（食育）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第10回 | **成長期や思春期における食育**<br>各年代の問題点を理解しどのように食生活を支えるべきか考察する． | 食育についての資料を復習する．次回のキーワード（メタボリックシンドローム）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第11回 | **成人期の食事の課題（肥満、メタボリックシンドローム）**<br>肥満、メタボリックシンドロームの予防についてまとめる． | メタボリックシンドロームとその予防・対策に関する資料を復習する．次回のキーワード（高齢期，骨粗鬆症，サルコペニア）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第12回 | **高齢期の食事の課題（骨・筋の健康維持）**<br>高齢期の骨と筋肉の健康維持のための食生活についてまとめる． | 高齢期の骨・筋の健康維持と食事に関する資料を復習する．次回のキーワード（栄養教育）について調べノートに記述してくる． | 4時間 |
| 第13回 | **栄養教育の概論**<br>栄養教育の方法論についてまとめる． | 栄養教育に関する資料を復習する． | 4時間 |
| 第14回 | **栄養教育の実践方法**<br>栄養教育の実践方法について学び，これまで授業で扱った課題について栄養教育の実践案を考える． | 栄養教育に関する資料を復習する．栄養教育の実践案を完成させる． | 4時間 |

SP-1016-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | コミュニケーションと身体表現 | | | | |
| 担当教員名 | 東出　益代 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習型実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

我々のコミュニケーション活動は言語を中心に行われているが、同時に表情や姿勢などの非言語表現も大きな役割を担っている。そのため、人間関係づくりや円滑なコミュニケーションのためには、非言語表現に関する理解とコントロールが欠かせない。身体から表出あるいは表現されるものを明らかにするためには，三人称的視点から客観的に分析し視覚化していくことも重要て゛あるか゜，それた゛けて゛なく自身か゜身体の内側からの現実を捉え，その気つ゜きを探求し，一人称の身体感覚の経験が必要本受業では、受講生が、自己と他者の「からだ」と「表現」を理解し、言語以外のコミュニケーション方法を知り、その応用能力を高めることにある。日常生活における非言語表現について、身体表現であるダンスの視点から、身体表現のコミュニケーションツールとしての価値、ソマティクスの視点から「からだ」の感覚に支えられた表現の可能性についても体感し理解することを目標とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | コミュニケーションと身体表現の方法。身体感覚を言語化する力。 | 身体表現とコミュニケーションの方法を知り、自己表現のあり方を理解する。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 多様な身体表現の中で自己と他者の課題を知る。 | 多様な身体表現の中で自己と他者の課題を理解し、より良いコミュニケーションの在り方を探る。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

3分の1欠席した場合、評価の対象としない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 毎時の授業内課題 | 70　% | ： | 毎回の授業で与えられた実技課題やペアワークの到達度とその取り組みを70点満点で評価する。 |
| 課題レポート | 30　% | ： | 授業で学んだ自己の「からだ」と「表現」及び「コミュニケーション」の在り方と理解についてまとめた内容について30点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて授業内で紹介または資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・３分の１以上欠席した場合、評価の対象としない。
・演習型実技の授業：動きやすい服装で参加すること。
・必要に応じて講義形式、オンデマンドを用いることもある。その場合は事前に通達する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス**<br>授業の位置づけと授業の進め方、コミュニケーションと身体表現について達成目標の確認。 | 自分の長所、短所を知っておく | 1時間 |
| 第2回 | **からだによるコミュニケーション**<br>人間はからだの情報をどう受け取っているのか、コミュニケーションに関係しているかについて理解を深める。 | さまざまなコミュニケーションとは身体表現について把握しておく。 | 1時間 |
| 第3回 | **ジェスチャーによるコミュニケーション**<br>人間は身体動作（ジェスチャー）によって情報を発信し、コミュニケーションをとっている。ダンスの世界では、踊るだけでなく、身体動作の表現により台詞を持たず物語を展開している。<br>どのような身体動作で表現されているか、実際に映像を鑑賞し理解を深める。 | ジェスチャーによるコミュニケーションについて概要を把握しておく。 | 1時間 |
| 第4回 | **身体表現の認識**<br>コンテンポラリーダンスなどの基礎的表現を通して、身体表現について解説する。 | 身体の認識について概要を把握しておく。 | 1時間 |
| 第5回 | **文化的な身体の認識**<br>日本の伝統芸能の基礎技術を通し、動きの意味を理解する。<br>軸・回転・跳躍 の身体性と表現について解説し、日本の伝統芸能の映像鑑賞、講評と質疑応答。 | 文化的な身体の認識の概念についてまとめてみる | 1時間 |
| 第6回 | **ソマティクスと身体表現**<br>ソマティクスについて解説し理解を深める。 | ソマティクスと身体表現についてまとめてみる。 | 1時間 |
| 第7回 | **自己のからだとコミュニケーション　触れる①自己のからだを聴く**<br>ソマティクスのエクササイズを通して、自己の身体感覚に耳を傾ける。 | 自己のからだとコミュニケーションについてまとめてみる。 | 1時間 |
| 第8回 | **他者のからだとコミュニケーション　触れる②他者のからだを聴く**<br>ソマティクスのエクササイズを通して、他者の身体感覚に耳を傾ける。 | 他者のからだとコミュニケーションについてまとめてみる。 | 1時間 |
| 第9回 | **自己と他者のからだ　触れる③自己表現**<br>ソマティクスのエクササイズを通して、自己と他者の身体感覚とその表出の違いについて理解する。 | 自己と他者の身体感覚とその表出の違いについてまとめてみる。 | 1時間 |
| 第10回 | **コミュニケーションと姿勢の関わり**<br>ソマティクスのエクササイズを通して、身体と重力の在り方を学ぶ。 | 身体と重力の在り方についてまとめてみる。 | 1時間 |
| 第11回 | **床のエクササイズ／緩める・呼吸（リセットと背骨）**<br>ソマティクスのエクササイズを通して、緊張と弛緩について学ぶ。 | 緊張と弛緩についてまとめてみる。 | 1時間 |
| 第12回 | **立つ・座る・歩く／姿勢**<br>主観と客観の両面から自分自身を認識する。 | 恥ずかしいという感情についてまとめてみる。 | 1時間 |
| 第13回 | **確認レポート**<br>自身が身体で表現していることを探求する。コミュニケーションと身体表現の関連についてレポートを作成する。 | 授業の振り返りを行う。 | 1時間 |
| 第14回 | **コミュニケーションと身体表現のまとめ**<br>授業の振り返りとレポートについてのフィードバック及び総括。 | 自己と他者のからだ・表現を理解し、豊かなコミュニケーションを目標にする | 1時間 |

SP-1019-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **人間の心理と行動** | | | | |
| 担当教員名 | **多賀谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校現場で保護者・担任への教育相談，発達障害児童生徒への支援等，人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識を活用しての実務経験を踏まえ、ワークを活用し、実践的な指導を行っている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

心理学の基礎的知識の修得を通じて人間の心理や行動を理解するための手がかりを得ることを目的とする。できるだけ身近なテーマをとりあげて説明を加えることで，日常経験している出来事に対する認識を深めやすくする。また，体験的に理解を深めるために，簡単な心理検査やグループワークも実施する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識 | 人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識を学習することで，新たな視点を獲得したりそれまでに獲得していた視点を深めることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識の活用 | 人間の心理や行動に関する心理学の基礎知識をもとに自身の生活に活用することができる。 |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 人間の心理や行動に関する心理学への関心・意欲 | 人間の心理や行動に関する心理学に興味関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

理解を深めるために、毎回ワークを課す。ワークには積極的に参加すること。
ワークへの参加の意思がない場合、明らかなマナー違反があった場合には，欠席とみなすことがある。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| ワークへの参加 | 15 % | ： | 心理学の基礎的知識の修得にむけて、積極的にワークに参加する。 |
| 授業内小レポート | 55 % | ： | 心理学の基礎的知識の修得を通じて人間の心理や行動を理解する。 |
| 期末レポート課題 | 30 % | ： | 自らの課題を見つけ、問題を解決しようとする。<br>①課題の分析、②適切な目標の立案、③適切な記録、④結果の分析、⑤目標の適切な修正（PDCAサイクル）ができる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

三田地真美・岡村章司『応用行動分析入門ハンドブック』（金剛出版，2019年）
粕井みづほ『ワークショップ　人間関係学』（久美株式会社，2008）
今本　繁『自分を変えたい人のためのABCモデル』（ふくろう出版，2020年）
その他，講義中に随時紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **人はなぜだまされるのか（錯覚）**<br>視覚における錯覚（錯視），運動感覚に関する錯覚，触覚的錯覚について体験する。また，認知が記憶や経験などに影響されることについて学ぶ。 | 日常生活の錯覚について見つけ、学んだことと関連づける。 | 4時間 |
| 第2回 | **出会いの心理学（印象の形成）**<br>人間関係は人との出会いから始まる。私たちは，初めて出会った人であっても短時間でその人への印象を形成し，その人の人となりなどを判断する。人はどのように他者への印象を形成し，どのように他者を認知するのかについて学ぶ。 | 日常生活の中で，自分が他者と出会ったときの印象の形成について思い出し、学んだことと関連づける。 | 4時間 |
| 第3回 | **人を好きになる心理学（人の魅力）**<br>人はなぜ他者に惹かれるのか，好意をいだくようになるのだろうか。好意を抱きやすくさせる要因について学び，日常生活にどのように活かせばよいかについて考える。 | 人がお互いに好意を持って交友関係を築くためには，どのような工夫があるとよいのかまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **睡眠の科学（最高のパフォーマンスを発揮するために）**<br>日常生活の質には、睡眠の質が影響している。そして、睡眠は貯金できない。健康をおびやかす睡眠負債とは？　ご自身の睡眠について記録・観察し，睡眠の質に影響している要因を考える。そして、少しでも、睡眠の質を向上させる方法について学ぶ。 | 睡眠の質を向上させる適応的な行動を増やす（不適応的な行動を減らす）ためにどうすればよいか考える。 | 4時間 |
| 第5回 | **ストレスと人間関係の心理学（ストレス対処法）**<br>・ストレスがおきる仕組みを理解し、ストレス対処法を学ぶ。<br>・リラクセーションの方法を体験し，日常生活への活用を考える。 | 日常生活を振り返り自身のストレスについて考え，自分に適したストレスマネジメントを考える。 | 4時間 |
| 第6回 | **集団の心理学**<br>私たちの多くは何らかの集団（組織）に所属しており，人は集団になることで普段の自分とは異なる言動を取ることがある。集団からの影響，集団と集団の関係など，集団との関わりという側面から人間の行動や心理を考える。 | 集団の中で起こりやすい問題を想定し，そのような事態にはどのようなことに気をつければよいかをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **対人コミュニケーションを円滑にする心理学**<br>私たちは，日々，他者と関わり合いをもち，お互いに影響を与え合いながら社会生活を営んでいる。そのような人間関係にはコミュニケーションを介して営まれている。対人コミュニケーションについての理解を深め，より良い人間関係を築き上げることについて考える。 | より良い人間関係を築くための要因についてまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **自分自身を知る心理学**<br>「自分のことは自分が一番よくわかっている」と言われる反面，「わかるようで一番わからないのが自分」とも言われている。自分のことについて心理検査を活用して理解を深める。 | 講義で扱った心理検査の結果から，自分自身のパーソナリティについて見立てを行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **アンガーマネジメント**<br>なぜ攻撃行動が生じるのかについて学び，怒りをコントロールする方法について学ぶ。 | 自分に適したアンガーマネジメントの方法をまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **援助行動**<br>人への援助を求められているときに，すぐに行動が生起するときもあれば，躊躇してなかなか踏み切れないときもある。この違いは何によるのだろうか。<br>援助行動に至る心的プロセスや援助行動を促進する要因・抑制する要因について学ぶ。 | 日常生活で援助行動を促進する要因・抑制する要因についてまとる。 | 4時間 |
| 第11回 | **精神分析的心理療法の視点から考える人間の心理と行動**<br>フロイトが提唱した精神分析の流れを組む精神分析的心理療法の中にはさまざまな心理学がある。「無意識」，「意識」，「防衛機制」などのメカニズムを知り，人間の心理と行動について学ぶ。 | 防衛機制の種類と実例を整理し，意識にのぼらない他のさまざまな心の働きについて調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **行動を科学する（強化の原理）** | ご自身の改善したい行動について、アセスメントと記録を行う。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 行動が増加したり，減少したりするには，日々の経験が影響している。日常生活で起こっている現象を観察し，行動の増減に影響している要因を考える。<br>その原理を活用して，適応的な行動を増やす方法について学ぶ。 | | |
| 第13回 | **気になる行動の改善プログラムを作ろう**<br><br>ご自身の行動目標を設定し、実際に介入を行うことで、問題解決の実践を学ぶ。<br>特に、人間社会の様々な現象や問題を分析し、環境要因を明らかにする「機能分析」を行うこと、PDCAサイクルを回しながら解決に向かうことを学ぶ。<br>（この課題が最終レポートとなる） | 改善プログラムを実際に実施（PDCAを回す）その結果から考察を行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **生きがいと幸福感**<br><br>マズローの欲求階層説，エリクソンの心理・社会的発達理論について知る。これらの理論を総合的にとらえ，人間の言動を欲求や発達段階の視点から考える。そして，人としてどう生きるのか，自分の生きがいと幸福感について確認する。　講義全体を振り返りながら重要な考え方や用語を復習する。併せて，心理学の日常生活への活用を考える。 | 日常生活で起こりうる自分の言動や欲求について理論に照らして考える。 | 4時間 |

SP-1020-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **メディアリテラシー（情報倫理）** | | | | |
| 担当教員名 | **城島　充** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療取材などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。様々なテーマで執筆活動を続けた。豊富な取材経験をもとに、授業当日の新聞朝刊、テレビ報道の解説から授業をはじめ、それぞれのテーマで実践的なジャーリズム論を展開している。（全14回） | | | | |

**授業概要**

情報の送り手として長く私たちの身近にあったマスメディアは、その役割を継続して果たしながらもかつてほどの影響力を持てなくなった。インターネットの普及によって新たなネットメディアが次々と誕生し、SNSの普及で大量の情報が様々な形で発信されるようになったからだ。情報発信の多様化は、情報倫理にどのような影響をもたらすのか。マスメディアが抱えてきた課題を検証しながら、新たな情報発信ツールが直面する課題との共通点や違いを考察、ネット社会を生き抜くうえで不可欠な情報との付き合い方を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 「スポーツと情報倫理」「スポーツ選手による情報発信」に関する具体的な事例の分析を通じて、バランスのとれたものの見方、哲学的・倫理的なものの見方の習得。 | 他人の意見や主張を正確に把握し、他人との意見や主張の違いを理解した上で、自分の意見や主張を他人に対して正確に伝えることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 倫理、責任、他人（特に弱者）を思いやる心など、SNSなどを通じた情報発信がもたらしうる様々なインパクトやリスクについての考察。 | 情報発信がもたらしうる様々なインパクトやリスクについて様々な角度から考察し、現代社会を生き抜く知恵を身につけることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | メディアリテラシーに関するさまざまなテキストを理解し、それぞれのテキストから現代社会に必要なリテラシーを学ぶ。 | メディアリテラシーに関するさまざまなテーマを自分の視点で理解し、その内容を適切な文章で表現することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

＜提出課題およびレポートの評価基準＞
A評価：到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を収めている。
B評価：到達目標を十分に達成している。
C評価：到達目標を達成している。
D評価：到達目標を最低限達成している。
E評価：到達目標を達成していない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各授業時の提出課題 | 80　% | ：　毎回提示するテーマに対する小レポートで評価。 |
| 授業貢献 | 20　% | ：　授業時の質疑応答やケース討議での発言内容により授業貢献度を評価 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

教科書は使用せず、毎回、授業資料（レジュメ）を配布,または提示します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・規定の回数以上の授業を欠席した場合は、成績評価の対象外となる。やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・遅刻・途中退室・授業中の私語・携帯電話の使用など、他の受講生の迷惑となる行為を禁止する。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業時間の前後の時間帯

**場所**：　授業教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ネットでの「炎上」騒動について考える。**<br>情報倫理について考える第一歩として、昨今の世間を騒がせている炎上騒ぎについて検証したい。実際にネット上で炎上した有名人のツイッターやインスタグラムでの発言をとりあげ、その原因を考えるとともに、ネット上で発信することのリスクについて考察する。 | 炎上するSNSの問題点について復習しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **スクープとはなにか**<br>情報を発信するメディアに共通する目的はスクープである。新聞やテレビなどマスメディアにとってのスクープとはどんなものを意味するのか。ネットメディアにおけるスクープと対比させながら考察する。 | 新聞のスクープが社会に与えるインパクトについて考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **新聞における過去の誤報と捏造について**<br>過去に社会を騒がせた新聞メディアの誤報について検証する。記事はもちろん、写真報道をめぐる捏造案件についても考察する。 | かつてどんな誤報と捏造があったのか、分野別に整理しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **なぜ、誤報は生まれたのか**<br>教員が勤務した産経新聞沖縄総局の高速道路での事故をめぐる誤報について、その背景を検証する。 | 誤報が生じた最も大きな原因を考察し、解決策をまとめておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **メディアスクラムの危険性**<br>松本サリン事件で容疑者扱いされた無実の男性の言葉を振り返りながら、結果的に多くのメディアが誤報を重ねた背景を探る。 | 松本サリン事件の概要について復習し、メディアの問題点を把握しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **雑誌ジャーナリズムの落とし穴**<br>有名人に関するスキャンダルを連発する週刊誌の存在価値と、問題点について検証する。 | 配布資料を精読し、週刊誌報道の最も大きな問題点を理解しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **メディアの報道と名誉毀損**<br>報道による名誉毀損問題が法廷で問われたケースについて考える。法廷でなにが争われたのか、いくつかの判例を参照しながら検証したい。 | 配布資料を精読しながら、名誉毀損裁判の流れと判例を把握しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **テレビジャーナリズムとやらせ問題**<br>報道だけではなく、バラエティ番組でもテレビの情報発信する姿勢が問われたケースは少なくない。テレビの演出はどこまで許されるのか、その境界線を探る。 | 配布資料を精読し、テレビジャーナリズムの問題点を整理しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **ネットメディアの功罪**<br>新聞や雑誌の記事がインターネット配信されたことで生じた現場の問題点と、新しく生まれたネットに特化したメディアが抱える課題について考える。 | ネット記事の長所と問題点について理解し、課題解決に向けたアイデアを考えておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **オールドメディアとネットメディア**<br>オールドメディアによる報道に批判が集まった2024年2024年11月の兵庫知事選挙でのテレビや新聞の報道と、ユーチューブやSNSによる情報発信を比較し、それぞれの影響力と問題点について考える。 | 配布資料を精読し、オールドメディアとネットメディアがそれぞれ兵庫県知事選においてどんな報道をしたか問題点を列挙しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **ネット掲示板 匿名の誹謗中傷**<br>ネット掲示板では、匿名による誹謗中傷や悪意に満ちた発言が後を絶たない。関西国際空港が孤立した台風19号で、事実無根のデマを信じた匿名のネットユーザーから誹謗中傷のコメントが殺到、自ら命を絶った台湾駐日大使のケースを検証するとともに、対策について考える。 | 匿名コメントがもたらす被害について自分の意見をまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **実名報道と匿名報道** | 配布資料を熟読し、スポーツジャーナリズムの変遷を理解しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 京都アニメーション放火事件では、犠牲になった人たちの実名報道の是非が議論された。実名を報じることにどんな意味があるのか。過去に議論になったケースと重ねながら考証する。 | | |
| 第13回 | **ステルスマーケッティングの問題点**<br><br>クライアントから報酬を受け取っている広告にも関わらず、有名人たちが個人のブログでその商品やイベントの魅力をアピールするステルスマーケティングの実例を学び、問題点について考える。 | ステルスマーケティングの現状について把握し、それぞれの問題点を整理しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **表現の自由とは**<br><br>これまで学んできたことを振り返ったうえで、表現の自由について考える。伝える側と受けとる側がそれぞれ理解しておくべき情報の扱い方について議論する。 | 情報倫理と表現の自由に関して参考資料を熟読して考察しておく | 4時間 |

SP-1021-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **法と生活（日本国憲法を含む）** | | | | |
| 担当教員名 | **梶居　佳広** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本講義は、法とは何か、それは私たちの生活とどのように関わり、そしていかなる意義を持つのかについて、日本国憲法を手がかりに考えることを目的としている。国家統治の基本を定めた法である憲法を学ぶことは、私たちの生活が依拠する「原則」を明らかにすることにもつながる。講義内容の理解を深める材料として関連の時事問題を適宜紹介する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 法・人権に関する知識 | 歴史的背景も踏まえたうえで法・人権の意義を理解することができる |
| 2. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 日本国憲法に関する知識 | 日本国憲法の人権・統治規定の特徴を理解することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

最終試験または最終レポートをメインに評価しますが、日常点＝毎回のコメントもそれなりに重視します。なお規定回数以上の提出がなければ「放棄」とみなし、成績評価を「不可」とします。なお私語については非常に厳しく対処します（受講態度を成績評価に連動させる方針です）。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 最終試験または最終レポート | 60　% | ： | 授業内容を理解しているか、または授業を踏まえたうえで自己の見解をまとめられているか。 |
| 毎回のコメント | 40　% | ： | なおコメント提出をもって出席とみなします（毎回の講義終了後、提出してもらいます）。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

（重要）履修者全員に購入を義務付ける指定教科書はありませんが、高校時代の政治経済ないし現代社会の教科書を参照するといいと思います。仮に高校時代の教科書を持っていない場合、1.『もういちど読む山川政治経済（新版）』（山川出版社）、2.『高校から大学への憲法』（法律文化社）が有益でしょう。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。
繰り返しになりますが、私語は絶対にしないこと、私語が多い場合は成績評価基準を変更しますのでそのつもりで。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　教室並びにメール

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、法、憲法とは何か**<br>「法」と道徳の違いを学びながら法と日常生活の関わりを考える。また憲法の定義についても調査する | ①法と道徳の相違、憲法の定義についての配布レジュメ・資料の見直し、②授業内容に関連した時事問題も調べ自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **人権獲得・憲法の歴史（前編）**<br>人権獲得と近代憲法が成立した歴史を学ぶ。前編は市民革命を経て19世紀まで。 | ①人権獲得・憲法の歴史（前編）についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **人権獲得・憲法の歴史（後編）**<br>人権獲得と近代憲法が成立した歴史を学ぶ。後編は主として20世紀であるが、日本国憲法の制定にも触れる。 | ①人権獲得・憲法の歴史（後編）についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **国民主権と天皇制**<br>日本国憲法の3大原則の１つである国民主権について、天皇制の現状（天皇の地位）、国民の定義も併せて学ぶ。 | ①国民主権、天皇についての配布レジュメ･資料の見直し　②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **平和主義（前編）**<br>日本国憲法の３大原則の１つである平和主義（第９条）について、前編は歴史的経緯と９条の制定までについて学ぶ。 | ①平和主義全般、第９条制定についての配布レジュメ･資料の見直し　②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **平和主義（後編）**<br>第5回に引き続き、憲法の平和主義、特に憲法第９条の解釈、自衛隊・日米安全保障条約との関係について学ぶ。 | ①安全保障並びに憲法第9条の解釈についての配布レジュメ、資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **基本的人権・人権総論**<br>日本国憲法の３大原則である基本的人権について、まず人権の分類の他、「公共の福祉」、平等について学ぶ。 | ①人権全般、「公共の福祉」、平等についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **基本的人権・自由権**<br>「自由権」の性質や種類を踏まえて、主として精神的自由・身体的自由について判例を交えながら学ぶ。 | ①自由権（特に精神的自由）についての配布レジュメ･資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **基本的人権・社会権**<br>社会権が成立した時代背景を学ぶとともに、生存権や勤労権の意義について学ぶ。 | ①社会権（特に生存権、勤労権）の意義についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **国民の政治参加（地方自治を含む）**<br>間接民主制、統治機構全体の特徴も踏まえつつ、憲法で規定されている国民の政治参加（国政選挙、地方自治）について学ぶ。 | ①国民の政治参加とその仕組みについての配布レジュメ･資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **権力分立：立法（国会）と行政（内閣）**<br>「権力分立」の原理を踏まえつつ、立法、行政双方の権能、並びに両者の関係について学ぶ。 | ①権力分立、特に立法と行政も関係についての配布レジュメ･資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **権力分立：司法**<br>立法権・行政権との違いを念頭に置きつつ司法権の意義と役割を学ぶ。 | ①司法権の意義と役割についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **基本的人権・新しい人権**<br>「新しい人権」について学んでいきます。また人権に関するポイントの再確認を行う。 | ①「新しい人権についての配布レジュメ･資料の見直し。　②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **憲法改正の動き並びにまとめ（法と生活をめぐる現代的課題）**<br>日本国憲法改正の動きをおさえることで，同時にこれまでの学習のまとめを行う。 | ①憲法改正についての配布レジュメ・資料の見直し。②授業内容に関連した時事問題を調べ、自分の意見をまとめる。 | 4時間 |

SP-1022-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **産業と社会** | | | | |
| 担当教員名 | 児山　俊行 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

21世紀の世界はグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報が地球上をダイナミックに動くようになっています。わが国・日本の産業社会も高度経済成長期から長い間にわたり発展してきましたが、「バブル経済」とその崩壊、その後の「100年に1度」と言われた金融危機、そして毎年のように自然災害に見舞われ、さらには世界的パンデミックや各地の戦乱がおさまらないなど、大きな曲がり角に来ています。このような現代の産業社会を、様々に行き交う情報に惑わされることなく、どのような「眼」で見ていけば良いのでしょうか。この授業では、その基本的な「視点」「視角」を養うことを目的とします。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | ・ | ・ |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業ごとのレポートは「量」を重視します。授業で学ぶ対象が、我々の活動するフィールドそのものが「産業と社会」であり、授業ではそれを見る解析度を上げ一定の視野を養うことを目的としているので、まずは考えたこと感じたこと、連想したことを大事にしてほしい。その際、頭脳や心情の動きが大きいほど、それらが落とし込まれたレポート文章の量は必然的に増えると考えるからです。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業態度 | 10 % | ： | 授業中での授業参加度や質疑応答への積極性で評価する。 |
| 授業ごとのレポート | 70 % | ： | 授業内容の理解度と論旨の明確さで評価する。 |
| 期末レポート | 20 % | ： | 課題の理解度と論旨の明確さで評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

毎回の授業内容に関連したものをその都度紹介する（その文献についてレポートを自由に提出しても良い）。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜日昼休み

**場所**：　非常勤講師室

**備考・注意事項：**　質問は koyama_t@osaka-seikei.ac.jp まで。学籍番号、氏名、件名を忘れないこと。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **おカネと商品について**<br>現代の産業社会を支える貨幣・商品・利潤の意味内容について学ぶ | 社会の中で「商品」であるものとないものを区別して調べ、その基準について考える。 | 4時間 |
| 第2回 | **国の「豊かさ」とは**<br>GDPとGNHの違いから国に豊かさについて考える。 | 各国のGNH指標とその根拠について調べる。 | 4時間 |
| 第3回 | **「働く」こと＆「働く人の幸せ」とは**<br>労働とは何かについて学ぶ。 | ブラック企業について何が問題になっているかを調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **公共事業と経済対策**<br>産業社会を支えるインフラの重要性とその整備が経済対策にどうつながるかについて学ぶ。 | 近年の水道管や橋脚などの事故を通してインフラの老朽化問題について調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **「労使協調 」と企業成長**<br>利潤の源泉である労働とそれを司る経営のあるべき関係について日本企業の成長プロセスから見る。 | 有名な日本企業のルーツについて調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **経営理念は必要か**<br>経営理念の有無と企業の持続的発展との関連について学ぶ。 | 有名な日本企業の掲げる経営理念を調べ、それぞれを比較検討する。 | 4時間 |
| 第7回 | **経営理念と経営戦略**<br>経営理念を企業活動へ具体的に落とし込むことが重要であるが、そのために必要となる「戦略」策定について学ぶ。 | 自分のお気に入りの企業の経営理念と戦略の関連について調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **サステナビリティ経営とは**<br>地球環境や様々な利害関係者と調和することが、いかに持続的経営つながるかについて学ぶ。 | 環境負荷を減らすための新製品開発や調達・生産・流通でユニークな取り組みをしている事例を調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **日本製造業の危機は日本の危機？**<br>「メイド・イン・ジャパン」の象徴であった日本家電メーカーの苦境の背景と要因について世界市場を俯瞰しながら学ぶ。 | 有名家電メーカーの主力商品の世界シェアと株価の変遷を調べ、その主要因を考える。 | 4時間 |
| 第10回 | **現代のイノベーション～ジョブズに学ぶ**<br>アップルの創業者であるスティーブ・ジョブズを通じ、現代のイノベーションの特徴と社会文化への影響について、日本企業の製品開発のあり方と比較しつつ学ぶ。 | アップル社の歴史及びジョブズの功罪について調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **企業不祥事はなぜ起こる～ＣＳＲから考える**<br>企業の社会的責任（ＣＳＲ）の観点から、企業不祥事が常に繰り返されてしまう要因について学び、事前事後の対策・対応のあり方まで考えていく。 | 最近の企業不祥事の事例と原因について調べ、取るべき対策を考える。 | 4時間 |
| 第12回 | **クラウドファンディングとは～新しいおカネの流れ**<br>近年、拡大を続けるクラウドファンディングだが、その誕生した背景や主催する企業の目的、またそこに挑戦する起案者や支援者の思いについて学ぶ。 | いくつかの有名なクラウドファンディングサイトでの投資先を調べ、成約に至るいくつかの要因を考える。 | 4時間 |
| 第13回 | **ソーシャルビジネスと社会起業家**<br>行政と一般企業の間で取り残された社会問題にアプローチする社会起業家のソーシャルビジネスについて学ぶ。 | 様々な社会問題に取り組む社会起業家やソーシャルビジネスの事例を調べ、その活動と解決への可能性について考える。 | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツからビジネスへのアプローチ**<br>日本では教育の一環としての「体育」が発展してきたが、「スポーツ」本来の主旨との比較から、その矛盾点について考える。そしてスポーツ活動がビジネス能力の養成＆事業展開に関連していることを学ぶ。 | スポーツ分野で活躍した人材が新たな事業を展開している事例を調べ、その成功要因をスポーツ分野で培われた能力と関連づけて考察する。 | 4時間 |

SP-1024-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **地域福祉とボランティア** | | | | |
| 担当教員名 | **近藤　紀章** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 滋賀県内のNPOでの地域活動の実践と組織経営、大学における学生のボランティア活動支援、社会福祉法人と連携した共生社会づくりの実務経験を講義内容に結びつける。 | | | | |

**授業概要**

・日本における地域社会の抱えるさまざまな課題と地域福祉の理念を理解するとともに、ボランティア活動の意義を理解する。
・生きづらさを抱える人と地域社会との関係にある様々な「障害」、多様な価値観が混在するための「共生社会」について理解を深める。
・先駆的な福祉実践や身近なボランティア活動について映像等を通して学びを深め、自身がかかわれるボランティア活動について検討するとともに実際に活動に参加する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 地域社会の抱える課題と共生社会について、興味関心を深める。 | 自らの興味関心を出発点として、地域社会の抱える課題と共生社会について、意欲的に討議できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 社会に現存する「障害」について、理解を深める。 | 現代社会における障害の意義について、基礎的な知識を体得できる。また、自身の言葉で表現できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | ボランティア体験を通じて、この経験をまとめ、プレゼンすることで、表現力を養う。 | ボランティアを体験した経験を、自身の言葉で他者に表現できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | ボランティア体験を課すことで、調整力や判断力を促すとともに、地域社会の実践現場に携わることができる。 | 自分ができること、やりたいこと、現場から期待されていることを理解した上で、現場の活動に取り組むことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

講義の期間中に、自身で選択したボランティア活動に参加し、その体験をレポートとスピーチをしてもらいます。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 講義における意見交換、グループワークへの参加＆レスポンスシート | ： | ・各講義において、以下の2点を評価し、対象となる講義回を合計し、60%に換算する<br>1）講義への参加意欲・態度<br>「事前課題の準備状況」をふまえて、講義での発言、意見交換、グループワークなどへの「参加意欲」を5段階で評価する。<br>2）レスポンスシート<br>講義中に示した設問に対応して回答しているかどうか（設問要求）をふまえて、自身の意見や考え等をきちんと述べられているかを5段階で評価する。 |
| 60　% | | |
| ボランティア体験に関するレポート＆スピーチ | ： | ・ボランティア体験の概要及び体験の意義や自身の考えを他者にわかりやすく伝える資料、口述となっているか。ボランティア体験への参加（準備も含める）、発表資料と内容、他者評価をもとに、5段階で評価する。 |
| 40　% | | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・玉木幸則（2020）トコトン生きるための15問,解放出版社
・水流源彦,岡部浩之,丹羽彩文,下里晴朗,片岡保憲（2022）僕らはいつも旅の途中:共生社会の未来をひらく5人の実践者たち,中央法規出版

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本務校の用務、交通および社会状況によって、急なオンラインでの実施や映像視聴による振り替え、ボランティア体験を中止等、シラバスの内容変更もあり得るので、Teamsでの連絡を確認すること。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。基本的に講義資料は事前配布しない。講義終了後に配布する。そのため、講義終了後に資料をもとに、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。
・受講生からの個別連絡には原則、対応しない。欠席は、公欠届等、大学規定に基づいた届出にのみ対応する。この場合、録画の視聴と課題の提出をもって評価する。ただし、個人の発表、グループでの作業等が含まれる場合は減点となる。
・出欠、課題の提出、成績照会に対しては、原則対面でのみ受け付ける。個別の問い合わせ、特にメールやTeamsのチャットでは応答しない。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　授業実施教室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション・地域社会について考える①**<br>・講義受講についての説明<br>・講師の活動紹介<br>・自分にとっての地域をふりかえる | 地域社会、社会福祉、障害、共生社会など、言葉の使われ方とその意味を調べる | 4時間 |
| 第2回 | **地域社会について考える②　地域社会をとりまく課題**<br>・少子高齢化社会がもたらす社会課題について、グループディスカッションする<br>・ビデオ視聴（映像23「限界ニュータウンと言われても～地域自治を生きる人々～」） | 自身が暮らす地域や社会が抱える課題について調べる | 4時間 |
| 第3回 | **地域を支える市民活動①　NPOとは何か？**<br>・ＮＰＯの意味と歴史<br>・活動の目的から非営利の意味を考える<br>・企業活動、行政と税から考える<br>・ボランティア活動にむけて事前準備をする | 自身が取り組みたいボランティア活動について考え、参加の方法を調べる | 4時間 |
| 第4回 | **地域を支える市民活動② ボランティア活動**<br>・ボランティア活動を理解する-その歴史と現況。<br>・ボランティアの概念や意義、多様なボランティア活動について理解する。ボランティア活動の実践に向けて、グループワークを行う。 | 自身が取り組みたいボランティア活動について、活動内容をまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **地域を支える社会福祉①　人権と地域福祉**<br>・日本における人権について、法や条例の条文から理解する。<br>・地域福祉を理解する-地域とは何か。福祉とは何か。<br>・地域福祉の概念、歴史などを理解する。 | ・糸賀一雄氏の言葉について調べる　・ボランティア活動への参加準備と調整 | 4時間 |
| 第6回 | **地域を支える社会福祉②　滋賀の障害福祉**<br>・障害者のへの支援に留まらず、共生社会を実現しようとした滋賀の障害福祉を理解する。<br>ビデオ視聴「この子らを世の光に」(NHKビデオアーカイブから) | ・人権、地域福祉について復習するとともに、糸賀一雄氏とともに滋賀の障害福祉に取り組んだ先人について調べる　・ボランティア活動への参加準備と調整 | 4時間 |
| 第7回 | **地域を支える社会福祉③　障害を理解する**<br>・障害の概念、日本における障害者観の変遷について理解する。現在の障害の定義(ICF国際生活機能分類)について理解する。 | ・現実の社会や生活にある「障害」について調べる　・ボランティア活動への参加準備と調整 | 4時間 |
| 第8回 | **共生社会について考える①　資本主義とどのようにつきあうか？**<br>・スポーツと資本主義の関係性について、賭博を用いたスポーツ振興のありかたをもとにグループディスカッションする。 | ・自分の興味関心のあるスポーツ振興とその財源について調べる　・ボランティア活動への参加 | 4時間 |
| 第9回 | **共生社会について考える②　生活困窮者支援について**<br>・賭博のもたらす負の外部性をどう評価するのかについてグループディスカッションする。<br>・ビデオ視聴　NHK ETV特集「生きていればきっと笑える時が来る～牧師・奥田知志」 | ・大阪万博、IRについて調べる　・ボランティア活動への参加 | 4時間 |
| 第10回 | **共生社会について考える③　縮小する日本とグローバル化**<br>・スポーツから日本、日本人という枠組みについて、グループディスカッションする。<br>・ビデオ視聴　アナザーストーリーズ 運命の分岐点「オシムの涙 ～W杯サッカー 知られざる闘い～」 | ・自分の興味関心のあるスポーツ分野におけるグローバル化を調べる　・ボランティア活動への参加 | 4時間 |
| 第11回 | **ボランティア体験を語る(準備)** | ボランティアへの参加体験についてプレゼンする資料をまとめる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・プレゼンテーションの基本を学ぶ<br>・ボランティア活動の体験を1人5分程度でスピーチを行うため、その準備および発表練習を行う | | |
| 第12回 | **ボランティア体験を語る①**<br><br>ボランティア体験のスピーチに対して、質疑応答や他者の活動評価を行うことを通して、ボランティア活動の意義を再発見する | ・体験のプレゼン資料をまとめる　・他者からのフィードバックをもとに、プレゼンの改善点を考える | 4時間 |
| 第13回 | **ボランティア体験を語る②**<br><br>ボランティア体験のスピーチに対して、質疑応答や他者の活動評価を行うことを通して、ボランティア活動の意義を再発見する | ・体験のプレゼン資料をまとめる　・他者からのフィードバックをもとに、プレゼンの改善点を考える | 4時間 |
| 第14回 | **まとめとふりかえり**<br><br>これまでの講義のまとめと振り返りをおこなう | 講義全体を振り返るためにこれまでの講義内容の復習する | 4時間 |

SP-1027-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **滋賀の歴史と文化** | | | | |
| 担当教員名 | **上田　洋平** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

滋賀（近江）は日本の縮図とも言われ、ヒト・モノ・情報・経済流通のむすびめとして、日本の歴史・文化史上とくに重要な位置を占めてきた。いっぽう、滋賀に暮らす人びとは常に時代の変化にさらされながらも、「里山」「人里」「里湖」「里島」それぞれの風土に根差した持続可能な生活文化を育み実践してきた。本授業では自然・人間・歴史のダイナミックな相互作用のなかで鍛え上げられた近江の暮らしや文化、そして近江の各地で胎動する人とその事業に例を求めながら、地域に根差した持続可能なくらしの再構築や共生社会創造に応用できる知見や方法を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 滋賀県という具体的な地域に関する知識と実践 | 滋賀県という具合的な地域のいとなみをケーススタディとして、各自の地元あるいは関係している地域の課題解決に資する知識と情報を獲得するとともに、それを活かして、課題解決に主体的に関わろうとする意識を持つことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業ごとの小レポート | 60 % | ： | 授業および配信資料に対する取り組み状況を総合的に評価する。 |
| 期末レポート | 40 % | ： | 講義終了後に授業内容に関する授業外課題（小レポート）を課す（60%）。最終授業において、授業全体の理解度を確認する総括レポートを課す(40%)。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内において適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学習が求められる（計60時間）。「授業外課題」に取り組むことに加え、毎回の復習と予習を行うこと。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　教室

**備考・注意事項**：　授業に関する質問等は、原則授業内か授業の前後に受け付ける。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション・滋賀はどんなところか**<br>授業の進め方、地域学（社会文化生態力学）の視座、評価方法などを説明するとともに、さまざまな観点から滋賀のイメージを共有する | シラバスを確認し、自らの受講動機、地域の風土と自らのかかわりについて考えを整理しておくこと | 4時間 |
| 第2回 | **基本的な概念の学習①**<br>「文化」「環境」「歴史」など、基本的な概念について解説する① | 文化や環境、歴史といった用語について、自分なりの考えをまとめておくこと | 4時間 |
| 第3回 | **基本的な概念の学習②**<br>「文化」「環境」「歴史」など、基本的な概念について解説する② | 文化や環境、歴史といった用語について、自分なりの考えをまとめておくこと | 4時間 |
| 第4回 | **近江小宇宙論①**<br>社会文化生態力学から見た滋賀について学ぶ① | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第5回 | **近江小宇宙論②**<br>社会文化生態力学から見た滋賀について学ぶ② | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第6回 | **里湖・里川のくらしと文化①**<br>里湖・里川のくらしと文化について解説する① | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第7回 | **里湖・里川のくらしと文化②**<br>里湖・里川のくらしと文化について解説する② | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第8回 | **人里のくらしと文化①**<br>村落共同体・人里のくらしと文化について解説する① | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第9回 | **人里のくらしと文化②**<br>村落共同体・人里のくらしと文化について解説する② | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第10回 | **里山のくらしと文化①**<br>里山のくらしと文化について解説する① | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| | 里山のくらしと文化について解説する② | | |
| 第12回 | **滋賀のカルチャークリエイティブ①**<br>地域に根差した新しい文化の創造に取り組む人びと(農林漁業）について紹介する | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第13回 | **滋賀のカルチャークリエイティブ②**<br>地域に根ざした新しい文化の創造に取り組む人びと（文化観光）について紹介する | 事前に紹介する事例について調べておくこと | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ　風土に根ざしたゆるがぬくらしを近江から**<br>これまでの講義を踏まえて、風土に根ざした持続可能なくらしの創造について考察する | これまでの授業をもとに、地域の自然・歴史・文化と各自のくらしとのかかわりについて意見を表明できるようにしておくこと | 4時間 |

SP-1029-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **多文化共生社会** | | | | |
| 担当教員名 | **清水克彦** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 在京放送局でベルリン支局勤務のほか米国留学。報道番組プロデューサーとして米大統領選、韓国大統領選、台湾総統選等を取材。東アジアに関する著書も多く、政治や安全保障の面からも多文化共生社会の構築にアプローチする。 | | | | |

**授業概要**

日本を取り巻く国際情勢は刻々と変化しています。この演習では、まず日本と関係が深いアジア諸国との関係を概観しながら、韓国、中国、台湾、アメリカ、北朝鮮の政治システム、文化を理解し、それが日本にどのような影響を与えているのか（与えようとしているのか）を学び、解決策を考えます。
その背景には歴史があり、それぞれの文化があります。今後、日本は労働人口減少で外国人との共生、協働が必須となるほか、異なる価値観を認め合いながら生きることが不可欠になります。担当教員は、長く国際情勢を取材してきたジャーナリストです。「歴史」を紐解き、「今」を理解しないまま、多文化共生を語っても意味がありません。一緒に学びましょう。授業では、「はみがきよし」（話す、見る、書く、聞く、読む、調べる）の６要素を採り入れながら、思考力と表現力の向上も目指します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 激動する国際社会への理解を深める | 国際情勢に関して自身の意見を記述できるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・その他(以下に概要を記述)
その都度、全体の傾向をコメントする

**成績評価**

**注意事項等**

私語は禁止、パソコン、スマホ、飲み物の持ち込みは可。授業に集中して取り組むこと。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業の参加姿勢 | 50 % | ： | 世の中の動きについてきちんと意見を言うことができる |
| 中間レポート・課題レポート | 50 % | ： | 論理的な文章が書けるようになる |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 清水克彦 | ・日本有事 | ・集英社インターナショナル | ・2022 年 |

**参考文献等**

『コンビニ外国人』（芹澤健介著、新潮新書）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、授業外学修が求められる。日頃からニュース番組（ＮＨＫでも民放でも）を１つは見る習慣をつける。韓国ドラマや中国ドラマ、アメリカのホームドラマなども好きな人は見ておくと良い。
教科書や参考文献を指定したのは、活字に触れてほしいから。『日本有事』では日本を取り巻く東アジア情勢や米中の思惑が理解でき、『コンビニ外国人』では、外国人労働者との共生がよくわかる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業後

**場所**：　教室

**備考・注意事項**：　質問は授業内か授業後に遠慮なく。

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション～少子化がもたらす日本への影響有**<br>外国人労働者は２０２４年に過去最多の２３０万人を超え、２０７０年には日本の人口の１０％が外国人になるとの試算がある。少子化で外国人労働者に頼るしかない現状やどんな課題があるのかを学ぶ | 少子化の影響について自分なりに考えておく | 4時間 |
| 第2回 | **多文化共生社会の到来～なぜ外国人は増えたのか**<br>なぜ外国人は増えたのか受け入れ施策を振り返り、共存共栄できる方向性を考える<br>ワークショップ　外国人労働者とどのように向き合うべきか？ | 外国人との共生について意見をまとめておく | 4時間 |
| 第3回 | **激動する東アジア～日韓関係（対立から未来志向へ）**<br>尹政権で大きく変化した日韓関係（対立から未来志向へ）と山積みされたままの課題、尹大統領弾劾に伴い予定される韓国大統領選挙と日韓関係の行方など<br>ワークショップ　日韓関係をさらに友好にするには？ | 日韓関係の現状と過去を理解しておく | 4時間 |
| 第4回 | **激動する東アジア～日中関係（大国化する中国と日中関係）**<br>中国・習近平体制の政治システムと低迷する中国経済の現状を知る。中国は経済立て直しの観点から日本への接近を試みており、年々変化する日中関係について学ぶ | 中国の政治システムについて理解しておく | 4時間 |
| 第5回 | **激動する東アジア～日台関係（日本のことが大好きな半導体王国）**<br>台湾建国の歴史、２大政党による政治システム、台湾の産業、日台関係の過去と現在、そして近未来について把握する | 日本を大好きな国に挙げる台湾の現状を把握する | 4時間 |
| 第6回 | **激動する東アジア～日朝関係（金王朝の政治システムと軍事強国）**<br>北朝鮮の金王朝３代と日朝関係、拉致問題について学ぶ。金正恩朝鮮労働党総書記は核開発と核弾頭の小型化に力を入れている。その狙いなどを知る | 朝鮮半島情勢について理解する | 4時間 |
| 第7回 | **激動する東アジア～日ロ関係（中国、北朝鮮と連携を強化するロシア）**<br>ソビエト崩壊からロシアに代わり、プーチン体制の現状、ウクライナとの戦争など、ロシアが直面している問題について学ぶ | 日ロ関係の今後を理解しておく | 4時間 |
| 第8回 | **激動する東アジア～台湾有事（中国とアメリカはどう動くのか）**<br>台湾有事の際、日本やアメリカはどう動くのか、日本はどんな形で巻き込まれるのpかを理解する。併せて、台湾有事に備えた日本の防衛費増額に関しても理解しておく<br>ワークショップ　沖縄の住民をどう守るべきか？ | 教科書『日本有事』を読んでおく | 4時間 |
| 第9回 | **討論～日本の外国人受け入れに賛成？反対？防衛費増額に賛成？反対？**<br>これまでに学習した日本の外国人受け入れ問題と防衛費増額問題を徹底討論<br>ディベート　外国人受け入れに賛成ですか？反対ですか？<br>防衛費増額に賛成ですか？反対ですか？ | ディベートのコツを把握する | 4時間 |
| 第10回 | **中間レポート**<br>指定した教科書『日本有事』（集英社インターナショナル新書）から出題。教科書の持ち込み可。<br>日本を取り巻く東アジア情勢について理解を深めることを目的とする | 教科書『日本有事』を読んでおく | 4時間 |
| 第11回 | **トランプ大統領のアメリカと日本**<br>２０２５年１月に発足の第２次トランプ政権の強さと弱さ。アメリカの動きは、日本に大きな影響をもたらすため、日本はいかにアメリカと付き合うべきかを考える | トランプ政権が何をやってきたかを復習しておく | 4時間 |
| 第12回 | **多文化共生～インバウンドの光と影** | 外国人観光客に関するニュースをチェックしておく | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | インバウンド急増の背景とオーバーツーリズムの課題に関して学ぶ<br><br>ワークショップ　京都のインバウンド混雑を緩和するには？ | | |
| 第13回 | **多文化共生～国別の文化、慣習の違い**<br><br>訪日する外国人労働者には国ごとに文化や習慣が異なる。たとえばフィリピン人とインド人とでは何が違うのか、中国人とベトナム人とではどこが違うのか、国民性を理解しながら私たちはどう接すればいいのかを学ぶ | 参考書『コンビニ外国人』を読んでおくと望ましい | 4時間 |
| 第14回 | **課題レポート**<br><br>課題レポート<br>日本は、アメリカ、中国、韓国、北朝鮮、ロシア、ASEAN諸国等から影響を受けている。その内容も年々変化している。その実態と、少子化に伴い外国人労働者の数が過去最多となる中、どう共存共栄を図っていくのかを記述できるようにする | 第12回と13回の授業で課題を示すのでレポートが作成できるよう準備しておく | 4時間 |

SP-1030-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **琵琶湖の環境と科学** | | | | |
| 担当教員名 | **戸田　孝** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 滋賀県立琵琶湖博物館の学芸員を30年間務め、様々な専門分野の同僚と議論しながら、琵琶湖地域に関する多様な学術的知見を広く一般の人々を対象に伝え続けてきた。 | | | | |

**授業概要**

本学が立地する琵琶湖地域には、古くから人々が住み、豊かな自然と密接につながった生活が営まれてきました。この琵琶湖地域の自然環境はどのようなものであるのか、どのような探究活動によって理解することができるのか、私たちの生活や社会のありかたにどのように関わるのかということを、具体的な事例を挙げながら概説します。そしてそれを通して、自然環境に限らず、私たちを取り巻く様々な環境条件と関わっていくうえでの具体的な考え方を学びます。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 滋賀県という具体的な地域に関する知識と考え方 | 結論を知識として丸暗記するのではなく、どのような探究によってその結論が得られるのかを理解する |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・その他(以下に概要を記述)

基本的に教室内での講義によって進行する。
講義では事実の提示だけでなく、どのような探究活動によってその事実が知られるに至ったかを解説する。
講義中には可能な限り出席者への問いかけを行い、話題となっている事実についての考察を促す。
事実関係の理解に必要と認められる場合には、作画などの机上作業を実施させる場合もある。
各講義の終了後には小レポートの提出を求めることを通して、話題となっている事実に関する自分なりの考察を深めることを促す。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

各講義において、前回講義での小レポートの傾向や特筆するべき考察例についてコメントする場合がある。

**成績評価**

**注意事項等**

各講義の終了時に5～10分程度の時間をとって小レポートをまとめることを求める。小レポートの提出をもって出席確認とし、授業への参加度の目安とする。全日程終了時の総括レポートは必須とし、提出しない者は履修放棄として扱う。総括レポートの課題の概要は最初の授業で説明し、詳細は定期試験日程公表の時期に提示する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各講義の終了後に課す小レポート | | ： 講義内容を出発点として自分なりの考えを展開できているかどうかを評価する。事実関係の当否よりも考えを論理的に表現できているかどうかを重視する。 |
| | 60 % | |
| 全日程終了時に全体理解度を確認する総括レポート | | ： 提示した課題に基づいて各々選択したテーマについて論じることを求める。論理展開の要領の概略は指示するが、自分なりの考えで深く考察できているかどうかを重視する。 |
| | 40 % | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「びわ湖を語る50章」サンライズ出版 ISBN4-88325-092-X
「びわ湖から学ぶ」大学教育出版 ISBN4-88730-310-6
「びわ湖を考える」新草出版 ISBN4-915652-17-3
「生命の湖琵琶湖をさぐる」文一総合出版 ISBN978-4-8299-1191-4
宗宮功「琵琶湖その環境と水質形成」技報堂出版 ISBN 4-7655-3170-8
岡本巌「びわこ調査ノート」人文書院 ISBN4-409-24036-6
「びわ湖ハンドブック」滋賀県

**履修上の注意・備考・メッセージ**

なし

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業前後

**場所**： 授業の教室

**備考・注意事項**： 状況に応じて別の場所またはメール連絡先などを指定する場合がある

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **琵琶湖地域の「器」としての特徴**<br>琵琶湖地域の「器」としての特徴　琵琶湖地域の地形的特徴について、社会的政治的あるいは歴史的背景にも触れながら概説する。 | 小学校社会科から高等学校地歴科に至る流れを思い起こし、滋賀県や琵琶湖地域についての知見を再整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第2回 | **琵琶湖という「器」が作られた経緯**<br>琵琶湖地域の地形的特徴が地質学的な歴史の中でどのように形作られれてきたかを概説する。 | 琵琶湖地域の地質的時間スケールでの歴史的経緯についてよく知られている知見について整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第3回 | **琵琶湖地域の気象**<br>琵琶湖地域で見られる特徴的な気象現象について概説するとともに、それが生活文化にどのように影響しているかにも触れる。 | 身近な気象現象について思い起こし、どのような現象があるかを整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第4回 | **琵琶湖の水収支と水位**<br>琵琶湖の水はどのように入ってきてどのように出て行くのか、それには自然条件や人為的操作がどのように関わっているのかを概説する。 | 流入流出河川や水位操作の設備など、琵琶湖の水収支に関わりがあると考えられる地理的条件について整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第5回 | **琵琶湖の水質**<br>琵琶湖の水質がどのような条件で定まり、どのように管理されているのかを、他の湖とも比較しながら論じる。 | 琵琶湖の水質に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第6回 | **湖水の鉛直循環**<br>「深呼吸」と呼ばれる年周期のものを始めとする琵琶湖水の鉛直循環が、どのような原理で起こりどのような影響を及ぼすのかを概説する。 | 「水」という物質の性質（気化と凝結、凍結（凝固）、温度による密度変化など）について、小中学校理科レベルの知見を再確認しておくこと。 | 4時間 |
| 第7回 | **湖水の水平流動**<br>「環流」と呼ばれる琵琶湖北湖全体を巡る大きな循環流を始めとする琵琶湖の水平流動について概観する。 | 琵琶湖盆という「器」の形状についてのイメージをつかんでおくこと。 | 4時間 |
| 第8回 | **琵琶湖の生物環境**<br>琵琶湖および集水域に棲む生き物について概観し、どのような環境条件の中で生息しているかを概説する。 | 琵琶湖に棲む生物に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第9回 | **琵琶湖の生物多様性**<br>生物環境を論じるうえで重要となる「多様性」の問題について、主に琵琶湖での事例を挙げて概説する。 | 「生物多様性」という話題に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第10回 | **琵琶湖における生物利用**<br>漁業を始めとする琵琶湖での生物利用について概説する。 | 琵琶湖地域（滋賀県）における農林水産業の実態に関する情報を調べておくこと。 | 4時間 |
| 第11回 | **琵琶湖や淀川水系の治水と利水**<br>水位や流量などの琵琶湖の環境条件が治水や利水という立場でどのように管理されているかを概説する。 | 琵琶湖淀川水系や国内外の他の水域の治水や利水に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第12回 | **琵琶湖の自然環境が人間社会に及ぼす影響**<br>一連の講義で見てきた琵琶湖の自然環境条件が、現在の人間社会あるいは過去の人間の歴史にどのような影響を与えてきたかを概説する。 | 琵琶湖地域（滋賀県）を舞台とする歴史的事件や社会問題に関する情報を整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第13回 | **トピック：琵琶湖に「津波」や「潮汐」はあるか**<br>琵琶湖の自然環境について科学原理から論理的に考えていく実例として津波と潮汐の問題をとりあげて論じる。 | 「津波」「潮汐」をはじめとする湖沼や海洋における大きな水の動きに関して広く調べておくこと。 | 4時間 |
| 第14回 | **「環境問題」にどう取り組むか** | 「環境問題」という話題に関して、今までに見聞きした情報にはどのようなものがあったかを整理しておくこと。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 講義全体のまとめとして「環境問題」というものについて考える。 | | |

SP-1031-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **陶芸と地域伝統文化** | | | | |
| 担当教員名 | **橘　功一郎** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義と実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

「個性」や「多様性」、「自由」といった言葉が時代を追うごとに多く語られる現代
その意味や理由はまず自分自身を深く知り、理解しながら他者と関わることで初めて見えてくるものかも知れません。

本科目では、日本文化芸術の一端を担う「陶芸＝やきもの」を基に
現在につながる伝統や文化の歴史背景を知り、芸術に触れ実際に創作活動を進めて行く中で
「自分自身がどう捉え、いかに関わるのか」をそれぞれに実現して頂く事を目標としています。

以上を半期１４回で一定の成果として達成するため、以下２つのカリキュラムで進めます。

１つは「実習」。
数ある素材の中で最も早く、簡単に形を作る事ができる「粘土」
こちらをを使って立体や器を制作し、造形による表現やコミュニケーションの楽しさ奥深さを知って頂きます。

もう１つは「座学」。こちらは幾つかの目的があり
・陶芸の歴史や日本文化、伝統と伝承の違い等を講義にて学び、
今の自分と照らし合わせて、改めて自身を顧みる機会として頂く。
・実習に向け、捉え方や考え方、制作手順を前もって分かりやすく見える形にした導入を行います。
・その他、現代芸術などの紹介。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 「周囲と調和をはかる方法」や「目前の課題に対する向き合い方」等に対する多彩な角度、考え方を提示します。<br>選択肢を増やし、選べる自由をできる限り提示します。 | 例えば<br>出来上がった作品や回答が「根拠の無い一般論」の様なものにならないための工夫と<br>作品については「今の自分を活かした納得できる結果」にするため、プロセスを愉しめるように努めます。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 「自由」とされる芸術ですが、実際は素材や技法により物理的な制約や不可能がついて回ります。<br>捉え方や創意工夫で自由に変えていく現実要素も知って頂きます。 | 制作実習の中で<br>技法をを理解し体得することで目標の達成となりますが<br>独自の捉え方や自分の特性に合わせた表現も大いに対象となります。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：滋賀県立陶芸の森（予定））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・見学、フィールドワーク

去年度の履修で見つかった変更改革の余地は、可能な限り今年度でも取り入れ試していきたいと思います。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

作品やイメージを言語化する機会を文字でも会話でも、」できるだけ設けていきます。
一連の授業を通して可能な限りコミュニケーションをとるために、各時間で工夫やその時間を設けたい。

**成績評価**

**注意事項等**

実習作品の達成度と期末レポート＋授業等の向き合い方を鑑みて評価する。
全体の比率（下記成績評価の割合）に加え、当人の思考、向き合い方を重視する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---|---|
| 実習作品 | ：　「当人なりの思考や工夫が反映されているか、課題に向き合えているか」等基準を設定して照らし |

合わせます。履修中の発言やデザイン計画書類における文字・表現によるコミュニケーション度合なども総合的に対象とする

35 %

期末レポート : 課題の理解とそれに対する思考・意見を簡潔にまとめプレゼンできているか。こちらも表現とコミュニケーション要素を重視します。

35 %

本科目に対する積極性・課題に向き合おうとする熱意 : 履修生それぞれがその限られた時間を振り分けるなか、純粋に結果だけで評価をするのではなく結果に繋がらずとも努力を行う積極性もその段階として公正に評価すべきと去年度を終了して感じました。

30 %

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「日本のやきもの史」監修/矢部良明（芸術出版社1998年）
「近江やきものがたり」編集者/滋賀県陶芸の森（京都新聞出版センター2007年）
その他「陶芸の森」や美術館学芸員・各窯元に直接確認して情報を精査します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

●教材費（実習７回分の材料、焼成費として合計7,000円程度必要）

●教材費の内訳（陶芸の森連携抹茶碗制作費：2,300円　陶芸の森連携立体制作費：1,700円　器制作費：1,300円　最終自由制作費：1.300円）以上にプラス材料費(本年度は粘土と釉薬)

●「目標到達のため、陶芸を通した文化の理解と当人の表現・コミュニケーション力に比重を置く」

●「授業外学習」は大学の求める分量を必要とする。予習の方法、方向性等は授業終了ごとにアドバイスする。」

●授業の性質上、対話やインターネット使用した検索などを行いますが「あくまで授業必要分のみ」としておりますので十分に注意してください。

●「準備・片付け・清掃」は各個人で確実に行っていただきます。全てに関わり、最終評価の対象にも充分なりうる重要な項目として率先参加と助け合いをお願いします。

●プロの陶芸家と関わる制作が好評につき、今年も立体、抹茶碗ともに陶芸の森に連携依頼予定です。終了後に履修生との関わり内容をフィードバックしておきます。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業前後

**場所**： 授業実施教室

**備考・注意事項**： その他必要性があれば教務課に開示されるメール にて対応

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **講義内容の説明とやきものについて　講義**<br><br>①　全14回の内容説明と本科目の根幹、履修生に求めるもの等の概要説明。<br>②「陶芸＝やきもの」について実質的な側面の講義。「やきものとは」<br>③　実習における教室内での手順と注意事項等の指導<br>④　次回制作物（立体）の概要講義と導入説明<br>⑤　次回制作に向けた制作要領の講義　デザインイメージスケッチ | 立体制作についての復習・予習(制作物を調べ形態の工夫を考える等) | 4時間 |
| 第2回 | **粘土による立体造形制作（陶芸の森連携予定）　実習**<br><br>●陶芸の森派遣のプロ陶芸家も参加による個別対応にて「協力型の制作」を行い全員完成を目指す。（時間内で終了）<br>●感想や意見を文章化してデザイン用紙に記入提出<br>●全て完了すれば終了、退出可 | 第２回立体制作に対する感想や何を考えどう表現したか等の文章化 | 4時間 |
| 第3回 | **日本の陶磁器の歴史と移り変わり（①）** | 第3回講義で学んだことの復習と次回の制作に対する形やパターンの考案をしておく | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ① 陶磁器の歴史(古代から中世まで)についての講義<br>※ 古代から自然に起こる造形や装飾に対する見解等の討議も可能か<br><br>② 要約・次回への繋ぎ<br><br>③ 印華(ハンコ) による装飾への導入～デザインスケッチ<br><br>④ 準備完了後印華(ハンコ)を制作。サインと仕分けをきっちり完了後<br>片付け清掃。完了すれば退出可 | | |
| 第4回 | **印華(ハンコ)による装飾 実習**<br><br>●講師は前回履修生が制作した印華(ハンコ)を一週間で乾燥、焼成を行い<br>使用できる準備をしておく。<br><br>●ハンコを使って装飾を行うお皿の制作<br>時間内で終了、全員完成まで。<br><br>●片付け終了後、その場で「今回の制作に対し感じたこと等」を<br>デザイン用紙に記入して提出、完了次第随時退出可。 | 陶磁器の歴史を予習する | 4時間 |
| 第5回 | **日本の陶磁器の歴史と移り変わり（②）～茶道を知り、茶碗を制作するための講義**<br><br>① 陶磁器の歴史(中世から近代まで)についての講義<br><br>② 要約・次回への繋ぎ<br>※ 日本独自文化としての茶道、その在り方や茶道に対する感じ方の討議も可能か<br><br>● 茶道の背景と作法の流れを知り、次回の茶碗制作への導入<br><br>① 茶道の概要を学び、次回茶碗制作のポイントを考える（制作→高台削り→絵付けデザイン→絵付け）<br><br>② 茶碗の形、見どころ、使うために必要な要素の講義<br><br>③ 絵付けの意味と描くにあたってのポイント解説<br><br>④ 次回制作に向けた制作要領講義 デザインイメージスケッチ<br><br>※ 高台削りに対して必要なポイントと難易度失敗例の解説も行う | 第５回講義の復習と茶碗制作に向けた考察をしておく | 4時間 |
| 第6回 | **抹茶碗制作（陶芸の森連携予定） 実習**<br><br>●茶碗の制作。第２回と同様、個別対応で協力型完成を目指す。<br>サインと仕分けをきっちり完了後片付け清掃、<br><br>●デザイン用紙に感想や意見などを記入・提出<br><br>●完了すれば退出可<br>※次回の高台削りはかなり難しく失敗の確率も高いので、高台削り要領の動画は<br>いつでも閲覧できるようにしておく。 | この後続く高台削りへの考察、絵付けに向けた考察を行う | 4時間 |
| 第7回 | **高台削り 実習**<br><br>●前回履修生が制作した茶碗を預かり1週間かけて乾燥度合いを調節管理し<br>その後、高台削りの目安線を入れたものを用意しておく。(講師)<br><br>●それぞれの準備が完了次第高台削り作業。<br><br>●講師は常時注意確認し、状況により失敗したものの修理を<br>できる限り行う。<br><br>●デザイン用紙に感想・意見記入提出<br><br>●作業完了後、自主的に片付けと清掃を十分に行い順次退出可 | 「使用する・使えること」を前提としつつ芸術的作品として制作して感じたことのレポートをしておく | 4時間 |
| 第8回 | **絵付けを学ぶ（講義とデザイン考案） 講義**<br><br>※ 絵具は高価かつ服に付くと落ちないものなので注意する。<br><br>① 絵や柄などを学び、次回の絵柄を考える。<br><br>※ 作法上のポイント、絵や柄の意味と立体に描くポイント、絵具の概要と特性、<br>実際に筆で描く為の注意点、筆の使い方と効果の利用など<br><br>② デザインスケッチの実施。 | 第８回で学んだことの復習と必要に応じ絵付けの事前準備をしておく | 4時間 |
| 第9回 | **絵付け 実習** | 茶碗制作工程、一連の中で感じたことをまとめておく | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ●茶碗に絵付け、完成を目指す<br><br>絵具は高価かつ服に付くと落ちないものなので注意する。<br><br>●完成までに失敗した所のリカバーや更に良くするためのアドバイスを行う。<br><br>●完成後は自主的に片付けと清掃を十分に行う。<br><br>●その後記入用紙に「実際に制作してみての感想など」を記入提出。 | | |
| 第10回 | **現代の陶芸　講義**<br><br>①　現代の陶芸について学習します。<br><br>　現代に生きる陶芸家数人の生い立ちやバックグラウンドを紹介し<br>　伝統や伝承の意味を考える機会とする。<br>　その他現代陶芸作家(信楽在住含めて)の画像による作品紹介。<br><br>②　次回の自由制作に向けてのデザインスケッチを行い、完成後提出の後退出可。<br>　(次回に向けてそれぞれに合わせた道具の準備と制作技法の検討アドバイスをするため) | 次回の自由制作に向けて自分の参考要素等調べておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **自由制作　実習**<br><br>今までの制作経験と知識、感覚を使ってそれぞれのデザインした作品の制作を行う。<br>この時間で完成まで。<br>必要とする者にはアドバイスや協力も可とする。 | 今までの集大成として自由に表現制作した成果や感想、課題などをまとめておく | 4時間 |
| 第12回 | **陶芸の地域における伝統や文化背景の違い**<br><br>●「陶芸」は、世界だけではなく日本国内においても<br>地域によって素材製法・文化的背景に違いや特色があります。<br><br>●本講義ではそれぞれを紹介するとともに、日本と世界の特色や違いを知って頂きます。<br><br>※可能であれば完成した茶碗の紹介、製作者のコメントや使い方など<br>振り返りや今後の可能性を見出せる時間も取りたいと思います。 | 最終の第14回「総評」に向けて今までの振り返りと自分の意見をまとめておく | 4時間 |
| 第13回 | **美術館に行こう　講義**<br><br>①　年々変化し続ける現行の時代の中で、美術館や博物館といった施設の役割や存在意義もその時代に合わせて変化しています。<br>　芸術を取り入れる手段・可能性の一つとして、楽しめる要素や気軽に行ける要素を加えつつ、近隣の美術館を幾つか紹介致します。<br><br>　※今期の課題発表。<br><br>②　時間があり、かつ前半の作品焼成が完了している場合は<br>　次回の合評に向けて一人ずつ、順番に自分の作品に対するコメントを行う。<br>　※講師はそれぞれの評価の一部として聞きます。 | 課題に向けて調べてみる・次回のコメントの準備 | 4時間 |
| 第14回 | **総評**<br><br>●全13回を通して結果報告、評価<br><br>●陶芸以外のアーティストや文化の紹介<br><br>●今までの授業から必要と判断したものの掘り下げ<br><br>●質疑応答その他、課題の概要説明 | 課題の提出に向けての作業を行う。 | 4時間 |

SP-1032-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | キャリアデザインⅠ（自己理解とキャリアプランニング） | | | | |
| 担当教員名 | 清水克彦 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 在京放送局で報道番組を担当するかたわら就活（インターンシップ、採用面接）担当、他大学でも就活講座を開催。採用する側の視点を活用してキャリア形成のために必要な考え方を伝える | | | | |

**授業概要**

キャリアデザインとは、世の中の動きを知ることから始まります。そのうえで「自分はどういう人間なのか」「何が得意（好き）なのか」を把握し、これからの生き方や働き方について考えることがスタートラインになります。担当教員は、在京放送局でキャスターや報道ワイド番組のチーフプロデューサーを務めてきたので、授業の最初に大事な時事問題を概説したうえで、キャリアデザインに関する講義を行います。
１年生の皆さんには、来る就職活動や社会人生活に備え、社会構造の変化を知り自分を知る、そして漠然とではあっても将来像が描けるような授業にしていきたいと思っています。講義前半では、皆さんのこれからの暮らしに関わる時事問題も解説していきますし、論理的な文章の書き方も随時教えるので、積極的な参加を希望します。楽しみながら学んでいきましょう！

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 時事問題を解説 | 世の中の仕組みや変化に明るくなる |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自己分析得 | 自分を客観的に見つめることができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | グループワークやプレゼンテーションに慣れる | 思考力と表現力が身につく |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング、検索）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業への積極的な姿勢＋課題レポート、発表を総合的に勘案する
教室の後方、左右の壁際のブロックには座らないこと。
私語は禁止、パソコン、スマホ、飲み物の持ち込みは可。ノートを持参し、授業に集中して取り組むこと。

シラバスで示した授業内容は世の中の動き次第で若干変更することがある。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業への参加度、姿勢 | 20 % | ： | 全授業を通じて参加意識が高く積極的な発言ができる |
| リテラシー習熟度 | 20 % | ： | 社会人になる前に問われる言語と非言語能力が身につく |
| 課題レポート | 60 % | ： | 中間と期末に課題を課すので、内容を理解し自分の意見を論理的にまとめることができる |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 清水克彦 | ・知って得する、すごい法則７７ | ・中公新書ラクレ | ・2025　年 |

**参考文献等**

なし　※必要な場合に指示する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、一定の授業外学修が求められる。ただ、他科目や部活動にかかる時間を勘案し、特に予習時間は設けないが自習はしてほしい。まだ将来像が描けていない学生も多いとは思うが、自分の人生がかかっているととらえ、授業に集中して取り組んでほしい。なお、授業で扱う時事問題は最新のニュースに変更する可能性がある。ニュース番組は見ておく習慣をつけてほしい。期末レポートの再試はしないので、スポーツの重要な大会と同様、「１発勝負」と考え、取り組んでもらいたい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業後に受け付ける

**場所**：　主として教室内

**備考・注意事項**：　いつでも呼び止めて質問してください。大歓迎です。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション～キャリアデザインの重要性（日本型雇用の崩壊とＡＩ）**<br>オリエンテーション～年功序列や終身雇用といった日本型雇用が崩壊し、ＡＩが台頭する中、就職、社会人になってからの働き方がどう変化しているのか全体像を理解する。同時に、キャリアデザインとは何かを知る | 働き方の変化と種類を復習しておく | 4時間 |
| 第2回 | **現代人のライフサイクル**<br>時事問題＋現代人のライフサイクル、たとえば大学卒業から高齢者になるまで、どのようなサイクルをたどるのか、どの程度、変化しているのかを理解する | 人生設計について漠然とでも考えてみる | 4時間 |
| 第3回 | **自分を知る、ＳＷＯＴ分析＆Ｒ－ＣＡＰ**<br>時事問題＋今後のキャリアデザインは、自分を知ることがスタート地点になる。ＳＷＯＴ分析＆Ｒ－ＣＡＰによって、自分の強みと弱みを把握する | 自分でSWOT分析を改めてしてみる | 4時間 |
| 第4回 | **人生とお金**<br>時事問題＋金融関係機関による「人生とお金」に関する講義動画視聴。職業選択の意義や生涯所得などキャリア形成に必要な「お金」について学ぶ（※オンデマンドの可能性あり） | どんな働き方が合っているのか考えてみる | 4時間 |
| 第5回 | **自立とお金**<br>時事問題＋金融関係機関による「ライフプラン」に関する動画視聴。日本人の平均所得、外国との比較などから、どの年代にどれくらいの収入が必要なのか、また年代ごとに予想される支出について考える（※オンデマンドの可能性あり） | 伸びない日本の賃金について知識を得ておく | 4時間 |
| 第6回 | **大学生に不可欠なリテラシー（１）**<br>大学生活や社会に出た後応用できる法則について学ぶ＋リテラシーテスト（あくまで慣れるための練習） | 教科書を一読しておく、SPIテストに慣れる | 4時間 |
| 第7回 | **消える職業**<br>今後のキャリアデザインを考えるとき、ＡＩによって消えるかもしれない職業を理解しておく必要がある。逆にどういう職種であれば代替されないのか理解する | 消える職業に就いて復習しておく | 4時間 |
| 第8回 | **論理的思考**<br>時事問題＋社会人になって問われる論理的思考。序論本論結論で文章をまとめる中で説得力をどう持たせるのか、明快な文章とは何かを学ぶ | 文章の書き方について復習しておく | 4時間 |
| 第9回 | **キャリア形成で考えておくべき法則**<br>時事問題＋現代社会で使える様々な法則を理解する　※指定した教科書を持参すること<br>ワークショップ：京都のインバウンド混雑緩和策を考える | 指定した教科書を読んでおく | 4時間 |
| 第10回 | **時事問題（物価高騰と賃上げ）＋グループディスカッション**<br>時事問題＋グループワーク<br>グループディスカッション：学校教員の負担軽減 | 特に教員志望者は教員の負担の現状を復習する | 4時間 |
| 第11回 | **これからのキャリアデザイン**<br>時事問題＋人生100年時代にどう生きるかはこれまでの授業で学んできたが、最初の入り口となる就職活動に向けて２年生～４年生で何をすべきかを伝授する | 大学生活の計画を立てておく | 4時間 |
| 第12回 | **キャリア形成～最初の関門となる就職活動**<br>時事問題＋ゲスト講義もしくは担当教員による就活講座<br>企業はどういう人材を求めているのか、社会に出てからどんな能力が必要とされるのか、担当教員もしくはゲスト講師の経験則から語る | 採用のフローや企業の見極め方を復習しておく | 4時間 |
| 第13回 | **大学生に必要なリテラシー（２）** | SPI方式のWeb テストに慣れておく | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 時事問題＋リテラシーテスト　キャリア形成の最初の登竜門となる就職活動では、学歴不問の企業が増加する反面、適性検査と称するテストを実施するところが多い。それを実際に体験することで、足りない部分に気づくことを目指す | | |
| 第14回 | **期末レポート**<br><br>期末レポート　時事問題と指定した教科書およびキャリア関連で出題する。世の中の動きや自分自身のキャリア形成に関して論理的な文章を書くというのが狙い。 | 授業の復習をしておく | 4時間 |

SP-1033-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | キャリアデザインⅡ（キャリア形成と仕事理解） | | | | |
| 担当教員名 | 清水克彦 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 在京放送局で報道番組を担当するかたわら就活（インターンシップ、採用面接）担当、他大学でも就活講座を開催。採用する側の視点、２０代からのキャリアデザインに関する著書も出してきた観点から、キャリア形成あるいは就職に関する考え方を伝える | | | | |

**授業概要**

２年生になると「就活」の２文字が現実味を帯びてきます。本科目の目的は、自分の「得意なこと」「好きなこと」や特性、将来の夢を見つめ、それらを基にキャリアプランニング(職業を通じた人生設計)ができる力を修得することです。まず、自分自身を振り返る方法を学び、社会の仕組みや働き方、社会人に求められる様々な能力について、可能な限り職業別に理解していきます。
また、就職活動の採用試験では、ＧＤ（グループディスカッション）を実施する企業が増えており、複数人いないと練習できないため、その実戦も兼ねて授業を進めていきます。担当教員は、在京放送局でキャスターや報道ワイド番組のチーフプロデューサーを務めるかたわら、数多くの就活生を希望職種に内定させてきたので、信じてついてきてください。積極的な参加を希望します。楽しみながら学んでいきましょう！

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 職業観の確立 | 独自の職業観を確立し志望職種を思い描く |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | グループワークやプレゼンテーション | 思考力と表現力、協働性を身につける |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自己分析 | 自分を客観的に見つめる |

**学外連携学修**

有り(連携先：キャリア支援課、関西圏の企業（未定）)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タイピング）、（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

出席状況と授業への積極的な姿勢＋課題レポート、発表を総合的に勘案する
私語は禁止、パソコン、スマホ、飲み物の持ち込みは可。ノートを持参し、授業に集中して取り組むこと。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業への参加度 | 10 % | ： | 積極的に参加し発言できる |
| 教科書に指定した書籍を読みレポート | 30 % | ： | 内容を理解し自分の意見を論理的にまとめることができる |
| キャリアと時事問題に関する課題レポート | 30 % | ： | 内容を理解し自分の意見を論理的にまとめることができる |
| リテラシーテスト | 30 % | ： | 言語、非言語のリテラシーテストに強くなる |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 石渡嶺司 | ・ゼロから始める 就活まるごとガイド 2027年度版 | ・講談社 | ・2025　年 |
| 清水克彦 | ・知って得する、すごい法則77 | ・中公新書ラクレ | ・2025　年 |

**参考文献等**

なし　※必要な場合に指示したり、オリジナルレジュメを配布する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、一定の授業外学修が求められる。ただ、他科目や部活動にかかる時間を勘案し、予習時間は必要最小限にする。まだ将来像が描けていない学生も多いとは思うが、自分の人生がかかっているととらえ、授業に集中して取り組んでほしい。なお、企業の採用試験では時事問題が問われるケースがあるため、ニュース番組は見ておく習慣をつけてほしい。中間、期末レポートの再試はしないので、スポーツの重要な大会と同様、「１発勝負」と考え、取り組んでもらいたい。
教室の後方のブロックおよび両サイドの壁際に座らず中央前方に座ること。なお、ゲスト講師の授業はスケジュールの都合で変更になる可能性がある。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業後に受け付ける

**場所**：　主として教室内

**備考・注意事項**：　いつでも呼び止めて質問してほしい

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション**<br>オリエンテーション～ラインズ社によるリテラシーテスト説明および最初のキャリア形成機会となる就職について２年次で大事なことを概説 | ラインズドリルをやってみる | 4時間 |
| 第2回 | **キャリアの定義と理論**<br>時事問題＋キャリアの定義～自己分析（自分にハッシュタグをつけてみよう）　自己分析はキャリア形成への第一歩。自分の良さを把握する | 自己分析をし好きなこと得意なことを把握する | 4時間 |
| 第3回 | **業界紹介①**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界紹介　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見てくる、業界について復習する | 4時間 |
| 第4回 | **キャリアアンカーと人生設計**<br>時事問題＋キャリアアンカー８つの分類で、自分というものを再確認する、併せて現代人のライフサイクルについても学ぶ | ニュース番組を見てくる、８つの分類をしてみる | 4時間 |
| 第5回 | **業界研究②**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界紹介　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見てくる、業界について復習する | 4時間 |
| 第6回 | **変わる労働環境**<br>時事問題＋企業が求める人材、働き方改革、ＡＩ社会の到来で消える職業　近年、職場環境は激変しているので、何がどう変わっているのかを理解する | ニュース番組を見てくる、働き方の変化を知る | 4時間 |
| 第7回 | **業界研究③**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界研究　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見てくる、業界について復習する | 4時間 |
| 第8回 | **中間レポート**<br>教科書に指定した２冊を読んで、それぞれ４００字程度のレポート作成。きちんと論理的な文章（序論→本論→結論）がかけることを目指す | 教科書を読んでおく | 4時間 |
| 第9回 | **業界研究④**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界研究　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見てくる、業界について復習する | 4時間 |
| 第10回 | **少子化がもたらす未来**<br>時事問題＋我が国の出生率は1.20（2024年）。少子化で社会がどう変貌しようとしているのか、原因を探りつつ、変わる社会に適応する方策を学ぶ | ニュース番組を見てくる、少子化の改善策を考える | 4時間 |
| 第11回 | **業界研究⑤**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界研究　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見てくる、業界について復習する | 4時間 |
| 第12回 | **国際社会がもたらす劇的変化**<br>時事問題＋日本とアメリカ、中国との２国間関係　島国の日本が近隣の諸外国からどんな影響を受けているのかを知る　たとえば米中衝突という展開になれば、企業の採用方針も変わるため | ニュース番組を見てくる、東アジア情勢を学ぶ | 4時間 |
| 第13回 | **業界研究⑥**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界研究　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見てくる、業界について復習する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **期末レポートおよびリテラシーテスト**<br>期末レポートとリテラシーテスト　自分の強みと弱みを把握し、今後のキャリア形成にどう活かそうとしているのか、また、就職活動で問われるWeb形式のテストに対処できるかを測る | ラインズドリルに慣れておく、教科書を見ておく | 4時間 |

SP-1034-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **キャリア実践（仕事とキャリア演習）** | | | | |
| 担当教員名 | 清水克彦 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 前期・一部後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義・演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 在京放送局で報道番組を担当するかたわら就活（インターンシップ、採用面接）担当、他大学でも就活講座を開催。これまで外銀、外コン、５大商社、マスメディア等に内定させてきた。採用側の視点も交えて、キャリア形成最初の関門である就職活動には何が求められるのかを伝える | | | | |

**授業概要**

月曜５限と水曜５限、同じ内容です。
３年生以下を対象にしたキャリア形成のための授業。３年次になれば、インターンシップ～秋の採用活動開始と、就職活動が本格化してきます。本科目では、①自分を知り職業選択をスタートさせる、②企業が求めている人材について知り、将来への青写真を描く、③様々な企業について理解を深める等を主目的にし、まさに実践的な授業を実施していきます。本科目の授業回数を重ねる間に、インターンシップの申し込み時期を迎えますので、自己分析⇒企業研究＆企業が求める人材把握⇒エントリーシートや自己ＰＲ、「ガクチカ」の作成を行い、希望職種に就けるよう一緒に頑張っていきましょう。担当教員は、これまで大手商社、銀行、メーカー、外資コンサルタント企業、マスメディア等に学生を内定させてきた実績があるので、信じてついてきてください。再履修の４年生も参加願います。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | ＥＳを論理的に書く | インターンシップにエントリーし体験する |
| 2. DP2.知識・技能 | 企業が求める人材を参考にした知識習得 | 就活やキャリア形成に必要な基礎知識を習得できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | チームワーク | インターンシップで目に留まる人間力を養う |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（動画活用）（タイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

月曜と水曜同じシラバス、評価基準で実施します。再履修の４年生も特別な指示があるまで参加してください。
授業への積極的な姿勢＋課題レポート、インターンシップ等への参加を総合的に勘案します。最終的な成績評価は12月の授業が終わってからになります。
私語は禁止、パソコン、スマホ、飲み物の持ち込みは可。ノートを持参し、授業に集中して取り組むこと。教室は指定されたゾーンに座ってください。インターンシップの実施と評価の都合から前期５回後期６回の通年授業となります。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業への参加度、姿勢 | 50 % | ： 夏季インターンシップ、スクールサポーター等の学外実習への参加は必須。就活は学生個々の問題なので積極的に参加しているかを基準とする。 |
| 課題レポート | 50 % | ： 論理的な文章が根拠も交えて書けているか、明快な文章か、世の中の出来事をきちんと把握できているか、が評価基準。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

その都度指示するが、「就職四季報」（東洋経済新報社）、「ＳＰＩ問題集」（高橋書店ほか）は購入することが望ましい。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

インターンシップや就活でのエントリーシート作成や面接、グループディスカッション対策には際限がありませんが、自分の人生がかかっているととらえ、取り組んでもらいたいです。
先にも述べましたが、教室の後方あるいは壁際の席に座る学生の評価は低くなります。高い目標を持ち、自分で人生を切り拓いていこうとする気概のある学生を引っ張り上げたいと思っています。
就活ナビサイトの担当者も招聘するので、この授業でキャリア形成最初の関門、就職について学びましょう。

教室の後方のブロック、両サイドの壁際のブロックには座らないようお願いします。また部分的に、座席指定をする回もあります。
１１月末頃、大阪成蹊大学で実施される３大学合同業界研究セミナーには原則として参加をお願いします。詳細は近づいてから告知します。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業後

**場所**：　研究室もしくは授業後の教室

**備考・注意事項**：　エントリーシート作成等に関する質問はいつでも呼び止めて質問してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **今年の採用環境と就活フロー、企業が求める人材、キャリアハンドブック配布**<br>職業について知る、自分を分析する契機ともなる就職活動のフローを理解する。年々、早期化および長期化傾向にある実情を踏まえ、これに適応する心の準備をする | 不要 | 4時間 |
| 第2回 | **自己分析～ＳＷＯＴ分析＋インターンシップの意味、ナビサイト登録**<br>マイナビ、リクナビ、あさがくナビへの登録を行う。併せて自分をもう１度分析する機会とする。自己分析は就活でミスマッチを防ぐ第一歩、自分の強み、弱み、得意なことや好きなことを整理する | 自分の強み弱みを理解し将来像を描いてくる | 4時間 |
| 第3回 | **インターンシップ参加に向けてＥＳ作成～自己ＰＲ、ガクチカ**<br>インターンシップとは何か、大学生活を振り返りながら、必要な武器、基礎知識を身につけ、論理的に自分をアピールすることの重要性を学ぶ。 | 自己ＰＲを４００字で作成してくる | 4時間 |
| 第4回 | **論理的思考（ロジカルシンキング）の身につけ方**<br>序論⇒本論⇒結論の流れで文章を書く、本論の中に具体的なエピソード、データ等を盛り込むコツを学ぶ。 | 過去最大の挑戦を４００字で作成してくる | 4時間 |
| 第5回 | **インターンシップ参加のルール～参加に向けての心構え、マナーなど**<br>社会人としてのマナー、インターンシップで問われることを整理する。インターンシップは、１日で終わるオープンカンパニー形式ですら採用と直結し始めているので、それに適応するため意識を高めることを目指す | インターンシップ演習として４社に参加（１Day型に４企業もしくは団体以上、長期型に４日以上※教員志望者はスクールサポーター可）、②レポート作成（参加目的、インターンシップの形式報告、参加して得られた気づきや反省）を各企業・団体ごとにＡ４１枚で作成、第６回の授業で回収する。 | 4時間 |
| 第6回 | **社会人として必要なリテラシー（１）～プログテスト実施**<br>ＰＲＯＧテスト実施　ＰＲＯＧは問題解決力や対人基礎力を把握するためのもの。設問数は多いが、個々のリテラシーとコンピテンシーが外観できるので真摯に取り組む | 過去最大の挑戦と失敗について考えてくる | 4時間 |
| 第7回 | **社会人として必要なリテラシー（２）～プログテスト解説**<br>就職活動を前に、ＰＲＯＧテストの結果を踏まえ、社会人として必要なリテラシーとコンピテンシーを解説。 | 不要 | 4時間 |
| 第8回 | **日本人の年収と変わる労働環境**<br>過去３０年伸び悩んでいる日本人の年収と年代ごとにいくらかかるのかの整理。少子化やＡＩの導入、働き方改革で変わる労働環境を改めて整理し、これから描くキャリアデザインのヒントを得る。 | ＥＳについて何が問われるかを把握してくる | 4時間 |
| 第9回 | **職業について知る**<br>様々な業種に内定した人たちを招いて、業界の情報、内定までに何が必要だったのかなどを語ってもらい、質疑応答を行う。 | 改めてエントリーする企業を絞り込む | 4時間 |
| 第10回 | **分かりやすく具体的に自分を表現する**<br>ＥＳで問われる自己ＰＲや「ガクチカ」、「過去最大の挑戦」を題材に、どのように文章を書けばいいのか、実際に書いてみることで体得する。 | あらかじめＥＳを作ってくる | 4時間 |
| 第11回 | **課題レポート**<br>採用面接とグループディスカッションを通じ問われる、バーバル（言語）だけでなくノンバーバル（非言語）の重要性を学ぶ。この回、課題レポートを実施する。併せて、就活に向けた心構えとマナーについて再度確認する。 | これまでの授業を復習しておく | 4時間 |

SP-2001-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ学入門** | | | | |
| 担当教員名 | **学部長・工藤他** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 各コースから代表的な研究課題について教員から解説がなされるため、その中には、複数の実務経験のある教員が含まれ、実務経験を講義内容に結び付けている。 | | | | |

**授業概要**

本講義は、学部専門科目の基礎科目として位置付けられている専門科目の入門的な授業である。
スポーツ学部での体系的な学びの柱である「スポーツ学」について、その考え方や歴史について理解する。また、全８コースの専門的立場からスポーツ学の学術的意義やスポーツ実践・社会貢献について学ぶ。スポーツ学の観点からのスポーツ各領域の課題や現代的動向・トピックなどがテーマとなる。
学生は、スポーツ学の全領域を幅広く学び、今後の進路コースの明確化を図る糸口を得る。
なお、スポーツを「する」、「みる」、「支える」、「知る」といった様々な視点から、スポーツの可能性を学ぶために生成AIを用いて講義に関連するトピックの要約を図る。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ学の学問領域、コースの特徴的なスポーツの課題等 | スポーツ学に関する各領域に関心を持ち、意欲的に課題に取り組むことができる |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ学の学問領域、各コースの特徴を理解 | スポーツ学の学問領域と各コースの特徴を理解することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ学の学問領域、各コースの特徴の差異 | スポーツ学の学問領域、各コースの特徴の違いを文章として表現できる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツ学の学問領域、各コースの学びへの姿勢 | スポーツ学に関する各領域に関心を持ち、意欲的にコース選択ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・その他(以下に概要を記述)
ICT(タッチタイピング)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---|---|
| 授業ごとの課題レポート | ： 内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックに基づいて評価する |
| 100 % | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツ学のすすめ　大修館書店

**履修上の注意・備考・メッセージ**

この授業は、2年次から所属するコース選択のためにとても重要です。
各授業回に登壇される教員の専門分野に目を向け、2年次から学びを深めたい領域の理解と専門分野へのさらなる興味関心に繋げてください。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本講義では、生成AIを用いて授業内容に関連するトピックの要約を図るが、生成AIで作成した課題レポートは評価の対象とはならない。また、場合によっては本学規定に基づき厳格な対応を行う可能性がある。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**場所**：　　研究棟2F（B212）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツ学の理解を深める**<br>総論：スポーツ学についての理解を深めた上で、各コースの特徴を概説し次回からの各論の展開に向け、概念の理解と相互の関連について解説する。また次回からの担当者とスケジュールについて告知する。 | スポーツ学の学びについてまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **学校スポーツコースにおける学び**<br>各論：学校スポーツの見地から、学校スポーツコースでの学びを理解するとともに、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（学校スポーツコースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第3回 | **保健体育教員と学校における役割**<br>各論：学校スポーツの見地から、保健体育教員の役割と責務を概説し、学校が地域社会に望まれる役割について提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（保健体育科教員の任務）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第4回 | **学校部活動の実態と動向**<br>学校部活動のこれまでの経緯と学校におけるスポーツのこれからを実態と動向を踏まえて概説し、提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（学校部活動の実態と動向）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第5回 | **アスリートコーチングコースにおける学び**<br>各論：コーチングの見地から、アスリートコーチングコースでの学びを理解するとともに、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（アスリートコーチングコースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第6回 | **コーチングの理論と実際**<br>各論：コーチングコミュニケーションの基礎的知見に触れながら、スポーツ現場でのコーチングを提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（コーチの手法）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第7回 | **アウトドアスポーツコースにおける学び**<br>各論：コーチングの見地から、アウトドアスポーツコースでの学びを理解するとともに、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（アウトドアスポーツコースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツ政策・文化コースにおける学び**<br>各論：スポーツ政策・文化の見地から、スポーツ政策・文化コースでの学びを理解するとともに、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（スポーツ政策・文化コースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツビジネス・メディアコースにおける学び**<br>各論：スポーツビジネス・メディアの見地から、スポーツビジネス・メディアコースでの学びを理解するとともに、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（スポーツビジネス・メディアコースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツパフォーマンス分析コースにおける学び**<br>各論：スポーツパフォーマンス分析の見地から、スポーツパフォーマンス分析コースでの学びを理解するとともに、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（スポーツパフォーマンス分析コースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツをデータから読み取る**<br>各論：スポーツパフォーマンス分析の見地から、様々な手法の紹介と目的使途、ビックデータからゲーム分析、バイオメカニクス的観点などの概要的に提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（ビックデータ、ゲーム分析、バイオメカニクス）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第12回 | **トレーニング科学コースにおける学び**<br>各論：トレーニング科学の見地から、トレーニング科学コースでの学びを理解するとともに、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（トレーニング科学コースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |
| 第13回 | **健康・スポーツ医科学コースにおける学び**<br>各論：トレーニングや健康スポーツの見地から、研究動向を概説し、スポーツ現場での最新の活用を提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（健康・スポーツ医科学コースにおける学び）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **トレーニングと医科学の役割**<br><br>各論：トレーニングや医科学の見地から、アスリートにおける支援法について概説するとともに、勤労者や高齢者についてもふれ、スポーツ活動の多様な役割について概説し、提案する。 | 授業時に提示されたキーワード（トレーニングの果たす医科学の役割）を用いて、指定の書式に従ってレポートを作成する | 4時間 |

SP-2002-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **オリンピック・パラリンピック教育** | | | | |
| 担当教員名 | **黒須　朱莉・中道　莉央** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

この授業は2部構成で展開する。第一部では、オリンピックの理念やパラリンピックの意義など、オリンピック・パラリンピックそのものについての理解を深める。第二部では、オリンピック・パラリンピックを通して、社会におけるスポーツの意味／意義や位置づけ、そしてその可能性について考察する。これらの学びを通じて、オリンピック・パラリンピックの精神である多様な価値観を尊重し、世界平和や共生社会に向けて活躍できる態度を身につけることを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | オリンピック・パラリンピックへの関心・意欲 | 両大会の意義やオリンピアン／パラリンピアンを取り巻く環境等を社会におけるスポーツの意味や可能性の視点から学ぼうとする意欲を持っている。 |
| 2. DP2.知識・技能 | オリンピックムーブメント・パラリンピックムーブメントに関する理念や価値観 | オリンピックの3つの価値、パラリンピックの4つの価値等を理解することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる公平性、高潔性（インテグリティ） | 公正に競技を遂行するための規則やアスリートの不断の努力から、スポーツに求められる公平性、高潔性（インテグリティ）の見方を身につけ、考えることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツへの多様な関わり方 | スポーツへの多様な関わり方に関心を持ち、自身のスポーツへの関わり方に反映することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

本授業は全回遠隔授業（オンデマンド）で実施する。
ICT(タッチタイピング）、ICT（PowePoint）、ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

双方向のやり取りができるよう、授業内に取り組む課題の内容をフィードバックし、受講生の質問や意見に対してコメントする。

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 50 % | ： 授業後に提出する小レポート課題において、オリンピック・パラリンピックの価値や意義／選手を支える環境の現状と課題等に対する自身の考えを論理的に述べることができているか評価する。 |
| 確認テスト | 20 % | ： オリンピックの3つの価値、パラリンピックの4つの価値等を理解できているか評価する。 |
| 期末レポート | 30 % | ： スポーツをする、見る、支える、知る、創るといったスポーツへの多様なかかわり方からオリンピック・パラリンピックについて考察することができているか評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜、授業資料のなかで参考文献を紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　随時

**場所**：　メールにて

**備考・注意事項**：　質問等あれば、基本的には事前にメールで連絡すること（黒須 kurosu@g.bss.ac.jp　または　中道 nakamichi-r@g.bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「所属コース」「学籍番号」を明記すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業ガイダンス／オリンピック・パラリンピックに関わる基本知識**<br>授業概要や授業計画について再度確認する。オリンピック・パラリンピックに関わる基本的な用語、知識について確認し、自身の各大会に対するイメージや意識について明確にする。 | 日本オリンピック委員会のＨＰに掲載されている「オリンピズムってなんだろう？」の記事内容を閲覧し、要点をまとめてくること。 | 4時間 |
| 第2回 | **オリンピックの誕生と理念**<br>オリンピックの祖、教育者ピエール・ド・クーベルタンが何故近代にオリンピックを「復興」させようとしたのか？クーベルタンの生い立ちと思想、そして彼の生きた時代背景を踏まえて理解する。また、近代オリンピックの理念であるオリンピズムとオリンピック・ムーブメントの中身について理解する。 | オリンピックと政治、平和に関する最新のニュース記事を読み、今後期待することについて自分の考えをまとめてくること。 | 4時間 |
| 第3回 | **オリンピックと平和**<br>オリンピック憲章の規則を取り上げ、なぜそのような規則が明文化され続けているのか？その理由をオリンピックの歴史を通して理解する。また、オリンピックが「平和の祭典」と言われる根拠と、オリンピックの理念と現実との乖離、それを埋めていくための取り組み事例について理解する。 | パリ2024大会に関するニュースを探索し情報を集めておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **パリ2024大会を振り返ろう**<br>パリ2024大会をオリンピズムやオリンピック・ムーブメントの視点から捉え、理解する。 | オリンピアンのコーチに必要なことは何か？自身の考えと、疑問点を小レポートにまとめてくること。 | 4時間 |
| 第5回 | **オリンピアンとコーチング**<br>オリンピアンを育てるために、またオリンピアンを指導するために必要なコーチングの考えや選手との関わり方について、実際の事例を通して理解する。 | スポーツと栄養の関係について、自分なりに調べたことをまとめておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **オリンピアン・パラリンピアンと栄養学的サポート**<br>身体を資本とするオリンピアン、パラリンピアンに対する栄養学的サポートの最前線について、実際の事例を通して理解する。 | 第6回までのオリンピックに関わる内容について復習をしておくこと。 | 4時間 |
| 第7回 | **オリンピックに関わる知識や視点の総復習**<br>オリンピックのターンに関わる学びを総復習し、多角的な視点からオリンピックを理解する。 | 障がい者スポーツとパラスポーツの違いについて調べておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **パラリンピックの誕生と理念**<br>パラリンピックの始まりについて、パラリンピックの父と称されるルードウィッヒ・グットマンの生い立ちや思想から、ストークマンデビル病院でのリハビリテーションから、競技スポーツとしてパラリンピックに結実されるまでの流れを理解する。また、パラリンピックの究極の目標やシンボルマーク、４つの価値などからパラリンピックの理念や意義を理解する。日本障がい者スポーツ協会ＨＰに掲載されている「障がい者スポーツの歴史と現状」の該当ページを読み込み、歴史に関わる重要な点をまとめておく。 | 障がいの種類や程度の異なる選手が公平に競技するために必要なことは何か、自分なりの考えを整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第9回 | **障がい者スポーツと公平性**<br>1960年の第1回パラリンピック（ローマ）から2020年の第16回パラリンピック（東京）までの参加国・地域、実施種目、対象障がい種の広がりを整理し、今日にみる隆盛の現状とこれにともなう課題、とりわけ2008年の第13回パラリンピック（北京）以降にみられるドーピング、テクノロジーの進化、障がい偽装、クラス分け、国際政治の問題などについて理解する。 | 「障がい者スポーツ」「テクノロジー」のキーワードでニュース記事を検索し、最新の記事の中から自身が興味をもった事例について小レポートにまとめてくること。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第10回 | **パラリンピックと科学的サポート**<br><br>パラリンピックの競技化・高度化と密接な関係にあるテクノロジーの進化や科学的サポートの最前線について、実際の事例を通して理解する。 | 日本車いすバスケットボール連盟ＨＰなどを参考に、車いすバスケットボールのルールや持ち点制度について理解しておく。また、脊髄損傷者の障がい特徴について、自分なりに調べたことをまとめておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **ノンフィクションから描くオリンピアンとパラリンピアンの物語**<br><br>オリンピアン、パラリンピアンを対象としたノンフィクション作品をもとに、大舞台に立つまでの選手たちの「挫折」と「歓喜」に触れ、アスリートとして求められるメンタリティについて考察する。 | 「障がい者スポーツ」「クラス分け」をキーワードに関連する情報をインターネットで調べ、まとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **東京2020パラリンピックとクラス分けの現場（外部講師）**<br><br>パラリンピックの特徴であるクラス分けについて、その基本的な考え方や目的、現場におけるクラス分けの実態について学ぶ。 | 第8～12回までのパラリンピックに関わる内容について復習をしておくこと。 | 4時間 |
| 第13回 | **パラリンピックに関わる知識や視点の総復習**<br><br>パラリンピックのターンに関わる学びを総復習し、多角的な視点からオリンピックを理解する。 | オリンピックとパラリンピックにおける学びの共通点と相違点を整理しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ／期末レポートに向けて**<br><br>授業内容や評価に関する全体の振り返りと期末レポート課題について確認する。 | 授業全体の内容を復習し、期末レポートの作成に取り組む。 | 4時間 |

SP-2003-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ学研究法Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤・岡部** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 各コースから代表的な研究課題について教員から解説がなされるため、その中には、複数の実務経験のある教員が含まれ、実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

スポーツを対象とした多様な研究方法を包括的に学ぶ。
具体的には、スポーツ学に関連する実際的な研究や各コースの卒業研究に触れ、自らがスポーツ学についてまとめていく卒業研究を実践して行く上での方法論について学ぶ。特に、それぞれのスポーツ学の分野で実践されている研究事例を踏まえながら、実践的な研究方法についての学びを通じて、卒業研究の足がかりとなるよう実践方法を学ぶ。
どのような「研究の問い」を設定するのか、その問いを明らかにするためにどんな方法があるのか、どんなデータなど研究方法の学修を通じて、全6コースの研究の実際に触れる。
研究法Ⅰでは、研究の基礎、研究方法や手法の基礎について学び、各コースの卒業研究を概観する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ学に関連する研究の実際 | スポーツ学に関連しt研究の進め方について知り、説明できる |
| 2. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ領域に関連する研究に対する疑問や今日的な課題の探索 | スポーツ学研究の企画の方法や報告書の作成の方法を知り、説明できる |
| 3. DP2.知識・技能 | 量的データを取り扱う際の手順や方法 | 量的データを取り扱う際の具体的な方法について説明できる |
| 4. DP2.知識・技能 | スポーツデータの種類とデータに応じた分析方法 | スポーツデータの収集方法とデータの種類に応じた分析方法を実践できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート課題 | 100 % | ： 授業担当者から提示される小レポート課題を評価する。<br>授業の内容を踏まえた論述が出来ている場合は満点とし、重大な誤りや不足がある場合は減点対象とする。<br>全課題をまとめて100点満点とする。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各時間に必要な資料等を準備し、配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具体的にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。
課題が課された場合、特に要約などについてはAIを用いて作成する場合がある。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 担当者の時間を確認すること

**場所**： 各担当者の研究室

**備考・注意事項**： 予めアポイントをとってから、各担当者の研究室に訪問すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **研究法Ｉのオリエンテーション 研究の基礎①（調べるということ、研究方法）**<br>研究とは調べることに他ならない。特に、調べることで何を目指すのかは、研究を進めていく上で、とても重要になる。本授業では、研究とはについて、研究の種類、そこで取り扱われているデーターの種類等について学ぶ。 | 研究の種類について復習し、実際の研究について、図書館で調べる。 | 4時間 |
| 第２回 | **研究の基礎②文献や資料を調べる、研究倫理**<br>先行研究を概観することで、スポーツにおける様々な問題や課題を検討することができる一方、スポーツの今日的な問題や課題を導き出すこともできる。文献や資料を調べることによって研究をどのように進めていくのかについて学ぶ。また、研究に関わる倫理的な問題について理解する。 | 図書館などを利用し、具体的な卒業研究について興味のあるテーマを論文検索サイトで検索してみる。 | 4時間 |
| 第３回 | **スポーツ学における量的研究，分析の基礎（データの種類と分析）**<br>スポーツ学の各領域を概観し，数量データを活用した量的研究がおこなわれている分野を理解する．また，得られるデータの種類と分析の方法について分類し学習する． | スポーツ現場で用いられているデータについて調査する | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツデータの統計①基本統計量（平均値，中央値，標準偏差）**<br>集団の分布特性を示す平均値、標準偏差、最大値、最小値などの基本統計量について解説する。平均値の示す意味、平均値と中央値の違い、などについて学習する。 | スポーツ関連サイトを検索し、平均値が用いられているスポーツデータを調査する | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツデータの統計②相関（散布図，相関係数，回帰分析）**<br>散布図を用いて２つの変数の関連性について学習しながら、関連性の指標である相関係数について解説する。スポーツデータから相関係数を求める方法を学習する。 | スポーツデータの中でも散布図を用いている分析を検索し調査する | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツデータの統計③差の検定（t検定）**<br>２つのグループ間に平均値の差があるかを検定する「t検定」を学習する。グループ間で対象の異なる「対応のないt検定」，対象が同一である「対応のないt検定」を学習する。 | t検定が用いられている研究論文を検索し読む | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツデータの統計④名義尺度データ（度数分布表，ヒストグラム，クロス集計表）**<br>名義尺度のデータを対象に，度数、期待値、残差，クロス集計表の作成手順について学ぶ。さらに，度数の差があるかを検定するχ二乗（カイジジョウ）検定についても紹介する。 | 身近にある名義尺度のデータを調べてまとめる | 4時間 |
| 第８回 | **学校スポーツ教育コースにおける研究法**<br>日本における教育法規や学習指導要領をもとに、コースでの学びや研究方法を説明する。過去の卒業研究の内容など、具体的な事例を紹介する。それらを理解した上で、受講生が小・中・高校で受けた保健体育授業の内容を振り返る。 | 受講生が小・中・高校で受けた保健体育授業の内容（種目）を、図書館やインタ ーネットを活用して、各領域ごとに調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツビジネスコースにおける卒業研究の取り組み**<br>スポーツビジネスコースにおける卒業研究の概観ならびに研究方法について理解する。 | 卒業研究における調査手法や分析方法について、授業資料をもとに復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **健康・トレーニング科学コースにおける卒業研究の取り組み**<br>健康・トレーニング科学領域における研究には、どのような内容や社会課題、スポーツ課題を扱ったものがあるのか、またどのような研究形態があるのか、過去の卒業研究の事例を参考にしながら健康・トレーニング科学に関する研究の実際を概観する。 | 卒業研究抄録集を活用し、過去の健康・トレーニング科学領域における卒業研究について調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **コーチング領域における研究の実際（事例研究、実践研究の理解）**<br>コーチング領域における研究には、どのような内容や社会課題、スポーツ課題を扱ったものがあるのか、またどのような研究形態があるのか、過去の卒業研究の事例を参考にしながらコーチングに関する研究の実際を概観する。 | 卒業研究抄録集を活用し、過去のコーチング領域における卒業研究について調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **野外スポーツ領域における研究の実際（事例研究、実践研究の理解）**<br>野外スポーツ領域における研究には、どのような内容や社会課題、スポーツ課題を扱ったものがあるのか、またどのような研究形態があるのか、過去の卒業研究の事例を参考にしながら野外スポーツに関する研究の実際を概観する。 | 卒業研究抄録集を活用し、過去の野外スポーツ領域における卒業研究について調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **生涯スポーツコースの研究対象と方法／「スポーツ文化論」的アプローチとその事例** | スポーツと聞いて思い浮かぶキーワードを何点か挙げ、そのキーワードが「スポーツ文化」体系のどの領域に当てはまるのか考えてみる。そしてそのキーワードをどのように深めると、体系図の他領域に影響を与えることになるのか考察する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 前半は、生涯スポーツコースが対象とする豊かな研究対象やアプローチを概観し、その探求内容の全体像を理解する。後半は、アプローチの一つである「スポーツ文化論」的視点から深める研究事例と、方法論的特徴(主に資料調査)について理解する。 | | |
| 第14回 | **スポーツについて調べ、学びを深める。マインドマップを活用して**<br><br>本授業では、受講生がこれまで学んだ各研究法を再度確認する。そして、それらの特徴や自身の研究課題に応じて、マインドマップの形式にまとめる。 | これまで学んだ各研究領域の資料を再度確認する。 | 4時間 |

SP-2004-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ学研究法Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤・岡部** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 各コースから代表的な研究課題について教員から解説がなされるため、その中には、複数の実務経験のある教員が含まれ、実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

スポーツを対象とした多様な研究方法を包括的に学ぶ。
具体的には、スポーツ学に関連する実際的な研究や各コースの卒業研究に触れ、自らがスポーツ学についてまとめていく卒業研究を実践して行く上での方法論について学ぶ。特に、それぞれのスポーツ学の分野で実践されている研究事例を踏まえながら、実践的な研究方法についての学びを通じて、卒業研究の足がかりとなるよう実践方法を学ぶ。
どのような「研究の問い」を設定するのか、その問いを明らかにするためにどんな方法があるのか、どんなデータなど研究方法の学修を通じて、全6コースの研究の実際に触れる。
研究法Ⅱでは、各コースの具体的な卒業研究事例から研究手法や方法論について学ぶ。また、スポーツ現場や研究で用いられるデータ収集と分析を例示し，スポーツデータサイエンスを概観する

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ学研究の探索 | 興味監視運のあるスポーツ学領域の研究について検索できる |
| 2. DP2.知識・技能 | 卒業研究を進めていくにあたっての計画や作成手順 | 卒業研究作成に向けて、計画案を作成できる |
| 3. DP2.知識・技能 | スポーツ学各領域の様々な研究やその研究方法の実際 | スポーツ学各領域の研究方法を説明できる |
| 4. DP2.知識・技能 | スポーツデータの種類とその収集、分析 | スポーツ場面でのスポーツデータの取集方法とデータの種類に応じた分析方法を説明できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート課題 | 100 % | ： 担当者から提示される小レポート課題を評価する。授業の内容を踏まえた論述が出来ている場合は満点とし，重大な誤りや不足がある場合は減点とする．全課題をまとめて100点満点とする。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各時間に必要な資料等を準備し、配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間程度の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具体的にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に，予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくとよい。
課題が課された場合、特に要約などについてはAIを用いて作成する場合がある。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **研究法Ⅱのオリエンテーション（研究法Ⅰの振り返り）**<br><br>授業の進め方について理解する。特に各コースで10月に実施される卒業研究中間発表に参加し、実際の卒業研究の進め方に触れる。<br>研究における倫理的問題について確認する。<br>スポーツ学研究についてスポーツデータサイエンスと各コースの関わりについて知る。 | 興味あるコース(2コース)の中間発表会に参加し、感想をまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **学校スポーツ領域における運動学的研究法について**<br><br>保健体育で取り扱われるスポーツにおける運動の覚え方・教え方に関する運動学的研究法を学習する。<br>運動観察とスポーツデータサイエンスの関わりについて知る。 | 小・中・高等学校で学習してきた体育実技の内容・または各々の専門スポーツの技のコツについてまとめておく | 4時間 |
| 第3回 | **健康教育・学校保健における研究法**<br><br>児童生徒における健康課題を問いの出発点として、その問いに答えるための研究手法について概観する。場面は、保健教育のみならず、保健管理も視野に入れ、スポーツデータサイエンスを活用した分析を試みる。 | 健康教育や学校保健をキーワードに論文を検索し読む。 | 4時間 |
| 第4回 | **スタジアム調査データを用いた「スポーツ観戦者」の理解**<br><br>Ｊクラブのスタジアム観戦者データから、スポーツデータサイエンスを用いてスポーツ観戦者心理と行動の因果関係を理解する。 | 授業での解説を通じて、問題点とその解決方法について自身なりの見解をまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **アンケート調査データを用いた「するスポーツ消費者」の理解**<br><br>スポーツ施設利用者あスポーツイベント参加者を対象としたアンケートデータから、スポーツデータサイエンスを用いいてスポーツ消費者心理と行動の因果関係を理解する。 | 授業での解説を通じて、問題点とその解決方法について自身なりの見解をまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **健康・トレーニング科学**<br><br>健康・トレーニング科学領域における量的データの取り扱い方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際 | 論文検索サイトを活用し、複数の学術雑誌の中から、量的データを用いた健康・トレーニング科学領域の研究について調べる。 | 4時間 |
| | 健康・トレーニング科学領域における量的データの取り扱い方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際 | | |
| 第8回 | **コーチング領域における事例研究・実践研究の理解**<br><br>コーチング領域における量的データの取り扱い方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際 | 論文検索サイトを活用し、学術雑誌「コーチング学研究」の中から、量的データを用いたコーチング領域の研究について調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **コーチング領域研究における取り扱うデータの種類**<br><br>コーチング領域における質的データの取り扱い方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際 | 論文検索サイトを活用し、学術雑誌「コーチング学研究」の中から、質的データを用いたコーチング領域の研究について調べる。 | 4時間 |
| 第10回 | **野外教育に関する多様な対象者の量的データを用いた研究の実際**<br><br>野外教育領域に関する研究について特に社会的課題に対して取り組んだ研究の方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際について学習する。 | 論文検索サイトを活用し、学術雑誌「野外教育研究」の中から、研究について調べる | 4時間 |
| 第11回 | **自然・人・スポーツの関係性についての研究の実際**<br><br>自然と人との関係性や自然の中で行うスポーツの影響や効果についての研究の方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際について学習する | 野外スポーツに関する論文検索サイト「ROP」を活用し、研究について調べる | 4時間 |
| 第12回 | **中高齢者の健康に関連した量的研究手法の理解・生活習慣に関連した量的研究手法の理解**<br><br>（藤松）中高齢者の健康のための運動を、理論的に推奨できるような研究の実践的な研究を紹介し、卒業研究につなげるための理解を深める。特に有酸素運動に着目する。<br>（入谷）睡眠や飲酒や生活習慣と集中力や競技レベルの相違などを検討した卒業研究、労働者の健康づくりや腰痛対策における効果などの自分の研究を解説し、卒業研究の理解を深める。<br><br>生涯スポーツの観点から、具体的な研究方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際について。 | （藤松）健康の維持、向上ために必要な運動についてあらかじめ調べておく。（入谷)授業の内容を踏まえて、量的研究法に関して復習しておく。また、生活習慣に関わる量的研究法に関わる先行研究（論文・文献など）を予め読んでおく。 | 4時間 |
| 第13回 | **生涯スポーツにおける社会学・社会心理学的研究を読み解く・障がい者スポーツ領域における質的研究** | (佐藤)講義中に紹介した生涯スポーツにおける社会学・社会心理学的研究で指摘される課題や問題点を参考に、さらに受講生各自で同領域の研究を探索する。また、探索した研究で指摘される課題や問題点をまとめ、それらを解決するための方策を考案する。（中道)障がいのある人がスポーツを行う際にどのような困りごとがあるかを調べたり、障がい者スポーツを対象とした先行研究を概観したりして、障がい者スポーツの現状と課題をあらかじめ自分なりに理解しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | （佐藤）スポーツを対象とした社会学・社会心理学的研究について、中でも生涯スポーツに関連する研究について紹介し、生涯スポーツにおける社会学・社会心理学的課題や問題について解説する。さらに、受講者が考える生涯スポーツの社会学・社会心理学的課題や問題とは何か各自で思案し、それについてまとめる。<br>（中道）当事者研究の視点から障がい者スポーツにかかわる当事者（選手、指導者等）を対象にしたインタビュー（質的研究）を手がかりに、障がいのある人のスポーツ・イン・ライフ実現に資する研究のあり方を理解する。<br><br>生涯スポーツの観点から、具体的な研究方法とスポーツデータサイエンスを用いた研究の実際について。 | | |
| 第14回 | **スポーツのデータサイエンスとAI・ビッグデータ**<br><br>スポーツ現場や研究で用いられるデータ収集と分析を例示し，スポーツデータサイエンスを概観する．また，スポーツ場面でのAI採用場面を例示し，AI（人工知能）や機械学習の基礎を学習して今後のスポーツ現場での活用方法について議論する． | スポーツやゲームに用いられているAIやビッグデータの分析について調査する | 4時間 |

SP-2006-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ウインドサーフィン（マリンスポーツ） | | | | |
| 担当教員名 | 野外スポーツコース教員 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

大学が立地する恵まれた環境としての琵琶湖を用いたマリンスポーツを展開する。具体的な種目としてびウィンドサーフィンを取り上げ、活動を安全に楽しむための基本的スキルを身につけ、課題達成することの喜びを仲間と共有する体験を通して、自己の新たな気づきや、他者との関わり方を学ぶ。特に、用いる自然環境としての水辺環境はリスクを伴う活動であることからも、実際に体験することで、自然環境に対する理解を深め、安全に楽しむための知識についても学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 琵琶湖岸におけるマリンスポーツ活動の実践 | 琵琶湖でのマリンスポーツを通して、自然や人との関わりについて関心・意欲を持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | ウィンドサーフィンの実践 | ウィンドサーフィンを行うためのスキルと琵琶湖に対する環境への理解を深めることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | ウィンドサーフィンの実践 | アウトドアスポーツに対するリスク認知を通して備えるべき自己管理能力や判断力について思考し、実践できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自然環境の中でのマリンスポーツ実践 | 自然環境の中での体験を通して、更なる学びへの向上心を持つことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 事前学習 | 10 % | ： | マリンスポーツ実践のための基礎知識を身に着け、主体的な準備への取り組みを評価する。 |
| 実習プログラム内における実技課題達成度 | 60 % | ： | ２日間にわたる実習についての取り組みおよび課題に対する達成度を評価する。 |
| 事後学習 | 30 % | ： | 体験をふりかえって作成したレポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

大学が立地する琵琶湖を用いたマリンスポーツとして、カヤックとウィンドサーフィンを2日間にわたり体験します。水上を自由にカヤックやウィンドサーフィンで仲間と駆け巡ると新たな発見や学びがたくさんあります。

本科目は1単位の科目であるため、平均すると、毎回1時間の授業外学修が求められる。集中での実習科目ではあるが、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　随時

**場所**：　研究室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **事前オリエンテーション**<br><br>マリンスポーツの目的や日程、準備する装備や服装に関するオリエンテーションを行う。 | 自然を活用したプログラムに対する目的への理解を深める | 1時間 |
| 第２回 | **琵琶湖の特性**<br><br>実習場所としての琵琶湖について、歴史や文化に触れながら理解を深める。 | 琵琶湖の歴史や文化、人々の関わりについて理解を深める。 | 1時間 |
| 第３回 | **マリンスポーツ種目について**<br><br>選択することになるウィンドサーフィンの特性について理解を深める。 | 各種目の都癖について理解を深める。 | 1時間 |
| 第４回 | **マリンスポーツ実践（2日間）**<br><br>マリンスポーツ実践<br>＜ウィンドサーフィン＞<br>1日目：集合・オリエンテーション<br>風を読む・セイルアップニュートラルポジション・デッドゾーン・方向転換<br>2日目：集合・オリエンテーション<br>タック、ジャイブ、ランニング、まとめ | 準備して実習に取り組む。 | 1時間 |
| 第５回 | **実習を通した学びの評価**<br><br>マリンスポーツを通した学びについて目標達成度を評価するとともに、今後の学びへの活用方法について理解を深める。 | ウィンドサーフィン活動の展開について理解を深める。 | 1時間 |

SP-2009-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **水中運動法** | | | | |
| 担当教員名 | **村瀬・工藤** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業の講義では水中環境の基本的特性や水泳・水中運動のバイオメカニクス・生理学を理解し、水中運動・水泳の応用について考える。実技では競泳4泳法を身につける。また自然水域での自己保全能力を向上とした浮身の基礎技術を着衣泳、立ち泳ぎの練習を通して身につける。さらに自己保全能力を高めるため、水中での高度な身体操作獲得を目的とし水球の基礎を学ぶ。加えて学校における水泳指導のため、学習指導要領に基づいた指導方法・指導計画について理解を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 泳法の練習および基礎知識に関する講義 | 水泳に関して泳法のみならず水の物理的特性や健康づくりとの関連について幅広く関心を持つ。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 水泳基礎4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）のルールに関する知識 | 水泳基礎4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）のルールに関する知識を身につける。 |
| 3. DP2.知識・技能 | 水泳基礎4泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の習得 | ルールに基づいた泳法を習得する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業参加度 | 25 % | ： 授業内での課題に対する取組み姿勢を評価する。 |
| 実技の達成度 | 50 % | ： 学期末に100m個人メドレーのタイムを計測する。2分45秒が合格基準。 |
| レポート | 25 % | ： 授業内でのレポート課題を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「水泳コーチ教本」（財）日本水泳連盟（大修館書店），「安全水泳」（財）日本水泳連盟（大修館書店），「スイミング・ファステスト」E・マグリシオ（ベースボールマガジン社），「スイミング・イーブン・ファースター」E・マグリシオ（ベースボールマガジン社），「新水中健康術」野村武男（善本社）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業の最後に実技試験を実施する。100m個人メドレーを正しい泳法で2分45秒以内に泳ぐことが合格の条件。
水中運動法は通常授業期間の他に長期休業中に集中授業を開講する。履修時点でクロールを25m以上泳げる人は通常授業期間の水中運動法を履修し、クロールを25m泳げない人は集中授業を履修すること。なお、どちらの授業も評価の基準は同じ。

水中運動法は水中での安全管理の内容も含む。命の危険を扱う授業として捉え、集中して取り組むこと。
泳力が低い受講生は試験に向けて自主練習を実施する必要がある。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業の前後

**場所**： 授業実施場所

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、講義① 水泳の基礎知識**<br><br>【ガイダンス】<br>授業に必要な水着、キャップなど準備物について説明する。また授業予定、評価方法について説明する。<br>【講義】<br>水の特性（4要素）について深く理解し、水中環境が身体に与える影響をバイオメカニクス的側面ならびに生理学的側面から理解する。また４泳法の基礎技術について理解する。保健体育の水泳で求められる技能、態度、知識、思考・判断について理解する。 | 配布資料を確認し、講義内容「水の特性、水 中のバイオメカニクス・運動生理学」を復 習した上で、レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第2回 | **クロールの基礎技術と指導方法**<br><br>クロールの理論と実践、クロールの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）<br>クロールの推進原理について理解し、クロールのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、クロールの泳ぎ方を習得する。また、クロールの指導方法について理解する。 | 講義①で解説したクロールの基礎技術につい て復習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **クロール指導の計画立案・実践**<br><br>第2回で学習したクロールの指導方法をもとに、指導計画を立案し実践する。小グループに分かれて教師役、生徒役を通して指導方法についての理解を深める。 | クロールの指導法について復習をしておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **平泳ぎの基礎技術と指導方法**<br><br>平泳ぎの理論と実践、平泳ぎの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）<br>平泳ぎの推進原理について理解し、平泳ぎのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、平泳ぎの泳ぎ方を習得する。また、平泳ぎの指導方法について理解する。 | 講義①で解説した平泳ぎの基礎技術につい て復習する。 | 4時間 |
| 第5回 | **平泳ぎ指導の計画立案・実践**<br><br>第4回で学習した平泳ぎの指導方法をもとに、指導計画を立案し実践する。小グループに分かれて教師役、生徒役を通して指導方法についての理解を深める。 | 平泳ぎの指導法について復習をしておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **背泳ぎの基礎技術と指導方法**<br><br>背泳ぎの理論と実践、背泳ぎの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）<br>背泳ぎの推進原理について理解し、背泳ぎのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、背泳ぎの泳ぎ方を習得する。また、背泳ぎの指導方法について理解する。 | 講義①で解説した背泳ぎの基礎技術につい て復習する。 | 4時間 |
| 第7回 | **背泳ぎ指導の計画立案・実践**<br><br>第6回で学習した背泳ぎの指導方法をもとに、指導計画を立案し実践する。小グループに分かれて教師役、生徒役を通して指導方法についての理解を深める。 | 背泳ぎの指導法について復習をしておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **バタフライの基礎技術と指導方法**<br><br>バタフライの理論と実践、バタフライの泳ぎ方の理解（呼吸法含む）<br>バタフライの推進原理について理解し、バタフライのキック動作・プル動作・呼吸動作を分習法により練習をおこなう。各動作を統合し、バタフライの泳ぎ方を習得する。また、バタフライの指導方法について理解する。 | 講義①で解説したバタフライの基礎技術につ いて復習する。 | 4時間 |
| 第9回 | **バタフライ指導の計画立案・実践**<br><br>第8回で学習したバタフライの指導方法をもとに、指導計画を立案し実践する。小グループに分かれて教師役、生徒役を通して指導方法についての理解を深める。 | バタフライの指導法について復習をしておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **講義② 水難事故の実際と安全対策**<br><br>水難事故の実際について学ぶ。また安全対策について学ぶ。 | 水難事故の実際と安全対策についてレポー トを作成する。 | 4時間 |
| 第11回 | **立ち泳ぎ・横泳ぎ**<br><br>水中での自己保全能力向上を目的として、立ち泳ぎ・横泳ぎを習得する。 | 平泳ぎのキック動作について復習をしておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **着衣泳**<br><br>着衣状態での浮身技術を習得する。<br>スカーリング、立ち泳ぎなどを応用することで長時間浮身の状態を保持できるようにする。<br>また平泳ぎ、横泳ぎなどをすることで着衣状態と脱衣状態での進みやすさ、消費体力の違いを理解する。 | 「浮いて待て」をキーワードに着衣状態での浮身技術について調べておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **水球** | 水球競技のルール、歴史について配布資料を読み確認しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 水球競技のフットワーク、パスなどの基礎技術を習得する。その後、ゲーム形式の練習を通じて水球競技のルールを理解する。 | | |
| 第14回 | **到達度確認**<br><br>これまで学んだ講義内容について理解度を確認するためのレポートを作成する。また泳法の習熟度を泳法チェックを通じて確認する。 | これまでの学習内容を振り返り、本科目を通して身についた技術を整理する。 | 4時間 |

SP-2010-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **陸上競技** | | | | |
| 担当教員名 | **渋谷・岡部** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷：日本スポーツ協会公認コーチ4（陸上競技）資格および実業団・学生選手の指導経験を活かし、受講生の実技レベルに合わせて「できない」を「できる」に等の課題解決のサポートを行う。 | | | | |

**授業概要**

陸上競技は、各種スポーツ・運動の基本的な要素である「走・跳・投」の技能で構成されている。学習指導要領「陸上競技」の領域に明記されている「走・跳・投」に関する各種目の目標や内容を理解し、自分自身が適切に実施できるようになるとともに、教材や指導法について学び、終盤では授業内容を踏まえた指導計画・指導案をグループで作成し、実践する。また、運動技能の向上過程を通した課題発見・解決能力や、自己の意見を他人に伝えるなどの思考・判断・表現力を養うと同時に、ルール・審判方法・安全管理についても学習することで様々なスポーツ指導・運営に必要な資質・能力を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツの土台となる「走・跳・投」運動に関する理解 | 「走・跳・投」動作のあらゆるスポーツでにおける重要性について説明できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 「走・跳・投」運動に関する知識・技能の習得。 | 「走・跳・投」それぞれの運動特性を理解し、それらを実践する技能を習得する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**注意事項等**

十分に身体を動かすことができるウェア・シューズを準備・着用すること。気象状況（気温等）を事前に確認し、ドリンクを持参するなど、熱中症等の対策を行う事。また、日常から体調管理に留意しておくこと。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題種目における記録の設定記録に対する達成度 | 60 % | ： 60点：目標記録を大幅に突破して、特に優れた記録を達成している。<br>50点：目標記録を突破して、優れた記録を達成している。<br>40点：目標記録を突破している。 |
| 課題レポート・遠隔授業レポート | 30 % | ： 30点：期限内に課題が提出され、内容が特に優れている。<br>20点：期限内に課題が提出され、内容が優れている。<br>10点：課題が提出され、内容が基準を満たしている。<br>5点：学習計画に不足がある。 |
| 期末レポート | 10 % | ： 10点：各種目の特性や技術、ルールを理解した上で、記録向上のポイントとその指導方法が記述されている。<br>5点：各種目の特性や技術、ルールを理解した上で、自身の課題や改善点とその解決策が記述されている。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「陸上競技ルールブック」日本陸上競技連盟（あい出版）
「陸上運動・競技の指導を考える基礎的研究」岡野　進（創文企画）
「スポーツ動作と身体のしくみ」長谷川　裕（ナツメ社）
その他随時紹介する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　陸上フィールド・担当教員研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよび陸上競技の特性と必要な専門体力のテスト方法の理解と実践**<br>授業の進め方および、陸上競技の特性について解説する。中学・高等学校学習指導要領の「陸上競技」領域の目標・内容について理解する。<br>また、陸上競技に要求される専門的な技能（疾走能力・跳躍能力・投擲能力）を評価するテストを実施して、実践できるようになる。 | 陸上競技の起源、トレーニング方法、中学・高等学校の学習指導要領について調査する。 | 1時間 |
| 第2回 | **100m走：短距離走の特性の理解、習得、指導法の確認**<br>短距離走の基礎的技能とその理論を学習し、100m走の目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導法についても確認する。 | 100m走のパフォーマンス構造（スタート・加速・速度維持局面）を調査する。クラウチングスタートの種類と技術ポイントを調査する。 | 1時間 |
| 第3回 | **100m走：100m走の記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認**<br>実際の競技会形式で100m走の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。 | 陸上競技短距離種目の記録測定に必要な機器や施設を調査する。不正スタートに関するルールとその変遷を調査する。 | 1時間 |
| 第4回 | **ハードル走：ハードル走の特性の理解、修得**<br>ハードル走の基礎的技能とその理論を学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。 | ハードル走のパフォーマンス構造（踏切動作、ディップ動作、リードレッグ、抜き脚）について説明できるように調査する。 | 1時間 |
| 第5回 | **ハードル走：ハードル走の記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認**<br>実際の競技会形式で60ｍハードル走の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。 | ハードル種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。 | 1時間 |
| 第6回 | **走幅跳：種目特性の理解**<br>走幅跳の踏切動作について基礎的技能とその理論、跳躍運動と助走との関係性を学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。 | 助走速度を利用して遠くに跳ぶための方略について調査するとともに、トレーニング方法を考案する。 | 1時間 |
| 第7回 | **走幅跳：専門技術の理解**<br>走幅跳の助走に関する基礎的実能と踏切動作との関連を学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。 | 走幅跳の踏切を行うために必要な要因（踏切動作）について調査する。 | 1時間 |
| 第8回 | **走幅跳：走幅跳の記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認**<br>実際の競技会形式で走幅跳の記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。 | 跳躍種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。 | 1時間 |
| 第9回 | **ジャベリックスロー：種目特性の理解**<br>ジャベリックスローの助走に関する基礎的技能とその理論、投擲動作と連続性について学習し、目標記録突破を目指す。自分自身や他の学生の動作課題を検討するとともに、指導方法についても確認する。 | 陸上競技投てき種目の種類と相違（回転と助走、PutとThrowの違い）について調査する。 | 1時間 |
| 第10回 | **ジャベリックスロー：助走と投擲をつなぐ技術の理解・習得、指導法の確認**<br>ジャベリックスローの助走に関する基礎的技能とその理論、投擲動作と連続性について学習する。 | 利用して投てき距離を伸ばすための方略について調査するとともに、トレーニング方法を考案する。 | 1時間 |
| 第11回 | **ジャベリックスロー：ジャベリックスローの記録測定、競技会運営方法・審判方法の確認** | 投てき種目のルールを確認するとともに、無効試技の条件について調査する。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 実際の競技会形式でジャベリックスローの記録を計測すると同時に、審判方法についても確認する。 | | |
| 第12回 | **陸上競技の指導法・指導計画の立案**<br><br>学習指導要領に基づき、「陸上競技」領域の単元計画や授業計画を検討する。<br>計画をもとに指導案を構成し、指導できる準備を行う。 | 指導案の作成と授業のシミュレーションを行う。 | 1時間 |
| 第13回 | **陸上競技指導法の実践**<br><br>小グループに分かれて、立案した指導案に基づく指導を実践する。<br>指導内容評価シートに基づく指導内容の修正を行う。 | 指導内容評価シートに基づく、改善した指導案を作成する。 | 1時間 |
| 第14回 | **達成度チェックおよびまとめ**<br><br>各種目の達成度チェックを含め、競技会運営方法・審判方法の確認、および本授業の総括を行う。 | 授業開始前後のパフォーマンスや動作の変化について客観的・主観的に観察して理解するとともに、その要因についてレポートにまとめる。 | 1時間 |

SP-2011-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **器械運動** | | | | |
| 担当教員名 | 髙松　靖・小谷　幸平 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目は，小・中・高等学校学習指導要領に記載されている器械運動の技を修得することによって，技の構造やつまずき，さらには安全に実施するための配慮などを学ぶことを目的とする．特に，器械運動のマット運動・とび箱運動・鉄棒運動の技の指導法を，自らの身体で経験することで，指導する際の留意点やポイントを理解できるようになることを目指す．また，自らが経験し，出来るようになった「コツ」や「カン」を表現し，仲間と共感しあい，「教えること」への実践力を養うことができる科目である．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 器械運動の技の実践 | 器械運動の技を習得し，実践することができる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | コツやカンの記述 | 技ができたときの自身のコツやカンを的確に記述することができる． |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | コツの教えあい | 他者に自身のコツを表現しながら教えあうことができる． |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 器具の準備片付け | 仲間と協同し，器具の準備や片付けをすることができる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT　タッチタイピング

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎授業の小レポート | 40　% | ：　授業のテーマに沿った技の構造と技術の理解度を評価する．<br>最大40点満点（4点×1回，3点×10回，2点×3回）で評価する． |
| 実技課題技能チェックテスト | 60　% | ：　学習指導要領に記載されている内容を理解し，「マット運動（演技と倒立）」「とび箱運動」「鉄棒運動」の技の習得度を評価する．<br>習得度は，各種目60点満点（3種目平均点）で評価する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

金子明友（1982）教師のための器械運動指導法シリーズ　マット運動（大修館書店）
金子明友（1987）教師のための器械運動指導法シリーズ　とび箱・平均台運動（大修館書店）
金子明友（1986）教師のための器械運動指導法シリーズ　鉄棒運動（大修館書店）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は，1単位の科目であるため，平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる．

【履修上の注意事項】
本科目履修にあたって，以下の注意事項を守ること．
①逆さや回転などの運動を行うため，長髪の者はゴムなどで髪を縛り，運動の妨げにならないようにすること．
②他者と補助しあい，練習を行うこともあるため，接触事故などを防ぐために腕時計・貴金属（ピアスやネックレス）等は授業前に外しておくこと．

【受講者にメッセージ】
器械運動の授業を通して，新しい運動の覚え方・教え方を知ってほしい．また，「新しい運動が出来るようになった喜び」を感じてほしい．仲間同士で「こうやったらできるようになった」などと情報を共有しながら参加しよう．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜：2限

**場所**：　髙松研究室（B205）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **マット運動　「倒立」および「前転」とその発展技の学習法・指導法について**<br>マット運動の「倒立」の予備的課題についての学習法・指導法，および「前転」とその発展技の技術について理解を深め，その学習法・指導法を学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した「倒立」や「前転」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと | 1時間 |
| 第2回 | **マット運動　「後転」とその発展技の学習法・指導法について**<br>「後転」とその発展技の技術について理解を深め，その学習法と指導法を学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した「後転」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと | 1時間 |
| 第3回 | **マット運動　「倒立回転技」の学習方法と指導法について**<br>様々な倒立回転系の技の技術について理解を深め，その学習法と指導法を学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した「倒立回転」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと | 1時間 |
| 第4回 | **マット運動　「倒立回転跳び技」の学習方法と指導法について**<br>「倒立回転跳び技」の技術について理解を深め，その学習法と指導法を学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した「倒立回転跳び技」のポイントやコツを忘れないよう書き留めておくこと | 1時間 |
| 第5回 | **マット運動　演技の構成法・学習方法・指導法について**<br>マット運動における演技の組み立て方やその学習法と指導法について学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した演技の学習のポイントを忘れないよう書き留めておくこと | 1時間 |
| 第6回 | **マット運動　マット運動の練習法・指導法のまとめ及び演技発表会**<br>マット運動の学習法や指導法を振り返り，理解を深めるとともに，一人ずつ演技を行い，技能の達成度と理解度を図る． | 授業内だけで課題を達成できなかった場合は，相談に来る等し，課題を達成すること | 1時間 |
| 第7回 | **とび箱運動　きり返し跳び系の技の学習法・指導法について**<br>開脚とびやかかえこみ跳びなどきり返し跳び系の技の構造を理解し，その学習法・指導法について学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した「きり返し跳び」系の技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと | 1時間 |
| 第8回 | **とび箱運動　回転跳び系の技の学習法・指導法について**<br>台上前転や頭はね跳び，前方倒立回転跳びなどの回転跳び系の技の構造を理解し，その学習法・指導法について学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した「回転跳び」系の技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと | 1時間 |
| 第9回 | **とび箱運動　とび箱運動の学習法・指導法のまとめ及び実技技能チェック**<br>とび箱運動の学習法・指導法を振り返り，理解を深めるとともに，一人ずつきり返し跳びと回転跳びの跳躍を実践し，その達成度と理解度を図る． | 授業内だけでは課題が達成できない場合は相談に来る等し，達成すること | 1時間 |
| 第10回 | **鉄棒運動　鉄棒に親しむための教材及び下り技の学習法・指導法について**<br>鉄棒に親しむための様々な教材を学習し，グループで実践する．また，鉄棒における下り技について，その構造を理解し，学習法・指導法を学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した下り技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと | 1時間 |
| 第11回 | **鉄棒運動　支持回転技の学習法・指導法について**<br>前方及び後方の支持回転，さらにそれに似た技の構造を理解し，学習法・指導法について学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した支持回転技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと | 1時間 |
| 第12回 | **鉄棒運動　上がり技の学習法・指導法について**<br>逆上がりやけ上がりなどの上がり技についての構造を理解し，学習法・指導法について学習し，グループで実践する． | 授業内で理解した上がり技のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと | 1時間 |
| 第13回 | **鉄棒運動　鉄棒運動の演技の構成法・学習法・指導法について** | 授業内で理解した演技構成のポイントやコツ、発想などは忘れないように書き留めておくこと | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 鉄棒運動の演技について理解を深め，その構成法や学習法・指導法について学習し，グループで実践する. | | |
| 第14回 | **鉄棒運動　鉄棒運動の学習法・指導法のまとめ及び演技発表会**<br><br>鉄棒運動の学習法や指導法を振り返り，理解を深めるとともに，一人ずつ演技を発表し，その達成度と理解度を図る. | 授業時間内だけで鉄棒運動の課題が達成できない場合には，相談に来る等し，課題を達成すること | 1時間 |

SP-2012-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **バレーボール** | | | | |
| 担当教員名 | 竹川　智樹・三好　豪 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | （竹川智樹）2015年～2020年：U21,U23日本代表コーチ、2015年～2021年：日本オリンピック委員会強化スタッフ、2018年：アジア競技大会スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

バレーボールの実践を通して、個々の体力の維持、増進、および技術の向上をはかりメンバーシップやリーダーシップと言うような社会性を養うとともに科学的理論に基づいた体力づくりの方法、技術、ルール等を理解する。そして、本授業のねらいは、バレーボールの個人技能を用いて、6人制バレーボールのルールに従いゲームを運営し、バレーボールの初歩的な技能について初心者に指導できることである。また、学校におけるバレーボール指導のため、学習指導要領に基づいた指導方法・指導計画についての理解を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | バレーボールの個人技能（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サーブ・スパイク等）を用い、6人制バレーボールを理解しつつルール則ったゲーム | バレーボールの個人技能を用いて、6人制バレーボールを理解しつつルールに則りゲームができる。また学習指導要領の目標・内容を理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | バレーボールの初歩的な技能について理解し、初心者に指導できる能力 | バレーボールの初歩的な技能について初心者に指導ができ、さらに教材となる技能や指導法を身に付ける。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | チームスポーツである事を考慮し、仲間への思いやりやコミュニケーションを計れる実践力 | 思いやりを持って授業に参加しコミュニケーションを計りながら、指導計画を作成し実践することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)
ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業における実践の評価
学期末に行われる実技テストを含む実技の評価
授業中の態度およびレポート課題（努力、積極性、協調性、責任度、服装、提出物など）の評価

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業における実践 | 40 % | ： 授業における実践力（実践や取り組み、思考力や判断力） |
| 学期末に行われる実技テストを含む実技 | 40 % | ： 学期末の実技テストを含む実技の評価（技術や技能） |
| 授業中の取り組み方およびレポート課題 | 20 % | ： 授業中の努力、積極性、協調性、責任度、服装など（関心や意欲）、レポート点 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

バレーボールの学習指導と教材研究「不昧堂出版」
バレーボールに関する図書全般
シューズ・運動の出来る服装

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびバレーボールの特性の理解**<br>ガイダンスおよび競技特性の理解<br>学習指導要領における目標・内容の理解<br>評価の方法、諸注意等 | シラバスを読み、本授業の要点をまとめる | 1時間 |
| 第2回 | **運動と安全管理**<br>ストレッチ、ウォーミングアップ、クーリングダウン等<br>用具の準備、片付け方とその安全管理 | バレーボールに必要なストレッチ、ウォーミングアップ、クーリングダウン等を確認する | 1時間 |
| 第3回 | **個人技能－１（パスの理解）**<br>パスの意味と方法、ボールをプレーするための面作りの考え方<br>体育授業におけるパスの指導（学習）計画についての理解と実践 | 図書資料やインターネットの動画サイトでバレーボールの試合を視聴する | 1時間 |
| 第4回 | **個人技能－２（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）**<br>パスの基本的な考え方と練習方法、オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの練習方法<br>体育授業におけるオーバーハンドパス・アンダーハンドパスの指導（学習）計画についての理解と実践 | 図書資料やインターネットの動画サイトでオーバーハンドパス・アンダーハンドパスの動きを確認する | 1時間 |
| 第5回 | **個人技能－３（サーブ・レセプション）**<br>サーブとレセプションのの基本的な考え方と練習方法<br>体育授業におけるサーブとレセプションの指導（学習）計画についての理解と実践<br>簡易ゲーム１ | 図書資料やインターネットの動画サイトでサーブやレセプションの動きを確認する | 1時間 |
| 第6回 | **個人技能－４（スパイク・ブロック）**<br>スパイクとブロックの基本的な考え方と練習方法<br>体育授業におけるスパイクとブロックの指導（学習）計画についての理解と実践<br>簡易ゲーム２ | 図書資料やインターネットの動画サイトでスパイクとブロックの動きを確認する | 1時間 |
| 第7回 | **集団技能－１（ローテーションとレセプションフォーメーション）**<br>ローテーションの理解（体育授業における指導計画の作成と実施を含む）<br>レセプションにおけるフォーションの基本的な考え方と練習方法<br>レセプションにおけるフォーションを考えたミニゲーム | 図書資料やインターネットの動画サイトでローテーションについてプレーや動きを確認する | 1時間 |
| 第8回 | **集団技能－２（ブロックとディグフォーメーション）**<br>ブロックとディグの基本的な考え方と練習方法<br>体育授業におけるディグフォーメーションの指導法についての理解<br>ブロックとディグフォーメーション考えたミニゲーム | 図書資料やインターネットの動画サイトでディグの動きを確認する | 1時間 |
| 第9回 | **集団技能－３（バックアップ・フォローアップ）**<br>バックアップ、フォローアップの基本的な考え方とそのための準備と練習方法<br>バックアップ、フォローアップを考えたミニゲーム | テレビやインターネットの動画サイト等でバレーボールの試合をバックアップとフォローアップの観点から視聴する | 1時間 |
| 第10回 | **集団技能－４（ゲーム形式の練習法）**<br>ゲームについての技術と練習方法について学ぶ<br>これまで紹介した教材や指導法についての振り返り<br>ミニゲーム | 図書資料やインターネットの動画サイトで６対６のゲーム形式の練習方法について確認する | 1時間 |
| 第11回 | **ゲーム－１（ゲームの進行、ルールと審判法）**<br>ゲームの進め方と準備、主な内容の説明、ルールと審判法<br>体育授業におけるゲーム運営方法についての理解<br>6人制バレーボールのルールに従いゲームを実施する | 図書資料などを用いルールと審判法について確認する | 1時間 |
| 第12回 | **ゲーム－２（戦術の理解）** | 図書資料やインターネットからバレーボールの戦術について確認する | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ゲームに関するルール、戦術、作戦等を確認する<br>体育授業における戦術の指導法についての理解<br>6人制バレーボールのルールに従いゲームを実施する | | |
| 第13回 | **ゲーム－３（大会の運営）、技能テスト１**<br><br>大会と運営について理解する<br>6人制バレーボールのルールに従いゲームを実施する<br>技能テスト１ | 自分自身を動画撮影したり、鏡にうつしたりしてフォーム等を確認する | 1時間 |
| 第14回 | **まとめ、技能テスト２**<br><br>バレーボールの特性、ルールに技術等についての確認とまとめ<br>体育授業における技能テスト方法についての理解<br>技能テスト２ | 授業のまとめを行い、自身の振り返りをおこなう | 1時間 |

SP-2013-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **テニス** | | | | |
| 担当教員名 | **北村・千川** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 北村哲：2021～現在　日本テニス協会JTAアカデミー委員会委員として指導者養成に関わる | | | | |

**授業概要**

世界的メジャースポーツであるテニスについて、テニス特有の楽しさや奥深さを理解してプレーができるようになること目的に、プレーする上での基本技術習得、テニス活動におけるコミュニケーションの取り方、ルール、審判法などの知識を身につける。加えて学生同士のグループ学習の中で初心者指導法について理解する。また、テニスの時事ネタも含めテニスの情報にも触れ、テニスに対しての興味を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 世界的メジャースポーツであるテニスへの興味 | 時事ネタ含め、世界的にメジャースポーツであるテニスに対しての興味を深める。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 世界的メジャースポーツであるテニスの楽しさ、奥深さを体現できる技能と知識 | テニスをプレーする上での基本技術習得、ルール、審判法などの知識を身につけ、説明できる。また、初心者指導について理解する。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 世界的メジャースポーツであるテニスについて、楽しさ、奥深さを体現できる技能、テニスプレーヤーとしてのマナーや振舞 | ボールを打つという楽しさから心理戦溢れるゲームを楽しむまでの、様々な楽しさを感じながらプレーできる。テニスプレーヤーとしてのマナーや振舞ができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 周囲と協同する実践力 | 周囲と協働して目的を達成するためのコミュニケーショ ン等を実践できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
「ICT（タッチタイピング）」「ICT（動画活用）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 期末レポート | 25 % | ： 期末レポートについて、（1）テニスへのさらなる興味関心（5%：関心・意欲）、（2）初心者指導に関する理解（10%：知識・技能）、（3）テニスの楽しさについての考え（10%：思考・判断・表現）を観点に、ルーブリックに基づき評価する。 |
| 毎回の授業振り返りシート | 65 % | ： 実技・講義授業の振り返りシートについて、（1）テニスへのさらなる興味関心（25%：関心・意欲）、（2）テニスの理解（技術、戦術、ルール、審判法等）（20%：知識・技能）、（3）テニスの楽しさの考えの表現（10%：思考・判断・表現）を観点に、ルーブリックに基づき評価する。（計13回分の振り返りシート） |
| 授業への取り組み方・振舞 | 10 % | ： 授業時の取り組みについて、（1）スポーツマンシップ・テニスのマナーや周囲との協働（10%：学びに向かう力）の観点に、ルーブリックに基づき評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 梅林薫他 | ・ 教師を目指す学生のための テニス初心者指導 | ・ 大修館書店 | ・ 2018 年 |

**参考文献等**

授業内にて適宜指示する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： オフィスアワー

**場所**： 研究室

**備考・注意事項**： 担当教員へメールで質問を送ってください（送り先北村哲：kitamura@bss.ac.jp）／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **テニスの理解**<br>授業の進め方およびテニス競技について説明する。 | テニスの一般的イメージについて調査する。 | 1時間 |
| 第2回 | **テニス基礎技術（ラケッティング）**<br>ラケットとボールを持っての遊び、また簡易ゲームを通して、ラケット操作の能力を高める。 | テニスの初心者に対する指導法について各自調査する。 | 1時間 |
| 第3回 | **フォアハンドグラウンドストロークの動きの理解**<br>ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、フォアハンドストロークの練習と簡易ゲームを通して、フォアハンドグラウンドストロークの運動構造について理解する。 | フォアハンドストロークのメカニズムおよび指導法について各自調査する。 | 1時間 |
| 第4回 | **フォアハンドグラウンドストロークのスキル向上**<br>ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、フォアハンドストローク練習と簡易ゲームを通して、フォアハンドグラウンドストロークによりボールコントロール能力の向上を図る。 | フォアハンドストロークの応用的スキルおよび指導法について各自調査する。 | 1時間 |
| 第5回 | **バックハンドグラウンドストロークの動きの理解**<br>ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、バックハンドストローク練習と簡易ゲームを通して、バックハンドグラウンドストロークの運動構造について理解する。 | バックハンドストロークのメカニズムおよび指導法について各自調査する。 | 1時間 |
| 第6回 | **バックハンドグラウンドストロークのスキル向上**<br>ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、バックハンドストローク練習と簡易ゲームを通して、バックハンドグラウンドストロークのボールコントロール能力の向上を図る。 | フォアハンドストロークの応用的スキルおよび指導法について各自調査する。 | 1時間 |
| 第7回 | **ボレー＆ネットプレーの理解とスキル向上**<br>ラケッティングでラケットとボールの操作能力を磨くとともに、ボレー練習とスマッシュ練習および簡易ゲームを通して、ボレーストロークとネットプレーについて理解し、スキル向上を図る。 | ボレーのメカニズムおよび指導法について各自調査する。 | 1時間 |
| 第8回 | **サービス＆リターンの理解とスキル向上**<br>サービス練習とリターン練習および簡易ゲームを通して、サービスとサービスレシーブ（リターン）について理解し、スキル向上を図る。 | サービスのメカニズムおよび指導法について各自調査する。 | 1時間 |
| 第9回 | **シングルスの試合形式での練習によるゲーム特性の理解**<br>グループ毎に練習を実践し、その後シングルス形式の簡易ゲームを行い、シングルスのゲーム特性について理解する。 | シングルスのゲームの仕方およびルールについて調査する。 | 1時間 |
| 第10回 | **シングルスの試合によるゲームスキルの向上**<br>グループ毎に練習を実践し、その後シングルス形式のゲームを行い、シングルスのゲームスキル向上を図る。 | シングルスの効果的な戦術について調査する。 | 1時間 |
| 第11回 | **実践的練習Ⅰ　グラウンドストロークからネットプレーへの移行の理解とスキル向上**<br>グループによる指導実践（教え合い）を通して、グラウンドストロークからネットプレーへの移行について理解し、簡易ゲームを通して、スキルの向上を図る。 | ネットプレーを含んだ戦術について調査する。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第12回 | **ダブルスの試合形式での練習によるゲーム特性の理解**<br><br>グループ毎に練習を実践し、その後ダブルス形式の簡易ゲームを行い、ダブルスのゲーム特性について理解する。 | ダブルスの試合の仕方およびルールについて調査する。 | 1時間 |
| 第13回 | **ダブルスの試合によるゲームスキルの向上およびゲーム運営の理解**<br><br>グループ毎に練習を実践し、その後ダブルス形式のゲームを行い、ダブルスのゲームスキル向上を図る。また、審判、ボールパーソンの実践を通して、テニスのゲーム運営について理解する。 | ダブルスの試合の仕方およびルールについて調査する。 | 1時間 |
| 第14回 | **テニスの面白さ・楽しさについての考察**<br><br>テニスにおける各スキルや戦術、またテニスのゲームの面白さ・楽しさについて振り返り、整理する。 | これまでの授業内容について復習する。 | 1時間 |

SP-2014-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **バスケットボール** | | | | |
| 担当教員名 | **吉川・玉城** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

バスケットボールは、我が国の学校体育における一領域としての球技に位置づけられている。序盤は、学習指導要領に明記されている球技（ゴール型）の目標や内容の理解を図るとともに、ボール操作やアウトサイドシュート等の基本技能の質的向上を図りながら、バスケットボール競技の教材や指導法について学ぶ。終盤は、グループでゲーム実践に向けた指導計画（学習指導案）を立て、ゲームを実践する。実技の実践を通して、技能の熟達過程に関する実践知の獲得を図るとともに、ゲーム運営の仕方や他者との関わりついても学びを深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 攻守の個人技能及び集団戦術行動の質的向上 | 球技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | バスケットボール個別競技要素の実践力及び指導に必要な対人基礎力 | バスケットボール競技の特性とルールを踏まえ、個別の技能や戦術行動の質的向上を図るために好適なドリル実践が体現できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT(動画活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　ICT(動画活用)

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 基本技能に関する実技試験 | 30 % | ： ゴール下におけるシュート技能、パス＆キャッチ＆フットワークの複合技能、ドリブル技能、アウトサイドシュート技能、レイアップシュート技能から構成される。 |
| 実技及び指導にかかるパフォーマンス評価 | 20 % | ： ルールを踏まえ、他者を尊重し、チームメイトと協調・協力しながら技能や戦術行動の質的向上を図るとともに、指導法を学ぶ授業参加度を、ルーブリックに基づいて質的に評価する。 |
| ゲームパフォーマンス評価 | 30 % | ： バスケットボール競技の特性とルールに対する理解、及びゲームパフォーマンス、ひいては関心・意欲・態度について、ルーブリックに基づいて30%で総合的に評価する。 |
| レポート評価 | 20 % | ： ルーブリックに従って評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「バスケットボール指導教本」日本バスケットボール協会編　大修館書店（2002）。その他各時間に必要な資料を準備し、配布する。また、必要に応じてビデオ教材を準備する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　研究室

**備考・注意事項**：　急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業のガイダンスと基本技能の実践**<br><br>バスケットボールの競技特性を概観し、授業計画、到達目標を知る。学習指導要領の球技「（ゴール型）バスケットボール」の目標・内容を理解する。授業に参加する上での注意事項を理解する。ボール操作に関する基本的な技能について導入する。具体的には、トリプルスレッドポジション（ボール保持の基本姿勢）を知るとともに、ボールハンドリング、ドリブル、シュートの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。 | ルールの変遷を含め、バスケットボール競技の歴史について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **シュートの調整法の基礎**<br><br>ゴール下におけるジャンプシュートのドリルを中心に、シュートの調整法を実践する。技術や技能の上達過程に関する運動学習・制御分野における知見を学ぶ。<br>フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。加えて、ボールを用いたコーディネーショントレーニングを実践する。 | 運動連鎖という概念について文献調査を行ない、重要事項や関連事項についてまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **ゴール下におけるジャンプシュート**<br><br>ゴール下においてボールにミートし、フットワークを駆使しながらジャンプシュートを行なうドリルを中心に、シュートの調整法を実践する。効率的に反復練習を繰り返すことができるドリルの種類とその運営の仕方を知る。<br>フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの反復練習に加え、ボールミート時のフットワーク技能の修得に資するドリルを実践する。 | アウトサイドシュート時の運動連鎖に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項についてまとめる。 | 1時間 |
| 第4回 | **ドリル実践と実技試験：　ゴール下シュート**<br><br>ゴール下シュートの調整法について学び得たドリルを各グループで組織化し、実践する。ゴール下におけるジャンプシュートの実技試験を行う。ディフェンスが対峙したときのシュート機会を含め、様々な状況判断が求められる対人プレイを経験する。個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で仲間と連携し勝敗を競い合う対人プレイのなかで必要とされる技能や戦術、体力について理解を深める。 | バスケットボールの競技特性について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第5回 | **ワンハンドシュートの調整法①**<br><br>1）ボールの持ち方、2）スピンのかけ方、3）シューティングライン、4）ワンハンドシューティングを中心に、ワンハンドシュートの基本を学ぶ。<br>フットワーク、ボールハンドリング、ドリブルの基礎的個人技能の修得に資するドリルを実践する。 | ワンハンドシュート動作について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **ワンハンドシュートの調整法②と個人戦術行動の基礎**<br><br>前回の復習を行い、5）キャッチからのシュート、6）ジャンピングシュートの練習を行う。シュートの距離を伸ばしていくことを目的に、7）１ステップシュートを行う。また、リングに正対することを目的に、8）2人組正対シュートを行う。<br>ハーフコートにおける1on1の対人プレイをとおして、ディフェンスの状況に応じた個人技能を試行する。 | ワンハンドシュートの調整方法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **ワンハンドシュートの調整法③とグループ戦術行動の基礎**<br><br>動きながらボールをレシーブしてシュートすることを目的に、9）セルフトスからのミートシュートを行う。10）2人組でのシュートドリルを行う。11）ストップ様式別ミートシュートドリルを行う。<br>ハーフコートにおける3on3の対人プレイをとおして、個人技能の発揮に加え、個人戦術行動、グループ戦術行動を試行する。攻守において空間に走り込む動きについて理解を深める。 | ツーハンズシュートの動作について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第8回 | **ワンハンドシュートの調整法④とグループ戦術のドリル実践**<br><br>12）ペイントエリアの頂点を用いて、3人組でのミートシュートの練習（エルボーシュート）を行う。13）2人組でのストップ様式別ミートシュートドリルを行う。エルボーシュートに加え、14）スイングの動きからのシュートを行う。15）ジグザグドリブルシュート、16）１ドリブルからのシュートを行う。<br>パス・キャッチ・フットワークの技能修得に資するドリルを実践する。ハーフコートにおける3on3の対人プレイをとおして、個人技能の発揮に加え、攻守において空間に走り込む動きを含め、個人戦術行動、グループ戦術行動を試行する。 | 球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画や授業計画を調査し、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **ドリル実践と実技試験：　パス・キャッチ・フットワーク複合**<br><br>ドリブル及びパス・キャッチ・フットワークに関して学び得たドリルをグループごとに組織化し、実践する。ドリブル技能及びパス・キャッチ・フットワーク複合技能の到達度を測る実技試験を行う。ディフェンスが対峙したときのシュート機会を含め、様々な状況判断が求められる対人プレイの実践を経験する。個人やチームの能力に応じた作戦を立て、個人対個人、集団対集団で仲間と連携し勝敗を競い合い、それらのできばえを振り返る。 | 球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画を立案する。 | 1時間 |
| 第10回 | **ワンハンドシュートの調整法⑤と集団戦術行動の基礎**<br><br>前回までの復習を行い、シュートドリルの実践を行なう。レイアップシュートの技能を知り、ドリルを実践する。シュートの構えからの攻撃のバリエーションについて知る。17）ボールレシーブ及びシュートフェイクから1ドリブルシュート、18）ボールレシーブ及びシュートフェイクから2ドリブルシュートを行う。球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画や授業計画をグループで検討する。オールコートにおける対人プレイを実践する。 | レイアップシュートの動作及びその習得法について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第11回 | **練習の組織化とドリルのグループ実践**<br><br>グループで策定してきた球技（ゴール型バスケットボール）の単元計画や授業計画をグループで実践し、その取り組みを振り返る。 | バスケットボール競技の基本技能とドリルに関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第12回 | **練習の組織化についての振り返りと集団戦術行動の応用**<br><br>集団戦術行動を実践する応用の機会や場面を見据えて、基本技能、グループ戦術行動を発揮することが求められるドリルを各グループで構成し、実践する。 | 審判法及びゲームの運営、管理の仕方や留意点についてポイントをまとめる。 | 1時間 |
| 第13回 | **ドリル実践と実技試験：　アウトサイドシュート及びドリブル、レイアップシュート**<br><br>シュートの調整法について各自で学び得たドリルを組織化し、実践する。アウトサイドシュート技能及びレイアップシュート技能の到達度を測る実技試験を行う。 | バスケットボールのパフォーマンス指標及び基準値について重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |
| 第14回 | **まとめの試合・全体の振り返り**<br><br>チーム分けを行い、バスケットボールの試合を行う。バスケットボール競技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己やチームの能力を最大限に発揮し専門的な技術や戦術、作戦を習得し、相手やチームに応じた攻防を展開できるようにする。 | バスケットボール競技におけるオフェンスの集団戦術について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 1時間 |

SP-2015-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **サッカー** | | | | |
| 担当教員名 | **坂尾・飛石** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | JFA日本サッカー協会指導者養成チューター（C級、B級）、2006年からのJFA日本サッカー協会との専任契約（エリート育成コーチ、U17女子代表コーチ）2014年からの海外（ドイツ）でのコーチ活動等の実務経験を講義内容に結びつけている。（坂尾、全14回）。 | | | | |

**授業概要**

学習指導要領に明記されている、サッカーの専門的な技術習得はもとより、クラブチームや学校の指導者として必要なコーチング能力やトレーニング法を修得し、かつ、チームワークや基本戦術などを学ぶ。またいかに楽しくかつポイントを絞ったトレーニングをして、うまくさせるかにポイントを置き、ゲームでその成果を実践する。これからのスポーツを「ささえる」視点を持ち、映像分析を取り入れ、指導内容に分析的視点をもつことで、更にレベルを上げてサッカーが楽しめるようにすることを目標とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | サッカーのルールや競技特性の理解、サッカーのプレーを観察、分析 | サッカー競技の特性や本質について理解できる、自己や他者のプレーを分析的視点をもち言語化・映像を用いて可視化できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 基本的スキルの質の向上、ゲームにおける効果的な技術の発揮 | 実践力ある選手について理解を深め、技術力とともに状況判断を伴ったプレーを仲間と協調して発揮できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | トレーニング計画の立案、対象に応じたコーチングとプレー分析 | サッカーの技術や基本的な戦術について効果的なコーチングができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グッドコーチングするための準備と仲間との協働 | 仲間と協調性をもって対象者を楽しませるコーチングができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

これからのスポーツ現場を「ささえる」ツールとしての映像分析を活用した内容も授業方法に含まれます。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

指導実践において、指導計画案作成など、準備を重要視します。講義では積極的な意見交換(質問や発問)をして下さい。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 指導実践 | ： | ①トレーニングの準備とコーチらしさ、環境つくり(5%)<br>②テーマにあったトレーニングメニューとコーチング(10%)<br>③成功と失敗の原因、解決法が分かり、伝わるコーチング(5%)<br>④仲間とのリレーション（10%) |
| 30 % | | |
| 実技力 | ： | ①選手としての実技力・失敗を恐れない積極性のあるプレー(20%)<br>②どんな状況下においても最善のプレーを発揮(10%) |
| 30 % | | |
| ICT/分析スキル（動画活用） | ： | ①テーマに沿った映像抽出(10%) |

10 %

課題レポート（遠隔） : ①サッカーの基本的なルール（5%）
②サッカーの競技特性（5%）

10 %

毎回の課題レポート : ①自己や他者を観察した内容を言語化（15%）

20 %

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて授業内で紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。

実技が安全にできるよう、また、「サッカーの競技規則」に則り、服装とともに、ネックレス・ブレスレット・ピアス等は外して受講するようにして下さい。

授業内で映像分析ツールやパワーポイントを使用します。

基本的に、毎回の実技回の最後にはゲームを行います。

遠隔授業と講義を行う授業回があります。天候によって左右されるため、その都度、Teamsを通して連絡します。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびルール・競技特性の理解**<br>ガイダンスを行い、本授業の注意点や評価方法について理解する。サッカーの基本的なルールや競技特性について考える。 | サッカー競技の文献、試合映像を見て、特性を掴んでおく。 | 1時間 |
| 第2回 | **アイスブレイク、ミニゲーム**<br>チーム分け，アイスブレイク，ミニゲームを通して、全体の流れを理解する。またサッカー競技の楽しさを実感し、今後の授業に活かす。本授業の基本的な流れを理解する。 | 実際にサッカーボールに触れておき、足で扱う難しさを体験しておく。 | 1時間 |
| 第3回 | **テクニック①ボールフィーリング**<br>様々な種類のボールフィーリングメニューを体験するとともに、ボールフィーリングの活用方法についての理解も深める。 | キッズプログラムで実施するメニューを調べておく。 | 1時間 |
| 第4回 | **テクニック②ドリブル**<br>フェイントやターン動作とともに、ドリブルテクニックについて理解する。様々なメニューでのドリブル練習や1vs1を通して、ゲームの中でのドリブルの活用方法について考える。 | 実際に左右の足を使い、ドリブル練習をして難しさを体験しておく。 | 1時間 |
| 第5回 | **テクニック③パス＆コントロール**<br>サッカーのゲームにおけるパス＆コントロール技術の使用頻度について学び、相手DFがいる場合の注意点を理解するとともに、複雑なメニューの理解の難しさを体験する。 | サッカーのゲーム映像から、パス＆コントロールの使用について、分析しておく。 | 1時間 |
| 第6回 | **テクニック④ゴールキーパー（GK）の基礎**<br>現代サッカーにおけるゴールキーパーの役割について学び、シュートストップを中心に基本的な技術についての理解を深めるとともに、初心者のゴールキーパー指導における注意点を理解する。 | 試合映像を見て、ゴールキーパーの役割について、理解しておく。 | 1時間 |
| 第7回 | **テクニック⑤：シュート**<br>キックの種類や狙った場所へシュートを打つために必要な構成要素について学ぶ。 | ゴールシーンの映像から、シュートの種類について、分析しておく。 | 1時間 |
| 第8回 | **戦術（攻撃）：ポゼッション**<br>パス&サポートやマークを外す動きを中心にポゼッションの基本的な理解を深める。 | ゴールシーンの映像から、コンビネーションからうまれるシュートについて、分析しておく。 | 1時間 |
| 第9回 | **戦術（守備）：チャレンジ&カバー**<br>ファーストディフェンダーとセカンドディフェンダーの役割の理解を中心にチャレンジ&カバーの基本的な理解を深める。 | ゴールシーンの映像から、相手の得点を防ぐプレーについて、考えておく。 | 1時間 |
| 第10回 | **様々なサッカー（講義）**<br>サッカーのクラブ文化やアダプテッドスポーツについて学修し、新たな知見を得る。 | 国内外のサッカー情報や障がい者サッカーについて調査する。 | 1時間 |
| 第11回 | **指導実践①** | サッカーの技術・戦術についてもう一度振り返る。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 1回目の指導実践となるため、基本的な流れを理解し、オーガナイズやコーチングの工夫について考える。 | | |
| 第12回 | **指導実践②**<br><br>2回目の指導実践となるため、オーガナイズによって変化するコーチング内容や様々なコーチング手法について理解を深める。 | 指導実践①で行った内容を振り返り、自身の指導案を見返し、必要があれば修正する。 | 1時間 |
| 第13回 | **指導実践③**<br><br>3回目の指導実践となるため、戦術行動に関する理解を深めるとともに、戦術行動についてコーチングする際の視点について考える。 | サッカーの各場面について考えておく。 | 1時間 |
| 第14回 | **セットプレー**<br><br>セットプレーの種類する。コーナーキックを題材に、セットプレーのメリット・デメリットを考えることでゲーム中の注意点を学ぶ。チームでの戦術立案を行い実践する。 | 「試合中に起こるセットプレーとは」重要性や注意点等考えておく。 | 1時間 |

SP-2016-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ハンドボール** | | | | |
| 担当教員名 | **池本　聡** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 1990年～2007年・2013年～2015年日本リーグ（ジャスコ・三重バイオレット）監督、1996年～1999年全日本U－２０コーチ、1995年～日本ハンドボール協会強化委員、及び小学生から社会人の指導経験を踏まえた展開を講義に反映している。 | | | | |

**授業概要**

ハンドボールは、我が国の学校体育における一領域としての球技に位置づけられている。ハンドボールの歴史と変遷を理解し、ハンドボール競技に必要な個人技能・小集団技能・集団技能への考え方、必要な個人スキル・集団スキルを習得理解する。あわせて、ルールの理解を深めるためにレフェリーの判定基準を学び、体験する。また、学びをより深めるために、グループミーティングを行う。さらに、より発展性を創造する将来指導に携わるときに有意義な講義を実施する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | ・ | ・ |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題レポート | 50　% | ： | 課題に対する情報収集及び考察が十分に行われている。50点満点で評価する |
| 実技試験 | 50　% | ： | 最終実技試験及び授業内審判により評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　受業前後

**場所**：　体育館

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **講義概要とハンドボール競技の概説**<br><br>講義内容の説明と進め方<br>ハンドボール競技の歴史と変遷。<br>ボール遊びを兼ねた個人技能ボールコントロール | 11人制・7人制ハンドボールの歴史と変遷についてまとめる | 1時間 |
| 第2回 | **ハンドボール競技の形成（個人技能）**<br><br>ハンドボール競技に必要な技能<br>ボディーコントロール・ボールコントロールの実践と理解<br>狭域コートでの1対1<br>パスバリエーションの応用と実践。 | ・ | 1時間 |
| 第3回 | **ハンドボール競技の形成（小集団技能）**<br><br>ハンドボール競技に必要な技能<br>ボディーコントロール・ボールコントロールの実践と理解<br>狭域コートでの1対1<br>シュート・ＤＦを用いた簡易な攻防 | ・ | 1時間 |
| | ２～３人の集団技能<br>パスの多様性と有効な使い方の実践。<br>２対２・３対３における攻防の理解と実践。状況に応じた選択肢の対応。<br>ミニゲーム。 | | |
| | 小集団での攻防の理解<br>攻撃バリエーションの理解と実践<br>防御システムの理解と実践<br>ミニゲーム | | |
| 第6回 | **ハンドボール競技の形成（小集団技能②）**<br><br>小集団技能の技能の理解<br>小集団におけるオフェンス技術の連携・応用と実践。<br>小集団の於けるディフェンス技術の連携・応用と実践。 | ・ | 1時間 |
| 第7回 | **ハンドボール競技の形成（小集団技能③）**<br><br>小集団技能の理解<br>小集団におけるオフェンス技術の連携・応用と実践。<br>小集団の於けるディフェンス技術の連携・応用と実践。<br>オフェンスファールとディフェンスファウルの定義と段階的罰則の適用。 | 罰則の種類と適応基準について。 | 1時間 |
| 第8回 | **ハンドボール競技の形成（小集団技能④）**<br><br>小集団技能の理解<br>ディフェンスシステムに応じた攻撃の有効性の考察と理解。<br>オフェンスシステムに応じたディフェンスの有効性と考察<br>ミニゲームによる実践。 | ・ | 1時間 |
| 第9回 | **集団技能の理解（攻撃編）**<br><br>６－０ディフェンスの攻撃システムの実践トレーニング<br>ディフェンスに対する攻撃方法の考察（グループミーティング）<br>検討内容の実践<br>レフリーの判定基準（攻撃側が犯しやすい反則に特化）<br>ショートゲーム | ・ | 1時間 |
| 第10回 | **集団技能の理解（防御編）**<br><br>６－０ディフェンスの防御システムの実践トレーニング<br>攻撃に対する防御方法の考察（グループミーティング）<br>検討内容の実践<br>レフリーの判定基準（防御側が犯しやすい反則に特化）<br>ショートゲーム | ・ | 1時間 |
| 第11回 | **ゲームを通じた集団技能の実践及び判定の実施**<br><br>グループ単位のゲームを実施<br>ゲーム終了時グループミーティング<br>レフェリー体験 | ・ | 1時間 |
| 第12回 | **ゲームを通じた集団技能の実践及び判定の実施②**<br><br>ディフェンスシステムの変化と攻撃システムの対応。<br>５－１ディフェンス、４－２ディフェンス、３－３ディフェンス、マンツーマン等のシステムの実践と攻撃方法の考察。<br>グループミーティング。<br>ミニゲームの実施とレフリーの体験 | ・ | 1時間 |
| 第13回 | **ゲームを通じた集団技能の実践及び判定の実施③**<br><br>グループ単位のゲームを実施（グループ別にディフェンス、オフェンスを選択）<br>ゲーム終了時グループミーティング<br>レフェリー体験 | ・ | 1時間 |
| 第14回 | **講義内容を集成した試合実施とレフリング**<br><br>グループ単位のゲーム<br>レフリーの担当<br>実技試験（ボールコントロール的あて） | ・ | 1時間 |

SP-2017-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **テーピング・ストレッチ** | | | | |
| 担当教員名 | **田中・片淵・森** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

テーピングやストレッチなどの実技を通して，スポーツ活動を継続する上で必要なコンディショニングの手法を習得することを目的とする．テーピングでは，スポーツに関連した外傷として多くみられる足関節内反捻挫を再発予防するための方法を習得する．練習を重ねることで，解剖学的知識を応用し，しわなくテーピングが巻けるようになる．ストレッチはセルフやペアで行い，柔軟性の変化を体感する．継続することで，身体をケアすることの重要性を学ぶ．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 部位に合わせたテーピングとストレッチングの実践 | 適切なテーピング（足関節内反捻挫再発予防）を巻くことおよびストレッチングができる。 |
| 2. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 適切なテーピングやストレッチングを習得するための継続的な努力 | 適切なテーピングやストレッチングができるようになるために、意欲的に何度も繰り返して行動することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 相手を気遣うコミュニケーション | 常に相手とコミュニケーションをとり、適切な手技ができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・その他(以下に概要を記述)

ICT（タッチタイピング）、ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| テーピング実技試験 | 70 % | ： | 足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを，所定の時間内に正しく巻くことが出来るかどうかについて評価する． |
| ストレッチ実技試験 | 20 % | ： | 各筋に対応するストレッチ方法を理解して実践できるかどうかについて評価する． |
| 授業参加度 | 10 % | ： | 積極的に実習を行っているかについて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

アスレティックトレーナー専門科目テキスト（2022年カリキュラム対応）２巻

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

テーピング実技試験で6割未満であった場合、再試験を受験して合格しなければならない。

授業で使用するテーピングは、別途自費（￥2,000プラス必要に応じて）で購入する。購入の時期および方法は、授業内およびteamsを用いて通達する。
購入したテーピングは必ず各自で管理する。忘れた場合は、実習に参加できなくなるため確認をして参加すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスとテーピング講義**<br>授業の進め方と到達目標および成績評価を確認する．<br>テーピングの目的や効果について学ぶ。 | テーピングの目的や効果を復習する。 | 1時間 |
| 第2回 | **アンダーラップを試す**<br>アンダーラップの役割を復習し、薄く巻く練習をする。<br>特に、持ち方と足関節に巻く方法を練習する。 | 動画資料を参考に、アンダーラップを巻く方法を復習する。 | 1時間 |
| 第3回 | **アンダーラップを巻く**<br>足関節のテーピングを巻くために必要な分量のアンダーラップを、隙間なく薄くきれいに巻く練習をする。<br>上手に巻くポイントを理解して実践する。 | 動画資料を参考に、きれいにアンダーラップを巻く復習をする。 | 1時間 |
| 第4回 | **足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（アンカー、スターアップ）**<br>足関節内反捻挫で損傷されることが多い靭帯の名称と場所を確認する．<br>アンダーラップを巻いた後，コットンテープを用いて，足関節内反捻挫再発予防のための「アンカーテープ」と「スターアップ」を巻く練習をする．相手の姿勢に注意し，しわなく，たるみなく，隙間なく巻くことと、巻くときの強さや方向に注意する。 | 正確にアンダーラップが巻ける様にし，アンカー、スターアップを復習する． | 1時間 |
| 第5回 | **足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（ホースシュー）**<br>アンダーラップ、アンカー、スターアップを巻いた後，「ホースシュー」を巻く練習をする．特に、しわなく巻くポイントを理解して実践する。 | 正確にアンダーラップが巻ける様にし，ホースシューを復習する． | 1時間 |
| 第6回 | **足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（フィギュアエイト）**<br>アンダーラップ、アンカー、スターアップ、ホースシューを巻いた後，「フィギュアエイト」を巻く練習をする．相手の姿勢に注意し，方向に注意して、しわなく，たるみなく，隙間なく巻くポイントを理解して実践する。 | 正確にアンダーラップが巻ける様にし，フィギュアエイトを復習する． | 1時間 |
| 第7回 | **足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（完成）**<br>アンダーラップ、アンカー、スターアップ、ホースシュー、フィギュアエイトを巻いた後，「アンカー」と足裏の隙間を埋めるテーピングを巻く練習をする．最後に血行障害の有無を確認するまでにかかる時間を測ってみる。 | 正確にアンダーラップが巻ける様にし，一通りの手順を復習する． | 1時間 |
| 第8回 | **足関節内反捻挫再発予防のためのテーピング実習（時間短縮）**<br>足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングを相手の姿勢に注意し，しわなく，たるみなく，隙間なく、必要に応じてテーピングの方向に注意しながら５分以内に巻く練習をする。 | 時間内に完成させられるように復習する。 | 1時間 |
| 第9回 | **足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングのまとめと実技試験**<br>足関節内反捻挫再発予防のためのテーピングの実技試験を行う． | 試験での完成度を自己評価し，良かった点および不足していた点を振り返る． | 1時間 |
| 第10回 | **その他のテーピング**<br>アーチ保持、打撲や肉離れ、足関節内反捻挫再発予防のテーピングにヒールロックをプラスする、など、さまざまなテーピングを実践する。 | 実践したテーピングを復習し、その他のテーピングについても学ぶ。 | 1時間 |
| 第11回 | **ストレッチに向けた柔軟性評価**<br>ケガの予防やパフォーマンスと関連のある部位の柔軟性をチェックシートを用いて評価する． | 評価結果を見て，セルフケアの方法を予習する． | 1時間 |
| 第12回 | **下肢のストレッチとケア**<br>下肢の柔軟性評価を確認し、下肢のセルフおよびペアストレッチ，道具を用いたケアを行い，再び評価する． | 下肢のストレッチとケアを復習する．時間内に正確にアンダーラップおよびコットンテープが巻けるよう復習する． | 1時間 |
| 第13回 | **体幹部と上肢のストレッチとケア**<br>体幹部と上肢の柔軟性評価を確認し、体幹部と上肢のセルフおよびペアストレッチ，道具を用いたケアを行い，再び評価する． | 体幹部と上肢のストレッチとケアを復習する． | 1時間 |
| 第14回 | **ストレッチのまとめと実技試験**<br>筋肉のカードを引き、適切なストレッチを実践する。 | 各筋で適切なストレッチができるかどうか確認する。 | 1時間 |

SP-2018-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ソフトボール** | | | | |
| 担当教員名 | **山手・木田** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 教員歴29年をもとに、児童生徒にベースボール型の指導法を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

本授業では、学習指導要領に明記されたソフトボールの競技特性や楽しさ、ルールなどを理解し、中学・高校でのソフトボールの授業を円滑に行うことができる技能を身につける。前半（第1～7回）では中学・高校での授業を円滑に行うために必要なスローピッチ投法やウインドミル投法、ゴロ・フライのキャッチ、バッティングやノックなどの練習を行うとともに、その指導法を学修する。中盤から後半（第8～13回）では、リーグ戦を行い、チームの課題を明確にして、練習を行うことを繰り返す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | ソフトボール競技への関心・興味 | 球技の楽しさや喜びを深く味わい、ソフトボール競技への興味を深めることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | ソフトボールの授業に必要な技能の習得 | ソフトボールの授業に必要となる基礎技能をはじめ、ノックなど指導に必要な技能および指導法を習得することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | ソフトボール競技の指導法の理解 | 個人技能、集団技能を高め、指導法を理解し、実践することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・その他(以下に概要を記述)
　・ICT（専用機材・アプリ活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**注意事項等**

原則として、毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とする。

★木田先生クラスの評価基準
【評価の内容】実技テスト60%、課題20%、授業態度等20%
【評価の基準】1）競技特性の理解
2）基礎技術(パフォーマンス能力）の習得
3）指導者としての知識習得

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業への取り組み状況 | 40 % | ： | 授業でのルールを遵守し、積極的に授業に臨み活動できたかを評価する。自己評価カードを用いて行う。 |
| 授業内での修得状況 | 30 % | ： | 自己の課題設定ができ、基本プレイやルールが身についたかを評価する。自己評価カードを用いて行う。 |
| 毎週の課題提出 | 30 % | ： | 毎週提示する課題を提出し、内容が優れているかどうかを確認する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・運動のできる服装・靴で来ること。（ジーパンやサンダルは不可。着帽が望ましい。）
・毎回の授業内容を丁寧に復習し、ソフトボールを学ぶ姿勢で参加してください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の場所（教室・グランド）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **基礎技術1：キャッチボール（オーバー、アンダー、ウインドミル）**<br>ソフトボールの基礎となるボールの投げ方や捕球の仕方を身につける。また、ソフトボール独特の投法であるウインドミル投法を身につける。そして、これらの技能に関する指導法を検討する。<br>※オンデマンド講義の場合があるため、その際は、投げ方についての動画を見て、レポートを提出し、各自で練習しておく。 | 様々な投げ方についての理解を深めるよう、動画などを検索して見る。 | 1時間 |
| 第2回 | **基礎技術2：投げ方の練習**<br>オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。<br>1. まず、室内でいいので、タオルかなにかを持って、それを投げるまね（シャドーピッチング）をし、その動きを動画で撮影する<br>2. 次に、以下の動画を見て、投げる動作の練習をする<br>https://youtu.be/kXPgJGdNqqY<br>3. もう一度、タオルかなにかを持って、シャドーピッチングを行い、動画を撮影する<br>4. 動作や自分の感覚が変化したか、どのように変化したかを、詳細にレポートにまとめる（提出はフォームから） | 次回の授業までに、タオルでも何でもいいので、投げる練習をしておく。 | 1時間 |
| 第3回 | **基礎技術3：打ち方の練習**<br>オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。<br>1. まず、もし家にバットがあればバットを、なければ80cmくらいの棒や傘をバットの代わりにし、その動きを動画で撮影する<br>2. 次に、以下の動画を見て、バットスイング動作の練習をする<br>https://youtu.be/zLdgELNlbQ4<br>3. もう一度、バットスイング動作を行い、動画を撮影する<br>4. 動作や自分の感覚が変化したか、どのように変化したかを、詳細にレポートにまとめる（提出はフォームから） | 次回の授業までに、バットや棒を用いて、素振りをしておく。 | 1時間 |
| 第4回 | **基礎技術4：ゴロとフライの捕球**<br>オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。<br>1. 以下の動画を見て、「捕球」について学ぶ<br>https://youtu.be/Xkc0Lyng9iE<br>2. 次に、指定する動画を見て、ゴロやフライをプロ野球選手がどのように捕球しているかを確認する<br>（動画URLは都度指定する）<br>3. ゴロやフライの捕球の注意点をふまえ、プロ野球選手がどのように捕球しているかをまとめる（提出はフォームから） | 次回の授業までに、ゴロやフライの捕球について、タオルなどを用いてよいので、練習しておく。 | 1時間 |
| 第5回 | **基礎技術5：ルールの確認**<br>オンデマンド講義の場合には、以下の流れで行う。対面の際は、この内容を対面で指導する。<br>1. 動画を見て、「ルール」について学ぶ。<br>https://youtu.be/7a1_DKqxXEs<br>2. Googleフォームでテストをする。 | 次回の授業までに、ルールについて確認しておく。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第6回 | **基礎技術５：フリー打撃**<br><br>打撃練習としてよく用いられる、フリー打撃の仕方を身につける。また、これらの技能に関する指導法を検討する。 | 次回の授業までに、シートノックの流れを確認し、次回以降試合前に行うシートノックを全員が円滑に行うことができるよう準備しておく。 | 1時間 |
| 第7回 | **基礎技術６：シートノック、ケースノック**<br><br>守備練習の基礎となるシートノックの仕方を身につける。また、走者をつけた状態でのノック（ケースノック）を行い、守備の送球や走者の走塁の判断の練習を行う。また、これらの技能に関する指導法を検討する。 | ケースノックで表出した課題や、仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。 | 1時間 |
| 第8回 | **リーグ戦１：フライは即アウト**<br><br>リーグ戦を行う。特別ルールで、【フライが上がったときは即打者アウト】とする（プレーは継続）。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。 | フライを打つことの問題点や課題についてチームで話し合い、練習をしておく。 | 1時間 |
| 第9回 | **リーグ戦２：引っ張る方向の打球は即アウト**<br><br>リーグ戦を行う。特別ルールで、【引っ張る方向（右打者が三塁方向、左打者が一塁方向）に打ったときは即打者アウト】とする（プレーは継続）。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。 | 流し打ち方向の打撃に関する課題についてチームで話し合い、練習をしておく。 | 1時間 |
| 第10回 | **リーグ戦３：流し打ち方向の打球は即アウト**<br><br>リーグ戦を行う。特別ルールで、【流し打ち方向（右打者が一塁方向、左打者が三塁方向）に打ったときは即打者アウト】とする（プレーは継続）。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。 | 引っ張る方向の打撃に関する課題についてチームで話し合い、練習をしておく。 | 1時間 |
| 第11回 | **リーグ戦４：状況に応じたバッティングを意識して（ケース攻撃）**<br><br>リーグ戦を行う。これまでの３試合から、走者の位置に応じてどのような打球を打てばよいかを考えながら攻撃する。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。 | その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。 | 1時間 |
| 第12回 | **リーグ戦５：走塁を意識して**<br><br>リーグ戦を行う。走塁でのミスがないよう、しっかり判断しながら走塁できているかどうかを確認する。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。 | その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。 | 1時間 |
| 第13回 | **リーグ戦８：試合の総括**<br><br>リーグ戦を行う。最終戦として、これまでの成果が出ているかを確認しながら試合を行う。試合前のシートノックを、両チームで協力して行う。ルールや審判法等も併せて学び、試合運営ができるようにする。 | その日にチームとして出た課題や仲間からもらったアドバイスについて話し合い、練習をしておく。 | 1時間 |
| 第14回 | **達成度チェックおよび総評**<br><br>実技のテストやルールテストを通して、ソフトボールの競技特性や楽しさ、ルールなどを理解し、中学・高校でのソフトボールの授業を円滑に行うことができる技能を身につけることができたかを振り返る。 | これまでの授業内容について復習する。 | 1時間 |

SP-2019-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **柔道** | | | | |
| 担当教員名 | **林　弘典** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005～2022年）日本スポーツ協会コーチディベロッパー（2023年～現在）の3つ実務経験から、性別、年齢、競技種目に関わらず多様な学生に対応している。（1～14回） | | | | |

**授業概要**

武道（柔道）は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、中学校第1学年及び第2学年で必修とされている。本授業では、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことを学ぶ。また、武道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようになることを学ぶ。さらに、学習指導要領の武道の目標・内容を理解し、教材や指導法、指導計画（学習指導案）を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 柔道の概要、柔道の技術 | 柔道の創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓に関心を示すことができる。柔道の技術に関する質疑応答で意欲のある応答ができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 受け身 | 後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身ができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 礼法 | 立礼、座礼を通して相手を尊重できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 柔道の指導法 | 柔道の指導法に関する質疑応答で妥当な応答ができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| レポート | 30 % | ： | 第10回の授業において、柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）の理解度を5段階で評価する。 |
| 質疑応答 | 10 % | ： | 第1回～第14回の授業において、柔道の技術に関する質疑応答の妥当性を5段階で評価する。 |
| パフォーマンス評価 | 30 % | ： | 第14回の授業において、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）の完成度を5段階で評価する。 |
| パフォーマンス評価 | 20 % | ： | 第14回の授業において、礼法（立礼、座礼）の完成度を5段階で評価する。 |
| 質疑応答 | 10 % | ： | 第1回～第14回の授業において、柔道の指導法に関する質疑応答の妥当性を5段階で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

１．実践柔道論（小俣幸嗣、メディアパル）
２．一本をとる！柔道上達BOOK（小俣幸嗣、成美堂出版）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。以下に主な注意点を記す。

１．事故防止や学習効果を高めるために、適切なサイズの柔道衣（ゼッケン付き）の着用を義務づける。
２．柔道衣を持っている者は1回目の授業までサイズチェックを受けることができる。サイズが適切だった場合、ゼッケンだけを購入する。不適切な場合、適切なサイズの柔道衣（ゼッケン付き）を購入する。
３．腕時計やアクセサリー（ピアスや指輪など）は外す。
４．長髪の者はゴムで髪を束ね（ピンは使用しない）。
５．柔道衣の下には、男子は何も着用せず、女子はTシャツ等ボタンやファスナーのない衣類を着用する。
６．感染症防止のために、柔道衣の貸し借りをせず、使用した柔道衣はすぐに洗濯する。
７．体調を整えて参加する。
８．怪我防止のために、早めに柔道場に来てウォーミングアップをする。
９．各自で貴重品を管理する。

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、柔道衣の採寸、中学校学習指導要領の武道（柔道）の目標・内容、武術・武道・スポーツの目的、柔道の概要**<br>本授業の目的・計画、柔道衣の適切なサイズ、中学校学習指導要領の武道（柔道）の目標・内容、武術・武道・スポーツの目的、柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について学修する。 | シラバスを熟読する。柔道衣の適切なサイズ、中学校学習指導要領の武道（柔道）の目標・内容、武術・武道・スポーツの目的、柔道の概要について調べる。実践柔道論（小俣幸嗣、メディアパル）pp.84-86.を熟読する。 | 1時間 |
| 第2回 | **礼法（立礼、座礼）、後ろ受け身、前受け身**<br>礼の意味、礼法（立礼、座礼）受け身の目的、後ろ受け身、前受け身について学修する。また、その指導法について学修する。 | 礼の意味、礼法（立礼、座礼）、後ろ受け身、前受け身について調べる。 | 1時間 |
| 第3回 | **段位制度、横受け身、前回り受け身（立ち上がらない）**<br>段位制度、横受け身、前回り受け身（立ち上がらない）について学修する。また、その指導法について学修する。 | 横受け身、前回り受け身について調べる。 | 1時間 |
| 第4回 | **柔道衣の着方、前回り受け身、抑え技の3つの条件、横四方固め**<br>柔道衣の着方、前回り受け身、抑え技の3つの条件、横四方固めについて学修する。また、その指導法について学修する。 | 柔道衣の着方、前回り受け身、抑え技の3つの条件、横四方固めについて調べる。 | 1時間 |
| 第5回 | **上四方固め、組み方（柔道衣の握り方）、八方（はっぽう）の崩し**<br>上四方固め、組み方（柔道衣の握り方）、八方の崩し、膝車について学修する。また、その指導法について学修する。 | 上四方固め、組み方（柔道衣の握り方）、八方の崩しについて調べる。 | 1時間 |
| 第6回 | **袈裟固め、抑え技のポイント、膝車**<br>袈裟固め、抑え技のポイント、膝車について学修する。また、その指導法について学修する。 | 袈裟固め、抑え技のポイント、膝車について調べる。 | 1時間 |
| 第7回 | **絞め技の条件、裸絞め、支え釣り込み足**<br>絞め技の条件、裸絞め、支え釣り込み足について学修する。また、その指導法について学修する。 | 絞め技の条件、裸絞め、支え釣り込み足について調べる。 | 1時間 |
| 第8回 | **送り襟絞め、出足払い、燕返し**<br>送り襟絞め、燕返しについて学修する。また、その指導法について学修する。 | 送り襟絞め、出足払い、燕返しについて調べる。 | 1時間 |
| 第9回 | **三角絞め、大外落とし（大外刈り）**<br>三角絞め、大外落とし（大外刈り）を学修する。また、その指導法について学修する。 | 三角絞め、大外落とし（大外刈り）について調べる。 | 1時間 |
| 第10回 | **柔道の概要のレポートチェック**<br>柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）を正しく書いたレポートを作成・暗唱する。 | 柔道の概要（創始者名、正式名称、成立年、理念・原理、遺訓）について暗唱できるようにする。 | 1時間 |
| 第11回 | **関節技の条件、腕挫十字固め、大内刈り**<br>関節技の条件、腕挫十字固め、大内刈りを学修する。また、その指導法について学修する。 | 関節技の条件、腕挫十字固め、大内刈りについて調べる。 | 1時間 |
| 第12回 | **体落とし、武道（柔道）の単元計画・授業計画**<br>体落としを学習する。また、その指導法について学修する。さらに、武道（柔道）の単元計画・授業計画について学修する。 | 体落とし、武道（柔道）の単元計画・授業計画について調べる。 | 1時間 |
| 第13回 | **審判法（ルール）、試合、武道（柔道）のモデルとなる授業** | 審判法（ルール）、試合、武道（柔道）のモデルとなる授業について調べる。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 審判法（ルール）や試合の仕方を理解し、試合をする。武道（柔道）の単元計画・授業計画について学修する。また、武道（柔道）のモデルとなる授業をグループで検討する。 | | |
| 第14回 | **パフォーマンス評価、まとめ**<br><br>礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）を演技する。また、今までの授業内容を振り返り、まとめをする。 | 礼法（立礼、座礼）、受け身（後ろ受け身、横受け身、前受け身、前回り受け身）について復習する。 | 1時間 |

SP-2020-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ダンス** | | | | |
| 担当教員名 | **大西・東出** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 大西：小学校体育専科講師として勤務し、小学校1年生から6年生までの全領域の体育授業を担当した経験を踏まえ、ダンス授業の教材及び指導法について教授する。<br>東出：中高保健体育教員としての勤務経験と、国内外でのダンサーとしての活動を踏まえ、ダンス授業の教材及び指導法について教授する。 | | | | |

**授業概要**

ダンスは、我が国の学校体育の一領域として位置づけられており、中学校第1学年及び第2学年では必修の領域となっている。まずは受講生自身がダンスの魅力に触れながら、序盤では、学習指導要領に明記されている創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス（民踊を含む）の目標・内容を理解しながら、教材や指導法について実践的に学ぶ。終盤では、これまで学んだことを踏まえ、グループでダンスを制作するための指導計画（学習指導案）を立て、発表会の行い方についても理解し実施する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 日常的な動きの振り付け、現代的なリズムのダンス、フォークダンス | 一連の踊りを覚えて踊ることができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 作品制作、作品発表会 | グループで協同して作品を創作し発表することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング、Excel、動画や音楽の専用のアプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

毎回のダンスパフォーマンスを映像で記録することでポートフォリオを作成し、自身の振り返りの手立てや評価のための資料とする。

**成績評価**

**注意事項等**

グループ作品の発表を実施できなかった場合は、成績評価の対象としない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 60 % | ： 毎時のパフォーマンスもしくは学習シートの到達度と課題への取り組みを60点満点で評価する。 |
| 作品発表 | 40 % | ： グループで制作したダンス作品を評価シートに沿って40点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『中学校学習指導要領解説　保健体育編』（文部科学省，2018）。ネットからもダウンロード可。その他の参考文献及び映像については適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本講座は最終の作品発表に向けて内容を積み重ねるように構成されています。また後半ではそれらの積み重ねを踏まえ、グループでダンスの作品を制作します。そのため、欠席は自身の学習のみならず、グループの仲間の学習を妨げることにもなります。心して取り組んでください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　大西研究室（B206）

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ダンスの学び方**<br>授業計画、到達目標を知る。<br>学習指導要領における目標・内容を理解する。 | ダンスの動画を視聴し、イメージを持つ | 1時間 |
| 第2回 | **日常的な動きによる振り付け**<br>日常的な動きによる一連の振り付けを覚えて踊る。 | ウォーミングアップやストレッチの正しい行い方を習得する | 1時間 |
| 第3回 | **現代的なリズムのダンス①（ヒップホップ導入編）**<br>ヒップホップを教材に型のある動きをリズムに乗って行う。 | ヒップホップの動画を視聴し、イメージを持つ | 1時間 |
| 第4回 | **現代的なリズムのダンス②（ヒップホップ理論編）**<br>ヒップホップの文化的、歴史的な背景を知る。<br>ヒップホップを教材に型のある動きをリズムに乗って行う。 | ヒップホップのジャンルについて調べる | 1時間 |
| 第5回 | **フォークダンス①（外国の踊り）**<br>アメリカ、イスラエルの代表的なフォークダンスを踊る。<br>諸外国のダンスの文化的、歴史的な背景を知る。 | これまで経験したフォークダンスを振り返る | 1時間 |
| 第6回 | **フォークダンス②（民踊）**<br>南中ソーラン節を踊る。<br>日本のダンスの文化的、歴史的な背景を知る。 | これまで経験した民踊を振り返る | 1時間 |
| 第7回 | **創作ダンス①（ステップ）**<br>ケンパの動きの組み合わせに空間や時間の要素を加え、振り付けを行う。 | さまざまなステップの動画を視聴し、イメージを持つ | 1時間 |
| 第8回 | **創作ダンス②（小道具）**<br>ポンポンなどの教具を用いて振り付け考え踊る。 | 小道具を用いているダンスを視聴し、イメージを持つ | 1時間 |
| 第9回 | **作品制作①（計画）**<br>グループに分かれて、指導（学習）計画を立て実行する。<br>楽曲を決定する。 | 踊りたい楽曲を選んでおく | 1時間 |
| 第10回 | **作品制作②（動き）**<br>振り付けのための動きづくりを行う。 | 踊りたい動きをみつけておく | 1時間 |
| 第11回 | **作品制作③（構成）**<br>踊りを踊る位置や隊形を決める。<br>作品に「はじめ-なか-おわり」をつける。 | ダンスの映像からさまざまな構成を調べておく | 1時間 |
| 第12回 | **プレ作品発表会**<br>作品の発表及び鑑賞の仕方を知る。<br>グループごとに作品の振り返りを行う。 | 発表に向けて練習を行う | 1時間 |
| 第13回 | **作品制作④（修正）**<br>映像や評価シートを見て、自分たちの作品を修正する。 | 自分たちの作品を視聴する | 1時間 |
| 第14回 | **作品発表会**<br>グループの作品鑑賞と評価を行う。 | 評価の観点をおさらいする | 1時間 |

SP-2022-2-2

| 授業科目名 | 体つくり運動・健康体操 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 屋　京典 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊前期・後期 | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 大学の非常勤講師としてスポーツ実技や体育を担当し、またバイオメカニクスや運動認知分野での研究活動を通じ、最新の科学的な知識を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

「体つくり運動」では、「体力を高める運動」と「体ほぐしの運動」で構成され、健康を維持増進させる様々な運動の理論と実践を身につける。身体の様々な動きから手具を使った運動までの合理的、効果的な運動のしかたを理解する。さらに、生涯スポーツとして「健康体操」を実施する幅広い年齢層に対して、民間スポーツクラブや公共の総合型スポーツクラブ、教育機関で指導できる実践力の修得を目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 自己の体の状態を知る。そのうえで体を動かす。 | 自己の姿勢や、筋力のバランスを知る。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 身体の使い方を感じながら関節や筋肉の使い方を学ぶ。 | 自己の専門種目に応じた身体の使い方を知る。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。また実技の考案と発表を2～3回行います。実技の採点を行いますので発表の資料と出席は必須です。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 実技課題に関する小テスト | 40 % | ： | 実技課題のテストを行う。対象や狙いに応じた運動を構築できているか、わかりやすく解説し見本となる運動が正確にできているかどうか等を5段階で評価する。 |
| 授業ワークシート | 30 % | ： | 自己評価や、他の学生の作品についての相互評価等の内容について評価する。 |
| 授業参加度 | 30 % | ： | 自己評価や、他の学生の作品についての相互評価等の内容について評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

文部科学省　学校体育実技指導資料集第７集　体つくり運動　－授業の考え方と進め方－　（改訂版）　２０１３年５月

文部科学省　中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　保健体育編　平成２９年７月

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　金曜日　授業前後

**場所**：　体育館

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、「体つくり運動」についての紹介・説明、姿勢チェックを行い、自己の体のゆがみを知る**<br>本授業の内容紹介、方針、成績評価の説明。<br>「準備体操」を考える。 | 各自が体験した体操の紹介を行う。 | 1時間 |
| 第2回 | **姿勢チェックと改善法**<br>クライムラインを使用した姿勢チェックと簡単な動作の姿勢チェック法を実施し、自己の身体のゆがみを知り、改善方法を実施する。 | 姿勢を通して正しい動き方の基本を考える。 | 1時間 |
| 第3回 | **ストレッチとリラクゼーション・ピラティスのウォーミングアップを知る。**<br>運動を効果的に行うため、また疲労回復のためのストレッチ各種とリラクゼーションの実践。<br>各自の専門種目に関するストレッチを考える。<br>また、ウォーミングアップを実践する。 | 運動前後に行う各自の専門種目に即したストレッチを考察する。 | 1時間 |
| 第4回 | **ミニボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践①**<br>ミニボールの基本の動きを学ぶ。<br>バミニボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学ぶ。 | 各自の姿勢を自覚し、ミニボールを使用して正していくことを考える。 | 1時間 |
| 第5回 | **ミニボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践②**<br>ミニボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、筋力トレーニングを行う。 | ボールを用いて体幹部の安定と強化を図る。 | 1時間 |
| 第6回 | **バンドを使用した「体づくり運動」の紹介と実践①**<br>バンドの基本の動きを学ぶ。<br>バンドを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格と筋力）のバランスを整える運動の基本を学ぶ。 | バンドを用いた上肢・下肢・体幹のトレーニングを実践する。 | 1時間 |
| 第7回 | **バンドを使用した「体づくり運動」の紹介と実践②**<br>バンドを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、筋力トレーニングを行う。 | バンドを用いて体幹部の安定と強化を図る | 1時間 |
| 第8回 | **ミニボールまたはバンドを使用し、専門種目に関するエクササイズを考え、実践する。**<br>ミニボールまたはバンドを使用し、目的とする運動種目の特性を踏まえて4種目のエクササイズを考案し実践する。<br>また、受講生に考案したエクササイズを紹介する。 | バランスボールの基本の使用方法と実践 | 1時間 |
| 第9回 | **バランスボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践①**<br>バランスボールの基本の動きを学ぶ。<br>バランスボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格と筋力）のバランスを整える運動の基本を学ぶ。 | バランスボールを用いて体幹部の安定と強化を図る | 1時間 |
| 第10回 | **バランスボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践②**<br>バランスボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、よりバランス調整力を必要とする筋力トレーニングを行う。 | 自己の専門種目に関するエクササイズの考案と実践。 | 1時間 |
| 第11回 | **バランスボールを使用した「体づくり運動」の紹介と実践③**<br>バランスボールを使用したエクササイズの紹介と実践を行い、体（骨格、筋肉）のバランスを整える運動の基本を学び、関節の可動範囲を広げるとともに、よりバランス調整力を必要とする筋力トレーニングを行う。 | 目的とする運動種目の特性を踏まえて運動を選択する。 | 1時間 |
| 第12回 | **バランスボールをを使用した専門種目に関するエクササイズを考え、実践する。①**<br>バランスボールを用いて、目的とする運動種目の特性を踏まえて4種目のエクササイズを考案し実践する。<br>また、受講生に考案したエクササイズを紹介する。 | 目的とする運動種目の特性を踏まえて運動を選択する。 | 1時間 |
| 第13回 | **バランスボール使用した専門種目に関するエクササイズを考え、実践する。②** | 目的とする運動種目の特性を踏まえて運動を選択する。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 3種バランスボールを用いて、目的とする運動種目の特性を踏まえて4種目のエクササイズを考案し実践する。<br>また、受講生に考案したエクササイズを紹介する。<br><br>2人以上でバランスボールを用いたエクササイズの紹介と実践を行う。 | | |
| 第14回 | **多様な対象者や狙いに応じた運動の指導方法**<br><br>3種の手具やエクササイズの復習と実践。多様なニーズに応じたエクササイズを実践する。<br>授業ノートの確認と単元のまとめを記入し、提出する。 | これまでの実践を振り返り、授業ノートにまとめる。 | 1時間 |

SP-2023-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **障がい者スポーツ** | | | | |
| 担当教員名 | **中道　莉央・小西　暢子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている競技の実技を通し、基礎的な技能の習得と基本的なルールの理解を目的とする。また、授業の中では障がいのある方との交流機会も設けており、障がいのある人への理解も深める。さらに、障がい者スポーツでは心身機能の障がいを補うために仲間とのコミュニケーションが重要であることから、受講者同士の協同性、アダプテッド・スポーツの考え方をもとにしてルールや用具を工夫する柔軟な思考力も身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 障がい者スポーツに対する関心・意欲 | 障がい者スポーツのルールや行い方に関心を持ち、安全に楽しく行えるように意欲的に取り組むことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | アダプテッド・スポーツに関する知識・技能 | 障がい者スポーツの基本的なルールや行い方、アダプテッド・スポーツの考え方を理解し、自分の能力等に応じて実践することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アダプテッド・スポーツの実装に向けた思考 | アダプテッド・スポーツの考え方をもとに、誰もが実質的にスポーツに参加できる環境を思考し、自身の価値観にもとづいて判断したことを表現することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 障がい者スポーツの推進 | 障がい者スポーツの発展や障がいのある人のふくし（ふだんのくらしをしあわせにする）の充実を主体的かつ協働的に推進する姿勢を身につける。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：滋賀県ゴールボール協会、LAKE SHIGA 車いすバスケットボールクラブほか（地域、社会の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング、Power Point、動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

毎時の授業への取り組み状況（知識・理解）においては、実技のパフォーマンス評価も行う。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎時の授業への取り組み状況（関心・意欲） | | ： 障がい者スポーツのルールや行い方に関心を持ち、安全に楽しくできるように意欲的に取り組むことができているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。 |
| | 15　% | |
| 毎時の授業への取り組み状況（知識・技能） | | ： 毎時のパフォーマンス（障がい者スポーツの基本的なルールや行い方、アダプテッド・スポーツの考え方を理解し、自分の能力等に応じて実践することができているかどうか）を秀、優、良、可、不可で評価する。 |

35　%

毎時の授業への取り組み（思考等）と中間レポート　：　アダプテッド・スポーツの考え方をもとに、誰もが実質的にスポーツに参加できる環境を思考し、自身の価値観にもとづいて判断したことを他者に伝えているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。

25　%

期末レポート（学びに向かう力、人間性）　：　第14回授業において、障がい者スポーツの発展や障がいのある人のふくし（ふだんのくらしをしあわせにする）の充実を主体的かつ協働的に推進しようとしているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。

25　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

(公財)日本パラスポーツ協会編 『改訂版　障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）：2020改訂カリキュラム対応』 ぎょうせい. 2023.
(公財)日本パラスポーツ協会編 『令和5年度　全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』 日本パラスポーツ協会. 2023.

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・ゴールボール、車いすバスケットボールの授業では、障がいのある当事者の方に指導に来ていただくことを予定している。
・なお、本科目は、(公財)日本障がい者スポーツ協会「初級・中級障がい者スポーツ指導員」の資格取得には必須の授業である。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス／全国障害者スポーツ大会の概要**<br>全国障害者スポーツ大会の歴史を振り返り、大会の目的や意義の理解を深める。 | 全体の授業の流れを適切に把握しておく。全国障害者スポーツ大会の実施競技・種目について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第2回 | **全国障害者スポーツ大会選手団の編成**<br>全国障害者スポーツ大会における選手団構成の人数と出場資格、選手選考の方法について理解する。 | 全国障害者スポーツ大会競技規則集に記載されている開催基準要綱の内容を理解しておく。 | 1時間 |
| 第3回 | **障がいに応じたスポーツの工夫・実施（移動支援体験・ブラインドサッカー）**<br>・移動支援体験して、次の①と②のペア学習を行い、視覚情報が遮断された状態でも、適切な支援があれば移動や運動が可能であることを理解する。（①アイマスクを着用して視覚情報が遮断された者／② ①を手引きする者）<br>・ブラインドサッカーの基本的な操作を確認した上で、ブラインドサッカーにおけるパス・シュートの基本練習とミニゲームを行う。 | ブラインドサッカーの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第4回 | **障がいのある人との交流（ゴールボール）※外部講師**<br>ゴールボールの基本的動作を確認した上で、障がい当事者（視覚障がい）とゴールボールを通じた交流を行う。 | 視覚障がい者や視覚障がい者のスポーツを理解するとともに、ゴールボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第5回 | **障がいに応じたスポーツの工夫・実施（陸上競技）**<br>車いすスラロームやアイマスクを着用した走幅跳等、競走競技と跳躍競技の基本練習とミニレースを行う。 | 障がい者スポーツとしての陸上競技の種目とそれらの基本的なルールについて調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第6回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（陸上競技・競走／跳躍）**<br>全国障害者スポーツ大会における陸上競技（競走／跳躍）の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した競走および跳躍の基本的な指導法を体得する。 | 全国障害者スポーツ大会における陸上競技（競走／跳躍）の競技規則について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第7回 | **障がいに応じたスポーツの工夫・実施（シッティングバレーボール）**<br>座位姿勢で運動する感覚を体感し、シッティングバレーボールのレシーブ・トス・アタックの基本練習とミニゲームを行う。 | シッティングバレーボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第8回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（バレーボール）**<br>全国障害者スポーツ大会におけるバレーボールの競技規則を確認した上で、障がいの特性に応じた基本的な指導法を体得する。 | 全国障害者スポーツ大会におけるバレーボールの競技規則について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第9回 | **障がいのある人との交流（車いすバスケットボール）※外部講師**<br>競技用車いすバスケットボールの基本操作を確認した上で、障がい当事者（肢体不自由）と車いすバスケットボールを通じた交流を行う。 | 肢体不自由者や肢体不自由者のスポーツを理解するとともに、車いすバスケットボールの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第10回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（車いすバスケットボール）** | 全国障害者スポーツ大会における車いすバスケットボールの競技規則について調べ、理解しておく。 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 全国障害者スポーツ大会における車いすバスケットボールの競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した基本的な指導法を体得する。 | | |
| 第11回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（フライングディスク）**<br><br>フライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）の基本的なディスクの投げ方を理解し、基本練習とミニゲームを行う。また、競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した基本的な指導法を体得する。 | アキュラシー・ディスタンスの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。また、全国障害者スポーツ大会におけるフライングディスク（アキュラシー・ディスタンス）の競技規則について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第12回 | **最重度障がい者のスポーツの実際（ボッチャ）**<br><br>身体機能に重い制限がある状態で運動することを疑似的に体感し、ボッチャの基本的練習とミニゲームを行う。 | ボッチャの基本的技能、ルールやゲームの行い方について調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第13回 | **最重度障がい者のスポーツの実際（ボッチャランプ使用）**<br><br>身体機能に重い制限がある状態で運動することを疑似的に体感し、ランプやヘッドポインター等の補助具を用いてミニゲームを行う。 | パラリンピック等においてボッチャを競技している人はどのような障がいを有しているのか、ランプやヘッドポインターを用いる時に介助者にはどのようなことが求められるかについて調べ、理解しておく。 | 1時間 |
| 第14回 | **障がい者スポーツ指導者制度の理解（まとめ）**<br><br>障がい者スポーツ指導員制度における資格の種類と役割を理解する。また、これまでの授業内容を踏まえ、障がい者スポーツの特徴や魅力とは何かを理解する。 | 障がい者スポーツ指導員制度について、日本障がい者スポーツ協会等のＨＰを参照しながら概要を調べ、理解しておく。また、これまでの授業内容を踏まえ、障がい者スポーツの特徴や魅力とは何かを整理しておく。 | 1時間 |

SP-2024-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **レクリエーションスポーツ** | | | | |
| 担当教員名 | **橋本　和俊** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

近年、競技性の高いスポーツ種目に加え「レクリエーションスポーツ」が行われている。レクリエーションスポーツとは、これまで競技としてのスポーツに親しんできた者だけでなく、「いつでも・どこでも・誰でも、そしていつまでも」をキーワードに生涯スポーツの一環として普及されてきている。授業では様々なスポーツ種目（5種程度）を取り上げ、その歴史やルールを学習し、スキルの獲得を目指す。さらには新スポーツの企画や運営、指導についても実践を通して学修する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 各種レクリエーションスポーツの実践 | 新しいスポーツの体験から、そのスポーツに関する歴史や背景を捉え、意欲的に活動できる態度を養うことができる |
| 2. DP2.知識・技能 | 各種レクリエーションスポーツの実践 | 新しいスポーツのルールやスキルについて理解することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 各種レクリエーションスポーツの実践 | 新しいスポーツの発展や応用について理解し、スキルや自分自身の考えを体現・表現することができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 各種レクリエーションスポーツの実践 | 各種スポーツを実施するにあたって、集団で取り組みの中から、主体的で協働的な態度を養うことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
「ICT(タッチタイピング）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| レポート | 50 % | ： | ニュースポーツの各種目（5種目）の種目特性や自身の考えによる理解度を、スポーツ種目終了後にレポートを設け、評価する（5種目×10点＝50点）。 |
| 新スポーツ企画案の作成 | 10 % | ： | ニュースポーツ体験後に独自のスポーツ種目の企画案を作成し、その企画書の構成・内容・わかりやすさ・工夫点等の観点から評価する。 |
| 小レポート（授業理解） | 40 % | ： | 授業中に課す小レポートの内容について思考・表現力、具体性、体験の意味づけ等を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびレクリエーションスポーツの概念の理解**<br>レクリエーションスポーツについての概念・理念や、授業概要について学習する。 | レクリエーションスポーツに関する様々な競技について調べる。 | 1時間 |
| 第2回 | **ディスクゴルフの歴史と基礎スキル**<br>ディスクゴルフの歴史やルール、基礎的な技術などの基本動作を習得する。 | ディスクゴルフの歴史や発展について調べる。 | 1時間 |
| 第3回 | **ディスクゴルフの実践と応用**<br>ディスクゴルフのコース設定や独自のルールの設定など、ディスクゴルフを応用した実践を行う。 | ディスクゴルフの独自のコースやルールの設定により、新たな観点からレクリエーションの要素を用いた実践について自身の考えをまとめる。 | 1時間 |
| 第4回 | **アルティメットの歴史と基礎スキル**<br>アルティメットの歴史や基礎的な技術などの基本動作を習得する。 | アルティメットの歴史や発展、現状について調べる。 | 1時間 |
| 第5回 | **アルティメットの戦術やルール理解**<br>アルティメットの競技特性や戦術、ルールを理解する。 | アルティメットのルールや特徴についてレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **アルティメットの実践と応用**<br>チーム対抗のゲーム形式によるアルティメットの実践を行う。学生相互の「セルフジャッチ」を主体としたゲーム展開について学ぶ。 | 競技スポーツとレクリエーションスポーツとの違いについて自身のアルティメットの体験を踏まえレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **ペタンクの実践と応用**<br>ペタンクについて歴史やルールについて学習し、実践する。 | ペタンクの歴史やルール、実践の応用、種目特性について調べる。 | 1時間 |
| 第8回 | **キンボールの歴史と基礎スキル**<br>キンボールの歴史やルール、技術などの基本動作を習得する。 | キンボールの歴史やルール、実践の応用、種目特性について調べる。 | 1時間 |
| 第9回 | **キンボールの戦術やルールの理解**<br>キンボールの競技特性や戦術、ルールを理解する。 | キンボールのルールや特徴についてレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第10回 | **キンボールの実践と応用**<br>グループによるゲームから、キンボールの種目特性や戦術について学習する。とくに「３チームで競う」観点からどのような運営や勝敗のつけ方を行うとよいかを学ぶ。 | キンボールの種目特性からレクリエーションスポーツの競技性についてレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第11回 | **インディアカの歴史と基礎スキル**<br>インディアカの歴史や基礎的な技術などの基本動作を習得する。 | インディアカに関連するスポーツやその歴史やルールについて調べる。 | 1時間 |
| 第12回 | **インディアカの戦術やルールの理解**<br>インディアカの競技特性や、そのルールを理解する。 | インディアカのルールや特徴についてレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第13回 | **インディアカの実践と応用**<br>インディアカについて試合形式にて実践し、この競技が持つ特有の楽しさや戦術理解を身に付ける。 | インディアカの種目特性についての自身体験から考えをレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第14回 | **達成度チェックおよびまとめ**<br>各種目での達成度チェックを含めレクリエーションスポーツの企画や運営方法、競技特性の活用など本授業の総括を行う。 | レクリエーションスポーツやその指導に関するレポート課題に取り組む。 | 1時間 |

SP-2025-2-2

| 授業科目名 | エアロビックダンス | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 藤松　典子 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

エアロビックダンスエクサイズをトレーニング理論に基づきながら、特性、効果を理解し、安全に運動をおこなう。音楽に合わせ大筋群をリズミカルに動かしながらトレーニングする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 有酸素運動の理解と実践。 | エアロビクス理論の背景を理解し、意欲的に取り組む。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 有酸素運動の特性、効果の理解と安全な運動。 | 基本的なエアロビックダンスのプログラム構成を理解し安全なプログラムを作成できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（動画活用）、ICT（専用機材・アプリ活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 中間発表 | 30 % | ： | 中間発表として筋の強化、ストレッチのプログラム発表でで評価する |
| 学期末発表 | 50 % | ： | 学期末としてプログラムの作成、指導能力を50点で評価する |
| レポート作成物 | 20 % | ： | プログラム、コリオグラフィーの作成、提出物で評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「エアロビックダンスの実技指導」　（社）日本エアロビックフィットネス協会「最新　フィットネス基礎理論」　（社）日本エアロビックフィットネス協会

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **フィットネス概論、エアロビクス理論・からだ慣らし**<br><br>日本人の健康問題、生活習慣病予防のための有酸素運動の効果を理解する。<br>簡単なステップのプログラムで、エアロビックダンスを体験する。 | 現代の日本人の健康問題、五大疾病について調べ、生活習慣病について知るとともに予防方法を上げまとめてくる。 | 1時間 |
| 第2回 | **基本ステップ（ローインパクトステップを中心に）**<br><br>エアロビックダンスの各パートの目的について学習し、エアロビックダンスにおける基本ステップ（特にローインパクトステップ）を体得する。 | 基本ステップの名称、運動強度について学習した内容を整理してまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **ローインパクトステップとハイインパクトステップの組み合わせ**<br>エアロビックダンスにおける基本ステップ（特にハイインパクトステップ）を体得する。<br>ローインパクトとハイインパクトの配分について学習する。 | ハイインパクトステップは運動強度が高いので日ごろよりトレーニングをしておく。 | 1時間 |
| 第4回 | **基本のプログラム**<br><br>エアロビックダンスの基本プログラムである、ウォーミングアップ、メインエクササイズ、筋の強化、クールダウンの各パートの目的を理解しながら体験する。 | 指導対象者を設定し、各パートの目的を整理しておく。 | 1時間 |
| 第5回 | **運動強度コントロールの方法**<br><br>運動強度の変化の仕方、させ方を体験する。<br>エアロビックダンスの特性のひとつとして、参加者に合わせて強度を変化させられることを理解し運動強度の調整手法を学ぶ。 | 運動強度を変化させる要因の整理と具体例をまとめてくる。 | 1時間 |
| 第6回 | **基本姿勢を学ぶ**<br><br>各種ステップを正しいアライメントで実施できるよう、理論と実技を行う。<br>日ごろの自分の癖が出たり、自分では気づかない姿勢に気づく場とする。 | 姿勢について、特に自分の興味のあるスポーツの効率の良い姿勢を調べてまとめてくる | 1時間 |
| 第7回 | **コンビネーションの組立て方と中間発表**<br><br>ハイインパクトステップを中心にステップの組み合わせ方の基本を理解する。<br>前半は教員の作成したプログラムを受講してきたが、これまでの基本ステップが正しい姿勢で動けているのか、ステップの名称が理解できているか、の観点から中間発表を実施する。 | これまでの復習および課題のコンビネーションを十分練習しておく。 | 1時間 |
| 第8回 | **筋の強化プログラム**<br>主な大筋群を正しい姿勢により自体重で強化する。<br>重力を考慮し、1つの筋に対して何種類かの方法を学習する。 | 筋の名称と部位、働きについて復習しておく。 | 1時間 |
| 第9回 | **クールダウンプログラム**<br>ストレッチを中心にしたプログラムで運動前に近い状態に戻し、気持ちよく運動を終了させるためのストレッチとリラクゼーション、呼吸法を理解する。<br>また、1つの筋に対して何種類かの方法を学習する。 | 骨の名称と部位、骨の形状等を復習しておく。 | 1時間 |
| 第10回 | **ウォーミングアッププログラム**<br><br>ウォーミングアップの目的を理解する。筋温、体温を徐々に上昇させ、心拍数を上げていくため、大筋群をリズミカルに動かす方法を習得する。 | いくつかのパターンのウォーミングアップのプログラムを作成する。 | 1時間 |
| 第11回 | **メインエクササイズプログラミング**<br><br>エアロビックダンスのメインプログラムである有酸素運動パートです。足を止めることなく運動を持続する方法を学習する。徐々に心拍数を上昇させ、目標心拍数に到達したら運動を継続させる方法の理解を深める。 | 学期末発表のための3分間のプログラムを完成させる。 | 1時間 |
| 第12回 | **コリオグラフィーの組み立て方**<br><br>エアロビックダンスのメインプログラムである有酸素運動、足を止めることなく運動を持続するプログラムの作成をするに当たり、振り付けを考えつなぎ合わせていく。徐々に心拍数を上げていく3分間のメインパートのプログラムを作成、指導実習を行う。 | 学期末発表のための3分間のプログラムを完成させる。 | 1時間 |
| 第13回 | **プログラムの指導法**<br>作成したプログラムを指導する方法を学習する。<br>明確でタイミングの良いキューイング、指導者である本人の正しい動き方と見せ方、正しい姿勢を意識する。受講生同士で実施する。受講者の立場で分りやすい指導の方法を学習する。 | キューイングのタイミングを習熟し、暗記する。 | 1時間 |
| 第14回 | **指導実習・発表** | キューイングのタイミングを習熟し、観察、修正、賞賛ができるようにする | 1時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 作成したプログラムを指導する方法を習熟する。ナンバーキューや方向キューなどのビジュアルキューイングと言葉がけのバーバルキューイングを適切に使い分け、プログラミング、指導、本人の動きが評価のポイントとなる。<br>指導者として明るく元気に明確な動きと声出しで指導できるよう技能を体得する。 | | |

SP-2026-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ哲学概論** | | | | |
| 担当教員名 | **黒須　朱莉** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

体育・スポーツとは何か？体育・スポーツの問題点や可能性とは何か？といった問いを基点としながら、スポーツ哲学や体育原理で扱われてきた概念及び体育とスポーツに対する哲学的／倫理学な見方・考え方、そしてスポーツにおける重要人物の思想を学ぶ。
これらの学びを土台として、体育とスポーツに関する原理的知識について理解するとともに、スポーツの問題と可能性を主体的に考えていく態度を養う。また、こうした態度を養いながら、学習指導要領における「体育理論」領域の目標・内容及び教材についての理解も深めていく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツの哲学的見方、原理に対する関心・意欲 | 体育・スポーツに関する重要な概念や捉え方について関心をもち、説明することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ哲学の知識・技能 | 体育・スポーツに関する重要な概念や捉え方について説明できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 哲学的な問いかけに対する論理的思考 | 自身とスポーツの関わりや歴史を客観的に捉え、論理的にそれを表現することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツの哲学的価値を主体的に学び、多様なスポーツのあり方を原理的に考察する力 | スポーツの原理と多様な捉え方について説明することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

遠隔授業（オンデマンド）を活用して授業を行います。
ICT（タッチタイピング）、ICT（PowerPoint）、ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業課題 | 50 % | ： 体育とスポーツの概念、運動部活動の問題点、ドーピングの問題点と哲学的問い、フェアプレイの考え方、体罰のメカニズム、著名なスポーツ人の思想の要点を理解できているかを評価する。 |
| レポート | 20 % | ： 「自分にとってのスポーツとは？」という問いに対し、①これまでの経験を振り返りながら、②論理的に答を述べることができているかを評価する。 |
| 確認テスト | 10 % | ： 第2回から7回までの授業の要点を知識として習得できているか評価する。 |
| 期末試験 | 20 % | ： 第2回から7回、12、13回までの授業の要点を知識として習得できているか評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

久保正秋『体育・スポーツの哲学的見方』東海大学出版会、2010年。

友添秀則・岡出美則 編著『教養としての体育原理』大修館書店、2016年。
友添秀則編『よくわかるスポーツ倫理学』ミネルヴァ書房、2017年。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
スポーツに関する事象について「なぜ？」と問いかける癖をつけること。それが、哲学的思考の第一歩になる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 随時

**場所：** メール

**備考・注意事項：** 質問等あれば、基本的には事前にメールで連絡すること（黒須 kurosu@g.bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「所属コース」「学籍番号」を明記すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス・スポーツ哲学を学ぶ意義（遠隔）**<br>授業全体の概要と、スポーツ哲学を学ぶ意義について理解する。 | 評価項目やルールについて確認する。スポーツにおける問題や規範について整理する。 | 4時間 |
| 第2回 | **体育・スポーツとは①（スポーツとは？）（遠隔）**<br>スポーツの概念を歴史的な視点を踏まえて理解する。「プレイ論」の考えを理解する。 | 授業の復習をする。日本における体育とスポーツの混合の事例について調べる。 | 4時間 |
| 第3回 | **体育・スポーツとは②（体育とは？）（遠隔）**<br>体育の概念について理解する。前回のスポーツと体育の概念を踏まえて、学習指導要領の「体育理論」の目標・内容について理解する。 | 3回までの授業の内容を復習し、体育とスポーツの概念について説明できるようにする。 | 4時間 |
| 第4回 | **体育・スポーツとは③（運動部活動における指導者―教師／コーチ論を問う―）（遠隔）**<br>運動部活動の指導者における問題と過熱する部活動のメカニズムをスポーツ哲学の知見を通して理解する。 | 第2回から4回までの講義資料をもとに自身の内容の理解度を把握しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツにおける問題と規範を考える①（ドーピングについて考える）（遠隔）**<br>ドーピングの語源、スポーツにおけるドーピング問題の歴史、アンチ・ドーピング活動について、近年の遺伝子ドーピングの事例と、スポーツ倫理学におけるドーピングを対象とした学術的な議論（セルフ・ドーピング）について理解する。 | 授業の復習を行うとともに、JADAのHPを閲覧し取り組みの全体像を把握する。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツにおける問題と規範を考える②（フェアプレイについて考える）（遠隔）**<br>フェアプレイに関するスポーツ倫理学における見方を学び、実際のスポーツ現場における事例を考察する。 | 授業内で取り上げた事例以外を取り上げ、学んだ視点で考察する。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツにおける問題と規範を考える③（体罰について考える）（遠隔）**<br>スポーツ哲学における体罰に関する研究成果を学び、実際の体罰の事例について考察する。 | 昨今の体罰根絶に向けたニュースや取り上げられている事例を調べ、授業で学んだ体罰温存や行使のメカニズムの理論をもとに考察してみる。 | 4時間 |
| 第8回 | **第2回から7回までの授業内容の振り返りと確認（対面）**<br>第2回から7回までの授業の復讐と、基本的な知識および考え方の要点を振り返り、確認する。 | 理解が不十分なトピック（授業内容）はないか復習し、資料をもとに理解に努めること。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツの思想を学び・考える①（スポーツ大学教員にとってのスポーツとは？個人種目）（遠隔）**<br>自身にとってのスポーツとは何か？この問いに答えていくための論理的思考について、「他者にとってのスポーツとは何か？」を学ぶ。このトピックの第一回目は、個人種目を専門にする「他者」を事例にする。 | 自身のスポーツ経験を振り返り、取り上げた個人種目を主に経験してきた「他者」との共通点、相違点はないか考える。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツの思想を学び・考える②（スポーツ大学教員にとってのスポーツとは？団体種目）（遠隔）**<br>自身にとってのスポーツとは何か？この問いに答えていくための論理的思考について、「他者にとってのスポーツとは何か？」を学ぶ。このトピックの第二回目は、団体（チーム）種目を専門にする「他者」を事例にする。 | 自身のスポーツ経験を振り返り、取り上げた団体種目を主に経験してきた「他者」との共通点、相違点はないか考える。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツの思想を学び・考える③（私にとってのスポーツとは？）（遠隔）**<br>自身の経験を根拠に、「私にとってのスポーツとは？」という問いに答えていく。この問いに対する答えを導き出していく作業を通じて、スポーツそのものへの理解を深めていく。 | 第9、10回の授業を参考に自分の「スポーツ思想」をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツの思想を学ぶ④（ピエール・ド・クーベルタン）（遠隔）**<br>ピエール・ド・クーベルタンの思想を理解するために、教育、平和、無知の克服というキーワードをもとに解説する。次に、その内容をもとに、学習指導要領の「体育理論」領域におけるオリンピックを教材とした授業を検討する。 | 自身のスポーツ活動及び日常生活にオリンピズムはどのように活かすことが可能か？各自考えをまとめる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **スポーツの思想を学ぶ⑤（嘉納治五郎）（遠隔）**<br><br>嘉納治五郎の思想を理解するために、道、精力善用、自他共栄というキーワードをもとに解説する。 | 精力善用、自他共栄の精神を今後自身の生活にどのように活かしていきたいと思うか、その考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業内容の総括（遠隔）**<br><br>講義内容の総復習を行い、全体の内容の要点を知識として定着させる。 | 授業全体の内容を復習し、期末試験の準備に取り掛かること。 | 4時間 |

SP-2027-1-2

| 授業科目名 | スポーツ心理学（スポーツ心理学概論） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 玉城・工藤 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツ心理学は、スポーツに関わる心理的側面を研究するために生まれた。スポーツメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニングを含む）は、スポーツ領域において、既に周知の科学的アプローチであり、大事な本番での実力発揮に向けては不可避な取り組みとなっており、スポーツ心理学は、その学術的背景を理解する上で、有益な学問であるといえる。本講義では、スポーツの実践や指導場面に役立つような、スポーツ心理学の有益な知見を広く学ぶ。また、心身の機能の発達と心の健康にも詳しく触れ、授業ができる指導力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ心理学の近隣の学問領域の特徴 | スポーツ心理学について広く知識を深めることができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 学習指導要領の目標や内容の理解および教材や指導法 | 体育理論における指導計画（学習指導案）を作成し、実践できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

本授業は、遠隔授業として開講されるため、授業資料はPDFでの配布を原則としている。
授業に関する質問内容や、全体の理解度を加味しながら講評や学修の振り返りを行うなどして、アスリートやスポーツ指導者への心理的支援や具体的方略についての見識を広げる。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小テスト（復習トレーニング） | 30 % | ： 授業で学修した内容に関して評価をする。 |
| 期末テスト | 70 % | ： スポーツ心理学における基本的知識のみならず、アスリートやスポーツ指導者への心理的支援や具体的方略について修得できているか評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

1）よくわかるスポーツ心理学（中込ほか編著　ミネルヴァ書房）
2）生涯スポーツの心理学　（杉原隆編著　福村出版）
3）スポーツ心理学事典　（日本スポーツ心理学会編　大修館書店）
4）スポーツ心理学大事典　（シンガーほか著　西村書店）
5）スポーツ・運動・パフォーマンスの心理学　（高見和至編　化学同人）
その他、必要な資料・文献等を印刷し、配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 随時

**場所：** 担当者のそれぞれの研究室

**備考・注意事項：** まずは、アポイントをとりたい場合は、担当教員宛てに送信すること。
特に、E-Mailの「件名」には「学籍番号」と「氏名」を記入し、「本文」の一行目には「本授業名」を、二行目以降には「問合せ事項」を簡潔に記入すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **『スポーツ心理学への招待』（スポーツ心理学の歴史と研究課題の変遷）**<br><br>スポーツ心理学の歴史と研究課題の変遷について学修する。<br>特に、スポーツ心理学研究の基礎的なエッセンスにも触れ、受講意欲を高める。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、スポーツ心理学の歴史等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **『動機づけの世界』**<br><br>目標設定は、人のやる気を活気する。このような達成動機づけの効果を期待するために、基礎的理論について学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、動機づけ等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **『スポーツとパーソナリティ』**<br><br>スポーツへ取り組みは、多くの精神的エネルギーを傾注する場合、その人の人格発達にも大きく影響を与えることが想定されることから、詳しく学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、パーソナリティ理論等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **『スポーツの教育的効果』**<br><br>スポーツの教育的効果については、これまでにも様々な側面から検討されてきており、そのことについて詳しく学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、スポーツの教育的効果等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **『アスリートの青年心理』**<br><br>スポーツの教育的効果については、これまでにも様々な側面から検討されてきており、そのことについて詳しく学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、バーンアウト等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **『セルフトークと注意・集中』**<br><br>競技スポーツにおけるセルフトークと注意・集中について、ゾーンやフローなどの生起要因について詳しく学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、心因性動作失調等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **『体育授業の心理学』**<br><br>体育教師は身体活動やスポーツを通じて、多様な学習者（生徒）と関わり身体だけでないスキルも養うことが望まれる。体育教師として必要とされるスキルについて学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、改めて動機づけ理論等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **『あがってしまうと普段の実力が発揮できない』**<br><br>あがりは過度の緊張状態から不適切な運動制御に至る症状を指し、このことにより大切な本番において実力が発揮できなくなる。そのメカニズムについて学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、あがりやさがり等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **『運動とメンタルヘルス』**<br><br>運動と精神的健康は切っても切れない関係にある。運動処方が一般的な健康改善の手法として定着している今メンタルヘルスについて学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、運動とメンタルヘルスについてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **『運動の行動理論』**<br><br>特に、中年期の働き世代に運動を喚起させることは並大抵の尽力では実現しない。ここでは、その対象者に運動行動を喚起させる理論と実践について学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、運動の行動理論等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **『競技力向上を心理面からサポートする』**<br><br>メンタルトレーニングを通じて競技力を向上させるメソッドは、今日、スポーツフィールドにおいて一般的になっており、ここでは、その実情を学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、競技力向上の心理等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **『心理的コンディショニング』**<br><br>一般的に身体的コンディショニングについて、これまでにも議論されてきている。ここでは、心理面からのアプローチについて学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、心理的コンディション等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **『チームビルディング』**<br><br>強いチームづくりは、昨今、注目されており、ここでは、それに貢献するコーチング心理学や認知科学の側面からのアプローチについて学修する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、チームビルディング等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **『本授業のまとめ』**<br><br>ここでは、暴力指導（体罰）の撲滅に向けて、昨今の取り組みについて学修する。また、本授業のまとめにとして、各論を振り返り概説する。 | 教科書や配信された資料の内容を踏まえ、暴力指導の現状等についてノートにまとめておく。また、関連文献を利用し、予習しておく。 | 4時間 |

SP-2028-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ社会学概論** | | | | |
| 担当教員名 | **佐藤　馨** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツ社会学では、スポーツの場面での人の行為や行動、スポーツに関わる組織やスポーツを通じて起こる社会現象や変動を学習する。講義では、スポーツに関連する事象を「人種・民族」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「ドーピング」「政治」のテーマからスポーツに包含される課題を学ぶ。特にドーピングについては、学習指導要領「スポーツの歴史・文化的特徴と現代的特徴」において、それがスポーツの文化的価値を失わせる行為であることを過去の事例から理解し、その指導方法や授業計画の立て方について検討する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ社会学の意義 | スポーツ社会学の基礎を習得し、スポーツ社会学の意義を理解する。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 社会学的キーワードとスポーツとの関わり | 「人種」「ジェンダー」「暴力」「マスメディア」「政治」等をスポーツとの関連から理解する。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツの文化的、社会的視点における課題の理解 | スポーツの文化的、社会的背景等の幅広い視点からスポーツを理解するとともに学習指導要領に基づく指導が展開できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・その他(以下に概要を記述)

優秀な提出課題については、講義中に全体に対してコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業で学習した内容に沿った小レポート | 5 % | ： | 授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する。 |
| 授業中盤に実施する確認テスト | 30 % | ： | 講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか30点満点で評価する。 |
| 本試験 | 65 % | ： | 講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのかを65点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『Sport in Society 7th Ed』Coakley, J.J., Boston; MacGraw-Hill, 2001
『スポーツの社会学』池田勝,守能信次編　杏林書院　1998
『現代スポーツの社会学-課題と共生への道のり-』,J.コークリー,P.ドネリー著、前田和司,大沼義彦,村松和則　共編訳,南窓社,2011

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【履修上の注意】

本授業は、PCで受講することが前提であるため、必ずPCを準備すること（スマホ受講は不可）。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本試験だけでなく、講義中盤で実施する確認テストも全体評価の30%を占める。従って、普段の講義で重要と指摘された点は確実に覚えるだけでなく、内容も正確に理解しておく必要がある。

【メッセージ】
普段目にしたり、行なっているスポーツの場面で起こっている事象や問題には、何かしら必ず理由や理屈がある。そうした理由等をスポーツ社会学を通じて理解できるようになる講義を目指す。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　講義前後

**場所**：　講義室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツ社会学概論：ガイダンスおよびスポーツ社会学の概説**<br>スポーツ社会学で学習する全講義の概要と受講上の留意点を確認する。 | スポーツ社会学で学習する講義の概要および受講上の留意点にについて資料を精読する | 4時間 |
| 第2回 | **社会学とスポーツ　スポーツにおける社会学の位置づけ**<br>スポーツ社会学は学問的にどこに位置するのか、現代社会におけるスポーツ社会学の意義とは何かを学ぶ。 | スポーツ社会学的な視点で見ることの意味を理解する | 4時間 |
| 第3回 | **社会学とスポーツ　スポーツをする行為と社会による影響**<br>スポーツをする行為は、必ず他者や社会から影響を受けていることを理解し、一方でスポーツを通じた行為が社会に何らかの影響を与えていることも同時に理解する。 | スポーツにおける社会化とその周辺概念についてまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **人種・民族とスポーツ　人種・民族とスポーツとの関わり**<br>人種・民族がスポーツとどう関わるのか学習する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの歴史・文化的特性と現代的特徴」にあるオリンピック憲章、すなわち、いかなる差別をも伴わず、友情、連帯、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界をつくることに貢献するとは何かを、人種・民族の視点から理解する。 | 人種や民族が問題となった社会的事象を調べる。調べて得た知見を次の授業で発表する。 | 4時間 |
| 第5回 | **人種・民族とスポーツ　歴史的にみたスポーツにおける人種・民族問題**<br>スポーツにおける人種・民族問題の歴史的背景の概観を学ぶ。 | スポーツにおける人種や民族について調べ、まとめる | 4時間 |
| 第6回 | **ジェンダーとスポーツ　ジェンダーとは何か**<br>「ジェンダー」はスポーツにどのような影響を及ぼしているのかを学習する。 | ジェンダーとスポーツの関係について調べる。調べた内容を次の授業で発表する。 | 4時間 |
| 第7回 | **ジェンダーとスポーツ　らしさとスポーツ**<br>「女性らしさ」や「男性らしさ」におけるスポーツへの影響を理解する。 | スポーツとジェンダーにおける自分の経験をまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **ドーピングとスポーツ**<br>学習指導要領のスポーツ概要「スポーツの歴史・文化的特徴と現代的特徴」にある、ドーピングはフェアプレイ精神に反すること、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることを理解し､指導における基礎知識を身につける。 | なぜスポーツにおいてドーピングが問題視されるのか、その功罪についてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツとメディア　メディアがスポーツに与える影響**<br>メディアとスポーツとの関連、特にばオリンピック等のスポーツイベントを事例として用い、学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの歴史・文化的特徴と現代的特徴」にある現代スポーツが経済的波及効果があることを理解し、メディアもその波及効果の一端を担っていることも併せて学ぶ。 | メディアがスポーツに与える影響について具体例をまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツとメディア　スポーツの「見せ方」「あつかい方」**<br>メディアにおけるスポーツの「見せ方」「あつかい方」の差異と矛盾について理解し､そのことによって見る側の意識の変化を理解する。 | メディアによるスポーツに見せ方とあつかい方の差異と矛盾について具体例をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツとガバナンス**<br>なぜスポーツ組織においてガバナンスが必要であるのか、近年スポーツ界で起こる事例を用いてその実情と課題を学ぶ。 | スポーツにおけるガバナンスの必要性についてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツとハラスメント**<br>「セクシャルハラスメント」を取り上げ、それが生起する社会的構造について説明する。 | スポーツにおけるセクシャルハラスメントについてこれまでにメディア等で報道された具体例について調べる | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツと政治　スポーツと政治との結びつき** | スポーツと政治が結びつくことのメリット、デメリットについてまとめる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツと政治（政府）の結びつきはどのようなものであるかを学習する。 | | |
| 第14回 | **スポーツと政治　スポーツにおけるテロリズム**<br><br>歴史的変遷から見るスポーツイベントにおけるテロリズムの意味を学習する。 | 過去にあったスポーツにおけるテロリズムについて調べ、まとめる。調査の結果を次の授業で発表する。 | 4時間 |

SP-2029-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツマネジメント学概論** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉　秀和** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 経済産業省スポーツ産業室長として、地域スポーツ振興やスポーツDX関連の実証事業など<br>国内スポーツ産業政策に関する実務経験を講義に反映している。 | | | | |

**授業概要**

スポーツ組織の経営活動に関する学問であるスポーツマネジメントについて、組織やイベントなどをひとつのシステムと捉え、「ヒト・モノ・お金・情報」を合理的に活用する方法などを体系的に学習するとともに、スポーツの価値についても考える機会として欲しい。本講義では、スポーツ組織における成長や存続を念頭に、様々なキーファクターを駆使しながら多面的にアプローチしていくスポーツマネジメントについて理解と考察を深めていく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツが生活において多様なシーンで活用されている実態についての把握 | スポーツの社会的意義について理解し、スポーツが社会課題の解決に役立つことを理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 目標を達成するために、問題を発見し、解決する能力の獲得 | 問題解決能力を身につけ、スポーツのみならず多様なビジネスマインドを身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 中間レポート | 40 % | ： 授業内容に関する理解度を確認するため、自身の見解や意見を記述するレポートを実施する。 |
| 期末試験 | 60 % | ： 授業内に解説した用語や理論の理解度や、問題に対し論理的に回答出来ているかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。
（使用教科書については、毎授業時に資料を配布するとともに、授業内にて参考書などを指示する場合がある。）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
積極的な授業への参画を期待します。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびスポーツマネジメント概論**<br>スポーツマネジメント学の全体像を理解するとともに定義をはじめとする基本的知識を学習する。 | 授業資料をもとに、全体の授業概要を理解する。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツマネジメントの実際①（プロスポーツリーグ）** | 授業資料をもとに、自身の興味があるプロスポーツリーグについて理解を深める。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 国内ならびに海外におけるプロスポーツリーグの実際について、運営方式や経営モデルに関する基礎的知識を理解する。 | | |
| 第3回 | **スポーツマネジメントの実際②（プロスポーツチーム）**<br><br>プロスポーツチームのマネジメントに関する基礎的知識を理解するとともに、国内プロスポーツチームが抱える課題と可能性について学習する。 | 授業資料をもとに、プロスポーツチームの定義について理解を深める。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツマネジメントの実際③（スタジアム・アリーナ）**<br><br>多機能化ならびに発展を遂げる現代のスタジアム・アリーナに関する現状を理解しながら、更なる進化に向けて必要なことについて検討を深める。 | 授業資料をもとに、スタジアム・アリーナの現状について理解を深める。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツマネジメントの実際④（スポーツ用品産業）**<br><br>スポーツ用品産業の歴史とこれまでの取り組みを理解しながら、今後の発展に向けて必要なソリューションについて検討を深める。 | 授業資料をもとに、スポーツ用品産業の現状について理解を深める。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツマネジメントの実際⑤（スポーツメディア・DX）**<br><br>スポーツメディアの基礎的知識を理解するとともに、スポーツDXによる産業拡大の現状についても学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツメディアやDXを活用した事例について調べる。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツ経営戦略**<br><br>スポーツ経営戦略の用語理解や基礎的理論を学習するとともに、グローバルに展開していくための方策について議論を行う。 | 授業資料をもとに、スポーツ経営戦略を論理的に理解を深める。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツマーケティング**<br><br>スポーツマーケティングの基礎的知識を理解し、現代における事例や効果について自身で調査しながら学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツマーケティングの定義に関する理解を深める。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツブランディング**<br><br>スポーツブランディングにおける効用や事例を理解するとともに、効果的なブランディングと何か？について考察を行う。 | 授業資料をもとに、スポーツブランディングの実例について理解を深める。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツ消費者行動**<br><br>スポーツ消費者行動を体系的に理解するとともに、自身の日常生活と照らし合わせながら実際の行動の理解を深める。 | 授業資料をもとに、スポーツ消費者行動の基礎について理解を深める。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツスポンサーシップとアクティベーション**<br><br>スポーツスポンサーシップの定義を理解するとともにアクティベーション事例を参照しながらその効果について理解を深める。 | 授業資料をもとに、スポーツスポンサーシップの実際や効果について理解を深める。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツファイナンス**<br><br>スポーツファイナンスの基本的用語の理解を含め、経済学的理論の基礎を学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツファイナンスに関する用語と意味について理解を深める。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツエンターテイメント**<br><br>スポーツビジネスにおけるエンターテイメント要素の理解をはじめ、近年のトレンドを学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツエンターテイメントの可能性について調べる。 | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツマネジメント学総括**<br><br>スポーツマネジメントについて、授業の総括を行う。 | 授業資料をもとに、スポーツマネジメント学とは何か自身の意見をまとめる。 | 4時間 |

SP-3101-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康教育・管理論** | | | | |
| 担当教員名 | 股村　美里 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

健康および安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、社会・環境を改善していくことの必要性について学習する。さらに、様々な環境において生きる人々が共に生きることにつながる健康教育について目標および（個人および集団を対象にした）健康教育、健康管理の方法を考える。特に、健康上好ましくない（非健康行動）を好ましい行動に変容させるためには、どのようにしたらよいか健康行動理論を通じて理解する。本講座で身に付ける力は、学習指導要領の「保健領域」を指導する力としても身につく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 健康教育・管理論における基礎概念、理論、実践方法を正確に理解し、それを具体的な事例に健康教育あるいは健康管理を実践するために必要な知識を理解をしている | 健康教育・管理論における基礎概念、理論、実践方法を正確に理解し、それを具体的な事例に応用する能力を評価する。専門用語の適切な使用も重視する。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 問題の背景や影響を論理的に考察し、自分の意見を根拠とともに述べることができる。 | 得られた知識をもとに課題や問題を分析し、根拠に基づいた適切な判断を下し、その過程を論理的かつ分かりやすく表現できる能力を評価する。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 健康教育に関する倫理的観点を理解し、それを考慮した行動や意見がみられる。 | 主体的に学習に取り組み、他者と協働しながら自己の課題を探求する姿勢や、健康教育分野で求められる倫理観や責任感を評価する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内レポート | 70　% | ： | 授業内レポートを14回実施する。講義内容の理解と個人の見解を論理的にまとめていることを評価する。 |
| 最終レポート | 30　% | ： | レポートの体裁が整っているか、授業の内容を正確に理解しているか、自身の考えを論理的に述べることができているかを評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

講義内に適宜、関連する書籍、映画、ホームページ等を紹介する。積極的に関連教材に触れ、理解を深めるようにすること。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。講義を受講するにあたり重要な課題を設けているので、怠りなく進めること。また本科目では、実際の臨床の現場で生かせるような知識と技能を身につけることを目的とする。そのため、自らの体験や考えなどを出発点として講義形式だけでなく、ペアワークやグループワークを取り入れ、授業への主体的かつ積極的な聴講の姿勢を求める。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業終了後

**場所**：　B218 研究室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **健康教育の目標　健康教育および健康管理における目標とは**<br>健康教育・管理論で学ぶ内容全体の概要を俯瞰する。また、健康教育における目標であるヘルスプロモーションの考え方について理解する。 | 自分の身近なところにある健康問題について、情報収集をし、次回の授業に備えること。 | 4時間 |
| 第2回 | **健康教育の実施方法　個人を対象とした方法の工夫①**<br>健康教育および健康管理において必要な身振り手振りの位置づけについて体験する | 動画を視聴して考えたことについて、実際の生活で活用する。 | 4時間 |
| 第3回 | **健康教育の実施方法　個人を対象とした方法の工夫②**<br>健康教育および健康管理において必要な距離感や立ち位置など体系的に整理する。 | 個人を対象とした健康教育で工夫できる点について説明できるようになる。 | 4時間 |
| 第4回 | **健康教育の実施方法　集団を対象とした方法の工夫**<br>集団を対象とした健康教育において必要な方法について、個人を対象とした健康教育とは異なる点を視聴覚教材から理解する。 | 個人を対象とした健康教育との違いを理解し、説明できるようになる。これまで自分が受けてきた健康教育や指導について振り返り、これからの健康教育・管理への応用について考える。 | 4時間 |
| 第5回 | **健康を支援する立場とは**<br>健康教育や健康管理をする上で、感情労働や社会的役割が重要な役割を担っていることを理解する。 | 乳幼児期から学童期、思春期に至る子どもの発達課題について、ワークシートに列挙する。 | 4時間 |
| 第6回 | **各発達段階の健康課題の違いについて（育つこと）**<br>育つ過程における健康課題とその解決のための健康教育・健康管理について理解する。 | 乳幼児期から学童期、思春期に至る子どもの発達課題について、ワークシートに列挙する。 | 4時間 |
| 第7回 | **各発達段階の健康課題の違いについて（老い・障害①）加齢と老化**<br>老い、あるいは障害・疾病とともに生きる上での健康課題と健康教育・管理の上で必要な点について理解する。 | 老いおよび障害・疾病とともに生きる当事者の声について、視聴覚教材から考えた自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **各発達段階の健康課題の違いについて（老い・障害②）認知症**<br>老い、あるいは障害・疾病とともに生きる上での健康課題を横断的な視点と縦断的な視点で理解する。 | 老いを単なる喪失ととらえるのではなく、生涯発達の観点からとらえなおせるようになる。 | 4時間 |
| 第9回 | **健康教育の理論①　ストレスとコーピング理論**<br>ストレスが単なる心身の健康問題につながるだけでなく、健康行動に関連することを理解する。 | 自らの生活を振り返り、ストレスがかかったときの対処行動について健康行動理論を用いて考察する。 | 4時間 |
| 第10回 | **健康教育の理論②　健康信念モデルと自己効力感**<br>健康情報番組の構成要素について、健康信念モデルを基に理解する。また、単なる自信ではなく、健康行動につながる自己効力感を身に着けるためにはどんな情報源が有効か理解する。 | 健康教育・健康管理を担うものとして、身近な情報番組がどのような枠組みで作られているかを理解する。 | 4時間 |
| 第11回 | **健康行動理論③　トランスセオレティカルモデル**<br>対象者の興味関心の状態に応じた支援が重要であることを学ぶ。 | 行動変容が起こり習慣化されるまでの過程について理解する。 | 4時間 |
| 第12回 | **健康教育・健康管理の具体例　①感染症の流行とその予防　②STD、HIVを具体例として**<br>感染症の流行とその予防についての健康教育の教材例について紹介する。 | 感染症の流行のメカニズムや現在問題となっている感染症について情報収集をし、次回の講義に備える。 | 4時間 |
| 第13回 | **健康教育・健康管理の具体例　③こころの健康**<br>心の健康（メンタルヘルス）に関わる現代の課題や解決方法、メンタルヘルスリテラシーについて紹介する | 心の健康にかかわる新聞記事や書物にあたり、理解を深めること | 4時間 |
| 第14回 | **総括―いのちの教育**<br>健康教育における目標、方法、理論、そして具体例について振り返る。 | 自らの興味関心のあるトピックに基づいた、健康教育の実施例についてまとめる。 | 4時間 |

SP-3102-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校保健** | | | | |
| 担当教員名 | **入谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 養護教諭を要請する看護大学の学校保健実習の教育及び実習指導。学校保健の中で保健体育教員と養護教諭の連携について学ぶことができる。 | | | | |

**授業概要**

児童生徒の心身の健康を守り、育てるための基本的な知識を習得することをねらいとする。内容としては学習指導要領に明記されている健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、子どもの健康実態，学校保健の考え方、健康診断の内容とあり方、子どもの身体発育・発達やかかりやすい病気の知識、それを守り育てるための学校の仕組みや学校環境・組織の目標・内容を理解しながら、教材や指導法について学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校保健に関する知識理解 | 児童生徒の健康問題に関する知識とそれを保持増進するために実施されている学校保健の機能について説明できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 學校保健に関する思考と判断 | 児童生徒の健康問題に関する現状を文部科学省・厚生労働省の統計より分析し表現できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学校保健に関する主体性 | 主体的に課題に取り組み、学校保健を指導案に展開できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・その他(以下に概要を記述)
「ICTタッチタイピング」「ICT　PowerPoint」
課題やレポートの提出していただきます。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題 | 70　% | ：　講義内容の理解を評価する（14回×5点＝70点） |
| 学校保健指導資料に関するレポート | 30　% | ：　学校保健に関する内容について,確認レポート30点 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

教員養成系大学保健協議会（2009）：〔第5次改訂〕学校保健ハンドブック．ぎょうせい．
日本学校保健会（2013）：学校保健の動向．日本学校保健会出版部．
中学校学習指導要領（平成29年告示）保健体育編：文部科学省

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
本講義は、実際の臨床の現場で生かせるような知識と技能を身につけることを目的とする。授業への主体的かつ積極的な聴講の姿勢を求める。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 入谷研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **学校保健における目標と課題①　学校保健概論**<br>学校保健の全体の内容を俯瞰し、保健体育科教員としての職務とその役割の重要性について理解する。学校保健安全法について学ぶ。 | 学校保健安全法について調べる | 4時間 |
| 第2回 | **学習指導要領に基づく保健の指導**<br>学習指導要領における目標・内容を理解する。また学習指導要領と学校保健の関連について知る。<br>教育基本法、学校安全衛生法、学習指導要領（保健）に関する関連性を学ぶ。 | 学習指導要領について調べる | 4時間 |
| 第3回 | **性教育**<br>人の性機能と役割及び性に関連する課題について知る。教員としての性教育や性感染症の基礎知識を学ぶ。 | 性に関連する課題について理解を深め、児童生徒への学びに活かす方法を検討する。 | 4時間 |
| 第4回 | **喫煙・飲酒・薬物乱用教育**<br>現代社会における児童生徒の抱える健康問題である喫煙・飲酒・薬物乱用について理解し、その対応について知る。また発生予防に関わる教育について学ぶ。 | 喫煙・飲酒・薬物乱用に関連する課題について理解を深め、児童生徒への学びに活かす方法を検討する。 | 4時間 |
| 第5回 | **食に関する課題、学校給食**<br>児童生徒の食に関する課題、食育の重要性、学校給食について知る。<br>食に関する法律や食事などのアレルギーの対応方法を学ぶ。 | 学校給食法について調べる | 4時間 |
| 第6回 | **発育発達、運動習慣の現状、生徒にみられる主な疾患**<br>日本の児童生徒の発育発達について、また児童生徒にみられる疾患とその対応方法を知る。<br>健診や体力テストの結果を基に児童生徒の発育発達の状況を学ぶ。 | 発育発達、児童生徒にみられる疾患に対して学校現場でも活用できるように理解を深める | 4時間 |
| 第7回 | **学校で注意すべく感染症**<br>学校の中で注意する感染症の種類や症状、学校保健安全法との関連などを知る。また感染症発生時の対応や予防方法について学ぶ。 | 学校における感染症対策や対応について知識を深める | 4時間 |
| 第8回 | **ストレス関連、自殺**<br>ストレスによる様々な兆候。学校におけるストレスの対応や予防方法について学ぶ。 | 学校現場で活かすストレス疾患自殺の課題を知り、知識を深める | 4時間 |
| 第9回 | **健康状態の把握と指導**<br>毎日の健康観察及び健康診断について理解する。健康観察の実施方法や異常時の対応方法を学ぶ。<br>健診項目・健診の必要性・事後措置などを学ぶ。法的根拠を知る。 | 学校健康診断の項目の変遷やその意義について学ぶ。 またそこから得られる情報が児童生徒の健康管理にどのように生かされているのか理解する。 | 4時間 |
| 第10回 | **特別支援教育の現状と課題**<br>特別支援教育の現状とその対応について知る発達障害についての基礎知識及び対応方法を学ぶ。 | 学校現場で活かせるために、疾患の対応について理解を深める。 | 4時間 |
| 第11回 | **学校環境生衛生**<br>学校の環境（水道水、プールの水、明るさ、空気）について適切とされる状態について把握し、点検などについて学ぶ。 | 学校環境衛生基準について調べまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **学校安全**<br>学校管理下における事故や災害の発生機序とその防止方法について学ぶ。 | 学校管理下の概念について理解するとともに、事故とは予防可能なものであることを理解する。 | 4時間 |
| 第13回 | **応急手当**<br>学校下で多い傷病に対する応急手当や学校内での組織的活動と教員としての対応を学ぶ。 | 応急手当が速やかにできるように知識を向上する。 | 4時間 |
| 第14回 | **いじめ、不登校について**<br>いじめ、不登校の現状および学校及び教員としての対応方法について学ぶ。 | いじめ不登校の現状を理解し、対応方法について検討する | 4時間 |

SP-1035-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ法学** | | | | |
| 担当教員名 | 新井　喜代加 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本講義では、スポーツ事故の法的責任に関わる基本的課題からスポーツ振興をはじめスポーツ団体、ドーピング、ジェンダー・セクシュアリティなどに関わる現代的課題まで、スポーツと法に関するテーマを取り上げて検討します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツに関わる問題へのまなざし | 身の周りで生じているスポーツに関する問題・課題に目を向け、法との関わりを探求することができる |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ法に関する知識 | スポーツに関する法的問題の動向を理解できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・課題解決学習(PBL)

集中講義です。受講者数によって実施形式に変更が生じることがあります（オンディマンド形式、対面形式、或いは両形式等）。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

授業で出題される課題を提出して「出席」とします。なお、課題は成績評価対象になりませんが、その内容は試験範囲となります。試験後、回答解説をします。

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 中間テスト | 40　% | ：　授業の理解度を確認するために実施します。 |
| 期末テスト | 60　% | ：　授業の理解度を確認するために実施します。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 新井喜代加・武田丈太郎（編著） | ・『はじめて学ぶスポーツと法』 | ・みらい | ・2023　年 |

**参考文献等**

小笠原正ほか（編）『導入対話によるスポーツ法学〔第2版〕』信山社、2007年
菅原哲朗他（監修）『スポーツの法律相談』青林書院、2017年
白井久明ほか『Q&A学校部活動・体育活動の法律相談―事故予防・部活動の運営方法・注意義務・監督者責任・損害賠償請求―』日本加除出版、2017年
石堂典秀・建石真公子（編）『スポーツ法へのファーストステップ』法律文化社、2018年
スポーツ法学会（監修）『標準テキストスポーツ法学第3版』エーデル研究所、2020年
（公財）日本パラスポーツ協会（編）『障がいのある人のスポーツ指導教本』ぎょうせい、2023年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。ほとんどの授業はテキストを基に作成したレ

ジメに沿って進められますが、図表、年表、復習問題「学びの確認」等についてはテキストを参照してください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業前後

**場所**： 授業を実施する教室

**備考・注意事項**： 対面授業の場合には授業を実施する教室にて対応します。オンディマンド形式の場合にはメールやチャットにて対応します。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス及びスポーツ法の体系**<br>ガイダンスでは、授業のねらい、授業内容、評価方法、留意点等について説明する。また、スポーツ法の体系では、スポーツ国家法、スポーツ固有法、スポーツ国際法について解説する。 | 事前にシラバスを読む。また、スポーツに関する決まり・規範に関連する新聞記事等を読む。事後に本授業のルールと配布資料を復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ振興と法**<br>スポーツ振興法、スポーツ基本法、諸外国のスポーツ振興に関する法について解説する。 | 事前にテキスト第１章を読む。事後に第１章「学びの確認」に答える。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツ団体と法**<br>団体自治の原則、罪刑法定主義、処分・制裁・救済について解説する。 | 事前にテキスト第２章を読む。事後に第２章「学びの確認」に答える。 | 4時間 |
| 第4回 | **ドーピングと法**<br>反ドーピング活動に関わる法について解説する。 | 事前にテキスト第11章を読む。事後に第11章「学びの確認」に答える。 | 4時間 |
| 第5回 | **体罰と暴力とスポーツ法**<br>スポーツにおける体罰・暴力が法的にどのように扱われるかについて解説する。 | 事前にテキスト第６章を読む。事後に第６章「学びの確認」に答える。 | 4時間 |
| 第6回 | **ハラスメントとスポーツ法**<br>スポーツ界におけるハラスメントの特徴及びその構造について解説する。 | 事前にテキスト第７章を読む。事後に第７章「学びの確認」に答える。 | 4時間 |
| 第7回 | **中間テスト（テスト解説を含む）**<br>第１～６回の授業の理解度を確認する。また、テスト解説を通して第６回までの講義内容の理解を促す。 | 事前に第１～７回の講義の配布資料等を復習する。事後にテストを振り返り、復習する。 | 4時間 |
| 第8回 | **障がい者とスポーツ法**<br>障がい者に関わるスポーツ国際法、スポーツ国家法及び、スポーツ固有法について解説する。 | 事前にテキスト第５章を読む。事後に第５章「学びの確認」に答える。 | 4時間 |
| 第9回 | **ジェンダーとスポーツ法**<br>ジェンダーに関するスポーツ国際法、スポーツ国家法及び、スポーツ固有法について解説する。 | 事前にテキスト第４章を読む。事後に第４章「学びの確認」に答える。 | 4時間 |
| 第10回 | **ジェンダーとスポーツ法―DVD鑑賞―**<br>女性の身体とジェンダーに関する映画を鑑賞し、問題の所在について検討する。 | 事前に女性器切除について調べておく。事後に意見・主張を明確にし、レポートする。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツ事故と法的責任―DVD鑑賞―**<br>スポーツ事故に関する映画を鑑賞し、問題の所在について検討する。 | 事前に脳震盪について調べておく。事後に意見・主張を明確にし、レポートする。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツ事故と法的責任―脳震盪のケース―**<br>スポーツ活動中の脳震盪による事故の法的責任について解説する。 | 事前に脳震盪に関連する新聞記事等を読む。事後に配布資料を復習する。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツのリスクマネジメント**<br>障がい者スポーツを含むスポーツ事故の法的責任とそのリスクマネジメントについて解説する。 | 事前にテキスト第９章を読む。事後に第９章「学びの確認」に答える。授業で配布したレジメ等を復習する。 | 4時間 |
| 第14回 | **期末テスト（テスト解説を含む）**<br>第１～６及び、第８～13回の授業の理解度を確認する。また、テスト解説を通して全講義内容の理解を促す。 | 事前に全講義の配布資料等を復習する。事後にテストを振り返り、復習する。 | 4時間 |

SP-3201-2-2

| 授業科目名 | 障がい者スポーツ概論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 中道　莉央 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

障がい者スポーツの定義・意義に関する知識を学び、障がいのある人を含む多様な人々を対象とした「スポーツの指導者・支援者」として活動する際に必要な基礎的知識について学ぶ。これを達成するために、①障がいの定義や障がい者スポーツの意義の理解、②アダプテッド・スポーツ科学に関する知識の理解、③多様な人々を対象とした「する・みる・ささえる」スポーツ振興に求められる柔軟な思考力、④多様な人々に身体を動かす喜びや楽しさを伝えようとする態度、以上の4つの力を身につけることを目的とする。
※とりわけ、②の知識理解に重点を置いて授業は進められる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 障がい者スポーツに対する関心・意欲 | 障がいのある人や障がい者スポーツの現状や課題に関心を持ち、その解決に向かおうとする意欲を持っている。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 障がいおよび障がい者スポーツの理解 | 障がい者スポーツ振興を支える福祉施策や合理的配慮の提供、医学的知見にもとづく３障がいの特徴およびスポーツの効用などを理解できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 障がいに応じたスポーツの行い方 | 障がいに応じたスポーツの行い方を思考し、論理的に判断した内容を表現できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 障がい者スポーツの推進 | 関心・意欲で示した目標をもとに、障がい者を含む多様な人びとが個々に応じたスポーツに親しめるための主体的かつ協働的に追求できる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：大阪市長居障がい者スポーツセンター（職種・キャリア形成の理解、地域・社会の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング、Power Point、動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　シャトルシートで学生相互にコメントし合う機会を設けます。

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 初回レポート（関心・意欲） | 10　% | ： | 障がいのある人や障がい者スポーツの現状や課題に関心を持ち、その解決に向かおうとする意欲を持っているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。 |
| 学習のまとまりごとの確認テスト（知識・技能） | 35　% | ： | 障がい者スポーツ振興を支える福祉施策や合理的配慮の提供、医学的知見にもとづく３障がいの特徴およびスポーツの効用などが理解できているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。 |
| 学習のまとまりごとの確認テスト（思考・判断・表現） | 35　% | ： | 障がいに応じたスポーツの行い方を思考し、論理的に判断した内容を表現できているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。 |
| 最終レポート | | ： | 障がい者を含む多様な人びとが個々に応じたスポーツに親しめるための主体的かつ協働的に追求す |

ることができているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。

20　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

(公財)日本パラスポーツ協会編 『改訂版　障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）：2020改訂カリキュラム対応』 ぎょうせい. 2023.
(公財)日本パラスポーツ協会編 『令和5年度　全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』 日本パラスポーツ協会. 2023.

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・本科目は、(公財)日本障がい者スポーツ協会「初級・中級障がい者スポーツ指導員」の資格取得には必須の授業である。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス／障がい者スポーツの理念**<br>障がい者スポーツの理念をパラリンピック・デブリンピック・スペシャルオリンピックス等の各種国際大会が掲げる理念や日本障がい者スポーツ協会が掲げるビジョンから理解する。 | これまでの障がいのある人や障がい者スポーツとの関わりを見返り、 無意識のうちに作り上げている「障がい」「障がい者」や「障がい者スポーツ」に対するイメージを意識化し、まとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **障がい者福祉施策の変遷**<br>ICIDHやICF等の障がいモデルから多様な障がい観について考え、国内の3障がい(身体・知的・精神)に関わる福祉施策の変遷を理解する。 | ICIDHの特徴と問題点、ICFの特徴をおさえ、歴史的・社会的な視点からとらえた障がいのある人の生活実態と福祉施策との関係を整理しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **障がい者福祉施策と地域における障がい者スポーツの振興**<br>3障がい(身体・知的・精神)に関わる福祉施策と障がい者スポーツ振興の関係性、一般（健常者）のスポーツと障がい者スポーツの所管の違いについて理解する。また地域における障がい者スポーツの振興において、関連する諸団体に求められる連携の重要性についても理解する。 | スポーツ基本法が施行されてから、スポーツ政策としての障がい者スポーツの普及・推進施策・事業等について調べ、理解しておく。また、地域の障がい者スポーツ関連団体について、調べておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **障がい理解とスポーツ（身体障がい）**<br>身体障がいの種類・特徴の概要を学び、身体障がいのある人にとってのスポーツの効用について理解する。 | 身体障がいの具体的な障がい名と主な特徴、障がいの原因となる主たる疾患例について理解しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **障がいの理解とスポーツ（知的障がい）**<br>知的障がいの分類・特徴の概要を学び、知的障がいのある人にとってのスポーツの効用について理解する。 | 知的障がいの障がい程度による判定区分、知的障がいのある人の自己決定のあり方について、考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **障がいの理解とスポーツ（精神障がい）**<br>精神障がいの種類・特徴の概要を学び、精神障がいのある人にとってのスポーツの効用について理解する。 | 精神障がいの具体的な疾患名と主な特徴、スポーツによる治療効果について理解しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **障がい各論（視覚障がい）**<br>医科学的な知見から視覚障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。 | 眼の構造と名称、視覚障がいをきたす疾患例を理解しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **障がい各論（聴覚障がい）**<br>医科学的な知見から聴覚・音声言語障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。 | 耳の構造、音の伝わり方や難聴の種類、聴力レベルと障がい等級について理解しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **障がい各論(内部障がい)**<br>医科学的な知見から内部障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。 | 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう又は直腸、小腸、肝臓、免疫の各機能障がいの特徴や原因となる疾患例について理解しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **障がい各論（知的障がい）**<br>医科学的な知見から知的障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。 | 知的障がいの診断基準と診断における適応機能の重要性を理解しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **障がい各論（発達障がい）**<br>医科学的な知見から発達障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。 | 発達障がいの特徴を整理しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第12回 | **障がい各論（精神障がい）**<br><br>医科学的な知見から精神障がいの特性を学び、日常生活や運動・スポーツ指導現場で事前に知っておかなければならない医学的留意点を理解する。 | 統合失調症や気分障がいの原因・誘因を理解しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **補装具の種類、特徴**<br><br>補装具の種類とそれらが備えるべき条件を理解する。また、補装具の適合や補装具が身体やパフォーマンスに与える影響について理解する。 | 義肢・装具・車いす・杖の特性と競技前後における点検時の留意点、および、補装具の適合3条件（身体への適合、環境への適合、目的への適合）について整理しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **障がい者スポーツの意義（まとめ）**<br><br>障がいのある人にとってのスポーツの意義を総合的に理解する。特に、地域において行われている大会や教室・イベントの現状と課題を把握し、地域における障がい者スポーツ振興に求められていることは何かを理解する。 | 障がいのある人にとってのスポーツの意義をについて、これまでの授業内容を踏まえ、①障がいのある個人に対して、②スポーツ界に対して、③社会一般に対して、の3つの観点から自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |

SP-2029-2-2

| 授業科目名 | 運動学概論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 髙松　靖 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

保健体育教員や指導者を目指す場合，運動は‘どのようにして出来るようになるのか’，また‘どのようにして人を出来るようにさせるのか’ということが関心事になる．運動指導現場で我々は「運動を身体で理解する」ことの重要性を感じる．スポーツ運動を身体で理解し，感じることができ，更に伝えることができるというのは運動指導に関わる者として必須の能力である．学習指導要領に記載されている体育理論の運動やスポーツの学び方，あるいは体育実技を指導できるようになるための運動学的な基礎知識及び指導法の理解が目的となる．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 運動学習における運動発生論の考え方の理解 | 運動場面を想起しながら，コツやカンという動感身体知を理解することができる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 創発場面におけるコツやカンの記述 | 自身の創発場面を想起し，コツやカンを的確に記述することができる． |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 促発場面におけるコツやカンの記述 | 促発場面を想起し，コツやカンを的確に記述することができる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎回の小レポート | 50　% | ： 提示された論述テーマについて小レポートにて評価する．<br>授業内容やこれまでの運動経験を踏まえて独自の視点で論述できているかが評価の観点となる．<br>各回1～2問の論述テーマを提示する．最大50点満点（1問につき2点×25問）で評価する． |
| 最終レポート | 50　% | ： 求められている論述テーマに対してのレポートを評価する．<br>学習した内容や自己の経験を踏まえ，独自の視点で論述されているかが評価の観点となる． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

マイネルスポーツ運動学　K.マイネル　金子明友　訳　大修館書店
教師のための運動学　金子明友監修　大修館書店
身体知の形成　上・下　金子明友著　明和出版
身体知の構造　金子明友著　明和出版
動きの感じを描く　森直幹著　明和出版
スポーツ運動学　金子明友著　明和出版
わざ伝承の道しるべ　金子明友著　明和出版

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため，平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．
保健体育の教員免許状を取得希望する人には必修の科目である．スポーツ指導者の資格取得にも必修であるため，資格取得を目指す学生は，必ず履修すること．

【受講者へのメッセージ】
本講義で扱う学問は，頭だけで考えていてもなかなか理解が難しいものである．始めの２～３回はなじみのない言葉と内容で戸惑うと思うが，自分のこれまでの運動経験をしっかりと思い出しながら，今にも体を動かしたくなるような，そんな気持ちで講義に臨んでもらいたい．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜２限

**場所**：　髙松研究室(B205)

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **運動学を学ぶ必要性について**<br>「運動学を学ぶ必要性」というテーマの下，講義を行う．その中でスポーツを学ぶ者・スポーツに携わる者にとっての運動学の必要性について理解を深める． | 自らのスポーツライフに運動学が関係しているのかをまとめておくこと | 4時間 |
| 第2回 | **運動学で学ぶことについて**<br>「運動学で学ぶこと」というテーマの下，講義を行う．その中で運動学ではどのようなことを学ぶのかについて理解を深める． | 運動学が自らの実践の場で活用されているか考え，まとめておくこと | 4時間 |
| 第3回 | **様々な運動分析の方法について**<br>「様々な運動分析の方法について」というテーマの下，講義を行う．その中で運動学のこれまでの発展と，運動を分析する様々な学問について基礎的な理解を深める． | 人間学的運動分析と自然科学的運動分析の違いをまとめておくこと | 4時間 |
| 第4回 | **身体知を伝え，発生させるということについて**<br>「身体知を伝えて，発生させるということ」というテーマの下，講義を行う．その中で運動発生現象を伝承することについての基礎的な理解を深める． | 運動の発生現象について自らの事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第5回 | **「コツ」と「カン」の基礎理解について**<br>「「コツ」と「カン」の基礎理解について」というテーマの下，講義を行う．その中で人間の運動発生現象と「コツ」と「カン」の関係性について基礎的な理解を深める． | 「コツ」と「カン」について関連する自らの事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第6回 | **運動の発生に関する基礎理解について**<br>「運動の発生に関する基礎理解について」というテーマの下，講義を行う．その中で人間の運動発生における学習位相について触れるとともに，学習指導要領に記載されているスポーツの技能の上達過程について理解を深める． | 運動発生の学習位相について，自らの事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第7回 | **「からだで覚える」ということについて**<br>「「からだで覚える」ということについて」というテーマの下，講義を行う．その中で人間の運動発生に関わる「動き方をからだで覚える」ということについて基礎的な理解を深める． | 自らが夢中になって覚えた（からだで覚えた）運動について事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第8回 | **研究的視点から創発活動を考える**<br>「研究的視点から創発活動を考える」というテーマの下，講義を行う．その中で創発活動が運動実践現場と運動学的研究にどのように関係しているか理解を深める． | 創発活動について自らの事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第9回 | **研究的視点から促発活動を考える**<br>「研究的視点から促発かつどうを考える」というテーマの下，講義を行う．その中で促発活動が運動実践現場と運動学的研究にどのように関係しているか理解を深める． | 促発活動について自らの事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第10回 | **運動課題と運動技術について**<br>「運動課題と運動技術について」というテーマの下，講義を行う．その中で運動発生の基盤を創る運動課題と運動技術の関係性について触れるとともに，学習指導要領に記載されている運動やスポーツの技術について理解を深める． | 自らに関連してくる運動（技）の運動課題と技術についてまとめておくこと | 4時間 |
| 第11回 | **運動学を学校体育に活かすために**<br>「運動学を学校体育に活かすために」というテーマの下，講義を行う．その中で体育授業における運動発生での「なじみの形成」の重要性について理解を深める． | 自らに関連する運動（技）の「なじみの形成」について事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第12回 | **運動学を競技スポーツに活かすために**<br>「運動学を競技スポーツに活かすために」というテーマの下，講義を行う．その中で，運動学を競技スポーツに活かす場面での最高化志向について理解を深める． | 自らに関連する運動（技）の最高化志向について事例をまとめておくこと | 4時間 |
| 第13回 | **運動学の今後の発展に向けて** | 運動学の今後の発展を理解し，自らの課題についてまとめておくこと | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 「運動学の今後の発展に向けて」というテーマの下，講義を行う．その中で運動学という学問の今後の発展について，理解を深める． | | |
| 第14回 | **運動学について振り返りとまとめ**<br><br>本講義で扱ってきた運動学という学問と，自分たちの周りの運動学習場面を関連させながら振り返りを行う． | これまでに学習した内容を振り返り，自らの事例とともにまとめておくこと | 4時間 |

SP-3202-2-2

| 授業科目名 | スポーツマーケティング論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 山本　達三 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

「するスポーツ」・「みるスポーツ」のスポーツ財・スポーツサービス財の消費・満足・再購入・ロイヤルティ形成に欠かせないマーケティングの基本的な考え方・活動について理解することを主目的とする。具体的には，スポーツ独自のニーズやウォンツ特性を踏まえたスポーツ市場の環境分析、マーケティングミックス戦略（7P）スポンサーシップなどについて学び、発展著しいスポーツ市場やスポーツビジネスを取り巻く問題や課題について理解する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツマーケティングの基本的な考え方に関する知識の修得. | スポーツ関連組織等のマーケティング計画・戦略（市場・環境・製品・価格・プロモーション・流通戦略、人事戦略、プロセス戦略、Physical Evidennce戦略）、スポーツ消費者行動などについて理解できるようになる. |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツビジネスの課題解決に向けて，スポーツマーケティングの理論を用いた思考力・表現力の修得. | スポーツマーケティングの理論を踏まえた上で，それらを駆使してスポーツビジネス分野の課題解決に向けた提案などを思考・表現できるようになる. |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ界の課題解決やニーズの把握・理解に必要なマーケティングの理論に対する積極的な学修態度の形成. | 各授業で集中して授業を受講し，毎授業の理解度テスト，ミニレポートで高得点を取得できるようになる. |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

自主学習支援のため，授業資料は，Teamsに事前にアップロードされます．また，授業の資料配布，小テストは全て電子的に実施し，紙媒体の配布は行いません．必ず，パソコン・タブレットを持参すること．スマートフォンは認めない．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

毎授業に確認テストを実施して理解度を確認することで授業レベルを微調整するとともに，授業に対する質問・感想・要望などの聞き取りをおこなう．回答については，teamsの一般スレッドで共有する．

**成績評価**

**注意事項等**

小テスト，期末テスト，いずれも持ち込み不可.
評価にあたっては，以下のような独自のルーブリックを用いて評価する【基礎的な知識・技能の習得(60%)，思考力・判断力・表現力(30%)，関心意欲（10%）】

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小テスト・小レポート | 30 % | ： 毎授業内容について授業最後に理解度テストを実施する. |
| ビジネスコース卒論発表会 | 10 % | ： ビジネスコース卒論発表会を聴講して，（1）興味深かった点，（2）疑問点，（3）上記以外の感想をまとめる |
| 定期テスト | 60 % | ： 持ち込み不可の定期テストを実施する. |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞，吉田政幸編著）2017年，ミネルヴァ書房：京都

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「スポーツマネジメント概論」が履修済みであることが望ましい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 火曜日3限

**場所**： 研究棟B311

**備考・注意事項**： 事前に下記のメールにてアポイントを取ること．
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびスポーツマーケティングのコンセプト・概念の紹介**<br>授業の進め方、履修条件、評価基準などを解説後、スポーツマーケティングのコンセプトや概念を講義する | 授業後、初回の配布資料をよく読み、スポーツマーケティングのコンセプト・概念について復習し，翌週の小テストに備えること． | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツマーケティングとは**<br>スポーツマーケティングの役割や機能について学ぶ | スポーツマーケティングの役割や機能の理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツ市場とスポーツマーケティング**<br>スポーツビジネス市場の市場規模や近年の趨勢について学ぶ | 我が国のスポーツビジネス市場規模や趨勢の理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツ市場の細分化（マーケットセグメンテーション）**<br>スポーツ市場の細分化・プロダクトライフサイクルについて学ぶ | スポーツ市場の細分化について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツマーケティング戦略（市場機会の発見）**<br>マーケティング環境のマクロ分析（SWOT分析・PEST分析）について学習する | プロダクトライフサイクル，マーケティング環境のマクロ分析（SWOT分析・PEST分析）について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツマーケティングミックス**<br>スポーツ消費者・スポーツマーケティングの7Pモデル（Product・Price・Place・Promotion・People・Process・Physical Evidence）について学習する | 授業後に配布資料をよく読み、マーケティングミックスについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツマーケティング戦略（製品戦略）**<br>スポーツ用品，フィットネスクラブ，Jリーグやプロ野球を例にした，プロダクト（製品）戦略について学習する | 授業後に配布資料をよく読み、プロダクト（製品）戦略について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツマーケティング戦略（価格戦略）**<br>観戦スポーツなどを事例にした，価格戦略・価格形成のメカニズムについて学習する | 授業後に配布資料をよく読み、価格戦略について復習するとともに，4回から6回までの授業ノートを完成させておくこと． | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツマーケティング戦略（プロモーション戦略）**<br>AIDA，AIDMA，AISAS，などの消費行動プロセスとナイキを事例としたプロモーション戦略について学習する | 授業後に配布資料をよく読み、プロモーション戦略について理解を深め、翌週の小テストに備えておくこと． | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツマーケティング戦略（流通・販売・立地戦略）**<br>製品やブランド価値を向上させるための流通・販売・立地戦略について学習する | 授業後に配布資料をよく読み、流通・販売・立地戦略について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと． | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツプロダクトにおける消費者関与**<br>スポーツプロダクトにおける消費者関与，関与尺度(PCM，IP)について学習する | スポーツプロダクトにおける消費者関与に関する翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツプロダクトにおける，顧客価値，顧客満足，顧客エンゲージメントについて学ぶ**<br>スポーツプロダクトにおける，顧客価値，顧客満足，顧客エンゲージメントについて学習する | スポーツプロダクトにおける，顧客価値，顧客満足，顧客エンゲージメントについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **スポーツプロダクトにおけるブランドマネジメントについて学ぶ)**<br><br>スポーツプロダクトにおけるブランドエクイティ，ブランドロイヤルティ，ブランド連想，ブランドイメージなどについて学ぶ | スポーツプロダクトにおけるブランドエクイティ，ブランドロイヤルティ，ブランド連想，ブランドイメージなどへの理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツスポンサーシップ**<br><br>スポーツ組織と企業のスポンサーシップ・スポンサーメリット・スポンサーシップ評価について学習する | 授業後に配布資料をよく読み、スポーツスポンサーシップについて理解を深め、翌週の小テストに備えておくこと | 4時間 |

SP-3203-2-2

| 授業科目名 | レジャー・レクリエーション論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佐藤　馨 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

日本では経済活動だけでなく生活や人生を豊かにするレジャーやレクリエーション活動に目を向け、その重要性を再認識する時期と言える。本講義は、日常生活におけるレジャー・レクリエーションの意義や価値を理解するとともに、レクリエーション支援者として必要な基礎知識を習得する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にある、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツの楽しみ方を理解し、指導時に活用できる知識を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | レジャー・レクリエーションの普及 | 他者にレジャー・レクリエーションの重要性を説明する力を養う |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | レジャー・レクリエーションの変遷 | 個人のライフスタイルの変化とその時々のレジャー・レクリエーションの意味を理解する |
| 3. DP2.知識・技能 | レジャー・レクリエーションの意義と価値 | 時代の変遷に伴うレジャー・レクリエーションの意義や価値について理解する |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 現代社会におけるレジャー・レクリエーションの必要性 | これからの社会において、個人の働き方だけでなく、個人の余暇生活をどのように捉えるの自ら考える |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

優秀な提出課題については、講義中に全体に向けて内容をコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内容に関するレポート課題 | 5　% | ： | 授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する（5点）。 |
| 講義中盤に実施する確認テスト | 30　% | ： | 講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか30点満点で評価する |
| 本試験 | 65　% | ： | 講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか65点満点で評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『現代人とレジャー・レクリエーション』余暇問題研究所編著　不昧堂　1997
『レクリエーション・マネジメント』（財）日本レクリエーション協会編　大修館書店　1994
『レクリエーション活動援助法』吉田圭一,茅野宏明編　ミネルヴァ書房　2007
『レクリエーション援助』千葉和夫編　メヂカルフレンド社　1997

『余暇学を学ぶ人のために』日本余暇学会監修　世界思想社　2004
『地域福祉論』市川一宏,牧里毎治編著　ミネルヴァ書房　2007

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【履修上の注意】
本授業は、PCで受講することが前提であるため、必ずPCを準備すること（スマホ受講は不可）。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本試験だけでなく、内容も正確に理解しておく必要がある。従って普段の授業で重要と指摘された点は確実に覚えること。
【メッセージ】
レジャー、レクリエーションという言葉は、実はとても奥深いものである。そうした奥深さを理解出来るよう講義する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　講義前後

**場所**：　講義室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **レジャー・レクリエーション論：ガイダンスおよびレジャー・レクリエーション論の概説**<br>レジャー・レクリエーション論で学習する全講義の概要と受講上の留意点について確認する。 | 授業計画、留意点等について資料を精読し、理解する | 4時間 |
| 第2回 | **レジャー・レクリエーションの考え方①レジャー・レクリエーションとは何か**<br>レジャー･レクリエーションの歴史的変遷における位置づけを学習する。 | レジャー、レクリエーションの語源について調べる | 4時間 |
| 第3回 | **レジャー・レクリエーションの考え方②現代社会において、なぜレジャー・レクリエーションは必要か**<br>現代社会におけるレジャー･レクリエーションは必要性および重要性を解説する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にある各ライフステージやライフスタイルを考慮したスポーツライフの設計を、レジャー・レクリエーションとしてのスポーツの視点から理解する。 | 人間にとって、なぜレジャーやレクリエーションが必要であるのか自分自身の意見をまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **日本人の余暇生活**<br>日本人の余暇に対する考え方について戦後の変遷について学習する。 | 自分自身が考える日本人の余暇観についてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **諸外国における余暇生活**<br>余暇に対する考え方の諸外国と日本人との違いを理解し、各国の余暇の位置づけを学習する事により、学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にある個人のスポーツに対する欲求の違いによって「楽しさ」にもそれぞれ違いがあることを併せて学習する。 | 日本人と諸外国との余暇の捉え方の違いについてまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **前半までの授業のまとめと確認**<br>前半までの講義について特に重要と指摘した内容を正確に理解しているか確認する。 | 前半の講義において重要な内容を理解し、まとめる | 4時間 |
| 第7回 | **社会福祉とレクリエーション①福祉におけるレクリエーションの意味**<br>福祉におけるレクリエーションの意味とその必要性を学ぶ。さらに学習指導要領のスポーツ概論「豊かなスポーツライフの設計」にあるスポーツを行なうための持続可能な社会の実現を社会福祉の視点から学習する。 | 福祉の場面におけるレクリエーションの必要性について理解し，まとめる | 4時間 |
| 第8回 | **社会福祉とレクリエーション②セラピューティックレクリエーションの意味**<br>福祉現場におけるレクリエーションの位置づけとして、セラピューティックレクリエーションという概念があり、その語の意味と必要性について学ぶ。 | セラピューティックレクリエーションの意味についてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **セラピューティックレクリエーションの視点からみたサービスモデルの活用①余暇活用モデル、健康維持・増進モデル**<br>セラピューティックレクリエーションの概念を用いた代表的なサービスモデルがあり、講義ではそのモデルの意義について学習する。 | 各種モデルを用いたレクリエーションの活用について理解し、まとめる | 4時間 |
| 第10回 | **セラピューティックレクリエーションの視点からみたレクリエーションサービスモデルの活用②楽しさ向上モデル、TRサービスモデル**<br>セラピューティックレクリエーションのサービスモデルを福祉現場で用いる際の手続きを学習する。 | 各種モデルを用いたレクリエーションの活用事例について調べる | 4時間 |
| 第11回 | **レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用①レクリエーション活用事例**<br>セラピューティックレクリエーションのサービスモデルを使った実例を知り、実際の福祉現場での活用方法を理解する。 | モデルを用いた福祉現場におけるレクリエーションの活用事例についてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **レクリエーションによる対人関係能力向上モデルの活用②プログラムの作成方法**<br>対人関係能力向上モデルを用いて、実際のレクリエーションプログラムを組み立てる方法を学習する。 | モデルを用いてレクリエーションプログラムの作成方法を理解し，まとめる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **現場におけるセラピューティックレクリエーションの活用**<br><br>外部講師によるセラピューティックレクリエーションの実際の活用方法を、実践的に学習する。 | 福祉の実際の現場で活用されるモデルの実践例について理解し、まとめる | 4時間 |
| 第14回 | **レジャー・レクリエーションとスポーツと健康の関わり②<br>21世紀のレジャー・レクリエーション**<br><br>21世紀におけるレジャー・レクリエーションの意義と可能性について理解し、学習する。 | これからのレジャー、レクリエーションのあり方について自分の意見をまとめる | 4時間 |

SP-3301-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **身体構造と機能** | | | | |
| 担当教員名 | **小松　猛** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小松猛、池田樹広：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者としての実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

人体の構造と機能について，運動器と呼ばれる骨・関節・筋肉の領域での具体的な組成内容や動き，中枢・末梢を含めた神経組織の役割と人体に対する影響，循環器・呼吸器・消化器などの各臓器の領域が生きていく上で果たす具体的な役割について，それぞれの領域での身体各部の名称も含めて学ぶ．これらの知識を得ることで，人体が様々な状況で対応している機能を理解し，スポーツ動作やトレーニングまたケガの予防や対処法を正確に行うことが出来るようになる．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 運動器，神経系，各臓器に関する解剖学的名称とその具体的な機能の理解 | 身体の構造と機能を，部位別・臓器別に説明できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 人間が生きていく上で必要な活動（運動，呼吸，消化など）への応用 | 実際の人体に関わる様々な動きや現象に当てはめて，身体の機能を理解できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

ICT（タッチタイピング），ICT（PowerPoint），ICT（Excel），ICT（動画活用），ICT（専用機材・アプリ活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 振り返りテスト | 80　% | ：　各回の内容についての理解度を，毎回の授業後にフォームを用いて評価する． |
| 授業課題 | 20　% | ：　授業内で課した課題の提出や出来栄えを評価する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

美田誠二（編著）　からだのしくみが目で見てわかる　得意になる解剖整理　照林社
竹井　仁（監修）　筋肉と関節のしくみがわかる事典　西東社
齋藤健治（編）　はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ1　解剖学　化学同人
その他授業で適宜紹介します．

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **人体の構造と機能（総論）（第1回：小松担当［遠隔］）** | ヒトの身体の機能を理解するために、必要な身体を構成する組織について考える． | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 人体の構造（解剖）と機能（生理）について，それらが運動や生命維持にどのように影響しているかについて学ぶ. | | |
| 第2回 | **運動器のしくみ：骨（総論、脊柱、上肢）（第2～7回：池田担当[遠隔]）**<br>骨を構成する成分や，骨の強さに影響する要因について学ぶ．また，脊柱（頚部から腰部）と上肢（肩から手）を構成する骨の形状，名称についても学ぶ. | 脊柱、上肢を構成する主な骨の名称を覚える. | 4時間 |
| 第3回 | **運動器のしくみ：骨（胸郭、骨盤、下肢），関節（総論）**<br>体幹の胸郭部，骨盤，下肢を構成する骨の形状と名称について学び，関節の形状の種類と運動方向，その名称についても学ぶ. | 胸郭，骨盤，下肢を構成する骨と，関節の形状と動き，その名称を覚える. | 4時間 |
| 第4回 | **運動器のしくみ：上肢の関節（肩関節・肘関節・手関節・手指関節）**<br>上肢を構成する関節の形状と運動方向，それに関係するものの名称を学ぶ. | 上肢を構成する関節に関係する部分の名称および関節運動の方向について覚える. | 4時間 |
| 第5回 | **運動器のしくみ：下肢の関節（股関節・膝関節・足関節・足部の関節）**<br>膝関節を中心とした下肢を構成する関節の形状と運動方向，それに関係するものの名称を学ぶ. | 下肢を構成する関節に関係する部分の名称および関節運動の方向について覚える. | 4時間 |
| 第6回 | **運動器のしくみ：筋肉（総論・体幹）**<br>人体の筋肉の種類および構成する成分や，筋収縮のタイプについて学ぶ．また，体幹の筋肉の形状，名称についても学ぶ. | 筋肉の構成成分，体幹の筋の名称を覚える. | 4時間 |
| 第7回 | **運動器の仕組み：筋肉（上肢・下肢）**<br>上肢および下肢を構成する筋肉の形状と名称および運動とそれに対応する主な筋機能について学ぶ. | 上肢・下肢を構成する筋肉の名称および運動に対応する機能を覚える. | 4時間 |
| 第8回 | **神経の構造と機能：総論と中枢神経（第8～14回：小松担当［遠隔]）**<br>神経組織の構造と伝達機能の機序，脳・脊髄といった中枢神経の構造と機能、名称を学習する. | 神経組織の名称と機能，中枢神経系の構造と役割について再確認する | 4時間 |
| 第9回 | **神経の構造と機能：末梢神経と自律神経**<br>末梢神経，自律神経の役割と機能について学習する. | 末梢神経の名称とその支配領域，自律神経の機能について復習する | 4時間 |
| 第10回 | **人体における恒常性と血液の組成，血液感染について**<br>恒常性の維持と血液の構成と役割，血液感染の内容と対処法を学習する. | 恒常性（ホメオスターシス）の意味とその維持のために人体で行われていること，血液の成分とその役割について理解する | 4時間 |
| 第11回 | **人体における免疫・アレルギー、呼吸器の構造と機能について**<br>生きていくために必要な免疫機能と，過剰な免疫反応であるアレルギーについて学習し、酸素を取り込んで二酸化炭素を排出するというはたらきをする呼吸器系の構造と機能を学ぶ. | 免疫・アレルギーが起こるしくみ，呼吸器系の組織が果たしている役割を理解する | 4時間 |
| 第12回 | **心血管系の構造と機能**<br>心臓血管系の構造と血液循環経路を学習する. | 人体の心臓の構造と役割を深く理解し，循環器系について復習する | 4時間 |
| 第13回 | **消化器系および腎・尿路系の構造と機能について**<br>摂取した栄養を消化・吸収・代謝をする消化器系のそれぞれの臓器とその役割，そして体内の老廃物を排泄するために必要な腎臓やその他の尿路系の器官について学習する. | 体内への吸収を担う消化器系，体外への排泄を担う腎・尿路系の具体的な働きについて再確認する | 4時間 |
| 第14回 | **生殖器の構造と機能**<br>生殖器の構造を理解し，機能するために必要なホルモンのはたらきについても学ぶ. | 男女の生殖器系の解剖について復習し，機能の重要性について理解を深める | 4時間 |

SP-2030-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **運動生理学概論（スポーツ生理学概論）** | | | | |
| 担当教員名 | **禰屋　光男** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Sports Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事等の実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

スポーツ生理学・運動生理学は、人体の機能を探求する学問である生理学の中で、スポーツという観点で学ぶ学問領域である。このスポーツ生理学を学ぶことで、各自のスポーツの競技力向上やトレーニングに役立てることができる。特に、骨格筋やエネルギー供給系の知識は中学校や高校の保健体育の授業においても取り上げられる。これらの知識を習得することは中学校、高校の保健体育の授業やスポーツ活動を指導する上で不可欠である。（学習指導要領における「体育理論」領域）

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ活動時に生じる運動生理学的反応 | 運動に伴う生理学的反応を学び、基礎的内容を理解できる |
| 2. DP2.知識・技能 | 生涯にわたり健康な生活を実施戦するための基礎的な科学的知識 | 運動生理学的観点からパフォーマンス分析を行う際に必要な基礎的知識および学習指導要領における「体育理論」分野で扱う教材を理解できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業内テスト、中間テストおよび学期末の試験により評価する

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 中間テスト | 50 % | ： 授業で解説する生理学領域ごとに理解度を筆記試験で評価する（中間テスト（50点） |
| 期末テスト | 50 % | ： 運動生理学的観点からパフォーマンス分析を行う際に必要な基礎的知識の理解度について筆記試験で評価する（50点） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識」村岡功編著　市村出版

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業の資料配布や試験は全て電子的に行い、紙媒体の資料配布・試験実施は行わないため、パソコンの持参またはスマートホンを持参すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 随時

**場所：** 研究室

**備考・注意事項：** 初回講義時に説明します

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびスポーツ生理学の概説**<br>授業の内容，進め方，予習・復習，評価方法などについて確認します．（学習指導要領の確認） | 運動生理学の概要を復習する | 4時間 |
| 第2回 | **身体組成，骨格筋の構造**<br>スポーツ生理学を学ぶのに必要な身体の構造（身体組成，骨格筋の仕組み）について学びます．また，体育理論の中の「体力トレーニング」の単元に含まれる筋線維の特徴について学びます． | 身体組成、骨格筋の仕組みを復習し、理解する | 4時間 |
| 第3回 | **骨格筋の微細構造と神経支配**<br>骨格筋の微細構造と骨格筋を構成する要素，収縮のための神経の支配の仕組みや骨格筋の微細構造と神経支配に関する教材を学びます．また，体育理論の中の「効果的な動きのメカニズム」の単元に含まれる動きのコントロールの仕組みについて学びます． | 骨格筋の微細構造、神経支配による収縮の仕組みを復習し、理解する | 4時間 |
| 第4回 | **骨格筋収縮のメカニズム**<br>運動単位や興奮収縮連関について学びます．また、骨格筋収縮のメカニズムに関する教材を学びます． | 運動単位、興奮収縮連関について復習し、理解する | 4時間 |
| 第5回 | **筋活動のためのエネルギー供給系**<br>筋活動に必要なエネルギー供給系とその基質について学びます．また、筋活動のためのエネルギー供給系に関する教材を学びます．また，体育理論の中の「効果的な動きのメカニズム」の単元に含まれるATP供給の仕組みについて学びます． | 3つのエネルギー供給系の特徴を復習し、理解する | 4時間 |
| 第6回 | **筋線維タイプの特性**<br>エネルギー供給系と筋収縮特性からみた筋線維タイプの特性を学びます． | 筋線維タイプとエネルギー供給系の関係を復習し、理解する | 4時間 |
| 第7回 | **筋の力発揮特性**<br>筋の横断面積と固有筋力，関節角度の影響などについて学びます． | 筋断面積、関節角度と発揮張力について復習し、理解する | 4時間 |
| 第8回 | **筋活動の種類と特性**<br>静的収縮と動的収縮について学びます． | 静的収縮、動的収縮の特徴について復習し、理解する | 4時間 |
| 第9回 | **骨格筋の加齢による変化と性差**<br>骨格筋の発育，老化による変化および性差について学びます． | 骨格筋の発育、老化、性差の特徴について復習し、理解する | 4時間 |
| 第10回 | **運動を制御する神経系の構造**<br>筋の活動に影響を及ぼす神経系の構造と働きを学びます． | 神経系の構造を復習し、理解する | 4時間 |
| 第11回 | **運動・トレーニングと神経系の機能**<br>運動時の神経系の機能の機序および各種トレーニングによる神経系機能の応答について学びます． | トレーニングによる神経系機能の変化について復習し、理解する | 4時間 |
| 第12回 | **運動を制御する内分泌系の機能の概要**<br>運動に関係する各種ホルモンの特性と機能について学びます． | 各種ホルモンの運動に対する影響を復習し、理解する | 4時間 |
| 第13回 | **運動と免疫系の関係の概要**<br>運動に関係する免疫系の特性について学びます． | 運動時の免疫系の機能を復習し、理解する | 4時間 |
| 第14回 | **運動と呼吸循環系機能の概要**<br>運動に関係する呼吸循環系機能の概要について学びます． | 運動時の呼吸循環系の機能を復習し、理解する | 4時間 |

SP-2031-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **救急処置法** | | | | |
| 担当教員名 | **佃・小松・田中忍・渡邉正樹** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義・演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 佃、小松、田中：JOC強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート_佃、水泳、バレーボール_小松）、滋賀県の医科学専門スタッフ等の実践経験（小松、田中、佃）を講義内容に結びつけている。（全9回） | | | | |

**授業概要**

スポーツ現場での基本的な救急処置の理解と実践力の修得を授業のねらいとする。
救急処置の第一次処置であるBasic-Life-Supportの原則について学び、次にスポーツや教育現場で多い疾病と外傷・障害発生時の対応方法について学習する。また学習指導要領に明記されている救急処置法の目標と内容、教材や指導法について学び、指導計画を立てる。実践力に結び付けるために、スポーツや教育現場で多い救急対応のシーンを想定し、他者との協力によって適切な応急処置ができるようにシミュレーションを行う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツや教育現場における適切な救急対応の必要性 | スポーツや教育現場で発生するけがや事故の対応方法について、必要性と重要性を理解できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | ガイドライン2020に従ったスポーツや教育現場での救急処置に必要な知識と技能 | スポーツや教育現場で怪我や事故・急病等が発生したときに、必要な基礎的救急対応や初期行動を適切に実践できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 救急処置法に関する課題発見・課題の解決に必要な情報収集・課題解決策の提案 | 救急処置法に係る課題に対して、知識・技能を適切に組み合わせて、解決に向けた考えや提案を適格に説明することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)

・ICT(動画活用)、ICT(専用機材・アプリ活用)
講義であっても、基礎的な実践的内容は演習として取り組みます。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業の基礎的内容のまとめとして、救急対応の初動と基礎の実践力の評価とBLS（ベーシックライフサポート）に係る基礎的な試験を重点課題として評価する（第5-7回を予定）。
また基礎的知識をスポーツや教育現場に落とし込んだ場合のロールプレイやＰＢＬによって、DP1.3に係る評価を重点的に実施する。課題が適切に期日までに提出されなかった場合は、授業時の課題の得点にかかわらず、評価をF（不合格）とする。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業時に課される課題の得点 | | ： 救急処置に関する理論と、救急処置が必要となるスポーツ現場におこりやすい外傷や疾病についての理解度を評価する。 |
| | 50 % | |
| 救急対応の原則についての実践的理解度テスト | | ： 実際の救急処置の初動と基本実技の正確性、およびスポーツ活動を想定した救急処置手順についての理解について、課題毎に定めたルーブリックに従って評価を行う。 |

50　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修、救急蘇生法の指針、へるす出版、2016年
市民用日本赤十字社救急法講習教本、日本赤十字社編

**履修上の注意・備考・メッセージ**

授業には一部に、実践的演習を含みます。
授業の資料はTeamsにて配信します。対面授業時には原則としてPCを持参してください。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業教室

**備考・注意事項**：　急に訪ねられても対応できないこともありますので、可能な限り事前にTeams又は授業担当教員へのメールなど、何らかの方法でアポイントを取ってください。

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **救急法　イントロダクションと命の教育**<br>授業計画と授業の到達目標を理解する。<br>自らの命を守ることの重要性を理解する。そしてスポーツの現場での事故や傷害の発生率などを概説し、スポーツ活動に関わる全ての者が、救急の知識と基本的な対応力を身につけることの必要性について学習する。<br>学習指導要領における目標と内容を理解する。 | 救命の連鎖の重要性について復習する | 4時間 |
| 第2回 | **Basic life support 基礎実技(成人の心肺蘇生法)**<br>成人を対象にした心肺蘇生法の基礎とAEDの使い方、AEDを効果的に使用するための注意事項を学習する。 | 心肺蘇生の手順を整理し、正しい手技を復習する | 4時間 |
| 第3回 | **Basic life support 基礎実技(小児の心肺蘇生法)**<br>小児を対象にした心肺蘇生法の基礎とAEDの使い方、AEDを効果的に使用するための注意事項を学習する。 | 心肺蘇生の手順を整理し、AEDの使用方法を復習する | 4時間 |
| 第4回 | **Basic life support 基礎実技(心肺蘇生法:体位の変換と移動、複数傷病者の対応)**<br>傷病者の状況に応じて必要な体位変換や移動方法とリスクマネジメントを学ぶ。 | 一次救命時の傷病者の体位変換や移動の際の注意点を復習する | 4時間 |
| 第5回 | **コミュニティでのスポーツ活動と安全(心疾患、突然死、除細動を含む)**<br>コミュニティでのスポーツ活動と安全(心疾患、突然死、除細動を含む)について学ぶ<br>これまで学んだ教材と他者と情報共有するための指導法についてまとめ、グループごとに模擬的な指導を行い、重要なポイントを整理する | 年代別の突然死の種類と対応方法を復習する | 4時間 |
| 第6回 | **コミュニティでのスポーツ活動と安全（脱水、熱中症など)**<br>コミュニティでのスポーツ活動と安全（脱水、熱中症など）について学ぶ | 予習：これまでのスポーツ現場でのライス処置について疑問点などをリストアップしてくる　復習：効果的なライス処置を自身の四肢に行ってみる | 4時間 |
| 第7回 | **Basic life support　RICE処置の理論と実際**<br>スポーツ現場で一般的に用いられるRICE処置の理論と実際を学ぶ | RICE処置の原則と禁忌を復習する | 4時間 |
| 第8回 | **一般外傷(手当ての基本　傷と止血)について**<br>一般外傷の具体的な手当の手順と特に感染防御等のリスク管理を学ぶ<br>三角巾などを使って止血と固定のための具体的方法を学修する | 感染のリスクを復習し、身近なスポーツ現場での救急処置の際の感染のリスクについてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **一般外傷(手当ての基本と　捻挫、骨折、脱臼時の固定)について**<br>捻挫、骨折、脱臼について、スポーツ現場で好発する外傷の救急処置（バンテージなどを用いた固定とRICE処置）について学ぶ | 学んだ手技を実施してみる。正確に素早くできるように復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **Basic life support 基礎実技と救急処置理論のまとめ**<br>スポーツ現場で発生するスポーツ外傷・障害、および一般外傷や疾病に対しての救急処置について、これまで学んだ教材と他者と情報共有するための指導法についてまとめ、模擬的な指導を想定して、重要なポイントを整理する | 身近なスポーツ現場での外傷発生とその対応に備えて、救急処置に必要な物品の調達などを確認する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第11回 | **Basic life support 基礎実技（一次救命とAED）**<br><br>AEDを用いた一次救命行動を実習する | 手技や一連の行動に課題があれば、苦手な課題を改善できるまで練習する | 4時間 |
| 第12回 | **Basic life support 基礎実技（シミュレーションワーク1）**<br><br>1.マラソン心停止、2.柔道中熱中症、3.遠泳時の落雷（なお種目と外傷・障害・疾病の組み合わせは変更することがある）4.ラグビー脳振盪、5.バスケットボール肩脱臼、6.バレーボール足関節捻挫（なお種目と外傷・障害・疾病の組み合わせは変更することがある）等のスポーツの現場で好発するスポーツ外傷・疾病について、これまで学んだ救急処置を応用し、手順の原則や優先的に行う手順について思考・判断する | シミュレーションワーク課題について改善策を提案しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **Basic life support 基礎実技（シミュレーションワーク2）**<br><br>前回の授業課題について概説し、救急処置の基本的手順と優先事項を整理してまとめる。その後再度同じ問題に取り組み、救急処置の原則と応用についてより深い思考と判断を行う。総括として課題を提出する。 | シミュレーションワーク課題の改善策を解決できたか確認する | 4時間 |
| 第14回 | **Basic life support 基礎実技（課題動画の練習と作成、提出）**<br><br>救急処置法の初動から胸骨圧迫までを救急処置のアルゴリズムに従って行い繰り返しトレーニングする。課題として指示に従って、可能な限り精度の高い手順で行った動画を提出する。 | 復習：講評動画を確認し自己の提出動画を振り返り改善点を述べる | 4時間 |

SP-3302-1-2

| 授業科目名 | 体力トレーニング概論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 渡邊　裕也 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 明治安田厚生事業団研究員，NPO法人京都運動器障害予防研究会理事として従事してきた一般の人々（子ども，勤労者，高齢者）の健康維持，増進につながる活動やアスリートのサポートといった実践経験を講義内容に活用している． | | | | |

**授業概要**

各種トレーニングはスポーツパフォーマンスの基盤である体力を向上させるために行われる．この科目では，トレーニングの意義，基礎知識，適応のしくみを体系的に学ぶ．前半は各種トレーニングの基礎知識を中心に学ぶ．具体的には，レジスタンストレーニング，エアロビックトレーニング，ストレッチング，パワートレーニングを取り上げる．後半はトレーニング計画に焦点を当てる．授業を通じて，トレーニングに必要となる基本的な考え方の習得を目指す．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | トレーニングの意義の理解 | 各種トレーニングが，どういった能力の強化につながるのか正確に理解できる． |
| 2. DP2.知識・技能 | トレーニングによる適応の理解 | 各種のトレーニング刺激に応じた生理学的適応について理解し，科学的根拠に基づいたトレーニングの知識を身に付ける． |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 目的に応じたトレーニング計画の作成とトレーニングの選択 | 目的に応じてトレーニング計画を立案し，トレーニングメニューの基本例を適切に提示・説明できるようになる． |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学ぶ意欲と多様な対象への応用力の習得 | 積極的に学ぶ意欲を身に付けるとともに，多様な対象者に応じて，有効なトレーニングを提示・説明できるようになる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

各回の課題によっては，PowerPointやExcelを使用する場合もある．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

各回の課題によっては，PowerPointやExcelを使用する場合もある．

**成績評価**

**注意事項等**

成績は，毎回の課題，中間テスト，期末テストにより評価する．

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の課題 | 20 % | ： 講義内容の理解度を確認し，評価する． |
| 中間テスト | 40 % | ： 前半の授業内容の理解度を筆記試験で評価する． |
| 期末テスト | 40 % | ： 後半の授業内容の理解度を筆記試験で評価する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・よくわかる筋の機能解剖　Kingston, B.著（足立和隆訳）
・競技スポーツのためのウエイトトレーニング　有賀誠司著
・ストレングストレーニング&コンディショニング（第4版）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

授業資料はTeamsを通じて配信します．授業には，各自PCを持参してください．
本科目は2単位科目であり，毎回4時間程度の授業外学修が必要です．「授業外学修課題」に取り組むことに加え，授業内容を丁寧に復習してください．また，必要に応じて次回の授業の予習をしてください．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の後

**場所**：　授業教室

**備考・注意事項**：　事前に何らかの方法で連絡するのが望ましい．

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクションおよびトレーニング時の安全管理**<br>授業の概要とスケジュール，および評価方法を確認する．授業時の注意事項とトレーニングルーム利用方法を学び，安全管理に対する理解を深める． | 安全なトレーニングルーム利用のポイントを復習する．授業時間外にトレーニングルームを体験利用する． | 4時間 |
| 第2回 | **体力の分類と評価およびトレーニングの原理・原則**<br>体力の分類を概説し，各体力の評価方法および強化方法を学ぶ．あわせて，トレーニングの原理・原則を理解する． | 各種体力要素とその評価方法を学習する．　また，適切なトレーニング効果獲得の基盤とな るトレーニングの原理・原則を理解する． | 4時間 |
| 第3回 | **トレーニング理論①レジスタンストレーニングの基礎**<br>レジスタンストレーニングの基礎知識を理解する． | 標準的なレジスタンストレーニングの負荷，回数，セット数，セット間休憩，頻度を予習，復習する．自身が取り組んでいるトレーニングに当てはめて理解する． | 4時間 |
| 第4回 | **トレーニング理論②マシントレーニング**<br>マシントレーニングの種類や特徴，動作時の注意点について理解する． | 各種マシントレーニングを実施した際に動員される筋を予習し，基本姿勢と動作を復習する．可能な限り，トレーニングルームに行って授業時のポイントをもとに，適切なトレーニング動作を練習する． | 4時間 |
| 第5回 | **トレーニング理論③スクワット，ベンチプレス，デッドリフト**<br>フリーウエイトで実施するレジスタンストレーニングの代表的な3種目の理解を深める． | 代表的なフリーウエイト種目について予習，復習する．自身が取り組んでいるトレーニングに当てはめて理解する． | 4時間 |
| 第6回 | **トレーニング理論④エアロビックトレーニング**<br>エアロビック（有酸素）トレーニングの基礎知識を理解する． | 標準的なエアロビックトレーニングの概略を予習，復習する．自身が取り組んでいるトレーニングに当てはめて理解する． | 4時間 |
| 第7回 | **トレーニング理論⑤パワートレーニング**<br>パワートレーニングの代表的な種目であるハイクリーンの意義，動作等を理解する． | ストレッチ - ショートニング - サイクルの観点からパワートレーニングを理解する．可能な限り，トレーニングルームに行って授業時のポイントをもとに，適切なトレーニング動作を練習する． | 4時間 |
| 第8回 | **トレーニング理論⑥ストレッチング**<br>ストレッチングによって関節可動域が拡大するメカニズムを学ぶ． | 解剖学の基礎に基づいて全身のストレッチングを予習、復習する。各種ストレッチング法の理解を深める。 | 4時間 |
| 第9回 | **プログラムデザイン①ピリオダイゼーション**<br>ピリオダイゼーションの概要を理解する． | 試合で高いパフォーマンスを発揮するためのトレーニング計画を理解すると動作を復習する．自身が取り組んでいる，あるいは取り組んでいた競技に当てはめて考える． | 4時間 |
| 第10回 | **プログラムデザイン②レジスタンストレーニング**<br>パフォーマンス向上につながるトレーニング計画について，レジスタンストレーニングの観点から理解する． | 基本的なレジスタンストレーニング種目を予習し、理論を復習する。複数の競技種目に当てはめて考える。 | 4時間 |
| 第11回 | **プログラムデザイン③プライオメトリックトレーニング**<br>パフォーマンス向上につながるトレーニング計画について，プライオメトリックトレーニングの観点から理解する． | ストレッチ - ショートニング - サイクルを再確認し，理論を復習する．複数の競技種目に当てはめて考える． | 4時間 |
| 第12回 | **プログラムデザイン④スピード・アジリティトレーニング**<br>パフォーマンス向上につながるトレーニング計画について，スピードおよびアジリティの観点から理解する． | スピードやアジリティの定義や強化方法を予習し，理論を復習する．具体的なプログラムについての理解を深める． | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **プログラムデザイン⑤エンデュランストレーニング**<br><br>パフォーマンス向上につながるトレーニング計画について，エンデュランストレーニングの観点から理解する． | 有酸素トレーニングの基本的な考え方を予習し，理論を復習する．具体的なプログラムについての理解を深める． | 4時間 |
| 第14回 | **プログラムデザインの振り返り**<br><br>トレーニング計画を立案するための具体的なポイントと安全に配慮すべき事項を確認する． | トレーニング計画における注意点を復習し，理解を深める． | 4時間 |

SP-2032-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ指導論** | | | | |
| 担当教員名 | **北村　哲・コーチング教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチームの科学的サポート（強化、科学に関わる委員各種）に関わる<br>2021～現在　日本テニス協会JTAアカデミー委員会委員として指導者養成に関わる<br>2022～日本スポーツ協会コーチデベロッパーとして公認コーチ養成に関わる | | | | |

**授業概要**

スポーツ指導者としての役割や心得について理解するとともに、スポーツ指導の際に必要となる基本的理論について学ぶ。
主には、「スポーツ技術」「運動観察」「運動学習」「スポーツ戦術」「トレーニング計画の原理と方法」「スポーツ実施者の心理」「指導哲学」等であり、これらの基本的理論について理解するとともに、自身のスポーツ活動を振り返りながらレポート作成することでスポーツ指導の実践に役立てられる知見を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ指導者としての重要な知識とスポーツ指導の実践に役立てられる知見 | 国内におけるスポーツ指導者の在り方や各指導者の役割や心得について理解し、スポーツ指導の際に必要な基本的理論について解説できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 理想的なスポーツ指導のあり方 | 自身のこれまでのスポーツ活動における経験と授業内容を関連づけて、自身が考える理想的な指導のあり方について説明できる。 |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ指導におけるさまざまな情報 | 課題作成において、授業内容から幅広く、また多くの必要な情報を取り入れることができる。もしくは深めることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
「ICT（タッチタイピング）」ICT(動画活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 期末テスト | 60　% | ：　授業初回で提示するルーブリックに即して評価する。 |
| 期末レポート | 40　% | ：　授業初回で提示するルーブリックに即して評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

日本スポーツ編『リファレンスブック』
関岡康雄著『コーチと教師のためのスポーツ論』、道和書院、2006年
レイナー・マートン著『スポーツ・コーチング学―指導理念からフィジカルトレーニングまで』、大修館書店、1999年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項：** 担当教員へメールで質問を送ってください（北村哲：kitamura@bss.ac.jp）／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツ指導とは（北村）**<br>本授業におけるスポーツ指導論の外観、位置づけについて理解し、スポーツ指導のイメージを明確にする。 | 体育とスポーツの違いについて調査しまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツの指導に必要な観念（北村）**<br>スポーツ指導、コーチング、ティーチングの概念、スポーツ指導の歴史的変遷および形態、指導者の役割・関わり方(クラブのコーチ、課外活動の顧問、学校における保健体育の授業時におけるスポーツ指導等)について理解する。 | 自身が受けた指導の中で各概念に当たるトピックについて振り返り各種まとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツの技術の理解①　技術と技能（岡部）**<br>スポーツパフォーマンスの説明・スポーツパフォーマンスにおける技術の位置づけ、技術と技能、オープンスキルとクローズドスキルについての理解する。 | 自身の専門種目から一つ技術を取り上げ、その技術について詳細に文章で記述しまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツの技術の理解②　状況判断オープンスキルの練習（坂尾）**<br>状況判断の流れについて理解し、オープンスキルのトレーニング方法について考える。また運動学的技術技能レベルの評価基準を理解し、自身の技能を評価する。 | 自身の専門種目から一つ技術を取り上げ、その技術課題について詳細に文章で記述しまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツパフォーマンスの改善（林）**<br>スポーツパフォーマンスの評価方法を理解するとともに、PDCAサイクルを活用したトレーニング展開について考える。 | 自身の技術向上の過程について振り返りまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツにおける運動、技術の観察評価について①　運動学的視点から（岡部）**<br>循環・非循環運動運動、局面構造、局面融合について理解し、各理論を用いて自身の技術を分析・評価する。 | 自身が取り上げた技術について運動学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。 | 4時間 |
| 第7回 | **練習プログラムの検討・運動学習について（玉城）**<br>運動学習：1万時間の法則、反復練習の利点・不利点、分散練習・集中練習、ランダム練習・シリアル練習等外的注意・内的注意に関する理論について理解し、経験した各種練習プログラムのメリット・デメリットについて分析・評価する。 | これまで自身が経験した運動学習の過程について振り返りまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツにおける運動、技術の観察評価について　機能解剖、体力学の視点から（竹川）**<br>技術発揮に影響する体力的、機能解剖学的要素について理解し、自身の技術について分析・評価する。 | 自身が取り上げた技術について体力学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。 | 4時間 |
| 第9回 | **指導対象の心理・指導者の心理について（工藤）**<br>指導対象者の心理や、指導者の心理について考える。 | 自身が師事した指導者の心理について考えまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツ戦術の指導について（玉城）**<br>戦略・作戦・戦術の用語の理解や各スポーツ種目の戦術の事例、戦術立案や戦術トレーニングについて理解し、自身のスポーツにおける戦術について分析する。 | 自身の専門種目のルールを再度見直し、戦術の考案を試みる。自身が取り上げた技術について体力学的視点から整理しまとめ、現在の問題点について明らかにする。 | 4時間 |
| 第11回 | **指導者の指導哲学について（渋谷）**<br>指導者の役割や指導者の理念および哲学がどのように形成されるかについて理解し、自身のスポーツ観について考える | 著名な指導者の自伝を1冊以上読む。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツ指導におけるトレーニング計画について①（短期・中期計画）（渋谷）**<br>ピリオダイゼーション、マクロ・メゾ・ミクロサイクル、１日の練習プログラムの組み方等について理解し、自身の活動における計画を作成する。 | 自身の経験しているトレーニングの計画内容について分析する。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツ指導におけるトレーニング計画について②（長期計画・発育発達）（坂尾）**<br>発育発達、一貫指導プログラムについて理解し、自身の経験を振り返り、理想のプログラムについて検討する。 | 自身の経験してきたトレーニングキャリアの内容について分析する。 | 4時間 |
| 第14回 | **理想のスポーツ指導とは（竹川）**<br>これまで授業内容のレビューから、スポーツ指導についての考え方、実践方法について総括し、自身の理想とするスポーツ指導の在り方について考える。 | 中学・高校の部活動についての資料を読み、部活動のあり方について整理する。 | 4時間 |

SP-3303-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ栄養学概論** | | | | |
| 担当教員名 | **武田　哲子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪帯同、2021年東京五輪、2024年パリ五輪帯同）として選手の栄養サポート経験がある。体重コントロールやコンディション管理、試合に向けた食事調整などの実践経験を講義内容に結びつけている（第8～13回） | | | | |

**授業概要**

アスリートの競技力向上にはトレーニングだけでなく適切な栄養管理も重要である。この講義では、競技パフォーマンスやコンディション調整と関連した栄養素の機能・代謝などの基礎的な理論を解説し、アスリートの競技力向上を目指した栄養管理法などについて考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ活動を効果的に行うことができるための栄養・運動・食事調整の知識の習得 | スポーツ活動時の生理的変化の理解と栄養素等摂取の関わりを理解する |
| 2. DP2.知識・技能 | パフォーマンス発揮のための運動トレーニングおよび栄養素等摂取の知識の習得 | より効果的なスポーツ活動の実施および体づくりが実践できるために栄養を評価・実践できるようになる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツ現場における栄養に関する課題の理解 | スポーツ栄養に関する情報を収集し、考察することができる |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 毎回の授業における振り返りシート作成 | 授業に意欲的に参加し、振り返りシートを適切に作成することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・その他(以下に概要を記述)

・ICT(Excel)
・ICT(Word)
・ICT(Forms)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 中間試験 | 30 % | ： | スポーツ活動時の生理的変化やそれに関わる栄養素等摂取について理解できているかを30点満点で評価する |
| 期末試験 | 30 % | ： | パフォーマンス向上のための運動トレーニングおよび体づくりに必要な栄養素等摂取とその具体的な方法について理解できているかを30点満点で評価する |
| 振り返りシートおよびレポート | 40 % | ： | 毎回の講義内容に対する理解，関心度およびスポーツと栄養に関する知識を用い，指定の形式に沿って独自の意見を提示できているかという観点から評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」田口素子・樋口満編著（市村出版）
「スポーツ栄養学」寺田新（東京大学出版会）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　研究室（B214）

**備考・注意事項**：　事前にアポイントをとるようにしてください（takeda-s@bss.ac.jp）。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスとスポーツ栄養に関する概説**<br>授業の進め方，達成目標を確認する. | 次回キーワード（エネルギー代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第2回 | **エネルギー産生のための食事**<br>運動時におけるエネルギー代謝について理解し，運動特性に応じた糖質および脂質摂取方法について学ぶ. | 次回キーワード（タンパク質代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第3回 | **身体づくりのための食事**<br>運動時におけるタンパク質代謝について理解し，身体づくりに必要なタンパク質摂取方法について学ぶ. | 次回キーワード（水分補給）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツと水分補給**<br>運動時の水分の役割，水分出納について理解し，環境に適した水分補給について学ぶ. | 次回キーワード（骨，カルシウム代謝）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第5回 | **骨づくりとカルシウム摂取**<br>アスリートにおける骨の健康問題および骨代謝について理解し，効果的なカルシウムの摂取について学ぶ. | 次回キーワード（スポーツ貧血）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツ貧血**<br>アスリートにおける貧血の問題について理解し，貧血予防の食事について学ぶ. | 前半授業の内容をまとめ，理解を深める | 4時間 |
| 第7回 | **前半授業のまとめと達成度チェック**<br>前半授業のまとめとして達成度をチェックする. | 次回キーワード（食事調査）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第8回 | **食事量の評価方法**<br>競技や体格に応じたエネルギー消費量の推定について理解し，実践に向けた知識を習得する. | 次回キーワード（体組成）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第9回 | **体格の評価方法**<br>身体組成の計測方法とその意義について理解し，競技特性に合った体格について学ぶ. | 次回キーワード（アスリートの減量）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第10回 | **アスリートの減量**<br>アスリートにとっての減量の目的を理解し，その手法について学ぶ. | 次回キーワード（アスリートの増量）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第11回 | **アスリートの増量**<br>アスリートにとっての増量の目的を理解し，その手法について学ぶ. | 次回キーワード（コンディショニング）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第12回 | **試合時の食事調整とコンディショニング**<br>試合期に向けたコンディショニングにおける食事調整の必要性を理解し，実践に向けた知識を習得する. | 次回キーワード（栄養指導、栄養サポート）について知識が不足している内容について予め調べノートにまとめておく. | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツ現場における栄養指導**<br>ジュニア～トップまで様々な対象に対する栄養指導や栄養サポートの方法や実践に向けた知識を習得する. | スポーツ現場における栄養摂取の課題を整理する. | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツ現場における栄養摂取の課題** | これまで扱った内容について復習しておく. | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 授業で扱った内容や、自身のこれまでの経験をふまえて、今後スポーツ現場においてどのように選手の栄養摂取、食環境を整備すべきか課題を整理し各自の考えをまとめる. | | |

SP-3304-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ医学概論** | | | | |
| 担当教員名 | **小松　猛** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小松　猛：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者の実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

スポーツを効果的かつ安全に行うためには、スポーツによって起こる骨や関節、筋や腱、靭帯など運動器の外傷（急性に起こる怪我、捻挫や骨折など）や障害（慢性に起こる故障、疲労骨折や原因不明の腰痛症など）に関する知識は不可欠である。この授業では、身体構造を学びながら、スポーツによる外傷や障害がどのような状況で起こるのか，どのように傷害を診断して治療をするのかを学び、さらに、どうすれば予防できるかについても考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ外傷・障害を理解するために必要な身体解剖と機能、そして運動器に異常が起こった場合に出てくる症状。 | 身体解剖とその機能を理解し、異常を来たすメカニズムと出てくる症状に関する知識を習得できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ外傷・障害に対し、その原因を理解して診断するための能力、そして必要とされる対応方法。 | 目の前でスポーツ外傷・障害が起こった場合に、的確な診断と処置ができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 50　% | ：　スポーツ医学に関する理解を確認するため、授業後に出した課題について評価する。 |
| 定期テスト | 50　% | ：　全授業を通して学習したスポーツ外傷・障害について、十分に理解できているかをテスト形式で行い評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 藤本繁夫　大久保衛（編） | ・新・スポーツ医学［改訂新版］(やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 4) | ・嵯峨野書院 | ・2020　年 |

**参考文献等**

現場で役立つスポーツ損傷ガイド　－診断、治療、復帰までー　鳥居　俊（監訳）　「NAP limited」
筋肉と関節のしくみがわかる事典　竹井　仁（監修）　「西東社」

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **総論①　スポーツ医学の役割と健康管理に必要な知識（遠隔）** | スポーツ医学に関する様々な情報を集めて理解する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 「スポーツ医学とは？」をテーマに、スポーツ医学に関わる職種の役割、スポーツを行う上で必要な健康に関する知識について学ぶ。 | | |
| 第2回 | **総論②　スポーツ現場で発生するケガとその対応について（遠隔）**<br>スポーツ現場で起こるスポーツ外傷や障害の事例、その際に必要な救急対応も含めた対処方法について理解を深める。 | スポーツ外傷と障害に関する病態と処置の理解を深める | 4時間 |
| 第3回 | **総論③　スポーツ現場で発生する外傷・障害の病態と、その適切な評価の方法（遠隔）**<br>スポーツ外傷・障害の定義、病態について、そして具体的な症例を示しながら、適切な評価の手順について理解を深めていく。 | スポーツ外傷・障害の知識の整理とスポーツ現場で知っておくべき評価について理解する | 4時間 |
| 第4回 | **各論①　上肢のスポーツ外傷・障害－肩関節（遠隔）**<br>肩関節の解剖を再確認して、実際によくみられるスポーツ外傷・障害について理解する。 | 肩関節の解剖、傷害の原因、対処方法について理解を深める | 4時間 |
| 第5回 | **各論②　上肢のスポーツ外傷・障害－上腕および肘関節（遠隔）**<br>上腕から肘にかけてのスポーツ外傷・障害の病態を知り、解剖についても再確認する。 | スポーツの種目によって起こりやすい上腕から肘にかけての外傷・障害について復習する | 4時間 |
| 第6回 | **各論③　上肢のスポーツ外傷・障害－手関節・手の外傷・障害（遠隔）**<br>手関節・手のスポーツ外傷・障害（突き指，骨折など）についての理解と、その対策について学ぶ。 | 手関節・手の外傷・障害の特徴と正しい対処方法を調べて理解する | 4時間 |
| 第7回 | **各論④　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害－頭部外傷（遠隔）**<br>頭部のスポーツ外傷で、「頭をうったら何を考え、どうすべきか？」ということについて、解剖と考えられる病態を理解し、正しい対処方法を学ぶ。 | 頭部外傷に関する授業内容を復習する | 4時間 |
| 第8回 | **各論⑤　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害－頚部と胸背部の外傷・障害（遠隔）**<br>頚椎と胸背部のスポーツ外傷・障害について、病態の重症度の評価方法と対処方法を正しく理解する。 | 神経症状を伴う頚椎のスポーツ傷害の再確認をする | 4時間 |
| 第9回 | **各論⑥　頭部・脊椎のスポーツ外傷・障害－腰部の外傷・障害　（遠隔）**<br>腰部のスポーツ外傷・障害について　腰の痛みの考え方，腰椎分離症や椎間板ヘルニアなど、腰部のスポーツ障害の病態と対策について理解を深める。 | 腰部の代表的スポーツ傷害と腰痛予防について理解を深める | 4時間 |
| 第10回 | **各論⑦　下肢のスポーツ外傷・障害ー股関節・大腿（遠隔）**<br>スポーツ現場でたびたび遭遇する股関節・大腿部のスポーツ外傷・障害（股関節痛を来す外傷・障害や大腿部筋損傷など）について、解剖を再確認して病態について理解する。 | 授業で行った股関節・大腿部の外傷・障害の知識を整理する | 4時間 |
| 第11回 | **各論⑧　下肢のスポーツ外傷・障害ー膝関節（遠隔）**<br>膝関節の解剖について再確認し、代表的なスポーツ外傷である前十字靭帯損傷，半月板損傷などの病態と対策を理解する。また、同じく代表的な障害であるジャンパー膝、変形性関節症などについても病態と対策について理解を深める。 | 授業で行った股関節・大腿部の外傷・障害の知識を整理する | 4時間 |
| 第12回 | **各論⑨　下肢のスポーツ外傷・障害ー下腿（遠隔）**<br>下腿で知っておくべきスポーツ外傷・障害であるシンスプリント、疲労骨折、コンパートメント症候群など、その病態と対策について理解を深める。 | 下腿に起こる外傷・障害の病態と対策について復習する | 4時間 |
| 第13回 | **各論⑩　下肢のスポーツ外傷・障害ー足関節・足（遠隔）**<br>足関節・足部のスポーツ外傷・障害について、特に捻挫の処置と対策、スポーツに多い疲労骨折について理解を深める。 | 足関節・足部の外傷と障害の内容について再確認する | 4時間 |
| 第14回 | **総まとめと達成度チェック（遠隔）**<br>この授業で何を学び、何を考えたか。知識の整理と確認。具体的には、スポーツ医学に関する設問形式の課題を行い知識を整理する。 | 授業内容全般の復習 | 4時間 |

SP-3305-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツと安全管理** | | | | |
| 担当教員名 | 佃　文子 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等、東京オリパラの安全管理の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全14回） | | | | |

**授業概要**

健康づくりや競技力の向上、趣味や生きがいなどスポーツを行う理由は何であっても、スポーツを行う上で「安全であること」は絶対条件の一つである。救急処置法の授業では万一の際の実際の行動を学んだが、その次の段階として、いかにリスクを予知し、その対応策を準備できるか否かが重要となる。この授業では生涯スポーツの環境管理体系・スキル及び予防・安全対策、健康づくりのための安全な運動プログラム、教育活動の中でのスポーツと安全管理、競技スポーツにおける安全管理体制について概説する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 運動に伴う危険・リスク | 環境・安全管理の手法・スキルが理解でき、体育館・プール・野外施設・登山などの野外・冒険教育のシチュエーションで、リスクを列挙できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 運動に伴う主要な危険やリスクに対する予防のための資料作成や計画 | 課題を通じて自らの探索行動や思考能力を深め、過去のデータや記録を適切に活用してスポーツ活動に伴う危険を理解し、リスクマネジメントとして表現することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 健康づくりのための安全な運動プログラムとスポーツ活動に伴う安全管理体制 | 事故発生の3要因を理解し、スポーツ指導者やスポーツ活動を計画する立場に立ち主要な予防対策を説明することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・その他(以下に概要を記述)
ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)、ICT(Excel)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

毎授業の課題取り組みが、全体の2/3回分以上提出されていなければ単位の修得はできない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業ごとの課題レポート | 60　% | ： 各授業内容を踏まえて、健康づくりやレジャーを含む生涯スポーツと競技スポーツの安全管理と、事故の発生予防や安全のための基準・組織的取り組みについて、基本的な知識と理解度について確認テストを用いて評価する |
| 重点配分レポート | 40　% | ： 運動負荷の算出、暑熱環境に関するワークシート、水辺活動と事故例、緊急時対応計画の立案の4つの課題は、各10点ずつ追加配点し完成度を評価する。レポートの評価は記述すべき課題内容の精度等について独自にルーブリックによって評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

厚生労働省安全衛生部編：衛生管理、中央防止協会
厚生労働省ホームページ

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
履修にあたっては、原則として救急処置法の単位を履修済みであることが望ましい。また主体的・対話的で深い学びを目指して、PCを用いてワークシートを用いた課題や演習に取り組む。特に4回程度のICTを駆使した課題レポートを予定している。そのため授業時には必ずPCを準備すること。
毎回の授業資料はTeamsを通じて配布する。さらに課題レポートはPCを活用した演習と課題作成に取り組む予定である。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業後

**場所**：　授業教室、研究室

**備考・注意事項**：　急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **生涯スポーツの必要性とそのリスク**<br>厚生労働省「健康づくりのための身体活動基準（最新版）」をもとに、生涯スポーツの必要性とそのリスクについて理解する。<br>授業の到達目標と授業計画、成績評価の観点を理解する。 | 健康づくりのための身体活動基準（最新版）を復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **運動不足のリスクと生活習慣病**<br>運動不足がからだに与える影響について理解する。<br>日常生活における身体活動量を計算して理解する。 | 予習：生活習慣病の原因について予習する。復習：運動不足は身体にどのような影響を及ぼすのか身体的影響と心理的影響についてまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **運動の質とエネルギー代謝**<br>運動の質（有酸素及び無酸素運動）と運動中のエネルギー代謝について理解する。 | 予習：有酸素運動と無酸素運動の特徴とエネルギー代謝について予習する。復習：運動の効果について、エネルギー代謝の側面から復習する。 | 4時間 |
| 第4回 | **中・高齢者と運動**<br>中・高齢者におけるスポーツの有用性とそのリスクについて理解する。 | 予習：中高齢者の運動のリスクについて列挙する。復習：中高齢者の運動のリスクに対する予防方策をまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **高温環境と運動**<br>高温環境と運動について基本的な知識を学ぶ。温度の測定方法、評価方法を理解する。 | 予習：環境温度の計測方法について可能な限り予習する。復習：環境温度と運動限界をまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **水分補給の原則　熱中症の発生機序・予防**<br>熱中症の発生機序・予防方策を理解する。水分補給の重要性を理解しする。 | 予習：脱水のリスクについて予習する。復習：熱中症の分類と症状について復習する。 | 4時間 |
| 第7回 | **特殊環境と運動**<br>水中、高所、低温など特殊環境と運動について理解する。 | 特殊環境の運動効果についてまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **環境管理(プール管理)**<br>プール管理のリスクマネジメントについて理解する。 | 予習：水泳の運動特性について予習する。復習：プールの衛生管理と水泳の運動時のリスクについて復習する。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツと内科的障害**<br>スポーツを行う上で注意すべき疾患やスポーツで誘発されうる病態について、運動指導時に気をつけるべき事項を理解する。 | 予習：貧血、過換気症候群、ぜん息、オーバートレーニングの症状について予習する。復習：スポーツ時に誘発される内科的疾患について、対応法と予防法を復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツと外傷**<br>頭部打撲、脳振盪など、リスクの高い頭頚部外傷について理解する。 | 予習：映画「concussion」を可能な限り視聴してくる。 復習：脳振盪などスポーツにおける外傷についてまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツとメディカルチェック**<br>メディカルチェックの目的と意義、運動を制限すべき状態にはどのようなものがあるかについて理解する。 | 予習：これまで自身が受けたことのある健康診断またはスポーツに関係するメディカルチェック項目を書き出してくる。復習：自分の競技に必要なメディカルチェック項目をまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツやマスゲームイベントにおける安全管理体制** | 予習：血液感染のリスクと対処法について復習する。復習：血液以外の感染のリスクをまとめる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツや教育活動のイベント計画時に想定するリスクと現場での感染症リスクと対策について理解する。。 | | |
| 第13回 | **スポーツ大会救護計画と安全管理の実際**<br><br>スポーツ活動で必要となる救護体制、及び実際に必要な対応方法等、緊急時対応計画について理解する。 | 予習：これまで自身が関係した事のあるスポーツの競技会の安全管理に体制についてわかる範囲で書き出してくる。復習：自分の競技に必要で理想的な安全管理体制を検討し、エマージェンシーアクションプランとして作成する。 | 4時間 |
| 第14回 | **危機管理・アンチドーピングの基礎**<br><br>どのような方法、物質、行為がドーピングとなるのか理解する。<br>アスリートをドーピングから守るための教育や啓蒙活動について理解する。 | 予習：JADAのHP https://www.playtruejapan.org/code/を可能な限り予習してくる。復習：ドーピングと判定される方法、物質、行為についてまとめる。 | 4時間 |

SP-2033-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **衛生・公衆衛生学** | | | | |
| 担当教員名 | **入谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本講座では、学習指導要領に含まれている衛生学（環境医学）と公衆衛生学（予防医学・疫学）について目標・内容を理解しながら、教材や指導法について学習する。学生自身が、ライフコースごとの日本の健康に関する状況を統計で学び、世界的な問題となっている環境問題や疫学的知識を得るだけでなく、いわゆる生活習慣病の予防についての知識も獲得できることを目的とする。また日本の人口動態や出生率、罹患率などの統計についても、各資料を読み取り、その内容を把握・理解し指導できることを目標とする。児童生徒の知識が向上できるような効果的に授業を進める方法を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 衛生学（環境医学）と公衆衛生学（予防医学・疫学）の知識 | 衛生学（環境医学）と公衆衛生学（予防医学・疫学）について知識を習得できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 衛生・公衆衛生学における日本あるいは世界の問題についての思考・判断・表現 | 日本の人口動態や出生率、罹患率などの統計について、各資料を読み取り、その内容を把握・考察することができる |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 衛生学（環境医学）と公衆衛生学（予防医学・疫学）についての関心・意欲 | 衛生学（環境医学）と公衆衛生学（予防医学・疫学）について関心をもつ |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 主体的な学び | 母子・学校・産業・高齢者に適した統計を選択し、情報整理アアセスメントした結果を表現し、教材や指導法を身に付ける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

課題レポートなど提出していただきます。各回に復習テストを行い、評価いたします。

「ICT　タイピング」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 70　% | ：　授業内容の積極性や修得状況、理解度をはかる課題により評価する　14回×5点=70点 |
| 最終確認問題 | 30　% | ：　授業で解説した基礎知識に対して確認問題により評価する。30点 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「シンプル衛生公衆衛生学」著者：辻一郎、小山洋、出版社：南江堂
「国民衛生の動向」出版社厚生労働統計協会
「わかりやすい公衆衛生学入門」株式会社ERP

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
日本の社会的な状況を日ごろから情報収集し、本科目に結び付けてほしい。
積極的に理解しようと努めることを望む。指定教科書の購入を必須といたします。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **受講についてのガイダンス　公衆衛生の概念、健康について**<br>授業内容を確認する。公衆衛生の概念について学ぶ。<br>健康とは何か、健康についての国際的取り組みを学ぶ。 | 健康について調べる | 4時間 |
| 第2回 | **保健統計**<br>保健統計の概要・人口統計・保健指標について学ぶ。 | 統計を通して日本の健康の課題を説明できるように調べる | 4時間 |
| 第3回 | **疫学**<br>疫学の概要・基礎・方法について学ぶ。 | 疫学とは何かを調べる | 4時間 |
| 第4回 | **健康格差とその是正**<br>健康格差の概要・現状・対策について学ぶ。 | 健康格差とは何かを調べる | 4時間 |
| 第5回 | **保健・医療・福祉制度としくみ**<br>日本の保健・医療・福祉制度を学ぶ。 | 保健・医療・福祉とは何かを調べる | 4時間 |
| 第6回 | **感染症の予防**<br>感染症の概要・現状・予防対策について学ぶ | 過去の環境による健康被害を調べる | 4時間 |
| 第7回 | **精神保健**<br>精神保健の概要・現状・対策について学ぶ | 精神保健の現状を調べる | 4時間 |
| 第8回 | **環境保健**<br>環境保健の概要・現状・対策について学ぶ | 過去に学んだ環境問題・公害などを復習する | 4時間 |
| 第9回 | **母子保健**<br>母子保健の概要・現状・対策を学ぶ | 現状の母子保健活動を調べる | 4時間 |
| 第10回 | **学校保健**<br>学校保健の概要・現状・対策を学ぶ | 現状の学校保健活動を調べる | 4時間 |
| 第11回 | **成人保健**<br>成人保健の概要・現状・対策を学ぶ | 現状の成人保健活動を調べる | 4時間 |
| 第12回 | **産業保健**<br>産業保健の概要・現状・対策を学ぶ | 現状の産業保健活動を調べる | 4時間 |
| 第13回 | **高齢者保健**<br>高齢者保健の概要・現状・対策を学ぶ | 現状の高齢者保健活動を調べる | 4時間 |
| 第14回 | **国際保健**<br>国際保健の概要・現状・対策を学ぶ<br>1～13回の授業の知識の定着の確認問題を実施する。 | 現状の国際保健活動を調べる　1～13回の授業の復習を行う | 4時間 |

SP-3103-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **自然環境とアウトドアスポーツ（自然環境と野外スポーツ）** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤毅・林綾子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 前後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツ庁は、世界に誇る日本の恵まれた自然環境を活用でき、多くの人が楽しく実践しやすいアウトドアスポーツを推進していくことで、スポーツの枠を超えて人々や社会に様々な好影響をあたえるとして、「アウトドアスポーツ推進宣言」を発信しています。また、文部科学省は、自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が充実しており、アウトドアスポーツ・野外教育の重要性を説いています。本授業では、アウトドアスポーツ・教育を行うフィールドとしての自然環境について、SDGsやスポーツ、教育といった多様な視点から理解すること、またアウトドアスポーツの多様性についての理解を目指します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツのフィールドとしての自然環境についての理解・実践 | 自然環境をスポーツフィールドとして捉え、理解することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツのフィールドとしての自然環境についての理解・実践 | 自然環境について、文化・生活・スポーツといった多様な関わりについて理解できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツのフィールドとしての自然環境についての理解・実践 | 自然と人と望ましい関係性について考え、判断し、表現できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツのフィールドとしての自然環境についての理解 | 自分のライフスタイルにおける自然との関わり方について自分の考えを持ち、行動することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 毎回の小レポート | 60 % | ： | 毎回の授業をふりかえり、理解を評価します。 |
| 実践課題 | 40 % | ： | 実技体験をふりかえり、取り組みや理解を評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツ学のすすめ（びわこ成蹊スポーツ大学編）
野外教育の理論と実践（杏林書院）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

１年次に体験した様々なアウトドアスポーツ活動を基礎に、その理論を学びます。また、実際に体験を行い、体験のふりかえりと理論的な学びを結び付け、基礎となる実

践力を養います。自然環境の特性を野外活動のスキルや知識を用いて楽しみながら学んでいきましょう。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると、毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　木曜日３限

**場所**：　A402

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよび基本概念の導入**<br>授業の概要を説明し、アウトドアスポーツを行うフィールドとしての多様な自然環境について、その多様性や特徴・リスクを理解する。 | 多様な野外スポーツの種類を調べてみる。 | 4時間 |
| 第2回 | **身近な自然環境**<br>身近な自然環境に目を向けるためのアクティビティを行う。心惹かれる自然環境について、その特徴や心惹かれる理由、その環境に潜むリスクや安全な活動方法について考える。 | 自然環境に出かけ、発見・気づきをまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **自然環境と人との関わり**<br>前回の課題にて実際に自然環境に出て発見したこと、気付いたことをを共有し、人と自然との関わりに重要な体験や五感、感性について理解する。 | 他者の発見・気づきに対して、体験や五感に着目して共有し、理解をまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **自然と人の共存を考える①**<br>人と自然との関係の変遷について教材より学び、背景となっている歴史を含めて理解する。 | 教材に対しての自分自身の考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **自然と人の共存を考える②**<br>引き続き教材から学び、いかに自然と人とが共存し、よりよい関係を築いていくか考える。 | 人と自然との共存について自分の考えを明確にする。 | 4時間 |
| 第6回 | **イニシアティブゲームの実践**<br>自然環境を活用した仲間づくりの活動であるイニシアティブゲームについて実践から学ぶ。 | 体験内容をふりかえり、学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **イニシアティブゲームの理解**<br>イニシアティブゲームについての理論的背景を理解し、そのリスクマネジメントや指導方法について学ぶ。 | 自分の関わるスポーツ現場での実践を考える。 | 4時間 |
| 第8回 | **アウトドアスキル①**<br>アウトドアでの活動で基本的なスキルとして、テントやタープといった住環境を整えるスキルを実践を通して身に付ける。 | 実践からの理解を整理する。 | 4時間 |
| 第9回 | **アウトドアスキル②**<br>アウトドアの活動で重要である、ロープワークについて、実践を通して身に付ける。 | 学んだロープワークを練習し、習得する。 | 4時間 |
| 第10回 | **ナビゲーションスキル①＜読図＞**<br>野外活動での必須スキルである地図を読むための知識を学び、実践に必要な情報を読み取り、活用できるようになる。 | 読図課題に取り組む。 | 4時間 |
| 第11回 | **ナビゲーションスキル②＜コンパス＞**<br>読図に加え、コンパスの使い方を学び、地図とコンパスを用いたナビゲーションスキルを身に付ける。 | ナビゲーション課題に取り組む。 | 4時間 |
| 第12回 | **アウトドアスポーツとリスク**<br>多様な自然環境に潜在するリスクや、自然環境で行うスポーツのリスクを理解し、リスクマネジメントについて学ぶ。 | 授業の復習から、課題に取り組む。 | 4時間 |
| 第13回 | **アウトドアスポーツ・野外教育理論**<br>これまで学習した自然環境や人との関わりから、野外スポーツ・野外教育についての基礎理論を学ぶ。 | 具体的な環境教育プログラムを取り上げ、学んだ理論と照らし合わせ、理解を深める。 | 4時間 |
| 第14回 | **野外倫理：環境に配慮した野外活動**<br>自然環境における活動を行うことは、自然環境へダメージを与えることにつながります。自然に配慮した活動を行うための指針を学び、各自の倫理観「野外倫理」について、Leave No Trace(LNT)という世界的な取り組みを通して学びます。 | 自身の野外倫理についてふりかえり、より望ましい活動についての課題に取り組む。 | 4時間 |

SP-2034-1-2

| 授業科目名 | スポーツバイオメカニクス概論（スポーツバイオメカニクス） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 高橋　佳三 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツバイオメカニクスとは、「スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設のふるまいを力学的観点から研究するスポーツ科学の基礎的領域の一つ」である。この講義では、様々なスポーツの動作について「動作をバイオメカニクス的に考える」ことを学び、スポーツの動作についてより深く観察、考察できるようになることを目的とする。基礎的な力学的計算ができ、動作の力学的な原理・原則を理解できるようになることで、スポーツの動作を力学的な視点で観察し、考察できるようになる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツバイオメカニクスに関する知識 | スポーツにおける運動、ヒト、用具、施設のふるまいをバイオメカニクス的視点から分析するための知識が十分に身についている。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | バイオメカニクス的原則に則った運動の実践または指導 | 授業内で学んだバイオメカニクス的原則を元に思考・判断できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・その他(以下に概要を記述)

・ICT(PowerPoint、Excel)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業中の小テスト | 10 % | ： | 授業途中に課題（小テスト）を課し、提出の有無とその点数で総合的に評価する |
| 期末試験 | 70 % | ： | 期末試験の点数で評価する |
| 授業後の小テスト | 20 % | ： | 授業途中に課題（小テスト）を課し、提出の有無とその点数で総合的に評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツバイオメカニクス」深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良　編著、朝倉書店
「スポーツバイオメカニクス20講」阿江通良、藤井範久　著、朝倉書店
「バイオメカニクスで読み解く　スポーツ動作の科学」深代千之、川本竜史、石毛勇介、若山章信　著、東京大学出版会

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

**備考・注意事項**：　授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツバイオメカニクスとは？（イントロダクション）**<br><br>スポーツバイオメカニクスとはどのような学問かについて、実例（映像）をみながら理解する。<br><br>キーワード：スポーツ技術の最適化ループ | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第一回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第二回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ技術とはなにか？**<br><br>「スポーツ技術」と「局面構造」についての理解する。<br><br>キーワード：スポーツ技術、局面構造 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第二回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第三回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **速度、ピッチ、ストライド**<br><br>変位と移動距離、瞬間速度と平均速度、ピッチとストライドの関係などについて理解する。<br><br>キーワード：変位、移動距離、瞬間速度、平均速度、ピッチ、ストライド | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第三回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第四回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（1）：重心**<br><br>「重心」という考え方と、その計算方法について理解する。<br><br>キーワード：重力、重心、基底面 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第四回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第五回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（2）：運動と力**<br><br>運動（加減速）は力が加わることで生じることを理解し、運動方程式を用いて力を算出できるようになる。<br><br>キーワード：慣性の法則、運動方程式 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第五回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第六回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（3）：運動量と力積（Ⅰ）**<br><br>運動量と力積の関係について理解する。<br><br>キーワード：運動量、力積 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第六回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第七回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（4）：運動量と力積（Ⅱ）**<br><br>運動量を変化させる要因について理解し、運動との関係を考える。<br><br>キーワード：力積、質量、タイミング | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第七回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第八回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（5）：仕事と力学的エネルギー**<br><br>仕事と力学的エネルギーとの関係について理解する。<br><br>キーワード：仕事、位置エネルギー、運動エネルギー | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第八回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第九回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（6）：回転運動と慣性モーメント**<br><br>回転運動や慣性モーメントについて理解する。<br><br>キーワード：回転軸、回転半径、慣性モーメント | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第九回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第10回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（7）：回転運動と角運動量**<br><br>回転運動のおける角運動量について理解する。<br><br>キーワード：慣性モーメント、角速度、角運動量 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十回」に保存された資料に目を通し、理解できない内容について参考図書などを用いて調べておく。理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十一回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（8）：流体力1（空気の流れと物体の形状、ボールの回転）**<br><br>ボールの回転と空気の流れにより発生する力について理解を深める。<br><br>キーワード：空気抵抗、気圧、ベルヌーイの定理、回転、空気抵抗、マグヌス力 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十一回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十二回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（9）：流体力2（水の流れと物体の動き）**<br><br>水中での運動における身体の動きと水の抵抗および推進力の関係について理解を深める。<br><br>キーワード：姿勢、浮心、水の抵抗 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十二回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、「第十三回」フォルダの資料に目を通し、予習を行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツバイオメカニクスの基礎（10）：良い動きのバイオメカニクス的原則**<br><br>良い動きのバイオメカニクス的原則について理解を深める。<br><br>キーワード：反動動作、振り込み動作、運動依存力 | Teams「スポーツバイオメカニクス⇒第十三回」に保存された資料に目を通し、理解できなかった内容について参考図書などを用いて復習する。また、第一～七回の授業資料と小テストについて復習し、次週の総合解説の準備を行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ：授業の総合解説**<br><br>授業ごとの小テストの正解率が低かった項目などについて解説を行い、知識の定着を図るとともに、スポーツバイオメカニクスについての理解を深める。 | 全ての授業資料と小テストに目を通し、この授業で学んだ内容を復習する。 | 4時間 |

SP-2034-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツボランティア実習** | | | | |
| 担当教員名 | **学部長** | | | | |
| 学年・コース等 | 2・3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

様々なスポーツ現場においてニーズの高い「スポーツボランティア」として、スポーツ指導やスポーツイベント運営など、スポーツをあらゆる志向性を持って「する」人の立場に立ち、その人を支えるために必要となる個々の能力を向上させることをねらいとし、実践的な関わりを重要視する観点から実習形式で行う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツを「支える」ことの意味の理解 | スポーツを「支える」ことの意味をスポーツ現場にボランティアとして参加することでスポーツを「支える」ことの意味について理解し、説明することができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ現場に参入する際の心構え | 事前指導などにより、スポーツ現場に参入する前の心構えを身につける |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツボランティア経験の日常生活へ汎化 | 事後指導により、スポーツボランティア経験を日常生活へ汎化することでスポーツボランティアとしての自覚を高める |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

実習に際しては、事前および事後指導に必ず参加すること。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 課題：事前指導 | 20 % | ： | 事前指導において提示される課題を評価する。<br>指導の内容を踏まえて論述できているようであれば10点、自身の考えや主張を記述できていれば10点を加算し、重大な誤りや不足を生じた場合は5点とする。 |
| 課題：現場実習 | 60 % | ： | 実習時間内のことを振り返り、詳細なる実習日誌を記述でき、尚且つ、現場での実習指導担当者の所見の内容を加味して60点満点で評価する。 |
| 課題：事後指導 | 20 % | ： | 実習後に授業担当者の確認を受け、実習報告を提出する。ボランティア活動の振り返りと、ボランティア活動から学んだことについてのレポートを20点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各時間に必要な文献等を準備し、配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回１時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、実習に取り組んだ内容を丁寧に復習すること。
特に、事前および事後指導において、ボランティア現場でのルールやマナーを重要視し、社会の一員としてボランティアに参加することの意識を強めておく必要がある。

スポーツボランティア実習のガイドライン、オリエンテーションの内容を確認の上、履修、ならびに実習活動に参加すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **事前研修①：オリエンテーション（スポーツボランティア手続きの説明）**<br>スポーツボランティアの手続きを中心に解説し、スポーツボランティアの種類、ボランティアに求められる心構えについて理解を深める。 | スポーツボランティアについて、また手続きについて理解する。 | 1時間 |
| 第2回 | **事前研修②：ボランティアに求められるもの**<br>ボランティアが現場で活動するために求められることを体系的に整理し、解説する。 | スポーツボランティア現場で、どのような学びを得たいのかについて整理する | 1時間 |
| 第3回 | **第3回～第13回　スポーツ現場での実習**<br>申請されたスポーツ団体等で計30時間の実習を行う<br>スポーツボランティア実習先での活動 | ルールとマナーを重要視しつつ、スポーツボランティア現場で従事する。 | 1時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>スポーツボランティア実習で何を学んだのかについて活動成果報告書をまとめる。<br>授業のまとめとして、今後のスポーツボランティア活動の課題を整理し、発展継承可能な課題をまとめる。 | 本実習の振り返りと、今後の課題についてまとめておく。 | 1時間 |

SP-2035-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **海外研修実習** | | | | |
| 担当教員名 | **学部長** | | | | |
| 学年・コース等 | 2・3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

大学が展開するグローバルアクティブラーニングプログラムを対象とする。
海外におけるスポーツ全般、スポーツビジネスおよびスポーツマネジメント等に関する実情について実地研修を展開する。スポーツビジネス等における海外事情に実際に触れ、計画的なフィールドワークを通じて、その問題点や課題を議論する。海外渡航に向けて計画的に準備を進めるため、事前研修、実地研修、事後研修から学習を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 海外におけるスポーツ全般、スポーツビジネスおよびスポーツマネジメント等に関する実情についての知識 | 海外でのスポーツ体験を通じて、そのスポーツを取り巻く現状を説明できる |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツにおける海外事情に触れることで養われる国際感覚 | 計画的なフィールドワークから多様な文化、民族に触れることで、国際感覚を養う |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 日本のスポーツ文化と比較できるとで国際的な視野 | 海外渡航に向けて計画的に準備を進めるため事前研修、実地研修、事後研修の中でスポーツにおける海外事情に実際に触れ、計画的なフィールドワークを体験する |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 事前研修 | 20 % | ： | 事前研修において提示される課題について評価する |
| 実地研修 | 60 % | ： | 実習中の課題の達成度、振り返り、詳細な実習記録等について評価する |
| 事後研修 | 20 % | ： | 事後研修において提示される課題について評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各実習で提示します

**履修上の注意・備考・メッセージ**

実習の詳細については事前のオリエンテーションで説明します。

オリエンテーションの日時については、掲示板等で連絡します。

グローバルアクティブラーニングプログラムを対象とする授業科目です。
個人で参加した海外研修等は対象としないので注意すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **事前研修①**<br>海外研修実習についてのオリエンテーション<br>実習の目的、ねらいについて理解する | 興味関心のある国について調べる | 1時間 |
| 第2回 | **事前研修②（国別のオリエンテーション）**<br>行き先の別、具体的な実習内容・研修内容について理解する | 興味関心のある国のスポーツについて調べてみる | 1時間 |
| 第3回 | **事前研修③**<br>行き先国について、スポーツについて調べた内容について発表する | 事前研修報告書としてまとめる | 1時間 |
| 第4回 | **実地研修（4-12回）**<br>実地研修先で事前に計画した実習内容・研修内容を実施する。 | 詳細な実習日誌を作成する | 1時間 |
| 第5回 | **事後研修①**<br>実地研修中の詳細な実習日誌をもとに、報告書を作成する | 実地研修中の実習日誌を整理しておく | 1時間 |
| 第6回 | **事後研修②**<br>実習の内容について、体験内容や学んだこと等について発表する | 作成した報告書をもとに、発表練習を積んでおく | 1時間 |

SP-4101-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ基礎演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **川合・黒澤・大西・多賀谷・山手・高松・股村・松本** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 川合、黒澤、多賀谷、山手、髙松、大西：小学校、中学校、高等学校において教員として勤務した実践経験を踏まえ、授業づくりや指導技術について教授する。 | | | | |

**授業概要**

本講座は、1年次の体育・スポーツに関する幅広い知識を土台にして、学校スポーツでの専門的な学びへと移行し、学校教育で求められる専門的な知識の獲得を目指す。講座の前半は、各教員の専門領域についてオムニバス形式で学ぶ。後半は、小・中学校の保健体育授業、特別活動（健康安全・体育的行事）、運動部活動の参観の方法や観点を学んだ後、学校現場に出向いて実態を把握する。参観で得たデータや振り返りをもとにグループで学びを共有し、それらを整理して発表する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校教育に関わる専門的な知識 | 学校教育の専門性について理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 教育事象の観察と分析 | 保健体育、特別活動、運動部活動の課題を発見し、解決策を提案することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グループ活動での取り組みの姿勢 | 主体性や協調性を発揮することができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：近隣の小中学校（①職種・キャリア形成の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）、ICT(PowerPoint）、ICT(Excel)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の小レポート | 40 % | ： 各回（8回分）の授業理解度を問う小レポート（8回×5点） |
| 参観時の小レポート | 40 % | ： 学校現場の参観（2回分：4単位時間）で課される小レポート（2回×20点） |
| グループ活動の取り組みの姿勢と成果物 | 20 % | ： 学校現場の参観に関わるグループ活動での取り組みの姿勢とその発表（20点） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「中学校学習指導要領解説　保健体育編」
「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」

その他、必要な資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本講座は、学校スポーツコースの入門科目として位置づく。教育者としての専門的な知識の獲得はもちろんのこと、将来、教育者として携わることを念頭においた資質の向上も期待する。そのため、教育現場に出向く際は、責任と自覚を持って真剣に取り組むことが求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　大西研究室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **学校スポーツの学びの学びの体感①**<br>本講座の目標や内容、評価について理解する。<br>スポーツを通して学びを体感し、今後に向けた人間関係の構築を行う。 | 人間関係（同僚性）の重要性を理解する。 | 4時間 |
| 第2回 | **学校スポーツの学びの体感②**<br>スポーツ活動を実施する中で、グループごとに課題解決に向けて、協力して取り組む。 | 課題解決に向けて、グループで協力する重要性を理解する。 | 4時間 |
| 第3回 | **保健体育科教員としての資質能力**<br>保健体育科教員になるための資質能力について理解する。<br>生徒を指導する際に必要な理論や知識について検討する。 | 文部科学省が提示する教師像について調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **体育授業における教師の観察力**<br>体育授業における教師の観察力について、実際の授業事例を通して理解する。 | 教師の授業観察力に関する資料をまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **学校運営・学校経営**<br>学校現場での学校運営・学校経営について調べる。 | 学校運営・学校経営について調べ、学校現場での位置づけを理解する。 | 4時間 |
| 第6回 | **体育授業における、集団行動の指導法**<br>中学校・高等学校の体育授業で行う「集団行動」の実技指導について理解する。<br>実際にアリーナでグループに分かれて、集合、整列、行進など技能を身に付ける。 | 集団行動の指導法に関する資料を理解する。 | 4時間 |
| 第7回 | **学校現場の参観（1回目）①**<br>近隣の小中学校に出向き、保健体育授業、特別活動、運動部活動を観察する。 | 観察の観点について振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **学校現場の参観（1回目）②**<br>近隣の小中学校に出向き、保健体育授業、特別活動、運動部活動を観察する。 | 観察の観点について振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **学校現場の参観（1回目）の振り返り**<br>観察したデータや振り返りに基づき、グループで情報を共有し、発表資料を作成する。 | 発表資料の作成を行う。 | 4時間 |
| 第10回 | **学校現場の参観（2回目）①**<br>近隣の小中学校に出向き、保健体育授業、特別活動、運動部活動を観察する。 | 観察の観点について振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第11回 | **学校現場の参観（2回目）②**<br>近隣の小中学校に出向き、保健体育授業、特別活動、運動部活動を観察する。 | 観察の観点について振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **学校現場の参観（2回目）の振り返り**<br>観察したデータや振り返りに基づき、グループで情報を共有し、発表資料を作成する。 | 発表資料の作成を行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **学校教育の現状と課題①（グループ）**<br>学校現場を参観して捉えた現状について、グループごとに発表する。 | 発表練習を行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **学校教育の現状と課題②（個人）**<br>本講座（全14回）を通して学んだ、学校スポーツの現状や課題について、自身の興味関心に基づく内容を取り上げて、その対策や解決策について記述する。 | 学校体育・スポーツの課題についてまとめる。 | 4時間 |

SP-4104-2-2

| 授業科目名 | 学校スポーツの理論と実際 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 黒澤・川合 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 川合英之　高等学校教諭・校長として勤務した経験を各回の授業の指導実践で活用する。（全14回）<br>黒澤寛己　高等学校教諭として勤務した経験を各回の授業の指導実践で活用する。（全14回） | | | | |

**授業概要**

体育授業の計画、実践、振り返りという一連の流れを模擬授業形式で経験することを通して、授業づくり・授業運営に必要となる視点（授業の構成要素）を学ぶ。また、実習を通して授業を観察・分析する方法を体験し、反省的な授業実践の意義を検討する。
　保健体育科教育法で学んだ、指導案作成の知識を活かして実践的な指導案を作成する。その後、教師役と生徒役に別れて、指導案をもとに模擬授業を行い、各グループで評価し合う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 体育授業の計画、実践、振り返り | 学習指導要領に準じた体育授業を計画、実践し、振り返りをすることができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 教師役・生徒役の両方の視点から分析 | 体育授業を実施し、教師役・生徒役の両方の視点から分析、評価することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業内の小レポート、模擬授業の指導案作成・実践・観察、レポートで評価する。それぞれの点数と基準は以下の通り。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎回の小レポート | 28　% | ：　２点×14回<br>２点：授業内容や他者の意見を踏まえて独自の視点で書かれている<br>１点：授業の内容を踏まえて書かれている |
| 模擬授業の指導案作成・実践・観察 | 32　% | ：　32点：詳細に計画された指導案の作成、作成した指導案に沿った模擬授業の実施、20点：計画された指導案の作成、作成した指導案に留意した模擬授業の実施、10点：指導案の作成、模擬授業の実施 |
| 提出課題・レポート | 40　% | ：　40点：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている<br>30点：指定の形式に沿って書かれている |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・学習指導要領解説　保健体育編（小学校、中学校、高等学校）
・体育授業を観察評価する　　高橋　健夫　編著　（明和出版）
　他にも、適宜紹介する。多くの資料を配布するのでストックし活用すること。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本科目では、授業の準備、模擬授業・観察、振り返り等と、受講生には授業外においても相当な準備が必要である。明確な目的意識、教師を志望する自覚と責任を持って受講すること。

模擬授業で実技を伴う際には、必ずスポーツウエア類を着用し、アクセサリー類を身につけることは禁止する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　黒澤寛己研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション：　講義計画、グループ分け、課題選択**<br>授業計画の確認、グルーピング、模擬授業単元の決定を行う<br>学習課題：　各自が担当する模擬授業の構想を練る | 小・中・高校いづれかの学習指導要領解説の体育編・保健体育編の目標と内容を読んでおくこと。 | 4時間 |
| 第2回 | **指導計画および学習資料の作成**<br>授業計画の立て方と学習指導案の書き方を解説する<br>学習課題：　授業計画の立て方、学習指導案の書き方を理解し、学習指導案を作成する | 小・中・高校いづれかの学習指導要領解説の体育編・保健体育編の指導計画の作成と内容の取扱いを読んでおくこと。 | 4時間 |
| 第3回 | **授業観察法について**<br>授業観察法について、その内容を説明する<br>学習課題：　授業観察法を理解し、学習指導案を作成する | 授業観察法について調べておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **グループ活動（指導案の作成）**<br>決定した単元の内容を説明し、指導案の作成方法を説明する<br>学習課題：　学習指導案の作成 | 学習指導案作成にあたって学習指導要領の内容の取扱いを確認しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **作成した指導案の検討**<br>指導案をもとに実際の授業での実施について解説する。<br>学習課題：　学習指導案の修正、及び検討 | 作成した指導案で授業をシミュレーションしておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **形成的授業評価・リフレクションシートを利用した授業のふりかえりについて**<br>形成的授業評価の記入方法について説明する<br>リフレクションシート記入の方法について説明する<br>学習課題：　形成的授業評価、リフレクションシート記入の方法について理解する | よい体育授業とはどのようなものか調べておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **模擬授業①：体育理論**<br>体育理論の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成 | 体育理論の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **模擬授業②：器械運動**<br>器械運動の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成 | 器械運動の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **模擬授業③：道徳（スポーツを題材とした教材）**<br>道徳の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成 | 道徳の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |
| 第10回 | **模擬授業④：ダンス**<br>ダンスの模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成 | ダンスの指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |
| 第11回 | **模擬授業⑤：陸上競技（フィールド）**<br>陸上競技の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成 | 陸上競技（フィールド）の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **模擬授業⑥：球技（ゴール型）**<br>球技の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成 | 球技（ゴール型）の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **模擬授業⑦：体つくり運動**<br>体つくり運動の模擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題：　リフレクションシートの作成と指導案の作成 | 体つくり運動の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **模擬授業⑧：武道**<br><br>武道の擬授業を実施し、その後振り返り（授業実践と形成的授業評価・リフレクション）を行う。<br>学習課題： リフレクションシートの作成と指導案の作成 | 武道の指導案の作成及び授業のシミュレーションを行う。本時の授業評価を行う。 | 4時間 |

SP-4105-3-2

| 授業科目名 | 保健体育科教育課程論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 川合　英之 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長までを歴任（12年）した実践経験を講義内容に結びつけている（全14回） | | | | |

**授業概要**

保健体育科授業を担当する授業者として小学校・中学校・高等学校学習指導要領に基づく教育課程の編成について理解する。学校全体の教育課程を概観しつつ保健体育科授業の年間計画を立てる際に工夫・配慮すべき項目や内容を検討し、各自で年間授業計画と授業内容一覧を作成する。
また、主体的・対話的で深い学びを志向する授業の在り方を考え、小学校から中学校・高等学校へと系統的に学習内容を深める教育課程の編成を試行する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 授業計画の作成 | 多角的な視点から保健体育科授業を検討し、校種や学年等に応じた授業計画を作成することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 体育実技、保健、体育理論で教えるべき内容の理解 | 保健体育科を教えるために、自然環境や人、スポーツに関して学ぶべき内容が非常に多いことを理解することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 主体的・対話的で深い学びの学習概念の理解 | 学習指導要領に基づき保健体育科の授業計画や運営に必要なスポーツを教材化することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎時のレポート | 30 % | ： 課題について十分に理解し、明確かつ論理的に説明ができているか。 |
| 発表・プレゼンテーション | 40 % | ： 課題についての発表が効果的に行えているか。<br>各グループの4回の発表10点×4回、大変よくできている：10点、よくできている：9,8点、ある程度できている：7,6点、あまりできていない：５点以下 |
| 最終課題レポート | 30 % | ： 保健体育科の年間授業計画、学習内容一覧と指定種目の単元計画が、書けているか。<br>大変よくできている：25点以上、よくできている：20以上点、ある程度できている：15点以上、あまりできていない：14点以下 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

小学校、中学校、高等学校学習指導要領（体育、保健体育科）解説　文部科学省

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことにより、発表・プレゼンテーションが充実するので積極的に行うこと。
授業に際しては、PC等のデバイスを活用し授業内容の共有を図る。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　川合研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **学習指導要領に基づく教育課程の編成**<br>保健体育科教育課程論で何を学ぶのか。<br>教育課程（カリキュラム）について理解し、小学校・中学校・高等学校の学習指導要領における教育課程の編成の要点を学修する。 | 保健体育の教育課程について様々な事例を集める | 4時間 |
| 第2回 | **学習指導要領に基づく体つくり運動、器械運動の系統的指導内容の発表**<br>・小学校低学年の体つくり運動遊びから中学校・高等学校の体つくり運動までの系統的指導内容について発表する。<br>・小学校低学年の器械・器具を使っての遊びから中学校・高等学校の器械運動までの系統的指導内容について発表する。 | 体つくり運動、器械運動の系統的指導内容の発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **学習指導要領に基づく陸上競技、水泳の系統的指導内容の発表**<br>・小学校低学年の走・跳の運動遊びから中学校・高等学校の陸上競技までの系統的指導内容について発表する。<br>・小学校低学年の水遊びから中学校・高等学校の水泳までの系統的指導内容について発表する。 | 陸上競技、水泳の系統的指導内容の発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **学習指導要領に基づく球技、武道・ダンスの系統的指導内容の発表**<br>・小学校低学年のゲームから中学校・高等学校の球技までの系統的指導内容について発表する。<br>・小学校低学年の表現リズム遊びから中学校・高等学校のダンス及び中学校・高等学校の武道の系統的指導内容について発表する。 | 球技、武道・ダンスの系統的指導内容の発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第5回 | **学習指導要領に基づく体育理論、保健の系統的指導内容の発表**<br>・中学校・高等学校の体育理論の系統的指導内容について発表する。<br>・小学校の体育科（保健）から中学校・高等学校の保健までの系統的指導内容について発表する。 | 体育理論、保健の系統的指導内容の発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第6回 | **年間授業計画編成の要点**<br>学習指導要領に基づく保健体育科の年間授業計画編成にかかる要点を学修する。 | 学習指導要領における年間授業計画の記述についてまとめておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **年間授業計画編成の実際**<br>高等学校における年間授業計画について、学校全体の授業計画、学校行事、施設、クラス編成等を想定した年間授業計画を作成する。 | 年間授業計画を検討する。 | 4時間 |
| 第8回 | **年間授業計画の発表**<br>高等学校の年間計画について作成した年間計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。 | 作成した年間授業計画の発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **「主体的・対話的で深い学び」の学習について**<br>学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」による学習について理解する。 | 「主体的・対話的で深い学び」による学習について学習指導要領における記述内容をまとめておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **「主体的・対話的で深い学び」の学習の実際**<br>各運動領域、体育理論、保健の単元の中で、「主体的・対話的で深い学び」の学習をどのように取り入れるか、その授業展開例を考え単元計画を作成する。 | 「主体的・対話的で深い学び」の学習の展開例を調べておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **体つくり運動・器械運動における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表**<br>体つくり運動・器械運動の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。 | 体つくり運動・器械運動の中で単元計画を作成し発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **陸上競技・水泳における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表**<br>陸上競技・水泳の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。 | 陸上競技・水泳の中で単元計画を作成し発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **球技、ダンス・武道における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表**<br>球技、ダンス・武道の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。 | 球技、ダンス・武道の中で単元計画を作成し発表準備を行う。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **体育理論、保健における「主体的・対話的で深い学び」の学習の単元計画発表及びまとめ**<br><br>・体育理論、保健の単元の中で「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入れた単元計画を発表し、受講生相互に問題点や課題を検討する。<br>・年間授業計画の作成において、系統的学習内容や「主体的・対話的で深い学び」の学習を取り入ることができたか振り返る。 | 体育理論、保健の中で単元計画を作成し発表準備を行う。 | 4時間 |

SP-4106-3-2

| 授業科目名 | 教材開発演習 I | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 山手　隆文 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校にて、1年生から6年生までの担任と体育授業を担当した実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

体育科の授業における既存の教材に触れ、その重要性を知る。次に、教材開発の視点や方法について理論的に学び、それらを踏まえ、典型教材やさまざまな実践を調べる。その実践を手がかりに教材をどのように工夫すればよいかを考え、開発した教材を発表する。その有効性を受講者間で振り返り、よりよい教材・教具について考える。また、各回の運動種目の教材の内容を理解し、よい体育授業について考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 体育科の授業における既存の教材の重要性や教材開発の視点や方法に関する知識の習得 | 体育科の授業における教材開発の理論と意義、教材開発の視点及び方法を探究することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | さまざまな体育教材の実践からの教材の開発 | さまざまな実践を手がかりに教材を開発したものを発表することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 教材を開発し、その有効な教材に関する実践力の向上 | 各領域において有効な教材を開発し、その有効性について議論を深めることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

毎時の課題・振り返り、グループの教材発表、課題レポートの合計100点満点で評価する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 課題・振り返り | 40 % | ： | 毎回の課題・振り返りに対して、講義や演習の内容を十分理解して、適切な内容の文章が書けているかについて評価する。 |
| グループの教材発表 | 30 % | ： | 教材開発の理論を踏まえ、教材が工夫された分かりやすい発表になっているかについて評価する。 |
| 最終課題レポート | 30 % | ： | 開発した教材に対し、理論を踏まえて批判的に検討し、これまでの学びが生かされているかについて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

新版　体育科教育学入門　高橋健夫編著（大修館書店）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **教材開発の重要性について**<br>本講義の進め方並びに教材・教具について考える。 | 教材・教具についての内容を理解する。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツテスト（体力・運動能力調査）について**<br>旧スポーツテストと新体力テストについて考える。 | 体力テストに関する資料を収集する。 | 4時間 |
| 第3回 | **教材づくりの基本的視点**<br>教材づくりの内容的視点と方法的視点を考える。 | よい授業とは何かを考える。 | 4時間 |
| 第4回 | **教材づくり①（先行研究の調査）**<br>先行研究の資料を収集し、吟味する。 | 先行研究（実践事例）を調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **教材づくり②（運動種目の特性）**<br>運動種目の特性について考える。 | 運動種目の特性を調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **教材づくり③（グループごとに教材検討）**<br>発表に向けて、資料を調べ、整理する。 | 担当の運動種目の資料を作成する。 | 4時間 |
| 第7回 | **教材の発表①（マット運動）**<br>マット運動の教材・教具の工夫を発表し、検討する。 | マット運動の教材・教具の工夫のよさについて理解する。 | 4時間 |
| 第8回 | **教材の発表②（跳び箱運動）**<br>跳び箱運動の教材・教具の工夫を発表し、検討する。 | 跳び箱運動の教材・教具の工夫のよさについて理解する。 | 4時間 |
| 第9回 | **教材の発表③（鉄棒運動）**<br>鉄棒運動の教材・教具の工夫を発表し、検討する。 | 鉄棒運動の教材・教具の工夫のよさについて理解する。 | 4時間 |
| 第10回 | **教材の発表④（短距離走、ハードル走）**<br>短距離走、ハードル走の教材・教具の工夫を発表し、検討する。 | 短距離走、ハードル走の教材・教具の工夫のよさについて理解する。 | 4時間 |
| 第11回 | **教材の発表⑤（走り幅跳び、走り高跳び）**<br>走り幅跳び、走り高跳びの教材・教具の工夫を発表し、検討する。 | 走り幅跳び、走り高跳びの教材・教具の工夫のよさについて理解する。 | 4時間 |
| 第12回 | **教材の発表⑥（柔道）**<br>柔道の教材・教具の工夫を発表し、検討する。 | 柔道の教材・教具の工夫のよさについて理解する。 | 4時間 |
| 第13回 | **教材の発表⑦（剣道）**<br>剣道の教材・教具の工夫を発表し、検討する。 | 剣道の教材・教具の工夫のよさについて理解する。 | 4時間 |
| 第14回 | **各運動種目の教材・教具のまとめ**<br>教材・教具の工夫についてグループで振り返り、全体総括としてそのよさをまとめる。 | これまでの学習資料の整理をし、最終課題レポートとしてまとめる。 | 4時間 |

SP-4107-2-2

| 授業科目名 | 学校スポーツ指導法Ⅰ（学校スポーツ指導法（団体種目）） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 川合・山手 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 川合英之：高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長までを歴任（12年）した実践経験を講義内容に結びつけている。<br>山手隆文：小学校教員（29年）として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

体育の授業を進めるにあたって、ラジオ体操や集団行動の基本を習得し指導できるようになる。また、授業における基礎内容、特に集団種目（球技：ゴール型、ネット型、ベースボール型）における学習指導に関する要点を理解する。中学校や高等学校における集団種目の導入や単元の技能の習得、授業を進めるにあたっての指導ポイント（苦手な生徒への指導方法など）を考え、保健体育科の教員として体育の実技指導を効果的に行う実践力を習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 保健体育科教員としての体育実技指導に関する知識・技能の修得 | 体育実技指導の手法・方略を修得し、それぞれの運動領域の特性を活かした指導の知識を理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 児童生徒に向き合う資質の涵養 | 多様な児童生徒（配慮が必要な児童生徒）がいる学校における教科指導の在り方を理解することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 保健体育科教員としての体育実技指導の実践力の向上 | 体育の多様な単元の指導方法について、個人はもちろんグループ活動を通して深め合い、高め合うことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT(PowerPoint,Excel,専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 集団行動やラジオ体操の指導力 | 10 % | ： 集団行動とラジオ体操の指導ができる：10点 集団行動とラジオ体操の指導がまずまずできる：8点 集団行動とラジオ体操の指導があまりできない：6点 集団行動とラジオ体操の指導ができない：５点以下 |
| 集団種目の授業の導入や進め方 | 20 % | ： 授業の導入や進め方がしっかりできる：20～16点 授業の導入や進め方がまずまずできる：15～11点 授業の導入や進め方があまりできない：10点以下 授業の導入や進め方ができない：6点 授業ができない：0点 |
| レポート等の提出物 | 70 % | ： 各回（14回）のレポートがしっかりできている：5点 各回（14回）のレポートがまずまずできている：3点又は4点 各回（14回）のレポートがあまりできていない：2点 各回のレポートができていない：0点 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

なし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ラジオ体操及び集団行動**<br>ラジオ体操を教材として師範の方法を理解するとともに、集団行動の基礎を指導することができる。 | 生徒に向かって逆方向からの動きで指導できる。 | 4時間 |
| 第2回 | **集団行動の実際**<br>集団行動における集合、方向変換、列の増減、歩行について、その方法を理解し実践する。 | 集団行動の基本的動作と号令のかけ方について調べておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **学習指導要領に基づく球技（ベースボール型）の指導について理解する。**<br>球技（ベースボール型）の特性を理解し、効果的な指導方法を学ぶ。 | 学習指導要領のベースボール型の特性を調べておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **球技（ベースボール型）について①（ねらい）**<br>中学校・高等学校の球技（ベースボール型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。 | 球技（ベースボール型）のねらいについて整理しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **球技（ベースボール型）について②（個人技能）**<br>球技（ベースボール型）の個人技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。 | 学習指導要領に示される球技（ベースボール型）個人技能について整理しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **球技（ベースボール型）について③（集団技能）**<br>球技（ベースボール型）の集団技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。 | 学習指導要領に示される球技（ベースボール型）集団技能について整理しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **学習指導要領に基づく球技（ゴール型）の指導について理解する。**<br>球技（ゴール型）の特性を理解し、効果的な指導方法を学ぶ。 | 学習指導要領のゴール型の特性を調べておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **球技（ゴール型）について①（ねらい）**<br>中学校・高等学校の球技（ゴール型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。 | 球技（ゴール型）のねらいについて整理しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **球技（ゴール型）について②（個人技能）**<br>球技（ゴール型）の個人技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。 | 学習指導要領に示される球技（ゴール型）個人技能について整理しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **球技（ゴール型）について③（集団技能）**<br>球技（ゴール型）の集団技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。 | 学習指導要領に示される球技（ゴール型）集団技能について整理しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **学習指導要領に基づく球技（ネット型）の指導について理解する。**<br>球技（ネット型）の特性を理解し、効果的な指導方法を学ぶ。 | 学習指導要領のネット型の特性を調べておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **球技（ネット型）について①（ねらい）**<br>中学校・高等学校の球技（ネット型）のねらいをまとめ、その指導内容について考える。 | 球技（ネット型）のねらいについて整理しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **球技（ネット型）について②（個人技能）**<br>球技（ネット型）の個人技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。 | 学習指導要領に示される球技（ネット型）個人技能について整理しておく | 4時間 |
| 第14回 | **球技（ネット型）について③（集団技能）**<br>球技（ネット型）の集団技能の特性を考え指導方法を立案し実践する。 | 学習指導要領に示される球技（ネット型）集団技能について整理しておく。 | 4時間 |

SP-4108-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教材開発演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤　寛己・股村　美里** | | | | |
| 学年・コース等 | 3・4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 黒澤寛：高等学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

中学校及び高等学校の保健領域と体育理論の授業計画や授業構成及びその中で扱うべき教材・教具や学習形態・方法に関する基本的な講義を行った後、全受講者が保健と体育理論の授業で扱うべき主要な単元内容や題材に関する具体的な教材づくりと授業計画の作成を行う。グループ単位で考えた教材や教具を活用した授業計画を10分程度のマイクロティーチング（模擬授業）で実践し、その後の検討会を通して問題点や改善すべき事を学び、授業改善に必要な考え方を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教材開発に必要な基礎知識を正確に理解し、適切に応用できるかを評価する。専門用語や理論の正確な使用、教材設計の基本原則を実践に落とし込む能力を確認する。 | 教材開発に関する理論や専門知識を正確に理解しているか。<br>理論を実践に適用し、教材設計に反映できるか。<br>用語や手法を適切に用い、正確性を保った資料を作成できるか。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 対象者や学習環境に応じた教材の構成を論理的に計画・評価し、創意工夫のある方法でプレゼンテーションができるかを測定する。課題解決能力や表現力の独自性も重視する。 | 学習者のニーズや学習目標を的確に判断し、教材設計に活用しているか。<br>課題解決のプロセスが論理的で一貫しているか。<br>教材の構成や説明がわかりやすく、独創的かつ効果的に表現できているか。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 教材開発過程において他者と積極的に協力し、責任感を持って取り組む姿勢を評価する。主体的に学び続ける意欲や批判的思考、他者への配慮も含めて判断する。 | 作業や議論への積極的な参加姿勢が見られるか。<br>他者と協力し、意見を尊重しながら柔軟に対応しているか。<br>自己の課題や改善点を的確に把握し、次の学びに向けて主体的に行動しているか。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

第1回目の授業で、模擬授業の担当の割り当てを行います。履修する学生は必ず出席すること。また欠席した場合は、第2回目の授業までに担当教員のところへ申し出て本演習の趣旨と模擬授業の担当についての指示を受けましょう。この指示を受けることができなかった場合、本演習の履修を認めないことがあります。本演習の円滑な運営に積極的に参加できることも評価の観点に含みます。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 各回の小レポート | 40 % | ： | 授業内容を踏まえて、独自の見解や具体例等が示された論述ができているか。 |
| 担当授業後のリフレクション | 14 % | ： | 作成した教材と授業計画に対する授業実践の成果と反省および改善策等が具体的に述べられているか。 |
| まとめのレポート | 46 % | ： | 授業を通して身につけた知識や経験を、今後の学習に具体的にどのように活かそうと考えているのか、反論を想定しながら自身の意見を提示できているか。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』
中学保健体育、高等学校保健体育の教科書は、図書館やラーニングコモンズ、さらには研究室等で所蔵しています。本演習では教科書を用いた授業づくりを重視しますが、学習の内容を深化・補充するための専門的な知識や統計データを授業資料として活用する姿勢を期待して授業を進めます。主体的な教材研究資料探しや参考文献探索を望みます。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすることとします。
様々な教具やICTを含む学習方法を活用した保健と体育理論の授業展開を目指して、グループで教材や教具の工夫や検討を行いながら、模擬授業（マイクロティーチング）を実践します。わかる・楽しい保健と体育理論の授業実践力を高めていきましょう。中学校や高等学校での学習だけでなく、小学校での学習も視野に入れて勉強しましょう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　B218 股村研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ***ガイダンス：保健および体育理論の授業で学ぶこととは***<br><br>授業全体の計画に触れ、保健と体育理論の模擬授業へ向けた意識を高める。<br>保健および体育理論の授業で身に着けさせる知識について学ぶ。<br>保健と体育理論の模擬授業を行うグループを決め、日程案を計画する。 | 授業全体の計画を把握し、保健と体育理論で興味ある題材について調べる。 | 4時間 |
| 第2回 | **保健の学習指導案作成、保健の授業分析視点例**<br><br>各グループで、保健の具体的で共有化できる学習指導案を作成する。また、保健の授業分析視点例に触れ、実際の保健の模擬授業の工夫につなげる。 | 保健の具体的な学習指導案を作成し、保健授業の分析視点の例をまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **保健の模擬授業（中学校）－心身の発達と心の健康－とその検討**<br><br>中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、心身の発達と心の健康の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 中学生を対象とした心身の発達と心の健康の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第4回 | **保健の模擬授業（中学校）－傷害の防止－とその検討**<br><br>中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、傷害の防止の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案についての評価・検討を行う。 | 中学生を対象とした傷害の防止の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第5回 | **保健の模擬授業（中学校）－健康な生活と病気の予防－とその検討**<br><br>中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、健康な生活と病気の予防の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 中学生を対象とした健康な生活と病気の予防の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第6回 | **保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康－とその検討①**<br><br>高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 高校生を対象とした喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第7回 | **保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康－とその検討②**<br><br>高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業を実施する。<br>模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 高校生を対象とした生活習慣病、感染症などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第8回 | **保健の模擬授業（高等学校）－生涯通じる健康－とその検討**<br><br>高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、性教育に関わる生涯通じる健康の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 高校生を対象とした性教育関連の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第9回 | **体育理論の模擬授業－運動やスポーツの多様性－とその検討**<br><br>中学生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「運動やスポーツの多様性」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。<br>模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 運動やスポーツの多様性の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第10回 | **体育理論の模擬授業－運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方－とその検討**<br><br>中学生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。<br>模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第11回 | **体育理論の模擬授業－文化としてのスポーツの意義－とその検討**<br><br>中学生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「文化としてのスポーツの意義」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。<br>模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 文化としてのスポーツの意義の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第12回 | **体育理論の模擬授業－スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展－とその検討**<br><br>高校生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。<br>模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第13回 | **体育理論の模擬授業－豊かなスポーツライフの設計の仕方－とその検討**<br><br>高校生を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「豊かなスポーツライフの設計の仕方」の領域に関する体育理論の模擬授業を実施する。<br>模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 豊かなスポーツライフの設計の仕方の領域に関する体育理論の模擬授業について、教材や授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第14回 | **保健領域・体育理論の模擬授業のリフレクション　まとめ**<br><br>中学生、高校生を想定した体育理論の模擬授業全体を振り返り、形成的授業評価とリフレクションシートから得られた結果を参考に、教材の工夫や授業行動の改善の在り方について検討する。 | 中学生、高校生対象を想定した体育理論の模擬授業全体を振り返り、授業改善の方策を考える。 | 4時間 |

SP-4109-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ指導法Ⅱ（学校スポーツ指導法(個人種目)）** | | | | |
| 担当教員名 | 髙松 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義・実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目は，小学校・中学校・高等学校での体育授業を指導するにあたって，保健体育の教員が身に付けていなければならない基本的な指導法の習得を目指すものである．器械運動や陸上競技などの個人種目や，体つくり運動領域で扱われる運動を中心に，比較的運動が苦手な子供を対象とした個別指導や段階的な指導方法，学習形態の工夫，補助の仕方，指導の導入から展開の仕方について学ぶ．
指導の方法を知識として学ぶだけでなく，実際に提示された教材を体験することで，指導法への理解を深める．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 各領域における指導法の理解 | 器械運動・陸上・体つくり運動における指導法を理解し，まとめることができる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 指導法の実践 | 学習した指導法を，グループ内で実践することができる． |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 仲間との協同学習 | 仲間と協同しながら，活動することができる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎授業後の小レポート | 50 % | ： 各授業内で理解した指導の仕方や方法，意義について振り返り，小レポートに記述したものを評価する．<br>最大50点満点（講義回2点×3回，実習回4点×11回）で評価する． |
| 指導法の理解度 | 50 % | ： 領域ごと（器械運動・陸上競技・体つくり運動）の指導法をレポートに整理して記述されているものを，50点満点で評価する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説　体育編（東山書房）
文部科学省（2018）中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
文部科学省（2019）　高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育科編（東山書房）

その他の資料は適宜配布する．

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．
よい教員や指導者になるためには，「何を教えるか」だけでなく「どのように教えるか」，その方法を知っておく必要がある．本科目を受講する学生は，「将来子ども

の前に立って指導をする」という自覚を持って，主体的に取り組むこと．学校スポーツ指導法Ⅰを受講しておくことが望ましい．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 月曜2時限

**場所**： 髙松研究室（B205）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **指導法を学ぶことの重要性について**<br>本科目における指導法の位置付けと指導法を学ぶ重要性について理解する． | 学習指導要領解説書の教科の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第2回 | **各領域における学びの内容について**<br>本科目で取り扱う「器械運動」「陸上運動」「体つくり運動」領域の，学校体育での学びの内容について理解する． | 学習指導要領解説書の各領域の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第3回 | **器械運動の指導法について（倒立の指導法）**<br>器械運動領域における巧技系に位置づけられている技の指導法について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の器械運動領域（巧技系）の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第4回 | **器械運動の指導法について（マット運動の指導法）**<br>器械運動領域におけるマット運動に位置づけられている技の指導法について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の器械運動領域（マット運動）の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第5回 | **器械運動の指導法について（とび箱運動の指導法）**<br>器械運動領域におけるとび箱運動に位置づけられている技の指導法について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の器械運動領域（とび箱運動）の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第6回 | **器械運動の指導法について（鉄棒運動の指導法）**<br>器械運動領域における鉄棒運動に位置づけられている技の指導法について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の器械運動領域（鉄棒運動）の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第7回 | **器械運動の指導法について（平均台運動の指導法）**<br>器械運動領域における平均台運動に位置づけられている技の指導法について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の器械運動領域（平均台運動）の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第8回 | **陸上運動（走り高跳び）の指導法について**<br>陸上運動領域における走り高跳びの跳び方の種類や段階的な指導，運動局面に応じた助走・跳躍・着地の運動について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の走り高跳び分野の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第9回 | **陸上運動（走り幅跳び）の指導法について**<br>陸上運動領域における走り幅跳びの運動局面に応じた助走・跳躍・着地の運動について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の走り幅跳び分野の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第10回 | **陸上運動（ハードル走）の指導法について**<br>陸上運動領域におけるハードル走の段階的指導や，運動局面に応じた助走・空中動作・インターバル走の指導について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書のハードル走分野の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第11回 | **体つくり運動（体ほぐし運動）の指導法について**<br>体つくり運動領域における体ほぐしの運動の指導について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の体ほぐし運動分野の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第12回 | **体つくり運動（体の動きを高める運動）の指導法について**<br>体つくり運動領域における体の動きを高める運動の指導について理解し，実践する． | 学習指導要領解説書の体の動きを高める運動分野の目標及び内容を読む | 4時間 |
| 第13回 | **運動遊びで培う基礎技能の指導法について**<br>器具を使った運動遊びで培われる基礎技能について理解し，実践する． | 「器械運動」「陸上運動」「体つくり運動」領域などの個人種目における基礎技能について事前に調べておく | 4時間 |
| 第14回 | **各領域の指導法のまとめと振り返り及び総評**<br>本科目で扱った「器械運動」「陸上運動」「体つくり運動」についての指導法を振り返り，まとめを行う． | これまでに書いた振り返りシートを読み持参する | 4時間 |

SP-4110-3-2

| 授業科目名 | 武道・舞踊論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林　弘典・大橋　奈希左 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 林弘典：全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005～2022年）日本スポーツ協会コーチディベロッパー（2023年～現在）の3つ実務経験から、性別、年齢、競技種目に関わらず多様な学生に対応している。（1～7回） | | | | |

**授業概要**

武道は、武士道の伝統に由来する我が国で体系化された武技の修錬による心技一如の運動文化であり、柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道を修錬して心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。舞踊（ダンス）は、身体を媒介にした力動的時空間芸術である。その歴史と現在の状況及び可能性について対話し、教育とのかかわりについて自身の考えを深める。本授業では、武術（武技）、武道、スポーツ、体育、舞踊の目的を比較することによって、「武道とは何か」「舞踊とは何か」について理解する。また、武道において自分と向き合うことや、舞踊と関連した文化を読み解くことで自身の価値観について再認識する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 武道の目的・意義・価値・歴史 | 武道の目的・意義・価値・歴史を理解できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 舞踊の歴史・意義・価値、スポーツとの接点、バレエ・モダンダンス・コンテンポラリーダンス | 舞踊の意義や価値を理解でき、具体的な事例について、スポーツとの差異を説明できる。舞踊を文化として理解でき、具体的な事例について、それぞれのダンスの特徴を説明できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 武術（武技）、武道、スポーツ、体育の観点 | 武術（武技）、武道、スポーツ、体育のそれぞれの観点から物事を理解できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 舞踊の概要 | 舞踊における独自の考え方を理解できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　全体について講評する。事例を挙げて、コメントする。

**成績評価**

**注意事項等**

舞踊論については集中講義で行うため、理由を提出した上での欠席について、対面受講生以上の提出課題を課して対応することがある。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 質疑応答 | 20　% | ：　第1～7回の授業において、武術（武技）、武道、スポーツ、体育に関する質疑応答の妥当性を5段階で評価する。 |
| 授業内ミニレポート | 10　% | ：　第8～14回の授業内ミニレポートの妥当性を5段階で評価する。 |
| 発表・対話 | | ：　第8～14回の発表・対話における積極性や妥当性、協調性を5段階で評価する。 |

10　%

授業内レポート　：　第1～7回の授業において、武術（武技）、武道、スポーツ、体育に関する授業内レポートの妥当性を5段階で評価する。

30　%

最終レポート　：　第14回の授業後に提出される最終レポートの妥当性を5段階で評価する。

30　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

（武道論）
武道を知る：田中　守・藤堂良明・東　憲一・村田直樹（不昧堂出版）
参考資料を授業内で適宜紹介する。
（舞踊論）
①石井達朗（2020）『ダンスは冒険である　身体の現在形』論創社
②乗越たかお（2016）『ダンス・バイブル　増補新版』河出書房新社
資料は随時配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。なお、毎回の講義でパソコンを使ってレポートを作成するので必ずパソコンを持参してください。また、自分のこれまでの体験や身の周りのこととのかかわりに着目しながら、興味をもって受講してください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項**：　舞踊論についてのオフィスアワーは集中講義となるため、実施される教室で授業の前後及び休憩時間とする。

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、武道の種類・目的・前身（林　弘典）**<br>シラバスを確認しながら、授業の進め方や取り組み方を理解する。武道の理念、武道憲章、こども武道憲章の学習を通して、武道の種類・目的・前身について学習する。 | シラバスを熟読する。日本武道館HPから武道の種類、武道の理念、武道憲章、こども武道憲章について調べる。 | 4時間 |
| 第2回 | **武術（武技）の種類と目的、「武」の文字の意味（林　弘典）**<br>武術の種類と目的、「武」の文字の意味について学習する。 | 武術の種類と目的、「武」の文字の意味について調べる。 | 4時間 |
| 第3回 | **武術（武技）・武道の始まり（林　弘典）**<br>日本の歴史から武術（武技）の始まりを学習し、武術から武道への変遷について理解する。 | 縄文時代から現代までの食料調達や武器の発達について調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **武道とスポーツの違い（林　弘典）**<br>日本スポーツ協会やスポーツ庁が示すスポーツの目的を学習し、武道とスポーツの違いを理解する。 | 日本スポーツ協会HPやスポーツ庁HPからスポーツの目的を調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツの価値について（林　弘典）**<br>オトナの学校完全版　武井壮【オトナの！】を視聴し、武井壮の考えるスポーツの価値について理解する。 | 武井壮氏について調べる。また、1～4回までの授業を振り返り、武道とスポーツの目的を整理する。 | 4時間 |
| 第6回 | **武道の価値について（林　弘典）**<br>かんさい熱視線「極めて　なお磨く―剣道八段・最高峰の戦い―」を視聴し、スポーツの価値と対比しながら武道の価値について理解する。また、武道における「自分と向き合うこと」の意味を理解する。 | 全日本剣道演武大会、剣道八段の神崎浩氏と有馬光男氏について調べる。5回の授業の課題を見直し、スポーツの価値を整理する。 | 4時間 |
| 第7回 | **体育（保健体育）の価値について（林　弘典）**<br>中学校・高校の学習指導要領（保健体育）が示す体育の目的を学習し、武道と体育（保健体育）の違いを理解する。また、武道・スポーツ・体育（保健体育）の価値を整理する。 | 文部科学省HPから中学校・高校の学習指導要領（保健体育）の目的を調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **舞踊論のガイダンス（大橋　奈希左）**<br>自分にとって舞踊とは？自己の舞踊体験を振り返って、発表する。 | 自分と舞踊のかかわり(踊る・観る・創る・支える)を振り返り、他の受講者に説明できるように、準備をする。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第9回 | **舞踊という文化の外延を探る（スポーツとの接点）（大橋　奈希左）**<br><br>ウィトゲンシュタイン「家族的類似」(性)の視点をもとに動画を視聴して対話する。 | ①前回の授業における他の受講者の舞踊体験を振り返り、自身が知らなかったことについて調べる。②ウィトゲンシュタイン「家族的類似」(性)について調べてくる。 | 4時間 |
| 第10回 | **舞踊の起源と現代舞踊（モダンダンス・コンテンポラリーダンス）までの歴史を学ぶ（大橋　奈希左）**<br><br>動画を視聴し、解説後に対話する | 自身で、モダンダンス・コンテンポラリーダンスの動画を検索して視聴する。 | 4時間 |
| 第11回 | **バレエの発祥と発展について学ぶ（大橋　奈希左）**<br><br>画像・動画を視聴し、解説後に対話する | 自身で、モダンダンス・コンテンポラリーダンスの動画を検索して視聴する。 | 4時間 |
| 第12回 | **学校教育におけるダンス①（大橋　奈希左）**<br><br>体育・保健体育科における表現運動・ダンス領域について学ぶ | 中学校学習指導要領保健体育編のダンス領域について熟読してくる。 | 4時間 |
| 第13回 | **学校教育におけるダンス②（大橋　奈希左）**<br><br>中学校・高等学校における課外活動の現状について学ぶ | 中学校・高等学校のダンス部の動画を検索して視聴し、自身が検索したものについて、感想を発表できるように準備する。 | 4時間 |
| 第14回 | **全体総括（大橋　奈希左）**<br><br>舞踊という文化と教育について身体運動とアートという視点から解説して対話する | これまでの授業を振り返って整理し、最終レポートに、自身の意見と感想が書けるように準備する。 | 4時間 |

SP-4112-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **部活動指導論** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤　寛己** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 高等学校教諭（部活動顧問）として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

学校現場（中学校・高等学校）における部活動に関する指導について理解を深めることを目的とする。具体的には、部活動の諸問題、発達段階に応じた指導法、学習指導要領に準じた運営について、現状の課題を理解し、教育的で効果のある指導法について検討する。また、学校現場での課題や実際の指導法について、事例研究を行う。そして、その結果についてグループディスカッションを行ったり、グループ発表を行うことによって知識及び技能の定着を図る。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 学校現場における部活動の運営 | 学校現場における部活動の効果的な運営方法を身に付ける。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 学校現場における部活動の指導 | 学校現場における部活動の効果的な指導方法を身に付ける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 毎回の小レポート | 60 % | ： | 毎回の授業の取り組みと小レポートの内容を評価する。 |
| 事例研究発表 | 20 % | ： | 部活動の事例発表について、発表資料とプレゼンテーションを評価する。 |
| 課題レポート | 20 % | ： | 部活動に関する課題レポートを用いて、部活動指導の理解度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

学習内容について、適宜参考資料を配布する。また、発表に際しては部活動指導に関する書籍・資料を各自が収集する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本授業は、将来教員や部活動指導員として、部活動の指導に関わることを想定した内容となっている。そのため、自身の目的や興味・関心に応じた自主的な取り組みが必要となる。具体的な指導事例に関する資料を積極的に収集する必要がある。また、授業の後半では事例発表を行う。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所：** 黒澤寛己研究室

**備考・注意事項：** 質問に来る際には、念のため事前に連絡すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **部活動の歴史**<br>部活動の歴史的背景について理解する。<br>部活動と学習指導要領の関係について理解する。 | 学習指導要領に記載されている部活動の意義について調べる。 | 4時間 |
| 第2回 | **部活動の今日的課題**<br>部活動における体罰や暴力的な指導、顧問教員の過重労働など、今日的な課題について理解する。 | 部活動の今日的な課題について、事例を調べる。 | 4時間 |
| 第3回 | **部活動のマネジメント**<br>高校の野球部などを事例として、部活動のマネジメントや運営方法について理解する。 | 部活動のマネジメントに関する事例を調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **部活動と生徒指導**<br>部活動が生徒指導に果たす機能について理解する。<br>部活動を生徒指導に活用した事例について検討する。 | 部活動を生徒指導に活用した事例を調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **部活動と教師教育**<br>部活動が教師教育に果たす役割について理解する。<br>部活動を教師教育・教師の指導力向上に活用した事例について検討する。 | 部活動を教師教育・教師の指導力向上に活用した事例を調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **勝利至上主義と部活動**<br>勝利至上主義による部活動への影響について理解する。<br>資料史至上主義による、行き過ぎた指導事例について検討する。 | 勝利至上主義による部活動指導の事例を調べる。 | 4時間 |
| 第7回 | **地域活性化と部活動**<br>部活動による地域活性化について理解する。<br>部活動によって、地域活性化に取り組んだ事例について検討する。 | 部活動による地域活性化事例を調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **教員の勤務実態と部活動**<br>教員の勤務実態や過重労働と部活動指導との関係について理解する。<br>部活動指導による、教員の過重労働問題について検討する。 | 部活動指導による、教員の過重労働の事例を調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **文武両道と部活動**<br>学校現場における、勉強と部活動の取り組みについて理解する。<br>勉強と部活動の両立に取り組んでいる事例について検討する。 | 文武両道に取り組んでいる学校の事例について調べる。 | 4時間 |
| 第10回 | **部活動におけるスポーツ事故**<br>部活動中における、スポーツ事故について理解する。<br>部活動中のスポーツ事故の防止方法や対応について検討する。 | 部活動中のスポーツ事故の事例を調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **オリンピックと部活動**<br>オリンピックに参加する選手強化と部活動の機能について理解する。<br>海外の部活動とオリンピックの関係について、事例をもとに検討する。 | オリンピックと部活動が関係する事例を調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **大学の体育会運動部活動**<br>大学の体育会運動部の現状について理解する。<br>UNIVASなどの取り組みについて、検討する。 | 大学運動部の取り組みについて、調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **部活動運営の事例研究（運営面について）**<br>優れた運動部活動の運営について、事例研究を行う。<br>部活動の運営方法について検討し発表する。 | 優れた運動部活動の事例について調べる。 | 4時間 |
| 第14回 | **部活動指導の事例研究（指導面について）**<br>優れた部活動指導について事例研究を行う。<br>部活動の指導方法について検討し発表する。 | 優れた部活動指導について調べる。 | 4時間 |

SP-4113-3-2

| 授業科目名 | 保健体育授業分析評価法 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 大西　祐司 | | | | |
| 学年・コース等 | 3・4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

昨今の教育情勢を踏まえれば、授業のアカウンタビリティ（説明責任）を果たすべく、エビデンス（学習成果）をもってそれに応えていくことが求められている。本講座では、学校スポーツ教育コースの専門実習Ⅰの模擬授業の映像やデータを取り上げながら、教師や児童生徒の行動、授業評価、並びに学習成果などを分析評価する方法について学ぶ。それらを用いて量的・質的なデータを算出し授業を省察することで、効果的な授業実践に向けた改善策を検討する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教師行動、授業評価、並びにパフォーマンスの分析評価 | さまざまな分析評価法を駆使して、客観的なデータを示すことができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | よい体育授業を成立させる条件 | 得られたデータから授業の具体的な改善策を見出すことができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 授業の分析評価、改善策の提示 | 主体的かつ協働的に仲間と活動することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート | 60 % | ： 毎時間、授業内で課す課題を5点×12回=60点満点で評価する。 |
| 最終レポート | 30 % | ： 授業で学んだ分析評価法を用いて映像を分析し、その結果をもとに改善策を見出す課題を30点満点で評価する。 |
| 協働学習への取り組み | 10 % | ： 授業内で行われる協働的な取り組み（レポート、ディスカッション）への態度を10点で評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 高橋健夫　編著 | ・ 体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント | ・ 明和出版 | ・　　年 |

**参考文献等**

授業内容に応じて適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

学校スポーツ専門実習Ⅰを履修していることが望ましい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　大西研究室（B206）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **保健体育授業を分析評価するとは**<br>本講義の進め方並びに留意事項を確認する<br>体育授業を分析評価する意義を学ぶ | これまで経験した授業を振り返る | 4時間 |
| 第2回 | **よい体育の授業とは**<br>授業の内容的条件、基礎的条件を知る | よい体育の授業について自身の経験から考えてくる | 4時間 |
| 第3回 | **授業場面の期間記録法と記述分析**<br>運動学習場面、認知学習場面、インストラクション場面、マネジメント場面を分析する方法を知る | 期間記録法の概要を調べてくる | 4時間 |
| 第4回 | **教師の相互作用行動の観察法**<br>相互作用（フォードバック、励まし）を分析する方法を知る | 相互作用行動の観察法の概要を調べてくる | 4時間 |
| 第5回 | **組織的観察法の応用**<br>教師の言葉かけの記録、マネジメント時間の記録の応用された方法について知る | 組織的観察法の現場での活用の仕方を考えてくる | 4時間 |
| 第6回 | **教師行動に関する授業の改善策**<br>四大教師行動（直接指導、巡視、相互作用、マネジメント）から授業の改善策を考える | 四大教師行動について調べてくる | 4時間 |
| 第7回 | **運動有能感**<br>運動有能感を調査する意義と方法について知る | 運動が得意・苦手だと感じる理由を考えてくる | 4時間 |
| 第8回 | **体育授業と学級集団意識**<br>学級集団意識を調査する意義と方法について知る | 体育授業が学級に及ぼす影響を考えてくる | 4時間 |
| 第9回 | **学習従事率**<br>オフタスクや観察カテゴリーに応じてGTS法を用いて学習従事率を算出する | ALT-PE法の概要を調べてくる | 4時間 |
| 第10回 | **ゲーム分析**<br>心電図型とGPAIによるゲーム分析を行う | 球技のよい授業について自身の考えをまとめてくる | 4時間 |
| 第11回 | **戦術の理解度テスト**<br>画像や質問紙による理解度テストを開発する | よい球技の授業について自身の考えをまとめてくる | 4時間 |
| 第12回 | **質問紙調査（体育）**<br>仲間づくりの形成的評価票、観察者チェックリストについて知る | 質問紙調査の例を調べてくる | 4時間 |
| 第13回 | **質問紙調査（保健）**<br>診断的、形成的、総括的授業評価について知る | よい保健の授業について自身の経験を振り返る | 4時間 |
| 第14回 | **全体のまとめおよび総評**<br>保健体育授業を分析評価する方法を整理して理解する | これまでの講義の疑問点等をまとめてくる | 4時間 |

SP-4501-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス・メディア基礎演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉・城島・山本・齊藤・明** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 城島：プロのスポーツライターとして（トップアスリートやスポーツに関する著作多数）の実践経験など<br>斎藤：日本ゴルフツアー機構広報アドバイザー，ホッケージャパンリーグ理事など広報業務など<br>吉倉：経済産業省スポーツ産業室長として、国内スポーツ産業政策に従事<br>明：福岡ソフトバンクホークス球団職員として実務を経験 | | | | |

**授業概要**

本演習では，スポーツビジネスの現場で起こっているさまざまな事象を知り，それらを専門的に学ぶために必要な基礎的マネジメント・マーケティング・統計スキル，質的研究の基礎を身につけることを目的とする．

到達目標
・スポーツビジネスに関する文献・資料・データを検索し，それを読んで理解できるようになる．
・ブランドイメージ，製品関与，ブランドロイヤルティ（行動的ロイヤルティ，態度的ロイヤルティ），製品満足度，再購買意図，顧客エンゲージメントなどに関する学内でのスポーツブランド選好調査（ミズノ，アシックス，ナイキ，アディダス，アンダーアーマー）を実施し，ブランド毎のグループにまとめて報告できるようになる．
・スポーツメディアに関する研究法を理解できるようになる．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツメーカーやプロスポーツクラブを対象としたスポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルの知識・技能の修得 | スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを用いて仮説検証できるようになる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | (1)スポーツメーカーやプロスポーツクラブを対象としたスポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを応用した仮説検証結果の思考・判断・表現(2)スポーツメディアによって発信された情報の思考・判断・表現 | (1)スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを応用した仮説検証結果の思考・判断・表現ができるようになる．(2)メディアを通じて受け取ったスポーツのシーン，アスリートの言葉から自分の視点でスポーツの魅力について考察でき，適切な文章で表現できる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

授業の内容は，Teams上に事前にアップロードする．また，ICT活用として，powerpoint，excel，SPSSなどのアプリを活用する．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

各授業回で，質問・感想・要望などの聞き取りをおこない，内容に応じて，teams一般スレッドでの回答や，次週授業で履修者全員に説明をおこなう．

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 抄録作成 | 20 % | ： 学内で収集したスポーツブランド選好調査データの特定ブランドに対する解析結果，及びプロポーザル（提案・企画内容）をA4用紙１枚にまとめ，適切にまとめているかを評価する． |
| プレゼンテーション | 30 % | ： 学内で収集したブランド選好調査データの特定ブランドに対する解析結果に基づいた，提案内容（プロポーザル）が説得的で論理的に構成されているかを評価する． |

ビジネスデータ統計解析　：　収集したデータを統計的知識に基づいて分析、考察して報告しているかを評価する.

30　%

個人評価　：　グループワークの中で，主体的で積極的に関わったどうかの観点から，個人を評価する.

20　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツ産業論・第7版（原田宗彦編著　杏林書院）
よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞・吉田政幸編著，ミネルヴァ書房）
超初心者向けSPSS統計解析マニュアル（米川和雄，山崎貞政著，北大路書房）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項**：　事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください.
城島：jyojima@bss.ac.jp（オフィスアワー：曜日限）
山本：yamamoto-tatsu@bss.ac.jp（オフィスアワー：火曜日3限）
斉藤：saito-e@bss.ac.jp（オフィスアワー：曜日限）
吉倉：yoshikura-h@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
明：myoung@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日　1限）

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス（スポーツビジネスを学ぶとは？）**<br>スポーツビジネスに関する学習方法や情報収集に関するスキル、スポーツビジネスを科学的に学ぶ事例などを学習する。 | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツビジネス・メディア研究の実際（スポーツジャーナリズム）**<br>「卓球プロリーグ『Ｔリーグ』発足 までの道のり」Ｔリーグチェアマンを務める松下浩二はなぜ，日本に卓球のプロリーグを作ろうとしたのか．着想からリーグ発足まで30年にわたる挑戦を振り返りながら，スポンサー獲得や放映権をめぐる曲折，彼が頭の中で描いているＴリーグの未来図について学ぶ.<br>（担当：城島） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツビジネス・メディア研究の実際（スポーツコミュニケーション）**<br>「コミュニケーションを通じた広告広報戦略」スポーツビジネス現場におけるコミュニケーション戦略について学ぶ.<br>（担当：齊藤） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツビジネス・メディア研究の実際（スポーツマーケティング）**<br>「スタジアム観戦者データを用いた統計解析」Jリーグクラブの観戦者行動モデルとスタジアム種別・席種・会員種別による観戦者行動や心理の違いについて学ぶ.<br>（担当：山本） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツビジネス・メディア研究の実際（スタジアム・アリーナビジネス）**<br>NPB球団および球場ビジネスについて学ぶ.<br>（担当：明） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツメディアの研究を理解する（スポーツジャーナリズム）**<br>スポーツメディアの研究について、各テーマに関する歴史的背景や現状などを先行研究をベースに理解を深める。<br>（担当：城島・齊藤） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツメディアの研究を理解する（スポーツとメディアの関係性）**<br>スポーツメディアの研究について、各テーマに関する歴史的背景や現状などを先行研究をベースに理解を深める。<br>（担当：城島・齊藤） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツメディアの研究を理解する（スポーツコミュニケーション）**<br>スポーツメディアの研究について、各テーマに関する歴史的背景や現状などを先行研究をベースに理解を深める。<br>（担当：城島・齊藤） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツメーカーのブランド選好調査研究に関する説明** | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツブランドのブランドイメージ，製品関与，ブランドロイヤルティ（行動的ロイヤルティ，態度的ロイヤルティ），製品満足度，再購買意図，顧客エンゲージメントなどに関する学内でのスポーツブランド選好調査（ミズノ，アシックス，ナイキ，アディダス，アンダーアーマー）の説明．調査で用いる各調査変数の用語・心理尺度・統計処理について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | | |
| 第10回 | **基礎統計（変数の尺度、平均・標準偏差の理解）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，変数の尺度、平均・標準偏差の理解について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、変数の尺度、平均・標準偏差の理解の理解を深める | 4時間 |
| 第11回 | **基礎統計（クロス集計、カイ二乗検定、相関分析）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，クロス集計、カイ二乗検定、相関分析について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、クロス集計、カイ二乗検定、相関分析の理解を深める | 4時間 |
| 第12回 | **基礎統計（t検定、マン・ホイットニーのU検定）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，t検定、マン・ホイットニーのU検定について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、t検定、マン・ホイットニーのU検定の理解を深める | 4時間 |
| 第13回 | **基礎統計（信頼性分析、分散分析）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，信頼性分析、分散分析について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、信頼性分析、分散分析の理解を深める | 4時間 |
| 第14回 | **基礎統計に関する理解度確認**<br><br>これまでに学習した基礎統計に関する理解度を実際の分析を通じて確認テストを行う。 | これまでに学んだ基礎統計について復習する。 | 4時間 |

SP-4504-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ産業論** | | | | |
| 担当教員名 | 明　世熙 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 福岡ソフトバンクホークス（みずほPayPayドーム）の野球興行、イベント実施に関わる物販、飲食、新規ビジネス開発を担当。プロスポーツ現場経験を活かし、実際スポーツビジネスでの多様な産業についてのご紹介、またグループワークを通じて今後の就職面接や業界のトレンドに対応できるような活動を行う。 | | | | |

**授業概要**

スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス情報産業、スポーツ施設空間産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。これらのセグメントの代表的な事象を取り上げながら、これまでのスポーツ産業の成長過程と現在の市場規模を把握し、今後の課題や将来性について考察する。また、新しいスポーツ産業の多様な現場を理解しながら、グループでの意見交換を通じてコミュニケーション力を磨き今後の自分のスポーツ産業でのキャリアについて積極的に考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 新しいスポーツや一般社会や産業への興味 | 今まで自分の経験のないスポーツ種目や一般社会や産業を接することで新しい発見をすることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ産業に関する理解 | スポーツ産業について説明することが出来、現状について自身の見解を明らかにすることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ産業について多様な視点から思考 | 自らの経験を活かし、スポーツ産業について多様な視点から新しい思考をすることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 積極的な参加による多様な意見交換の実施 | 自分の意見を持ち、他の受講生と多様な考えについて議論することができる。また、自分から積極的に授業へ参加することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

受講者数により、グループワークの進行方法が変更となる可能性がある。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

証明書発行のない理由での欠席については、別途対応しない。
やむを得ず欠席の場合は、基本的に証明書の提出が必要である。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内小レポート（毎回の授業中） | 15 % | ： 講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。 |
| 新聞記事スクラップ（毎回の授業後） | 15 % | ： 講義内容および個人の関心に関する新聞記事の検索および背景知識の習得が大学生レベルでできているか。 |
| レポート（1回） | 15 % | ： スポーツ産業の多様な分野を理解し、ご自身の観点から産業および企業について考えることができるか。 |
| 授業参加度 | 15 % | ： 積極的にご自身の意見や考えを他人に伝え、他の受講生と議論することができるか。 |
| 期末試験 | | ： 講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されている |

か。

40　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツ産業論」原田宗彦編著，杏林書院

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業終了後

**場所**：　講義室

**備考・注意事項**：　授業終了後以外の時間については、メール（myoung@g.bss.ac.jp）でお時間の調整後、個人研究室にてご対応いたします。

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション・スポーツ産業の概要について**<br>講義の全体構成および評価基準、課題についてオリエンテーションを行う。また、スポーツ産業の全体像について、これまでの発展過程をもとに理解する。 | スポーツ産業の全体像を把握できるように復習すること。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ産業の現状（スポーツ産業とは）**<br>スポーツ産業とは何か？定義付けを中心に理解する。 | 定義付けされた用語について、復習しながら完全理解に努めること。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツ産業の現状（するスポーツ）**<br>するスポーツの歴史的背景から現状について理解する。 | 歴史的背景を鑑みながら、自身の考えを将来展望すること。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツ産業の現状（みるスポーツ）**<br>プロおよびトップスポーツビジネスについてリーグ別に理解する。 | 配布資料をもとに自身の見解をまとめること。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツ産業の現状（支えるスポーツ）**<br>支えるスポーツの観点からのスポーツボランティア、プロスポーツ業界の現状について理解する。 | 配布資料をもとに、スポーツ施設に関する問題点について、理解と考察に努めること。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツ産業の社会との関係（スポーツイベント）**<br>スポーツイベントやスポンサーシップについて理解する。 | スポーツイベントとは何か、そこから新しくできたビジネスのスポンサーシップについて配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツ産業の社会との関係（地域スポーツ）**<br>スポーツが地域社会とどのような関係性を持つかについて理解する。 | スポーツと地域社会との関わりについて、配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第8回 | **多様なスポーツビジネスの理解（プロスポーツ）**<br>プロスポーツ業界やビジネスについて理解する。 | プロスポーツの成り立ちや業界とビジネスについて、配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第9回 | **多様なスポーツビジネスの理解（パラスポーツ）**<br>パラスポーツのビジネス観点からの変遷や現状について理解する。 | パラスポーツのビジネス観点からの変遷について、配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第10回 | **海外のスポーツ（北米）**<br>北米のスポーツ業界について理解する。 | 北米のスポーツ業界について、配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第11回 | **海外のスポーツ（ヨーロッパ）**<br>ヨーロッパのスポーツ業界について理解する。 | ヨーロッパのスポーツ業界について、配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第12回 | **海外のスポーツ（アジア）**<br>アジアのスポーツ業界について理解する。 | アジアのスポーツ業界について、配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツ産業の将来**<br>新しいスポーツ（特に、eスポーツ）業界やビジネスについて理解する。 | 新しいスポーツ業界について、配布資料をもとに復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ及びテスト**<br>スポーツ産業における全体像について、再度確認を行う。 | スポーツ産業の今後について、自身の考察をしておくこと。 | 4時間 |

SP-4505-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツメディア・ジャーナリズム論（スポーツ・メディア論）** | | | | |
| 担当教員名 | **城島　充** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家になり、sスポーツを中心にさまざまなテーマで執筆活動を続けた。実際にインタビューしたアスリートの言葉をどうとらえたのか、実際の作品をテキストにしながら、スポーツメディアが抱える課題を考えていきたい（全14回） | | | | |

**授業概要**

スポーツの文化的価値を高めるために、メディアが果たすべき役割は極めて大きい。記録性や情報発信という意味でスポーツ文化の発展に欠かせないものだからだ。本講義ではそうしたスポーツメディアの最前線で取材、執筆活動を続けてきた教員が、スポーツメディアの過去と現在の変遷を検証する材料を提供し、あるべきスポーツメディアの形を提案していく。リアルタイムで話題になったスポーツやアスリート、大会についても、メデイアがどのような役割を果たしているのか、考察の対象としたい。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | ツールの発達で大きく様変わりしつつあるスポーツメディアの実態を把握し、スポーツにおけるジャーナリズムの役割を検証する。 | メディアの形態の違いによって、スポーツの伝え方はどう変わるのか。それぞれの役割について理解を深めることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツを取り巻く現状をメディアはどう伝えてきたのか。歴史的な背景も含め、スポーツメディアが果たしてきた役割について学ぶ。 | スポーツの歴史をひもときながら、それぞれの時代にメディアが果たした役割について理解を深めることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツが社会のなかで果たすべき役割について過去のスポーツジャーナリズムから考察するとともに、自分の力でスポーツを表現する。 | スポーツと社会の関係性を、ジャーナリズムの報道から学び、自分が設定したテーマでスポーツの魅力を表現できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---|---|
| 小レポート | ： 講義内容の理解度について問題意識をしっかりと持てているかどうかがを重視し、100点満点で評価します。 |
| 100 ％ | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

テーマに沿って教員が発表したノンフィクション作品を中心に必要なテキストをコピーして配布します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。
スポーツの魅力や問題点を伝えるのがメディアの役割ですが、その切り口は多岐にわたります。伝え方よりもまず重要なのは、その視点です。視点を変えることによってスポーツの魅力はいろんな形で伝えられることを、スポーツというのはそれだけ魅力的なものだという意識をみんなで共有できるような講義にしたいと思っています。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　授業実施教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびスポーツ・メディア論の概説**<br><br>本講義のスケジュール、達成目標などを伝える。スポーツメディアにはどのような形態があり、それぞれがどのような特色があるのか、その歴史的な背景も含めて説明する。授業内に小レポートを提出する。 | スポーツメディアの現状について復習し、講義内で配布した資料を読み込んでおくこと | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツと活字メディアの歴史**<br><br>日本初のスポーツ総合誌『Number』（文藝春秋）が誕生した背景を振り返る。創刊スタッフたちが提示したスポーツのドラマを切り取る視点や、スポーツノンフィクションの金字塔的作品『江夏の２１球』が生まれた背景などについて検証。創刊800号を超えた現在の誌面との比較を同誌で多くの作品を発表してきた教員の体験とともに検証、編集者の役割も含め、活字ジャーナリズムの変遷をたどる。授業内に小レポートを提出する。 | Number創刊号、江夏の21球をしっかりと読み込んでおく。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツと新聞報道**<br><br>新聞メディアによるスポーツ報道の歴史と、現状について検証する。スポーツ紙と一般紙の報道の違い、番記者と呼ばれる担当記者たちが実際にどのように取材、報道しているのかを学ぶ。阪神タイガースを担当するスポーツ紙の『トラ番』を例に、記者クラブ制度や組織ジャーナリズムの問題点にも切りこみたい。授業内に小レポートを提出する。 | 新聞によるスポーツ報道について復習し、授業後に発行された新聞、スポーツ紙によく目を通しておくこと | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツと競技専門誌**<br><br>一つの競技に特化したスポーツ専門誌の役割について考える。教員が多くの原稿を執筆した『ボクシングマガジン』（ベースボールマガジン社）などの誌面の作り方や読者のニーズに焦点をあてる一方、半世紀近く続いた『卓球レポート』（タマス社）が一昨年に休刊した理由について検証、専門誌の存在価値の変化について考察する。授業内に小レポートを提出する。 | スポーツ専門誌の役割について復習し、自らが体験したスポーツの専門誌について調べる | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツと放送メディア**<br><br>テレビやラジオは、スポーツをどんな形で報じてきたのか。朝日放送『熱闘甲子園』の製作スタッフの証言や、教員自身のラジオ・テレビへの出演体験をベースに、専門チャンネルの存在意義や、ここ数年、スポーツメディアの世界を席巻しつつある『DAZN』など、新たな放送メディアの誕生と時代の流れを検証する。授業内に小レポートを提出する。 | 放送メディアによるスポーツ報道について復習し、自らの日常のスポーツ情報の収集の仕方を整理しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツとネットメディア**<br><br>かつて活字に依存していた出版社や新聞の多くが、ネット配信サイトを開設するようになったことは、ここ10年間のスポーツメディアに起きた革命的な出来事である。教員が執筆するNumberやスポルティーバ（集英社）のWEB版の取材と執筆過程を活字媒体の過程と比較しながら、その功罪について考察する。授業内に小レポートを提出する。 | ネットによるスポーツ報道について復習し、気になるテーマをネットで検索、どんな記事が出てくるかを調べておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **アスリートのSNS発信と新しいメディアの登場**<br><br>最近はアスリートが自らのSNSでコメントを発表したり、近況を報告するようになった。また、そうした発言をすぐにアップする卓球専門サイト『RallyS』のような、出版社や新聞社を母体としない、これまでになかったネットメディアも多くのアクセス数を獲得している。こうした新たな流れのなかで生じてきたアスリートとメディアの関係性の変化について検証する。授業内に小レポートを提出する。 | 新しいメディアの動きについて復習し、気になるアスリートのSNSをチェックしておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツの魅力を切り取る視点～ピンポン外交官・荻村伊智朗の生涯から**<br><br>スポーツの魅力を伝えるさまざまな視点について学ぶ。教員が『ピンポンさん』という作品で描いた「ピンポン外交官」荻村伊智朗の生涯に焦点をあて、どんな切り口でどんな物語が構成できるのかを多面的に検証する。先人たちの功績を今に伝える意義についても考察を深めたい。授業内に小レポートを提出する。 | 荻村伊智朗が遺したスポーツの魅力にふれた言葉について復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第9回 | **それぞれのアスリートが活躍した時代を描く**<br><br>アスリートの生涯を描くことで、その時代を活写することもスポーツメディアの大きな役割である。教員が『拳の漂流』で描いたフィリピン人ボクサーで、戦後のボクシング界で〝神様〟と呼ばれたベビー・ゴステロ、戦後まもないころに世界新記録を連発して〝フジヤマのトビウオ〟と呼ばれ、国民を勇気づけた競泳の古橋広之進らの物語を検証する。授業内に小レポートを提出する。 | アスリートと時代性についてしっかりと復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第10回 | **パイオニアとしての矜持を伝える** | パイオニアと呼ばれたアスリートの功績について復習、配布した資料を熟読しておくこと。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | その競技のパイオニアとして活躍したアスリートを取り上げることで見えてくるものはなにか。日本の女子プロゴルファーとして初めてアメリカのプロツアーに挑戦した樋口久子、戦後の日本のフィギュアスケート界で活躍し、浅田真央のコーチとして知られる佐藤信夫、日本人の卓球選手として初めてプロ宣言したTリーグチェアマンの松下浩二らの歩んできた道のりが後のスポーツ界に与えた影響をメディアによる報道から検証したい。授業内に小レポートを提出する。 | | |
| 第11回 | **トップアスリートの言葉から学ぶ**<br><br>トップアスリートの言葉を聞き取ることによって、どのような物語が構成できるのか。教員の取材ノートに刻まれた言葉から、プロボクシングの具志堅用高、卓球の福原愛たちのケースで検証しながら、メディアがひきだすスポーツの多面的な魅力について学びたい。授業内に小レポートを提出する。 | アスリートの言葉について復習し、配布した資料を熟読しておくこと。 | 4時間 |
| 第12回 | **「異端」と呼ばれたアスリートの物語**<br><br>スポーツにおける「異端」について考える。常識を覆すボクシングスタイルで頂点に登り詰め、「悪魔王子」と呼ばれたイエメン移民のナジーム・ハメド、モンゴル人初の横綱として一時代を築きながら、最後は傷害事件で引退を余儀なくされた朝青龍たちのストーリーをメディアはどう報じたのか。教員の作品をベースに、異端と呼ばれたアスリートたちの正体をジャーナリスティックな視点から考えていきたい。授業内に小レポートを提出する。 | スポーツにおける異端という定義について復習し、教員が配布した資料を熟読しておくこと。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツノンフィクション実習**<br><br>受講生それぞれのスポーツ体験から印象に残ったシーン、出会い、指導者やチームメイトとの言葉のやりとりなどを検証、その中から書くべきテーマを一つに絞り、レポートではなく、ジャーナリスティックな作品として執筆してもらう。講義のあった週末を締め切りに作品を提出する。 | 一つのテーマに絞った内容の原稿を書き上げる。 | 4時間 |
| 第14回 | **作品批評とまとめ・グループディスカッション**<br><br>前回課題の提出作品について、班ごとに編集者的な目線で批評しあう。班ごとに代表作品を決め、発表してもらう。教員が全作品を添削するので、それぞれの作品の良いところや修正すべきポイントを受講生全員で共有したい。 | 自分の作品についての批評をしっかりと受け止め、さしかえるべき点を考えておく。 | 4時間 |

SP-4401-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ政策論** | | | | |
| 担当教員名 | 石井　智 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

スポーツ政策を時系列的に概観し、スポーツが社会課題の解決にどのように活用されてきたのか、また、行政や企業がスポーツと関わりを持ちながらそれぞれの課題の解決にスポーツを活用しているのかを学ぶ。そして、今後、少子高齢化や人口減少などの社会課題解決にスポーツはどう貢献できるのかを受講者とともに考えていく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 我が国のスポーツ政策は何のために策定されたのか、その問題の本質をつきとめる学びおよび、スポーツを巡る現代社会の課題検討 | 我が国におけるスポーツ政策の現状を理解するとともに、政策科学の本質である問題意識や問題の本質をつきとめる技能を身に付けることができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ政策の策定に必要なスポーツが有する価値を理解および、解決すべき課題の問題の本質にアプローチすることが肝要であることの理解 | 問題の本質は「なぜ」を繰り返すことによって明らかになること、そしてその問題の解決はスポーツのどの機能、価値を活かせば実現するのかを考えることがスポーツ政策の本質であることが理解できる |

**学外連携学修**

有り(連携先：大津市、NPO法人まちづくりスポット（③自治体・NPO等の理解）自治体スポーツ政策担当者、NPO法人担当者を外部講師として招聘））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（PowerPoint）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題レポート | 30 % | ： 毎授業後、小レポートを課し、①テーマの重要性を理解しているか、②テーマに対する自身の考えを簡潔に述べているかの観点で評価する（3点）、その得点を合計とする |
| 学期末レポート試験 | 30 % | ： 期末レポート（考課）基準<br>30点：提示されたテーマについて、適切なキーワードを使用して自身の考えや新たな視点による意見が明確かつ論理的に書かれている<br>40点：一般的な問題定義や課題に対する説明がなされている |
| スポーツ政策提案発表（授業内） | 40 % | ： 講義のまとめとして、任意の都市を想定したスポーツ政策を立案し、発表する。<br>35～40点　よく現状調査され、問題の本質が明確で解決策の５Ｗ２Ｈが明確である<br>30～35点　十分に調査されており、内容が理解できる<br>25～30点　調査は不十分だが内容は理解できる |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

八木匡、横山勝彦、石井智他「スポーツの組織文化と産業」晃洋書房（2012年）
太田進一、石井智他「ビジネスモデルと企業政策」晃洋書房（2006）

横山勝彦、鳥羽賢二他「スポーツの経済と政策」晃洋書房（2011）
他

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本講義を受講することにより、日本のスポーツを取り巻く状況への理解が深められます。
今後のスポーツ文化の在り方についての課題発見力、創造力、論理的思考力を身につけられる講義にしようと思います。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 水曜日３限　100分

**場所：** 研究室（A405）

**備考・注意事項：** 相談があるときは、下記のメールでアポイントメントをとってください。
satoshi238@gmail.com

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **講義のガイダンスおよびスポーツ政策の概要**<br>講義内容の紹介、進め方の説明<br>政策とは何か、なぜ必要なのか、現在行われている国内のスポーツ政策について概要を理解できる | 政策論についての文献を購読し予習する | 4時間 |
| 第2回 | **日本のスポーツをめぐる政策の動向**<br>日本において、なぜスポーツが政策に取り入れられたのか、またそれは日本にどのようなメリット・デメリットをもたらしたのか、さらにはスポーツの伝播と現代的課題の整理を通じてスポーツ政策の意義について考えることによってその重要性を理解できる。 | 我が国のスポーツ政策とその成果について、事例をひとつ調べる | 4時間 |
| 第3回 | **現代社会におけるスポーツの役割**<br>スポーツの社会的価値とは何かを学ぶことができる。たとえば、2019年日本で開催されたラグビーワールドカップやコロナ禍が終わり切っていない時期に開催された2021東京オリパラはどんな価値を生み出したのかを考えてみること、またスポーツの価値を向上させるためにはどのような政策が必要なのかについて考えることによって、スポーツ政策の必要性を理解できる。 | ゴールデンスポーツイヤーズ（2019年ラグビーワールドカップ、2021年東京オリパラ、2027年予定関西ワールドマスターズについて概要を調べて、その社会的価値について考察する | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツの関連法規**<br>「スポーツ振興法」、「スポーツ振興基本計画法」、「スポーツ立国戦略」、「スポーツ基本法」、「スポーツ基本計画」の一連の法律の施行について学ぶこと、またなぜこれらの法律や戦略が生まれたのかについて学ぶことによって法令の重要性について理解できる。法律というととっつきにくい印象があるが、われわれの生活と密接な関係を持っている、ということも理解できることは今後の社会生活においても有用と考えられる | スポーツ法規を理解をするために、それらの要約をする | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツ基本法とスポーツ基本計画**<br>スポーツに関する法規を成立させた政府の目的や内容について、社会的背景とあわせて理解し、この法律から現在どのような政策が立案、実行されているのかを学ぶことができる。 | スポーツ法規についてその成立とその前後の社会情勢を比べる | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツの政策とその構造**<br>スポーツ関係省庁はそれぞれの部署でどんな仕事をしているのか、その財源はどこから捻出されているのか、スポーツの財源（スポーツくじ・toto）はなぜ生まれたのかについて学び、財源の調達方法とその重要性について理解できる。 | 日本スポーツ振興センターのホームページにアクセスしtotoの財源の使途を調べる | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツ法規と政策**<br>スポーツ法規の整理と国内スポーツ政策の現代的課題について理解できる。 | これまでの講義内容を整理し要点をまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **国内スポーツ政策の実際**<br>総合型スポーツクラブ、生涯スポーツの施策、競技スポーツ、国際競技力向上の施策、競技統括団体の役割について学ぶことができる。またスポーツ団体のガバナンスの問題点の検討から、組織マネジメントの重要性を再度認識することができる。 | スポーツ行政関連の文献を購読する | 4時間 |
| 第9回 | **滋賀県を事例とした地方自治行政のしくみとスポーツ政策**<br>地方行政組織におけるスポーツ政策の内容や意思決定のしくみについて学び、身近な事例を学ぶことで、スポーツ政策における興味を深めることができる。 | 出身地におけるスポーツ政策について調べ、今後どのようにすればその地域が発展するのかを考える | 4時間 |
| 第10回 | **滋賀県のスポーツ政策の実際** | 滋賀県のスポーツ振興策についてホームページで閲覧する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 地方行政組織におけるスポーツ政策の内容や意思決定のしくみについて学ぶことができる。特にその実行について、滋賀県のスポーツ振興策現状と国民体育大会・全国障害者スポーツ大会を何のために行うのか、どのように成功に導こうとしているのかについて理解することができる。地域社会におけるスポーツ政策は、スポーツが滋賀の歴史・文化、自然環境、食といった価値とどう融合するのかを考えることによってが重要であるということを学び、新しい滋賀の魅力をつくる文化・スポーツ戦略について知ることができる。（ゲストスピーカーとして滋賀県のスポーツ政策関係者を招へいする予定） | | |
| 第11回 | **スポーツと企業**<br><br>企業スポーツの目的や歴史、現在の概要について学び、CSR経営とスポーツの関わりなど企業の社会戦略について理解する事ができる。そして、スポーツの社会的価値は、企業の存在意義にも大きな影響を与えていることを理解することもできる。 | 滋賀県のスポーツ振興策についてホームページで閲覧する | 4時間 |
| 第12回 | **メガスポーツイベントの文化社会的意義まとめ**<br><br>2019ラグビーワールドカップ日本開催がもたらした意義を検討し、2021東京オリンピック・パラリンピックはどんな社会的意義を生み出したのか？そもそも東京オリパラは必要だったか？など自由にディスカッションを行い、メガスポーツイベントの光と影について学ぶことができる。<br>東京オリパラ以外にも多くの世界的なスポーツイベントが日本にやってくるが、それぞれのイベントの意義（例えば、ソーシャルキャピタル醸成など）について理解できる。<br><br>2025　滋賀国民体育大会開催<br>2025　大阪万博<br>2027　関西ワールドマスターズゲーム開催 | 東京オリパラ開催にまつわる課題の整理をする | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツ政策立案とプレゼン１**<br><br>5人ずつくらいのグループに分かれ、それぞれが行政の政策立案者であることを想定（市町村長、企画課長、スポーツ担当課長、財務課長など）して、任意の都市（市町村）の政策課題とそれを解決するためのスポーツ政策を立案し、発表する。それに対して質問や意見を述べることによって、理解を深めることができる（履修人員が少ない場合は個人での発表になる）。 | 発表されたグループの政策について再度グループで意見交換を行う | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツ政策立案と発表プレゼン２**<br><br>5人ずつくらいのグループに分け、それぞれが行政の政策立案者であることを想定（市町村長、企画課長、スポーツ担当課長、財務課長など）して、任意の都市（市町村）の政策課題とそれを解決するためのスポーツ政策を立案し、発表する。それに対して質問や意見を述べることによって、理解を深めることができる。（履修人員が少ない場合は個人での発表になる） | 発表資料の作成を通じてグループで議論を深める | 4時間 |

SP-4505-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツツーリズム論** | | | | |
| 担当教員名 | 明　世熙 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義、実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | NPB球団（福岡ソフトバンクホークス）にてインバウンド事業を担当。実際にスポーツツーリズム現場で商品企画、運営を行った経験を活かし、受講生には実践に近い考え方や提案ができるような課題を提示し、解決に取り組んでもらう。 | | | | |

**授業概要**

本授業では、スポーツツーリズムの基礎的知識や歴史的な背景の理解に加え、実際における取り組みやビジネスモデルについて理解を深める。具体的には、競技者、参加者、支援者、イベント主催者など様々なヒトが関わりあうスポーツツーリズムの特有性を把握することを目標とする。また、スポーツツーリズムのプログラム案を自ら考え提案するプロセスを通じて個人のアイデアを事業化する方法を身につけ、現場での新しい動きにも対応できることを本授業の目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツツーリズム分野およびビジネス領域に関する関心 | 各自のスポーツ経験や考えに加えて新しいスポーツビジネスとしてのスポーツツーリズム分野への理解ができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツツーリズムに関する知識への理解 | スポーツツーリズムにおける理論的知識について、自身の見解を明らかにすることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツツーリズムに関する提案 | 魅力あるスポーツツーリズムに関する提案を自ら考え内容を構成し、発表することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング)、ICT(PowerPoint)
受講生数を考慮し、個人もしくはグループで新しいスポーツツーリズムイベント提案の発表を実施予定

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

受講生からのコメントを含め、発表についてフィードバックする。

**成績評価**

**注意事項等**

証明書発行のない理由での欠席については、別途対応しない。
やむを得ず欠席の場合は、基本的に証明書の提出が必要である。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート（毎回の授業中） | 20 % | ： 毎回の授業内に提示される課題についてコメントを記入し、提出する。授業内容を理解した上で、自分の見解や意見を論理的にまとめることができるか毎回評価する。 |
| レポート | 35 % | ： 新しいスポーツツーリズム企画を提案する課題について指定されたフォーマットでレポートを作成し、提出する。授業内容の理解と共に必須項目の記載、個人の考えが反映されたアイデアを基にした論理的資料作成が出来たかを学期末に評価する。 |
| プレゼンテーション | | ： 新しいスポーツツーリズム企画を提案する課題について指定されたプレゼンテーション方法に沿って資料作成し、受講生を対象に発表する。目的に適する方法やプレゼンテーションの仕方ができるかを学期中に発表し、評価する。 |

35　%

授業参加態度　：　自分の考えや意見を積極的に授業中に展開することができ、他の受講生とも活発な議論ができるか内容と参加回数を評価する。

10　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツツーリズム入門」ジェームス・ハイアム、トム・ヒンチ著、伊藤央二、山口志郎訳
「スポーツツーリズム・ハンドブック」日本スポーツツーリズム推進機構編

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業終了後

**場所**：　講義室

**備考・注意事項**：　授業終了後以外の時間については、メール（myoung@g.bss.ac.jp）でお時間の調整後、個人研究室にてご対応いたします。

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業のオリエンテーション・スポーツツーリズムとは**<br>授業のオリエンテーションとして構成や評価基準など全体的な案内を行う。また、スポーツツーリズムの概念についてに理解する。 | スポーツツーリズムの全体像を把握できるように復習すること。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツツーリズム市場**<br>スポーツツーリズムにおける現状について、これまでの先行研究やデータを用いた市場の発展をもとに理解する。 | 様々な用語など復習しながら理解に努めること。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツツーリズム商品**<br>スポーツツーリズムの商品について、これまでの背景や現状について理解する。 | スポーツ産業の発展とともに拡大しているスポーツツーリズム商品について事前にリサーチすること。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツツーリズム消費者**<br>既存の観光客とは異なる特性を持つスポーツツーリズム消費者について理解する。 | 自分の経験から、スポーツを目的とする観光行動と普通の観光行動での違いを考察すること。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツツーリズムのマーケティング、プロモーション**<br>旅行行動を喚起させるための取り組みについて、マーケティングやプロモーションの観点から実際にどのような取り組み事例を紹介しながら、その効果や意義について理解する。 | 理想的なスポーツツーリズムのマーケティング手法とは何か？考察し、自分の見解を整理しておくこと。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツツーリズム環境・空間**<br>スポーツツーリズムの発展について、空間や場所といった地理的要因や当該地域における文化といった歴史的要因をキーワードに理解する。 | スポーツ産業の発展とともに拡大しているツーリズムの現状について理解を深めること。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツツーリズム開発**<br>スポーツツーリズムの商品、消費者、環境、空間など新しいビジネスとしての開発について事例を用いて理解する。 | 自分の興味のあるスポーツツーリズム分野について、新しいビジネスアイデアをまとめておくこと。 | 4時間 |
| 第8回 | **日本のスポーツツーリズム**<br>日本国内で行われているスポーツツーリズムの事例を用いて理解しながら、現状を把握する。 | 多様な立場から現在日本国内で行われているスポーツツーリズム事例をリサーチすること。 | 4時間 |
| 第9回 | **海外のスポーツツーリズム**<br>海外で行われているスポーツツーリズムの事例を用いて理解しながら、現状を把握する。 | 多様な立場から現在海外で行われているスポーツツーリズム事例をリサーチすること。 | 4時間 |
| 第10回 | **メガスポーツイベントとスポーツツーリズム・プレゼンテーション①**<br>メガスポーツイベントの現状と、そこから発生する様々なスポーツツーリズムの事例について、理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、スポーツツーリズムに関するプレゼンテーションを行う。 | 近年日本で開催されたメガスポーツイベントと観光業界との関係性を考察すること。また、今までの授業内容を復習しながら、個人のプレゼンテーション資料作成を行うこと。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第11回 | **スポーツツーリズムの影響・プレゼンテーション②**<br><br>スポーツツーリズムの様々な影響について理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、スポーツツーリズムに関するプレゼンテーションを行う。 | スポーツツーリズムの影響力について、多様な視点から自分の意見を考察しておくこと。また、今までの授業内容を復習しながら、個人のプレゼンテーション資料作成を行うこと。 | 4時間 |
| 第12回 | **新しいスポーツツーリズム・プレゼンテーション③**<br><br>新しいスポーツや、新しい形のスポーツツーリズムついて理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、スポーツ施設イベントマネジメントに関するプレゼンテーションを行う。 | 新しく開発されたスポーツツーリズム商品や、イベントなどについて調べておくこと。また、今までの授業内容を復習しながら、個人のプレゼンテーション資料作成を行うこと。 | 4時間 |
| 第13回 | **持続可能なスポーツツーリズム・プレゼンテーション④**<br><br>継続可能なスポーツツーリズムの開発に向けて、いくつかの事例を用いて理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、スポーツツーリズムに関するプレゼンテーションを行う。 | 環境問題や、都市開発の一環として実施されたスポーツツーリズム事例をリサーチして自分の意見をまとめること。また、今までの授業内容を復習しながら、個人のプレゼンテーション資料作成を行うこと。 | 4時間 |
| 第14回 | **今後のスポーツツーリズム・プレゼンテーション⑤**<br><br>今後のスポーツツーリズム展望について、現状を含め理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、スポーツツーリズムに関するプレゼンテーションを行う。 | スポーツツーリズムついて配布資料をもとに、論点整理をしておくこと。また、自分の今までの授業内容を復習しながら、個人のプレゼンテーション資料作成を行うこと。 | 4時間 |

SP-4506-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | スポーツビジネスマーケティングコミュニケーション論（スポーツビジネス実践論） | | | | |
| 担当教員名 | 齊藤 恵理称 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | アップルやプラダなどのブランディング、マーケティングコミュニケーションの実務経験を経て、外資系コンサルティングファームにおいて米国および日本のオリンピック・パラリンピックの組織委員会のコミュニケーション活動やパートナー企業のスポンサーシップやアクティベーションの戦略立案と実行に関する実務、adidas、テーラーメイドをはじめとするスポーツブランドのブランディング、パブリックリレーションなどコミュニケーション活動に関する実務を経験。男子プロゴルフツアー、ホッケーリーグ、各種スポーツイベントのコミュニケーション活動に携わる。グローバルスポーツビジネスの実務経験から、実践で活かせる知識とスキルの習得につながる教育を行う。 | | | |

**授業概要**

国内外スポーツビジネスの動向、スポーツビジネスの理論的な学びに加え、スポーツビジネスの現場で実務に携わっているゲストスピーカーを招き、実践論について講義を受ける。また、スポーツビジネスに関するテーマについてグループワークを行い、プレゼンテーションをして、講師やフロアから様々な指摘を受けることで、ビジネスの現場で必要となる実践的な考え方やスキルを身につけるとともに、プレゼン能力の向上も期待できる。将来、スポーツ企業のみならず、視野を広げ、多様な業界や一般企業を含めたキャリア形成にもつながる講義を目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツビジネスマーケティングコミュニケーションに関するテーマでグループワークを行いプレゼンテーションを実施 | スポーツビジネスマーケティングコミュニケーションの実践で必要になる考え方やスキルを身につけ、必要な情報を収集し、グループの多様な意見をまとめる力を習得する |
| 2. DP2.知識・技能 | 毎授業で学習したことについて、自分の考えを含めてレポートを提出 | スポーツビジネスマーケティングコミュニケーションの基本的な知識を学び、自身で考え、実践するスキルを身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICTタッチタイピング、PowerPoint、Excel

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| レポート（毎講義後提出） | 50 % | ： 授業内容に関する理解度を確認するため、授業の最初と最後にテーマを提示し、自分の意見をを含めたレポートを提出してもらう。これを５段階で評価する。 |
| スポーツマーケティングコミュニケーション案プレゼン | 50 % | ： 講義から得た知見をもとにテーマについて、グループでディスカッションして提案をまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。これを５段階で評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 大河正明 | ・社会を変えるスポーツイノベーション | ・晃洋書房 | ・2022 年 |

**参考文献等**

Strategic Sport Communication （Paul M Pedersen ）２０２０年
コトラーのマーケティング5.0 デジタル・テクノロジー時代の革新戦略（フィリップコトラー＋ヘルマワン 朝日新聞出版)2022年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
受講生は、毎授業後、与えられたテーマについて講義の内容を踏まえて小レポートを提出を行います。知識を自分のものにしていくために講義資料の活用や疑問について調べるなど理解を深めていってください。
スポーツビジネスの成長にむけて、スポーツの本質的な価値をどう捉え、企業や社会の成長に活かすか、グローバルの動向を知り、基本的な知識を身につけるとともに、未来にむけて考えていくことが重要です。ファンが多様化し、メディア環境も大きく変化していく中で、ファン、ステークホルダーのエンゲージメントを高め、収益化するためにどうすればいいのか、講義では実際にスポーツビジネスの現場、高いレベルのスポーツビジネスの実務を行っている方々に登壇いただき、お話をうかがう授業や、フィールドワークなどを通じて現場を体感する機会も設けていきたいと考えています。社会をよりよくするスポーツの未来を一緒に考えていきましょう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後、適宜

**場所**：　授業の教室、研究室

**備考・注意事項**：　研究室にいらっしゃる際は事前に必ずアポイントメントが必要です。
saito-e@g.bss.ac.jpまで連絡ください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびスポーツマーケティングコミュニケーションの概説**<br><br>グローバルのスポーツビジネスの動向、欧米の日本の違い、スポーツマーケティングコミュニケーションとは何か、なぜスポーツマーケティングコミュニケーションを学ぶのか、などの基本的な内容について学び、今後の講義内容やゲストスピーカーから何を学ぶのかについて解説する。 | 授業後に授業内容についてわからなかった点や疑問を持った点について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツビジネスとは何か**<br><br>スポーツマーケティングコミュニケーションの背景となるスポーツビジネスとは何かについて、定義から多様な事業領域を持つスポーツビジネスの特徴、どのような業種が関わっているかを学ぶ。 | 授業後に授業内容についてわからなかった点や疑問を持った点について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツメディアのビジネス**<br><br>激変するメディア環境において、スポーツマーケティングコミュニケーションにも大きな役割を果たすスポーツメディアのビジネスがどう変化しているか、グローバルメディアの動向や、OTT事業、放映権、コンテンツなどスポーツメディアのビジネスについて学ぶ。 | スポーツメディアのビジネスについて実際に活用して体感し、授業で学んだ内容への理解を深める。 | 4時間 |
| 第4回 | **メディアスポーツとメディアトレーニング**<br><br>またスポーツの情報は何から得られているのか、メディアの報道はどのようなスポーツの価値にどのようなインパクトをもたらしているのかを学ぶ。またメディアでスポーツの価値を高める報道をしていく環境をつくるためには何が必要になるのか、メディア対応のスキルを習得するメディアトレーニングについて学ぶ。 | 授業後にスポーツに関してどのように報道されているのか、学習したポイントを踏まえて確認する | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツマーケティングコミュニケーション**<br><br>スポーツマーケティングコミュニケーションとは何か、チームや競技団体が行う場合と、スポンサーなどの企業が行う場合のスポーツマーケティングコミュニケーションの違いや特徴について学ぶ。 | 授業後に授業内容についてわからなかった点や疑問を持った点について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションの実践ースポーツメーカー編**<br><br>ブランドとは商品の差別化による競争優位を生み出すなど企業と顧客との信頼関係であるといえる。それはどのようにすれば実現するのか？実際のスポーツ用品産業企業のブランディング戦略やその歴史を学びながら、「ブランド価値」についての理解を深める。<br>また、 | 授業後に授業内容を踏まえてスポーツ界で起こるガバナンスに関する問題について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションの実践ースポンサー企業編**<br><br>なぜ企業はスポーツに投資をするのか、投資価値を最大化するスポンサーシップとは何か、どのような課題や未来があるのかなど、企業におけるスポーツの価値についての理解を深める。（ゲストスピーカー予定） | 授業後に授業内容を踏まえてスポンサー企業の取り組みの動向について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションの実践ーキーメッセージとストーリー**<br><br>マーケティングコミュニケーションの戦略プランを設計していく上で、企業やブランド、サービスの価値を高め、ターゲットオーディエンスに一貫して伝えていく上で重要になるキーメッセージとストーリーについて理解を深め、制作することで理解を深める。 | 授業後に授業内容を踏まえてアスリートマネジメントのビジネスの動向について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツの未来** | 事業前に教科書を読み学習しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツ、企業、地域や社会との共創でどのような成長を描けるのか、今後、スポーツはどういう発想で、どこに注力すれば、事業が成長し、ファンやお客様を楽しませ、社会の進化につながるのか、メーカーや代理店、スポンサー企業、アスリートマネジメントなど多様な視点から考えていくことで、視野を拡げる。 | | |
| 第10回 | **スポーツ界のガバナンス**<br><br>スポーツ界では「ルールや倫理を守らない行為」などの問題は競技団体、選手、責任者の辞任や選手の選手生命・引退、パートナー企業の価値や事業にまで及ぶ影響は大きくなる。スポーツ活動における様々なリスクに対応する取り組みとして実施される「スポーツガバナンス」について、重要性とあわせて学ぶ。 | 授業後に授業内容を踏まえ、スポーツ界をとりまくガバナンスの現状について理解を深める。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツの社会における役割**<br><br>スポーツには、人や社会を元気にしたり、つなげたり、人の心や行動を動かす原動力があり、スポーツの役割は社会において、啓蒙から行動へと移っている。スポーツを社会課題の解決に役立てようと、SDGs、地域活性化や社会貢献活動の文脈でスポーツが捉えられることも増えてきたが、スポーツは社会でどのような役割を果たせるのかスポーツの本質的な価値を踏まえて考える。 | 授業後に授業内容を踏まえ、スポーツの社会における役割は何か自身で考える。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツDX**<br><br>グローバルでスポーツDXが進み、これに伴いビジネスも成長が加速している。eスポーツを含めてスポーツDXにより、ビジネスはどう変化し、今後どうなっていくかについて学び、スポーツビジネスの成長について考える。 | 授業後に授業内容を踏まえ、スポーツDXの動向について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションに関するテーマについてグループワークプレゼン**<br><br>いままでの講義における学びから、グループでチーム、組織、アスリートの価値を向上させ、組織の持続可能な発展を実現するようなスポーツマーケティングコミュニケーションのアイデアを作成し、プレゼンしてもらう。講師やフロアの受講生が意見交換を行い、学びのさらなる定着を目指す。 | 発表後に他のグループの発表やコメントを踏まえて発表の振り返りを行い、今後の展望について考える。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめと総評**<br><br>各授業のそれぞれのトピックスをダイジェストで説明することにより、スポーツマーケティングコミュニケーションを実践する際のポイントを振り返り、理解を深める。 | 今後、スポーツマーケティングコミュニケーションを実践していく上で重視すべきことは何か、授業内容を踏まえて考える。 | 4時間 |

SP-4507-3-2

| 授業科目名 | スポーツ消費者行動論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 山本　達三 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

人々の運動やスポーツへの関わり方は，個々人のライフスタイル，価値観，体力・技術レベル，家計状況，社会的環境等によって異なり，多様である．人々のスポーツ消費行動に影響する要因（個人的・社会的要因）や消費行動パターンとそれらの関係・関連について理解しておくことは，スポーツの普及振興・健康増進運動の推進・スポーツサービスのマネジメント・スポーツサービスのマーケティングにとって必要不可欠である．本講では，スポーツ消費者の意思決定過程における心理と行動について，社会科学的・行動科学的・心理学的な立場からの理論を学習する．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ消費者の意思決定過程の心理と行動に関する理論の修得. | スポーツ消費者行動に影響を与える，事前期待，事後評価，知覚品質・知覚価値，消費者満足，動機付け理論，エクイティ，消費者関与，ロイヤルティの理論と測定方法を理解できるようになる. |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ消費者行動に関わる理論を理解した上で，スポーツビジネス課題を解決する思考力，表現力の修得. | スポーツ消費者行動論の理論を理解した上で，スポーツビジネス上の課題解決に向けたプロポーザルを作成することがきるようになる. |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・その他(以下に概要を記述)

D201，D202などのパソコン教室で，スポーツ消費者の心理と行動に関する理論と実際の測定方法，統計解析方法などを網羅的に学習する．また，ICT活用対象科目としては，powerpoint，excel，google form，SPSS，AMOSなどを活用する．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

授業回ごとに，質問・感想・要望などの聞き取りをフォームを使用しておこなう．回答は内容によって次回授業回でおこなうか，teamsの一般スレッドで回答をおこなう．

**成績評価**

**注意事項等**

小テスト，期末テスト，いずれも持ち込み不可．また，評価にあたっては，以下のような独自のルーブリックを用いて評価する【基礎的な知識・技能の習得(70%)，思考力・判断力・表現力(30%)】

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小テスト | 30 % | ： 毎授業内容について授業最後に理解度テストを実施する. |
| 定期テスト | 70 % | ： 持ち込み不可の定期テストを実施する. |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『よくわかるスポーツマーケティング』，仲澤眞・吉田政幸　編著，ミネルヴァ書房，2017年.

『消費者行動論』マーケティングとブランド構築への応用，青木幸弘など，有斐閣アルマ，2015年.
『新・消費者理解のための心理学』杉本徹雄，福村出版，2015年.

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる.
「スポーツマネジメント概論」「スポーツマーケティング論」を単位取得済みで，かつスポーツビジネスコースに所属している学生のみ履修可能である.

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 火曜日3限

**場所**： B311

**備考・注意事項**： 事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください.
yamamoto-tatsu@bss.ac.jp

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツマーケティングとスポーツ消費者行動**<br>スポーツマーケティングにおけるスポーツ消費者行動の枠組みを理解する | スポーツ消費者行動について理解を深め、翌週の小テストに備える | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ消費者の購買意思決定プロセスにおけるインターネットやSNSの影響と消費者行動の変化**<br>スポーツ消費者の消費者の購買意思決定プロセスにおけるインターネットやSNSの影響や消費者行動の変化について学ぶ | スポーツ消費者に対するインターネットやSNSの影響による行動の変化の理解を深め、翌週の小テストに備える | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツ消費者の情報処理の基本的なメカニズム**<br>スポーツ消費者の情報処理の基本的なメカニズム、AIDA・AIDMA・AISASの理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ消費者の情報処理の基本的なメカニズムについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツ消費者の購買意思決定プロセス**<br>スポーツ消費の購買前情報処理、購買時の情報処理（購買意思決定関与）、購買後の情報処理（認知的不協和）について学ぶ | スポーツ消費者の購買意思決定プロセスについて理解を深め、翌週の小テストに備えること. | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツ消費者の事前期待・事後評価**<br>スポーツ消費者の消費行動に対する事前期待・事後評価の理論、顧客満足（期待不一致理論）の実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ消費者の消費行動に対する事前期待・事後評価について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツ消費者の知覚品質・知覚価値**<br>スポーツ消費者の知覚品質・知覚価値の実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ消費者の知覚品質・知覚価値・顧客満足について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツ消費者とロイヤルティ・コミットメント**<br>スポーツ消費者と行動的・態度的ロイヤルティ・コミットメント（感情的・計算的・陶酔的コミットメント）の理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ消費者とロイヤルティ・コミットメントについて理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツ消費者とブランドエクイティ**<br>スポーツ消費者とブランドエクイティの理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ消費者とブランドエクイティについての理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツ消費者関与**<br>するスポーツ・みるスポーツに関する消費者関与（IP,PII,PCM，製品関与，知覚リスク）理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ消費者関与について理解を深め、翌週の小テストの準備をしておくこと | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツ観戦者行動と観戦心理（行動変数）**<br>スポーツ観戦行動に関する変数（デモグラフィック変数・観戦行動変数（エスカレーターモデル，応援チーム，同伴者，移動手段，移動時間，交通費，チケット入手）に関する理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ観戦者行動と観戦心理について理解を深め，翌週の小テストの準備をしておくこと. | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツ観戦者行動と観戦心理（心理変数）**<br>観戦動機・チームアイデンティフィケーション・チームレピュテーション・ファンコミュニティアイデンティティ・地域愛着・選手愛着・スタジアム愛着・試合満足・サービス満足・再観戦意図の理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | スポーツ観戦者行動と観戦心理について理解を深め、翌週の小テストに備えておくこと | 4時間 |
| 第12回 | **するスポーツの消費者行動と心理**<br>スポーツ参加における，サービス支出・財支出・実施頻度・支払意思額・愛着・顧客価値，経験価値の理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | するスポーツの消費者行動と心理について理解を深め、翌週の小テストに備えておく | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **するスポーツの消費者行動と心理（動機付け理論を中心に）**<br><br>スポーツ参加動機・動機づけ理論（内容理論・過程理論）・自己効力感・集団効力感・集団凝集性・パーソナリティ特性・ライフスタイル特性、理論、実際の測定尺度、統計解析について学ぶ | するスポーツの消費者行動と心理について理解を深め、翌週の小テストに備えておく | 4時間 |
| 第14回 | **総括：スポーツ消費者行動モデルの実際の分析**<br><br>スポーツ消費者行動モデルの実際の統計モデルでの分析と解釈 | スポーツ消費者行動モデルの実際の統計モデルでの分析と解釈についての学びを深め、定期試験に備える | 4時間 |

SP-4508-3-2

| 授業科目名 | スポーツメディアパブリックリレーションズ論（スポーツビジネス広報論） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 齊藤 恵理称 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 外資系コンサルティングファームで、国内外企業やパブリックセクターのパブリックリレーションの戦略コミュニケーションに関する実務、米国および日本のオリンピック・パラリンピックの組織委員会のコミュニケーション活動やパートナー企業のスポンサーシップ、アクティベーションの戦略立案と実行に関する実務、adidas、テーラーメイドをはじめとするスポーツブランドのブランディング、パブリックリレーションに関する実務を経験。男子プロゴルフツアー、ホッケーリーグ、各種スポーツイベントのコミュニケーション活動に関する実務に携わる。グローバルスポーツビジネスの実務経験から、実践で活かせる知識とスキルの習得につながる教育を行う。 | | | | |

**授業概要**

インターネットやSNSの普及など、メディア環境が変化する中で、スポーツの価値を最大化し、ビジネスの成長につなげていくために、パブリックリレーションズ（広報）の重要性が高まっている。スポーツ組織や企業において、SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みが重視され、ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した企業への投資が加速しているこ背景もあり、長期的、戦略的に幅広いステークホルダーとの良好な関係づくりを担う広報の役割が求められている。
広報とな何か、なぜ重要なのか、オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツイベントやスポンサー企業、スポーツブランドでどんな活動が行われているのか学び、今後求めらる戦略的なスポーツ広報のあり方について考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | オリンピック・パラリンピックをはじめグローバルで展開されている先端のスポーツ広報活動の事例から基本的な知識を習得 | スポーツ広報の戦略の重要性について学び、どうあるべきか自身で考え、表現する力を身につける |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ広報についてのテーマでグループワークを行いプレゼンテーションを実施 | スポーツの意義をどう社会に伝えるか、そのノウハウを多様な視点から習得する |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICTタッチタイピング、PowerPoint、Excel

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各授業時の提出課題 | 50 % | ： 講義内容の理解度について毎回小レポートを提出し、それぞれの講義テーマで、スポーツ広報についての見識をどこまで深めたかを確認する。 |
| スポーツ広報をテーマにしたプレゼンテーション | 50 % | ： 講義から得た知見をもとにテーマについて、グループでディスカッションした提案をまとめ、プレゼンテーションを行う。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

実務経験に基づく事例を活用
Strategic Sport Communication （Paul M Pedersen ）２０２０年
パーパス 「意義化」する経済とその先 （岩嵜博論 , 佐々木康裕 NewsPics）2021年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。
『授業外学修課題』に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後、適宜

**場所**：　授業の教室、研究室

**備考・注意事項**：　研究室にいらっしゃる際は事前のアポイントが必要です。
メールでsaito-e@g.bss.ac.jpまでご連絡ください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびスポーツメディアパブリックリレーションズとは**<br>スケジュールや評価方法、講義の進め方などを説明し、スポーツ広報がどのような仕事で、組織でどのような役割をもっているのかを解説していきます。 | 講義の内容をしっかりと復習しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **共感を創りだすパーパス起点のコミュニケーション**<br>人々の「共感」を創り出すことで、チームのパフォーマンスを高める、ファンや地域、社会の多くの人を動かす広報活動について学び、スポーツビジネスの成長にどう関わっていくのかを考える。 | 講義内容を復習し、パーパスについて理解を深めるようにする。 | 4時間 |
| 第3回 | **ストーリーと発信チャネル**<br>共感からブランドのポジションをつくるストーリーの重要性を理解し、ストーリーを発信するメディア、広告、ウェブサイト、SNSなどのコミュケーションチャネルの特性と戦略的な活用方法を学ぶ。 | 講義の内容をしっかりと復習しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **メディアスポーツ**<br>スポーツの情報は何から得ているのか、スポーツの発展とメディアビジネスの関係性やメディア環境の変化について理解し、メディアが報道しているスポーツをどう捉えるか、欧米と日本の捉え方の違いも踏まえて考える。 | 講義の内容をしっかりと復習しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **メディア環境の変化**<br>インターネットやSNSの普及で、スポーツの情報の発信や提供するチャネルは多様化している。メディア環境の変化や動向を理解し、スポーツメディアのビジネスが今後どうなっていくか考える。 | 授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第6回 | **オリンピック・パラリンピックにおけるコミュニケーション**<br>世界で注目が集まる国際スポーツイベントを成功に導くために、どのような広報活動が行われているのか、実践経験のあるゲストスピーカーのお話から、広報活動のあり方、重要性について学ぶl。 | 事前にゲストスピーカーがどういう人物か理解し、事後にしっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツの社会価値を高めるコミュニケーション**<br>スポーツの人や社会を動かす原動力を活かし、スポーツの社会における価値を高めていくために、広報はどんな役割を果たす必要があるのか考える。 | 授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第8回 | **グローバルスポーツビジネスの視点を持つ**<br>欧米と国内のスポーツビジネスの成長の違いはどこにあるのか、グローバルスポーツビジネスの現状や今後について学び、今後のコミュニケーションのあり方を考える。 | 事前にゲストスピーカーがどういう人物か理解し、事後にしっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツ広報とマーケティング**<br>広報活動との戦略的な連携が重要となるマーケテイングの最新動向について学ぶ。 | 授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第10回 | **オウンドコンテンツ**<br>競技団体やイベント主催者、アスリートや企業が自ら発信するコンテンツの役割と重要性について学ぶ。 | 授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第11回 | **アスリートの発信とメディアトレーニング**<br>アスリートやスポーツの価値を高める戦略的は発信や取材を受ける際のメディア対応の重要性について学ぶ。 | 授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第12回 | **プロスポーツチームの地域連携と広報戦略**<br>プロスポーツチームの成長に重要となる地域連携やパートナー企業と共創型の取り組みを実現する広報のあり方について、欧米やJリーグの事例から学ぶ。 | 授業内容を理解し、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第13回 | **成果の可視化**<br>パートナー企業は、持続的にスポーツに投資をしていく上で、成果の可視化が重要視されている。財務的または非財務的な成果の可視化にどのような方法があるのかを学ぶ。 | 自らのアイデアで広報する感覚を理解し、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |
| 第14回 | **未来のスポーツ広報のあり方を考える（プレゼンテーション）**<br>スポーツの社会的な価値を高めるスポーツ広報はどうあるべきか、未来のスポーツ広報のあり方について、これまでに授業で学んだことや現状の課題を踏まえて、グループでディスカッションし、プレゼンテーションを行う。 | 未来のスポーツ広報の在り方について考え、しっかりと復習しておくこと | 4時間 |

SP-4509-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツスポンサーシップ** | | | | |
| 担当教員名 | **齊藤 恵理称** | | | | |
| 学年・コース等 | 3・4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | アップルやプラダなどのブランディング、マーケティングコミュニケーションの実務経験を経て、外資系コンサルティングファームにおいて米国および日本のオリンピック・パラリンピックの組織委員会のコミュニケーション活動やパートナー企業のスポンサーシップやアクティベーションの戦略立案と実行に関する実務、adidas、テーラーメイドをはじめとするスポーツブランドのブランディング、パブリックリレーションなどコミュニケーション活動に関する実務を経験。男子プロゴルフツアー、ホッケーリーグ、各種スポーツイベントのコミュニケーション活動に携わる。グローバルスポーツビジネスの実務経験から、実践で活かせる知識とスキルの習得につながる教育を行う。 | | | |

**授業概要**

国内外スポーツビジネスの動向、スポーツビジネスの理論的な学びに加え、スポーツビジネスの現場で実務に携わっているゲストスピーカーを招き、実践論について講義を受ける。また、スポーツビジネスに関するテーマについてグループワークを行い、プレゼンテーションをして、講師やフロアから様々な指摘を受けることで、ビジネスの現場で必要となる実践的な考え方やスキルを身につけるとともに、プレゼン能力の向上も期待できる。将来、スポーツ企業のみならず、視野を広げ、多様な業界や一般企業を含めたキャリア形成にもつながる講義を目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツビジネスマーケティングコミュニケーションに関するテーマでグループワークを行いプレゼンテーションを実施 | スポーツビジネスマーケティングコミュニケーションの実践で必要になる考え方やスキルを身につけ、必要な情報を収集し、グループの多様な意見をまとめる力を習得する |
| 2. DP2.知識・技能 | 毎授業で学習したことについて、自分の考えを含めてレポートを提出 | スポーツビジネスマーケティングコミュニケーションの基本的な知識を学び、自身で考え、実践するスキルを身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICTタッチタイピング、PowerPoint、Excel

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| レポート（毎講義後提出） | 50 % | ： 授業内容に関する理解度を確認するため、授業の最初と最後にテーマを提示し、自分の意見ををを含めたレポートを提出してもらう。これを５段階で評価する。 |
| スポーツマーケティングコミュニケーション案プレゼン | 50 % | ： 講義から得た知見をもとにテーマについて、グループでディスカッションして提案をまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。これを５段階で評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 大河正明 | ・社会を変えるスポーツイノベーション | ・晃洋書房 | ・2022 年 |

**参考文献等**

Strategic Sport Communication （Paul M Pedersen ） ２０２０年
コトラーのマーケティング5.0 デジタル・テクノロジー時代の革新戦略（フィリップコトラー＋ヘルマワン 朝日新聞出版)2022年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
受講生は、毎授業後、与えられたテーマについて講義の内容を踏まえて小レポートを提出を行います。知識を自分のものにしていくために講義資料の活用や疑問について調べるなど理解を深めていってください。
スポーツビジネスの成長にむけて、スポーツの本質的な価値をどう捉え、企業や社会の成長に活かすか、グローバルの動向を知り、基本的な知識を身につけるとともに、未来にむけて考えていくことが重要です。ファンが多様化し、メディア環境も大きく変化していく中で、ファン、ステークホルダーのエンゲージメントを高め、収益化するためにどうすればいいのか、講義では実際にスポーツビジネスの現場、高いレベルのスポーツビジネスの実務を行っている方々に登壇いただき、お話をうかがう授業や、フィールドワークなどを通じて現場を体感する機会も設けていきたいと考えています。社会をよりよくするスポーツの未来を一緒に考えていきましょう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後、適宜

**場所**：　授業の教室、研究室

**備考・注意事項**：　研究室にいらっしゃる際は、事前に必ずアポイントメントが必要です。
saito-e@g.bss.ac.jpまで連絡ください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびスポーツマーケティングコミュニケーションの概説**<br>グローバルのスポーツビジネスの動向、欧米の日本の違い、スポーツマーケティングコミュニケーションとは何か、なぜスポーツマーケティングコミュニケーションを学ぶのか、などの基本的な内容について学び、今後の講義内容やゲストスピーカーから何を学ぶのかについて解説する。 | 授業後に授業内容についてわからなかった点や疑問を持った点について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツビジネスとは何か**<br>スポーツマーケティングコミュニケーションの背景となるスポーツビジネスとは何かについて、定義から多様な事業領域を持つスポーツビジネスの特徴、どのような業種が関わっているかを学ぶ。 | 授業後に授業内容についてわからなかった点や疑問を持った点について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツメディアのビジネス**<br>激変するメディア環境において、スポーツマーケティングコミュニケーションにも大きな役割を果たすスポーツメディアのビジネスがどう変化しているか、グローバルメディアの動向や、OTT事業、放映権、コンテンツなどスポーツメディアのビジネスについて学ぶ。 | スポーツメディアのビジネスについて実際に活用して体感し、授業で学んだ内容への理解を深める。 | 4時間 |
| 第4回 | **メディアスポーツとメディアトレーニング**<br>またスポーツの情報は何から得られているのか、メディアの報道はどのようなスポーツの価値にどのようなインパクトをもたらしているのかを学ぶ。またメディアでスポーツの価値を高める報道をしていく環境をつくるためには何が必要になるのか、メディア対応のスキルを習得するメディアトレーニングについて学ぶ。 | 授業後にスポーツに関してどのように報道されているのか、学習したポイントを踏まえて確認する | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツマーケティングコミュニケーション**<br>スポーツマーケティングコミュニケーションとは何か、チームや競技団体が行う場合と、スポンサーなどの企業が行う場合のスポーツマーケティングコミュニケーションの違いや特徴について学ぶ。 | 授業後に授業内容についてわからなかった点や疑問を持った点について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションの実践―スポーツメーカー編**<br>ブランドとは商品の差別化による競争優位を生み出すなど企業と顧客との信頼関係であるといえる。それはどのようにすれば実現するのか？実際のスポーツ用品産業企業のブランディング戦略やその歴史を学びながら、「ブランド価値」についての理解を深める。（ゲストスピーカー予定） | 授業後に授業内容を踏まえてスポーツメーカーのビジネスの動向について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションの実践―スポンサー企業編**<br>なぜ企業はスポーツに投資をするのか、投資価値を最大化するスポンサーシップとは何か、どのような課題や未来があるのかなど、企業におけるスポーツの価値についての理解を深める。（ゲストスピーカー予定） | 授業後に授業内容を踏まえてスポンサー企業の取り組みの動向について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションの実践―アスリートマネジメント**<br>アスリートやスポーツの価値をどのように高め、マネジメントを行うのか、アスリートマネジメントの実務、現状の課題と今後の展望について理解を深める。 | 授業後に授業内容を踏まえてアスリートマネジメントのビジネスの動向について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツの未来**<br>日本におけるバスケットボールのプロリーグ、Bリーグのリーグのマネジメント、ビジョンや戦略、組織マネジメントについて、本学の学長で前のBリーグチェアマンの大河学長のお話から学び、スポーツの未来について考える。 | 事業前に教科書を読み学習しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツ界のガバナンス** | 授業後に授業内容を踏まえ、スポーツ界をとりまくガバナンスの現状について理解を深める。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツ界では「ルールや倫理を守らない行為」などの問題は競技団体、選手、責任者の辞任や選手の選手生命・引退、パートナー企業の価値や事業にまで及ぶ影響は大きくなる。スポーツ活動における様々なリスクに対応する取り組みとして実施される「スポーツガバナンス」について、重要性とあわせて学ぶ。 | | |
| 第11回 | **スポーツの社会における役割**<br><br>スポーツには、人や社会を元気にしたり、つなげたり、人の心や行動を動かす原動力があり、スポーツの役割は社会において、啓蒙から行動へと移っている。スポーツを社会課題の解決に役立てようと、SDGs、地域活性化や社会貢献活動の文脈でスポーツが捉えられることも増えてきたが、スポーツは社会でどのような役割を果たせるのかスポーツの本質的な価値を踏まえて考える。 | 授業後に授業内容を踏まえ、スポーツの社会における役割は何か自身で考える。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツDX**<br><br>グローバルでスポーツDXが進み、これに伴いビジネスも成長が加速している。eスポーツを含めてスポーツDXにより、ビジネスはどう変化し、今後どうなっていくかについて学び、スポーツビジネスの成長について考える。 | 授業後に授業内容を踏まえ、スポーツDXの動向について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツマーケティングコミュニケーションに関するテーマについてグループワークプレゼン**<br><br>いままでの講義における学びから、グループでチーム、組織、アスリートの価値を向上させ、組織の持続可能な発展を実現するようなスポーツマーケティングコミュニケーションのアイデアを作成し、プレゼンしてもらう。講師やフロアの受講生が意見交換を行い、学びのさらなる定着を目指す。 | 発表後に他のグループの発表やコメントを踏まえて発表の振り返りを行い、今後の展望について考える。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめと総評**<br><br>各授業のそれぞれのトピックスをダイジェストで説明することにより、スポーツマーケティングコミュニケーションを実践する際のポイントを振り返り、理解を深める。 | 今後、スポーツマーケティングコミュニケーションを実践していく上で重視すべきことは何か、授業内容を踏まえて考える。 | 4時間 |

SP-4510-3-2

| 授業科目名 | スポーツ施設イベントマネジメント論（スポーツ施設イベントマネジメント） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 明　世熙 | | | | |
| 学年・コース等 | 3・4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義、実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 福岡ソフトバンクホークス（福岡PayPayドーム）の野球興行、イベント実施に関わる物販、飲食、新規ビジネス開発を担当。実際に行われる現場での事例を基に、より現場に近い企画の提案と考え方に近づけるようなグループ活動を行う。 | | | | |

**授業概要**

本授業では、国内外におけるスポーツ施設の現状やそのビジネスモデルについて理解し、施設の提供者と利用者の各立場から必要なスポーツ施設イベントマネジメントの知識取得と新しいビジネスモデルの考察を目的とする。また、実際に存在するスポーツ施設を対象にスポーツイベントやスポーツチームによる興行と施設マネジメントに着目し、自らスポーツ施設イベントマネジメントに関する知識の集約や理解、マネジメント手法の学習のアウトプットとしてイベント案を発表する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 国内外のスポーツ施設への興味 | 国内外のスポーツ施設への興味を基に多様な施設の使用や考え方を通じて新しい関心を持つようになる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ施設運営に関する知識 | スポーツ施設運営に関する基本的知識について理解できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ施設イベント実施計画の作成 | 論理的かつ実現性の高いスポーツ施設イベントの実施計画の作成ができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツ施設イベントマネジメントに関する提案 | 魅力あるスポーツ施設イベントに関する提案をグループで議論し、内容を発表することができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：サンガスタジアム by KYOCERA（京都府立京都スタジアム）)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)
　・ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

証明書発行のない理由での欠席については、別途対応いたしません。
やむを得ず欠席の場合は、基本的に証明書の提出が必要である。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート（毎回の授業中） | 10　% | ：　講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。 |
| 施設見学レポート | 10　% | ：　各グループのプロジェクトの方向性に合わせてスタジアム施設見学を行い、各プロジェクトの観点から内容をまとめてレポートを作成することができる。 |
| グループワーク発表 | | ：　講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などをグループメンバーと協議し、新しいプロジェクトを論理的かつ実現性の高い内容で作成し、多くの人に理解していただくようなプレゼンテーションができる。 |

※毎週のグループワークでの参加内容を個人別に評価します。
同じグループでも評価は異なります。

35 %

グループワークレポート : 講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などをグループメンバーと協議し、新しいプロジェクトの提案資料を論理的かつ実現性の高い内容で作成することができる。
※毎週のグループワークでの参加内容を個人別に評価します。
同じグループでも評価は異なります。

35 %

グループワーク参加度 : 積極的にグループワークに参加しているか。不在の際には、事前にグループメンバーと相談しグループワークに支障がないように協力しているか。

10 %

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「公共スポーツ施設のマネジメント」間野義之，体育施設出版

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【施設見学について】
グループワークの対象施設として、サンガスタジアム by KYOCERA（京都府立京都スタジアム）を予定。
具体的な日程は、授業中に改めて調整。見学参加は必須となり、参加可能な受講生のみ履修すること。
また、履修登録の修正の場合は、必ずメールにて事前に連絡すること。

【グループワークについて】
積極的にグループワークに参加すること。
グループでのプロジェクトが評価対象になるため、毎週の出席が必ず必要であること。
やむを得ず欠席の場合は、出来るだけ事前にグループメンバーに共有し
プロジェクトに支障がないよう、タスクの引継ぎや自分の分を別途対応する。

多欠席による、グループワーク参加や貢献度が明らかに低い場合は、
授業評価基準に基づき欠席回数に関わらず授業履修基準に満たしてないと評価される可能性がございます。
毎週授業のグループワークに参加できない可能性が高い場合は、履修登録を控えてください。

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業終了後

**場所**： 講義室

**備考・注意事項**： 授業終了後以外の時間については、メール（myoung@g.bss.ac.jp）でお時間の調整後、個人研究室にてご対応いたします。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業オリエンテーション・スポーツ施設をマネジメントするとは？**<br>この授業の流れを共有し、スポーツ施設とそのマネジメントについて概要を理解する。 | 施設マネジメント概論について復習しておくこと | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ施設の現状・グループワーク説明**<br>様々なデータでスポーツ施設とスポーツ施設イベントの現状を明らかにする。 | 配布資料をもとに、現状に関する論点整理をしておくこと | 4時間 |
| 第3回 | **公共スポーツ施設（概要、指定管理者制度、管理許可制度）・グループ決め**<br>公共スポーツ施設の現状、施設管理制度の中から指定管理者制度、管理許可制度について理解する。 | 各制度に関する用語について、その意味も含めながら復習しておくこと | 4時間 |
| 第4回 | **公共スポーツ施設（建設経営委託方式、PFI、事例）**<br>公共スポーツ施設における整備に関する法律や問題点について、施設管理制度の中からPFIについて理解する。 | PFIに関する一連の流れについて、配布資料を参考にしながら復習しておくこと | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツ施設と地域社会**<br>地域における公共スポーツ施設の役割やその関係性について、スポーツ施設の建設や改築が周辺地域に及ぼす地域イノベーションの観点から理解する。 | 地域イノベーションがもたらす効果について、配布資料をもとに復習しておくこと | 4時間 |
| 第6回 | **メガスポーツイベントとスポーツ施設**<br>メガスポーツイベントの現状やそれに伴うスポーツ施設と地域社会との関わりについて理解する。 | 近年開催されたメガスポーツイベントのレガシーについて調べてその内容をもとに、論点整理をしておくこと | 4時間 |
| 第7回 | **プロスポーツとスポーツ施設**<br>スポーツ興行における施設利用について、スポーツ施設所有者と利用者（チーム）の連携の視点から理解する。 | スポーツ興行における問題点について、再度整理しておくこと | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第8回 | **スタジアムのビジネス（収益ビジネスモデルの理解）**<br><br>スポーツ施設（スタジアム）の収益ビジネスモデルの全体について理解する。 | 日本国内外のプロスポーツ施設での収益ビジネスについて、事前にリサーチしておくこと | 4時間 |
| 第9回 | **スタジアムのビジネス（各部門の収益ビジネスの理解）**<br><br>スポーツ施設（スタジアム）の収益ビジネスモデルの各部門ごとの事例や海外事例を用いて理解する。 | プロスポーツ施設での新しい収益ビジネスの事例を事前にリサーチしておくこと | 4時間 |
| 第10回 | **エンタテインメントコンテンツとスポーツ施設・グループ発表①**<br><br>エンターテインメントコンテンツとしてのスポーツ施設ついて、日本国内外の事例もとに理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、各グループで考えた新しいスポーツ施設イベント実施計画に関するプレゼンテーションを行う。 | スポーツと関係ないスポーツ施設の集客イベントを調べておくこと | 4時間 |
| 第11回 | **新しいスポーツ施設・グループ発表②**<br><br>新しく登場するスポーツ施設の事例を用いて理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、各グループで考えた新しいスポーツ施設イベント実施計画に関するプレゼンテーションを行う。 | 最近、新しく登場するスポーツ施設（新しい種目、新しいビジネス型問わず）について、事前にリサーチすること | 4時間 |
| 第12回 | **海外のスポーツ施設・グループ発表③**<br><br>海外のスポーツ施設で実施されているスポーツ施設イベントの事例を用いて理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、各グループで考えた新しいスポーツ施設イベント実施計画に関するプレゼンテーションを行う。 | 海外のスポーツ施設および新しいイベントについて事前にリサーチすること | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツ施設のビジネス・グループ発表④**<br><br>スポーツ施設を用いた新しいビジネスについて事例を用いて理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、各グループで考えた新しいスポーツ施設イベント実施計画に関するプレゼンテーションを行う。 | 今までの授業内容を踏まえたスポーツ施設のビジネスについて自分の見解をまとめること | 4時間 |
| 第14回 | **今後のスポーツ施設・グループ発表⑤**<br><br>今後のスポーツ施設やイベントについて展望を理解する。そして、これまでの授業内容を踏まえ、各グループで考えた新しいスポーツ施設イベント実施計画に関するプレゼンテーションを行う。 | 近年のスポーツ施設イベントにおける変化について配布資料をもとに、論点整理をしておくこと | 4時間 |

SP-4511-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツマネジメント特別講義** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉　秀和** | | | | |
| 学年・コース等 | 3・4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 経済産業省スポーツ産業室長として、地域スポーツ振興やスポーツDX関連の実証事業など<br>国内スポーツ産業政策に関する実務経験を講義に反映している。 | | | | |

**授業概要**

本講義では、「スポーツエンターテイメント」に焦点を当て、スポーツマネジメント研究領域におけるエンターテイメントを理解するとともに、日本ならびに諸外国におけるスポーツエンターテインメントの歴史的背景ならびに現状理解、そして、中長期的視点にて将来的な展望について考察することを講義趣旨とする。スポーツエンターテイメントの基礎（要素ならびに体系）を理解し、論理的なマネジメント手法を身に付けることを目標とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツエンターテイメントの基礎を理解し、論理的なマネジメント手法を身に付ける。 | スポーツにおけるエンターテイメントの要素ならびに体系について理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 目標を達成するために、問題を発見し、解決する能力の獲得 | 問題解決能力を身につけ、スポーツのみならず多様なビジネスマインドを身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内小レポート | 30　% | ：　授業内容に関する理解度を確認するため、自身の見解や意見を記述するレポートを実施する。 |
| 期末プレゼンテーション | 70　% | ：　授業内に解説した用語や理論の理解しながら、自身の考えやアイデアをまとめ、魅力的なプレゼンテーションを実施する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし
（使用教科書については、毎授業時に資料を配布するとともに、授業内にて参考書などを指示する場合がある。）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
積極的な授業への参画を期待します。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびスポーツエンターテイメント概論**<br>本講義の全体像を理解するとともに定義をはじめとする基本的知識を学習する。 | 授業資料をもとに、全体の授業概要を理解する。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツエンターテインメントの科学①（エンターテイメントとは？）** | 授業資料をもとに、自身の興味があるスポーツエンターテイメントについて理解を深める。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツエンターテイメントに関する基礎的理論について体系的に学習する。 | | |
| 第3回 | **スポーツエンターテイメントの実際① (Entertainment of Sports)**<br>「スポーツのエンターテイメント」における事例をもとに、経済的ならびに社会的に与えている効果について理解を深める。 | 授業資料をもとに、スポーツエンターテイメントの可能性について調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツエンターテイメントの実際② (Entertainment through Sports(1))**<br>「スポーツを通じたエンターテイメント」について、実例を調べながら国内と海外の違いについて学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツを通じたエンターテイメントについて、今後どのような事業を展開できるか考察する。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツエンターテイメントの実際③ (Entertainment through Sports(2))**<br>「スポーツを通じたエンターテイメント」について、スポーツ実施者や産業の拡大に与える影響について学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツエンターテイメント拡大に向けた必要な取り組みについて考察する。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツエンターテインメントの科学②（「幸せ」を科学する）**<br>スポーツエンターテイメントへの参画や関与を通じて得られる幸福感やウェルビーイングについて、基礎的理論について学習する。 | 授業資料をもとに、自身が経験したことのある幸福感の獲得について、あらかじめまとめておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツエンターテイメントマネジメント**<br>これまでの学習内容について、振り返りを行うとともに、その運営方法や管理に関するノウハウについて学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツエンターテイメントマネジメントの基礎について理解しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツエンターテインメントの科学③（「楽しい」を科学する）**<br>スポーツエンターテイメントにおける「楽しさ」について、競技スポーツや健康スポーツとの違いについて学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツエンタメにおける「楽しさ」を自身の経験をもとに考察しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **「コンテンツ」の重要性**<br>スポーツエンターテイメントにおける「コンテンツ」について、基礎的知識の学習とともに立案に必要なスキルについて学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツコンテンツの充実がもたらす効用について理解を深める。 | 4時間 |
| 第10回 | **エンターテインメント成功のためのマーケティング**<br>スポーツエンターテイメントを事業として成功させるためのマーケティングについて、スキルやノウハウを中心に学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツエンターテインメントマーケティングにおける成功のエッセンスについて整理しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **まちづくり×エンターテイメント**<br>スポーツエンターテイメントを活用したまちづくりや地域振興に関する基礎的知識を学習する。 | 授業資料をもとに、自身であればどのような形でまちづくりにスポーツエンターテイメント要素を含めるか考察を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **諸外国におけるスポーツベッティング**<br>スポーツファイナンスの基本的用語の理解を含め、経済学的理論の基礎を学習する。 | 授業資料をもとに、スポーツファイナンスに関する用語と意味について理解を深める。 | 4時間 |
| 第13回 | **グループプレゼンテーション①**<br>プレゼンテーションを実施する。 | グループプレゼンテーションに関する資料準備、役割分担ならびにリハーサルを行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **グループプレゼンテーション②**<br>プレゼンテーションを実施する。 | グループプレゼンテーションを通じて、自身で考察したことについてまとめておく。 | 4時間 |

SP-3301-3-1

| 授業科目名 | 健康・トレーニング科学基礎演習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佃・小松・高橋・禰屋・武田・田中・村瀬・渡邊 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | JOC強化スタッフ医・科学支援（小松医師・佃トレーナー・武田栄養スタッフ・禰屋パラアスリートサポート）としての帯同実践経験や，スポーツ科学者として国際エリート競技サポート（禰屋）の帯同実践経験等を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

本科目では、健康・トレーニング科学で学ぶ基礎的知識や技能を習得することを目的とする。前半は、グループに分かれて所属教員それぞれより医学、運動生理学、栄養学、トレーニング学領域の知識や技能を習得する。後半は、卒業論文の作成に必要な学術論文の要約や代表的な統計処理の手法等を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 健康・トレーニング科学領域における課題の探索 | トレーニングや健康科学における課題を見出し、科学的根拠と実践的方法の接点と限界を説明することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 卒業論文の作成に向けた、課題設定やその解決方法を考えるための専門的な知識や技能 | 医学、運動生理学、栄養学、トレーニング学領域における専門的な知識や技能を習得し、卒業論文に向けた課題設定ができるようになる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 卒業論文の作成に向けた、課題設定やその解決に向けた提案 | 医学、運動生理学、栄養学、トレーニング学領域における課題について説明し、科学的根拠を指名sて解決の方法を提案することができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

ICT（Word、Excel、PowerPointなど基本的なPCアプリの他、各先生方の専門分野で使用するアプリ）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 領域別の授業に対する取り組み | 50 % | ： | 各教員それぞれが２回の担当授業において理解度を評価する |
| ゼミ選択と自然科学系領域の課題の理解 | 10 % | ： | ゼミ選択に向けた自己理解とゼミ選択に向けた学習課題において理解度を評価する |
| ゼミナール形式の専門領域学習の取り組み | 40 % | ： | ゼミ選択・専門領域における学習成果を評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **健康とトレーニング科学の学問領域を理解し、自らの志向性と関連分野との関係性とそれらに必要な基礎的知識について理解を深める**<br>授業の進め方および到達目標や成績評価等について確認する．<br>前半授業では，第2回目～9回目までは，8つのグループに分かれて，各教員の授業を受ける．翌週からのグループ分けと実施場所，準備物等を確認する．授業の進め方と到達目標および成績評価について確認する．特にレポート課題での評価の観点について理解する． | 次週から始まる内容のうち，興味深いことについて予習をする． | 4時間 |
| 第2回 | **高齢者を対象とした身体機能評価（渡邊）**<br>高齢者にとっての体力の重要性を理解するとともに，安全に実施することができる測定方法を学ぶ． | 一般的な体力要素について，予習する．自身の体力を測定し，高齢者の健康維持の観点からレポートをまとめ提出する． | 4時間 |
| 第3回 | **関節可動域（ROM）の正確な計測と柔軟性の評価の実践（小松）**<br>角度計（ゴニオメーター）を用いて各関節の正確なROMの計測方法を学び，それを実践する．また筋タイトネス，関節弛緩性の正しい評価方法を学び実践する．それぞれの測定結果を記録し，計測手技の習得状況の確認を最終的に行う． | 測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと． | 4時間 |
| 第4回 | **動作の撮影方法の習得（高橋）**<br>動作分析を行う上で欠かせない、動作の撮影方法を学修する。高速度カメラ、モーションキャプチャーシステムなどの使用方法、ならびに実験の際のキャリブレーション方法などを習得する。 | 撮影したい動作、およびどのようなパラメータを算出したいかを考えておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **アスリートの食事　食事調査について（武田）**<br>身体活動量，体格，競技特性を考慮した食事計画について学ぶ．実際の食事を評価するための手法について学び自身の食事調査を行う． | 自身の食事を記録しデータを整理しておく． | 4時間 |
| 第6回 | **姿勢と柔軟性：関節別アプローチ（田中）**<br>関節別アプローチの概念を理解する． | 関節の形状、代表的な筋の名前について復習しておく | 4時間 |
| 第7回 | **さまざまな筋力の評価（佃）**<br>筋収縮の特性や関節の可動範囲における筋出力の特性について学ぶ．筋の張力を正確に測る方法があるのかや筋力測定方法における限界や注意事項を理解する． | 関節の回転運動を用いた筋力測定について復習する． | 4時間 |
| 第8回 | **有酸素性運動と無酸素性運動の評価方法（綱屋）**<br>有酸素性運動中の酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度を測定し，有酸素運動時の運動強度評価の方法を学ぶ．無酸素性運動について，スプリントのパフォーマンス評価の方法を学ぶ． | 取得したデータから酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度と運動負荷の関係を整理しておくこと． | 4時間 |
| 第9回 | **バイオマーカーの測定意義と評価（村瀬）**<br>生体試料についてその採取方法，測定方法を学ぶ．また測定結果をどのようにトレーニング計画に反映するか，その方法を学ぶ． | データセットの分析結果から、自身の体調に影響する要因についてレポートを作成する。 | 4時間 |
| 第10回 | **教員によるゼミナール紹介**<br>コース教員の取り扱いテーマを基に、自己の専門領域の関連性や具体的な研究課題について理解を深める．<br>他者やグループでのディスカッションにより、自己の興味のある専門領域と関連する領域における研究課題について思考を深める． | 興味のある分野を考え，コース面談表を完成させる | 4時間 |
| 第11回 | **専門領域における達成目標の確認**<br>ゼミナール形式に分かれて、指導教員と研究領域について授業における達成目標を確認し、これまでの学びの振り返りを行う． | 課題レポートを作成する | 4時間 |
| 第12回 | **専門領域における卒業研究について（研究課題）**<br>ゼミナール形式に分かれて、指導教員と研究課題についてのディスカッションを行う． | 課題レポートを作成する | 4時間 |
| 第13回 | **専門領域における卒業研究について（研究手法）**<br>これまでのディスカッションから、後期に取り組む研究や実践的課題研究の計画を行う | 課題レポートを作成する | 4時間 |
| 第14回 | **専門領域における卒業研究について（ディスカッション）**<br>後期に取り組む研究や実践的課題研究の計画についてゼミ内でディスカッションを行う | 研究計画書を作成の準備をする． | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第15回 | **<br>** | ** | 4時間 |
| | . | | 4時間 |

SP-3303-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・トレーニング科学専門実習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **佃・小松・高橋・禰屋・武田・田中・村瀬・渡邊** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | （小松）整形外科医として医療行為、（禰屋）スポーツ科学者として日本およびシンガポールのエリート競技者のサポートに従事、（武田）日本セーリング連盟管理栄養士として2012年～2024年の五輪に帯同していた実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

運動やトレーニングによる生体への影響について，身体活動量、関節可動域評価、摂取エネルギー、姿勢と動作、筋力、運動エネルギー特性，バランス等のキーワードに関連した測定実習を行う．実習で取得したデータの整理，基本的な統計学的検定，レポートの作成，プレゼンテーションの作成の手順を学習する．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 実際の運動による身体の反応を運動生理学、スポーツ栄養学、スポーツ医学、トレーニング科学などの知識の理解 | 身体運動が生理的、栄養学的、医学的、トレーニング科学に関連して成立していることを理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | トレーニング科学や健康に関する課題発見・解決に必要な情報を収集・蓄積し、課題の解決策の提案 | トレーニング科学や健康に関する課題発見・解決に必要な情報を基に課題解決に向けた提案を適切に説明することができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | トレーニング科学や健康に関する学びを通して、他者の意見や行動を理解た課題への取り組み | トレーニング科学や健康に関する学びを通して、自ら進んで他者と協働して課題解決への取組を実現できる力を身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**注意事項等**

授業期間中の複数の実習ごとのレポートによる評価する

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各実習課題に関するレポート | 70 % | ： 第2～13回目においてデータ取得時の状況，データの分析，考察の充実度について評価する |
| 実験・調査手法の理解とテーマ探索に関するレポート | 30 % | ： 第1および14回目において研究データの理解，テーマ探索について評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜紹介する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること．

履修には「身体構造と機能」「体力トレーニング概論」「スポーツ栄養学概論」「スポーツ生理学概論」の単位を修得していることを推奨する

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **トレーニング科学・栄養学・医学・トレーニング科学の概説と研究倫理**<br>授業の内容，進め方について確認する．<br>実習時の安全管理のためのルールと注意事項を理解する<br>個人情報などデータの取り扱いに関する守秘義務や実験・各測定時の倫理的配慮について学び、必要な対応方法を学ぶ | 配布された資料の内容を確認し，今後の実習の計画と実習時の注意点を理解しておくこと． | 1時間 |
| 第2回 | **アイソキネティックダイナモメーターを用いた筋力測定（渡邊）**<br>Biodexを用いて、等尺性ならびに等速性筋力を測定する．測定方法や各活動様式の特性を学ぶ． | 筋の活動様式について，予習する．自身の筋機能を考察し，レポートを提出する． | 1時間 |
| 第3回 | **正確な筋力評価と徒手検査の実践（小松）**<br>徒手筋力テスト（MMT）による各筋肉の正確な計測方法を学び，それを実践する．また，代表的なスポーツ傷害の診断のために行う整形学的徒手検査についても実践する．測定結果を記録し，MMTおよび徒手検査手技の習得状況の確認を最終的に行う． | 測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと． | 1時間 |
| 第4回 | **デジタイズ法の修得（高橋）**<br>撮影した映像から2次元および3次元の座標値を取得する、デジタイズおよび実長換算の概念と方法を学修する。 | デジタイズを完了する | 1時間 |
| 第5回 | **アスリートの食事　身体組成とエネルギーバランスの評価（武田）**<br>身体活動量，体格，競技特性を考慮した食事計画について学ぶ．身体組成の測定を異なる機器を用いて行い評価する．また，体組成をもとにエネルギー消費量を推定する． | エネルギーバランスの評価から自身の食生活や運動量の評価を行う． | 1時間 |
| 第6回 | **姿勢と柔軟性評価（田中）**<br>姿勢と代表的な上肢・下肢の柔軟性の測定評価を行い，各グループで向上のためのプログラムを立案する． | パフォーマンスやケガの予防と柔軟性の関係について調べておく | 1時間 |
| 第7回 | **立ち上がりテスト他の測定評価（佃）**<br>立ち上がりテスト等の筋力評価について測定方法を実習する | 測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと． | 1時間 |
| 第8回 | **有酸素性運動と無酸素性運動の評価方法（繭屋）**<br>有酸素性運動中の酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度を測定し，有酸素運動時の運動強度評価の方法を学ぶ．無酸素性運動について，スプリントのパフォーマンス評価の方法を学ぶ． | 取得したデータから酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度と運動負荷の関係を整理しておくこと． | 1時間 |
| 第9回 | **バイオマーカーの測定意義と評価（村瀬）**<br>唾液試料の採取方法，および試料中のバイオマーカーの測定方法について学ぶ． | 取得したデータからデータセットを作成する。 | 1時間 |
| 第10回 | **スポーツリハビリテーションの基本（小松）**<br>スポーツ現場で行われているリハビリテーションについて負荷の高め方を理解する | 基本運動の負荷の高いものと低いものを分類し、レポートを作成する | 1時間 |
| 第11回 | **スポーツリハビリテーションの実践（小松）**<br>実際にスポーツ現場で行われているリハビリテーションやトレーニングについて，正しいフォームを学びながら実践する． | 各グループで段階的リハビリテーションについての発表資料を準備し、発表後課題を整理する． | 1時間 |
| 第12回 | **表面筋電図の理解（渡邊）**<br>表面筋電図を使った筋の活動動態の評価方法を学ぶ．筋活動についての生理学的知識を再確認する． | 筋活動のしくみについて，予習する．表面筋電図の概要をレポートにまとめ，提出する． | 1時間 |
| 第13回 | **表面筋電図の実践（渡邊）**<br>レジスタンスエクササイズを異なる負荷で実施した際の主働筋の筋活動レベルを表面筋電図法で評価する． | 表面筋電図の概要を予習する．自身の測定データを考察し，レポートを提出する． | 1時間 |
| 第14回 | **卒業研究に向けた科学的実験のデータの理解とテーマ探索**<br>コースの中間発表を視聴し，科学的実験、調査のデータの解釈について学ぶ．また自身の卒業研究に向けたテーマ探索を行う． | 研究発表についてレポート作成を行う | 1時間 |
| 第15回 | ******<br>** | ** | 1時間 |

SP-3304-3-1

| 授業科目名 | 健康・トレーニング科学専門実習Ⅱ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佃・小松・高橋・禰屋・武田・田中・村瀬・渡邊 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | （佃、田中、高橋、武田）滋賀県競技力向上対策本部医科学専門スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

体力要素のうち，特にトレーニングや健康分野において重要である項目について実習を通して学ぶ．身体組成の測定と評価，さまざまな筋力測定と評価，運動時の心拍数の動態把握と作図，筋の柔軟性評価を行う．３つのグループに分かれて実施するため，測定を実際に行うなど主体的に学ぶことができる．また，それぞれの項目でレポートを作成し，測定結果のまとめかたやグラフ作成および参考文献を用いた考察を行うことで，卒業研究に向けた準備とする．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 実際の運動による身体の反応を運動生理学、スポーツ栄養学、スポーツ医学、トレーニング科学などの知識の理解 | 身体運動が生理的、栄養学的、医学的、トレーニング科学に関連して成立していることを理解できる |
| 2. DP2.知識・技能 | トレーニング科学や健康に関する課題発見・解決に必要な情報を活用した解決策の提案 | トレーニング科学や健康に関する課題発見・解決に必要な情報を基に課題解決のために考えた提案を適切に説明することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 課題解決に向けた積極的な意見交換 | トレーニング科学や健康に関する学びを通して、自ら進んで他者と協働して課題解決への取組を実現できる力を身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 実習の課題レポート | 70 % | ： 第2～13回目においてデータ取得の状況，データの分析，考察の内容について評価する |
| 講義の課題レポート | 30 % | ： 第1および14回目において課題に対する考察の内容について評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適宜紹介する．

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。欠席の場合は，所定の届を提出し，各自で課題を聞きに来ること．

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツ現場における科学的サポートの意義と研究倫理**<br>本授業の到達目標を確認し、これから学ぶ各専門分野のスポーツ現場における意義と研究倫理について学ぶ。 | 科学的サポートの意義および研究倫理についての理解をレポートにまとめる | 1時間 |
| 第2回 | **キネマティクスデータ算出（高橋）**<br>二次元および三次元座標値を用いて、速度、角度、角速度などのキネマティクスデータを算出する。 | 指定された画像のデジタイズを終わらせておく | 1時間 |
| 第3回 | **データを元にした考察を組み立てる（高橋）**<br>算出されたキネマティクスデータを元に、考察を組み立て、文章化し、発表する。 | 発表した考察をブラッシュアップし、レポートにまとめて提出する | 1時間 |
| 第4回 | **アスリートの食事計画（武田）**<br>身体組成や活動量をもとにアスリートの食事計画を立案する. | 理論に基づき次回調理実習のための準備を行う. | 1時間 |
| 第5回 | **調理実習（武田）**<br>計画された栄養評価に基づき，調理を実践する．調理の際に配慮すべき点などアスリートのための調理の工夫を学ぶ. | 実習後レポートを作成する | 1時間 |
| 第6回 | **動作評価（田中）**<br>パフォーマンスピラミッドの土台となる動きの質の評価をFMSの評価キットを用いて行う | 関節別アプローチについて復習しておく | 1時間 |
| 第7回 | **動きの改善（田中）**<br>FMSの評価から、改善が必要な項目について、修正する運動（コレクティブエクササイズ）を実践する | FMSの測定結果から、改善する優先順位を整理する | 1時間 |
| 第8回 | **筋力発揮の特性（佃）**<br>等速性筋力測定器を用いた測定データの解釈を中心に，筋力測定評価の再現性と標準化について学ぶ. | 得られた測定データから、被検者の筋力特性についてレポートにまとめる | 1時間 |
| 第9回 | **アスリートの筋力評価（佃）**<br>推定挙上重量の評価を実践する。 | 実際に正しく測定できるように復習する | 1時間 |
| 第10回 | **パワーエクササイズの実践（繭屋）**<br>スナッチ，クリーンなどのパワーエクササイズの正しいフォームを習得する. | 正しいフォームを確認しておくこと. | 1時間 |
| 第11回 | **パワーエクササイズのパフォーマンス評価（繭屋）**<br>映像データによりスナッチやクリーンのフォームの評価を行う. | 得られた評価結果から正しいフォームの習得の課題を整理すること | 1時間 |
| 第12回 | **実験器具の使用方法（村瀬）**<br>ELISA法の際に使用する実験器具や試薬の取り扱い方法について学ぶ | 実験器具の使用方法について復習をする | 1時間 |
| 第13回 | **ELISA法によるタンパク濃度測定（村瀬）**<br>ELISA法により唾液中のタンパク質濃度の測定を行う | 試料採取条件とタンパク質濃度の関係についてレポートを作成する。 | 1時間 |
| 第14回 | **スポーツ現場における科学的サポートの実際**<br>これまでの測定手法や考察した内容を振り返り卒業研究のための準備を行う。また、実際にスポーツ現場で活躍している外部講師を招き、学びをどのように活かし社会に貢献できるか考察する。 | 課題のレポートを作成する. | 1時間 |

SP-4701-3-2

| 授業科目名 | 実践スポーツ栄養学 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 武田　哲子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 日本セーリング連盟管理栄養士（2012年ロンドン五輪、2016年リオ五輪、2021年東京、2024年パリ五輪帯同）として選手の栄養サポート経験がある。スポーツ選手のための栄養サポート計画立案（第3回、第4回）および栄養指導方法（第10回）において実践経験をもとに指導する。 | | | | |

**授業概要**

スポーツ現場における栄養に関する課題を抽出し、それを解決するための方法を実践的に学ぶことを目的とする。そのため各自のスポーツ現場における課題を題材として実践的に学びを展開する。グループ別に討論を重ね、設定したテーマに適した食生活の実践について考える。アスリートや健康を目指す人のための食生活についてより深く考え実践する力を養うことを目標とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ現場における栄養に関する課題の探索 | 情報を見極め、課題を抽出する能力を身につける |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ現場における栄養に関する課題を解決するための現状評価 | 栄養状態や食事状況を把握する技術を身につける |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ現場における課題を解決するための指導（サポート）方法の習得 | 効果的な指導（サポート）方法が実践できるような表現力を身につける |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 栄養サポート計画立案（グループワーク） | 協力して課題を解決するためのディスカッションができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
  ・ICT(Excel)
  ・ICT(Power point)
  ・ICT(Word)
  ・ICT(Forms)
  ・ICT(栄養計算ソフト)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 制作物 | 40 % | ： | 課題の意図の理解度，データ整理の適切さ，表現の正確さ，分かりやすさにより評価する. |
| 資料にもとづくプレゼンテーション | 30 % | ： | 課題の意図の理解度，発表資料の表現の正確さ，分かりやすさにより評価する. |
| 授業内のレポート | 30 % | ： | 授業内容の理解度、課題を踏まえた論述ができているか，そこに独自の見解が含まれているかという観点から評価する. |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜紹介する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
プレゼンテーション等の資料作成にはPCを用います。自身のPCを授業で利用できるよう準備すること。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
受講には原則として「スポーツ栄養学概論」、「スポーツ生理学Ⅰ」の単位を修得していることが必要となる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 月曜2限

**場所**： 研究室（B214）

**備考・注意事項**： 事前にアポイントをとるようにしてください（takeda-s@bss.ac.jp）.

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツ栄養学に関する課題の概説**<br>授業の進め方，達成目標を確認する.<br>スポーツ栄養学に関する課題・栄養サポート方法について概説する. | スポーツ現場における栄養に関する課題についての情報を各自収集しておく. | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ現場における栄養に関する問題探索**<br>競技現場における栄養に関する問題を探索する（データ収集）ための知識を習得する. | 各自割り当てた課題について必要な情報を収集しておく | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツ現場における栄養に関する課題設定**<br>競技現場における課題の整理、収集したデータを分析する | 分析したデータを整理しておく | 4時間 |
| 第4回 | **栄養状態の評価方法**<br>栄養サポートのための準備として栄養状態の評価方法について学び、アセスメントシートを作成する | 各自割り当てた課題について必要な情報を得られるための調査票を作成する. | 4時間 |
| 第5回 | **食事調査方法**<br>食事調査の手法について学び実践する | 自身の食事調査を行い調査方法を体験する. | 4時間 |
| 第6回 | **食事調査の分析と評価**<br>調査で得られた数値の集計、栄養評価を行う | 第5回で実施した食事調査結果を集計しデータを整理する. | 4時間 |
| 第7回 | **アセスメントの実践と評価**<br>第4回で作成したアセスメントを実施し、データを収集した整理して栄養サポートのための課題を抽出する | 対象者を見つけ、アセスメントを実施する. | 4時間 |
| 第8回 | **栄養改善のための資料作成とは**<br>第7回の授業で抽出した課題に対して、栄養サポートができるような資料を作成するにあたり、栄養に関する資料作りの手順、ポイントについて学ぶ | 練習課題として与えられた資料の修正を行い、効果的な資料作りについて学ぶ. | 4時間 |
| 第9回 | **栄養改善のための資料作りの計画**<br>資料作りの手順をもとに、各自が設定した課題に対する栄養改善のための資料作成の計画表を作成する | 計画表を完成させ、実際の資料作りに必要な情報を収集しておく. | 4時間 |
| 第10回 | **栄養改善のための資料作り**<br>第9回で計画した内容をもとに，栄養改善のための資料を作成する. | 資料を完成させ実践方法を考えておく. | 4時間 |
| 第11回 | **資料の発表**<br>作成した資料を発表し相互評価する. | 資料を完成させ、発表練習する. | 4時間 |
| 第12回 | **実践活動の報告について**<br>スポーツ現場における実践活動のレポートを読み、まとめ方について学ぶ. | 報告書作成の下調べをしておく | 4時間 |
| 第13回 | **成果発表準備**<br>これまでの授業内容を実践報告として文章にまとめる. | 報告書を作成する | 4時間 |
| 第14回 | **成果発表**<br>実践計画、内容、成果のプレゼンテーションを行う. | 授業内で共有したスポーツ現場の課題について考え，最終レポート作成の準備をする. | 4時間 |

SP-4801-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツリハビリテーション** | | | | |
| 担当教員名 | **小松　猛** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小松　猛：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者としての実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

スポーツ外傷・障害で損なわれやすい運動器を中心とする解剖学的構造物とその機能を理解し、機能回復するための様々なリハビリテーション方法を学ぶ。その上で、代表的なスポーツ外傷・障害を例に挙げながら、元のスポーツ活動に復帰するために、受傷した部位の解剖学的構造の回復とそれに合わせたリハビリテーション方法について、必要な知識や技術を学習する。また、中高年者や障害者におけるスポーツリハビリテーションについても学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ外傷・障害で損なわれる機能と、その機能を回復するために必要なリハビリテーション。 | スポーツ選手・愛好家がスポーツ外傷・障害からスポーツ復帰するために必要な機能について具体的に説明できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 具体的なリハビリテーション方法をどのような場合に用いるのか、を判断するための身体特性。 | スポーツ外傷・障害からスポーツ復帰するための具体的なリハビリテーション方法、その時に注意しておくリスク管理を身に付ける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 80　% | ：　授業終了後の定期試験で授業の理解度を評価 |
| 授業内課題 | 20　% | ：　スポーツリハビリテーション関して出題された課題を通して、授業の理解度を評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 藤本繁夫　大久保衛（編） | ・新・スポーツ医学［改訂新版］(やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 4) | ・嵯峨野書院 | ・2020　年 |

**参考文献等**

アスレティックリハビリテーションガイド　福林　徹・武富修治（編集）　文光堂（2018）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|
| 第1回　**総論：スポーツリハビリテーションとは？** | スポーツリハビリテーションの果たす役割について情報を収集して理解する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツリハビリテーションとは？　スポーツ復帰のために必要とされるコンディショニングについて理解する | | |
| 第2回 | **総論：リハビリテーションの評価、治療（運動療法以外）**<br><br>リハビリテーションにおける評価と治療はどのように行なわれるか？具体的には、関節可動域の測定、筋力評価などを正しく理解できる。 | 関節の動き、筋肉の働きなどを再確認し、授業内容について理解を深める | 4時間 |
| 第3回 | **総論：リハビリテーショントレーニング法（運動療法を中心に）**<br><br>具体的なアスレティックリハビリテーションの手段と方法の理解をする。筋収縮の様々な方法、個々のトレーニングの方法と、そのメリット、デメリットを知る。 | 適切なリハビリテーションの方法を再確認する | 4時間 |
| 第4回 | **総論：リハビリテーショントレーニング法（最近のトピックを中心に）**<br><br>具体的なアスレティックリハビリテーション方法、スポーツ用装具やテーピングの目的について理解する。また、トピックとなってるトレーニングの効果と現状での評価についても知る。 | 授業で学習したトレーニング方法について、自分で情報収集して知識を整理する | 4時間 |
| 第5回 | **各論：足関節・足部外傷・障害のリハビリテーションに必要な解剖と病態**<br><br>足関節・足部の解剖と病態を理解することで、リハビリテーションのための基礎知識を学ぶ。 | 足関節・足部の構造と外傷・障害の原因を理解する | 4時間 |
| 第6回 | **各論：足関節靭帯損傷（捻挫）・足部疲労骨折のリハビリテーション**<br><br>足関節靭帯損傷（捻挫）や足部疲労骨折からの具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。受傷後の時期によって行うべきトレーニングと避けるべきトレーニングを理解する。 | 足関節靭帯損傷・足部疲労骨折のリハビリテーション方法、復帰のタイミングなどを復習する | 4時間 |
| 第7回 | **各論：頚部および腰部障害のリハビリテーションに必要な解剖と病態**<br><br>頚部と腰部の外傷・障害によるリハビリテーションを理解するために、必要な解剖と機能そして病態を理解する。 | 頚椎・腰椎の解剖とその周囲の筋肉の機能を再確認する | 4時間 |
| 第8回 | **各論：頚部および腰部障害のリハビリテーション**<br><br>頚部・腰部障害の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。トレーニングの負荷をかけるタイミングと、その評価について理解を深める。 | 頚部から体幹にかけてのリハビリテーション方法について知識の整理をする | 4時間 |
| 第9回 | **各論：膝関節のリハビリテーションに必要な解剖、傷害**<br><br>膝関節の病態を理解するための解剖と機能を学ぶ。また、具体的なスポーツ外傷・障害別の特徴と合併しやすい傷害について理解をする。 | 膝関節の解剖とそれぞれの組織の役割について復習する | 4時間 |
| 第10回 | **各論：膝関節前十字靭帯損傷（再建術後）のリハビリテーション**<br><br>膝前十字靭帯再建術後の具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。手術の方法を動画を見ながら、手術後に行うリハビリテーションの目的を理解する。 | 膝関節前十字靭帯損傷の病態と、段階的に行うリハビリテーション方法について授業内容を再確認する | 4時間 |
| 第11回 | **各論：肩関節・肘関節のリハビリテーションに必要な解剖と病態について**<br><br>肩および肘関節の構造を理解し、スポーツ障害を起こす原因について理解する。 | 肩・肘関節を構成する骨の位置関係、筋肉の機能を復習する | 4時間 |
| 第12回 | **各論：投球障害による肩・肘関節障害のリハビリテーション**<br><br>オーバーヘッドアスリートで起こる肩関節および肘関節障害に対する具体的なリハビリテーション（急性期から慢性期のプログラム）を知る。リハビリテーションで改善するべき身体のコンディションを学び、投球フォームの問題についても知る。 | 投球動作によって起こる肩・肘関節障害の特徴を理解し、授業で学んだリハビリテーション方法を理解する | 4時間 |
| 第13回 | **各論：スポーツ外傷・障害予防のトレーニングとコンディショニングについて**<br><br>スポーツ外傷・障害予防のための具体的なトレーニング方法とその目的。どのタイミングでどのような人に対して行う必要があるかということを理解する。また障害予防に必要なケアの方法についても学ぶ。 | 手技だけでなく、それが適応となる対象についても調べて知識を整理する | 4時間 |
| 第14回 | **各論：障がい者、中高年のリハビリテーション**<br><br>障がい者がパラスポーツを行う時に注意しておくべき点、中高年者に対して行うスポーツリハビリテーションの方法と注意点を知る。若年健常者に対するアスレティックリハビリテーションと比較して、どのようなことに注意しなければいけないかについて理解を深める。 | 障がい者、中高年の特性と具体的なリハビリテーション方法について復習する | 4時間 |

SP-4702-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **身体発育発達論** | | | | |
| 担当教員名 | **秋武　寛** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

発育は組織・器官の増大と考えられ、発達は機能面からみた質的および量的成熟過程と考えられる。幼児期から高齢者までのライフステージにおける発育発達に関する経過を辿りながら、その特徴を学修する。特に幼児期から青年期までの時期においては、成長という因子を把握していない場合において、スポーツ障害を発生させる原因のひとつになるものと考えられる。各ライフステージにおける身体運動の最大の役割は、各諸器官の機能的向上と考えられる。これらのことから、加齢現象による健康・体力・スポーツとの関連性を学修する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 発育発達に関する知識 | 心身ともに健やかな成長を促すために、発育発達に関する基礎的な知識を習得することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 加齢にともなう生理学的変化 | 発育発達に関する生理学的な知識を習得し、日常の生活習慣のあるべき姿を考え、表現することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

遠隔授業で行う。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 期末試験 | 40 % | ： 半期のまとめ（第13,14回）を試験に準じる形で実施し、評価する |
| 毎回の課題 | 60 % | ： 授業時間内において発育・発達についてのレポート課題の内容を評価する。毎回提出する課題の内容、正解などを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

遠隔授業で行う。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、発育発達の概論**<br>講義目的と評価および授業の進め方について学修する。 | 発育発達の概念について復習する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第2回 | **幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容**<br>幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容について学修する。 | 幼児教育の基本と領域「健康」のねらいと内容について復習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **健康とスキャモンの発育曲線**<br>健康とスキャモンの発育曲線について学修する。 | 健康とスキャモンの発育曲線について復習する。 | 4時間 |
| 第4回 | **運動の発達**<br>各年代に合わせた運動発達について学修する。 | 各年代に合わせた運動発達について復習する。 | 4時間 |
| 第5回 | **健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）**<br>健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）について学修する。 | 健康の要素及び身体の発育（機能的変化および形態的変化）について復習する。 | 4時間 |
| 第6回 | **骨の発育発達**<br>骨の発育発達について学修する。 | 骨の発育発達について復習する。 | 4時間 |
| 第7回 | **睡眠と成長ホルモン**<br>睡眠と成長ホルモンについて学修する。 | ホルモンと発育発達について復習する。 | 4時間 |
| 第8回 | **「子どもの体力・運動能力の低下について」のレポート**<br>「子どもの体力・運動能力の低下について」のレポートを作成する。スポーツ庁が「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を公表した。その記事やデータを検索して、自学自習し、調べたことをまとめ（図表を含めて）、問題点、課題点を明らかにする。 | 子どもの体力・運動能力の低下について復習する。 | 4時間 |
| 第9回 | **体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成**<br>体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成について学修する。 | 体力・運動能力と身体活動量、生活習慣の形成について復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **脳、身体の発育発達**<br>脳、身体の発育発達について学修する。 | 脳、身体の発育発達について復習する。 | 4時間 |
| 第11回 | **幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイント**<br>幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイントについて学修する。 | 幼児期運動指針の背景、策定された意図とそのポイントについて復習する。 | 4時間 |
| 第12回 | **「幼児教育」および「幼児期の運動に関する取組実践事例」**<br>外部講師による「幼児教育」および「幼児期の運動に関する取組実践事例」について学修する。 | 幼児期の運動に関する取組実践事例について復習する。 | 4時間 |
| 第13回 | **加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）**<br>加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について学修する。 | 加齢にともなう運動動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について復習する。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>振り返りを行い、半期間の学修内容を確認する。 | 半期間の授業の内容を復習する。 | 4時間 |

SP-4802-2-2

| 授業科目名 | 基礎運動生理学（スポーツ生理学） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 禰屋　光男 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Sports Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事等の実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

この授業は、スポーツ生理学概論の基礎編からより詳細で専門的な運動生理学の知識を学ぶ。運動に不可欠な骨格筋や、それに必要なエネルギー供給系やそれを支える呼吸循環系、内分泌系、などについても詳しく学ぶ。競技者に対するパフォーマンス評価やトレーニング処方の際に専門的な運動生理学的な知識は不可欠である。また、競技スポーツのコーチングや指導だけでなく、健康増進にかかわる生涯スポーツの推進においても生理学知識を基にして、処方を行えるような知識を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 健康やスポーツパフォーマンス向上のための身体活動を実施した場合に生じる身体の生理的反応 | 運動時の生理学的知識を理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 運動時の各生理学的反応の相互の影響と運動時の環境要因 | 生理学的な知識に基づいて、運動時のそれぞれの生理反応を適切に説明できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング)
ICT(動画活用

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

毎回の授業内のレポートにより評価する

| 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---|---|
| 授業内レポート | ：　授業内容の理解度について講義中に課すレポートにより評価する（7～8点満点／回×14回） |
| 100　% | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツ指導者に必要な生理学と運動生理学の知識」村岡功編著　市村出版

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

履修には「スポーツ生理学概論」の単位を修得していることが必要となる。
授業の資料配布、試験は全て電子的に実施し、紙媒体の配布は行わない。そのため、パソコンまたはスマートホンを持参すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　随時

**場所**：　研究室

**備考・注意事項：** 初回講義時に説明します

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびスポーツ生理学の概説**<br>授業の内容，進め方，予習・復習、評価方法などについて確認します. | 「スポーツ生理学概論」の内容を復習すること | 4時間 |
| 第2回 | **身体組成、骨格筋の構造**<br>運動生理学を学ぶのに必要な基本的な身体の構造（身体組成、骨格筋の仕組み）について学びます. | 配布資料を基に、身体組成、骨格筋の構造を復習すること | 4時間 |
| 第3回 | **骨格筋の微細構造と神経支配**<br>骨格筋の微細構造を説明し、骨格筋を構成する要素と収縮のための神経の支配を学びます. | 配布資料を基に、骨格筋の微細構造と神経支配を復習すること | 4時間 |
| 第4回 | **筋活動時のエネルギー供給**<br>骨格筋が運動するときのエネルギー供給について学びます. | 配布資料を基に、筋活動時のエネルギー供給系、3系を復習すること | 4時間 |
| 第5回 | **筋線維タイプの特性**<br>エネルギー供給系と筋収縮特性からみた筋線維タイプの特性を学びます. | 配布資料を基に、筋線維タイプとエネルギー供給系の関係を復習すること | 4時間 |
| 第6回 | **内分泌系の生理学的基礎**<br>運動時に分泌されるホルモンの概要について学びます. | 配布資料を基に、運動時の内分泌機能を復習すること | 4時間 |
| 第7回 | **各種ホルモンの生理作用**<br>運動時に分泌されるホルモンの分泌器官とその作用、運動との関係について学びます. | 配布資料を基に、各種ホルモンの生理作用を復習すること | 4時間 |
| 第8回 | **筋活動の種類と特性**<br>静的収縮と動的収縮の特性について学びます. | 配布資料を基に、筋活動の種類と特性、エネルギー供給系との関係を復習すること | 4時間 |
| 第9回 | **性ホルモンの分泌**<br>性ホルモンの分泌の機序と運動への影響について学びます. | 配布資料を基に、性ホルモンの分泌の機序を復習すること | 4時間 |
| 第10回 | **免疫系の生理学的基礎**<br>免疫系の生理学的機序を学びます．また、特異免疫、非特異免疫の特徴について学びます. | 配布資料を基に、免疫系の特徴を復習すること | 4時間 |
| 第11回 | **運動時の免疫系**<br>運動に関する免疫系の特徴について学びます. | 配布資料を基に、運動時の免疫系の役割について復習すること | 4時間 |
| 第12回 | **運動時の呼吸循環系機能**<br>運動時の呼吸循環系機能について、呼吸系と循環系のそれぞれの特徴について学びます. | 配布資料を基に、運動時の呼吸循環系の基本的機能を復習すること | 4時間 |
| 第13回 | **運動時の呼吸循環系の反応**<br>運動時の酸素摂取量の変化について学びます. | 配布資料を基に、授業内容を復習すること | 4時間 |
| 第14回 | **トレーニングによる呼吸循環系応答の変化**<br>トレーニングによって酸素摂取量など呼吸循環系機能がどのように変化するか学びます. | 配布資料を基に、酸素摂取量とエネルギー供給系の関係を復習すること | 4時間 |

SP-4601-3-2

| 授業科目名 | 体力測定と評価 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 山田　庸 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 山田教授は2008年よりプロサッカークラブにてフィジカルコーチとして従事し、体力測定を実施した経験を有する。 | | | | |

**授業概要**

健康運動やスポーツにおける体力領域に関する知識を学習した上で、さまざまな体力測定の実施方法と評価方法を学習する。測定の対象者であるスポーツ選手、子供、一般成人、高齢者の発育発達について学習する。また、測定目的別に、健康関連系，学校体育系，実験系，各種スポーツ競技系に分類し、具体的な体力測定方法について学習する。また、横断および縦断データを用いた体力の評価方法、グラフの活用方法、データの標準化について学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 子供から高齢者までの体力に関する知識と適切に測定しフィードバックするスキル. | 体力領域と様々な体力テストの方法を理解し，適切な測定とフィードバックができる. |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | データの種類を判別し，適切な処理を選択し，適切な体力評価とフィードバックを伝える力. | データの種類に対応したグラフ作成と指標算出ができ，フィードバックすることができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

ICT(タッチタイピング), ICT(Excel)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題 | 45 % | ： | 各回のワークシートの充実度とグループワークの完成度を3点満点で評価する。充実した内容には3点、必要な要件を満たす内容は２点、内容に不足が見られる場合は1点とし、特に優れた内容には加点をあたえる。 |
| 期末レポート | 55 % | ： | 最低限必要な内容が記述されている場合を６割の33点とし、55点満点で採点する。具体的な記述や必要な要件が満たされない場合は減点する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

出席を重視する。またグループワークに積極的に参加することを求める。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　金曜４限

**場所**：　B207

**備考・注意事項**：　事前にメールにてアポイントを取ることが望ましい

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、体力の定義**<br>１４回全体の展開、評価方法、授業実施形態、各回の概略を説明する。さらに、体力測定の目的と対象者について外観する。 | これまで実施してきた体力テストを振り返り他にどのようなテストがあるのかを探索する | 4時間 |
| 第2回 | **体力テストの作成**<br>テストの信頼性と妥当性について学習し，現場のニーズを分析し対象者に必要かつ基準を満たすテストを考える． | 体力の定義について文献をもとに探索する | 4時間 |
| 第3回 | **新体力テスト**<br>文部科学省新体力テストについて，各項目の特徴と年代ごとの発育発達・老化の特徴を学習する． | 文部科学省HPを参考に新体力テストのデータや資料を調査する | 4時間 |
| 第4回 | **高齢者体力テスト**<br>６５歳以上の高齢者を対象とする体力テストを学習し，その必要性を理解する．また，高齢者の健康増進施策と活用方法についても学習する． | 高齢者用の体力テストについて文献を検索し抄読する． | 4時間 |
| 第5回 | **競技に必要なフィールドテスト**<br>競技特性に応じて行われる体力テスト、特に競技の場所で行われるフィールドテストについて学習する．また，競技ごとの必要性分析（ニードアナリシス）を実践する． | 各種スポーツの特性と用いられる体力テストを調査する | 4時間 |
| 第6回 | **コントロールテスト**<br>フィールドテストの中でも、繰り返し測定でき、競技パフォーマンスの良し悪しや発達度を測定し、トレーニング管理するためにもちいる「コントロールテスト」を学習する． | コントロールテストに関して文献調査を行う | 4時間 |
| 第7回 | **実験室的テスト**<br>実験室で高度な機械を用いて生理学的、力学的な応答を計測するテストである実験室的テストについて，最大酸素摂取量の計測，ウィンゲートテスト，等速性筋力テストについて学習する． | 実験室的テストに関する論文を検索し抄読する | 4時間 |
| 第8回 | **データの加工**<br>体力テストで得られた元データから、最高値を抜き出し、平均や標準偏差といった基本統計量を算出する．また，得られた基本統計量を元に、棒グラフや折線グラフ、散布図を出力し、見える化する． | 文部科学省のHPにある体力テストデータを閲覧し，グラフを作成する | 4時間 |
| 第9回 | **データの加工と標準化**<br>得られたデータと基本統計量をもとに、標準得点、偏差値を算出する。<br>複数の項目で尺度が統一化される標準得点の性質を利用して、レーダーチャートを作成し、項目間比較を行う。 | 標準化や偏差値を用いた評価方法を検索し調査する | 4時間 |
| 第10回 | **新体力テストのフィードバック**<br>新体力テストの模擬データをもとに，それぞれフィードバックを作成する．偏差値や１０段階評価を行い，対象者への運動の提案をプレゼンする． | 体力の発育発達段階に適した運動プログラムを調査する | 4時間 |
| 第11回 | **高齢者体力テストのフィードバック**<br>高齢者体力テストの模擬データをもとに，フィードバックを作成する．さらに，結果に基づいて運動処方を作成する． | 高齢者の運動実践について調査する | 4時間 |
| 第12回 | **球技の専門的なフィールドテスト**<br>球技に用いられるYOYOテストやスプリントなどのフィールドテストデータからフィードバックを作成する．標準得点の算出，レーダーチャートの作成を行う．さらに，トレーニング処方を考える． | 球技のトレーニングを調査する | 4時間 |
| 第13回 | **コントロールテストの評価**<br>パワー・スピードに対応したコントロールテストの成績から，項目間比較を行う．<br>散布図を作成し，選手のタイプ分けを行ったうえで運動処方を提案しプレゼンする． | コントロールテストに関する論文を検索し抄読する | 4時間 |
| 第14回 | **実験室的テストの評価**<br>実験室的テストのなかでも，バイオデックスのデータを分析し、グラフに表示し評価する．脚筋力の左右差，もも前/もも裏の比率（H/Q比）を算出する．さらにフィードバックとして対象選手の問題点を記述しプレゼンする． | 筋力・筋パワー，下肢の傷害について調査する | 4時間 |

SP-4803-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **運動と免疫** | | | | |
| 担当教員名 | **村瀬　陽介** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目は、免疫についてこれまで学んだ基礎知識をさらに発展させ、運動が免疫機能に与える影響について広く述べられることを目標とする。免疫学の基礎についてこれまでの学習状況が学生間で大きく異なることを前提に授業を展開する。また、運動と免疫機能の関連について十分に理解した上で、アスリートにとって高いパフォーマンスを発揮するために免疫機能がいかに重要な役割を持つか、コンディションを整えるために注意すべき点について解説する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 運動が免疫機能に与える影響に関する知識 | 学生は、運動が免疫機能に与える影響について知識を身につける。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 健康行動に関する判断力 | 運動と免疫機能に関する知識から実生活における健康行動の適正を判断できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート | 40 % | ： 毎回の授業で授業内容について理解度を評価する |
| 授業内テスト | 30 % | ： 授業中の知識の習得度について評価する |
| 学期末テスト | 30 % | ： 授業内容の理解度、および運動が免疫機能に与える影響について述べられるかどうかを評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜レジュメで触れる。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
第1回のガイダンス時に、受講態度についての説明をするので、本科目のルールを理解した上で以降の授業に参加すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 月曜2限

**場所**： 研究室（B209）

**備考・注意事項**： 質問内容を整理して、具体的な質問を考えてから来室してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **運動と粘膜免疫**<br>ウイルスなどの体への侵入を防いでくれる粘膜免疫の仕組みを理解する。また運動により粘膜免疫がどのような影響を受けるのかを理解する。 | スポーツ生理学の内容のうち、免疫に関わる内容を復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **運動と自然免疫**<br>体内へ侵入したウイルスなどを攻撃してくれる自然免疫系の働きについて理解する。また運動が自然免疫系にどのような影響を与えるのかを理解する。 | スポーツ生理学の内容のうち、自然免疫に関わる内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **運動と獲得免疫（細胞性免疫）**<br>獲得免疫系の細胞性免疫について、その働きを理解する。また運動が細胞性免疫にどのような影響を与えるのか理解する。 | スポーツ生理学の内容のうち、細胞性免疫に関わる内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **運動と獲得免疫（液性免疫）**<br>獲得免疫系の液性免疫について、その働きを理解する。また運動が液性免疫にどのような影響を与えるのか理解する。 | スポーツ生理学の内容のうち、液性免疫に関わる内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **運動と炎症**<br>炎症の仕組みとそこに関わるサイトカインなどの生理活性物質について知り、運動と炎症の関係について理解する。 | 炎症をキーワードに検索エンジンで検索し、炎症の概要について調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **運動とがん**<br>免疫系のはたらきとがんの関係について理解する。また運動ががんにどの様な影響を与えるのかを理解する。 | がんについて、厚生労働省のサイトを参考に基礎的な内容を学習しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **中間テスト、振り返り**<br>これまでの授業内容を振り返り、運動が免疫機能に与える影響についてまとめの資料を作成する。またこれまでの授業の理解度を確認するために、中間テストを実施する。 | 第1回から第6回までの授業内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **運動と免疫（睡眠）**<br>運動と免疫機能、睡眠との関係について理解する。 | スポーツ生理学の睡眠に関する内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **運動と免疫（栄養）**<br>運動によるエネルギー代謝が免疫機能に与える影響を理解する。また食事や栄養がアスリートの免疫機能に与える影響を理解する。 | スポーツ栄養学の内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **運動と免疫（加齢）**<br>加齢による免疫機能の変化と運動との関係について理解する。 | スポーツ生理学の加齢が身体に与える影響について復習する。 | 4時間 |
| 第11回 | **運動と熱中症**<br>運動と熱中症の関係について理解する。また熱中症の重症化と免疫との関係について理解する。 | 熱中症の発生件数、発生状況について厚生労働省のサイトで調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **アスリートとプロバイオティクス**<br>プロバイオティクスについて理解し、アスリートにおけるプロバイオティクスの重要性について理解する。 | プロバイオティクスについて検索エンジンで検索し、基礎的内容に触れる。 | 4時間 |
| 第13回 | **アスリートとアレルギー**<br>運動とアレルギーの関係について理解し、アスリートのコンディショニングにおけるアレルギー対策の重要性を理解する。 | アレルギーについて厚生労働省のサイトで調べる。 | 4時間 |
| 第14回 | **アスリートと感染症**<br>上気道感染症をはじめとした感染症と運動の関連について理解し、アスリートにおける感染症対策につて理解する。 | 感染症について厚生労働省のサイトで調べる。 | 4時間 |

SP-4602-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ動作分析法** | | | | |
| 担当教員名 | 高橋　佳三 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、動作分析に用いられる機材（高速度VTRカメラ、地面反力計、筋電図）の使用方法やキネマティクス、キネティクス的データの算出方法などについて学ぶ。本授業を通して、学生は、動作分析のための実験計画の立案、実験方法の習得と実験の実施、得られた映像などからのデータ算出と考察、考察内容のプレゼンテーションの作成とプレゼンテーションの実施を行う。以上の内容を通して、卒業論文における動作分析の基礎的素養を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 動作分析の手法（撮影・分析方法） | 動作分析の流れを理解し、機材の使用方法が理解できる。また、実際に実験とデータ処理を滞りなく行うことができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 分析したデータの考察とプレゼンテーション | 算出したデータをまとめ、分かりやすくプレゼンテーションすることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　・ICT(PowerPoint、Excel、専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

レポートおよびプレゼンテーションを元に評価を行う。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 実験 | 25 % | ： | 2次元動作分析を行うためのセッティングができ、撮影を行うことができる。 |
| データ分析 | 25 % | ： | ExcelまたはMATLAB Onlineを用いて、動作分析を行うことができる。 |
| プレゼンテーション | 25 % | ： | グループごとにプレゼンテーションを行い、学生と相互にディスカッションができる。 |
| レポート | 25 % | ： | プレゼンテーションした内容をレポートにまとめることができる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツバイオメカニクス20講（阿江通良，藤井範久　著，朝倉書店）
スポーツバイオメカニクス（深代千之，桜井伸二，平野裕一，阿江通良　著，朝倉書店）
バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎（金子公宥，福永哲夫　著，杏林書院）
表面筋電図（バイオメカニズム・ライブラリー）（木塚朝博，木竜徹，増田正　著，東京電機大学出版局）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業に使用する機材の台数に限りがあるため、履修者が多いときには、「４年次に卒業論文で動作分析を行う可能性があるかどうか」を基準に履修制限をする可能性がある。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　作業時または授業前後

**場所**：　授業の教室、B306

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、動作分析の流れについての説明**<br><br>本授業の流れと、動作分析の流れについて把握し、今後どのように講義を進めていくかを確認する。 | 動作分析の大まかな流れを把握し、動作分析についての理解が深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **撮影のセッティングについて**<br><br>動作分析に欠かせない「動作の撮影」についての講義を行う。<br><br>カメラの設定や撮影範囲など、「撮影の設定」を行うことができることが、動作分析の第一歩となる。第3回で実際に撮影を行うので、そのためのセッティング方法について理解する。<br><br>グループ分けを行い、次週に行う実験試技を決める。 | 動作の撮影のためのセッティングについて、理解を深めるよう、実際に撮影してみるなどする | 4時間 |
| 第3回 | **撮影**<br><br>前週に学んだ知識を元に、実際に二次元動作分析用の動画を撮影する。 | 撮影した動画のチェックを行う。撮影ができていなければ、時間を見つけて再度撮影し直すなどする | 4時間 |
| 第4回 | **デジタイズについて**<br><br>撮影した映像から、2次元座標値をPCに取り込む作業が、デジタイズである。この作業ができないと、動作分析は行うことができない。<br><br>本講義でデジタイズの仕方を学び、次週から2週間でデジタイズを行う。 | デジタイズの手法について理解できるよう、参考書などを読む。 | 4時間 |
| 第5回 | **デジタイズ01　デジタイズ方法の確認**<br><br>第4回で学んだ方法を元に、デジタイズを行う。<br>キーの数が限られているため、班員で協力して、デジタイズをその確かさのチェックを同時に行う。 | デジタイズが完了していない学生は、時間を見つけてデジタイズを行う。 | 4時間 |
| 第6回 | **デジタイズ02　デジタイズ方法の習熟**<br><br>引き続き、デジタイズを行う。<br>班員で協力して、デジタイズをその確かさのチェックを同時に行う。 | デジタイズが完了していない学生は、時間を見つけてデジタイズを行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **デジタイズ03　デジタイズのチェック**<br><br>デジタイズした座標値を元に、身体セグメント長を算出し、セグメントが伸び縮みしていないかを確認する。<br><br>極端に伸び縮みの見られる部位について班員で確認を行い、必要に応じてデジタイズをやり直し、再度セグメント長を算出する。 | デジタイズの修正を行い、セグメント長まで確認する。 | 4時間 |
| 第8回 | **実長換算、スティックピクチャー作成、平滑化**<br><br>デジタイズした座標値を、実長換算によりXY座標系における座標値に変換する。<br><br>そのデータを元にスティックピクチャーを作成し、動作が適正に行われているように見えるかを確認する。行われていなければ、デジタイズのやり直しとなる。<br><br>適正に行われているデータについて、平滑化を行う。 | スポーツバイオメカニクスの参考書を読み，実長換算、平滑化について理解する。 | 4時間 |
| 第9回 | **変位、速度、加速度の算出**<br><br>平滑化されたデータから、Excelを用いて変位、速度、加速度を算出する。<br><br>変位、速度、加速度の意味と、算出の際に用いる微分について理解する。 | スポーツバイオメカニクスの参考書を読み，変位、速度、加速度について理解する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第10回 | **ベクトル・角度・角速度算出**<br><br>二次元座標値からExcelを用いてベクトルを算出し、関節角度とセグメント角度を算出する。そして、一階微分により角速度を算出する。 | スポーツバイオメカニクスの参考書を読み，三角関数について理解する。 | 4時間 |
| 第11回 | **重心算出**<br><br>座標値と身体部分慣性係数から、身体重心の算出を行う。 | スポーツバイオメカニクスの参考書を読み、重心算出について理解する。 | 4時間 |
| 第12回 | **データの読み取り方**<br><br>これまで算出してきた座標値、速度、角度、各速度、重心座標、重心速度の「グラフの読み取り方　考察の仕方」について講義する。<br><br>班員全員のデータをまとめ、それぞれの班でデータがどのように違うか、その違いにはどのような意味があるかを考える。<br><br>まとめた内容をPowerPointで発表用スライドにまとめる。 | スポーツバイオメカニクスの参考書を読み、データの読み取り方について理解を深める。 | 4時間 |
| 第13回 | **プレゼンテーション**<br><br>第12回でまとめたスライドを元に、班ごとにプレゼンテーションを行う。<br>プレゼンテーション時間は各班5分、質疑応答を3分とする。<br>班員全員が必ず話し、質疑応答は学生同士で行う。 | 質問された内容について、班ごとに考え、レポートをまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **総まとめ**<br><br>ここまで、<br>1. カメラの設置・設定方法<br>2. 実長換算・キャリブレーションの方法<br>3. デジタイズの方法<br>4. キネマティクス（速度、角度など）の算出方法<br>5. 実際の実験からの分析方法<br><br>について講義・実習してきた。<br><br>これまでの内容を通して、【動作分析を行うことの大変さと楽しさについて】レポートをまとめ、提出する。 | レポートを提出する。 | 4時間 |

SP-4703-3-2

| 授業科目名 | スポーツコンディショニング論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 田中　忍 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

一番強い姿で試合に臨むために必要なことを学ぶ．すなわち，コンディショニングの目的や要因を理解し，改善が必要な要因が何であるかについて根拠を持って説明をする．また，各要因の評価法およびそれぞれについて改善のためのトレーニング方法を学ぶ．着目すべきコンディショニングの要因をあげ，評価し，改善のための具体的なコンディショニングプログラムを作成する．これにより，スポーツ実践者が，目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するために必要なことを見つけられるようにする．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | コンディショニングに関わるさまざまな要因の理解 | コンディショニングの目的，要因を説明できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | コンディショニングプログラムの立案 | ピリオダイゼーションおよび改善したいコンディションに照らし合わせたコンディショニングプログラムを立案できる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | コンディショニングに関する情報の共有 | 競技種目の特徴や自身の興味を踏まえ、情報を共有できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・その他(以下に概要を記述)

ICT（タッチタイピング）,ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 60　% | ：　授業内容に関する問題をformsで評価する（レポート提出回を除く10回）． |
| レポート | 40　% | ：　①道具について，②競技特性とコンディショニング，③コンディショニング実践，④コンディショニングプログラムについてレポートを作成する．内容，整合性，参考文献の記載，など各レポートで評価項目および提出期日を提示する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・公益財団法人日本スポーツ協会、アスレティックトレーナー専門科目テキスト第6巻予防とコンディショニング、2022年
・公益財団法人日本スポーツ協会、アスレティックトレーナー専門科目テキスト３巻コンディショニング、2022年（新カリキュラム対応）
・公益財団法人日本スポーツ協会指導者育成委員会アスレティックトレーナー部会　、予防とコンディショニング公認アスレティックトレーナ専門科目テキストワークブック、文光堂、2011年
・小山貴之、アスレティックケア　リハビリテーションとコンディショニング、NAP Limited、2016年
・広瀬統一、アスレティックトレーニング学、文光堂、2019年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

受講の際は，次の全ての授業を履修済みであることが望まれる。
「身体構造と機能」「体力トレーニング法」「スポーツ生理学概論」「スポーツ医学概論」「スポーツ栄養学概論」「救急処置法」「テーピング・ストレッチ」

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの過程認定に必要な科目である.
参考図書（専門科目テキスト）の購入希望者は，授業時に説明する.

授業資料はteams・クラスノートブックで配布するため、パソコンで受講すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションと概要**<br>授業の進め方、到達目標および成績評価について確認する。<br>コンディショニングの概念を学ぶ。 | コンディショニングの概念を復習する。コンディショニングの成功または失敗の具体例を調べてくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コンディショニング（弛緩性）**<br>コンディショニングで調整すべき要因について、内的要因と外的要因の２つの主要因があり、それぞれに分類される要因と要素があることを学ぶ。内的要因の一つである弛緩性について実践し、評価項目と評価を学ぶ。 | コンディショニングで調整すべき要因について振り返る。 | 4時間 |
| 第3回 | **外的要因**<br>コンディショニングで調整すべき外的的要因について学ぶ。 | 道具について、レポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **基礎知識（３要素）**<br>運動・栄養・休養について、それぞれで学んできた内容を競技特性に照らし合わせて統合させる。 | ３要素を復習し、改善できることを見つける。 | 4時間 |
| 第5回 | **基礎知識（フィットネス-疲労理論）**<br>現状よりフィットネスレベルを上げるには、追い込むことと疲労を除去することのバランスが重要であることを学ぶ。 | フィットネス-疲労理論に基づいたトレーニングが行われているか振り返る。 | 4時間 |
| 第6回 | **基礎知識（オーバーリーチングとオーバートレーニング）**<br>向上するためには過負荷をかける必要があるが、回復しているかどうかを見極めなければ効果を得らずパフォーマンスの低下を引き起こすこともあることを理解する。疲労の指標としてPOMSを体験し、評価を学ぶ。 | 疲労が蓄積した状態について復習し、POMSの結果を振り返る。 | 4時間 |
| 第7回 | **基礎知識（トレーニングの原理・原則）**<br>トレーニングに関する基礎知識（原理・原則、トレーニング負荷）を復習し、最適なトレーニングに必要なことについて学ぶ。 | トレーニングに関する基礎知識を復習し、自身の専門競技特性と照らし合わせて振り返る。。 | 4時間 |
| 第8回 | **プログラミングに向けて（ピリオダイゼーション）**<br>長期的な計画を立てる上で必要なピリオダイゼーションについて理解する。 | 現状のトレーニングがピリオダイゼーションを取り入れて計画されているか振り返る。 | 4時間 |
| 第9回 | **プログラミングに向けて（ピーキング・テーパリング・ディトレーニング）**<br>目安となる時期にフィットネスレベルが高い状態であるためのピーキング・テーパリング・ディトレーニングについて理解する。 | 次週のために１週間のトレーニング負荷と疲労度・睡眠状況について記録する。 | 4時間 |
| 第10回 | **トレーニング指標の活用**<br>トレーニング負荷がどの程度身体にストレスを加えたのかをモニタリングする指標や方法について学ぶ。 | 競技特性と合わせて振り返る。 | 4時間 |
| 第11回 | **ウォームアップの科学的基礎**<br>ウォームアップで求められることについて学び、季節や場面における最適方法を理解する。 | ウォームアップで改善できることがあるか振り返り、実践する。 | 4時間 |
| 第12回 | **リカバリーに必要な要素と科学的基礎**<br>リカバリーに必要な要素と科学的基礎および実際の方法について学ぶ。 | 授業内で検討したリカバリー方法を振り返り、実践できることを行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **競技特性（動き）の分析**<br>競技に必要な動きについて、効率で安全な動作および不良動作を理解する。 | 必要であれば動画を撮影し、不良動作の可能性がないかどうか振り返る。 | 4時間 |
| 第14回 | **コンディショニングプログラムの立案**<br>改善するコンディションを抽出し、適切な指標を用いて評価した後、コンディションを改善するためのプログラムの立案する。 | コンディショニングプログラムを実践し、再評価した後、それらをレポートにまとめる。する。 | 4時間 |

SP-4804-3-2

| 授業科目名 | 健康・スポーツ医科学特別講義（内科系）（スポーツ医学特別講義（内科）） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 平田　知大 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本講義は、十分な人体生理学・スポーツ生理学の基礎知識を得たうえで、様々な情報を身体機能向上・身体開発の場に実践的に応用・活用できるような学びを目指す。スポーツ生理学のトピックスを取り上げ、既知の知識を実践の場に活用できるよう実践していく。また、世界的な問題となっているドーピング問題・アンチドーピングに関する学びを深め、今後のスポーツ人生に行かせるような学びを目指す。さらに、脳震盪を取り上げ、その機序と症状、対処法などについても学び実践へとつなげる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 個々の属性により、身体的能力も変化することを理解し説明できる | 個々の身体的特徴にあったトレーニングを目指すトレーニングを目指す |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 心拍トレーニング、高地トレーニングなど様々なトレーニング法を学び実践的な知識として活用できる | 日々のトレーニングの選択と効果について正しい知識を獲得する |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・前半を主に講義形式，後半をケースメソッド形式を主体とする
・課題(ケースメソッドを中心)に関してプレゼンテーションを行う
・各ケースメソッド等に対しての問答法、コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

講義回数の３分の２以上出席した学生を評価対象とする

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| ケースメソッドを中心とした課題提出 | 28　% | ： | 毎回の講義で理解度及び思考力を評価する<br>内容の妥当性と論理的構成について、５段階で評価する |
| 期末テスト | 72　% | ： | 授業内容の理解度を筆記テストで評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツ医学研修ハンドブック　第2版　基礎科目・応用科目」（監修：公益財団法人　日本スポーツ協会指導者育成専門委員会　スポーツドクター部会・文光社）
その他の参考文献については講義ごとに紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

「スポーツ医学特別講義（内科）」3・4年次、「AT特別講座」、「体力トレーニング概論」、「スポーツ生理学」、「スポーツ医学概論」、「救急処置法」、「身体構造

と機能」、「スポーツ栄養学概論」、「テーピング・ストレッチ」の単位を履修していることが望ましい

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業終了後、講師控室にて対応する

**場所**：　講師控室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **生理学とは、トレーナビリテイとは**<br>身体を理解するうえで重要な生理学について概要を学ぶ | 履修するにあたり大まかな流れをシミュレーションする | 4時間 |
| 第2回 | **心機能を学ぶ**<br>スポーツ心臓、心拍を用いたトレーニング方法を学ぶ | 自分の心拍から運動強度計算ができるようにする | 4時間 |
| 第3回 | **筋肉を学ぶ**<br>筋肉分子構造を学び、最大限にトレーニング効果を上げる方法を学ぶ | 鍛えたい筋肉とトレーニングをマッチできるようにする | 4時間 |
| 第4回 | **神経系を学ぶ**<br>神経反射の基礎及び神経細胞と反射機構の作用について学ぶ | 神経反射の基礎について考える | 4時間 |
| 第5回 | **脳震盪を学ぶ**<br>脳震盪の機序・危険性について学ぶ | 脳震盪について危険性を考える | 4時間 |
| 第6回 | **呼吸器系を学ぶ**<br>呼吸器系を学び、最適なトレーニングを考える | 呼吸器系について考える | 4時間 |
| 第7回 | **内分泌代謝系を学ぶ**<br>内分泌代謝系を学び、最適なトレーニングを考える | 内分泌代謝系について考える | 4時間 |
| 第8回 | **心臓血管系を学ぶ**<br>心臓血管系を学び，最適なトレーニングを考える | 心臓血管系について考える | 4時間 |
| 第9回 | **薬物・遺伝子を利用した身体開発**<br>ドーピングコントロール、遺伝子ドーピングなど最新事情を含めて学ぶ | ドーピングコントロールについて考える | 4時間 |
| 第10回 | **環境に適応した身体開発**<br>高地トレーニング、水中トレーニング、暑熱・寒冷環境でのトレーニングについて効果を理解する | 環境に適応した身体開発について考える | 4時間 |
| 第11回 | **睡眠を利用した身体開発**<br>睡眠の重要性について学ぶ | 自分の睡眠時間、質を考える | 4時間 |
| 第12回 | **ジュニアの身体開発**<br>ジュニアの身体生理とその開発について学ぶ | ジュニア育成について考える | 4時間 |
| 第13回 | **女性のスポーツ生理学と身体開発**<br>女性特有のスポーツ生理学を学び、身体機能開発について考える | 女性のスポーツ生理学について考える | 4時間 |
| 第14回 | **中高年の身体変化とスポーツ生理学**<br>中高年の身体的変化とスポーツ生理学を学び、適したトレーニングを考える | 中高年の身体変化について考える | 4時間 |

SP-4805-3-2

| 授業科目名 | 健康・スポーツ医科学特別講義（外科系）（スポーツ医学特別講義（外科）） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 小松　猛 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小松　猛：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療に従事した実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

主に種目別で起こりやすいスポーツ外傷・障害に関する講義を行う。さらに、スポーツ外傷・障害の症例問題を通して、授業の中で医学的な考え方（診断、対応方法、予防、スポーツ復帰の判断など）について、自分達で情報を収集してレポートを作成する。さらに、テーマについて発表形式でディスカッションを行う。実際に起こりうる可能性の高い症例問題について考えて、その意見を発表し質疑応答を通して、スポーツ医学に必要な知識を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ種目別に起こりやすい外傷・障害についての検索と、その知識の整理。 | スポーツ特有の動きと、それによって起こる運動器の外傷・障害発生の関係が理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 実際にスポーツ現場で想定される外傷・障害について、診断に至るための思考と対応方法の判断。 | 様々なスポーツ外傷・障害に対して、的確な診断とスポーツ復帰のために必要な対処方法の考え方を身に付けることができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：セレッソ大阪メディカルスタッフ（職種・キャリア形成の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| レポート課題 | 30 % | ： | 授業で行うディスカッション後に、内容の妥当性と課題の指示に対して十分な記載ができているかを評価する。 |
| 授業内でのディスカッション、質疑応答 | 60 % | ： | テーマに対して資料を調査して、ディスカッションが十分可能な質疑応答ができているかを評価する。 |
| 特別講義のレポート課題 | 10 % | ： | 外部講師の特別講義とディスカッションの内容を理解できているかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

新・スポーツ医学［改訂新版］(やさしいスチューデントトレーナーシリーズ④)　藤本繁夫　大久保衛　編　嵯峨野書院

アスレティックリハビリテーションガイド　福林徹・武富修治（編集）　文光堂
筋肉と関節のしくみがわかる事典　竹井　仁（監修）　「西東社」

**履修上の注意・備考・メッセージ**

履修するには、「スポーツ医学概論」または「スポーツリハビリテーション」の単位を修得していること。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション、スポーツ医学（整形外科学）のために必要な医学の知識と現場での活動内容について**<br>本講義の概要の説明、スポーツ現場で医学的知識をどのように活かすか、現場での活動状況を通して学ぶ。 | 自分が経験したスポーツ外傷について詳しく調べる | 4時間 |
| 第2回 | **オーバーヘッドアスリートに起こるスポーツ障害について**<br>野球等のオーバーヘッドスポーツの選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。 | オーバーヘッドスポーツで起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する | 4時間 |
| 第3回 | **オーバーヘッドアスリートに起こるスポーツ障害の症例を通してのディスカッション**<br>症例提示をして、自分で情報収集して得られたオーバーヘッドアスリートの障害について質疑応答をすることで理解を深める。 | オーバーヘッドアスリートの外傷・障害に関するデスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **フットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害について**<br>コンタクトスポーツの代表である、サッカー等のフットボールの選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。 | フットボール選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する | 4時間 |
| 第5回 | **フットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション**<br>症例提示をして、自分で情報収集して得られたコンタクトスポーツ（フットボール）の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。 | フットボール選手の外傷・障害に関するデスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **陸上競技選手に起こるスポーツ外傷・障害について**<br>陸上競技選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。 | 陸上競技選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する | 4時間 |
| 第7回 | **陸上競技選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション**<br>症例提示をして、自分で情報収集して得られた陸上競技選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。 | 陸上競技選手の外傷・障害に関するデスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **バスケットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害について**<br>ジャンプ系のコンタクトスポーツである、バスケットボール選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。 | バスケットボール選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する | 4時間 |
| 第9回 | **バスケットボール選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション**<br>症例提示をして、自分で情報収集して得られたバスケットボール選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。 | バスケットボール選手の外傷・障害に関するデスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **バレーボール選手に起こるスポーツ外傷・障害について**<br>ジャンプ系のノンコンタクトスポーツである、バレーボール選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。 | バレーボール選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する | 4時間 |
| 第11回 | **バレーボール選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション**<br>症例提示をして、自分で情報収集して得られたバレーボール選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。 | バレーボール選手の外傷・障害に関するデスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **水泳競技選手に起こるスポーツ外傷・障害について**<br>水泳競技選手に発生しやすいスポーツ外傷・障害について、具体的な対応方法を学ぶ。 | 水泳競技選手で起こるスポーツ外傷・障害について情報収集する | 4時間 |
| 第13回 | **水泳競技選手に起こるスポーツ外傷・障害の症例を通してのディスカッション**<br>症例提示をして、自分で情報収集して得られた水泳競技選手の外傷・障害について質疑応答をすることで理解を深める。 | 水泳選手の障害に関するデスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツ医学全体に関わるテーマを通してディスカッション**<br>第1-13回まで学んだ内容も含めて、スポーツ医学に関わるスタッフ（メディカルスタッフ）はスポーツ現場で何が求められ、どう対応すればベストなのかをディスカッションを通して理解する。 | メディカルスタッフの役割に関するデスカッションで得た知識をレポートにしてまとめる | 4時間 |

SP-4806-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **運動処方と運動療法** | | | | |
| 担当教員名 | 平田　知大 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本講義では、運動処方・運動療法とは何かを知り、処方の構成項目・指導内容・適応などについて学ぶ。特に、内科系疾患を中心に、運動療法が有効な疾患について学ぶ。生活習慣病、呼吸器疾患、脳血管障害、心筋梗塞、うつ病などに有効的な運動療法についても各論で学ぶ。さらにはケースメソッドにより、実際に運動処方によるプログラム作成ができるように学びを深める。そして運動習慣の基本及び重要性を理解し実践できることを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 各疾患に対する運動の効果を学ぶ | 運動することが人体にどのような影響を及ぼすかを知り説明できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・前半を主に講義形式，後半をケースメソッド形式を主体とする
・課題(ケースメソッドを中心)に関してプレゼンテーションを行う
・各ケースメソッド等に対しての問答法、コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業回数の3分の2以上出席した学生を評価対象とする

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| ケースメソッドを中心とした課題提出 | 28　% | ：　毎回の講義で理解度及び思考力を評価する<br>内容の妥当性と論理的構成について、５段階で評価する |
| 期末テスト | 72　% | ：　授業内容の理解度を筆記テストで評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツ医学研修ハンドブック　第2版　基礎科目・応用科目」（監修：公益財団法人　日本スポーツ協会指導者育成専門委員会　スポーツドクター部会・文光社）
その他の参考文献については講義ごとに紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

①、②のどちらかの条件に適合することが望ましい
①「スポーツ生理学概論」、「衛生・公衆衛生学」、「スポーツと安全管理」、「体力トレーニング概論」、「スポーツ医学概論」、「救急処置法」の単位を取得していること
②「AT特別講座」、「体力トレーニング概論」、「スポーツ生理学」、「スポーツ医学概論」、「救急処置法」、「身体構造と機能」、「スポーツ栄養学概論」、「テーピング・ストレッチ」の単位を履修していること

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 授業終了後、講師控室にて対応する

**場所：** 講師控室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **呼吸器と運動**<br>呼吸器系の概要と運動との関連について学ぶ | 呼吸器系の概要と運動との関連について考える | 4時間 |
| 第2回 | **循環器系の概要**<br>循環器系の概要と心電図、血管構造などを学ぶ | 循環器系の概要と心電図、血管構造などを考える | 4時間 |
| 第3回 | **循環器系と運動**<br>運動時の循環器系の反応について学ぶ | 運動時の循環器系の反応を考える | 4時間 |
| 第4回 | **呼吸器疾患と運動**<br>COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの呼吸器疾患の概要を学ぶ | 呼吸器疾患の概要を考える | 4時間 |
| 第5回 | **高血圧の概要**<br>高血圧の概要を学ぶ | 高血圧の概要を考える | 4時間 |
| 第6回 | **高血圧の治療**<br>高血圧の治療の概要について学ぶ | 高血圧の治療の概要を考える | 4時間 |
| 第7回 | **糖尿病の概要**<br>糖尿病の概要について学ぶ | 糖尿病の概要を考える | 4時間 |
| 第8回 | **糖尿病の治療**<br>糖尿病の治療の概要について学ぶ | 糖尿病の治療の概要を考える | 4時間 |
| 第9回 | **脂質異常症の概要**<br>脂質異常症の概要について学ぶ | 脂質異常症の概要を考える | 4時間 |
| 第10回 | **環境と運動**<br>高温環境を含む環境に対する身体の反応について学ぶ | 環境に対する身体の反応を考える | 4時間 |
| 第11回 | **がんに関する概要**<br>がんにおける運動時の身体の反応について学ぶ | がんにおける運動時の身体の反応を考える | 4時間 |
| 第12回 | **免疫系の概要**<br>免疫系の概要について学ぶ | 免疫系の概要を考える | 4時間 |
| 第13回 | **内科的障害の概要**<br>内科的障害の概要について学ぶ | 内科的障害の概要を考える | 4時間 |
| 第14回 | **内科的慢性スポーツ障害**<br>内科的慢性スポーツ障害について学ぶ | 内科的慢性スポーツ障害を考える | 4時間 |

SP-4807-3-2

| 授業科目名 | 応用運動生理学（身体開発システム論） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 禰屋　光男 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Sports Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事した実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

スポーツ生理学などをもとに、運動パフォーマンス向上につながる身体の開発を「リカバリー」の観点から学習する。近年、運動パフォーマンスの向上はトレーニングと合わせてリカバリーが大きな要素となっており、リカバリーの知識を習得することでほかのトレーニングに関する知識と合わせて運動パフォーマンスの向上につなげることが可能になる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 生理学的側面から運動後のコンディショニングの各処方とその効果 | コンディショニングの各処方の効果について生理学的側面から評価できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 様々なトレーニング形態に応じたコンディショニングの処方 | トレーニング形態や環境条件に応じたコンディショニング処方が説明できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング)
ICT(PowerPoint)
ICT(動画活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業期間中の中間テストおよび学期末試験により評価する

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内レポート | 70　% | ： | 各授業時に課す授業内レポートにより理解度を評価する（5点/回×14回） |
| 期末レポート | 30　% | ： | 生理学的側面からコンディショニングやリカバリーの処方の効果についての理解度についてレポート課題により評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「リカバリーの科学 ―スポーツパフォーマンス向上のための最新情報」長谷川博監訳　NAP社

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること.

受講には「スポーツ生理学概論」,「スポーツ生理学Ⅰ」の単位を修得していることが必要となる.
授業に関する資料の配布、試験は全て電子的に実施し、紙媒体の配布は行わない。そのため、パソコンまたはスマートホンを持参すること.

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 随時

**場所**： 研究室

**備考・注意事項**： 初回講義時に説明します

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよび運動生理学におけるリカバリーとは？**<br>授業の内容，進め方，予習・復習、評価方法などについて確認します. | 配布する資料の内容を復習すること | 4時間 |
| 第2回 | **疲労とリカバリーの基礎について**<br>過負荷の原則やトレーニングの影響について学びます. | 配布する資料をもとに、過負荷の原則やリカバリーの基礎について復習すること | 4時間 |
| 第3回 | **オーバートレーニング症候群**<br>連続した疲労によるオーバートレーニングの機序について学びます. | 配布する資料をもとに、オーバートレーニングの特徴を復習すること | 4時間 |
| 第4回 | **ピリオダイゼーションによるオーバートレーニング症候群の予防**<br>ピリオダイゼーションのモデルと疲労に及ぼす影響について学びます. | 配布する資料をもとに、ピリオダイゼーションの特徴を復習すること | 4時間 |
| 第5回 | **アクティブリカバリーの効果**<br>アクティブリカバリーによるパフォーマンスの影響について学びます. | 配布する資料をもとに、アクティブリカバリーの特徴を復習すること | 4時間 |
| 第6回 | **リカバリーの心理的効果**<br>モチベーションやバーンアウトについて学びます. | 配布する資料をもとに、リカバリーが心理的反応に及ぼす影響について復習すること | 4時間 |
| 第7回 | **水分補給**<br>運動中の適切な水分補給について学びます. | 配布する資料をもとに、水分補給の重要点を復習すること | 4時間 |
| 第8回 | **栄養補給**<br>リカバリーとしての栄養補給の有効性について学びます. | 配布する資料をもとに、リカバリー時の栄養補給の重要点を復習すること | 4時間 |
| 第9回 | **睡眠のリカバリーとして効果**<br>リカバリーのひとつとしての睡眠の効果や睡眠の機序について学びます. | 配布する資料をもとに、睡眠のリカバリーとしての効果を復習すること | 4時間 |
| 第10回 | **コンプレッション衣類のリカバリー効果**<br>コンプレッションガーメント（着圧衣類）のリカバリー効果について学びます. | 配布する資料をもとに、コンプレッション衣類の機能について復習すること | 4時間 |
| 第11回 | **局所的な温熱および冷却によるリカバリー効果**<br>アイシングなど、局所の温度変化によるリカバリー処方について学びます. | 配布する資料をもとに、局所的な温熱および冷却リカバリーの効果について復習すること | 4時間 |
| 第12回 | **全身的な温熱および冷却によるリカバリー効果**<br>サウナやアイスバスなど全身的な温度変化によるリカバリー処方について学びます. | 配布する資料をもとに、全身的な温熱および冷却リカバリーの効果について復習すること | 4時間 |
| 第13回 | **リカバリー処方における考慮すべき課題　１．性差**<br>リカバリー処方を実施する際、身体特性の性差について考慮するべき点を学びます. | 配布する資料をもとに、リカバリー実施時の性差に関する特徴を復習すること | 4時間 |
| 第14回 | **リカバリー処方における考慮すべき課題　２．温度と気候**<br>リカバリー処方を実施する際、温度と気候について考慮するべき点を学びます. | 配布する資料をもとに、リカバリー実施時の温度や天候の影響を復習すること | 4時間 |

SP-4704-3-2

| 授業科目名 | スポーツコンディショニング特別講義 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佃　文子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3・4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全14回）。 | | | | |

**授業概要**

アスリートに起こるさまざまなコンディション変化への具体的な対応法について学ぶ。ストレッチングやトレーニングなどコンディショニングの具体的な効果について学習する。また運動をストレスととらえ、人のホメオスターシスへの影響について学習し理解を深める。さらにアンチドーピングの仕組みについて学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツコンディショニング方法論の科学的根拠 | 研究知見を基に、コンディショニング方法の意義と限界を説明できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | アスリートに起こるさまざまなコンディション変化への具体的な対応法 | 運動をストレスととらえ、ホメオスターシスへの影響と効果的な対応策について説明できる。また科学的根拠を踏まえたコンディショニングの計画を立案し説明することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツ指導者やスポーツの支援者に求められる役割 | アンチドーピングにおける支援者や指導者の役割と責務について理解したうえで、スポーツに関わる人の道徳や倫理性を遵守しながら、適切に説明ができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)、ICT(Excel)、ICT(動画活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業ごとのミニ課題 | 70　% | ：　各種のコンディショニング方法論に関して、基本的知識と現場応用の適応範囲の妥当性や今後の活用法について、授業後の理解度を小レポート等で確認し得点化する。 |
| 指定された課題のプレゼンテーション | 30　% | ：　授業内で指定されたテーマの実践応用に関する課題についてグループで調べた成果を発表する。発表内容の妥当性とともに、発表姿勢や態度が，スポーツの価値を高めることに相応しいか否かも評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、4巻健康管理とスポーツ医学　￥2,900円、6巻予防とコンディショニング￥3,000円、第8巻救急処置￥3,000円』を公益財団法人日本スポーツ協会から各自で購入します。購入方法は、授業開始時にお知らせします。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

履修は、救急処置法、スポーツリハビリテーション論、スポーツと安全管理、スポーツコンディショニング論の単位を修得済みであることが望ましい。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業教室

**備考・注意事項**：　急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **運動と疲労**<br>運動をストレスととらえ、人のホメオスターシスに与える影響について学ぶ | ホメオスターシスを支える神経系・内分泌系・免疫系の仕組みについて予習する　復習：ホメオスターシスに係わる神経系と免疫系、内分泌系の調節のしくみを予習する　慢性疲労に至る過程を復習する | 4時間 |
| 第2回 | **運動と免疫系機構**<br>運動によるストレス反応と人の免疫機構の関係について詳しく学ぶ<br>特にアスリートが陥りやすい、オーバートレーニング症候について学ぶ | 細胞性免疫、体液性免疫について予習する　慢性的なストレスとホメオスターシスの破たんについてまとめる | 4時間 |
| 第3回 | **運動ストレスとその他の内科的疾患**<br>アスリートが陥りやすいその他の内科的疾患について学ぶまた海外遠征など時差対策や睡眠に関する対応策についても学ぶ | 予習：一般的な時差対策を調べてくる　復習：講義内容をもとに身近な競技現場へフィードバックするためのポスターを作成する | 4時間 |
| 第4回 | **ストレッチングの種類と効果**<br>ストレッチングの目的、生理学的効果について学習する | 反射の神経生理学を予習する　復習：ストレッチングの種類と運動絵hの影響についてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **種目特性とストレッチング**<br>種目特性を鑑みて必要なストレッチング部位と方法について討議する | 授業を通じて得られたストレッチング方法を、身近な競技現場で導入するためのプレゼンテーション資料をまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **冷却理論**<br>アイシングやクーリングによる生理学的反応について学習する | 復習：経験的に理解しているアイシングの効果について身体内の現象と照らし合わせてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **運動連鎖と運動の介入**<br>下肢の運動を中心に運動学的な身体活動のエネルギー移動と関節機能との関係について理解する。<br>さらに各関節運動の連鎖に影響を与える身体機能やトレーニング、各種のドリルについてグループワークによる他者観察の結果を討議する | 予習：下肢の関節運動と運動連鎖について予習する　復習：運動の観察結果をまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **補装具などによる運動連鎖への影響**<br>サポーターやインソール、テーピングによる、アライメントへの影響や運動連鎖への影響を実際に観察し理解する | 足部、足関節、膝関節などに対する基本的なテーピング は予習しておくこと | 4時間 |
| 第9回 | **女性アスリートの安全を守る**<br>女性アスリートを指導する上で必要な女性アスリートの特徴について、女性アスリートの三主徴、月経とアスリートのコンディション、女性アスリートのフィジカルトレーニングに関するリスク管理について学ぶ | 女性アスリートへのコンディション特性をまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツにおける重傷事故**<br>頭部外傷や脊椎損傷など、重傷事故につながりやすい外傷について学ぶ | 人の生命にかかわるスポーツによる外傷についてまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **競技会における安全対策**<br>スポーツ現場での安全対策について、緊急時対応計画やスポーつ外傷や障害を防ぐための組織的な働きかけについて学ぶ | 授業で学んだことをもとに、身近な競技現場の安全対策を検討しレポートにまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **アンチ・ドーピングとプレーヤーの安全管理**<br>ドーピングの定義と方法を理解する また国内外におけるドーピングコントロールの組織的取組について学ぶ | 予習：これまでの身近なスポーツ活動でアンチドーピング規定に抵触する行為がなかったか振り返り調べてくる　アンチドーピング機構、世界アンチドーピング機構 について復習する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **アンチ・ドーピング活動とスポーツ支援者の役割**<br><br>競技外検査、競技内検査の具体的な実施方法を学び、スポーツ支援者（各種スタッフ・トレーナー）としてドーピングから選手を守る方法と役割を理解する。またスポーツ現場におけるアンチドーピングのための教育啓蒙活動について理解する。 | 予習：アンチドーピングにかかるトレーナーの役割を考える　復習：トレーナーが陥りやすいアンチドーピングに反する行為をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **外部講師特別講義**<br><br>外部講師による講義を受け、スポーツコンディショニングやリスクマネジメントについての科学的根拠と実践的指導の融合について理解を深める | 復習：講義の内容をレポートにまとめる | 4時間 |

SP-4201-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング基礎演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **渋谷・林・山田・北村・竹川・吉川・岡部・坂尾・玉城** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コース教員それぞれより、コーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援（情報によるスポーツ支援））に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動および教員の指導・支援の実践ポリシー（方針・哲学）についての授業を行い、コーチングについての実践的理解を深める。また、スポーツ現場を分析・議論するための各知識と言語力の向上（読解力、分析力、言語技術、ディスカッション、コーチング、心理、測定評価、パフォーマンス分析、ゲーム分析）を目指す。そして、3年次の専門実習と4年次の演習および卒業研究のための基礎力を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | コーチングの土台となる言語技術の理解 | 言語技術の重要性について説明できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | コース教員の専門領域に関する実践経験や研究活動および指導・支援の実践ポリシーの理解、スポーツ現場を分析・議論するための各知識の理解 | 授業内容を理解し、各専門領域と専門知識ついて説明できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 各授業におけるレポート作成やディスカッション | 授業内容と経験も踏まえ自身の考えを明確に示せる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 領域学習の際のグループ学習 | スポーツ現場で求められる周囲との協働を実践できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
ICT(タッチタイピング)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題レポート | 30 % | ： それぞれの授業回担当者が提示する課題レポート（第1から7回、13回の計8回分）を評価します。①授業内容の理解度（20%：知識・技能）、②自身の経験や考えを明確に示せているか（10%：思考・判断・表現）の観点から評価します。 |
| 領域別学習の成果（レポートおよびプレゼン等） | 45 % | ： ①領域学習の成果について、理解度（15%：知識・技能）および分析力（15%：思考・判断・表現）、そして周囲との協働（15%）の観点から評価します。 |
| 技術言語実践 | 10 % | ： 実践を通して、①言語技術の理解度（知識・技能：5%）と②学習した内容の実践意欲（5%：関心・意欲）について評価します。 |
| 最終課題レポート | | ： 学んだ基礎的知識を用いて、専攻する領域について、今後の実践課題と計画について簡潔に述べるものとします。①授業内容の理解度（5%：知識・技能）、②自身の経験や考えを明確に示せている |

か（10%：思考・判断・表現）について評価します。

15　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特に使用しないが、各回において参考図書を設定している。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　各担当教員オフィスアワー

**場所**：　各担当教員研究室

**備考・注意事項**：　各担当教員のオフィスアワー参照

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、北村哲・岡部優真の実践キャリアとポリシー**<br>本授業のオリエンテーションを行うとともに、北村哲・岡部優真の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 北村哲・岡部優真の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **山田庸・工藤慈士の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。**<br>山田庸・工藤慈士の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 山田庸・工藤慈士の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **渋谷俊浩・坂尾美穂の実践キャリアとポリシー**<br>渋谷俊浩・坂尾美穂の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 渋谷俊浩・坂尾美穂の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。 | 4時間 |
| 第4回 | **林弘典・玉城耕二の実践キャリアとポリシー**<br>林弘典・玉城耕二の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 林弘典・玉城耕二の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。 | 4時間 |
| 第5回 | **吉川文人・竹川智樹の実践キャリアとポリシー**<br>吉川文人・竹川智樹の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 吉川文人・竹川智樹の実践経験や研究活動、実践ポリシーについて復習する。 | 4時間 |
| 第6回 | **コース教員の実践キャリアとポリシーのまとめ**<br>各コース教員の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）についてまとめ、コーチングについての実践的理解をさらに深める。 | 各教員の実践経験や研究活動、実践ポリシーについてまとめて記録しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **言語技術の学習**<br>外部講師による言語力向上（読解力、分析力）のための講義を受講し、言語技術の概要について学習するとともに、対話手法やテクストやイラスト分析を実践する。 | 学習した言語技術の概要について復習する | 4時間 |
| 第8回 | **言語技術の実践**<br>前回学習した内容について、グループに分かれ実践する。 | 実践内容についてグループでの振り返りを行う | 4時間 |
| 第9回 | **領域別演習(コーチング)①指導者としての基礎的スキル（対自己力）の学習**<br>①競技力向上、②コーチング、③情報によるスポーツ支援の3つのグループに分かれ、今後6回の講義、実習内容についてのガイダンスを行うとともに、各グループにおける基礎的知識について学習する。<br>学び続けられるコーチの土台なる「対自己の知識（自己理解、内省力」について学習するとともに、マインドマップ等のワークに取り組み、自己認識の力を養う。 | 学んだ内省方法をほかのテーマでも実践する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第10回 | **領域別演習(コーチング)②指導者としての基礎的スキル（対自己力、対他者力）のグループ学習**<br><br>①競技力向上、②コーチング、③情報によるスポーツ支援の3つのグループ別に実施。<br>実習小グループを構成し、前前回の学習内容を活用し、グループワークを通して「対自己の知識（自己理解、内省力」についてさらに学びを深める。また対他者の知識についても学び、グループワークにて他者理解の力を養う。 | 他者がその考えに至った文脈・背景について考える | 4時間 |
| 第11回 | **領域別演習(競技力向上)①競技力向上方策の検討**<br><br>競技力向上のメカニズム（特にトレーニング）・それに関わるコーチの役割について理解し、自身または専門競技の競技力向上方策を検討する。 | 自身のトレーニングの現状を精査し、ノートにまとめておく（トレーニング日誌等） | 4時間 |
| 第12回 | **領域別演習(競技力向上)②競技力向上方策の策定**<br><br>自身で検討した競技力向上方策を、実際の競技活動で活用できるよう策定（トレーニング計画等）する。 | 多様な競技の強化方策（トレーニング計画等）を調査し、その概要をノートにまとめておく | 4時間 |
| 第13回 | **領域別演習(科学的支援)①情報の収集**<br><br>スポーツに関する情報収集について整理し、自身の競技において得られうる情報を検討する。具体的に、ゲームのスタッツ、体力テスト、ハイライト映像、バイメカニクスによる動作分析について検討する。 | グループ実習の発表資料の充実、発表練習をする | 4時間 |
| 第14回 | **領域別演習(科学的支援)②情報の見える化**<br><br>スポーツに関する情報収集について整理し、情報を見やすくまとめ、見えるかする方法について検討する。特に、スタッツや動作解析のグラフ化、ハイライト及び動作映像の加工について検討する。 | 各グループの発表内容についてまとめ、復習する | 4時間 |

SP-4202-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング専門実習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **渋谷・林・山田・北村・竹川・吉川・岡部・坂尾・玉城** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援（情報によるスポーツ支援））に関するスポーツ現場での実践的理解を深めるために必要な基礎的知識や実践力を学修する。内容としては（1）学内における個別スポーツ競技の現場の視察実習とその事前事後のディスカッションから、コーチングの役割やコーチング行動をはじめ、コーチングやチームマネジメントに求められる実践的な知識やスキルについて学ぶ。次に（2）領域学習において競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法および科学的指導支援の手がかりについて概観し、競技スポーツ組織の運営において重要な実践知について学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学内における個別スポーツ競技の現場の視察実習と競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法および科学的指導支援の手がかりに関する領域学習 | コーチングの役割やコーチング行動、コーチングやチームマネジメントに求められる実践的な知識やスキル、・　　競技者の関心や意欲、体力・技能の程度を踏まえた指導法および科学的指導支援の手がかりと競技スポーツ組織の運営において重要な実践知について説明できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 視察実習と領域学習の際のディスカッションとレポート作成 | 実践知の学習で得た知識とスキルについて、経験を踏まえて自身の考えを明確に示せる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 視察実習と領域学習の際のグループ学習 | スポーツ現場で求められる周囲との協働を実践できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 視察実習レポート | 40 % | ： 視察実習の成果について、理解度(15%:知識・技能)および自身の考え(20%:思考・判断・表現)、そして周囲との協働(5%)の観点から評価します。 |
| 領域別実習の成果（レポートおよびプレゼン等） | 60 % | ： 領域学習の成果について、理解度(15%:知識・技能)および分析力(30%:思考・判断・表現)、そして周囲との協働(15%)の観点から評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特に使用しないが、各回において参考図書を設定している。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
また、コーチング専門実習Ⅱとの連結についても配慮しなければならない。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。
授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 各担当教員オフィスアワー

**場所**： 各担当教員研究室

**備考・注意事項**： 各担当教員のオフィスアワー参照

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびコーチングの現状と実践知**<br>授業の進め方や内容について把握する。また、これまでの競技スポーツ活動についてプレーヤー、コーチ、支援者のそれぞれの視点から振り返り、競技スポーツ活動の現状について整理するとともに今後の実践的な学習の内容と方法について理解する。 | コーチングの現状認識と本実習に期待する学習内容についてノートにまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **コーチングの諸問題とコーチングの基礎的事項の概要**<br>競技スポーツにおけるコーチングの課題について概観する。競技スポーツを志向する組織におけるプレーヤー観や行動、規律とコーチに関してその役割とコーチング行動、組織を運営する上で把握しておくべき実践知のほか、各競技活動の支援する上で把握しておく実践知について、ブレインストーミングとディスカッションを行い、競技スポーツに必要な諸課題について考察する。 | 興味・関心のあるスポーツ競技において一般的に求められる基本的なコーチングの知識についてノートにまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習の事前指導**<br>視察実習のための準備を行う。内容としては、グループ分けの後、視察競技種目や指導者のイメージのすり合わせ、また観察の観点と記録法や評価法の手法などについてディスカッションし、各グループオリジナルのスカウティングシートを作成し、次回からの視察実習に備える。 | 学内のスポーツ活動特徴を事前調査する。 | 1時間 |
| 第4回 | **競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習①**<br>学内におけるスポーツ現場の視察を通して、プレーヤ活動、コーチングの役割やコーチング行動、支援の様子をはじめ、充実した競技スポーツの活動の運営に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。 | 実習のポイントについてノートにまとめる。 | 1時間 |
| 第5回 | **競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習②**<br>学内におけるスポーツ現場の視察を通して、プレーヤ活動、コーチングの役割やコーチング行動、支援の様子をはじめ、充実した競技スポーツの活動の運営に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。 | 前回の実習内容を整理する。 | 1時間 |
| 第6回 | **競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習③**<br>学内におけるスポーツ現場の視察を通して、プレーヤ活動、コーチングの役割やコーチング行動、支援の様子をはじめ、充実した競技スポーツの活動の運営に求められる実践的な知識やスキルについて学習する。 | 前回の実習内容を整理する。 | 1時間 |
| 第7回 | **競技スポーツの活動・コーチング現場の視察実習の振り返り**<br>学内におけるスポーツ現場の視察を通して、学び得た内容や想起された問題点、疑問点について発表とディスカッションを行う。実習を振り返り、学習のポイントを整理するとともに、コーチング実践についての理解を深める。 | 教員及び他の専門家からのアドバイス・意見を踏まえて、今後の競技活動に本実習を活かせるようにポイントをノートにまとめる。 | 1時間 |
| 第8回 | **領域別実習（コーチング）①省察スキルの実践**<br>視察実習の内容から自身が注目した事項について、マインドマップ等のワークに取り組み、省察スキルを養う。 | 学んだ内省方法をほかのテーマでも実践する。 | 1時間 |
| 第9回 | **領域別実習（コーチング）②他者理解・ファシリテーションスキルの実践**<br>前回の学習内容を活用し、グループワークを通して、他者の考えの理解また、引き出すスキルを養う。 | 他者の考えに至った文脈・背景について考える。 | 1時間 |
| 第10回 | **領域別実習（競技力向上）①競技力向上につながるフィジカルの理論**<br>競技力向上のメカニズム、特にフィジカル理論について理解する。 | 競技力向上におけるフィジカルの重要性について検討する。 | 1時間 |
| 第11回 | **領域別実習（競技力向上）②競技力向上につながるフィジカルテストの実践**<br>競技力向上におけるフィジカルテストを実施し測定評価する。 | 自身の競技におけるフィジカルテストについてまとめておく。 | 1時間 |
| 第12回 | **領域別実習（科学的支援）①スポーツ情報の収集について** | スポーツの結果速報を検索し，どのようにスタッツ情報がまとめられているか調査する. | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツ情報の収集について、どのような情報が収集できるかを各種スポーツで検討する。また、情報を収集するためのツール（道具・機材）にはどのようなものがあるかを検討する。さらに、スポーツ情報の見える化について、見やすいフィードバック方法を検討する。 | | |
| 第13回 | **領域別実習（科学的支援）①スポーツ情報収集の実践**<br><br>スポーツに関する情報を収集実践する。ゲームパフォーマンス分析を用いてゲーム映像からスタッツを収集し、特徴をグラフで示しみえる化する。 | 個別スポーツ競技③現場の観察レポートを作成する。 | 1時間 |
| 第14回 | **まとめ（領域別）**<br><br>全14回の学習を振り返り、今後のコースでの学びの方向性や内容について具体化を図る。 | 前回までの授業内容を整理する。 | 1時間 |

SP-4203-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング専門実習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **渋谷・林・山田・北村・竹川・吉川・岡部・坂尾・玉城** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援）別に展開し、より専門的に実践的な学習をする。授業では、専門領域の理解をさらに深められるよう、それに必要な基礎的知識や実践力を学修するために、スポーツ現場に散在する様々なデータの収集と加工の仕方、データ分析の方法の理解と習得、スポーツ現場へのフィードバックの方法などの理解と習得を目指す。そして、４年次の卒業研究を遂行するための基礎力を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | コーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援）別に展開し、より専門的に実践的な学習をする。 | 専門領域の理解をさらに深め、習得を目指す。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 各領域での様々な実例から、思考・判断・表現力について学ぶ。 | コーーチングに必要とするコミュニケーションスキルの獲得。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

レポート提出が成績評価につながるので、実習先での学びを詳細にノートに書き記しておくこと。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題レポート | 80 % | ：①授業で取り上げた知識や手法について十分に理解しているか、②データの収集、分析、加工は適切に行われているか、③現場に有用なフィードバックとなりえているかの3つの観点から評価します。 |
| 成果プレゼン | 20 % | ：①基本的なプレゼンスキルを発揮できているか、②スポーツ現場への還元を意識したプレゼンであるかの観点から評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適宜紹介する。また、プリント等の資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 各担当教員オフィスアワー

**場所**： 各担当教員研究室

**備考・注意事項**： 各担当教員のオフィスアワー参照

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびこれからの学びについての整理**<br>授業の進め方や内容について把握する。また、これまでの学修（コーチング基礎演習Ⅰ、コーチング専門実習Ⅰ）を振り返りながら、コーチングコースの各専門領域において実践的な学習方法について理解する。 | 各自の学びの観点を整理する。 | 1時間 |
| 第2回 | **各専門領域における実践を深めるための基礎的知識①**<br>競技力向上領域：コーチング現場の現状を踏まえ、コーチに求められる知識やスキルについて学び、コーチング実践に繋げていく。<br>コーチング領域：コーチの資質や素養に関する知見について学習する。<br>科学的支援領域：現場で活用できるフィードバック手法について概観する（体力、心理、ゲーム、動作） | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第3回 | **各専門領域における実践を深めるための基礎的知識②**<br>向上領域：アスリートの競技力向上を「支える」コーチの役割と機能を理解し、競技力向上のための学びを広げ、深める。<br>コーチング領域：指導対象の心理的な特性についての知見ついて学習する。<br>科学的支援領域：データの扱い方の学習①エクセルの使用方法の学習を通して、フィードバックで用いられる集計方法や、グラフ作成ついて学習する。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第4回 | **各専門領域における実践を深めるための基礎的知識③**<br>競技力向上領域：組織運営に求められる知識とスキルを概観する（特定競技の年間スケジュールや競技スポーツのマネジメントについて情報収集し、求められる知識とスキルについて理解を深める）。<br>コーチング領域：指導対象者とコーチ、またアントラージュとの関わりで起きる諸問題に関する知見ついて学習する。<br>科学的支援領域：データの扱い方の学習②フィードバックで用いられる統計的手法（平均値、合成得点、因子得点）などについて学習する。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第5回 | **各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査①**<br>競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査の事前準備①<br>コーチング領域：グループ活動を通じてスポーツ現場における諸問題について調査テーマを設定する。<br>科学的支援領域：心理アンケートのフィードバック用紙の作成の実践してみる。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第6回 | **各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査②**<br>競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査の事前準備②<br>コーチング領域：グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を企画する。<br>科学的支援領域：体力テストを実施し、測定結果からフィードバック用紙作成を実践する。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第7回 | **各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査③**<br>競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査①：集中授業<br>コーチング領域：グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行する。<br>科学的支援領域：記述的ゲーム分析法について、学び、実践する（スポーツコードとコーダを用いたゲームパフォーマンス分析の実践）。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第8回 | **各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査④**<br>競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査②：集中授業<br>コーチング領域：グループごとに設定したテーマに対応した実験、調査を遂行し、必要であれば、方法の改善などの軌道修正を行う。<br>科学的支援領域：映像によるゲーム分析を学び、実践する（タグ付けソフトウェアによりシュートシーンなどのハイライトを抽出し，ハイライト動画を編集する）。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第9回 | **各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査⑤**<br><br>競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査結果の分析とまとめ（分析とフィードバック）①：集中授業<br>コーチング領域：得られたデータを分析／解析するための方法論を駆使し、分析結果を有益な情報へと加工し、グループ内外での意見交換を行い、改善をはかる。<br>科学的支援領域：バイオメカニクス測定を実践する。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第10回 | **各専門領域におけるスポーツ現場の実態調査⑥**<br><br>競技力向上領域：個別スポーツ競技のイベントまたはコーチング支援の実際の視察調査結果の分析とまとめ（分析とフィードバック）②：集中授業<br>コーチング領域：スポーツ現場への提言を行うため、分析結果を発表し、質疑応答を展開する。<br>科学的支援領域：バイオメカニクスのデータ集計を実践する（バイオメカニクスデータを抽出し，それぞれの角速度，速度などのデータをグラフに見える化）。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第11回 | **各専門領域における学術研究・実践研究の概観**<br><br>各専門領域より事後学習および事前学習について指示する。 | 各専門領域より事後学習および事前学習について指示 | 1時間 |
| 第12回 | **各専門領域における実践に活用できる研究資料の作成**<br><br>自身の卒業研究に活用できる研究資料（論文・文献要約集等）を作成する。 | プレゼン資料の作成 | 1時間 |
| 第13回 | **研究活動計画の策定**<br><br>自身の研究テーマおよび研究活動計画を報告（発表）し、ディスカッション等を経たうえで卒業研究に着手する。 | ディスカッション内容を踏まえての整理 | 1時間 |
| 第14回 | **まとめ（領域別）**<br><br>本授業で取り組んだ調査活動とフィードバック資料の作成などから、学んだことについてさらに理解を深める。 | 研究活動計画の修正 | 1時間 |

SP-4204-3-2

| 授業科目名 | コーチング理論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林　弘典 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005～2022年）日本スポーツ協会コーチディベロッパー（2023年～現在）の3つ実務経験から、性別、年齢、競技種目に関わらず多様な学生に対応している。（1～14回） | | | | |

**授業概要**

本授業は、日本スポーツ協会が提唱しているプレーヤーズセンタードなコーチングを理解することが目的です。まずは、その背景となるスポーツの語源・意義と価値、コーチングの語源や目的について学びます。次に、プレーヤーズセンタードなコーチングを実践するために必要となる知識・技能・思考・判断・表現（対他者力・対自己力）を学修します。また、コーチングにおいて、コーチの制御行動、暴力やハラスメントの定義や種類を学修し、これらを絶対に行ってはならない理由を理解します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツの意義と価値、コーチの重要性 | スポーツの意義と価値、コーチの重要性を理解できる。 |
| 2. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | プレーヤーズセンタードなコーチングに関する知識・技能 | プレーヤーズセンタードなコーチングに関する知識・技能を理解できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | コミュニケーションスキル、対自己力に関する思考・判断・表現 | プレーヤーズセンタードなコーチングにおけるコミュニケーションスキル、対自己力に関する思考・判断・表現を理解できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | プレーヤーズセンタードなコーチングを目指して学び続けていくこと | プレーヤーズセンタードなコーチングを目指して学び続けていくことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 小レポート | 20 % | ： | 第1～6回の授業内で作成するミニレポートの妥当性を5段階で評価する。 |
| 小テスト | 20 % | ： | 第14回の授業においてテストを行い、5段階で評価する。 |
| 最終レポート | 30 % | ： | 第13回の授業内で作成する最終レポートの妥当性を5段階で評価する。 |
| 小レポート | 30 % | ： | 第7～12回の授業内で作成するミニレポートの妥当性を5段階で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

Reference Book（日本スポーツ協会、2021年）。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、スポーツ意義と価値**<br>授業概要や授業計画、成績評価の方法を理解する。スポーツの語源、スポーツの意義と価値について学修する。また、スポーツと体育の関係について理解する。 | シラバスを熟読する。また、スポーツ庁のホームページにある「スポーツ庁が考える『スポーツ』とは？Deportareの意味すること」を熟読する。さらに、文部科学省の学習指導要領（保健体育編「教科の目標」）を熟読する。あるいは、Reference Bookのpp.71-99. を熟読する。 | 4時間 |
| 第2回 | **コーチングの目的**<br>コーチの語源、コーチングの目的、コーチの役割、グッドプレーヤー像、グッドコーチ像、コーチングの目的としての4C’sについて学修する。 | コーチの語源、コーチングの目的、コーチの役割、グッドプレーヤー像、グッドコーチ像、コーチングの目的としての4C’sについて調べる。あるいは、Reference Bookのpp.2-16. を熟読する。 | 4時間 |
| 第3回 | **プレーヤーズセンタードなコーチング**<br>自己決定理論、プレーヤーズファースト、プレーヤーズセンタード、Well-beingについて学修する。 | 自己決定理論、プレーヤーズファースト、プレーヤーズセンタード、Well-beingについて調べる。あるいは、Reference Bookのpp.5-9. を熟読する。 | 4時間 |
| 第4回 | **コーチの制御行動**<br>コーチの制御行動について学修する。 | コーチの制御行動について調べる。あるいは、Reference Bookのpp.9-16. を熟読する。 | 4時間 |
| 第5回 | **暴力・ハラスメントの根絶**<br>暴力、暴言、ハラスメントの定義や種類について学修する。また、どうして暴力、暴言、ハラスメントを行ってはならないことを学修する。 | 暴力、暴言、ハラスメントの定義や種類について調べる。あるいは、Reference Bookのpp.103-110. を熟読する。 | 4時間 |
| 第6回 | **コーチに求められる役割**<br>コーチに求められる役割について学修する。 | コーチに求められる役割について調べる。あるいは、Reference Bookのpp.22-28. を熟読する。 | 4時間 |
| 第7回 | **コーチに求められる知識とスキル**<br>コーチング文脈、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識について学修する。 | コーチング文脈、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識について調べる。あるいは、Reference Bookのpp.29-32. を熟読する。 | 4時間 |
| 第8回 | **効果的なトレーニングづくり**<br>SMART、明確なアウトカム・オーセンティック・主体的なトレーニングの重要性について学修する。 | アウトカムやオーセンティックの意味、主体的と自主的な違いについて調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **相手を理解しようとする観察と傾聴**<br>コミュニケーションスキル、コーチングにおける観察と傾聴のスキル、コンフリクトマネジメントについて学修する。 | コミュニケーションスキル、コーチングにおける観察と傾聴、コンフリクトマネジメントについて調べる。あるいは、Reference Bookのpp.35-37. を熟読する。 | 4時間 |
| 第10回 | **問いかけのスキル**<br>オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンのスキルについて学修する。 | オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンについて調べる。あるいは、Reference Bookのpp.37-39. を熟読する。 | 4時間 |
| 第11回 | **コーチングにおける4つのアプローチ（指示・提案・質問・委譲）**<br>コーチングにおける4つのアプローチについて学修する。 | コーチングにおける4つのアプローチについて調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **対自己力：コーチの学び、コーチセルフマネジメント**<br>コーチの学びの場（媒介学習・非媒介学習）、省察の過程、コーチの成長過程、自己認識、学習コミュニティ、コーチデベロッパーの役割、心のしなやかさ（レジリエンス）、アンガーマネジメント、成長的マインドセット、論理的思考、分析的思考、創造的思考、批判的思考について学修する。 | 省察、コーチデベロッパー、心のしなやかさ（レジリエンス）、アンガーマネジメント、成長的マインドについて調べる。あるいは、Reference Bookのpp.56-70. を熟読する。 | 4時間 |
| 第13回 | **まとめ、最終レポート作成**<br>1～12回の授業内容を振り返り、最終レポートを作成する。 | 1～12回の授業内容及びReference Book（シラバスに記載されたページ）を見返し、それぞれの授業内容をまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ、小テスト**<br>1～12回の授業内容のポイントを解説し、小テストをする。 | 1～12回の授業内容及びReference Book（シラバスに記載されたページ）を見直す。 | 4時間 |

SP-4603-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **パフォーマンス分析論** | | | | |
| 担当教員名 | **山田，岡部** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

より良いスポーツパフォーマンスを発揮するためには、スポーツのパフォーマンス構造を理解して、運動を力学や運動学的な観点で捉えることが必要不可欠である。また、スポーツ場面から得られる情報を収集、整理、分析するシステムを理解・活用し競技現場に対して有益な情報を提供する必要がある。
スポーツパフォーマンスの構成要因や各要因相互の関係などの科学的知見から、スポーツパフォーマンスを分析してトレーニングに必要な課題を導き出す方法、選手に対する戦術的アドバイス等を適切に導き出し、提供する方法を学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | パフォーマンスを科学的な視点から分析・評価し、分かりやすく提示・表現する方法の習得。 | 自身の経験してきたスポーツや現在指導しているスポーツのパフォーマンスを分析して、トレーニングを計画・実践・評価・再考し、他者へ提示できるようになる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 映像を加工・分析して動作を客観と主観に分類して、自身のスポーツ現場における諸課題を解決へと導く能力の習得. | パフォーマンスを客観的に捉え、自分自身や他者のスポーツ現場で有効的に活用できるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

毎回の講義では、学習内容に関するレポート課題の提出を求める。
やむなく講義を欠席する際には、レポート課題の内容を自主的に調査して提出すること。
授業の復習・予習を目的とした自宅学習課題の提出を求めることから、自宅での学習・調査が必須となる。
プレゼンテーションやグループ課題の準備のために、授業時間外での学習・調査・発表準備が必要となる。

-評価の基準-
適切であり優れている：5点、適切である：4点、一部適切である：3点、適切でない：2点、不足している：1点
課題などの提出遅れは10～20%を減点する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各講義におけるレポート課題 | 50 % | ： 到達目標を達成している：評価の基準×5点（25点満点）<br>個人やグループの意見が述べられているか？：評価の基準×4点（20点満点）<br>自身の活動への応用内容が述べられているか？：評価の基準×1点（5点満点） |
| 授業内プレゼンテーション | 40 % | ： プレゼンテーション作成と発表への貢献・参加度：評価の基準×4点（20点満点）<br>到達目標を達成している：評価の基準×3点（15点満点）<br>個人やグループの意見が述べられているか？：評価の基準×1点（5点満点） |
| 予習・復習課題 | 10 % | ： 全ての課題が提出されおり、全ての回答が適切になされている：評価の基準×2点（10点満点） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツパフォーマンス分析入門（大修館書店）
ハイパフォーマンスの科学（ナップ）
スポーツ・バイオメカニクス入門（杏林書院）
走る科学（大修館書店）
跳ぶ科学（大修館書店）
投げる科学（大修館書店）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本講義を受講するに際して、スポーツバイオメカニクス概論、運動学概論、スポーツ生理学Ⅰ、スポーツ指導論を履修していることが望ましい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業終了後など

**場所**：　講義場所、B211研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス：スポーツパフォーマンス分析とは何か**<br>授業の評価や今後の授業内容について確認をする．スポーツパフォーマンス分析は何を，なぜ，誰が，いつ，どのように行うのかを理解する． | 今までどのようにスポーツのパフォーマンスを分析してきたか，自身の経験を発表できるように準備する． | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツにおけるパフォーマンス分析の目的と役割**<br>スポーツ場面において，パフォーマンス分析はどのような目的で行われ，どのような役割を担っているのかを理解する． | 実際にスポーツパフォーマンス分析が行われている場面，どのような人が活躍しているかを調査する． | 4時間 |
| 第3回 | **パフォーマンス分析の着眼点**<br>基本的なスポーツ動作について，専門家と非専門家がどのような部位のどのような動作を重視しているかについて評価して，その相違についてディスカッションする． | 運動の”コツ”に関して，トップアスリートが述べている内容をインターネット，雑誌，新聞などから調査する． | 4時間 |
| 第4回 | **映像を用いたパフォーマンス分析：連続写真の作成**<br>映像を取り出して，連続写真を作成する方法について学習する．作成した連続写真を利用して，スポーツ動作（パフォーマンス）を客観的に評価する方法について学習する． | 走る，跳ぶ，投げるなどの基本的動作について，どのような動作が効率的であるかを調査しておく． | 4時間 |
| 第5回 | **映像を用いたパフォーマンス分析：連続写真の分析**<br>スポーツ動作の相違点を連続写真から読み取って評価する．その評価をもとに動作課題を検討する． | 連続写真から読み取れる動作の特徴や動作課題について，レポートにまとめる． | 4時間 |
| 第6回 | **映像を用いたパフォーマンス分析：サイマルカム動画の作成**<br>２つの映像を重ね合わせることで、動作の相違点を可視化することができるサイマルカム動画の作成方法について学習する。作成し動画資料を利用して、スポーツ動作（パフォーマンス）を客観的に評価する方法について学習する． | 合成映像から読み取れる動作の特徴や動作課題について，レポートにまとめる． | 4時間 |
| 第7回 | **映像を用いたパフォーマンス分析：スライド資料の作成と発表**<br>授業内で学修した、連続写真の作成方法やサイマルカム動画の作成方法を応用し、自身が課題としているスポーツ動作に関するスライド資料を作成し、発表する。 | 連続写真やサイマルカム動画の作成元となる映像資料を収集する。 | 4時間 |
| 第8回 | **動作の言語化とトレーニング評価**<br>スクワットやラテラルランジなどのウェイトトレーニング種目は、明確な動作マニュアルと評価基準がある。これらを学習しトレーニング動作の言語化と評価を実践する。 | ウェイトトレーニングのマニュアルを調査する。 | 4時間 |
| 第9回 | **GPSによるトラッキングデータの評価**<br>屋外球技で用いられるGPSトラッキングシステムによるTime-motion分析を学習し、走行距離や速度、スピードゾーンなどの指標を学習しパフォーマンスの数値化の利点と課題について議論する。 | 各種スポーツにおけるGPSやトラッキングデータの活用例について調査する | 4時間 |
| 第10回 | **GPSによるトラッキングデータの評価の実践**<br>サッカーの実測GPSデータを用いてグループワークを行い、担当チームおよび選手の特徴や現象を評価しスライドを作成、発表する。 | Jリーグのスタッツレポート（J STATS REPORT）を調査し、各チームの分析例を調査する | 4時間 |
| 第11回 | **球技におけるゲーム映像分析の理解** | 各種スポーツでのダートフィッシュの機能や活用事例について調査する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | サッカーを題材に、映像を加工するダートフィッシュをもちいたゲームの映像分析手法を学習する。動画の読み込み、切り抜き（タギング）やアナライザー機能（2D/3D描画）など映像の作成を学習する。 | | |
| 第12回 | **球技におけるゲーム映像分析の実践**<br><br>サッカーを題材に、実際のゲーム映像を用いて動画の切り抜き（タギング）や２Dアナライザー機能（２次元描画）を行い、映像の作成を実践する。 | ダートフィッシュのアナライザー機能を実際に使用してミニプレゼン動画を作成する。 | 4時間 |
| 第13回 | **球技におけるゲーム映像分析を用いたプレゼンテーション**<br><br>作成したゲーム分析の動画を用いて、各グループがプレゼンテーションを行う | それぞれ発表で使用した大会のマッチレポートや大会ハイライトを閲覧し確認する。 | 4時間 |
| 第14回 | **球技におけるゲーム映像分析：速度データの収集と分析**<br><br>サッカーのゲーム映像から選手の速度データを収集し、分析する手法を学習する。 | ダートフィッシュの3Dアナライザー機能を実際に動かして実践する。 | 4時間 |

SP-4604-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ゲーム分析法** | | | | |
| 担当教員名 | **山田・玉城・吉川** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 山田教授はJリーグ徳島や韓国江原FCコーチとして，竹川准教授は男子バレーボール日本代表および同U21/U20/U23スタッフとして，吉川准教授はJISSスポーツ情報研究部研究員として，坂尾講師はU17/16/15/日本女子代表コーチとして，玉城講師はバスケットボール男子日本代表やBjリーグ島根スサノオマジックのスタッフとして，ゲーム分析実践実績がある．以上の実践経験を講義内容に結びつけている． | | | | |

**授業概要**

スポーツのなかでも特に球技において著しい発展を遂げるゲームパフォーマンス分析を対象に、その手法を学習する。質的データを収集する質的分析法と，量的データを収集する記述分析を学習する。また、その知識をもとに各種スポーツを対象にゲーム分析を行い、発表と議論を通じてゲーム分析の実践力を高める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | ゲームパフォーマンス分析に関する知識と情報を集約し見える化し伝達する力 | 各種スポーツにおいて，ゲームパフォーマンス分析を実践できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 得られた情報を集約し，要点を見抜き，適切に判断し伝達する力 | スポーツデータや動画から適切な情報を抜き出し，対象者にプレゼンテーションできる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

ICT(タッチタイピング), ICT（PowerPoint）, ICT（Excel）, ICT（動画活用）, ICT（専用機材・アプリ活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 100 % | ： 授業内で課されるゲーム分析に関する発表やレポートなどの課題を適切に行っているか. |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業の中で紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、ゲーム分析法の基礎（吉川文人）**<br>ゲーム分析の手法は、情報技術の発達により大きく変革してきている。これまでのコーチの観点からの質的分析法に合わせて、客観的データに基づく記述分析をもちいたゲーム分析法について基礎知識を解説する。 | ゲーム分析法について図書やサイトを調べる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第2回 | **量的分析の概観（吉川文人）**<br><br>記述分析（Notational Analysis）のこれまでの発展を振り返り、どのような研究成果が公表されてきており、それが実践的にどのように応用展開され得るのかを含め、記述分析アプローチを概観する。ゲーム型競技のうち「ネット型」、「ゴール型」、「ベースボール型」について、公開されている資料を通じて量的分析とそこで取り扱われているデータに関する具体例を紹介する。 | 自らが専門とするスポーツ競技や興味関心を持っているスポーツ競技の競技特性 と関連づけて、その競技のゲーム分析に求められる技術の機能について整理する。 | 4時間 |
| 第3回 | **量的分析へのデータサイエンスの応用可能性（吉川文人）**<br><br>Volume（データの膨大さ）、Variety（データの多種多様性）、Velocity（分析のリアルタイム性）といった３つの要因の組み合わせで課題や価値が異なるビッグデータとの関連性を含め、今後の量的分析技術の可能性の一端を概観する。また，これまでの内容を踏まえ，受講生各自が設定するゲームあるいはパフォーマンスの分析目的に合致した技術の要件を定義する実習を行い、発表を通じて各自のアイデアを共有する。 | データサイエンスが応用されている業界・業種やその応用事例について幅広に調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **量的分析技術の要件整理（吉川文人）**<br><br>″「量的分析の概観」及び「量的分析へのデータサイエンスの応用可能性」の講義を踏まえ、受講生各自が設定するゲームあるいはパフォーマンスの分析目的に合致した技術の要件を定義する実習を行い、発表を通じて各自のアイデアを共有する。 | 授業で取り扱った測定評価の技術やデータサイエンス技術の動向を踏まえ、自らの競技力向上につなげたい分析の対象と内容について整理する。 | 4時間 |
| 第5回 | **【ゴール型球技】バスケットボールの分析 -1-（玉城耕二）**<br><br>近年、バスケットボールの世界では科学的なデータを重要視される。本講義では、ボックススコアと呼ばれる比較的入手が容易なデータから、4 Factorなどバスケットボールで勝敗を決する競技性について考える。 | Bリーグ・WJBLなどのボックススコアや、個人スタッツを調べ、ハイライト動画を観察し、バスケットボールの競技特性について学習する。 | 4時間 |
| 第6回 | **【ゴール型球技】バスケットボールの分析 -2-（玉城耕二）**<br><br>本講義では、バスケットボール分析を支えるツールの中でも代表的なスポーツコードについて、現場での使用例を学ぶとともに、ボックススコアだけでは抽出できない戦術傾向について説明する。 | 競技スポーツにおいて、用いられる映像分析ツールについて調査し、それぞれの特徴を学習する。 | 4時間 |
| 第7回 | **【ゴール型球技】バスケットボールの分析 -3-（玉城耕二）**<br><br>本講義では、バスケットボールの試合に関して、ボックススコアやスポーツコードから抽出されるデータをもとに、データと実践を紐付ける実践例について解説する。 | 日本バスケットボール協会の研修会動画の中から、データ分析に関する情報を閲覧し、評価事例について学習する。 | 4時間 |
| 第8回 | **【ゴール型球技】バスケットボールの分析 -4-（玉城耕二）**<br><br>バスケットボールの映像やデータを扱い分析の実践を試行する。 | バスケットボールの分析事例について調査する。 | 4時間 |
| 第9回 | **【ネット型球技】バレーボールの分析（山田庸）**<br><br>バレーボールの技能を理解した上で、各種決定率や効果率などのスタッツデータを学習し、チームごとの傾向を分析し、発表する。 | SVリーグのHPやデータサイトスポーツブルからバレーボールのスタッツを収集し調査する。 | 4時間 |
| 第10回 | **【ネット型球技】バドミントンの分析（山田庸）**<br><br>バドミントンの技能を理解した上で、ショットの攻撃性を質的分析・評価を実践しプレーのレポートをまとめる。 | 吹田真二氏「バドミントンにおける新しいゲーム分析法の開発」を熟読する。 | 4時間 |
| 第11回 | **【ネット型球技】テニスの分析（山田庸）**<br><br>テニスにおけるホークアイシステムをもちいたショットデータについて学習し、そのデータから選手のパフォーマンス情報を見える化する手法を実践する | ホークアイシステムと各種協議での活用について調査する。 | 4時間 |
| 第12回 | **【ベースボール型球技】野球の分析１（山田庸）**<br><br>野球のデータ分析であるセイバーメトリクスについて学習し、MLBのLahman databaseによるシーズンスタッツデータを紹介するとともに、そのデータの一部を活用して選手の能力評価を試行しプレゼンテーションを行う。 | セイバーメトリクスに関する書籍を熟読する。 | 4時間 |
| 第13回 | **【ベースボール型球技】野球の分析２（山田庸）**<br><br>MLBの投球データであるSTATCASTを紹介するとともに、そのデータの一部を活用して選手の能力評価を試行しプレゼンテーションを行う。 | MLBのデータサイトBaseball Savantを閲覧し選手スタッツを調査する。 | 4時間 |
| 第14回 | **【ベースボール型球技】野球の分析３（山田庸）**<br><br>MLBを対象とした研究発表を概観し、その報告について学習する。また、野球のアナリストの活動を紹介しその役割やスキルについて学習する。 | 野球のアナリストが報告しているHPやデータを調査する。 | 4時間 |

SP-4605-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **身体操作法** | | | | |
| 担当教員名 | **高橋・山田・岡部** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツの指導や動作分析を行う時に、「自身の身体を動かす感覚」が優れていることは、「目の付け所を探す」時に必ず必要となる。普段何気なく動かしている身体の部位（肩甲骨、股関節、体幹）などの動かし方に始まり、スポーツの中で重要となる動きを学び、さらにそれらの指導ができるようになることを目的とする。そして、それらの動きに潜むバイオメカニクスや生理学的な原則を理解し、スポーツの中で行われている様々な運動を見るための能力を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツパフォーマンスを向上させるために適切な身体の動きや姿勢 | 身体の構造と機能を理解した上で合理的な動きや姿勢がパフォーマンスに与える変化を十分に理解・実践できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツパフォーマンスを向上させるための身体操作に必要な感覚と指導法 | グループを作り、生徒役に対して模擬授業を行う。その時、パフォーマンスの変化を引き出すことのできる動きや姿勢を十分に実践・指導できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　・ICT(動画活用、Formsの活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業への参加度 | 25 % | ： 実技に対しての積極的な取組みを評価する。 |
| レポート | 25 % | ： 授業ごとのミニレポートや、1課と14課の身体の変化に関するレポートを評価する。 |
| 模擬授業指導案 | 25 % | ： 模擬授業のための指導案を作成し、提出する。 |
| プレゼンテーション | 25 % | ： プレゼンテーションとしてグループでのミニ講義を行う。その時に受講生にフィードバックシートを書かせ、その内容から評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業の前後

**場所**： 授業会場

**備考・注意事項**： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて事前にアポイントを取り、研究室（高橋：B306、山田：B207、岡部：B211）を訪れること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、身体の特徴の確認、身体操作法の概略**<br>・本授業の計画、評価方法などについて説明する。<br>・股関節や肩甲骨の可動域などについての計測を行う。<br>・小レポートをまとめ、提出する。 | 自身の身体の特徴を理解し、股関節と肩甲骨の構造について解剖学の本などで調べる。また、動画の内容を参考に、今後学びたいことについてノートに書き留めておく | 4時間 |
| 第2回 | **単元1：ムーブメント・プレパレーション（担当：山田）**<br>・サッカー界で広く用いられているウォーミングアップの手法である「ムーブメント・プレパレーション」について解説する。<br>・授業前後の動作をスマートフォンなどで撮影し、身体の感覚や動きのやりやすさ等についてレポートをまとめ、提出する。 | 授業内容を参考に、ムーブメント・プレパレーションを行い、感想を提出させる。次回授業時にフィードバックを行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **単元2：股関節の動きについて：前屈と開脚（担当：高橋）**<br>・股関節の動きに関わる骨や筋などの構造について理解する。<br>・受講者自身の股関節がどの程度動くか、特に前屈と開脚前屈を中心に講義を行う。股関節を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。<br>・授業前後の動作をスマートフォンなどで撮影し、身体の感覚や動きのやりやすさ等についてレポートをまとめ、提出する。 | 授業内容を参考に、股関節の動きのトレーニングを行い、感想を提出させる。次回授業時にフィードバックを行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **単元3：肩甲骨の動きについて（担当：高橋）**<br>・肩甲骨や鎖骨の動きに関わる骨や筋などの構造について理解する。<br>・受講者自身の肩甲骨がどの程度動くか、肩甲骨を動かすことで自身の身体の感覚がどのように変化するかを感じ取り、トレーニングを行う。<br>・授業前後の動作をスマートフォンなどで撮影し、身体の感覚や動きのやりやすさ等についてレポートをまとめ、提出する。 | 授業内容を参考に、肩甲骨の動きのトレーニングを行い、感想を提出させる。次回授業時にフィードバックを行う。 | 4時間 |
| 第5回 | **単元4：いろいろな動きについて（担当：高橋）**<br>・前回までの授業を元に、様々なスポーツで応用可能な動作について解説するので、その動きの原理を理解する。<br>・授業前後の動作をスマートフォンなどで撮影し、身体の感覚や動きのやりやすさ等についてレポートをまとめ、提出する。 | 授業内容を参考に、肩甲骨を動かすトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **単元5：走り方について（担当：岡部）**<br>・速く走るための走り方と、そのための身体感覚を理解する。<br>・授業前後の動作をスマートフォンなどで撮影し、身体の感覚や動きのやりやすさ等についてレポートをまとめ、提出する。 | 授業内容を参考に、三日間体幹を動かすトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **単元6：跳び方について（担当：岡部）**<br>・跳躍動作（両脚垂直跳び、片脚跳び）の動作と、大きな跳躍のための身体感覚を理解する。<br>・授業前後の動作をスマートフォンなどで撮影し、身体の感覚や動きのやりやすさ等についてレポートをまとめ、提出する。 | 授業内容を参考に、三日間膝の抜きの動きのトレーニングを行い、その変化と感想をレポートにまとめる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第8回 | **単元7：方向転換動作について（担当：山田）**<br><br>・主に球技における方向転換動作を素早く行う為に必要な姿勢や身体感覚について、理解する。<br><br>・授業前後の動作をスマートフォンなどで撮影し、身体の感覚や動きのやりやすさ等についてレポートをまとめ、提出する。 | 授業内容を参考に、レポート〆切まで「二つの感覚」に気をつけながら日常生活や運動を行い、その変化と感想をノートにまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **プレゼンテーション01：指導案の作成**<br><br>・第11回から学生がミニ講義を行うので、そのための指導案を、単元ごとにグループで集まって作成し、提出する。<br><br>・ミニ講義は20分間なので、「導入・展開・まとめ」を時間配分し、それぞれでどのような内容を説明・実演するかを考え、指導案にまとめる。<br><br>指導案の評価の観点<br>1．重要と思われるポイントが1つに絞れているかどうか（1点）<br>2．1．のポイントが適切で、ちゃんと説明されているかどうか（3点）<br>3．動きの解説だけになっていないかどうか（1点）<br>4．時間が20分間でおさまっているかどうか（5点） | 指導案を作成し、提出する | 4時間 |
| 第10回 | **プレゼンテーション02：模擬授業と内容の確認**<br><br>第9回で作成した指導案を元に、単元ごとのグループで実際に模擬授業を行い、指導案の内容を吟味して、適宜修正をする。<br><br>何度か繰り返して、単元ごとに同じクオリティで授業ができるよう、共通認識を持つようにする。 | 翌週からのプレゼンテーションに向け、準備と練習をする。 | 4時間 |
| 第11回 | **プレゼンテーション03：プレゼンテーション　単元1～3**<br><br>第10回で作成・練習した内容を元に、単元1～3についてグループごとに模擬授業を行う。<br><br>プレゼンテーションについて、下記の観点に沿って学生同士で採点し合い、ディスカッションを行う。<br><br>【評価の観点と配点】<br>1．指導案にそった内容の展開になっているか（3点）<br>2．内容が明確に説明されているか（2点）<br>3．動きの解説だけになっていないかどうか（2点）<br>4．時間が20分間でおさまっているかどうか（3点） | プレゼンテーションに向け、準備と練習をする。 | 4時間 |
| 第12回 | **プレゼンテーション03：プレゼンテーション　単元4、5**<br><br>単元4，5についてグループごとに模擬授業を行う。<br><br>プレゼンテーションについて、第11回に記載した観点に沿って学生同士で採点し合い、ディスカッションを行う。<br><br>空いた時間で、前回と今回のプレゼンテーションで理解できなかった内容などについてグループごとに意見交換を行う。 | プレゼンテーションに向け、準備と練習をする。 | 4時間 |
| 第13回 | **プレゼンテーション04：プレゼンテーション　単元6、7**<br><br>単元6，7についてグループごとに模擬授業を行う。<br><br>プレゼンテーションについて、第11回に記載した観点に沿って学生同士で採点し合い、ディスカッションを行う。<br><br>空いた時間で、今回のプレゼンテーションで理解できなかった内容などについてグループごとに意見交換を行う。 | これまで行われたプレゼンテーションを振り返り、実際に動作を行って感覚などが変わったかどうかを確認する。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめおよび総評**<br><br>・本講義のまとめを行い、第1回の授業で計測した内容と同じ計測を行う。<br><br>・第１回と比べて、自身のパフォーマンスや日常生活での感覚が変化したかどうかを考えさせ、その内容をレポート課題として提出する。 | 授業内容や自身の動き、感覚の変化についてレポートをまとめる。 | 4時間 |

SP-4205-3-2

| 授業科目名 | アスリートのメンタルサポート（スポーツメンタルサポート論） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 工藤　慈士 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アスリートのメンタルサポートに関わる理論から支援するための実践的方法の習得を目指し、アスリート支援に関わる人々（アントラージュ）の心理、アスリート対象だけでなくジュニア期で求められる支援についても心理学的知見から情報提供をおこない、知識理解を深める。また、アスリートの事例を取り扱い、コーチング現場で求められる支援方法について、講義内での考察を深める。アスレチックトレーナーの資格認定科目でもあることから、スポーツ心理学の基礎知識についても触れる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | アスリートのメンタルサポートに関わる心理学的知見の獲得 | アスリートの心理に関わる心理学的理論を理解している |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ現場の事例からスポーツ支援への新しい思考 | 自身の考えを文章として表現することができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | アスリート支援に必要とされるマネジメント力 | アスリートが求める支援をサポート側の各立場からマネジメントの提案ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
ICT(タッチタイピング)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 小レポート課題 | 75　% | ： | 毎回の授業の中で、授業内容を踏まえたレポート課題を課す。授業の内容を踏まえた論述であれば10点とする。毎時間の最後に、課題に取り組む時間を設定し、時間内に提出を求める。 |
| 最終レポート課題 | 25　% | ： | アスリートに対するメンタルサポートの基礎理論や研究方法、事例検討における見立ての仕方などについて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

1）スポーツと心理臨床（鈴木壮　創元社）
2）スポーツカウンセリング入門（内田直　講談社）
3）スポーツメンタルトレーニング教本（日本スポーツ心理学会編　大修館書店）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業の復習を蓄積していくことは、本授業における学修を充実させるためには不可欠である。授業ノートを作成し、授業内容を具にメモし、学修効果を向上させるようなノートテイクを心掛けること。
特に、予め基礎的知識を学修し授業に臨むことはもちろんのこと、関連文献や参考図書などを活用し、実践的知識も予習しておくと良い。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

場所：　研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツメンタルサポートとは？**<br>本授業の最初に「スポーツメンタルサポート」について概観し、学習内容や到達目標、評価基準等について学修する。 | 学んだ内容について、ノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **アスリートのメンタルヘルス**<br>アスリートはトレーニング以外でも様々な環境に晒され、周囲からの影響を受ける。また、競技を突き詰めていく過程において、様々な心理的困難にも衝突することがある。そこで、アスリートのメンタルヘルスについて、IOCの取り組みや事例を参考にアスリート支援について概観する。 | アスリートのメンタルヘルスについて、ノートやPCにまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **多様な心理とSNS**<br>昨今、アスリートへのSNSによる誹謗中傷が問題視されている。身体的に優れているアスリートの心理において、SNSはどのような影響を与えているのか？事例を取り扱い、多様な心理とSNSについて概観する。 | SNSとの向き合い方について、よりよいアスリート支援について考える。 | 4時間 |
| 第4回 | **アスリートのアイデンティティ**<br>アスリートのアイデンティティ形成について概観する。プレイヤーとして活動する「個」の能力だけで「個人」が形成されるのか？プレイヤーを支える側はアスリートとして形成される過程でどのような影響を及ぼすのか？について概観する。 | 授業の内容を踏まえ、自己のアイデンティティ形成について考える。 | 4時間 |
| 第5回 | **アスリートのライフスキル**<br>スポーツを行うメリットは身体的な成長だけでなく、心理的な成長も育まれる。また、近年では非認知能力がスポーツによって養われる研究も散見されている。本時限では、ライフスキルの観点からアスリートのウェルビーイングについての検討を図る。 | 授業の内容を踏まえ、アスリートのウェルビーイングについてノートやPCでまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツと心理的安全性**<br>指導対象者(アスリート)のメンタルを理解するためには、指導対象者の特性を理解する必要がある。そのためには、心理的安全性が欠かせない。自己開示や同調圧力について解説し、心理的安全性の高いチームがパフォーマンスにどのように影響を及ぼすかについて概観する。 | 授業の内容を踏まえ、信頼関係構築に必要な心理スキルについてノートやPCにまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツ組織のマネジメント**<br>アスリートを支援するためには、指導者だけでなくスポーツチーム内におけるリーダーシップやフォロワーシップも重要なスキルである。本時限では、リーダーシップ行動の観点から概観する。 | 授業の内容を踏まえ、リーダーシップやフォロワーシップについてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **体罰の生起要因と心理**<br>本時限では、ハラスメントについて概説し、体罰についてはその生起要因について概説する。また、体罰を行うことで指導者ならびに指導対象者のデメリットについても事例を紹介する。 | 授業の内容を踏まえ、体罰に生起要因についてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **支援者に求められる心理的資質**<br>アスリートと支援するためには技術的指導だけではなく、アスリートの成長と成功を導き出すために心理的支援も必要となる。アスリートのスランプやプラトー、モチベーションの低下などの症例からどのような支援が望ましいのかの探索を図り、学修する。 | 授業の内容を踏まえ、アスリートの心理的諸症状についてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **メンタルトレーニング①（SMTの概要の説明と役割）**<br>日本スポーツ心理学会が認定しているSMTから推奨されるメンタルトレーニングについて概説する。本時限では、メンタルトレーニングの概観、アスリートとの関係について紹介する。 | 授業の内容を踏まえ、メンタルトレーニングについてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **メンタルトレーニング②（SMTの事例と評価）**<br>日本スポーツ心理学会が認定しているSMTから推奨されるメンタルトレーニングの評価方法、心理的技法について概観する。 | 授業の内容を踏まえ、メンタルトレーニングについてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **体育教師に求められるスポーツ心理** | 授業の内容を踏まえ、体育教師に必要なスポーツ心理についてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 学校現場で求められるスポーツ心理学の知識について概観する。学校スポーツを通して、自身の競技に活かすことができる知識を概説し、発育発達や運動学習の観点から事例を踏まえ学修する。 | | |
| 第13回 | **ライフストーリーからみた望まれるアスリート支援は？**<br><br>これまでの授業内容から自身のライフストーリーを振り返り、幼少期・ジュニア期・青年期における望まれるアスリート支援とはどのようなものかを実体験を通じて、考察する。 | 授業の内容を踏まえ、自身のライフストーリーについてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **メンタルサポートの限界と今後の展望**<br><br>これまでの授業内容を総括し、アントラージュとしてアスリートが生涯にわたって活用できるように今後の展望を図る。アスリートとして必要とされる心理的スキルについても振り返り、自身の競技力向上や生涯にわたって活用できるスキルとしての汎用性を概説する。 | 授業の内容を踏まえ、メンタルサポートの限界と今後の展望についてノートやPCにまとめておく。 | 4時間 |

SP-4206-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **トップアスリート論** | | | | |
| 担当教員名 | コーチングコース教員 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷俊浩：日本スポーツ協会上級コーチ（第3回）<br>林　弘典：全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）（第5回）<br>北村哲：日本テニス協会強化本部各種委員およびスタッフとしてナショナルチームのサポートに関わる（2007から現在）（第11・12回）<br>以上の実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

世界基準で活躍するトップアスリートたちは、何をもってトップアスリートに成り得たのか？トップアスリートとして認められているのか？コーチングコース各教員の考え方・価値観・コーチング法とともに、トップアスリートに関るさまざまなスポーツ事象を切り口に、競技力向上のノウハウを探り出すことを目指す。また、受講生がスポーツ大学生・競技スポーツの実践者として、有意義なアスリートライフを創造する能力を身につけることを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 授業概要にある内容について各教員の専門的知識を講義を通した学習 | トップアスリートに求められる知識や技能について、授業内容を幅広く活用しながら説明できる |
| 2. DP2.知識・技能 | 授業概要にある内容について各教員の専門的知識を講義を通した学習 | トップアスリートに求められる知識や技能について説明できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 授業概要にある内容について各教員の専門的知識を講義を通した学習に対してのレポート作成による自身の意見の創出 | トップアスリートに求められる知識や技能について、自身の経験を照らし合わせながら、自身の考えを示すことができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 授業概要にある内容について各教員の専門的知識を講義を通した学習 | スポーツ大学生・競技スポーツの実践者として、有意義なアスリートライフに活用できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

発問に対しての意見、考えの提示など積極的な参加をする。レポートは内容とともに、読みやすい文字で記述する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート | 90 % | ： 授業初回に示すルーブリックに即して評価する |
| まとめレポート | 10 % | ： 授業初回に示すルーブリックに即して評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて授業内で紹介する。スポーツ選手の伝記、ニュース・新聞記事などに注目しておくこと。（＊キーワード：トップアスリート）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。
自分の競技に活かすため、トップアスリートを育てる指導者を目指すために、必要な知識・実践力を得ることができる授業とする。そのためにも授業外学習を必ず行う。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

場所：　研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびチャンピオンでありつづけるトップアスリート**<br>授業の概要説明および、導入を図る。チャンピオンとして君臨し続けるトップアスリートの競技生活について触れ、成功者であり続けるためのポイントについて考える。 | ノートに自分のトップアスリートに関する考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **女子サッカーのトップアスリートを育てる！(坂尾美穂)**<br>女子サッカーの「トップアスリートを育てる」には何が必要なのか？男子サッカーのアスリートとは違うのか。実はあまり変わらないのでは。トップアスリートに成長するための要素を「タレント育成」「パーソナリティ」をキーワードに考える。 | アスリートがテーマの文献を読み、必要とされる資質・能力を調べて、自分自身と比較してみる。 | 4時間 |
| 第3回 | **日本人初のオリンピアン①（岡部優真）**<br>日本から初めてのオリンピックへの選手派遣は、1912年開催の第5回ストックホルム大会である。派遣された2名の選手に関するエピソードから、日本人アスリートとしての資質について考える。 | 近代オリンピックの成り立ち、オリンピズムについて調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **日本人初のオリンピアン②（岡部優真）**<br>日本から初めてのオリンピックへの選手派遣は、1912年開催の第5回ストックホルム大会である。派遣された2名の選手に関するエピソードから、日本人アスリートとしての資質について考える。 | 近代オリンピックの成り立ち、オリンピズムについて調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **スキーのトップアスリートについて：アクセル・ルンド・スヴィンダルを事例に（林　弘典）**<br>「NHKスペシャル「ミラクルボディー」（第1回：滑降　時速160km　極限の恐怖に挑む 」を視聴し、アクセル・ルンド・スヴィンダルからトップアスリートの考え方について学習する。 | アクセル・ルンド・スヴィンダルについて調べる。また、次の授業で疑問点を質問する。 | 4時間 |
| 第6回 | **トップアスリートの競技力向上に資するためのデータ利用について①（吉川文人）**<br>スポーツ競技の事象を定量的に評価するために収集されたデータの活用事例について知り、競技力向上を意図したデータ利用について理解を深める。 | 重要度が高いと考えるパフォーマンス指標について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **トップアスリートの競技力向上に資するためのデータ利用について②（吉川文人）**<br>スポーツ競技の事象を定量的に評価するために収集されたデータの活用事例について知り、競技力向上を意図したデータ利用について理解を深める。 | 重要度が高いと考えるパフォーマンス指標について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **トップアスリートの目標設定と実践（玉城耕二）**<br>東京オリンピック2020では、女子日本代表チームが日本バスケットボール史上初の銀メダルを獲得し、バスケットボールへの注目度はこれまで以上に高まっている。本講義では、バスケットボールのトップアスリート達が、高い競技力を発揮するためにどのように目標設定をし、実践しているのかについて理解を深める。 | トップアスリートの練習・トレーニングスケジュールを調査し、特筆すべきポイントをまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **トップアスリートの考え方（竹川智樹）**<br>トップアスリートの著書や資料から、アリートとしての資質や素養、考え方を学ぶ。また、自身のアスリートとしての活動を振り返り、今後のアスリートとしての姿勢を考える。 | トップアスリートの言葉（名言、格言）や考え方について図書資料等を参考にまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **心理学的にみるトップアスリートの条件（工藤慈士）**<br>社会情勢が不安定の中で情報ツールの発達化が進み、さらに2019年には新型コロナウイルス感染拡大が懸念されているコロナ禍にあるアスリートは様々な情報に触れている。本時限では、トップアスリートがコロナ禍で感じた競技への在り方をコンテンツを通して心理学的に理解を深めていく。 | 自身が感じる競技の在り方について理解を深める | 4時間 |
| 第11回 | **トップアスリートの現状と課題：トップアスリートに求められるもの（渋谷俊浩）**<br>近年のトップアスリートを取り巻く課題・問題点、特に競技スポーツの現場で大きな問題となっているドーピングについて、事例を通して理解するとともに対応策を考える | 自身の競技生活の振り返りやトップアスリートの自伝書等から事例について知見を広げる。 | 4時間 |
| 第12回 | **トップアスリートの失敗トップアスリートのフィジカル①（山田　庸）**<br>トップアスリートを育成する立場から，育成年代でのフィジカルのレベルと，トップアスリートがもつ体力レベルについて事例を検討しながら考える. | 自身の競技生活の振り返りやトップアスリートの自伝書等から様々な事例について調べ知見を広げる。 | 4時間 |
| 第13回 | **トップアスリートのフィジカル②（山田　庸）**<br>トップアスリートを育成する立場から，育成年代でのフィジカルのレベルと，トップアスリートがもつ体力レベルについて事例を検討しながら考える. | 自身の競技生活の振り返りやトップアスリートの自伝書等から事例について知見を広げる。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業まとめ：これからのトップアスリートについて考えてみる（北村哲）総括** | トップアスリートを育てるコーチの立場で、「アスリートプログラム」を組み立てを考えてみる。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| トップアスリート論から学び理解し考えたことをもとに、ディスカッションを通して、整理し共有する。その後の自身のアスリート活動に活かせるように理解を深める。 | | |

SP-4207-3-2

| 授業科目名 | 陸上競技コーチング理論と実践 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 渋谷・岡部 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷俊浩（全14回）：日本スポーツ協会公認コーチ4（陸上競技）等の資格および実業団・学生選手の指導経験を活かし、受講生の競技力向上に必要な知識・能力の習得をサポートする。 | | | | |

**授業概要**

個人競技である陸上競技の特性を理解し、競技スポーツにおけるコーチングの基礎理論をふまえながら、自身の専門種目の競技力向上を目指したコーチング理論および方法論について理解する。
具体的には、陸上競技において適切なコーチングを行うために理解しておくべき関連分野（体力、技術、バイオメカニクス、生理、心理学、トレーニング、戦術、ルール、審判等）を、事例・先行研究・文献・ディスカッション等を通して実践的に学修する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 陸上競技のコーチングを実践するために必要な基礎的理論および関連分野の諸理論の理解と知見の獲得 | 陸上競技の特性を理解し、各自の専門種目の競技力向上に適切なコーチングができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学習した内容（理論・実践）をレポートにまとめて発表（プレゼンテーション・ディスカッション含む）する能力および競技現場でのコーチング実践 | 学習した内容を競技現場で実践し、競技力向上に結び付けることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）、ICT（PowerPoint）、ICT（Exel）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 陸上競技のコーチングの実践とそれに関するレポート | 30 % | ： 関連分野の知見をふまえ、適切なコーチングについて理解したうえで実践し、論理的に記述できているかを30点満点で評価する。 |
| 陸上競技のトレーニング実践とそれに関するレポート | 30 % | ： 関連分野の知見をふまえ、適切なトレーニングについて理解したうえで実践し、論理的に記述できているかを30点満点で評価する。 |
| 授業内課題（記述式小レポート） | 20 % | ： 授業で学習した内容の理解度を確認するためにいくつかの課題（記述式小レポート）を与え、それぞれについて論理的に記述できているかを計20点満点で評価する。 |
| まとめのレポート | 20 % | ： 授業で学習した内容の理解度と、得られた知見をふまえた実践に基づく自身のコーチングポリシーが提示できているかを20点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

陸上競技のコーチング学：日本陸上競技学会編（大修館書店）
競技者育成プログラム：日本陸上競技連盟監修
基礎からの陸上競技バイオメカニクス：トム・エッカー著（ベースボール・マガジン社）
スポーツ・トレーニング理論：村木征人著（ブックハウス・エイチディ）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、得られた知見については必ず競技現場において実践してみること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　授業教室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよび解説：陸上競技とは・コーチングとは（渋谷俊浩）**<br>授業内容・授業スケジュール等について、自身の競技スケジュールとあわせて理解・把握する。また、陸上競技・コーチングの基礎的な理論について理解する。 | 自身の競技スケジュールを確認しておく。競技スポーツおよび陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場において実践する。（担当コーチとのディスカッション等） | 4時間 |
| 第2回 | **陸上競技界の現状理解（渋谷俊浩）**<br>オリンピックや世界選手権等の国際主要大会の結果をふまえ、陸上競技会の現状（組織、強化システム等）について理解し、改めて自身の競技カレンダーを検討する。 | 各中央競技団体（日本陸上競技連盟等）のHPを閲覧し、それらの動向について把握しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **陸上競技の特性と競技力向上（渋谷俊浩）**<br>陸上競技の歴史等をふまえたうえで、各種目（走・跳・投）の特性および各自の専門種目の特性について理解する。あわせて、種目特性をふまえたトレーニング・コーチングについて検討し、自身の競技力を向上させるためにはどのようなことが必要かを、競技現場で実践されているいくつかの事例から検討する。 | 陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。各種目の特性についてまとめ、競技現場での実践（担当コーチとのディスカッション、コーチング・トレーニング）し、その内容を記録しておく。また、競技力の構造についてまとめ、自身の競技力向上のポイントを記録しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **陸上競技のコーチング実践①走種目（渋谷俊浩）**<br>これまでの授業内容をふまえ、グループ別に「対象種目」「コーチング課題・目標」「コーチング内容」などを設定し、コーチングを実践する。また、それらの実践内容を振り返り、次の実践へ向けたコーチングスキルのブラッシュアップにつなげる。 | コーチング実践の内容を詳細に記録（コーチング日誌の作成等）し、次回の実践の準備をしておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **陸上競技のトレーニングの基礎理論・トレーニング計画の立案（渋谷俊浩）**<br>競技スポーツのトレーニングについての基礎理論を理解したうえで、陸上競技のトレーニングについて文献・先行研究等を参考に検討を加え、陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なトレーニングについて検討する。<br>また、陸上競技のトレーニングの課題を明らかにし、改善方策や自身の競技力向上を目指したトレーニングについて検討する。 | 競技スポーツおよび陸上競技のトレーニングに関する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。また、現在実施しているトレーニングの改善方策についてまとめ、自身が考案したトレーニングを競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **陸上競技のコーチング実践②跳躍種目（渋谷俊浩）**<br>前回とは別のグループ別「対象種目」「コーチング課題・目標」「コーチング内容」などを設定し、コーチングを実践する。また、それらの実践内容を振り返り、今後の競技現場での実践へ向けてコーチングスキルをさらにブラッシュアップしていく。 | コーチング実践の内容を詳細に記録（コーチング日誌の作成等）し、実際の競技現場で実践してみる。 | 4時間 |
| 第7回 | **前半のまとめ：陸上競技におけるグッドコーチとは（渋谷俊浩）**<br>これまでの授業で学習した内容を基に、陸上競技・種目および自身の特性を考慮したコーチングとはどのようなものかを整理し、「陸上競技におけるグッドコーチ」について検討する。 | これまでに学習した理論及び実践の内容をまとめ、セルフコーチングを実践してみる。 | 4時間 |
| 第8回 | **陸上競技のコーチングの基礎理論（岡部優真）** | 競技スポーツおよび陸上競技に関連する研究論文・学術文献を読んでおく。競技現場で実践する。（担当コーチとのディスカッション）各特性についてまとめ、資料を作成しておく。競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | コーチングについての基礎理論を理解する。競技スポーツのコーチングについて、文献・先行研究等を参考に検討を加える。<br>陸上競技の基礎理論について理解する。陸上競技および「走・跳・投」各種目の特性について理解する。自身の専門種目の特性について理解する。 | | |
| 第9回 | **陸上競技のコーチング理論：トラック種目（岡部優真）**<br><br>「走・歩」種目の特性に応じたコーチングについて検討を加え、理解する。 | 自身が検討したトラック種目（走・歩）のコーチングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **陸上競技のコーチング理論：フィールド種目（岡部優真）**<br><br>「跳・投」種目の特性に応じたコーチングについて検討を加え、理解する。 | 自身が検討したフィールド種目（跳・投）のコーチングについてまとめ、競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **陸上競技のコーチングの現状と課題：コーチングの実態（岡部優真）**<br><br>陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なコーチングについて検討する。<br>陸上競技のコーチングの現状について理解する。 | コーチングの事例についてまとめ、そこから得た知見を競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **陸上競技のコーチングの現状と課題：競技力の分析・評価（岡部優真）**<br><br>陸上競技の現場で実践されている事例を分析・評価し、合理的なコーチングについて検討する。<br>陸上競技のコーチングの課題を明らかにし、改善方策を検討する。<br>自身のコーチングポリシーについて検討する。 | 改善方策についてまとめ、自身が確立したコーチングポリシーを競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **陸上競技における競技者育成および指導者養成（岡部優真）**<br><br>陸上競技におけるタレントの発掘・育成について理解し、アスリートの競技力向上を目指した強化プログラムを検討する。<br>加えて、アスリートの競技力向上に不可欠なサポート体制について理解し、競技環境の整備および指導者育成システムを検討する。 | 競技者育成および指導者養成プログラムを熟読し、その内容を理解しておく。さらに、指導者育成システムについてまとめておく。これらを競技現場で実践（コーチング・トレーニング）し、記録しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ：陸上競技のグッドコーチを目指して（岡部優真）**<br><br>「陸上競技」「コーチング」をキーワードに、自身の競技現場における実践内容を振り返り、陸上競技における「グッドコーチ」とはどのようなコーチかを理解する。<br>今後の陸上競技界の動向を予見し、自身の競技力向上に有用なコーチング・トレーニングに活かせる方策を検討する。 | 学修した諸種の理論を、自身のスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |

SP-4208-3-2

| 授業科目名 | 水泳コーチング理論と実践 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 工藤　慈士 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 2022-現在；関経連トップアスリート育成事業、2022-現在；滋賀県水泳連盟特別強化スタッフの経験を講義内容に結びつける。2016年公認水泳コーチ３取得 | | | | |

**授業概要**

主に水泳（競泳）の実践・指導に必要な知識・技術・能力・態度の理解・習得を目指す．講義では水泳（競泳）に必要なバイオメカニクス的・生理学的・医学的知識，トレーニングに関わる専門的な知識，さらにコーチングに必要なコミュニケーション能力やマネジメントについて深く学び，実際に水泳（競泳）のトレーニングを計画・実行することを通して，指導者としての実践を経験する．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 水泳（競泳）の指導に向けた肯定的な態度 | 水泳（競泳）に関する専門的知識を学ぶことができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | コーチングに必要なコミュニケーション能力やマネジメント力 | 水泳（競泳）トレーニングの実践・指導現場において計画的な実践ができる |
| 3. DP2.知識・技能 | 水泳（競泳）の実践・指導に必要な知識・技能 | 水泳（競泳）の実践・指導現場において獲得した知識・指導技術を応用できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業内課題(50点)ならびに期末レポート(50点)の合計100点で評価する．

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内理解度チェック | 50　% | ：　水泳コーチ基礎理論①～⑦および競泳の動き①～③の講義毎に，その授業についての理解度を確認する．50点満点（5点×10回）として評価する． |
| 期末レポート | 50　% | ：　水泳の指導に関する課題テーマに対して，授業内で学んだことにとどまらず，自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に説明されていることを評価する． |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 公益財団法人日本水泳連盟 | ・水泳コーチ教本　第3版 | ・大修館書店 | ・2014　年 |

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．
履修条件

①「水中運動法」ならびに「スポーツ指導論」の単位を修得していなければ履修できない.
②水泳部所属学生及び水泳競技経験者が受講することが望ましい.
③将来的に学校の教員あるいは水泳(競泳)の指導者になる可能性のある学生が受講することが望ましい.

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **水泳コーチ基礎理論①「水泳競技解説・水中運動の科学」**<br><br>本授業の趣旨や到達目標を理解し，本授業を受講するうえで必要な姿勢や心構えを説明する．また，水泳競技（水泳競技の特性，水泳競技の歴史，日本水泳界の現状と課題など），水の特性（密度，水圧，浮力，熱伝導率，抵抗）について理解する． | 水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」18～24ページを予習する．次回からの小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第2回 | **水泳コーチ基礎理論②「水泳のバイオメカニクス」**<br><br>水泳のバイオメカニクス（推進と抵抗，推進力，推進効率など）について理解する.<br>水泳のバイオメカニクスならびに泳ぎ（動き）について理解を深める. | 水泳コーチ教本「水泳の生理学」25～31ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第3回 | **水泳コーチ基礎理論③「水泳の生理学」**<br><br>水泳の生理学（水泳の基礎生理学など）について理解する.<br>トレーニングを計画・立案する上で必要な生理学的知識について理解を深める. | 水泳コーチ教本「水泳の生理学」32～41ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第4回 | **水泳コーチ基礎理論④「水泳のトレーニング①」**<br><br>水泳のトレーニング（トレーニングと生理学，ストロークパラメータと生理学など）について理解する.<br>水泳のトレーニングを生理学およびバイオメカニクスの側面より理解し，選手育成に応用する力をつける. | 水泳コーチ教本「水泳の医学」150～153ページ，水泳コーチ教本「競泳のトレーニング」216～217ページを予習する．配布資料「水泳十則」を熟読する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第5回 | **水泳コーチ基礎理論⑤「水泳のトレーニング②」**<br><br>水泳のトレーニング（トレーニングの原理・原則，泳技術・技術向上のためのトレーニングなど）について理解する.<br>水泳のトレーニングを計画・立案する上で必要なトレーニングの原理・原則，泳技術・技術向上のためのトレーニングを理解し，選手育成に応用する力をつける. | 水泳コーチ教本「競泳のトレーニング」194～216ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第6回 | **水泳コーチ基礎理論⑥「水泳のトレーニング③」**<br><br>水泳のトレーニング（トレーニング計画の立案，トレーニングの適応，トレーニング強度，トレーニング種別，トレーニングプログラムの立て方など）について理解する.<br>実践的なトレーニング立案方法を理解し，選手育成に応用する力をつける. | 水泳コーチ教本「競泳の科学」165～174ページを予習する． | 4時間 |
| 第7回 | **水泳科学の実践　「競泳のレース分析」**<br><br>水泳科学の実践として，競泳のレース分析を実践する.<br>レース分析の必要性，概要と目的，レース分析方法について理解し，現場で実践・応用できる能力を身につける. | 水泳コーチ教本「水泳の栄養学」66～85ページ，水泳コーチ教本「水泳の医学」86～158ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第8回 | **水泳コーチ基礎理論⑦　「水泳の医学・栄養学」**<br><br>水泳の医学（水泳に伴う疾病と障害，競技種目に特有な医学問題，特殊環境他など），水泳の栄養学（スポーツと栄養の関係，食事・サプリメント，目的別栄養の摂取など），水泳に関わるトレーナー（役割，基礎知識など）について理解する.<br>水泳の医学・栄養学についての理解を深め，トレーニングならびに選手育成に応用する力を身につける. | 水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページ，「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第9回 | **競泳の動き①　「近代4泳法」**<br><br>近代4泳法（クロール，背泳ぎ，平泳ぎ，バタフライ）の「動き」について理解する.<br>各泳法の技術向上を目的としたトレーニングに関する理解を深める.<br>その際，実際に指導現場で用いられているトレーニング方法，最新の学術論文による見解についても情報を得る. | 水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページ，「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第10回 | **競泳の動き②　「上級者の技術について」** | 水泳コーチ教本「水泳のバイオメカニクス」16～24ページ，「競泳のトレーニング」194～217ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 近代4泳法（クロール，背泳ぎ，平泳ぎ，バタフライ）の高度な「動き」について理解する．<br>国際的に活躍する選手の動きを分析し，速く泳ぐ・効率よく泳ぐ動きの要素を深く理解し，それらの動きを習得するためのトレーニングを考える．<br>また，実際に指導現場で用いられているトレーニング方法についても情報を共有し，技術指導ならびに選手育成に応用する能力を養成する． | | |
| 第11回 | **競泳の動き③　「共通技術」**<br><br>スタート動作，ターン動作について理解する．<br>スタート動作，ターン動作の技術向上を目的としたトレーニングに関する理解を深める．<br>その際に，実際に指導現場で用いられているトレーニング方法，最新の学術論文による見解についても情報を得る． | 水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第12回 | **水泳のコーチング①　「コーチの心得・必要な資質」**<br><br>コーチの心得，コーチの役割，コーチに必要な資質などについて理解する．<br>コーチとしての心得，コーチの役割，コーチに必要な資質についての理解を深め，職業「コーチ」として現場で実践・応用できる能力を身につける． | 水泳コーチ教本「競泳のコーチング」175～193ページを予習する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第13回 | **水泳のコーチング②　「チーム作り・コミュニケーション」**<br><br>コーチに必要なチーム作り理論，コミュニケーション能力について理解する．<br>コーチにとって重要なチーム作り理論，コミュニケーションについての理解を深め，スポーツ現場だけでなく，あらゆる場面で実践・活用できる能力を身につける． | これまでの授業内容を振り返り，水泳（競泳）のコーチとして必要な知識・能力等を整理する．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |
| 第14回 | **水泳のコーチング③　「セルフコーチングを考える」**<br><br>自分自身を対象者とし，コーチング（手法・ポイントなど）を考える．<br>自分自身を対象にコーチングを考え，コーチングの手法やポイントを明確にし，トレーニング計画を立案する．<br>その際，シーズン計画（学期・月・週・日）を明確に示し，強化のポイントや内容についてわかりやすく整理し，練習内容（メニュー）を提示できるように準備する． | これまでの授業内容を振り返り，水泳（競泳）のコーチとして必要な知識・能力等を整理する．セルフコーチングで考えた内容をレポートにまとめる．次回の小テストに向けて，各種規則（競泳競技規則ほか）を理解する． | 4時間 |

SP-4210-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **サッカーコーチング理論と実践** | | | | |
| 担当教員名 | **坂尾・山田** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | JFA日本サッカー協会指導者養成チューター（C級、B級）、2006年からのJFA日本サッカー協会との専任契約（エリート育成コーチ、U17女子代表コーチ）2014年からの海外（ドイツ）でのコーチ活動等の実務経験を講義内容に結びつけている。（坂尾、全7回）。 | | | | |

**授業概要**

サッカー競技において、キッズから発育発達に応じた一貫指導について学ぶ。またサッカー理論と技術，戦術，体力トレーニング方法一般を学ぶとともに、世界スタンダードの強く逞しいクリエィティブな個の育成、チームを運営するための理論とマネジメント法を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | サッカーコーチの現場につながる様々な情報や理論を駆使し、対象者に合わせた適切な方法論選択についての理解と判断力 | 様々な対象者に合わせた適切な方法を立案し処方できる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | サッカーコーチ養成の実例理解と、広い視座を伴ったコーチに求められる資質や能力 | コーチとして必要な学び続ける姿勢や、人間性について理解し、新しい知見を活用できる。 |
| 3. DP2.知識・技能 | サッカーコーチングに必要な年代別あるいは項目別の知識および実践力 | サッカーコーチングに必要な知識を年代別や項目別に整理し理解しコーチングテーマに応じたオーガナイズを設定できる。 |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | サッカーコーチングの実際についての、様々なコーチの考え方と実践対応力のあるコーチング | 様々な考え方を理解し、実践対応力あるコーチを体得できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

意見交換やグループワーク、発表に積極的な参加を重要視します。レポートは内容とともに、読みやすい文字で記述して下さい。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 複数の授業内課題 | 60 % | ：・振り返りレポート(3回)18点<br>・授業内小テスト(5回)30点<br>・授業内小レポート(2回)12点 |
| 発表・説明 | 40 % | ：・テーマに即していて、論理的である。20点<br>・テーマに対して、自分自身の意見や考えが明確にある。20点 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

JFAキッズ指導ガイドライン（U-6・8・10）
JFA指導指針
JFAサッカー指導教本

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **世界基準からサッカーについて考える**<br>世界のメジャースポーツとしてのサッカーを知り，サッカー発祥の歴史を紐解く．サッカーの基本的なルールを確認するとともに，サッカーにおけるプレーの「原理原則」を理解する． | 海外の試合映像を見て、日本との違いなど分析しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **キッズ（U-6）年代の指導　発育発達とコーディネーションに関する基礎知識**<br>サッカー導入段階であるキッズ（U-6）年代の特徴を社会面，発育発達の面から理解し，実際に行われるメニューについての知識を習得する．また，キッズ年代に必要なコーディネーションの基礎知識を習得する． | キッズ（U-6）この年代の身体的特徴を調べて理解しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **キッズ（U-6）年代の指導　指導計画と実践準備**<br>本学のびわスポキッズプログラムで行われている指導を例に，キッズ年代の指導計画，準備，実践，振り返りについて学習する． | 本学のびわスポキッズプログラムについて調べておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **ジュニア（U-12）年代の指導　基礎知識と指導の留意点**<br>JFA公認C級コーチ講習会で用いられる指導教本を基に，サッカーの個人スキルが大きく成長するゴールデンエイジについて理解し，ジュニア（U-12）年代の指導について必要な知識を習得する． | ジュニア（U-12）この年代の身体的特徴を理解しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **ジュニア（U-12）年代の指導　実際の指導から分析**<br>フットサル前日本代表監督であるロドリゴ監督が小学生サッカーチームを指導したVTRを視聴し，ジュニア年代の指導の要点，コーチングスキル，コーチのあるべき姿について学習し，議論する． | 選手に「主体性を持たせる」「考える力を持たせる」指導とはどんなことか。調べて考えて整理しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **ジュニア（U-12）年代の指導　実技と実践から原理原則の理解**<br>サッカーの個人戦術の原理原則と必要なキーファクターを学習する．スキル習得に必要なコツや指導に用いられるポイントについて理解を深める． | サッカーにおける個人戦術や優先順位とは何か、理解しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **ジュニアユース（U-15）年代の指導　特徴理解から評価と指導法**<br>ジュニアユース年代におこる早熟や晩熟といった発育発達の差を理解し，個人差を判別する評価方法と個人差に対応した指導方法を学習する． | ジュニアユース（U-15）この年代の特徴を理解しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **ジュニアユース（U-15）年代の指導　選手に必要な能力**<br>トップ選手のプレーVTRを視聴したうえで，グループ戦術を遂行するサッカー選手に必要な能力について学習する． | 選手に必要な資質・能力について分析しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **ゴールキーパーの指導**<br>現代サッカーにおけるゴールキーパーの役割と必要な技能について理解し，各テーマごとのトレーニング方法を学習する． | ゴールキーパーの役割、必要な能力について分析しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **ユース（U-18）年代の指導　実践テクニックの習得**<br>パーフェクトスキルの完成期であるユース年代における指導方法について学習する． | ユース（U-18）この年代の身体的特徴について考えておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **ユース（U-18）年代の指導　女子サッカー選手のコーチング**<br>女子サッカー選手の指導者の指導方法を視聴し，ユース年代に必要な戦術やスキルを育成するためのコーチングについて学習する． | 女子サッカーの映像を見て、男子との違いや特徴を分析しておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **サッカー選手のための体力テストと体力トレーニング**<br>逞しい個を育成するためのフィジカル強化について，日本人選手の課題と育成に必要なトレーニング方法を学習する．体力テストなどの評価方法およびフィードバック方法を学習する． | サッカー選手に必要な身体的能力について整理しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **審判の役割　（審判と技術の協調）**<br>日本サッカー協会が進める「審判と技術の協調」とは何か。どのようなことかを学び、必要性と実際についてディスカッションを通して、理解を深めていく。 | 審判の役割、「ルールとは」について調べておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **一流監督の指導方法** | 一流監督に関する文献を見て、資質や能力等について分析しておく。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 世界トップクラスと言われる監督のVTRを視聴し，チームを統率する上で必要な条件やその指導方法について学習する．| | |

SP-4211-3-2

| 授業科目名 | バレーボールコーチング理論と実践 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 竹川　智樹 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 2015年～2020年：U21,U23日本代表コーチ、2015年～2021年：日本オリンピック委員会強化スタッフ、2018年：アジア競技大会スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

バレーボール競技の歴史的背景とその普及過程を学習する。
また、バレーボール競技の世界スタンダードの指導法研究に関連させながら、その技術論・戦術論を通じ 専門的な分析方法やコーチング法を学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | バレーボール競技の生い立ち、形成、変遷についての知識 | バレーボール競技の起源や変遷を理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | チーム競技の戦術、戦略性と勝敗との兼ね合いの理解 | 詳細な戦術、戦略の構造理解ができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 実践におけるチームワークの形成 | チームの戦術、戦略を理解し思いやりをもってゲームを行うことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)、ICT(動画活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題レポート、まとめのテスト（授業内） | 70 % | ： 授業内で「ミニレポート」課題を与え、「まとめのテスト」を行い、合計70点満点で評価する。 |
| 期末課題 | 15 % | ： 期末課題（15点満点）については本講義の理解度をはかる。<br>15点：本講義の内容をよく把握し理解している。<br>10点：本講義の内容をおおよそ理解している。<br>10点：本講義内容の一定の理解が見受けられる。 |
| 授業中の実践における課題 | 15 % | ： 授業中の実践における課題を与え、15点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

その都度、指示したりプリント等を配布したりする。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： オフィスアワー

**場所**： 研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **講義ガイダンスおよびバレーボール競技のコーチング概説**<br>講義内容の説明と進め方<br>バレーボール競技コーチングについての総論を解説する | 授業内容について復習する | 4時間 |
| 第2回 | **バレーボール競技の形成**<br>バレーボール競技の起源について学習する | 競技がどのように産出されたかについてまとめる | 4時間 |
| 第3回 | **バレーボール競技の伝播と普及（世界）**<br>バレーボール競技の世界への伝播を学習する | 競技の発案者やそれを伝播した人物などを整理する | 4時間 |
| 第4回 | **バレーボール競技の伝播と普及（日本）**<br>バレーボール競技の日本への伝播を学習する | 日本に伝播した人物や日本独自のルールなどを整理する | 4時間 |
| 第5回 | **ルールの変遷**<br>ルールの変遷や世界の潮流について学習する | 競技ルールの変遷について、年代とともに整理する | 4時間 |
| 第6回 | **国内のバレーボール競技について**<br>6人制、9人制バレーボール、ビーチバレーボール、ソフトバレーボールの振興<br>地域スポーツの現状と今後 | 国内バレーボール競技の種目について理解し、それを整理する | 4時間 |
| 第7回 | **世界のバレーボール競技について**<br>実際の国際大会のレギュレーション（規定）について理解し、国際大会の運営がどのように執り行われれるかについて学習する | 国際競技の運営についてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **バレーボールの個人技能（パス）**<br>オーバーハンドパス、アンダーハンドパスについて理解する | パス技能の習得法、練習法についてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **ボールコントロールおよびサーブの実践**<br>ボールコントロール、サーブの練習方法を考案し、実践する | ボールコントロール練習法、サーブの習得法についてまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **バレーボールの集団技能（オフェンス）**<br>チームオフェンスについて理解する<br>チームオフェンス練習方法を考案し、実践する | チームオフェンスや練習法についてまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **バレーボールの集団技能（ディフェンス）**<br>チームディフェンスについて理解する<br>チームディフェンス練習方法について考案し、実践する | チームディフェンスや練習法についてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **バレーボールのデータ分析**<br>データ収集、処理、分析について学習する<br>アナリストの役割について理解する | 競技力向上のためのデータ分析についてまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **バレーボールコーチングの実践**<br>バレーボールコーチングについて理解する<br>バレーボールコーチングについて考案し、実践する | バレーボールコーチングについてまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **まとめおよび総評**<br>講義内容の理解度のチェックを行う（まとめのテスト）<br>要点整理とレポート課題について説明を行う | 本講義の要点を整理する | 4時間 |

SP-4212-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **バスケットボールコーチング理論と実践** | | | | |
| 担当教員名 | **玉城・吉川** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

バスケットボール競技のコーチングを取り巻く諸課題やコーチング実践の事例を取り上げながら、バスケットボールの技術や技能、個人、グループ、集団それぞれの戦術行動を知り、それらの指導法について学ぶ。バスケットボール競技及び各競技・種目に通底するコーチングの実践力向上を目指し、バスケットボール競技を題材とした競技力向上の方略を裏付けるスポーツ科学の知見について学びを深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | バスケットボール・コーチングの実践力につながる学術的側面に関する知識の獲得 | バスケットボール競技とコーチングに関する学術的研究成果のポイントについて論理的に説明することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | バスケットボール・コーチングに関わる知識を発揮するための指導法の考察 | 学び得た知識を踏まえ、自らが考えるバスケットボール・コーチングの在り方や方略を論理的に説明できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 50 % | ： 授業で取り扱った内容の知識とその理解度について、授業内でのレポートとグループワークにおいて計50%で評価する。 |
| 実践・プレゼンテーション課題 | 50 % | ： 学び得た知識を踏まえ、自らが考えるバスケットボール・コーチングの在り方や方略に関する論理的な説明力を実践及びプレゼンテーション、期末レポートにおいて計50%で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業の中で、適時、紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 研究室

**備考・注意事項：** 急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション及びバスケットボールコーチング論の概説**<br>学習内容や到達目標、評価基準等について把握する。バスケットボール競技の競技特性を概観し、バスケットボール競技とコーチングに関連した話題の内容や検討課題について把握する。 | バスケットボール競技をテーマとして、自らが既に知り得ている概念のマインドマップを作成する。 | 4時間 |
| 第2回 | **バスケットボール競技の特性と基本動作**<br>バスケットボール競技の競技特性や基本動作、ルールを概観し、専門用語とそれらが示す実態との関連付けを行ないながら、コーチの養成課程で求められている知識やスキルについて把握する。 | バスケットボール競技の試合映像を閲覧する。 | 4時間 |
| 第3回 | **コーチの役割と責務**<br>コーチング学の導入に相当する内容を振り返るとともにグッドコーチングを概観する。バスケットボール競技の特性を踏まえ、コーチの役割と責務をはじめ、主要なコーチング行動について理解を深める。 | グッドコーチングについて復習する | 4時間 |
| 第4回 | **育成年代別のコーチングの概観**<br>発育発達の段階を踏まえ、ライフステージや個人のライフスタイルに応じたスポーツライフの計画や実践の仕方、スポーツ指導者として求められる指導理論や健康、安全に関する事項について理解を深める。育成年代を大きく大別し、それぞれの年代におけるコーチングの事例を紹介する。バスケットボール競技に関する概念や競技の特性、ルールを振り返る。 | 競技者の発育の段階や、体力・技能の程度等を踏まえた指導法の選択にかかる留意事項をノートにまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **バスケットボールコーチングと状況判断能力**<br>バスケットボール競技における戦略及び戦術に関する研究の知見や事例を概観し、付加的情報の利用法と練習の組織化について把握する。 | バスケットボール競技における情報判断能力に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **バスケットボールコーチングと行動体力**<br>バスケットボール競技に必要な体力的要素に関する研究の知見や事例を概観し、スポーツ医科学的な見地から、発育・発達段階や技術レベルに応じた様々なトレーニング・コーチング方法について把握する。 | バスケットボール競技の特性上、選手に要求される行動体力について重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **バスケットボールコーチングと運動学習**<br>バスケットボール競技における戦略及び戦術に関する研究の知見や事例を概観し、付加的情報の利用法と練習の組織化について把握する。 | 運動学習とりわけ技能の獲得過程について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **バスケットボールコーチングと付加的情報フィードバック**<br>バスケットボール競技の勝敗に影響するパフォーマンス指標や試合における指標の基準値について理解する。バスケットボール競技における基礎的技術に関する研究の知見や事例を概観し、効果的な運動学習を目指した付加的情報の利用法と練習内容について把握する。 | 付加的情報フィードバックに関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **バスケットボールコーチングの事例紹介**<br>著名なコーチのコーチングスタイルやエピソード、指導方針について知り、自らのコーチングのあり方について考える。 | バスケットボールコーチ論の文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **バスケットボールコーチングの事例紹介（オフェンス）**<br>主としてオフェンスに関する様々な戦術行動のポイントや、戦術行動の成否を裏付ける資料から、オフェンス面の指導方略について実践知の獲得を図る。 | オフェンスのチーム戦術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **バスケットボールコーチングの事例紹介（ディフェンス）**<br>主としてディフェンスに関する様々な戦術行動のポイントや、戦術行動の成否を裏付ける資料から、ディフェンス面の指導方略について実践知の獲得を図る。 | ディフェンスのチーム戦術に関する文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **ゲーム分析レポートの作成** | バスケットボール競技におけるパフォーマンス指標について文献調査を行ない、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | バスケットボール競技の勝敗因やそれらにかかる指標の基準値を踏まえ、客観的にゲーム・パフォーマンスを分析する方法論を学び、戦評を含むゲーム分析レポートの内容と書き方を理解する。さらに、ゲーム・パフォーマンス分析の目的と評価指標を設定し、その上でバスケットボール競技の試合映像を閲覧しながら、ゲーム分析レポートを作成する。 | | |
| 第13回 | **ゲーム分析レポートの発表と視聴**<br><br>グループごとにゲーム分析レポートを発表する。ゲーム・パフォーマンス分析の内容とその結果を踏まえて、次のＰＤＣＡサイクルをどのように回していくのか、発表者の考えや考え方を共有し、バスケットボールコーチングの理解を広げ深める。 | 競技力向上の方略に関する客観的な裏付けを調査し、内容をまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ及び総括**<br><br>講義の内容を振り返り、学習内容について再確認する。 | 理想的なバスケットボール・コーチングについて自らの考えをまとめる。 | 4時間 |

SP-4213-3-2

| 授業科目名 | ベースボールコーチング理論と実践 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 高橋　佳三 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 大学野球部監督・コーチを10年以上歴任した経験から、ベースボール型スポーツに関する理論と、その指導方法について実技も交えながら授業を行う。 | | | | |

**授業概要**

ベースボールのコーチングに必要な基礎知識、専門知識や指導スキルの習得を目指した授業を展開する。
授業はグラウンドまたは教室で行う。教室では、技術、戦術、体力など、ベースボールに必要な基礎知識や専門知識を学ぶ。グラウンドでは、コーチとしての動きなどの指導実践から選手やチームのコーチング計画の立案から管理などのマネジメントを学ぶ。さらに、コーチングで重要なコミュニケーション能力や指導言語を習得し、コーチとしての実践力を養うことを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | ベースボールのコーチングに必要な基礎知識および専門知識 | ベースボールの特性を理解し、競技力向上のための適切なコーチングに関する知識を十分に身につけている。 |
| 2. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | ベースボールを自身が実践でき、かつ他者にコーチングできる技能 | 他者が行っている動作について、本授業の内容を元に十分にコーチングできる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 学修した内容をレポートにまとめて発表（プレゼンテーション、ディスカッション）する能力および現場での実践 | それぞれが定めたテーマに沿って、学修した内容を元に書籍や論文を検索・調査し、プレゼンテーションとレポートにまとめることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（Excel、Word、Forms活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内容に関する小レポート | 30 % | ： | それぞれの授業ごとに小レポートを提出する。 |
| 相互指導に関する小レポート | 20 % | ： | 学生同士で指導しあい、その内容について相互に評価し、レポートを提出する |
| プレゼンテーション | 30 % | ： | 班ごとにテーマを定め、プレゼンテーションを行う。 |
| 期末レポート | 20 % | ： | 授業全体の内容やそれぞれの課題についてレポートを提出する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内にて適宜指示する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その会の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

履修者は、①野球部またはソフトボール部の所属学生、もしくは②野球・ソフトボールの3年以上の経験者が望ましい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： オフィスアワー

**場所**： 研究室（B306）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ベースボールコーチングの概観**<br>ベースボールコーチングの全体像について理解する。 | ベースボールコーチングに関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **ベースボールの歴史**<br>ベースボールの歴史について（ベースボールの起源、伝来、普及など）講義する。 | ベースボールの歴史に関する文献・資料を検索し、理解を深める。 | 4時間 |
| 第3回 | **現代ベースボールの理解**<br>現代ベースボール界の現状について（プロスポーツ、アマチュアスポーツ、学生スポーツ、生涯スポーツ等）講義する。 | 現代ベースボールに関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第4回 | **ベースボールの競技力について**<br>ベースボールのパフォーマンスを構成している要素等について講義する。 | ベースボールパフォーマンスの実態に関する資料・映像を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第5回 | **ベースボールの戦略・戦術①攻撃編**<br>ベースボールにおける攻撃の戦略・戦術・作戦能力について講義する。 | ベースボールの攻撃の作戦行動に関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第6回 | **ベースボールの戦略・戦術②守備編**<br>ベースボールにおける守備の戦略・戦術・作戦能力について講義する。 | ベースボールの守備の作戦行動に関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第7回 | **ベースボールの技術についての理解①投球・送球編**<br>ベースボールの技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について、投球・送球動作を中心に講義する。 | ベースボールの投球・送球動作の技術と科学に関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第8回 | **ベースボールの技術についての理解②打撃編**<br>ベースボールの技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について、打撃動作を中心に講義する。 | ベースボールの打撃動作の技術と科学に関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第9回 | **ベースボールの技術についての理解③守備編**<br>ベースボールの技術の歴史的発達、各技術における科学的知見について、守備動作やフォーメーションを中心に講義する。 | ベースボールの守備動作の技術と科学に関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第10回 | **ベースボールの体力についての理解**<br>ベースボールにおける一般的体力、専門的体力の関係、体力についての科学的知見について講義する。 | ベースボールの体力に関する文献・資料を検索し理解する。 | 4時間 |
| 第11回 | **投球・送球動作のコーチング（実践編）**<br>投球および送球動作について、第7回授業の内容を踏まえ、実技形式で講義する。<br>その際、学生同士で動作を観察して、コーチングすべき点などを確認する。 | 講義内容を踏まえ、投球・送球動作の練習をして自身の動作の変化を記録する。 | 4時間 |
| 第12回 | **打撃動作のコーチング（実践編）**<br>打撃動作について、第8回授業の内容を踏まえ、実技形式で講義する。<br>その際、学生同士で動作を観察して、コーチングすべき点などを確認する。 | 講義内容を踏まえ、打撃動作の練習をして自身の動作の変化を記録する。 | 4時間 |
| 第13回 | **守備動作のコーチング（実践編）**<br>守備動作について、第8回授業の内容を踏まえ、実技形式で講義する。<br>その際、学生同士で動作を観察して、コーチングすべき点などを確認する。 | 講義内容を踏まえ、守備動作の練習をして自身の動作の変化を記録する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **ベースボールのトレーニング計画の立案**<br><br>講義内容を踏まえ、投球・送球、打撃、守備、戦術など、多岐にわたる野球の練習について、トレーニング計画を立てる。<br>立案したトレーニング計画について、学生同士でディスカッションを行い、実践した際の問題点や課題などを明確にする。 | トレーニング計画に関する文献・資料を検索し理解する。 | 4時間 |

SP-4214-3-2

| 授業科目名 | テニスコーチング理論と実践 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 北村　哲 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 北村哲：2007～現在　日本テニス協会ナショナルチーム（ジュニアからシニアまで）の科学的サポート（強化情報・科学委員会委員，テクニカルサポート委員会委員等）、2018年度日本テニス協会S級エリートコーチ養成講習会講師、JTAテニスアカデミー委員会委員 | | | | |

**授業概要**

テニスのコーチングに必要な専門知識や指導スキルの習得を目的とした授業を展開する。
授業はオンコートや講義形式で行い、オンコートでの視点・コーチとしての動きなどの指導実践から選手やチームのコーチング計画の立案から管理といったマネジメントまで、テニス競技選手のコーチングについて実践的なモデルを捉えられるようになること。更にはテニスコーチングで重要なオンコートコミュニケーションの実践を行いコーチとしての力を習得することを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | テニスの競技力向上に関わる理論の学習、戦術学習、戦術を実践できる高度な技能の習得、テニスプレーヤーとのコミュニケーションの取り方に関する学習 | 競技特性、競技力向上に関する諸要因について説明できる。戦術と技能について説明できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | オンコート実践学習、テニスコーチとして、プレーヤーの目標達成のための計画の立案 | 種目特性や競技特性、そして、スポーツ的、教育的、社会テニスの特性を活用しながら、指導計画を立案できる、またテニスコーチとして必要なコミュニケーションの取り方を実践できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グループ学習 | 協同学習時にグループの学びがより深まるよう役割を見出し振舞える。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

「ICT（タッチタイピング）」「ICT（動画活用）」「ICT（専用機材・アプリ活用）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎時の課題レポート | ： | 毎時の授業課題レポートを評価します。 授業内容の理解度(30%:知識・技能についてルーブリックをもとに評価します。 |
| 30　% | | |
| 期末レポート | ： | (1) 授業内容の理解度(20%:知識・技能)、 (2) 自身の経験や考えを明確に示せている か(20%:思考・判断・表現)について、ルーブリックをもとに評価します。 |

40　%

オンコート発表　：　オンコート発表時に、授業内容を踏まえた自身の考えの表現(15%:思考・判断・表 現)、そして周囲との協働(15%)についてルーブリックをもとに評価します。

30　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内にて適宜指示する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　研究室

**備考・注意事項**：　メールで質問を送ってください（送り先kitamura@bss.ac.jp）／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **テニスコーチングの概観、テニスの理解**<br>全授業のレジメを配布し、テニスコーチングはもちろんテニス競技の全体像について理解する。 | テニスのコーチングに関する文献・資料を検索し理解を深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **Play & Stay、ゲームベースドアプローチの理解**<br>ゲームベースドアプローチ、オープンスキル、コーディネーションをキーワードにしながら、それらの理解と、Play & Stayの実践を通して、初心者指導に関して学習する。 | play & stayに関する資料を探索し、まとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **テニピン・Play&Stayによるテニススキルとコーディネーションの開発①**<br>テニススキルの開発として、主にハンド・アイコーディネーションを取り上げ、その開発方法とコーチングについて学習する。 | 自身の低年齢期の運動体験について調査する | 4時間 |
| 第4回 | **テニスの戦術の理解**<br>ゲームベースドアプローチ、5つのゲーム状況、戦術の原則をキーワードにシングルスの戦術指導について学習する。 | 自身のゲーム映像から、各プレーを5つのゲーム状況を分類する。 | 4時間 |
| 第5回 | **テニピン・Play & Stayによるテニススキルとコーディネーションの開発②**<br>テニピンとPlay & Stayの形式でのトレーニングで、前回授業で学習した戦術の原則をいかに学習できるか実践を通して、学習する。 | 低年齢ジュニアのPlay&Stay形式でのゲームを分析する。 | 4時間 |
| 第6回 | **テニピン・Play&Stayによるテニススキルとコーディネーションの開発③　重要なスキルの理解**<br>ゲーム中における攻撃効果の判定方法について学習し、自身にとって重要なスキルを理解するとともに、そのスキル発展のためのトレーニングについて考える。 | 自身のゲームを分析する。 | 4時間 |
| 第7回 | **科学的アプローチを用いた技術練習とセルフコーチング**<br>動画撮影や動作分析アプリケーション、ボールスピードの測定等の科学的アプローチを通して、パフォーマンス分析・技術分析の際の観点について学習する。 | テニスのパフォーマンス分析に関する文献・資料を検索し理解する。 | 4時間 |
| 第8回 | **コーチンググループワーク①プログラムの立案**<br>ボディコントロール、ボールコントロール、運動連鎖をキーワードに、それらを向上するためのプログラムを立案し、実践する。 | 練習プログラムを検索する。 | 4時間 |
| 第9回 | **ハイパフォーマンスプレーヤーの練習の実際**<br>ハイパフォーマンスプレーヤーの練習風景を観察し、そのコーチングの実際に触れる。 | 観察時の着目ポイントを設定する。 | 4時間 |
| 第10回 | **テニスプレーヤーのメンタルとマインド**<br>テニスプレーヤーのメンタルやマインドがどのように教育、育成されていくのか、事例学習を通して理解する。 | テニスプレーヤーの心理に関する文献・資料を検索し理解する。 | 4時間 |
| 第11回 | **パフォーマンス分析・体力測定**<br>テニスにおける体力の必要性と原則について、体力とテニスパフォーマンスの測定評価を通して学習する。また個人の体力的課題を抽出する。 | テニスの体力テストに関する文献・資料を検索し理解する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第12回 | **テニスの体力トレーニングとコンプレックストレーニングとペアコーチング**<br>前回授業で抽出された体力的課題を解決するためのオンコートトレーニングについて検討し、ペアでそのプログラムの実践をしながらコーチングすることで、課題解決およびコーチングのポイントについて理解する。 | コンプレックストレーニングについて資料学習をする。 | 4時間 |
| 第13回 | **テニスマッチ演習**<br>ゲーム分析を実施しながら、テニスのゲームパフォーマンスの発展およびスキルの課題抽出を実践しながら、改善を図るといった一連の取り組みについて学習する。 | テニスの心理テストに関する文献・資料を検索し理解する。 | 4時間 |
| 第14回 | **テニスのトレーニング計画**<br>競技力向上のためのトレーニング計画について、?期的視野に立った指導（LTD）について学習する。 | トレーニング計画に関する文献・資料を検索し理解する。 | 4時間 |
| 第15回 | **kkkkk**<br>kkkk | kkkkk | 4時間 |

SP-4606-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ指導支援** | | | | |
| 担当教員名 | 山田・吉川 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 山田教授は、2006年より2011年までJリーグ徳島ヴォルティスにて、2012年より韓国Kリーグ江原FCにて、フィジカルコーチとしての指導実績がある。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

スポーツの指導体系を学び、アシスタントや支援スタッフの役割を理解する。指導体制と役割，スポーツの体系化，技術、戦術指導、体力の構造，指導計画，メディカルスタッフの役割，アナリストの役割，について学習する．
本授業では，①指導支援の様々な方法と知識を習得する，②実践を通じてその技術の基礎を身に付ける，③体力測定やトレーニング強度の計測，フィードバック法，記述分析法，動作解析，指導支援ツールを習得する，ことなどを目標とする．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ指導支援に関する周辺の知識，さまざまな手法やツールを活用して情報を集約する力 | スポーツコーチングの基礎的な知識を習得し，ツールを駆使して各種手法を実践できる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | コーチング現場周辺の情報集約し，意思決定する力 | コーチング現場周辺の情報を集約し，意思決定しコーチングの支援ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
ICT(タッチタイピング), ICT(PowerPoint)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
ICT（タッチタイピング）

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の確認テストおよび課題 | 45 % | ： 授業内容に即して設問に正しく回答しているか，内容は質・量とも十分か |
| 期末レポート | 55 % | ： 指導体制と役割，スポーツの体系化，技術戦術指導、体力の構造，指導計画，メディカルスタッフの役割，アナリストの役割，について設問に正しく回答しているか，内容は質・量とも十分か |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業の中で紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、スポーツ指導支援とは**<br><br>「スポーツ指導に必要な支援とは何か」を定義する。指導を支援する役割、方法、効果について概略を紹介し、全14回の流れを確認する。 | スポーツ指導支援についてまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **指導の支援　ーフィードバックとはー**<br><br>コーチングとは何かを定義する。コーチングの効果的方法について学習する。フィードバックについて、自己観察と他者観察および動機付けの観点から理論的背景を学習する | フィードバックについて理解する | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツの体系化　ー技術、戦術、体力の構造を明らかにするー**<br><br>スポーツに必要な技術、戦術、体力には「基礎から専門」「準備局面、主要局面、終末局面」などの一連の流れの中で、幾つかの要因からなる構造を仮定することができる。各種スポーツにおける構造を紹介し、要因の分類、集約する方法を学習する。 | スポーツの体系化について理解する | 4時間 |
| 第4回 | **指導体制　ー役割とオーガナイズ（組織化）ー**<br><br>指導者には様々な役割があり、大きな指導チームでは様々な担当スタッフがいる。また、指導を行う上で必要な環境を整える必要がある。各種スポーツにおける指導体制を紹介するなかで、指導者の役割と必要な環境について学習する。 | これまでの指導体制についてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **指導計画の作成**<br><br>スポーツチームの活動及び指導は計画的に行われる必要がある。年間計画、週間計画、1日の指導計画の立案を紹介し、目標から逆算したチーム運営、PDCAサイクルに基づく計画の修正について学習する。 | 指導計画を作成する | 4時間 |
| 第6回 | **フィジカルコーチの役割①　ー体力測定ー**<br><br>これまで定義されてきた体力の分類、体力測定の方法について学習する。競技に専門的な体力領域、測定手法を紹介する。 | 体力測定について理解する | 4時間 |
| 第7回 | **フィジカルコーチの役割②　TR負荷の計測**<br><br>トレーニング強度を計測する手法として、心拍数、主観的運動強度、加速度計による走行速度、加速度などについて学習する。運動量として、運動時間、GPSを用いた走行距離などについて学習する。 | 体力測定のフィードバックについて理解する | 4時間 |
| 第8回 | **フィジカルコーチの役割③　コンディションの把握**<br><br>スポーツ選手にとって、日々の体調＝コンディションを知り、コントロールすることは重要である。身体的、心理的、競技的コンディションを左右する要因、コンディションを計測する方法について学習する。 | 心拍数を用いてトレーニング強度を計測する | 4時間 |
| 第9回 | **アナリストの役割①　チームの行動目的に即したアナリストに必要な能力**<br><br>近年スポーツアナリストが着目されている．各種スポーツにおけるアナリストの役割，必要な能力について学習する．また，スポーツアナリストが負う役割はチームや種目などによって異なってくる．チームの一員としてスタッフの役割を踏まえた目標の設定と共有について学習し，その行動の流れを理解する． | 自分のスプリントフォーム撮影と評価を実践する | 4時間 |
| 第10回 | **アナリストの役割②　チームの行動目的とスタッフの役割**<br><br>近年スポーツアナリストの役割が着目されている。スタッツなど量的データベースと動画によるポイント分析を取り上げ、その手法について学習する。 | 跳躍種目全般の特徴の役割を理解する | 4時間 |
| 第11回 | **アナリストの役割③　データを活用した分析　ー記述分析ー**<br><br>これまで学習したスタッツなどを用いた分析を実践し，グループごとにフィードバックし発表する． | 記述分析について理解する | 4時間 |
| 第12回 | **データサイエンティスト①　研究手法を用いたデータの解析**<br><br>スポーツ現場で，データを収集し，分析し，フィードバックできるデータサイエンティストの役割について学習する．今回は特に，カーリングやサッカーを例に，分析ソフトiCEや人工知能を用いたシミュレーション，xGゴール期待値について学習する． | 自分の専門種目についてデータ分析を実施する | 4時間 |
| 第13回 | **データサイエンティスト②　バイオメカニクス手法を用いた解析**<br><br>モーションキャプチャーや床反力計等を用いてスポーツ動作を力学的に計測するバイオメカニクスを用いた解析について学習する．また，近年様々なアプリに導入されているマーカーレスモーションキャプチャーについて学習する． | 動作分析を実施する | 4時間 |
| 第14回 | **IT技術を用いた指導支援の今後**<br><br>アプリを用いたITコンディショニング手法を例に，今後の指導支援で用いられるIT技術や指導支援ツール（道具）について学習する．スマホやタブレットを活用した身近な指導支援を考え，活用するアイデアについて理解を深める．また、テキストマイニング手法を例に主観が多く含まれる質的な言葉を客観的なグラフやモデルに置き換えて理解する方法を学習する． | 指導支援ツールのアプリを調査する | 4時間 |

SP-4215-2-2

| 授業科目名 | コーチのためのスポーツ社会学（コーチング社会論） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 坂尾 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 2006-2014・2017-2019日本サッカー協会専任コーチ（U17日本女子代表コーチ、JFAアカデミーコーチ、ナショナルトレセンコーチ）、2015-2016MSV Duisburg（ドイツプロクラブコーチ）、2020年～日本サッカー協会公認ライセンス講習会チューター・2024年～現在日本スポーツ協会コーチデベロッパーとして公認コーチの養成に関わる。 | | | | |

**授業概要**

コーチが指導方針や指導方法を考える際、スポーツの社会的・文化的な価値を踏まえるとともに、現在のスポーツ界の情勢を把握することが重要である。現在の国内外の社会におけるスポーツの価値、スポーツ界の現状について検討する。また、コーチが持つべきスポーツ社会学的知識について学習するとともに、これから求められるグッドコーチングについて考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 現在のスポーツ界の情勢を踏まえたこれから求められるグッドコーチングについての考察 | 現在のスポーツ界の情勢を踏まえて、指導方針や指導方法など、これから求められるグッドコーチングについて、自分の意見を述べることができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 現代社会における多様なスポーツの現状を理解と情報収集、新たな知識の獲得や考え方への理解 | 現代社会における多様なスポーツの現状を理解し、新たな情報や知識、考え方に触れ、自ら見識を深めることができる。 |
| 3. DP2.知識・技能 | 現在の国内外の社会におけるスポーツの価値、スポーツ界の現状について検討する。また、コーチが持つべきスポーツ社会学的知識についての学習 | コーチが持つべきスポーツ社会学的知識について、スポーツの社会的・文化的な価値を踏まえて説明できる。 |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 過去からの価値観に加え、新しく多様な価値観やその背景に対する興味を獲得 | 自身の経験からの価値観に加え、新しく多様な価値観やその背景に対し理解できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
「ICT（タッチタイピング）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 毎時の課題レポート | 40 % | ： | 毎時の課題レポートを評価します。 (1) 授業内容の理解度(20%:知識・技能)、 (2) 自身の経験や考えを明確に示せているか(20%:関心・意欲)の観点からルーブリックに基づいて評価します。 |
| まとめレポート | 60 % | ： | 学んだ基礎的知識を用いて、求められるグッドコーチングについてのまとめレポートを評価します(2回実施)。 (1) 授業内容の実践現場での活用方法(30%:思考・判断・表現)、 (2) 授業内容で得た知識を踏まえ自身の新たな考えや課題を明確に示せているか(30%:学びに向かう力)についてルーブリックに基づいて評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて授業内で紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
履修について、「スポーツ指導論」を履修していること。

数回、遠隔授業にする場合がある。

外部講師を招聘しての授業を行う場合がある（1回/全14回）

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： オフィスアワー

**場所**： 研究室

**備考・注意事項**： 担当教員へメールで質問を送ってください／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、コーチが知っておくべき社会学的知見**<br>本講義の進め方について確認する。コーチングに今何が求められているのか、コーチング関わる社会現象の探索学習を通してし、コーチングに関わる社会問題について理解する。 | コーチング関わる社会現象を探索する | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ離脱**<br>競技会主義、勝利至上主義によりおきる問題について、昨今の時事ネタを事例を理解し、自身のこれまでのスポーツ活動を振り返り、指導方針や指導方法について考える。 | 競技スポーツにおける社会問題に関わる記事を調査する。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツの意義と価値**<br>現代社会の中におけるスポーツの価値について理解し、スポーツプロモーションの課題と展望を考える。 | スポーツプロモーションに関わる記事を調査する。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツ文化、オリンピズム**<br>スポーツ文化、オリンピズムについて理解し、スポーツマンシップとフェアプレーを含めて、グッドコーチングについて考えを深める。 | 授業内容を踏まえて自身のスポーツキャリアについて整理する。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツ権**<br>プレーヤーを取り巻く人々や環境について、また、スポーツ活動における保護者の問題や保護者の役割について理解するとともに、スポーツの価値を守るスポーツ指導について考える。 | スポーツの価値について考える。 | 4時間 |
| 第6回 | **コンプライアンスとガバナンス**<br>プレーヤーズセンタードという概念について学習するとともに、それを実現するためにはどのようなことに着目することが必要かグループワークを通して議論する。 | 理想的なコーチングが実践されていると考えられるアスリートを調査し、その事例をまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **暴言・暴力、ハラスメント**<br>マルトリートメントに関する知識を獲得し、暴言・暴力、ハラスメントに関する理解を深め、未然に防ぐための組織管理について考える。 | スポーツコンプライアンスと暴言・暴力、ハラスメントの予防について考える。 | 4時間 |
| 第8回 | **プレーヤーズセンタードを可能にするためのコーチング**<br>プレーヤーズセンタードを可能にするためのコーチングについて、これまでの学修内容を振り返り、実践するための課題を見つけ、課題克服の方法を考える。 | 授業内容を活用し、自身のアクションプランについて考える。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツ現場における安全管理（坂尾）**<br>スポーツに関わる多面的な立場からスポーツ現場におけるリスクマネジメントを考えるとともに、スポーツ現場における事故の予防や対処等、リスク回避するための知見について学習する。 | 各スポーツ種目における指導中の事故事例について整理する。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツ倫理、インテグリティ**<br>アンチドーピングについての知識獲得を含め、スポーツ倫理について学び、考える。 | スポーツ倫理に関わる事例を扱った記事を調査する。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツ現場におけるジェンダーについて**<br>スポーツ現場における性的マイノリティに対するコーチングを含め、ジェンダー問題やダイバーシティについて学び、指導現場で起こり得る「性」に関する事例について学習し、多様性が発揮されるスポーツ活動の環境作りについて考える。 | これまでの自身の経験においてジェンダー問題を振り返る。 | 4時間 |
| 第12回 | **外国人へのコーチング**<br>実際のコーチング現場での事例に対する知見を通して、多面的な視点をもち、グローバルスタンダードを獲得するために必要なことを考える。 | 外国人へのコーチングに関わる記事を調査する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **コーチの悩み**<br><br>実際のコーチング現場で起こった事例に対する知見を通して、コーチを支援するための必要なことについて理解する。 | 授業内容に則して自身の体験について振り返る。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ、グッドコーチングを実践するために成すべきこと**<br><br>これまでの学修内容を振り返り、グッドコーチングを実践するための課題を見つけ、課題克服の方法を考える。 | 授業内容を活用し、自身のアクションプランについて考える。 | 4時間 |

SP-4216-4-2

| 授業科目名 | ハイパフォーマンスコーチング論（ハイパフォーマンスコーチング実践論） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 北村・渋谷・岡部 | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷　俊浩：日本スポーツ協会公認コーチ4（陸上競技）及び実業団・大学生の指導経験を授業内容に反映する。<br>北村　哲：日本スポーツ協会公認コーチ4（テニス）及び日本テニス協会にて各種スタッフとしてナショナルチームのサポートや強化育成本部の戦略立案等に関わる経験を授業内容に反映する。 | | | | |

**授業概要**

スポーツ科学が格段に進歩した現在、トップアスリートの能力や技術、パワーやスピードは観ている人々を魅了してやまない。本講義ではスポーツコーチングを実践する代表・トップコーチの実際について学習する。トップアスリートや代表選手の強化や管理、チームの統率やマネジメントについて学び、競り勝つ個と強いチームつくりを考える。また、秀でたスポーツインテリジェンスや強靭且つしなやかなフィジカルとメンタルを持って、自らを自身で進化させていくアスリートを創造できるコーチングについて学び考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 上述の授業概要についての学習 | ハイパフォーマンスコーチングについて、授業内容から幅広く、また多くの必要な情報を取り入れて説明ができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 上述の授業概要についての学習 | ・ハイパフォーマンスアスリートを指導するコーチの事例について要点を説明できる。<br>・系統だったハイパフォーマンスレベルへの育成や強化について説明できる。<br>・ハイパフォーマンスレベルのコーチングに必要となる科学的情報とその取り扱い方について説明できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 上述の授業概要についての学習 | 自身のこれまでのスポーツ活動における経験と授業内容を関連づけて、自身が考えるハイパフォーマンスレベルにおける指導のあり方について説明できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 上述の授業概要についての学習 | 自身の現在のスポーツ活動において、授業で学んだことを実践できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
ICT(タッチタイピング) ICT(Excel)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 担当者別まとめレポート | 65 % | ： 授業初回で示すルーブリックに即して評価する。 |
| 期末レポート | 35 % | ： 授業初回で示すルーブリックに即して評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で紹介したり、資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をする。様々な価値観の基にコーチングがあることや答えが1つではないことを認識する。そのために、常識を超えた考えを受け入れる素養を持ち、多くの予備知識を身に付けておく。また、オープンマインドの心で取り組む。

**授業計画**

| | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業ガイダンスおよびハイパフォーマンススポーツの概要について①（北村）**<br>授業の内容や進め方について解説する。<br>ハイパフォーマンススポーツの定義や世界観について学習する。 | 関心のあるハイパフォーマンスアスリートについて調査する。 | 4時間 |
| 第2回 | **ハイパフォーマンスコーチングの実際① テニスの事例（北村）**<br>ハイパフォーマンスアスリートの活動とそのコーチングについてテニスの事例から学習する。 | 自身の活動と授業で取り上げた内容とを比較分析する | 4時間 |
| 第3回 | **ハイパフォーマンススポーツの概要②（北村）**<br>①ハイパフォーマンスアスリートに求められるライフパフォーマンスとトータルコンディショニングについて、また②各種競技団体における強化戦略の事例について学習する。 | 自身の活動と授業で取り上げた内容とを比較分析する | 4時間 |
| 第4回 | **ハイパフォーマンスポーツにおける長期的な強化育成戦略活動①（北村）**<br>①ハイパフォーマンスアスリートに求められるインテリジェンスおよび②タレント発掘・育成に関する事例と理論について学習する。 | 授業で取り上げた内容について自身の専門スポーツにおける事例について学習する | 4時間 |
| 第5回 | **ハイパフォーマンスポーツにおける長期的な強化育成戦略活動②（北村）**<br>①各種競技団体における強化育成指針および②アスリート育成パスウェイについて学習する。これまでの授業内容と自身の調査学習から、様々な情報を組み合わせながら、強化育成の指針およびパスウェイを作成してみる。 | パスウェイマップを完成させる | 4時間 |
| 第6回 | **ハイパフォーマンスコーチングの実際②-1（北村）**<br>次週の外部講師による「車いすテニスにおけるハイパフォーマンスコーチングの事例」について、プレーヤーとコーチの背景を中心に事前学習をする。 | 外部講師の背景と自身のこれまでのキャリアを比較する | 4時間 |
| 第7回 | **外部講師　ハイパフォーマンスコーチングの実際②-2**<br>外部講師を招き「車いすテニスにおけるハイパフォーマンスコーチングの事例」について学習する。 | これからの活動に活用できる事項を整理する | 4時間 |
| 第8回 | **ハイパフォーマンスコーチングの実際③（渋谷俊浩）**<br>主に「個人競技におけるハイパフォーマンスコーチングの事例」について学習する。<br>授業で紹介された事例を参考にグループごとに1名のコーチを選定し、そのコーチについて詳細に調査・分析する。 | 個人競技のハイパフォーマンスコーチングの特性をまとめておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **個人競技におけるハイパフォーマンスコーチングの事例調査・分析（渋谷俊浩）**<br>個人競技におけるハイパフォーマンスコーチ（コーチング）の考え方・価値観の特性の調査・分析結果をまとめ、グループ別発表の準備をする。 | ハイパフォーマンスコーチの特性を理解し、選定したコーチの調査・分析結果を整理しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **グループ別発表、自身のコーチングに活かす手段・方法の検討（渋谷俊浩）**<br>グループごとに調査・分析結果および考察を発表する。さらに他のグループの発表等も参考に、今後の自身のスポーツ活動（コーチング等）に活かす手段・方法についてのレポートをまとめる。 | 授業で学んだことを整理してノートにまとめ、自身のコメントを付け加えておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **ハイパフォーマンスコーチングの科学的アプローチ（岡部優真）**<br>ハイパフォーマンスコーチングにおいて、スポーツ科学の活用は不可欠なものとなっている。その歴史と文化について理解し、国内外の最新情報に触れる。 | 授業内で紹介された事例を整理し、ノートにまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **ハイパフォーマンスコーチングの実際④（岡部優真）**<br>個人競技を対象としたハイパフォーマンスコーチングにおける科学的支援の手法や、具体的な事例について概観する。 | 個人競技のハイパフォーマンスアスリートを対象とした科学論文を調査する。 | 4時間 |
| 第13回 | **ハイパフォーマンスコーチングの実際⑤（岡部優真）**<br>団体競技を対象としたハイパフォーマンスコーチングにおける科学的支援の手法や、具体的な事例について概観する。 | 団体競技のハイパフォーマンスアスリートを対象とした科学論文を調査する。 | 4時間 |
| 第14回 | **科学的根拠に基づくハイパフォーマンスコーチングの在り方を考える（岡部優真）**<br>コーチング現場におけるスポーツ科学の活用には課題も多い。具体的な課題を調査・列挙し、コーチングと科学のこれからの在り方について検討する。 | コーチング現場へのスポーツ科学の活用事例について調査する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第　15回 | **2**<br>2 | 2 | 4時間 |

SP-4301-3-1

| 授業科目名 | 野外・レクリエーションスポーツ基礎演習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林・黒澤・橋本・中川 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目は、アウトドアスポーツの多様な活動・プログラム、専門実習や指導法の基礎となる科目である。アウトドアスポーツ、野外教育活動を通して、基礎的な知識や技能を自分自身の体験から学ぶこと、コースの専門の学生としての態度や心構えを育み、主体性や協調性を学習することを目的とする。具体的な内容として、コースでのキャンプ活動（ベーシックキャンプの実践）や森林山岳の登山活動、水辺活動のカヤックを実際に取り上げ体験をする予定である。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | アウトドアスポーツの魅力と教育的効果について実践体験を通して意欲的に取り組むことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | アウトドアスポーツの中での特に教育的目標を持って取り組まれる活動の理解とともに必要なスキルの獲得ができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 実践体験を通して、自己の理解を深めるとともに集団生活のあり方について行動することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 実践体験を通した理解や思考力を活かし、更なる向上心を持って取り組む姿勢を養うことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
「ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)、ICT(Excel)、ICT(動画活用)、ICT(専用機材・アプリ活用)」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| リフレクションレポート | 60 % | ： 実習後の報告書による目的・目標達成度を評価する。 |
| アウトドアプログラムに関するレポートおよび発表 | 40 % | ： レポート内容や発表を通し、野外スポーツ・プログラムの理解度を評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時紹介します

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
アウトドアスポーツ／野外教育の基礎になる内容ばかりです。キャンプや登山を通して体験的に学びます。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、アウトドアスポーツの概観**<br>授業のオリエンテーションを実施し、その中でアウトドアスポーツの分野・領域について知識や理解を深める。 | アウトドアスポーツ、野外教育の定義について理解を深める | 4時間 |
| 第2回 | **アウトドアプログラム実践①：アイスブレイクアクティビティ**<br>アウトドアプログラム実践としての「アイスブレイクアクティビティ」を体験し、活動の意味や、他者との関わり方や自分自身の表現方法について理解を深める。 | アイスブレイク体験を通した自身の気づきや学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **アウトドアプログラム実践②：イニシアティブゲーム**<br>アウトドアプログラム実践としての「イニシアティブゲーム」を体験し、グループでの課題解決を通して、コミュニケーション、信頼関係について理解を深める。 | イニシアティブゲーム体験を通した自身の気づきや学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **基礎理論①アウトドア活動と仲間作り**<br>アウトドアプログラム実践①②を通して、アウトドア活動がどのように仲間作りやチームビルディングに活用されるのか理論的な理解を深める。 | アウトドア活動を仲間作りに活用している事例を調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **アウトドアプログラム実践③環境教育１**<br>アウトドアプログラムの実践として、環境教育プログラムを体験し、体験から感じる事、気付くことから環境教育についての理解を深める。 | 環境教育プログラムの事例を調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **アウトドアプログラム実践④環境教育２**<br>発展的・多様な環境教育プログラムの体験から、環境理解・行動変容へのつながりについて考える。 | プログラム体験からの学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **基礎理論②環境教育**<br>実践③④の体験をふりかえり、環境教育の目的や行動変容へのプロセスについて理論的な理解を深める。 | アウトドアスポーツの環境教育への活用方法を考える。 | 4時間 |
| 第8回 | **ベーシックキャンプの計画・準備**<br>ベーシックキャンプの実践に向けた立案や、具体的な準備を行う。キャンプで行う活動としてのマリンスポーツや、野外炊事、テント泊に必要な準備を行う。 | 各自の役割におけるキャンプの準備を進める。 | 4時間 |
| 第9回 | **アウトドアプログラム実践⑤マリンスポーツ１**<br>大学艇庫近くの琵琶湖湖岸における、マリンスポーツ実践として、カヤックに取り組む。安全なカヤック実施のための基礎知識を学び、実践に移す。基本操作、安全対策、装備の扱い方などを実践できるようになる。 | カヤックに関する知識について復習し、理解を確認する。 | 4時間 |
| 第10回 | **アウトドアプログラム実践⑤マリンスポーツ２**<br>継続してカヤックの実践を行い、パドリング技術の向上、レスキュー技術の習得を目指す。 | カヤックで得た知識や自然環境についてまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **アウトドアプログラム実践⑥キャンプ１**<br>キャンプの基本的な技術を実践を通して身に付ける。まずはテントやタープ、食卓設置など、テント泊を行うための設営を行い、実際に宿泊し、実践から学ぶ。 | アウトドアリビングスキルについての学びを確認する。 | 4時間 |
| 第12回 | **アウトドアプログラム実践⑥キャンプ２**<br>アウトドアキャンプにおける、野外炊事に必要なスキルを実践を通して身に付ける。計画したメニューをアウトドアの炊事装備を用いて安全に調理し、食し、片付けまでを行い、安全な野外炊事のスキルを身に付ける。 | 安全な野外炊事実施に必要な知識・技術を確認する。 | 4時間 |
| 第13回 | **基礎理論③④**<br>マリンスポーツとキャンプ実践体験をふりかえり、マリンスポーツやキャンプについての理論的理解を深める。アウトドア環境を活用する上でのリスクマネジメントや環境配慮についても理解する。 | 実践体験からの学びをレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **総括・まとめ**<br>本科目での実技や実習内容について学びを共有し、専門実習へどう活かしていくか議論を深める。 | 本科目での学びや気づきについてレポートを作成する | 4時間 |

SP-4302-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ専門実習（夏季）** | | | | |
| 担当教員名 | **林・黒澤・橋本・中川** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

夏季のアウトドアスポーツについて、移動型のキャンプを行いながら実習を行う。縦走登山をはじめ、長距離ハイクやシーカヤック活動など、様々な野外スポーツを実施する中で、それぞれの野外スポーツスキルの獲得だけでなく、実習中に起こる相互関係の中での体験を通し、野外教育指導者としての資質・能力を高めることを目指す。また、縦走登山における宿泊はソロビバークを行うことで、自分を見つめ直したり、他人との関係を見つめ直すといった機会をもつなかで、自然の中で活動することの意義や自然環境への理解、自然状況への柔軟な対応など人間力を高める上で必要となる資質・能力を高めることを目的として実施する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 自然の中でのより高度な野外実習の実践 | 山や海をはじめとする自然環境の中での高度な野外活動に対する関心を持ち、主体的に行動しようとする意欲を持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 自然の中でのより高度な野外実習の実践 | 自然環境の中で必要となる技能を習得するとともに、安全に過ごすための知識と実践力を身につけることが出来る。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 自然の中での自己の成長、他人の理解、環境の理解 | 自然の中での高度な実践を通して、自己や他人を理解し、環境に配慮した生活ができるようになる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自然の中での高度な野外実習の実践 | 実習の体験から得たものを次の学びに繋げようとする主体性を身につけることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 準備段階におけるレポート | 15 % | ： 準備段階でのレポートによる実習の理解度を評価する。 |
| 実習における課題達成および実習日誌の提出 | 70 % | ： 実習での課題達成度の評価と実習日誌による実習の目的理解度を評価する。 |
| 報告書作成のためのレポート | 15 % | ： 実習後の報告書による目的達成度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本実習は、同時開講している「アウトドアスポーツ実践論（夏）」を受講している者が対象となります。
また、本実習は学外での宿泊を伴った実習になるため、宿泊費、現地までの交通費など費用がかかります。実習予定地は移動型のキャンプで実施しますが、滋賀県及び福井県を予定しています。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **専門実習の事前準備**<br>山岳環境・海洋環境で実施する実習の準備を行う。特に1泊2日の行程で実施する山岳環境における装備について、個人装備・団体装備の配布を行うとともに、パッキング方法について理解する。また、移動型のキャンプ形態で実施することから全ての活動の装備について積み込み等、マネジメント体制の理解を深める。 | 個人装備・団体装備について理解を深める。 | 1時間 |
| 第２回 | **本実習：登山前の健康管理及び山行計画の最終確認**<br>縦走登山について、集合時に必要な健康管理チェックの実施と当日及び登山中における天候チェックにともなう最終の山行計画の確認することで実習への理解を深める。 | グループミーティングによる実習の意味について理解を深める。 | 1時間 |
| 第３回 | **本実習：縦走登山**<br>1日目：縦走登山（予定）<br>８：００　グループごとの登山活動開始<br>１６：００　ソロ（単独）活動によるビバーク<br>2日目：縦走登山（予定）<br>５：００　起床・朝食・撤収・出発（各自ソロ活動にて武奈ケ岳集合）＊八雲の本部にて点呼チェック<br>９：００　武奈ケ岳集合後、グループごとに登山活動再開<br>１６：００　朽木到着・登山活動終了<br>入浴・食事・振り返り | グループミーティングによって活動の理解を深める。 | 1時間 |
| 第4回 | **本実習：40㎞ハイク**<br>3日目：ハイク（予定）<br>朽木（滋賀県）から小浜（福井）までの約40㎞の行程を徒歩（約8時間）<br>７：３０　朽木出発（健康チェック）<br>グループごとのハイク<br>１６：００　小浜着<br>入浴・食事・振り返り | グループミーティングによって活動の理解を深める。 | 1時間 |
| 第５回 | **本実習：シーカヤックの組み立てと海洋での漕ぎ方**<br>4日目：シーカヤック（予定）<br>８：００　シーカヤック組み立て<br>１０：００　出航<br>１４：００　到着・カヤック整備<br>食事・振り返り | グループミーティングによって活動の理解を深める。 | 1時間 |
| 第６回 | **本実習：シーカヤックツーリング**<br>5日目：シーカヤック（予定）<br>７：３０　出発（健康チェック）<br>約２０㎞の距離をバディ・グループの安全管理を行いながら漕ぐ<br>１５：００　到着・シーカヤック解体<br>食事・振り返り | グループミーティングによって活動の理解を深める。 | 1時間 |
| 第７回 | **本実習：オーバーナイトハイク**<br>６日目：オーバーナイトハイク（予定）<br>７：３０　出発（健康チェック）<br>＊約９０㎞の距離をグループ・実習生全体の安全管理を行いながら夜通し歩く<br>７日目：３：００　大学艇庫到着<br>仮眠<br>７：００　後片付け・ブランチ・振り返り<br>９：００　実習終了・解散 | グループミーティング・全体ミーティングによって活動の理解を深める。 | 1時間 |
| 第８回 | **振り返りと評価**<br>実習で体験したことを振り返り、実習の位置付けや意味について理解する。 | 実習の達成度をレポートにまとめる。 | 1時間 |

SP-4303-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ専門実習（冬季） | | | | |
| 担当教員名 | 林・黒澤・橋本・中川 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

冬季自然環境の中で、野外教育指導者に必要とされる資質・能力を向上するために必要な野外スポーツプログラムを計画・実施・評価する能力の獲得を目指す。具体的な活動として、雪中泊を含んだ雪上活動、クロスカントリースキーやスノーシューハイクにわたる幅広い活動で展開する。実習は冬期に集中して実施するが、指導者としての資質能力を高めるための技術・安全管理に関する理論や知識については事前学習を進めながら実施する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 雪中泊、スノーシューハイク、クロスカントリースキーを通した雪上活動の理解 | 冬の自然環境の中での体験を通して、冬の自然に関心をいただくとともに、冬季野外スポーツ種目への活動意欲を持つことが出来る |
| 2. DP2.知識・技能 | 雪中泊、スノーシューハイク、クロスカントリースキーを通した雪上活動の理解 | 冬の自然環境の中で人と人が関わりながら野外スポーツを実践し、冬期野外スポーツに対する知識と技能を獲得することが出来る。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 雪中泊、スノーシューハイク、クロスカントリースキーを通した雪上活動の理解 | 冬の自然環境の中での体験の中で、環境に配慮した生活に対する思考を広げ、過酷な自然環境の中で生き抜くための適切な判断と行動が出来る。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 雪中泊、スノーシューハイク、クロスカントリースキーを通した雪上活動の理解 | 実習の体験から得たものを次の学びに繋げようとする主体性を身につけることが出来る。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 前実習：レポートおよび班別計画表 | 20 % | ： | 事前実習でのレポートによる実習の目的理解度を評価する。 |
| 本実習における課題達成および実習日誌の提出 | 65 % | ： | 実習での各活動における課題達成度評価及び実習日誌による実習の目的理解度を評価する。 |
| 事後実習：レポートおよび班別活動記録 | 15 % | ： | 実習後の報告書による目的達成度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本実習は、同時開講の「アウトドアスポーツ実践論（冬）」を受講した者が対象となります。
また、本実習は学外での宿泊を伴った実習になるため、宿泊費、現地までの交通費、実習で用いる装備のレンタル費など費用がかかります。実習予定地は新潟県妙高市赤倉周辺を予定しています。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **専門実習の事前準備**<br><br>雪山環境で実施する実習の準備を行う。特に2泊3日の行程で実施する雪山環境におけるキャンプ活動の装備について、個人装備・団体装備の配布を行うとともに、パッキング方法について理解する。 | 個人装備・団体装備についての理解を深める。 | 4時間 |
| 第２回 | **本実習：２泊３日の雪中キャンプ前の健康管理及び計画の最終確認**<br><br>２泊３日の雪中キャンプについて、集合時に必要な健康管理チェックの実施と当日及びキャンプ中における天候チェックにともなう最終の安全等を含めた計画の確認することで実習への理解を深める。 | グループミーティングによる理解を深める。 | 4時間 |
| 第３回 | **本実習：雪中キャンプ**<br><br>１日目：イグルー泊（予定）<br>１３：００　宿舎出発<br>イグルー製作（グループ）<br>環境整備<br>夕食・振り返り<br>２日目：スノーシューハイク及び雪洞泊（予定）<br>９：００　スノーシューハイク出発<br>１４：００　雪洞製作（ソロ）<br>夕食・振り返り<br>ソロでの雪洞を活用して就寝<br>３日目：スノーシューを用いたストレートハイク、クロスカントリースキー<br>８：００　マップ＆コンパスを活用したストレートハイク<br>１０：００　宿舎着・後片付け<br>１３：００　クロスカントリースキー体験 | グループミーティング及び個人別振り返りによる理解を深める。 | 4時間 |
| 第４回 | **本実習：バックカントリースキー**<br><br>4日目：バックカントリースキー（予定）<br>９：００　バックカントリーの理解と実践<br>１６：００　終了<br>５日目：バックカントリースキー（予定）<br>９：００　バックカントリーでのアルペンスキー（予定）実践<br>１６：００　終了・振り返り<br>６日目：全体ミーティング・解散 | グループミーティング及び個人別振り返りによる理解を深める。 | 4時間 |
| 第５回 | **実習の振り返りと評価**<br><br>実習についての振り返りと個人別評価、グループ別評価を行い、実習についての理解を深める。 | 個人レポートによる目的・目標達成どの評価による理解を深める。 | 4時間 |

SP-4304-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **アウトドアスポーツ指導論（キャンプカウンセリング）** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤　毅** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

野外スポーツの教育現場で重要な役割を担うキャンプカウンセラー（指導者）について理解する。単なる野外スポーツの技術指導（ハードスキル）だけでなく、心理的側面からも対象者にアプローチするキャンプカウンセラーは可視化の困難なソフトスキルについても理解を深め、その指導法を身に付ける。また、野外スポーツ場面におけるキャンプカウンセリングについて、自然環境の中での自己の理解と他者の理解を含め、グループディスカッションやグループワークを交えて討議する中で学びを深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 野外スポーツにおける指導者の役割 | 自然の中で指導することに対する対象者の成長を理解し、具体的な指導方法を理解することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 野外スポーツを指導する際に必要となるスキル | 指導の際に必要となるハードスキルを教える際に必要となるソフトスキルについて理解する。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 自然というリスクがある中での指導現場で必要となる資質・能力 | 自然の中での活動を行う上で必要になる仲間との合意形成することや協働することの必要性について理解する。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 知識・技能を活用して安全に指導にあたることができるために必要な資質能力 | 自然体験活動の中での課題解決をする力を養うとともに、実際の指導現場を想定した学びにを理解する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内のレポート | 40 % | ： | レポートによる理解度を評価する。 |
| グループ課題・個人別課題の発表 | 30 % | ： | グループ課題・個人別課題の発表による理解度を評価する。 |
| 授業内のワークシート | 30 % | ： | 授業の内容理解のためのワークシートを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

キャンプ・カウンセリング（A.V.ミッチェル・I.Bクロフォード共著　兼松保一訳）
自然体験活動指導者のための安全対策読本（（財）日本レクリエーション協会）
野外教育指導者読本（野外教育指導研究会）
その他、授業のなかで随時紹介します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **オリエンテーション・カウンセリングの定義**<br>本授業の概要を説明すると同時に、受講生のこれまでの野外教育活動経験および指導経験、キャンプカウンセラーに対して持つイメージについてディスカッションしながら、本授業における学修目標の確認を行う。 | 自身の野外スポーツ指導体験についてまとめる。 | 4時間 |
| 第２回 | **キャンプ組織について**<br>野外教育の中でも組織的に行われるキャンプに焦点を当て、その教育目標を事例を用いて理解するとともに、キャンプにかかわる指導者全体の組織とその役割について概説する。 | キャンプ組織について事例を挙げながらその組織の特徴をまとめる。 | 4時間 |
| 第３回 | **キャンプ指導者と役割**<br>教育キャンプにおける指導者の役割について様々なキャンプ事例を用いて概観するとともに、目的との関連性について理解を深める。 | 自身の指導経験のある野外スポーツプログラムの指導者と役割について、その意義を含めて考えをレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第４回 | **キャンプカウンセリングの意義**<br>野外スポーツ（キャンプ）におけるカウンセリングの意義について、指導者の役割の観点から理解を深める。 | 指導体験の中から指導者の存在意義と役割についてレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第５回 | **キャンプカウンセラーの資質と能力**<br>キャンプにおける対象となる参加者に直接的に関わるキャンプカウンセラーに必要となる資質や能力について概説する。 | キャンプカウンセラーとしての自身の資質と能力につい評価用紙をもとに分析してまとめる。 | 4時間 |
| 第６回 | **キャンプカウンセラーの役割**<br>キャンプ指導場面における様々な役割の中で、キャンプカウンセラーとして関わる際に必要となる資質や能力について理解を深める。 | キャンププログラム事例を調べ、その中でのキャンプカウンセラーの役割について特徴をまとめる。 | 4時間 |
| 第７回 | **キャンプカウンセリングの進め方**<br>キャンプカウンセラーとしてのカウンセリングの進め方について概説するとともに、グループワークの中で自己主張と傾聴の重要性について理解を深める。 | 自己主張と傾聴の重要性について、野外スポーツ以外の場面での重要性についてレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第８回 | **対象者の理解**<br>目的を達成させるために実施される野外スポーツプログラムのなかでの、様々な対象者を理解する手法について学修する。 | 自らが興味関心を持つ対象者（年代）における効果的関わりについて、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第９回 | **フィードバックの方法**<br>キャンプカウンセラーとしてのフィードバック（ふりかえり）の方法について理解を深める。 | キャンプ実施団体におけるフィードバックの事例を調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第１０回 | **カウンセラーとしての自己評価**<br>キャンプカウンセラーとして成長するための自己評価の方法について理解を深める。 | キャンプカウンセラーとして成長するために自己評価をどのように活用するかについて考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第１１回 | **個の成長とカウンセラー**<br>野外スポーツにおけるカウンセラーの関わりが個に及ぼす影響について、グループディスカッションを通して理解を深める。 | キャンプの感想文を読んで、個への影響について、感想文からまとめてレポートする。 | 4時間 |
| 第１２回 | **グループの成長とカウンセラー**<br>野外スポーツにおけるカウンセラーの関わりがグループに及ぼす影響について、グループディスカッションを通して理解を深める。 | キャンプの感想文を読んで、グループに与えた影響について、感想文からまとめてレポートする。 | 4時間 |
| 第１３回 | **キャンプカウンセリングの効果に関する研究**<br>キャンプカウンセリングの効果に関して概説するとともに、指導者の関わりによる対象者の成長について理解を深める。 | キャンプカウンセリングに関する研究の中から興味関心のあるものについてまとめてレポートする。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第１４回 | **キャンプの指導要項**<br>キャンプにおける指導に関して、自らキャンププログラムをデザインする方法を知り、それに伴う指導の要点のまとめかたについて理解を深める。 | キャンプカウンセリング指導要領を作成する。 | 4時間 |

SP-4305-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **キャンプ指導法** | | | | |
| 担当教員名 | **橋本・林・黒澤** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

1年次生が実施するアウトドアキャンプにスタッフ、指導者として関わるために、指導・運営の実際を学び、指導スキルの向上や指導方法について理解を深めることを目的する。班担当の指導者としてキャンプの基本技術のインストラクションや班内の人間関係作りではカウンセラーとしての役割について指導について体験的に学ぶ。本部担当スタッフとしては、キャンプ全体のプログラムをサポートするマネジメントスタッフとしての役割について学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | キャンプの指導実践 | 指導実践から得た自己内省から、新たな指導実践への関心や意欲を高めることができる |
| 2. DP2.知識・技能 | キャンプの指導実践 | 指導実践の中でリスクマネジメントやインストラクション、カウンセリング、ファシリテーションの方法についての理解することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | キャンプの指導実践 | 指導実践の中で、個人や集団や状況をよく観察し、具体的な支援や指導を行うことができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | キャンプの指導実践 | 指導実践を通した体験から、より良い指導を目指し、今後の指導に向け主体的・協働的な態度で取り組む姿勢を養う |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
「ICT(タッチタイピング）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 役割理解と実践・レポート | 80 % | ： | キャンププログラムの指導実践の課題達成度およびレポートによる目的達成度を評価する。 |
| 報告書作成 | 20 % | ： | 報告書による目的達成度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時紹介します

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
キャンプ指導の基礎になる内容です。どのようにキャンプを企画・運営し、指導していくかのノウハウを学びます。演習形式の授業も行います。アウトドアキャンプの補助としての経験に活かされることを期待します。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **キャンププログラムの目的確認、組織の説明**<br>キャンプのプログラムに向けて目的や組織を共有する。 | プログラムの目的および組織の理解を深める | 4時間 |
| 第2回 | **野外スポーツ指導者の心得**<br>指導スタッフとして、本部スタッフとしての心得や心構えについてを共有する。 | 指導者についての理解を深める。 | 4時間 |
| 第3回 | **アウトドアプログラムの基本装備（個人・団体装備）**<br>プログラムに必要な個人装備および団装備について学び、その活用方法（指導法）について学ぶ。 | 装備の一覧表を作成する | 4時間 |
| 第4回 | **アウトドアプログラムの野外生活に関するの基礎知識**<br>定住型の野外生活技術の基礎的な知識やその指導法について学ぶ。 | 野外での生活様式に合わせた指導について考える | 4時間 |
| 第5回 | **アウトドアプログラムのリスクマネジメント（仲間づくり野外ゲーム）**<br>仲間づくり野外ゲーム（ASE、イニシアチブゲーム）でのリスクマネジメントについて学ぶ。 | 仲間づくり野外ゲームで想定される様々なリスクについてまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **アウトドアプログラムのリスクマネジメント（登山）**<br>登山でのリスクマネジメントについて学ぶ。 | 登山で想定される様々なリスクについてまとめる | 4時間 |
| 第7回 | **アウトドアプログラムのリスクマネジメント（キャンプサイト）**<br>キャンプサイトでのリスクマネジメントについて学ぶ。 | キャンプサイトで想定される様々なリスクについてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **プログラム指導実践（イニシアチブゲームの作成）**<br>イニシアチブゲームの課題解決型の要素を取り入れたオリジナルのゲームを作成する。 | イニシアチブゲームを作成する | 4時間 |
| 第9回 | **プログラム指導実践（イニシアチブゲームの評価と観察）**<br>作成されたイニシアチブゲームを実際に共有し、体験し評価を行う。その際に観察者を設け客観的な評価者としての立場からについても学ぶ。 | 他の人のイニシアチブゲームについて評価する | 4時間 |
| 第10回 | **プログラム指導実践（ネイチャーゲームの実際）**<br>参考資料からネイチャーゲームについて何点か取り上げ、指導者と参加者に分かれ、指導と実際の体験を同時に行う。 | 体験したネイチャーゲームについて自身の気づきについてレポートにまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **プログラム指導実践（ネイチャーゲームの作成）**<br>ネイチャーゲームの自然への理解や意識づけの要素を取り入れたオリジナルのゲームを作成する。 | ネイチャーゲームを作成する | 4時間 |
| 第12回 | **プログラム指導実践（ネイチャーゲームの評価と観察）**<br>作成されたネイチャーゲームを実際に共有し、体験し評価を行う。その際に観察者を設け客観的な評価者としての立場からについても学ぶ。 | 他の人が作成したネイチャーゲームについて評価する | 4時間 |
| 第13回 | **キャンププログラムにおける指導の立場への理解**<br>多岐にわたるキャンププログラムの指導者の立場について整理し、それぞれの指導の内容やポイントについて理解を深める。 | 指導のポイントについてまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **総括・まとめ**<br>キャンププログラムの指導について総括を行い、実際の相互の指導についてディスカッションを行う。 | 指導法についてのレポートを作成する | 4時間 |

SP-4306-3-2

| 授業科目名 | アドベンチャープログラミング（冒険教育プログラム） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林　綾子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | Wilderness Education Association (US & Japan)、Outward Bound USAのインストラクターとして冒険教育プログラム、指導者養成プログラム指導、WEAJ資格認定指導者（Certifying Examiner）の経験を講義内容に結びつけている（全14回） | | | | |

**授業概要**

アドベンチャープログラムとは、主に自然環境を活用し、冒険の要素を特定の教育目的を持って体験学習として組織的に行うプログラムであり、多くの野外教育活動に取り入れられている。また、展開方法としても、青少年教育や、企業研修、スポーツチームのチームビルディング、リーダーシップ研修、あるいは悩みや問題を抱える青少年を手助けする活動など多様な展開が行われ、一人ひとりが、あるいは集団として冒険や困難に立ち向かうことから得れる成長を促すものである。本授業においては、冒険教育（アドベンチャープログラム）の理論的理解と、多様な対象者や目的のための展開方法（プログラミング）を体験や実践例を通して学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アドベンチャープログラミングについての理論と実践の学習 | アドベンチャープログラミングの教育的・社会的価値を理解できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | アドベンチャープログラミングの理論や、対象者や目的に応じた展開方法の学習 | 効果的な実践のための基本理論や、対象者や目的に応じた展開方法を理解できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アドベンチャープログラミングの理論や、対象者や目的に応じた展開方法の学習 | アドベンチャープログラミングの特性を活かしたプログラミングを行うことができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | アドベンチャープログラミングを通した社会貢献についての学習 | 自らの価値観に基づき、社会に役立つ冒険教育の展開について考え、実践することができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：現状では未定)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 個人課題 | 50 % | ： | トピックに関わる課題から、理解の程度を評価する。 |
| グループ課題 | 20 % | ： | グループでトピックに関わる課題に取り組み、発表したものを、その理解や内容について評価する。 |
| 最終課題 | 30 % | ： | 総合的な理解や、知識に基づいたプログラムデザインを実践する課題の内容を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

自然体験活動研究会編（2011）野外教育の理論と実践．杏林書院.
自然体験活動研究会編（2014）冒険教育の理論と実践．杏林書院.

**履修上の注意・備考・メッセージ**

多様なアウトドアスポーツ・冒険教育の背景となっている理論を理解することは、今後のより効果的・意味深い実践を行うための基盤となります。今後の実習や実践において「専門知識」を持って関わり、創っていけるよう、また指導できるようになるように自主的に学んでいきましょう。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　火曜日2限

**場所**：　A402

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業の概要説明および、冒険の意義や特徴の理解**<br>人類の歴史における「冒険」の意味、現在社会における冒険の意味、アウトドアスポーツにおける冒険の意味を理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第2回 | **冒険体験の特性・冒険的スポーツ**<br>冒険体験の現代的特性や、冒険的要素を含んだアウトドアスポーツについて理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第3回 | **アドベンチャープログラミング理論・歴史の理解**<br>アウトドアスポーツ・野外教育の中での冒険教育の位置づけを理解し、冒険教育の基本的な考え方、歴史、理論やその展開について学ぶ。<br>冒険教育の基盤となる体験学習の理論的理解や歴史、野外教育としての展開、冒険教育としての展開について学ぶ。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第4回 | **アドベンチャープログラム体験のプロセス・効果**<br>アドベンチャープログラム体験はどのように学習されていくのか、そのプロセスや検証されている効果について理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第5回 | **アドベンチャープログラム体験①**<br>アドベンチャープログラムを実際に体験し、活動に関わるリスクとその対処について学ぶ。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第6回 | **ゲスト講師による講演**<br>アドベンチャープログラムの現場で活躍する講師から、冒険体験の特性を活かした現場での展開について学ぶ。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第7回 | **アウトドアセラピューティックプログラム（OTP）①**<br>セラピューティック目的でのアウトドアスポーツの展開について、OTPの基礎理論や背景を理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第8回 | **アウトドアセラピューティックプログラム（OTP）②**<br>自然環境や冒険教育の特性を不登校生徒や心に悩みを抱える人々へ展開する実践例から、冒険体験の多様な活用とその効果について理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第9回 | **アウトドアセラピューティックプログラミング**<br>体験やゲスト講師、事例から学んだOTPについて、実際に対象者を設定し、プログラミングを試みる。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第10回 | **リスクマネジメント**<br>アドベンチャープログラミングにおける重要な要素であるリスクについて、その種類や内容を理解し、安全管理のためのリスクマネジメントや、教育的な展開のためのリスクへの対処など多様なリスクマネジメントについて理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第11回 | **Leave No Trace（LNT）：環境へのインパクトを抑える野外活動**<br>自然環境での冒険的活動には、環境的なインパクトが伴う。科学的根拠に基づく環境倫理プログラム（LNT）を学ぶことから、アドベンチャープログラミングの環境を配慮した実践方法について理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第12回 | **指導者資質**<br>アドベンチャープログラムを指導する指導者が安全で効果的なプログラムン展開に必要な資質について、理解する。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第13回 | **アドベンチャープログラミング**<br>アドベンチャープログラミングに必要な要素を学び、授業での学びを活かし、オリジナリティや社会的意義のあるプログラミングを行う。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>小グループにて作成したアドベンチャープログラミングについて発表し、ディスカッションする。 | 最終課題に取り組む | 4時間 |

SP-4307-3-2

| 授業科目名 | マリンスポーツ指導法 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 橋本・黒澤 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アウトドアスポーツの指導は、用いる自然環境とスポーツ種目の特性の違い、また、活動の目的や対象者によって様々なプログラムで構成・展開されている。その中で効果的に指導を行うためには、野外スポーツの種目に応じた活動を理解するとともに、スキル獲得、またそのスポーツ種目を用いて個々に構成されるプログラムの特徴を理解し、それを指導できる力を必要とする。そこで、本授業では、アウトドアスポーツの中で本学の環境的特色を活かして展開する水辺活動（マリンスポーツ）について、活動の理解とともにスキルの獲得を行った上で指導法について学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | マリンスポーツの実践 | マリンスポーツのスキル習得の過程や知識の習得から自らのスキルや知識の向上を目指す姿勢や態度を養う |
| 2. DP2.知識・技能 | 水辺環境の自然に関する講義やアクティビティの実践 | 水辺活動における環境の理解や、リスクについて理解し、状況に応じたスキルの発揮ができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 目的と対象に応じたアクティビティの指導実践 | 安全で効果的な指導方法を実践することができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 目的と対象に応じたアクティビティの指導実践 | 指導体験を通した自己内省からさらなる指導方法を追求することと、主体的・行動的な姿勢を養うことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
「ICT(タッチタイピング)」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各アクティビティ指導実習 | 40 % | ： 指導案の内容、指導実習、実習後のふりかえりの内容について評価する |
| 授業ごとに提示される課題 | 40 % | ： 授業のテーマについての理解度を評価する |
| 現場での指導実習レポート | 20 % | ： 実際の指導実習の報告書の内容について、指導案、指導対象理解、指導の留意点等についての理解度を評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時配布・紹介する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業の概要説明、自然を活かしたスポーツ活動**<br>自然を活かしたスポーツ活動がどのように展開されているかを知るとともに、その教育的意義について理解を深める。 | これまでの野外スポーツ経験から、教育的意義を考える | 4時間 |
| 第2回 | **水辺環境の理解と安全（湖）**<br>野外スポーツを指導する際に必要な水辺環境の自然について、湖（琵琶湖）の歴史と文化、自然の特徴について理解を深める。 | 湖についての理解を深める。 | 4時間 |
| 第3回 | **水辺環境の理解と安全（海）**<br>野外スポーツを指導する際に必要な水辺環境の自然について、海の歴史と文化、自然の特徴について理解を深める。 | 海についての理解を深める。 | 4時間 |
| 第4回 | **野外スポーツ（カヤック）の魅力と教育的手段としての特性の理解**<br>野外スポーツ種目としてのカヤックを取り上げ、その魅力や活動範囲を理解するとともに、教育的手段として用いられているカヤックの特性について理解を深める。 | 野外スポーツ（カヤック）の教育的意義を考える | 4時間 |
| 第5回 | **野外スポーツ（カヤック）の安全とリスク**<br>水辺活動として実施されるカヤックについて、その安全とリスクについての理解を深める。 | 琵琶湖を活用したカヤックの安全とリスクを考える | 4時間 |
| 第6回 | **野外スポーツ（カヤック）の実際**<br>野外スポーツ（カヤック）について、実際の自然環境及び装備を用いて体験してみる。 | 体験したふりかえりとして留意点をまとめる | 4時間 |
| 第7回 | **野外スポーツ（カヤック）の指導法について**<br>カヤックを用いた教育活動を実施する際の指導法について、実際に水辺現場で実際体験を通して理解を深める。 | 指導案を作成する | 4時間 |
| 第8回 | **野外スポーツ（カヤック）の指導の実際**<br>野外スポーツ（カヤック）について、実際の自然環境及び装備を用いて体験したことを活かして指導してみる。 | 指導したふりかえりとして留意点をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の魅力と教育的手段としての特性の理解**<br>野外スポーツ種目としてのウィンドサーフィンを取り上げ、その魅力や活動範囲を理解するとともに、教育的手段として用いられているカヤックの特性について理解を深める。 | 野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の教育的意義を考える | 4時間 |
| 第10回 | **野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の安全とリスク**<br>水辺活動として実施されるウィンドサーフィンについて、その安全とリスクについての理解を深める。 | 琵琶湖を活用したウィンドサーフィンの安全とリスクを考える | 4時間 |
| 第11回 | **野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の実際**<br>野外スポーツ（ウィンドサーフィン）について、実際の自然環境及び装備を用いて体験することから理解を深める。 | 体験したふりかえりとして留意点をまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の指導法について**<br>ウィンドサーフィンを用いた教育活動を実施する際の指導法について、実際に水辺現場で実際体験を通して理解を深める。 | 指導案を作成する | 4時間 |
| 第13回 | **野外スポーツ（ウィンドサーフィン）の指導の実際**<br>ウィンドサーフィンの指導を行い、自分自身の指導についての方法や課題を見つけ、指導に対する理解を深める | 自分自身の指導法についてふりかえる | 4時間 |
| 第14回 | **水辺活動の指導のまとめ**<br>カヤックやウィンドサーフィンを中心とした指導法についてまとめる | 自分自身の指導をふりかえる | 4時間 |

SP-4308-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **アウトドアスポーツ実践論（夏季）** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤　毅** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義・実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、夏季における野外スポーツについて、縦走登山と長距離ハイク、シーカヤックを取り上げて実際に実践するために必要な知識や技術についての理解を深める目的で行います。多様な自然環境の中で、目的・目標を達成するためには、より高いレベルでの自然に対する理解と配慮、アウトドアアクティビティの理解とスキル獲得が必要になると同時に、安全に配慮した行動などに対する思考・判断力・行動力といったあらゆる資質・能力が求められます。本授業では夏季に実際に取り組む実習に対する実践のために必要な授業内容で構成します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 山岳環境、海洋環境を用いた中での縦走登山、長距離ハイク、シーカヤック活動の概要理解 | 山や海をはじめとする自然環境の中での高度な野外活動に対する関心を持ち、主体的に行動する意欲を持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 自然の中でのより高度な野外実習の実践に必要となる知識と技術 | 自然環境の中で必要となる技能を習得するとともに、安全に過ごすための知識と実践力を身につけることが出来る。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 実践に必要となる食料や装備をはじめとした企画 | 自然の中での高度な実践を通して、自己や他人を理解し、環境に配慮した生活ができるようになる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | アクティブラーニング（グループワークによるグループ決定やグループ活動） | 実習の主体は学習者であることを理解し、実習を成功させるために必要な協調性を身につけることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業後の小レポート課題 | 30 % | ： | 授業後に実施する小レポート課題の理解度を評価します。 |
| 実践課題 | 40 % | ： | 実践課題をふりかえり、授業ごとの取り組みや理解を評価します。 |
| 理論課題 | 30 % | ： | レポートから、理論的な理解について評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。必要になる際には随時指示します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本授業は、同時開講している「アウトドアスポーツ専門実習（夏）」を履修することを前提に受講してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **オリエンテーション・組織キャンプの目的と意義**<br>本授業の概要及び夏季キャンプの目的と意義を理解する中で、夏季野外スポーツを実施・指導する際に必要となる様々な自然環境や人に対する理解を深める。 | 組織キャンプの目的について理解を深める。 | 4時間 |
| 第２回 | **組織キャンプの実践と概要**<br>組織キャンプとしての具体的な位置付けを理解するとともに、ある一定の教育目的・目標を持って実施される組織キャンプの具体的実施体制について理解する。 | 具体的な実施体制の中での自らの位置付けを確認する。 | 4時間 |
| 第３回 | **環境に配慮した野外での行動**<br>夏季野外スポーツを実施する際の山や海をはじめとしたフィールドについての理解を深めるとともに、その中での環境への配慮について理解する。 | 具体的なフィールドについて必要な環境への配慮を調べる。 | 4時間 |
| 第４回 | **組織キャンプにおけるグループ**<br>組織キャンプを行う上で主体は学習者本人であることを理解し、一人一人の責任ある言動を促すために、キャンプ実施の際のグループ分けについて理解を深める。 | グループ決定についての振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第５回 | **山遠征における行動計画とリスクマネジメント**<br>１泊2日の縦走登山遠征における実際の行動についての計画・実施・評価に対する理解を深めると同時に、特徴的な自然環境としての山について、リスクの理解とともにリスクマネジメントを理解を深める。 | 山の行動計画の中のリスクとマネジメントについて調べる。 | 4時間 |
| 第６回 | **海遠征における行動計画とリスクマネジメント**<br>１泊2日のシーカヤック遠征における実際の行動についての計画・実施・評価に対する理解を深めると同時に、特徴的な自然環境としての海について、リスクの理解とともにリスクマネジメントを理解する。 | 海の行動計画の中のリスクとマネジメントについて調べる。 | 4時間 |
| 第７回 | **地図とコンパス（山遠征）**<br>リスクマネジメントの理解の中で重要な要素である地図とコンパスについて、山岳環境における事故や遭難の実態を知るとともに、地形図及びコンパスワークについても理解を深める。 | 地図とコンパスについて具体的な例題を行う。 | 4時間 |
| 第８回 | **地図とコンパス（海遠征）**<br>リスクマネジメントの理解の中で重要な要素である地図とコンパスについて、海洋環境における事故や遭難の実態を知るとともに、地形図及びコンパスワークについても理解を深める。 | 地図とコンパスについて具体的な例題を行う。 | 4時間 |
| 第９回 | **キャンプにおける食料と装備**<br>非日常の自然環境の中で実施される組織キャンプにおいて安全に健康に計画を遂行するために必要となる食料と装備について、実際の遠征計画に沿った計画を立てる。 | 食料計画とプログラムとの整合性を確かめる。 | 4時間 |
| 第１０回 | **サバイバルテクニック（野営方法）**<br>山遠征時に必要となるスキルとして、サバイバルテクニックに対する理解を深めるとともに、そのスキルを獲得する。主に、宿泊方法、調理のための火付け方法について、環境への配慮を伴いながら理解を深める。 | サバイバルテクニックについて実施に復習する。 | 4時間 |
| 第１１１回 | **シーカヤックの組み立てと実際**<br>海遠征時に用いられる装備であるシーカヤックについて、安全を第一として組み立てるスキルを獲得する。 | カヤックの組み立てについて動画で確認する。 | 4時間 |
| 第１２回 | **シーカヤックにおけるレスキュー方法**<br>シーカヤックにおけるレスキュー方法の理解を深める。 | レスキュー方法について動画で確認する。 | 4時間 |
| 第１３回 | **野外における遠征のマネジメント体制**<br>組織キャンプとして山遠征及び海遠征をする際のマネジメント体制について、実際の行程に当てはめた体制について理解するとともに、実際に事前準備を行う。 | マネジメント体制を理解した上で位置付けを確認する。 | 4時間 |
| 第１４回 | **個人目標とグループ目標の設定**<br>夏季野外スポーツを実施する際の参加者の動機は組織キャンプが安全に充実したものになるかどうかに大きく作用することを理解し、個人目標及びグループ目標を実際に立てて計画を実施することの重要性を理解する。 | 個人目標とグループ目標についてまとめる。 | 4時間 |

SP-4309-3-2

| 授業科目名 | アウトドアスポーツ実践論（冬季） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 黒澤　毅 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義・実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、冬季における野外スポーツについて、雪中泊をはじめ、スノーシューハイク、クロスカントリースキー、バックカントリースキーを取り上げて実際に実践するために必要な知識や技術についての理解を深める目的で行います。多様な自然環境の中で、目的・目標を達成するためには、より高いレベルでの自然に対する理解と配慮、アウトドアアクティビティの理解とスキル獲得が必要になると同時に、安全に配慮した行動などに対する思考・判断力・行動力といったあらゆる資質・能力が求められます。本授業では冬季に実際に取り組む実習に対する実践のために必要な授業内容で構成します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 雪山環境を用いた中での雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキープログラム概要 | 雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキーへの関心を深めることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 雪山環境を用いた中での雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキーを行う上での知識とスキル | 雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキーへの幅広い知識と技術を獲得することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 実践に必要となる食料や装備をはじめとした企画 | 雪中泊、スノーシュー、クロスカントリースキー、バックカントリースキーを行う上で必要となる、対人関係を学ぶことができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | アクティブラーニング（グループワークによるグループ決定やグループ活動） | 実習の主体は学習者であることを理解し、実習を成功させるために必要な協調性を身につけることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)

ICT（タッチタイピング）
ICT（Power Point）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業後の小レポート課題 | 30 % | ： 授業後に実施する小レポート課題の理解度を評価します。 |
| 実践課題 | 40 % | ： 実践課題をふりかえり、取り組みや理解を評価します。 |
| 理論課題 | 30 % | ： レポートから、理論的な理解について評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。必要になる際には随時指示します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本授業は、同時開講している「アウトドアスポーツ専門実習（冬）」を履修することを前提に受講してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **オリエンテーション・キャンプの目的と意義**<br>本授業の概要及び冬季キャンプの目的と意義を理解する中で、冬季野外スポーツを実施・指導する際に必要となる様々な自然環境や人に対する理解を深める。 | 組織キャンプの目的について理解を深める。 | 4時間 |
| 第２回 | **冬季野外環境について**<br>冬季に実施する組織キャンプは雪をはじめとした多様な自然環境・状況の中で展開されることを理解する。 | 冬季野外環境についてのリスクを調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第３回 | **環境に配慮した野外での行動**<br>冬季野外スポーツを実施する際の雪山をはじめとしたフィールドについての理解を深めるとともに、その中での環境への配慮について理解する。 | 具体的なフィールドについて必要な環境への配慮を調べる。 | 4時間 |
| 第４回 | **組織キャンプの実践と概要**<br>６泊7日の雪山遠征の実際の行動についての計画・実施・評価に対する理解を深める。 | 具体的な実施体制の中での自らの位置付けを確認する | 4時間 |
| 第５回 | **組織キャンプにおけるグループ**<br>組織キャンプを行う上で主体は学習者本人であることを理解し、一人一人の責任ある言動を促すために、キャンプ実施の際のグループ分けについて理解を深める。 | グループ決定についての振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第６回 | **雪上におけるリスクマネジメント（雪）**<br>雪山をはじめとした特徴的な自然環境の中で起こりうるリスクとそれに対するリスクマネジメントについて理解する。 | 雪上の行動計画の中のリスクとマネジメントについて調べる。 | 4時間 |
| 第７回 | **雪上活動の実際（宿泊方法について）**<br>特徴的な雪山という自然環境の中で、より快適に過ごす方法として「イグルー」、「雪洞」という2つの野営形態とその作り方について理解する。 | 宿泊方法について具体的手順を調べる。 | 4時間 |
| 第８回 | **スノーシュー**<br>特徴的な雪山という自然環境の中でのアクティビティ（移動手段）としてのスノーシューについて理解する。 | スノーシューの動画でスノーシュー活動についてさらに理解を深める。 | 4時間 |
| 第９回 | **クロスカントリースキー**<br>特徴的な雪山という自然環境の中でのアクティビティ（移動手段）としてのクロスカントリースキーについて理解する。 | クロスカントリースキーの動画でスノーシュー活動についてさらに理解を深める。 | 4時間 |
| 第１０回 | **キャンプにおける食料と装備**<br>冬季における雪山遠征時に必要となる安全に健康に計画を遂行するために必要となる食料と装備について、実際の遠征計画に沿った計画を立てる。 | 食料計画とプログラムとの整合性を確かめる。 | 4時間 |
| 第１１回 | **雪山で用いる装備の確認**<br>雪山では安全かつ快適に過ごすために多くの装備を必要とするが、その装備の使い方の理解を深める。 | 実際の装備の使い方について反復をしながら理解を深める。 | 4時間 |
| 第１２回 | **バックカントリースキー**<br>非日常の世界である、普段は人が立ち入らない場所としてのバックカントリーでのアルペンスキー活動についての理解を深めるとともに、安全かつ快適な活動のための装備の確認を行う。 | バックカントリースキーの動画を見ながらリスクと活動の理解を深める。 | 4時間 |
| 第１３回 | **野外における遠征のマネジメント体制**<br>組織キャンプとして雪山遠征をする際のマネジメント体制について、実際の行程に当てはめた体制について理解するとともに、実際に事前準備を行う。 | マネジメント体制を理解した上で位置付けを確認する。 | 4時間 |
| 第１４回 | **個人目標とグループ目標の設定**<br>冬季野外スポーツを実施する際の参加者の動機は組織キャンプが安全に充実したものになるかどうかに大きく作用することを理解し、個人目標及びグループ目標を実際に立てて計画を実施することの重要性を理解する。 | 個人目標とグループ目標についてまとめる。 | 4時間 |

SP-4310-3-2

| 授業科目名 | 環境教育（環境教育プログラム） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 中川　宏治 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 地方公務員（林業職）として20年間勤務し、林業振興や環境教育などに従事した。その間、琵琶湖環境科学研究センターにおいて、滋賀県の森林をフィールドとした政策課題研究に6年間携わったほか、ケニア共和国のメルー国立公園において青年海外協力隊（環境教育）のボランティア活動に2年間取り組んだ。 | | | | |

**授業概要**

環境教育では、自然だけではなく、社会や経済など幅広い領域を対象とし、老若男女国籍問わず、多様な学習者が家庭、学校、地域で学びます。幸い本学は、周囲に豊かな自然環境が広がり、独自の歴史や文化が育まれてきたため、環境教育を学ぶ上で恵まれた環境にあるといえるでしょう。本科目では、地域にある自然や文化に触れる体験や、教育活動の実践を通して、環境教育の知識を深めていきます。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 環境教育の歴史やその基本となる考え方・意義 | 地球環境の現状や環境教育の目的・意義について理解し、自分の言葉で説明できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 人間としての環境に対する倫理観、他者との共生 | LNTについて説明でき、自分の生活や活動の中で計画・実践できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 環境教育を内容とするパッケージドプログラム、環境教育プログラムの実践と評価 | 環境教育を目的とするアクティビティデザイン、プログラムデザインができる。<br>デザインしたアクティビティ・プログラムを実践でき評価できる<br>デザインしたアクティビティ・プログラムを実践でき評価できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 講義内における課題（個人課題） | 50　% | ：　各講義ごとの内容について理解度確認の課題を10点満点で評価する。 |
| 実技実習レポート | 50　% | ：　各実技実習ごとにレポートテーマを設定し、具体的な内容と理解度についてのまとめ方により10点満点で評価する　5回×10点 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『環境教育指導事典』（佐島群巳・鈴木善次・木谷要治・木俣美樹男・小澤紀美子・高橋明子編集、国土社）
『災害対応の伝統知―比良山麓の里山から』（吉田丈人・深町加津枝・三好岩生・落合知帆、昭和堂）
『インタープリターズガイドブック―意味の探求を促すガイドの技術』（ジム・ブックホルツ／ブレンダ・ラッキー／マイケル・グロス／ロン・ジマーマン著、Raningu autodoa）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

私自身、環境教育に興味を持ったきっかけは、花に集まる多種多様な昆虫群集に魅了された大学時代の体験でした。本授業を通して、まずは自然に限らず、社会や経済などを含めた「環境」に興味関心を持っていただきたいと思います。そして、環境教育の指導者に求められる知識を深めていきましょう。
なお、本授業内で行う実技については、移動や装備といった実費が自己負担となります。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業ガイダンス、野外教育・野外スポーツと環境教育**<br>授業ガイダンス、集中で行われる授業の説明を行うとともに、野外スポーツ・野外教育と環境教育の用語の意味や現状を知る。 | 野外スポーツ・野外教育の概念について再確認し、理解を深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **環境問題と環境教育**<br>グローバルから見た環境問題、ローカルから見た環境問題の現状を知り、その解決方法について教育の観点から理解する。ESD、SDGs、カーボンニュートラル（気候変動）、ネイチャーポジティブ（生物多様性） | 地球規模の環境問題を様々な情報源を基に整理してみる | 4時間 |
| 第3回 | **環境教育の歴史と現状（国外、国内）、環境教育の組織**<br>環境教育の国内外の歴史と、関係する組織について知る。 | 米国、日本の環境教育組織を調べる | 4時間 |
| 第4回 | **Leave No Trace（リーブノートレイス）**<br>アメリカを中心とし、世界各国に広まっているLeave No Trace（LNT）について学習し、環境への負荷を最小限に抑える野外での活動の方法と、環境倫理について理解する。 | 各自の生活や活動の中でのLNTを確認してみる。 | 4時間 |
| 第5回 | **湖西地域比良地区の自然環境を知る**<br>大学周辺の自然環境の特徴と人々の関わり、教育や景観、観光など多様な視点から捉えた魅力について理解を深める。 | 湖西地域の自然環境の魅力について自分の考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **野性の森を体験し、その現状を知る**<br>学内の野外教育施設である野性の森について、実際に体験することで現状を知る。 | 野性の森の林床についてさらに調べてみる。 | 4時間 |
| 第7回 | **湖西地域比良地区の里山の現状を知る**<br>大学周辺の里山の現状を把握し、その価値について理解を深める。 | 里山についてさらに調べてみる。 | 4時間 |
| 第8回 | **野性の森を体感する、安全管理、まとめ（実技）**<br>各自、各グループが担当する野性の森の区域内に生育する樹木について調べる。 | 担当エリアについての情報のまとめをする。 | 4時間 |
| 第9回 | **環境教育パッケージプログラムを体験する（実技）**<br>ネイチャーゲームやプロジェクト・ワイルドなど代表的なプログラムを体験する。 | 他のパッケージプログラムを調べてみる。 | 4時間 |
| 第10回 | **琵琶湖博物館での環境教育①**<br>滋賀県、湖西地区の自然環境などについて琵琶湖博物館での環境教育に関わる展示から理解を深め、アクティビティデザインの資料を収集する。<br>野外レクリエーションスポーツと環境教育の関係性を理解する。 | 琵琶湖博物館での環境教育アクティビティをデザインしてみる。 | 4時間 |
| 第11回 | **琵琶湖博物館での環境教育②**<br>滋賀県、湖西地区の自然環境などについて琵琶湖博物館での環境教育に関わる展示から理解を深め、アクティビティデザインの資料を収集する。<br>野外レクリエーションスポーツと環境教育の関係性を理解する。 | 琵琶湖博物館での環境教育アクティビティをデザインしてみる。 | 4時間 |
| 第12回 | **環境教育アクティビティデザイン①**<br>独自の環境教育アクティビティをデザインし、それを実践、評価する。観光や文化などとの連携も視野に、野性の森、大学周辺、湖西地域でのアクティビティを考える。 | 報告書の作成 | 4時間 |
| 第13回 | **環境教育アクティビティデザイン②**<br>独自の環境教育アクティビティをデザインし、それを実践、評価する。観光や文化などとの連携も視野に、野性の森、大学周辺、湖西地域でのアクティビティを考える。 | 報告書の作成 | 4時間 |
| 第14回 | **環境教育アクティビティデザイン③**<br>独自の環境教育アクティビティをデザインし、それを実践、評価する。観光や文化などとの連携も視野に、野性の森、大学周辺、湖西地域でのアクティビティを考える。 | 報告書の作成 | 4時間 |

SP-4312-4-2

| 授業科目名 | アウトドアスポーツビジネス実践論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林　綾子 | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | Wilderness Education AssociationやOutward Bound, Leave No Traceの日米におけるインストラクターとしての指導経験、理事としての協会運営経験を講義内容に結びつけている（全14回） | | | | |

**授業概要**

IT化やデジタル化が進む一方で、人が本来持っている自然回帰の傾向は高まっており、より多くの人がキャンプや登山などのアウトドア活動をレジャーとして楽しむようになってきた。このアウトドアブームを受け、アウトドア関連産業がどのようにその特徴を活かして多様化、発展しているかを理解する。また、多様な展開方法の事例からマネジメントについて学び、自然環境という世界共有の財産をリソースとし、人々の心身の健康、SDGs、ネイチャーポジティブに関わる問題に対して重要な役割を果たすアウトドアビジネスの展開について立案できる力を身に付ける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アウトドア関連産業の多様性・展開についての学び | アウトドア関連産業の多様性やその展開について理解できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | アウトドアに対する社会的ニーズや意義と、ビジネスとしての展開についての学び | 人々がアウトドアに求めているものは何か、またビジネスとしてニーズへ答える展開について理解できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アウトドアビジネスの生み出す価値や社会的役割についての学び | 自然環境や社会に対するアウトドアビジネスの役割を理解し、自らのビジネスプランを考えることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自然環境の持続可能性と豊かな生活の両立に貢献するアウトドアビジネスについての学び | 自らの価値に基づくアウトドアビジネスプランを考案し、実現させる力を身に付けることができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：検討中)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 個人課題 | 40 % | ： | トピックに関わる課題から、理解の程度を評価する。 |
| グループ課題 | 30 % | ： | グループでトピックに関わる課題に取り組み、発表したものを、その理解や内容について評価する。 |
| 最終課題 | 30 % | ： | 総合的な理解や、知識・価値観に基づいた実現可能なビジネスプランを提案する課題への取り組み、内容を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

辰野勇、モンベル７つの決断－アウトドアビジネスの舞台裏
イヴォン・シュイナード、社員をサーフィンに行かせよう

**履修上の注意・備考・メッセージ**

アウトドアへの注目が高まっている傾向の中、アウトドアに関連する産業の発展もめざましいものがあります。アウトドアのビジネス的展開から、どのように社会の人々の豊かな生活に貢献できるのか、また大切な自然環境の持続可能性に貢献できるのか追求していきましょう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 火曜日2限

**場所**： A402

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびアウトドアビジネスの概観**<br>アウトドアに関わるビジネスとは実際どのようなビジネスが行われているのか学ぶ。 | 授業の復習と課題に取り組む | 4時間 |
| 第2回 | **アウトドアスポーツ・ビジネスの現状の理解**<br>人々がどのようにアウトドアスポーツと関わってきたのか理解し、その現状に対するアウトドアビジネスの変遷と現状を学ぶ。 | 選択した領域のアウトドアビジネスについて調べる。 | 4時間 |
| 第3回 | **CSR・アウトドアビジネス業界の探索**<br>アウトドアスポーツ業界におけるCSRの意義について理解し、実際にどのようなアウトドアビジネスが展開されているか領域別にグループ単位での調べ学習を行う。 | 調べた内容について発表の準備を行う | 4時間 |
| 第4回 | **アウトドアビジネス業界の理解＜アパレル・ギア＞**<br>グループによる発表から、アウトドアのアパレルやギアに関するどのようなアウトドアビジネスが展開されているか理解する。相互の質問やフィードバックから理解を深める。 | CSRとの関連や、領域による違いや共通性についてまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **アウトドアビジネス業界の理解＜施設・フィールド＞**<br>グループによる発表から、アウトドアの施設やフィールドに関するどのようなアウトドアビジネスが展開されているか理解する。相互の質問やフィードバックから理解を深める。 | CSRとの関連や、領域による違いや共通性についてまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **アウトドアビジネス業界の理解＜サービス・教育＞**<br>グループによる発表から、アウトドアのサービスや教育に関するどのようなアウトドアビジネスが展開されているか理解する。相互の質問やフィードバックから理解を深める。 | CSRとの関連や、領域による違いや共通性についてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **アウトドアスポーツビジネスモデル**<br>アウトドアスポーツビジネスの展開に用いられているビジネスモデルについて理解し、CSRとの関連や、展開について考える。 | 多様なCSRとビジネスモデルについて調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **アウトドアスポーツビジネス業界の実際１**<br>大学内の組織であるアウトドアスポーツセンターが行っている事業について、組織運営を行うスタッフから話を聞き、事業展開の実際について学ぶ。 | 今後の事業展開についての自分のアイデアをまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **アウトドアスポーツビジネス業界の実際２**<br>アウトドアスポーツビジネスの現場で活躍する方を外部講師として招き、業界の現状やビジネスとして展開することの実際を学ぶ。 | アウトドアスポーツビジネスの現場で活躍する方を外部講師として招き、業界の現状やビジネスとして展開することの実際を学ぶ。 | 4時間 |
| 第10回 | **アウトドア体験の意義**<br>アウトドアブームや自然回帰傾向等などの背景から、アウトドアスポーツ・体験に人々は何を求めているのか、アウトドア体験の社会的意義や教育低意義について理解する。 | 自分自身にとってのアウトドア体験の意義をまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **環境問題・SDGsとアウトドアスポーツビジネス**<br>共通財産である自然環境を用いる上では、環境保全や、ステークホルダー、安全管理といった多様な点に配慮したマネジメントが必要となる。またSDGｓの観点からも、自然環境を用いる意味や責任のある展開が求められる。昨今重要視されている「ネイチャーポジティブ」についても理解し、アウトドアスポーツビジネスと環境問題について理解する。 | ネイチャーポジティブ実践を行っている企業について調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **アウトドアビジネスプランの考案** | グループにてプロジェクトを進める | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | これまでの学習から、自らの価値観に基づくアウトドアビジネスプランを考案する。価値観を共有できるメンバーでグループプロジェクトとして、ミッション・ビジョン・バリューを作成し、実際のビジネスプランの立案にとりかかる。 | | |
| 第13回 | **アウトドアビジネスプランの作成**<br><br>グループプロジェクトとしてのアウトドアビジネスプランの詳細を決めるために、関連企業についての調べ学習を進め、最終的なオリジナルプランを作成する。また、作成したプランを提案するプレゼンテーションの準備を行う。 | グループにてプレゼンテーションの準備を行う | 4時間 |
| 第14回 | **アウトドアビジネスプランの発表**<br><br>グループプロジェクトとしてのアウトドアビジネスプランを提案するプレゼンテーションを行う。それぞれのグループからの提案・プレゼンテーションを相互に評価・フィードバックを行い、理解を深める。 | 最終課題に取り組む | 4時間 |

SP-3601-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ基礎演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **藤松・入谷・佐藤・中道・黒須** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

地域における生涯スポーツ振興に関わる諸課題の解決を目指して行う卒業研究の準備段階として、研究の科学的アプローチを理解し、専門領域を問わず必要とされる研究方法の基礎的知識および探求的態度を習得することを目的とする。また、コース専門科目で学習する「子ども・高齢者・障がい者・労働者・女性のスポーツの現状や課題、および生涯スポーツとしてのスポーツ文化の理解」で学び得た知識をもとに、自己の問題意識を明確にし、3年次後期以降の専門的学びへとつなげる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 卒業研究に向けた生涯スポーツに関する興味・関心の探索 | 4年次の卒業研究に向け、生涯スポーツにおける自身の興味・関心について探索、解決する意欲を持っている。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 各研究手法における基礎知識の習得 | 各研究手法ごとの基礎的知識の習得とそれを活用する能力を身につける。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | あらゆる立場の人の課題の発見、解決、表現する力 | 課題を探索し、解決し、他者にわかりやすく伝える。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング、Power Point、Excel、動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題 | 90 % | ： | 各授業で提示された課題（レポート等）について適切な内容が記述されているか等、授業内容の理解度について評価する。 |
| 卒業研究_プレ中間発表会への参画 | 10 % | ： | 卒業研究に必要な基礎知識について学習し、各自の興味・関心を探索する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業中に、逐次紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

「生涯スポーツとは何か？」ということに関する基礎を学ぶことになる。幅広い領域の専門教員がいるが、それぞれの専門性について理解を深めたうえで、自分自身の関心領域を発見し今後の学習へのつなげていってもらいたい。
また、授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすることが望ましい。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、卒業研究にむけて-よい「問い」を持つために-**<br>本授業の概要と評価方法について説明する。さらに、多様な人々を対象とした運動・スポーツの促進を図るための「問い」を自ら発見し、その課題を解決するために必要な理論的アプローチ等を資料や文献から探索する。さらにその課題を明らかにするための様々な研究手法等について学習する。 | 生涯スポーツの枠組みの中で、各自の「問い」を明確化する。 | 4時間 |
| 第2回 | **文献調査の基礎**<br>文献調査の分類、それらの基礎的な枠組み等について概説する。 | 自分自身のスポーツにおける関心領域の基礎となる文献を各自収集する。 | 4時間 |
| 第3回 | **資料研究(文献調査)に関するレポート作成**<br>各自の課題に沿った文献を収集しレポートを作成する。 | 自分自身のスポーツにおける関心テーマを明確化し、文献を収集する。 | 4時間 |
| 第4回 | **資料研究(文献調査)に関するレポートの発表**<br>各自の課題に沿った文献を収集しレポートを作成する。 | 自分自身のスポーツにおける関心テーマを明確化し、文献を収集する。 | 4時間 |
| 第5回 | **質的研究(インタビュー調査)の基礎**<br>質的調査の分類、質問紙調査の基礎的な枠組み等について概説する。インタビュー調査を行う際の基本的な質問設定や、聞き取りの基本的な手法について概説する。インタビュー実施に向けて、インタビューガイド（テーマ設定、質問項目作成等）作成を行う。 | 自分のスポーツにおける関心領域であれば、どのような質的手法が合致するのかを検討する。 | 4時間 |
| 第6回 | **質的研究(インタビュー調査)の分析手法**<br>インタビュー実施後の分析手法（逐語録作成、コード化等）について概説および演習を行う。グループごとに作成したインタビューレポートの発表を行う。 | 各自の発表の特徴、主張点についてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **量的研究(質問紙調査)の基礎**<br>量的調査の分類、質問紙調査の基礎的な枠組み等について概説する。 | これまで自分自身が協力したことのあるアンケート調査等について振り返っておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **量的研究(質問紙調査)の設計と分析**<br>量的調査を行う際の質問紙の設計方法およびEXCELを用いた集計方法について概説する。 | Excelの基本操作について復習しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **実験計画の基礎**<br>実験による研究手法を用いる際に必要な基礎的知識および計画を策定する際に必要な専門的知識を身につける。 | 授業の説明を踏まえ、実験計画の概要をまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **実験計画の策定**<br>実際の実験計画を前回授業の内容を踏まえながら策定する。 | 各自の実験計画について、実際に遂行可能かどうか確認する。 | 4時間 |
| 第11回 | **統計学・統計手法の基礎**<br>スポーツにおける各種統計や打率・勝率等の記録を例に、運動・スポーツにおける統計について概説する。 | 自分の行なっている種目に関わる統計に着目し、疑問点を明確化しておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **SPSSを用いた量的研究(質問紙調査)の分析**<br>SPSSを用いた具体的な分析方法について演習を行う。 | SPSSによる基本的な記述統計およびクロス集計の方法を理解する。 | 4時間 |
| 第13回 | **ゼミ選考ガイダンス・ゼミ志望理由書**<br>これまでの授業内容のまとめを行うと同時に、後期からの生涯スポーツ演習におけるゼミ決定方法に関わる説明を行う。各教員のゼミ活動について説明する。さらに自分が希望する領域の授業内容および、その領域でどのようなことを学びたいのかを記述する。 | これまでの講義内容を整理し、自分自身が学びたい領域を明確にする。 | 4時間 |
| 第14回 | **4年次生_卒業研究_プレ中間発表会参加**<br>次年度の卒業研究にむけ、現4年次生の卒業研究_プレ中間発表会に参加し、卒業研究に必要な知識や自身の興味・関心について探索する。 | これまでの授業でどのような領域に関心を持ち、具体的にどのようなことを研究したいのかを明確にしておく。 | 4時間 |

SP-3603-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ専門実習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **藤松・入谷・佐藤・中道・黒須** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊前期 | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 講義、実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

今日、年齢・性別・障害の有無に関わらず一生涯を通じてスポーツを楽しめる環境、すなわち「スポーツ・イン・ライフ」の実現を目指して様々な施策や取り組みが講じられている。本授業では、このような地域における生涯スポーツ振興に関わる諸課題を学習するとともに、子ども、高齢者、労働者、障がい者における健康に関わる運動づくりの現状を把握し、それぞれのニーズを論理的に判断し、生涯スポーツに関わる学びを深めることを目的とする。本授業では労働者の体力測定の実習を通して学びを深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 生涯スポーツに関する関心・意欲 | 生涯スポーツの現状や課題に関心を持ち、これを解決しようとする意欲を持っている |
| 2. DP2.知識・技能 | 生涯スポーツに関する様々な施策や取り組み、課題に関する知識 | 子ども・高齢者・労働者・障がい者の実態（健康状態やニーズ）を把握することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 地域における子ども、高齢者、労働者、障がい者に関する課題に関する思考・判断・表現 | スポーツ・イン・ライフに貢献するための情報収集を行い論理的に判断した内容を他者に伝えている |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 主体的に生涯スポーツに関する知識や技術を深める学びに向かう力 | グループの仲間と主体的にスポーツ・イン・ライフの知識と技能を追求しようとしている |

**学外連携学修**

有り(連携先：企業（第一工業製薬株式会社）)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)

本授業に関して、企業において体力測定の実習を行う。実習は平日になるため他の授業との重複を避け、授業に影響のない範囲で実施する予定である。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題レポート | 20 % | ： 各授業における課題３、12回の課題 |
| 個人及びグループワークとその課題 | 70 % | ： 個人及びグループワークに対する姿勢、パワーポイントや資料の内容、発表 |
| 最終レポート | | ： 実習によるレポートによる評価 |

10　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

厚生の指標　国民衛生の動向　2021/2022
厚生の指標　国民の福祉と介護の動向　2021/2022

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・授業時間外の実習や演習を行なう場合があるので注意すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　適宜

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **オリエンテーション、スポーツ・イン・ライフとは？体力測定の実習について？ガイダンス**<br>本授業の目的・目標・評価・授業計画の説明を行う。スポーツ・イン・ライフの知識の確認と体力測定の実習について知識の確認を行う | 本授業のシラバスを読んでおく | 1時間 |
| 第２回 | **労働者における体力の実際**<br>労働者の体力についてスポーツ庁の資料を使用し、課題の抽出する　体力測定を実施する上での注意点を検討する | 労働者の体力についてスポーツ庁のデータを使用し調べる | 1時間 |
| 第３回 | **労働者における課題の検討**<br>労働者の健康づくりおよび安全対策について、現状の課題について学外実習を担当する方から説明をいただき、労働者の実情を学ぶ | 労働者における健康づくりを調べる | 1時間 |
| 第４回 | **体力測定の実施方法や評価方法・注意点**<br>体力測定の測定項目とその評価方法について学習し、さらに体力測定実施の際の注意点等を調べ発表する | 体力測定の実施方法について調べる | 1時間 |
| 第５回 | **体力測定の実際**<br>業で学習した体力測定の測定項目および記録・評価方法を踏まえ、実際に体力測定を実施し、記録し、評価する（メインかマルチアリーナ使用） | 体力測定の記録方法および評価方法を復習する | 1時間 |
| 第6回 | **体力を補う運動方法の検討①個人**<br>体力が低下している労働者に対する体力（持久力、筋力、敏捷性、柔軟性）などを補う運動方法を調べ、検討する | 体力を補う運動方法を調べる | 1時間 |
| 第７回 | **体力を補う運動方法の発表②グループ**<br>体力が低下している労働者に対する体力（持久力、筋力、敏捷性、柔軟性）などを補う運動方法をグループでまとめ検討する修正を加え、発表する | 第６回の内容をまとめる | 1時間 |
| 第８回 | **体力に対するコメントの作成①（個人）**<br>０～２点、３～４点、５～６点、７～８点、９点以上に分け６種類の体力に対するコメントを作成する | 体力に対するコメントについて調べる | 1時間 |
| 第９回 | **体力に対するコメントの作成②（個人）**<br>０～２点、３～４点、５～６点、７～８点、９点以上に分け６種類の体力に対するコメントを作成する | 体力に対するコメントについて調べる | 1時間 |
| 第10回 | **体力に対するコメントの作成③（グループワーク）**<br>第８回、第９回の実施したコメントを集約し、最も適したものを作成し発表する | 第９回、１０回を振り返る | 1時間 |
| 第11回 | **学外実習における労働者の体力測定に関するまとめ**<br>労働者の体力測定を実施して体感した労働者の課題と実習と講義を通して学びについて振り返る。またグループの中でまとめ発表する | 今までの授業内容を復習する | 1時間 |
| 第12回 | **高齢者における体力測定とは**<br>高齢者における体力について外部講師による講和を通して学ぶ、ライフステージによる相違や注意点を学ぶ | 高齢者の健康課題を調べる | 1時間 |
| 第13回 | **学外実習による体力測定の実施①**<br>労働者の方に６種目の体力測定を実施し、労働者の体力状況を体感するとともに、コミュニケーション方法、体力測定の実施方法を学ぶ | 体力測定の実施方法について復習する | 1時間 |
| 第14回 | **学外実習による体力測定の実施②**<br>働者の方に６種目の体力測定を実施し、労働者の体力状況を体感するとともに、コミュニケーション方法、体力測定の実施方法を学ぶ | 体力測定の実施方法について復習する | 1時間 |

SP-3604-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ専門実習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **藤松・入谷・佐藤・中道・黒須** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊後期 | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習、講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

今日、年齢・性別・障がいの有無・経済的状況に関わらず、すべての人がその生涯を通じてスポーツに親しめるような生涯スポーツの実現をめざし、さまざまな施策や取り組みが講じられている。そこで、本授業では、生涯スポーツが具現化された生活を「スポーツ・イン・ライフ」と捉え、「スポーツ・イン・ライフ振興を担う人材を育成すること」を目的とする。本授業では、前期「生涯スポーツ専門実習Ⅰ」で学習した基礎的な知識を踏まえ、学外での実習を行う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 生涯スポーツにおける課題の探索 | 生涯スポーツの現状や課題に関心を持ち、これを解決しようとする意欲を持っている |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツプログラムの提案やサポート | スポーツ・イン・ライフに貢献するプログラムを理解し、科学的根拠に基づき提案やサポートすることができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 提案したプログラムやサポートに関する考察 | 提案内容やサポート内容を思考し、その成果と課題を考察できる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツ・イン・ライフ実現のための取組み | 多様な人々と協働し、主体的にスポーツ・イン・ライフ実現のための取組みを提案し、追求する |

**学外連携学修**

有り(連携先：特定非営利活動法人びわこスポーツクラブ（BSC）)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)

「ICT　タイピング」「ICT　PowerPoint」「ICT　Excel」
本授業では、子ども、高齢者、働き世代（女性）を対象に実習を行う。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題 | 50 % | ： | 各授業で提示された授業内課題について評価する |
| 実習振り返りレポート | 15 % | ： | 実習後の振り返りの内容について評価する |
| 実習報告会 | 20 % | ： | 実習報告会に向けた準備内容、発表内容について評価する |
| 期末レポート | | ： | 生涯スポーツ振興の視点で授業全体を総括する内容について評価する |

15　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて資料を提示する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
・授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・授業時間外の実習や演習を行なう場合があるので注意すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業教室

**備考・注意事項**：　第１回のガイダンスで質問等の対応の詳細を説明する。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよび生涯スポーツにおける対象者別理解**<br>生涯スポーツ振興の対象である「子ども、高齢者、女性（子育て世代）」の運動指導および実践的なスキルを学ぶ意義について理解する。 | 専門実習Ⅰの内容を合わせて復習する。 | 1時間 |
| 第2回 | **子どものスポーツ振興における課題把握**<br>子どものスポーツ振興における課題を把握するために、既存データの調査と整理を行う。 | 子ども・運動をキーワードに最新のニュースを調べてくる。 | 1時間 |
| 第3回 | **子どもを対象にした運動・スポーツ指導法**<br>外部講師による子どもを対象にした実技方法と注意点について学ぶ。 | 授業で学んだ内容を実習用にまとめておく。 | 1時間 |
| 第4回 | **子どもを対象にした運動指導の実践**<br>学外連携学修として子どもを対象とした実習を行う。 | 実習振り返りレポートに取り組む。 | 1時間 |
| 第5回 | **高齢者のスポーツ振興における課題把握**<br>高齢者のスポーツ振興における課題を把握するために、既存データの調査と整理を行う。 | 高齢者・運動（予防医学）をキーワードに最新のニュースを調べてくる。 | 1時間 |
| 第6回 | **高齢者を対象にした運動・スポーツ指導法**<br>外部講師による高齢者の運動状況と高齢者にあった運動やスポーツについての実技方法と注意点について学ぶ。 | 授業で学んだ内容を実習用にまとめておく。 | 1時間 |
| 第7回 | **高齢者を対象にした運動指導の実践**<br>学外連携学修として子どもを対象とした実習を行う。 | 実習振り返りレポートに取り組む。 | 1時間 |
| 第8回 | **働き世代（女性）のスポーツ振興における課題把握** | 社会人（女性）・運動をキーワードに最新のニュースを調べてくる。 | 1時間 |
| 第9回 | **働き世代（女性）を対象にした運動・スポーツ指導法**<br>外部講師による女性に対する運動指導内容について検討する。また運動を行うにあたり注意点や継続につなげる方法も検討する。 | 授業で学んだ内容を実習用にまとめておく。 | 1時間 |
| 第10回 | **働き世代（女性）を対象にした運動指導の実践**<br>学外連携学修として働き世代（女性）を対象とした実習を行う。 | 実習振り返りレポートに取り組む。 | 1時間 |
| 第11回 | **実習発表会準備①対象者別の実習の振り返り**<br>各対象者の実習先別にグループになり、座学、実技、実習の振り返りを行い、対象者に対する運動指導や課題に関する理解を深める。 | 個人で行った実習の振り返りレポートを読み直しておく。 | 1時間 |
| 第12回 | **実習発表会準備②振り返り内容に対する考察**<br>発表準備①の内容に対する生涯スポーツ振興に向けた展望を考察する。さらに、次週の発表会に向けた資料を完成させる。 | 座学で学んできた内容を再度確認し、考察を深めておく。 | 1時間 |
| 第13回 | **実習発表会**<br>専門実習Ⅱで実施してきた、子ども、高齢者、働き世代（女性）を対象とした生涯スポーツ振興に向けた実践およびその振り返りをグループごとに発表する。 | 他のグループの発表を踏まえて、生涯スポーツ全体に対する課題を抽出しておく。 | 1時間 |
| 第14回 | **授業の総括**<br>専門実習Ⅰ・Ⅱを通して学んできたことの総括を行い、レポート課題に取り組む。 | 期末レポートに当たる課題に取り組む。 | 1時間 |

SP-3607-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツの理論と実際** | | | | |
| 担当教員名 | **黒須・中道・入谷** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

生涯スポーツにおける専門的な学びを理論と実際（実践）の往還を通して深めることを目的とする。よって、受講生は、すでにある程度の生涯スポーツに関する基本的な理論を知識として身につけていることが前提となる。（コース科目のなかでは「応用科目」として位置づけられる）
この目的に向けて、本授業では実際に具体的な対象者に向けて「生涯スポーツを届ける」ための実習を行う。こうした実践的な取り組みや活動を通して、すべての人の「スポーツ・イン・ライフ」を振興するために必要な工夫点や課題を経験的に学ぶことをねらいとする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 生涯スポーツ振興に関する関心・意欲。 | 「スポーツ・イン・ライフ」の振興に対して関心を持ち、主体的に課題に取り組むことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 生涯スポーツに関する専門的な知識と技能。 | 「スポーツ・イン・ライフ」の振興に貢献できる「運動プログラム」を考案し、プログラムを「届ける」ために効果的な実践を提示することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 生涯スポーツの展望を考察する力。 | 生涯スポーツにおける課題と展望について、理論と現場、その両者を踏まえて論じ、表現することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 生涯スポーツの振興に向けた実践力。 | グループの仲間や「運動プログラム」を提供する対象者と協働し、主体的に「スポーツ・イン・ライフ」実現のための取り組みを提案する力を身につけることができている。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：京都市障害者スポーツセンター)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)

ICT（PowerPoint）、ICT（専用機材・アプリ活用）
授業全体を通してPCを使用する作業が多いため、授業時には常に持参すること。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

実習が中心的な内容になるため、受け身ではなく、主体的な取り組みが求められる。
他者との協働、実践による経験的な学びがこの授業の特徴であることを理解したうえで履修すること。

**成績評価**

**注意事項等**

実習が中心的な内容になるため、グループワークに関わる欠席については別途ルールを設定する。この点を含む重要な事項については、第１回の授業ガイダンスで説明する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内ワークの中身および提出物 | 20 % | ： | 生涯スポーツを捉える理論と諸問題・課題について理解できているか評価する。 |
| グループワークにおける取り組み内容と成果（ピア評価含む） | 50 % | ： | グループで考案する「運動プログラム」の課題設定（実態調査のアンケート含む）、プログラムの考案、コンテンツの作成において、指定された課題を主体的に遂行できているか評価する。 |

実習発表会：参加・発表内容・授業内課題　：　中心的な課題である実習の総括とその言語化が指定された項目に基づいて遂行できているか評価する。

15　%

期末レポート　：　生涯スポーツにおける課題と展望について、授業の内容、実習の内容を踏まえて論じることができているか評価する。

15　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業時、必要に応じて各教員が適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・授業の性質上、3年次配当の生涯スポーツコース専門科目「生涯スポーツ専門実習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済であることが、当授業を履修する条件として望ましい。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業教室

**備考・注意事項**：　授業ガイダンス時に、問い合わせ内容に応じた担当教員の割り振りを提示する。授業の前後以外の問い合わせは、提示された各担当教員の大学のGmailに連絡をすること。その際は、件名に授業名、本文に自身の学籍番号と氏名を必ず明記すること。

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業ガイダンス／生涯スポーツの課題の整理**<br>受講上の注意、授業の概要とスケジュール、評価方法を確認する。これまで学んできた生涯スポーツにおける現状（スポーツ・イン・ライフの実現に向けた現状）を踏まえた課題の整理を、対象者（子ども、女性、障がいのある人、労働者、高齢者）別に復習する。 | 配布資料を熟読し、内容を再確認する。履修してきたコース科目の授業資料を復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **労働者における健康課題の整理**<br>主たる対象となる「労働者」がどのような人たちで、どのような健康課題を抱えているのか、そして、その人たちに「動画（映像）」を用いた運動プログラムを提供する意義は、どのような点にあるのかを理解する。 | 現代社会におけるインターネットの役割、動画配信・視聴のメリットについて経験をもとに整理する。 | 4時間 |
| 第3回 | **「動画」を用いた運動プログラム調査**<br>コロナを経て現代社会における健康増進のための手段としての「動画」の役割や需要度などを理解する。省庁、大学、YouTuberなどの媒体別に動画の事例を探索し、「伝え方」や「魅せ方」などを調査し、模範となる動画や作成する動画のイメージを明確にする。 | 調査した既存のプログラムをリストアップし、次回以降のワークに向けた資料として整理する。 | 4時間 |
| 第4回 | **グループワーク①事前アンケート作成&配布**<br>グルーピングを行ったのち、対象者のニーズを調査するための事前アンケートを作成し、配布する。その際、対象者の一般的な健康課題を想定した調査項目の設定を試みることにより、理論に対する理解を改めて深める。 | 対象者が置かれている環境を理解するために、職業的な特徴を調べておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **グループワーク②運動プログラム立案および動画仮撮影**<br>事前アンケートの結果を踏まえて、対象者に必要な健康課題を具体的に抽出し、提供する（届ける）運動プログラムを考案する。具体的な作成物は「理論編」「実践編」に分けられ、2つの動画の仮撮影を行う。 | 理論編と実践編のワークシート（下書き）をメンバーで相談しながら完成させる。 | 4時間 |
| 第6回 | **グループワーク③運動プログラム動画撮影および編集**<br>「理論編」「実践編」のワークシートおよび仮撮影動画に対する教員からのフィードバックをもとに、内容の修正や動画の再撮影を行う。 | 再撮影動画の編集に向けて、文字入れや音楽など、リストアップしていた模範になる動画を見ながら検討しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **グループワーク④運動プログラム動画編集および提出**<br>「理論編」「実践編」の修正後のワークシートをもとに、再撮影した動画の編集を行い、プレ動画を完成させる。 | ワークシートの内容が再撮影動画に反映されているか、各グループでチェックしておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **グループワーク⑤運動プログラムの修正（学生間チェック①）**<br>2回にわたり、現時点での運動プログラム（動画：理論編／実践編）を自己評価、他者評価する。その際、アンケートに応じたニーズに応じた内容になっているか、内容は適切か、動画の取り方はわかりやすいか、やってみたいと思える前向きなアプローチができているかを検討する。 | 項目別に自己評価と他者評価をチャート化したフィードバック（データ）を返却する。今後に向けて、両者のズレをどのように改善していけばいいか考える。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第9回 | **グループワーク⑥運動プログラムの修正（学生間チェック②）**<br><br>2回にわたり、現時点での運動プログラム（動画：理論編／実践編）を自己評価、他者評価する。その際、アンケートに応じたニーズに応じた内容になっているか、内容は適切か、動画の取り方はわかりやすいか、やってみたいと思える前向きなアプローチができているかを検討する。加えて、2回目は労働者以外の対象者の立場に立った際に、作成したプログラムをどのように改善できるか、別の視点からも検討する。 | 項目別に自己評価と他者評価をチャート化したフィードバック（データ）を返却する。今後に向けて、両者のズレをどのように改善していけばいいか考える。 | 4時間 |
| 第10回 | **障がいスポーツと生涯スポーツ（外部講師）**<br><br>「障がい者スポーツ指導の現場」をテーマに、京都市障害者スポーツセンターの施設の紹介をはじめとして、コロナ禍における利用者へのサポートの方法、利用者の体力や心身の状態に応じたスポーツ指導の留意点や心掛けている点について、現場の実際を学ぶ。これらの学びを通して、本授業で取り組む「生涯スポーツを届ける」意義や留意点について理解する。 | 京都市障害者スポーツセンターのHPを探索し、具体的な配慮の事例や活動の実際について理解を深める。 | 4時間 |
| 第11回 | **グループワーク⑦運動プログラムの再撮影および再編集／実施アンケート作成**<br><br>前回までの内容を踏まえて、対象者に届ける運動プログラムのブラッシュアップを行う。その際、運動プログラムの内容および「見せ方」の工夫を再考する。 | 動画作成における技術を各自でレベルアップする。無料の動画編集アプリの機能について理解し、使えるようにしておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **グループワーク⑧運動プログラムの編集および提出／実施アンケート完成**<br><br>対象者に提供する運動プログラムを完成させ、実践にかかるアンケートおよびプログラムの評価に関する実施アンケートを作成し、配布する。 | 自グループの運動プログラムを年末年始の期間を活用して、自ら実践してみる。 | 4時間 |
| 第13回 | **実習発表会①**<br><br>取り組んできた活動を振り返り、事前アンケートの結果をどのようにプログラムへ反映させたか、工夫した点はなにか、実施アンケートの結果から導き出される課題についてまとめ、活動の振り返りを発表形式で行う。 | 他のグループの発表内容も踏まえて、ここまでの活動の振り返りを個人で行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **実習発表会②および振り返り／期末レポートの説明等**<br><br>具体的な実習を通して見えてきた「理論」と「実際」（「理想」と「現実」を埋めるための工夫点を総合し、「スポーツ・イン・ライフ」の実現に向けた生涯スポーツの展望を考察する。 | 授業を総括し、レポートを完成させる。 | 4時間 |

SP-4402-2-2

| 授業科目名 | スポーツとコミュニティ（地域社会とスポーツ） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佐藤　馨 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

地域社会においてスポーツの果たす役割は、個人のスポーツへの積極的な取り組みを基本とし、それを支えるために①人々のニーズに適切に応える、②1人1人がスポーツ活動を継続的に実践できる、③競技力向上に繋がることであり、以上のようなスポーツ環境を整備することにある。本講義では、学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」にあるスポーツの振興・発展に寄与するスポーツプログラム等の提供とは何か、総合型地域スポーツクラブの事例を用いて学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 地域におけるスポーツの意義と役割 | 地域社会におけるスポーツの役割と意義を理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 地域住民のスポーツ実施の促進 | 多様な人々のスポーツ実施を促進するため、総合型地域スポーツクラブの役割を学習する |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツを用いて地域住民の繋がりを醸成 | 希薄になった地域住民を繋げる役割としてスポーツを用いた方法を自ら考える |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

優秀な提出課題については、提出後の授業で概要をコメントします。

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業中に課す内容に関連する小レポート | 5　% | ： | 地域社会とスポーツに関連したレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する。 |
| 授業中盤に実施する確認テスト | 30　% | ： | 講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているか30点満点で評価する |
| 本試験 | 65　% | ： | 講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか65点満点で評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『地域福祉論』市川一宏・牧里毎治編著　ミネルヴァ書房　2007
『地域プロデューサーの時代』松野将宏著　東北大学出版会　2005
『地域を変えた　総合型地域スポーツクラブ』山口泰雄著　大修館書店　2006
『総合型地域スポーツクラブの時代1』黒須充編著　創文企画　2007
『総合型地域スポーツクラブの時代3』黒須充編著　創文企画　2009

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【履修上の注意】
本授業は、PCで受講することが前提であるため、必ずPCを準備すること（スマホ受講は不可）。

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

【メッセージ】
「総合型地域スポーツクラブ」を皆さんは知っていますか。本講義では、総合型地域スポーツクラブの意義や役割を学ぶだけでなく、総合型地域スポーツクラブが設置されている「コミュニティ(地域)」についても地域論を引用しながら学習していきます。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　講義前後

**場所**：　講義室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **地域社会とスポーツ　地域におけるスポーツニーズを知る**<br>地域社会とスポーツで学習する全講義内容の概略と受講上の留意点について説明する。 | 地域社会とスポーツで学習する講義の概要および受講上の留意点について書かれた資料を精読する | 4時間 |
| 第2回 | **コミュニティとは何か**<br>コミュニティの概念と定義について講義する。 | 「コミュニティ」、この言葉の意味を調べ、現在コミュニティで問題視されている課題について調べる | 4時間 |
| 第3回 | **コミュニティの変容と21世紀のコミュニティ　コミュニティの崩壊と再生**<br>日本社会において20世紀に存在したコミュニティが崩壊し、新しいコミュニティの創造が必要とされていることを講義する。 | コミュニティの歴史的変遷について学習したことを踏まえ、現代のコミュニティとの相違点、相似点について考え、まとめる | 4時間 |
| 第4回 | **コミュニティの変容と21世紀のコミュニティ　新しいコミュニティの形成**<br>新しいコミュニティの形成として、自治体に依存しない住民主導型コミュニティについて講義する。 | 新しいコミュニティには「情報化」「グローバル化」は欠かせないが、それでは具体的にどのように実践するのか、その方法を考える | 4時間 |
| 第5回 | **コミュニティ文化**<br>コミュニティ形成には、コミュニティ文化の意義を理解することは重要と言える。その重要性について具体的な事例を用いて講義する。 | 日本におけるコミュニティ文化を学習した上で、現代のコミュニティ文化をどのように創造するのか、その具体案についてまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **前半までの授業のまとめと講義内容の確認**<br>前半の講義までの講義において内容を正確に理解しているか確認する。 | 前半までの講義において重要と指摘された箇所は特に正確に理解し、まとめる | 4時間 |
| 第7回 | **日本のスポーツシステムと総合型地域スポーツクラブ　その意義と必要性**<br>総合型地域スポーツクラブの意義と必要性について、既存のクラブ運営を事例に講義を行なう。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」に明記されるスポーツ振興および発展に寄与するスポーツプログラムとは何か、総合型地域スポーツクラブの事例を用いて学習する。 | 総合型地域スポーツクラブが現在の日本社会になぜ必要なのか、講義内容も踏まえて自分の意見をまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **日本のスポーツシステムと総合型地域スポーツクラブ　総合型地域スポーツクラブのあり方**<br>民間スポーツクラブ、学校体育、スポーツ団体といった既存のスポーツクラブと総合型地域スポーツクラブとの位置づけや違いについて解説する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」にあるスポーツプログラムの効果的な運営に必要な組織のあり方についても学習する。 | 総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブ、学校体育、各種スポーツ団体、それぞれの特性と違いを理解するため、配付資料を精読し、まとめる | 4時間 |
| 第9回 | **日本のスポーツシステムと地域総合型スポーツクラブ　自治体におけるスポーツ振興のあり方**<br>総合型地域スポーツクラブにとって地域住民のスポーツを促進しようとする自治体との関係は非常に重要である。その自治体の考えるスポーツ振興と総合型地域スポーツクラブのスポーツ振興のあり方の変遷について講義する。 | これまでの自治体のスポーツ振興について学習したことを参考に、これからの自治体のスポーツ振興のあり方について考え、それをまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **総合型地域スポーツクラブの考え方**<br>総合型地域スポーツクラブの現代における意義について講義する。 | 現在の総合型地域スポーツクラブの役割について理解するため、配付資料を熟読し、概要をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **総合型地域スポーツクラブの考え方　多様な機能と範囲**<br>総合型地域スポーツクラブの多様な機能と範囲について講義する。 | 現代における総合型地域スポーツクラブの役割について学習したことを踏まえ、自分の住む地域の総合型地域スポーツクラブのあり方について調べ、まとめる | 4時間 |
| 第12回 | **総合型地域スポーツクラブの現状と問題　メリット・デメリット**<br>総合型地域スポーツクラブ運営におけるメリット・デメリットの解説を事例を用いて行なう。 | 総合型地域スポーツクラブのメリット・デメリットを理解するため、配付資料をまとめる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **総合型地域スポーツクラブの現状と問題　多様なクラブ体系**<br><br>外部講師による総合型地域スポーツクラブの多様な運営実態や課題について講義する。 | 日本におけるスポーツクラブの分類を学習し、在住する地域の総合型地域スポーツクラブがどこに分類されるのか考え、意見をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **総合型地域スポーツクラブのマネジメントと企業経営の共通点**<br><br>総合型地域スポーツクラブをマネジメントするということは、一企業を経営することと同義である。したがって企業経営の視点から見たクラブマネジメントについて解説する。さらに学習指導要領のスポーツ概論「スポーツの企画・運営および管理」に明記されるスポーツプログラムやスポーツイベントの企画において、企画の趣旨、参加者の状況、参加者数、施設状況等の把握といったマネジメント能力が必要であることも併せて学習する。 | 自分が総合型地域スポーツクラブを経営する立場についた場合、どのような総合型地域スポーツクラブを希望するのか記述する | 4時間 |

SP-4403-2-2

| 授業科目名 | スポーツ文化論概論（スポーツ文化論） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 黒須　朱莉 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツ文化は、各時代の社会的な影響を受けながらその時代に生きる人々によって育まれ、変化し、継承されてきたものである。この文化としてのスポーツを理解するためには、スポーツが各時代にどのような形で歴史を築きながら展開してきたのかを学ぶ必要がある。本講義は、現代スポーツの問題との連続性に自覚的になりながら、スポーツの歴史的な展開過程を理解し、今後のスポーツ文化の在り方を考えていくための教養を身に付けることを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツの歴史に対する関心・意欲 | 各時代のスポーツの特徴を歴史的な観点から説明できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ史に関する知識・技能 | 各時代のスポーツの特徴を歴史的な観点から説明できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 文化の意味や変容について考察する力 | 文化の特徴や構造に関する枠組みや、歴史的な観点を用いて、現代のスポーツ文化の意味を考えることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツの文化的な価値を主体的に学び、多様なスポーツのあり方について考察する力 | 文化的な価値を言語かし、多様なスポーツのあり方について論理的に述べることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

ICT（タッチタイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

双方向のやり取りができるよう、授業内の課題の内容を前半と後半のまとめの際にフィードバックし、受講生の質問や意見に対してコメントする。

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 確認テスト | 30 % | ： | スポーツ史の背景となる社会の特徴とスポーツに関する知識を正確に理解し、知識として習得できているか評価する。 |
| 授業の感想（問いかけへの回答・意見表明含む） | 25 % | ： | 文化としてのスポーツの現在と今後の展望を、歴史的な視点から捉え、考察し、自身の意見として表明することができているか評価する。 |
| 授業の振り返りおよび要点のまとめ | 25 % | ： | 対象とする時代のスポーツの特徴を、各時代の社会的な背景を踏まえて理解することができているか評価する。 |
| 期末レポート | 20 % | ： | 各時代のスポーツの特徴を歴史的な観点から説明できているか、スポーツ史や文化の視点から現代スポーツを考察できているか、以上の2点を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜、授業資料のなかで参考文献を紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
スポーツの文化（と表裏一体の歴史）は、その時代（社会）の特徴と密接に関係しています。よって、授業外学修として高校までの世界史・日本史の内容を十分に復習しておいてください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　教室

**備考・注意事項**：　メールでも受け付ける（kurosu@g.bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」「所属コース」「学籍番号」を明記すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス・スポーツ史を学ぶ意義**<br>授業全体の概要と、スポーツを歴史的に学ぶ意義をスポーツ文化という視点から理解する。 | 古代（ヨーロッパ）の歴史を復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **古代のスポーツ**<br>古代ギリシャとローマにおける競技とその特徴について理解する。 | 授業内容の復習、中世（ヨーロッパ）の歴史を復習しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **中世のスポーツ**<br>ヨーロッパ中世におけるスポーツとその特徴について理解する。 | 授業内容の復習及び「フットボール」と「サッカー」の呼び方の違いについて調べておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **民俗スポーツと近代スポーツ**<br>現代に継承されている民俗フットボールの特徴を理解し、近代スポーツとの比較を行うための準備を行う。 | 近代ヨーロッパとイギリスの関係について復習しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **近代スポーツの誕生と特徴①（時代背景）**<br>近代スポーツの誕生とその特徴について時代背景を踏まえて理解する。 | 競技スポーツが形成された時代背景とその特徴を復習する。 | 4時間 |
| 第6回 | **近代スポーツの誕生と特徴②（誕生と伝播）**<br>映画「コッホ先生と僕らの革命」を教材とし、ドイツにおけるフットボールの受容を近代スポーツの伝播の事例として学ぶ。第1回目は、近代のドイツにおける社会と身体運動の価値を踏まえた受容する側の文化について理解する。 | 経験してきたスポーツを3つ取り上げ、その競技の発祥の国を調べておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **近代スポーツの誕生と特徴②（伝播と価値）**<br>映画「コッホ先生と僕らの革命」を教材とし、ドイツにおけるフットボールの受容を近代スポーツの伝播の事例として学ぶ。第2回目は、異文化であったスポーツを受容する過程で浮かび上がる文化に対する価値観の衝突および教育的価値を有する近代スポーツの特徴を理解する。 | 邦題の意味を教材の内容から考察し、現代におけるスポーツと照らし合わせて考察する。 | 4時間 |
| 第8回 | **前半の授業のまとめと確認**<br>前半までの講義内容を正確に理解しているか確認する。 | 前半までの講義内容を復習し、各時代のスポーツの特徴について理解しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツ文化の比較論**<br>発祥ではなく、その競技種目のルールを作った国を「母国」と定義し、母国の違いによって、各競技種目にはどのような特徴がみえてくるか、その背景にある社会や文化について理解する。 | 授業で取りあげなかったスポーツの「母国」について調べる。 | 4時間 |
| 第10回 | **アメリカにおける人種とスポーツ**<br>アメリカにおけるスポーツと人種の問題を取り上げ、アメリカスポーツ界における黒人のスポーツ選手の「参加」拡大の歴史的変遷と「参画」の問題点を理解する。 | スポーツ界における人種差別に対する取り組みを調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **日本における近代スポーツの受容と変容**<br>日本に近代スポーツが受容された背景と受容の特徴を理解する | 授業で取りあげなかったスポーツの日本への伝播の時期とその契機について調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **近代オリンピックの誕生と理念**<br>近代オリンピックの誕生とその理念であるオリンピズムを、その創始者の思想的展開過程を踏まえながら理解する。 | 日本オリンピック委員会のHPを利用し、授業内容を復習する。 | 4時間 |
| 第13回 | **近代オリンピック史からみる女性とスポーツ**<br>オリンピック史における女性の参加とその背景や問題点について理解する。 | 同一種目における男女でのルールの違いや、競技人口を調べる。 | 4時間 |
| 第14回 | **全講義のまとめ** | 授業全体の内容を復習し、期末レポートの作成に取り組む。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 講義内容の総復習を行い、全体の内容の要点を理解する。 | | |

SP-4705-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **こどもの遊びと運動** | | | | |
| 担当教員名 | **秋武　寛** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

身体を巧みに操る動作は、幼児、児童期の運動体験に影響され家庭環境など個人差がみられる。運動習慣は、一生涯の健康維持や性格形成にも影響を及ぼし、生活習慣病にも繋がることが考えられる。子どもの身体活動や運動あそびの重要性を理解し、移動系、操作系、平衡系運動などを組み合わせたサーキット遊びを立案できることを目指す。子どもの様々な運動あそびを学習し、身体を使って表現する力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | それぞれの年代の発達段階に合わせた運動あそびが展開できるような知識や技能 | 発達段階に合わせた運動あそびを理解し、計画する。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 運動、造形表現など、発育発達に伴う子どもを理解し、表現できるような思考や表現力 | 発達段階に合わせた運動あそびを理解し、指導案を作成できるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・その他(以下に概要を記述)

Teamsを使った遠隔授業です。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題レポート・課題提出状況 | 60 % | ： 子どものあそびと運動に関するレポート課題の内容を評価する。毎回提出する課題の内容、正解などを評価する。 |
| 運動あそび実施案の作成 | 25 % | ： こどものあそびと運動について、指導案の内容を評価する。 |
| 期末試験 | 15 % | ： 半期のまとめの試験をteamsを使ってオンデマンド形式で行う。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。適宜、紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **発育発達について** | 発育発達について学修する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | オリエンテーション（講義目的と評価および授業の進め方について） | | |
| 第2回 | **健康とスキャモンの発育曲線**<br>健康とスキャモンの発育曲線について学修する。 | 健康とスキャモンの発育曲線について復習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **様々な運動動作の発達**<br>様々な運動動作の発達について復習する。 | 加齢にともなう動作の発達（走る、跳ぶ、投げる）について復習する。 | 4時間 |
| 第4回 | **子どもの身体活動**<br>身体活動について学修する。 | 身体活動について復習する。 | 4時間 |
| 第5回 | **＊**<br>＊ | ＊ | 4時間 |
| 第6回 | **子どもの健康に関する諸問題**<br>子どもの健康に関する諸問題について考え、自身の考え、考察を述べる。 | 子どもの健康に関する諸問題に関する知識を復習する。 | 4時間 |
| 第7回 | **幼児期運動指針の背景とそのポイント**<br>幼児期運動指針の背景とそのポイントについて学修する。 | 幼児期運動指針の背景とそのポイントについて復習する。 | 4時間 |
| 第8回 | **幼児期運動指針の取組実践事例**<br>幼児期運動指針の取組実践事例について学修する。 | 幼児期運動指針の取組実践事例について復習する。 | 4時間 |
| 第9回 | **アクティブチャイルドプログラム**<br>アクティブチャイルドプログラムについて学修する。 | アクティブチャイルドプログラムについて復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **アクティブチャイルドプログラムの取組実践事例**<br>アクティブチャイルドプログラムの取組実践事例を学修する。 | アクティブチャイルドプログラムの取組実践事例を復習する。 | 4時間 |
| 第11回 | **運動あそび実施案の計画**<br>運動あそび実施案を計画し、様々な運動遊びについて学修する。 | 運動あそび実施案を計画し、様々な運動遊びについて復習する。 | 4時間 |
| 第12回 | **運動あそび実施案の作成**<br>運動あそび実施案を作成する。 | 運動あそび実施案を作成する。 | 4時間 |
| 第13回 | **半期のまとめの課題（前半）**<br>振り返りを行い、半期間の学修内容を確認する。 | 振り返りを行い、半期間の学修内容を復習する。 | 4時間 |
| 第14回 | **半期のまとめの課題（後半）**<br>振り返りを行い、半期間の学修内容を確認する。 | 振り返りを行い、半期間の学修内容を復習する。 | 4時間 |

SP-4707-3-2

| 授業科目名 | トレーニング指導法（生涯スポーツ指導法） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 藤松　典子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

生涯にわたって健康で暮らすために、運動・スポーツは欠かせないものである。人生100年時代が到来した今日、特に中高齢者の健康づくりのための運動を陸上、水中において有酸素運動、筋のコンディショニングのグループ指導が、安全に楽しく、効果的にできる。
水中では、水の特性（浮力、水圧、水抵抗、熱伝導）を理解し、その環境に応じて受講者に効果的で効率的な指導ができる。さらに、健康運動実践指導者資格（健康体力づくり事業財団）取得を視野に入れる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 受講者の特性を考慮し、運動指導技能の実践。 | 年齢や性別の違いに合わせた、運動不足解消のための運動指導ができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 水の特性（浮力、水圧、水抵抗、熱伝導）の理解。 | 陸上と水中運動の違いを理解し、効果的に指導ができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 主体的に目的に合った運動指導 | 他者と協力し、試行錯誤しながらより良いプログラムを作成できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）、ICT（Excel）、ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 小テスト | 20 % | ： | 陸上運動と水中運動それぞれ単元が終了後小テストを実施 |
| 中間発表 | 30 % | ： | 陸上運動、水中運動のそれぞれ筋コンディショニングとストレッチのプレゼンテーションの完成度 |
| 学期末発表 | 40 % | ： | プレゼンテーション実技の完成度 |
| グループ指導発表 | 10 % | ： | 労働者に対する運動指導を役割を決めて責任をもって行う指導スキル |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

健康運動実践指導者養成用テキスト　（公益財団法人）健康体力づくり事業財団

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本授業は先にエアロビックダンスを履修していることが望ましい。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **生涯スポーツとは**<br>日本人の健康問題と生涯スポーツの必要性について知識を深める。有酸素運動、筋の強化、ストレッチングの目的と効果を理解し、対象者に合わせて指導ができるよう理論的に学習する。陸上運動（エアロビックダンス）の特性、効果等の復習と水中における水の特性の理解と効果について理論を理解する。 | 健康運動実践指導者の役割を理解する | 4時間 |
| 第２回 | **エアロビックダンスのプログラム習得**<br>エアロビックダンスのプログラムを覚え正しい姿勢、明確な動きで表現できるように練習し、グループで発表しあう。 | 明確な指示ができるようにタイミングとキューイングを考える | 4時間 |
| 第３回 | **エアロビックダンスの指導法**<br>明確な指示で分かりやすく、身振り手振りを効果的に利用してキューイングができるようにする。お互いに発表し評価する。 | 筋の強化について学習する | 4時間 |
| 第４回 | **筋の強化エクササイズ**<br>大筋群に対する筋の強化方法を学習し、重力を考慮したプログラムを効果的に指導する。指導するときの言葉がけ、見せ方についても学習する。 | ストレッチングについて学習する | 4時間 |
| 第５回 | **ストレッチングエクササイズ**<br>大筋群に対するストレッチの方法と指導ができるようにする。伸びるところの見せ方を始め分かりやすく説明指導ができるようにする。 | 高齢者の運動指導について学習する | 4時間 |
| 第６回 | **陸上運動（エアロビックダンス）指導の発表**<br>エアロビックダンス、筋の強化エクササイズ、ストレッチングの指導を各自発表する。指導者と受講者を交替して実施す互いに評価し、レポートにまとめる | 発表を実施し、他の人の良い点を考え自分にも取り入れる工夫をする | 4時間 |
| 第７回 | **働く人の運動指導**<br>事務仕事など座ったままで仕事をする人たちに、グループ指導ができようプログラムの作成をする | 考えられる運動不足からおきる傷害と対策についてまとめる | 4時間 |
| 第８回 | **働く人の運動指導の実際**<br>実際に働く人たちにグループで運動指導を実施し、良かった点や改善点、今後の課題をみつける。自分の果たす役割について理解を深める | 職種による傷害の部位を整理し、対策を考える | 4時間 |
| 第９回 | **水中運動の理論と実際**<br>水の特性（浮力・水圧・水抵抗・熱伝導）を理解し、効果的に水を利用した運動について学習する。水中ウォーキング、筋の強化、ストレッチを体験する | 水を利用した運動を考え、まとめる | 4時間 |
| 第10回 | **水中ウォーキング**<br>浮力と水抵抗を利用し腰痛や膝痛の方でも歩けるプログラムを考える。陸上との違いを体験し、様々な歩き方をグループで出し合う。 | 水中ウォーキングをまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **水中ウォーキングのプログラミング**<br>さまざまなウォーキングの組み合わせ方を指導しやすいように組み立てるの応力を養う。 | 水中運動の利点をまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **水中ウォーキングの指導**<br>各自が作成した水中ウォーキングプログラムをプールサイドより指導する。動きの手本は、浮力と水抵抗があるように見せる見せ方、プールサイドからの声のかけ方等指導を学び実践する。 | 指導における、運動の観察、修正、賞賛ができるようにする | 4時間 |
| 第13回 | **水中での筋の強化とストレッチング指導**<br>プールサイドから水中の受講者へ指導する運動の見せ方、声のかけ方を後退で実践し評価しあう。 | キューイングのタイミングを考える | 4時間 |
| 第14回 | **水中プログラム指導の総まとめ**<br>水中ウォーキング、筋の強化、ストレッチングを水中の受講者にプールサイドから指導する。指導者役のものは、動きながら指導し、観察、修正、賞賛が行えるようにする<br>指導者になりきって、元気に指導ができるようにする | 陸上での水中の動きの練習 | 4時間 |

SP-4404-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **障がい者スポーツ指導法** | | | | |
| 担当教員名 | 中道　莉央 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

受講者が主体となって、指導者、観察者、学習者の3役を経験する模擬授業を中心に展開する。具体的には、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会で実施されている競技のルールや用具を理解し、アダプテッド・スポーツの考え方を活かした授業案を作成する。これをもとに受講者同士が協働した模擬授業を通じて、障がいのある人を含む多様な対象者に応じた指導・支援法を習得します。このような学びから、「地域における障がい者スポーツのリーダー的役割」を担えるような態度を身につけることを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 障がい者スポーツに対する関心・意欲 | 障がいのある人のスポーツに関心を持ち、障がいの有無にかかわらず誰もが実質的に参加できるスポーツ指導を行うことに高い意欲を持っている。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 障がい者スポーツの模擬授業 | 障がい理解を促進したり障がいのある人が実質的に参加したりするためにルール、用具、行い方等を理解し、これらが工夫された模擬授業ができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 障がいのある人のスポーツ参加の実質的保障 | 障がいのある人が実質的に参加するスポーツのあり方について思考し、論理的に判断したことを表現できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 障がい者スポーツの推進 | 関心・意欲で示された目標をもとに、障がいのある人を含む多様な人びとが実質的に参加できる魅力ある指導者やスポーツについて、主体的かつ協働的に追求できる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：滋賀県障害者福祉センター（職種・キャリア形成の理解、地域・社会の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング、Power Point、動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎時の授業への取り組み状況（関心意欲） | 15　% | ：　障がいのある人のスポーツに関心を持ち、障がいの有無にかかわらず誰もが実質的に参加できるスポーツ指導を行うことに高い意欲を持つことができているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。 |
| 毎時の授業への取り組み状況（知識・技能）と模擬授業 | 30　% | ：　模擬授業におけるパフォーマンス（障がい理解を促進したり障がいのある人が実質的に参加したりするためにルール、用具、行い方等を理解し、これらが工夫された授業づくりができているかどうか）を秀、優、良、可、不可で評価する。 |

毎時の授業への取り組み（思考等）と指導計画書　：　障がいのある人が実質的に参加するスポーツのあり方について思考し、論理的に判断したことを表現することができているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。

35　%

期末レポート（学びに向かう力、人間性）　：　第14回授業において、障がいのある人を含む多様な人びとが実質的に参加できる魅力ある指導者やスポーツについて、主体的かつ協働的に追求することができているかどうかを秀、優、良、可、不可で評価する。

20　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

(公財)日本パラスポーツ協会編 『改訂版　障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）：2020改訂カリキュラム対応』 ぎょうせい．2023.
(公財)日本パラスポーツ協会編 『令和5年度　全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)』 日本パラスポーツ協会．2023.

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は、障がいのある人に対するスポーツ指導技術の習得を目的としており、各種障がいについては既知のこととして展開するためである。それゆえ、「障がい者スポーツ概論」や「障がい者スポーツ（実技）」の単位を修得済みであることが望ましい。
・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・なお、本科目は(公財)日本障がい者スポーツ協会「障がい者スポーツ指導員（中級）」の資格取得には必須の授業である。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス／ 全国障害者スポーツ大会の歴史的背景**<br>わが国における障がい者スポーツの始まりや全国障害者スポーツ大会の成り立ち、その歴史的背景について理解する。 | 障害者スポーツ概論で学んだ「障がい者福祉施策の変遷」および「障がい者福祉施策とスポーツ」の内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **全国障害者スポーツ大会の目的と意義**<br>国内外の障がい者スポーツの歴史と現状、パラリンピックに代表される競技大会の歴史と現状等を踏まえ、全国障害者スポーツ大会の目的と意義を理解する。 | 障害者スポーツ概論の「障がい者スポーツの理念」で学んだパラリンピック・デブリンピック・スペシャルオリンピックス等の各種国際大会が掲げる理念を復習しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **全国障害者スポーツ大会の実施競技（個人競技）**<br>全国障害者スポーツ大会における個人競技の競技概要、基本的な練習方法について理解する。 | 全国障害者スポーツ大会およびパラリンピックにおける個人競技を理解しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **全国障害者スポーツ大会の実施競技（団体競技）**<br>全国障害者スポーツ大会における団体競技の競技概要、基本的な練習方法について理解する。 | 全国障害者スポーツ大会およびパラリンピックにおける団体競技を理解しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **全国障害者スポーツ大会の障がい区分の考え方**<br>障がい区分の意義や目的について、障がい者スポーツ特有のシステムである「クラス分け」「持ち点制」の成り立ち、その背景にある考え方から理解する。 | 各種競技の「クラス分け」「持ち点制」を整理した上で、それぞれのメリットとデメリットを理解しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **全国障害者スポーツ大会の障がい区分の実際**<br>全国障害者スポーツ大会における個人競技と団体競技の障がい区分について、適切な判定ポイントや判定時の注意点を理解する。 | 各種競技の障がい区分を整理しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（陸上競技・投てき）**<br>全国障害者スポーツ大会における陸上競技（投てき）の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した投てきの基本的な指導法を体得する。 | 全国障害者スポーツ大会における陸上競技（投てき）の競技規則について調べ、理解しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（水泳・自由形／平泳ぎ）**<br>全国障害者スポーツ大会における水泳の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した自由形および平泳ぎの基本的な指導法を体得する。 | 全国障害者スポーツ大会における水泳（自由形／平泳ぎ）の競技規則について調べ、理解しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（水泳・背泳ぎ／バタフライ）**<br>全国障害者スポーツ大会における水泳の競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した背泳ぎおよびバタフライの基本的な指導法を体得する。 | 全国障害者スポーツ大会における水泳（背泳ぎ／バタフライ）の競技規則について調べ、理解しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則（サウンドテーブルテニス）**<br>全国障害者スポーツ大会におけるサウンドテーブルテニスの競技規則を確認した上で、障がいの特性に考慮した基本的な指導法を体得する。 | 全国障害者スポーツ大会におけるサウンドテーブルテニスの競技規則について調べ、理解しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第11回 | **障がいのある人のスポーツ指導における留意点（障がい理解）**<br><br>障がい特性に応じた支援・指導法を理解するために、スポーツ指導場面における留意点および指導案を作成するうえでの基本的なポイントについて学ぶ。 | 障がい者スポーツ概論で学んだ障がいの特性を復習し、スポーツ指導における留意点として重要な点をまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **障がい者のスポーツ指導における留意点（指導案作成）**<br><br>第11回の内容を踏まえ、全国障害者スポーツ大会実施競技・種目からテーマを選択し、個人対象の指導案を作成する。 | 第1回から第10回までの内容を復習し、全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の基本ルール、特徴や魅力を整理しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **障がいのある人のスポーツ指導における留意点（発表・評価）**<br><br>第12回で作成した指導案を発表し、それぞれの指導案のよい点、さらに工夫できる点を整理することを通して、障がいのある人のスポーツ指導における留意点を総合的に考察する。 | 障がいのある人のスポーツ指導における留意点を踏まえ、指導者に求められる資質や能力とは何かをまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **全国障害者スポーツ大会に期待されるコーチの役割**<br><br>障がい者スポーツの指導者に求められる大会前、大会中、大会後のコーチの役割と留意点を理解する。 | これまでの授業内容を踏まえ、障がいのある選手のコーチに求められる役割や資質について、自分なりの考えをまとめておく。 | 4時間 |

SP-4806-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **中高齢者と生涯スポーツ** | | | | |
| 担当教員名 | **村瀬　陽介** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目は、生涯スポーツについてこれまで学んだ基礎知識をさらに発展させ、自身の意見を述べられることを目標とする。加齢による身体の変化について、生理学的観点から運動・スポーツの重要性を理解できるように授業を展開する。また、生涯スポーツに関わる現状と課題を整理し、スポーツ政策について解説する。木球などのニュースポーツの体験を通じて競技スポーツとは異なった楽しみ方を知り、運動・スポーツの持つ多面的な価値に気づくだけでなく、将来の運動実践につなげられるようにする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツに関する幅広い関心 | 生涯スポーツの観点から、スポーツについて幅広く関心をもちスポーツの価値について考えられる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツの用語に関する知識 | 中高齢者と生涯スポーツを説明するために必要な概念や用語について説明することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・その他(以下に概要を記述)

講義

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート | 50 % | ： 毎回の授業で授業内容について理解度を評価する |
| 授業内テスト | 20 % | ： 授業中の知識の習得度について評価する |
| 学期末テスト | 30 % | ： 授業内容の理解度および、生涯スポーツの今後の展望について自身の考えを述べられるかどうかを評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜レジュメで触れる。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
第1回のガイダンス時に、受講についての説明をするので、本科目のルールを理解した上で以降の授業に参加すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 月曜2限

**場所：** 研究室（B209）

**備考・注意事項：** 質問内容を整理して、具体的な質問を考えてから来室してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよび生涯スポーツの現状と課題**<br>（1）授業の予定、目標、成績の評価方法について説明する。また望まれる受講態度について説明する。（2）本科目で学ぶ「老化」と「生涯スポーツの現状と課題」について概説する。 | 生化学についてノートを見なおしておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **加齢と老化**<br>加齢による身体の変化について生理学的観点から解説する。また運動が高齢者の健康や寿命に与える影響について解説する。 | スポーツ生理学概論で学んだ内容(特にエネルギー代謝について)を復習しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **老化と運動～骨格筋、骨～**<br>第2回からさらに詳細な内容を扱う。免疫システムについて概説し、肥満、炎症についても老化の視点から解説をする。また、運動が免疫機能にどのような影響を与えるか、肥満や炎症にどのような効果があるか解説する。 | スポーツ生理学概論で学んだ内容(特に免疫について)を復習しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **老化と運動～免疫、肥満、炎症～**<br>第2回からさらに詳細な内容を扱う。免疫システムについて概説し、肥満、炎症についても老化の視点から解説をする。また、運動が免疫機能にどのような影響を与えるか、肥満や炎症にどのような効果があるか解説する。 | スポーツ生理学概論で学んだ内容(特に免疫について)を復習しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **老化と運動～認知機能～**<br>加齢による認知機能について解説する。また、認知症について概説し、運動が認知機能に与える影響について解説をする。 | 認知機能、認知症について厚労省のサイトなどを参考に学習しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **老化と運動～栄養～**<br>高齢者が健康を維持するために、運動とともに必要な栄養について解説する。また、次回授業の事前学習となる調査の方法について解説をする。 | 運動と栄養についてこれまで学んだことを復習しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **授業のまとめ（1）と到達度検証**<br>これまでの授業内容のふりかえりを行ない、老化と運動についてまとめる。またこれまでの授業内容について記述試験を行なう。 | 第1回から6回までの授業内容を復習しておく | 4時間 |
| 第8回 | **生涯スポーツのはじまりと日本における現状**<br>生涯スポーツについて、その概念および歴史について解説する。また、日本での現状についても解説する。 | 生涯スポーツについて、これまで学んだ内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **中高齢者のスポーツと実際ー木球体験**<br>ニュースポーツの実践として、木球を行なう。ルールや記録の取り方を説明し、グループ分けをした後実技に移る。運動のできる格好で参加すること。また各自防寒対策をすること。 | 木球について、各自映像を見て予習をす る。 | 4時間 |
| 第10回 | **ヘルスプロモーションと行動変容ステージ**<br>ヘルスプロモーションと行動変容ステージについて解説し、健康づくりのために実施されている方策について解説する。 | 健康づくりのために、自身の自治体で実施されている方策について調べてくる。 | 4時間 |
| 第11回 | **生涯スポーツの振興政策**<br>生涯スポーツについて、スポーツ振興法、スポーツ振興計画、スポーツ基本法、スポーツ基本計画（第二期）について概説する。 | スポーツ庁のサイトを閲覧し、これまでのスポーツ振興政策について調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツクラブの運営**<br>総合型地域スポーツクラブを取り上げ、その運営について現状と課題を解説する。 | 身近な総合型地域スポーツクラブについて、ホームページなどでクラブの概要を調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **中高齢者のスポーツと実際ーゴールドッヂ体験**<br>ニュースポーツの実践として、ゴールドッヂを行なう。ルールを説明し、グループ分けをした後実技に移る。運動のできる格好で参加すること。 | ゴールドッヂについて映像資料などで調べておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツの多様性**<br>ニュースポーツをはじめ、世界各国のスポーツを紹介する。スポーツの多様性に触れ、生涯スポーツとしてのスポーツの価値を考え、これからの生涯スポーツのあり方について考える。3 | 授業内容についてレポートを作成する。 | 4時間 |

SP-4807-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツと地域保健** | | | | |
| 担当教員名 | **入谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 産業保健師として成人期の健康や予防活動に対する運動支援を実践。企業の中での健康づくりの方策について学ぶことができる。 | | | | |

**授業概要**

本講義では、生活習慣が発症に深く関与する生活習慣病について、概要・疫学的知識・その予防などを中心に学習するとともに、その予防に関してスポーツ(運動）がどのように影響を与えるかを学ぶ。さらには個人のライフステージ毎に対応したスポーツのあり方を学び、すべての国民が健康で幸せな人生を送ることができるように、健康寿命延伸にいかにスポーツが多角的に作用するかを学ぶ。また、生涯スポーツの課題を分析できる技術を習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 生涯スポーツにおける地域における生活習慣や運動の現状の知識 | 地域（子ども、労働者、高齢者）における生活習慣の現況や施策について知識を得る |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 子ども、労働者、高齢者に関する国の統計情報を用いた思考・表現 | 子ども、労働者、高齢者に関する国の統計情報を用いて、分析することができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 主体的に生涯スポーツにおける地域の役割に関する知識や技術を深める学びに向かう力 | 主体的に自らが地域の中で生涯スポーツを拡大するための方策を検討することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・その他(以下に概要を記述)

確認テストや実技テストを行います。現状の知識の定着を確認します。子ども、労働者、高齢者に対する統計資料を用いて考察や健康づくりの施策をパワーポイントにまとめる課題があります。
「ICT　タイピング」「ICT　PowerPoint」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| １～３回授業内容に関する確認テスト及びレポート | 30　% | ：「健康とは」「スポーツ基本法」「健康日本21」「ライフステージ」「生活習慣病」「世界の生涯スポーツ」「労働者と高齢者」「子ども」に関する授業レポートまたは確認テストで評価する。1回１０点×3回 |
| 労働者・高齢者に関する統計と課題に対する考察をPowerPointにまとめる・運動実施 | 20　% | ：労働者・高齢者に関する日本の統計を整理し課題を抽出しまとめパワーポイントを作成する（20点） |
| 高齢者のプログラム作成 | 50　% | ：講義レポート(10点）、高齢者のプログラム個人(10点）、グループ(10点）、実施内容（10点）、最終レポート（10点） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

厚生労働省・文部科学省ホームページ
「生涯スポーツ実践論」　川西正志、野川春生著　市村出版

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項：**　事前にメールでアポイントをしてください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **地域保健とは？健康とは　、ライフステージとスポーツ**<br>地域保健・生涯スポーツの定義を理解する。<br>ライフステージの特徴と運動の課題、ライフステージに沿ったスポーツとは何かについて学ぶ。健康とは何か、健康と運動についてのエビデンスを学ぶ。 | 健康とは何かについて調べる | 4時間 |
| 第２回 | **スポーツ基本法、健康日本21**<br>厚生労働省ホームページから「健康日本21」の要旨と達成状況を知り、日本の健康の課題を検討する　スポーツ基本法を通して、日本のスポーツの現状の運動を学び、日本のスポーツの課題を学ぶ | スポーツ基本法・健康日本21を調べる | 4時間 |
| 第３回 | **生活習慣病と運動**<br>生活習慣病における運動の効果や必要性について学ぶ | 生活習慣病について復習する | 4時間 |
| 第４回 | **労働者・高齢者の特性と実態**<br>労働者・高齢者の特徴を知り、現在の課題を学び対策を検討 | 労働者や高齢者の特徴について調べる | 4時間 |
| 第５回 | **労働者・高齢者の現状と課題①**<br>労働者・高齢者の現在の課題について資料を読み取り、パワーポイントの作成 | 運動の実態について資料の検索し、調べる | 4時間 |
| 第６回 | **労働者・高齢者の現状と課題②**<br>外での労働者・高齢者での運動施策について調べ、日本と比較する。パワーポイントの作成 | 海外での運動施策の実態について調べる | 4時間 |
| 第７回 | **労働者・高齢者の現状と課題③**<br>第7回、8回で実施した内容の発表し、労働者の運動の実態を共有し学ぶ | 発表資料を整理する。 | 4時間 |
| 第８回 | **高齢者に対する運動の実際**<br>高齢者の運動プログラムの実施内容のオリエンテーション<br>BSCで実施されている地域における運動の実際を知る | 地域における運動プログラムを調べる | 4時間 |
| 第９回 | **高齢者に対する運動プログラムの検討①**<br>高齢者に関する運動プログラムを検討する | 運動プログラムの作成のための資料を収集する | 4時間 |
| 第10回 | **高齢者に対する運動プログラムの検討②**<br>高齢者に関する運動プログラムを検討する | 運動プログラムを検討する | 4時間 |
| 第11回 | **高齢者に対する運動プログラムの検討③**<br>高齢者に関する運動プログラムをグループ内で共有し練習する | 運動プログラムの練習 | 4時間 |
| 第12回 | **高齢者に対する運動プログラムの検討④**<br>高齢者に関する運動プログラムをグループ内で共有し発表練習する | 発表練習 | 4時間 |
| 第13回 | **高齢者に対する運動プログラムの発表および評価①**<br>グループ（１グループ約１５分）ごとに運動プログラムを発表し、自己や相互評価を行う | 運動プログラムの発表練習 | 4時間 |
| 第14回 | **高齢者に対する運動プログラムの発表および評価②と全体のまとめ**<br>グループ（１グループ約１５分）ごとに運動プログラムを発表し、自己や相互評価を行う | 運動プログラムの発表練習 | 4時間 |

SP-4405-3-2

| 授業科目名 | 女性と生涯スポーツ（女性とスポーツ） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佐藤　馨 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

平成11年に男女共同参画社会が公布・施行され、平成12年には具体的な男女共同参画社会基本計画が策定された。それから20年以上もの時間が経過したが、男女共同参画社会の基本理念は、いまやスポーツの領域においても広く浸透してきている。例えばスポーツ庁のスポーツ振興政策においても、指導者の男女比の是正や女性のスポーツ活動の促進が取上げられており、今後女性とスポーツを取巻く環境はますます変化していくと予測される。本講義では、スポーツを指導する観点から、女性のからだの特性を発育・発達に沿って学習し、指導に必要な基礎知識を習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ実施における女性のからだ特有の諸問題 | 女性特有の問題（月経、更年期等）が女性のスポーツ実施を妨げることを学習する |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 発育・発達からみた女性のからだの変化 | 女性のからだは、年齢によって異なることを学習する |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内容に関するレポート課題 | 5　% | ： | 授業内容に沿ったレポート課題について、問題の所在や本人の意見が適切に記述されているか評価する |
| 講義中盤に実施する確認テスト | 30　% | ： | 講義前半に学習した内容についてどの程度理解しているのか30点満点で評価する |
| 本試験 | 65　% | ： | 講義全体で学習した内容についてどの程度理解しているのか65点満点で評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『女性スポーツの医学』目崎登著　文光堂　1997
『女性のスポーツ医学』越野立夫　武藤芳照　定本朋子編著　南江堂　1996
『新妊婦スポーツの安全管理』日本臨床スポーツ医学会学術委員会編　文光堂　2004

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【履修上の注意】
本授業は、PCで受講することが前提であるため、必ずPCを準備すること（スマホ受講は不可）。
本試験の評価は全体として比率が高いが、毎授業の出席なくしては高得点を取ることはできない。また本試験に備える意味でも、講義中に指示される小レポートは確実に提出し、評価に備えること。
【メッセージ】
スポーツを指導することを考えると、世の中の半分を占める女性を無視することはできません。ですがこれまでの女性への指導は、からだの特性に充分考慮したものとは言えないのが現実です。本講義では、女性のからだの特性を発達別によってできるだけ詳しく解説し、将来、受講生の皆さんが女性を指導する際に必要な知識を習得で

きるような内容にしています。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **女性とスポーツ　ガイダンスおよび女性スポーツの指導について**<br>生涯スポーツの観点からみた女性とスポーツに関する講義概要と受講上の留意点について理解する | 講義中に配布される資料を精読し、全体的な講義内容について理解する | 4時間 |
| 第2回 | **女性のからだの特性①　乳幼児期におけるスポーツ指導**<br>乳幼児期におけるからだの特性とスポーツ指導における留意点について説明する | 乳幼児期のスポーツ指導における留意点についてまとめる | 4時間 |
| 第3回 | **女性のからだの特性②　児童期におけるスポーツ指導**<br>児童期におけるからだの特性とスポーツ指導における留意点について説明する | 児童期のスポーツ指導における留意点についてまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **女性のからだの特性③　思春期におけるスポーツ指導**<br>思春期におけるからだの特性(特に月経)とスポーツ指導における留意点について説明する | 特に月経との関係から、思春期のスポーツ指導における留意点についてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **女性のからだの特性④　青年期におけるスポーツ指導**<br>青年期におけるからだの特性(特に妊娠・出産)とスポーツ指導における留意点について説明する | 妊娠・出産との関係から、青年期のスポーツ指導における留意点についてまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **女性のからだの特性⑤　更年期におけるスポーツ指導**<br>更年期におけるからだの特性(特に閉経や更年期)とスポーツ指導における留意点について説明する | 閉経や更年期障害との関係から、更年期のスポーツ指導における留意点についてまとめる | 4時間 |
| 第7回 | **女性のからだの特性⑥　老年期のスポーツ指導**<br>老年期におけるからだの特性(特に骨粗鬆症や老化)とスポーツ指導における留意点について説明する | 骨粗鬆症や老化との関係から、老年期のスポーツ指導における留意点についてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **月経とスポーツ①　月経におけるからだの仕組み**<br>思春期における女性のからだの変化、特に月経との関連から、からだの仕組みとスポーツ指導における留意点を説明する | 月経の仕組みを正しく理解するため、配布された資料を精読する | 4時間 |
| 第9回 | **月経とスポーツ②　月経とスポーツ実施との関連**<br>月経周期におけるからだの変化とその周期ごとにおけるスポーツ指導の留意点について説明する | 月経周期とスポーツ指導との関連を理解するため、配布された資料を精読する | 4時間 |
| 第10回 | **月経とスポーツ③　月経障害とスポーツ指導**<br>月経に際して起こり得る身体的、心理的弊害について説明し、その際のスポーツ指導における留意点について解説する | 月経周期と女性のからだの状態、あるいは心理状態に配慮したスポーツ指導やプログラムを考え、それをまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **妊婦とスポーツ①　妊婦のからだの仕組み**<br>妊娠・出産にともなう女性のからだの変化とスポーツ指導における留意点について説明する | 妊娠・出産にともなう女性のからだの変化について正しく理解するため、配布された資料を精読する | 4時間 |
| 第12回 | **妊婦とスポーツ②　妊婦とスポーツ指導**<br>妊婦にスポーツを指導する場面を想定し、妊婦・胎児に支障を来さないスポーツプログラムと指導における留意点について説明する | 妊婦にスポーツを指導する場面を想定し、妊婦・胎児に支障を来さないスポーツプログラムを考え、それをまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **更年期障害とスポーツ①　更年期障害におけるからだのしくみ**<br>更年期障害における女性のからだの仕組みについて基礎的な知識について解説する | 更年期障害の基礎知識を正しく理解するため、配布された資料を精読する | 4時間 |
| 第14回 | **更年期障害とスポーツ②　更年期障害とスポーツ指導**<br>更年期障害をかかえた女性へのスポーツ指導で特に留意する点について説明する | 更年期障害をかかえた女性へのスポーツ指導を想定し、そうした女性に適したスポーツプログラムを考え、まとめる | 4時間 |

SP-4901-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **卒業研究** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 通年 | 単位数 | 4 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

指導教員の指導のもと、学部、学科、専門コースでの学習活動の総まとめとして、各学生がそれぞれの専門分野における研究論文を作成し、卒業研究発表会において各自の研究成果を発表する。スポーツ学に関する研究課題に対して計画的に取り組むことで、知識や考え方を統合的に発揮する力を身につける。卒業研究を通して、課題発見力、情報収集・分析力、発想、探求を含め論理的思考力、プレゼンテーション力、チームワークなど、社会から求められる力を育成するとともに、教わる学びから探求する研究を体現する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 研究を通してスポーツ学における各自の専門分野や自身のテーマに関する深い知識を修得する。 | スポーツ学における各自の専門分野や自身のテーマに関する知識を深める。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ学における各自の専門分野に関する課題発見力、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を修得する。 | 社会から求められる力（課題発見力、分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力）を高める。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 身につけた知識や技能を発揮するための実践力を修得する。 | 卒業研究論文や発表会にて修得した知識や技能を表現および発揮する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

コース独自の卒業研究ルーブリックを用いて評価する。

**成績評価の方法・評価の割合**

コース独自の卒業研究ルーブリックを参照

**評価の基準**

： コース独自の卒業研究ルーブリックを参照

100 %

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜指示する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

－

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **卒業研究**<br>詳細な内容は、別途配付する「卒業研究の概要と作成の手引き」を確認してください。 | － | 4時間 |

SP-5001-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **エアロビックエクササイズ** | | | | |
| 担当教員名 | **藤松　典子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

深刻な生活習慣病予備軍であるメタボリックシンドロームを改善する運動の一つとして、ウォーキングやジョギングなどの有酸素運動を行う人が増加している。エアロビクス理論に基づき、ウォーキング、ジョギング、ストックウォーキングを行い理論と実技を習得する。また、中高年のための健康づくり運動プログラムを作成し、指導できる技能を習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 。運動不足からなる疾病、生活習慣病、高齢化社会の理解。 | 超高齢化社会の現状を見つめ社会に必要な健康づくりについてスポーツでアプローチできる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 中高齢者のための運動指導の実践。 | 運動指導特に有酸素。運動の活用について幅広い知識を身につける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・その他(以下に概要を記述)

ICT（タッチタイピング）、ICT（Excel）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| レポート | 50 % | ： | 学期末に毎回の授業の各自のデーターを利用したレポートを有酸素運動の理解度の観点より評価する。 |
| 小レポート | 40 % | ： | 各授業の小レポートの課題について理解し、正しい考察ができているか評価する。 |
| プログラム発表 | 10 % | ： | 割り当てられたウォーミングアップ、クールダウンのプログラムを目的に合わせて考え発表する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成テキスト」

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ウォーキング理論と実技**<br>現在、健康体力づくり運動の中で最も実施率の高いウォーキングについて運動強度や特性を理解する。各自の歩行能力の測定を実施し、指導者として利用したり、データを活用できるようにする。 | ウォーキングの特性、目的、効果について調べて小レポートにまとめてくる。 | 1時間 |
| 第2回 | **ウォーミングアップとクールダウン**<br>準備運動としてのウォーミングアップ、整理運動としてのクールダウンを指導できるように、目的と効果を学習し、実践する。 | ウォーミングアップとクールダウンの目的とプログラムを小レポートとして作成してくる。 | 1時間 |
| 第3回 | **ウォーキングと目標心拍数の設定**<br>心拍数の測定の仕方と目標運動強度の設定方法を知る。ゼロトゥピーク法と、カルボーネン法の違いを理解して活用できるように学習する。エクササイズとしてのウォーキングと通常の歩行の違いを理解できるよう体験する。 | 心拍数、心拍出量、１回拍出量、酸素摂取量について小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第4回 | **ウォーキングからジョギングへ**<br>ウォーキングからジョギングへスピードの変化を体得しながら心拍数の変化にも着目し、自分のジョグの最適ペースを知る。ジョギングの効果を理解し、体力に合わせてプログラムを提供できる能力を身につける。 | ジョギングについて小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第5回 | **12分間走テスト1**<br>クーパー博士の考案した12分完走テストを体験し自分の運動能力を評価する。12分間走テストの実施の仕方を確認し、評価の仕方、データの活用方法を学習する。 | これまでの自分のデータをまとめておく。クーパー博士のエアロビクス理論を調べてまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **ウォーキングとジョギングの強度設定と心拍数、RPE評価実技**<br>高齢者に重要な評価方法としてRPE（主観的運動強度）の利用の仕方を理解し、ウォーキングとジョギングのペースとRPEの対応について実践する。 | 正しいウォーキング指導方法を小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **ストックウォーキング**<br>ストックを使用した歩き方を体験し、ストックの持ち方と使い方、長さのあわせ方、ストックを利用したウォーミングアップの方法を学習する。ストックウォーキングの効果と利点を実際に体験し、指導できるようにする。 | ストックウォーキングの目的と特性を小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第8回 | **ストックウォーキングで少し長い距離を歩く**<br>景色を楽しみながらストックウォーキングを実施する。ウォーキングとの違いを体感し、ペース、心拍数、運動強度の違いを学習する。 | ウォーキングとストックウォーキングの比較を小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **ストックウォーキングで比良散策**<br>自分の体力レベルを知りながら、指導法を学習する。<br>傾斜の利用の仕方、ストックの有効活用を実際に山の傾斜を利用して学習する。 | 毎時間の心拍数、RPE、歩数、距離、時間等のデータを整理しながらまとめる。 | 1時間 |
| 第10回 | **ジョギングの運動強度**<br>対象者の年齢と運動経験や体力に合わせたジョギングの指導方法を学習する。対象者に合わせたジョギングのコースを選択すること、距離の設定やコース作成の考え方、注意するべきことを学習する。 | 運動不足の人は日ごろから走っておく。 | 1時間 |
| 第11回 | **ジョギング**<br>3～5kmのコースを探究する。距離と時間、歩数等、自分のデータはきちんと測定する。 | 各自の自宅近くのジョギングコースを設定する。 | 1時間 |
| 第12回 | **12分間走テスト2**<br>走った距離、ペース、RPE、心拍数、歩数を記録し、運動強度設定を行う。1回目と2回目のデータや全国の同年代のものとの比較を試み自分の体力の現状について理解し、今後の課題を探る。 | 1回目の12分間走との比較をする。 | 1時間 |
| 第13回 | **グループ別ジョギング**<br>自分と同じペースの人とジョギングをする。<br>各グループでウォーミングアップ～ジョギング、運動強度の確認をしながら一定のペースで、お互いに周りの人の様子も観察しながら走る。走りながら多くの人とコミュニケーションをとるように会話も考える。 | ウォーキング、ジョギングの指導案を作成してくる。 | 1時間 |
| 第14回 | **データのまとめとレポート作成**<br>これまでの授業で取った自分のデータをまとめながら、ウォーキング、ストックウォーキング、ジョギングという有酸素運動について特性と効果をまとめレポートを作成する。表やグラフのわかりやすい書き方、考察の仕方を学習する。また、その指導方法についても触れる。 | これまでのデータをまとめたものを表やグラフにして考察、まとめ、感想を書いておく。最終授業でそのレポートを提出する。 | 1時間 |

SP-5002-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | エアロビックダンス（プログラミング） | | | | |
| 担当教員名 | 藤松　典子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

エアロビックダンスⅠの授業に基づき、さらに深くエアロビックダンスプログラムの特性、効果を理解し、安全に運動が行えるようなプログラム作成の方法を学ぶ。筋の強化、ストレッチングのプログラムも作成し、より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を実践、提供できるプレゼンテーション能力を養う。また、実技だけではなく、これまで学んできたフィットネス理論、スポーツ生理学、機能解剖学などについても復習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | エアロビックダンスの特性を理解し、効果的なプログラミングができる能力を養う | 安全で効果的なプログラム作成ができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 動きやすい、親しみやすいプログラムを作成し、対象者に合わせて実演できる能力をみにつける | 作成したプログラムをにこやかに演じられる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| レポート作成物 | 30 % | ： | 遠隔授業時の課題提出物の完成度で評価する |
| 学期末発表 | 50 % | ： | 5分間の、徐々に心拍数を上げて一定の強度でキープでき、徐々に強度を落とすプログラムになっているか実技評価 |
| レポート | 20 % | ： | 授業中の課題レポートのまとめから理解度を評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

新・エアロビックダンスエクササイズの実技指導
指導理論のAtoZ(改訂版)

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
エアロビックダンスⅠを取得していることが望ましい。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **フィットネス概論**<br><br>日本人の健康問題について理解し，生活習慣病の予防と生活習慣の改善を検討する | 日本人の健康問題と運動療法の関係について小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **エアロビクス理論**<br><br>エアロビクス，エアロビックダンスの歴史，日本への流れとその後の日本での歴史を整理し理解する | 有酸素運動について、また健康づくりの中高年の有酸素運動指導について小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **基本ステップ**<br>エアロビックダンスⅠで学んだことを復習しながらステップアップする | 運動生理学の骨と筋肉の復習をする。 | 1時間 |
| 第4回 | **基本ステップのステップアップ**<br>基本ステップを組み合わせる方法を学習する | 機能解剖学の復習をする。 | 1時間 |
| 第5回 | **コンビネーションドリル**<br>コンビネーションパターンをいくつか作成する | 体力学について復習する。 | 1時間 |
| 第6回 | **筋コンディショニング**<br>大筋群の強化，プログラムに合わせた筋の強化部位を選択 | 栄養学について復習する。 | 1時間 |
| 第7回 | **筋の強化のプログラミング**<br><br>対象者の目的に合わせた筋の強化部位を選択し、プログラミングできるようにする | グループエクササイズについて小レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第8回 | **レイヤリングの作成方法**<br><br>レイヤリングのスムーズな作成方法を理解する，またパターンを数種類考案する | 運動強度の設定の仕方、変化のさせ方をまとめて小レポートにする。 | 1時間 |
| 第9回 | **ウォーミングアッププログラミング**<br>様々な対象者の目的に合わせたプログラム作成をする<br>エアロビックダンスⅠで作成したが，よりリズミカルに大筋群を動かし、関節を滑らかにし可動域が広がるように工夫する | 各パート目的をまとめてくる。 | 1時間 |
| 第10回 | **ストレッチのプログラミング**<br>様々な対象者の目的に合わせたプログラム作成をする<br>目的やエクササイズで使用した筋のストレッチが、効率よく実施できるようなプログラミングを考案する | プログラム作成のポイントを調べまとめてくる。 | 1時間 |
| 第11回 | **メインエクササイズプログラミング　ーコンビネーションー**<br><br>有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップとハイインパクトクトステップの配分と移行方法を実施できるようにする | ローインパクトステップとハイインパクトステップを整理するとともに、スムーズな移行の仕方をまとめてくる。 | 1時間 |
| 第12回 | **メインエクササイズプログラミング　ー空間形成ー**<br><br>有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップからハイインパクトクトステップの空間や軌跡の描き方等でステップを変化させる手法を習得する。 | 筋の強化エクササイズのプログラミングを作成してくる。 | 1時間 |
| 第13回 | **メインエクササイズプログラミング　ーリズムの変化ー**<br><br>各種ステップをリズム変化によるオリジナルステップを作成する。<br>あらゆる方向から考慮し、なおかつ健康体力づくりに効果的なプログラムを作成する。 | ストレッチエクササイズの指導案を作成してくる。 | 1時間 |
| 第14回 | **5分間のメインエクササイズプログラム発表**<br>有酸素運動を理解し、目的に合わせてローインパクトステップからハイインパクトクトステップの配分と移行方法を実施できるようにする。<br>心拍数を2分間で徐々にアップし、ターゲットゾーンで1分間キープ、2分間でダウンのプログラムを作成する。お互いに評価する。 | 授業で作成したコリオグラフィーを清書する。 | 1時間 |

SP-5003-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **エアロビックダンス（指導法）** | | | | |
| 担当教員名 | **藤松　典子** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

エアロビックダンスⅠ、Ⅱの授業を土台とし、Ⅱで学んだプログラミングをさらに効果的で安全に楽しく伝える方法を学ぶ。より幅広い専門性を意識し、対象者の目的に応じた運動を提供でき、対象者を観察し、賞賛、修正ができるプレゼンテーション能力を養う。指導理論の知識と、実践を行いこれまで学んできたバイオメカニクス、トレーニング理論、スポーツ栄養学、スポーツ生理学なども復習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 作成したプログラムを表現豊かに対象者の状況を観察しながら指導できる能力。 | 表現力豊かに楽しく指導できる能力を養う。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 作成したプログラムを指導に際し、観察、修正、賞賛などができる、臨機応変に対応する能力をみにつける。 | 作成したプログラムの効果を理解し、わかりやすく指導できる能力を養う。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 発表 | 40　% | ： | 指導テクニックのキューイングのタイミング、内容、声の出し方動きやすさ等で習熟度を評価する。 |
| レポート | 40　% | ： | 課題レポートの内容から理解度を評価する。 |
| 筆記テスト | 20　% | ： | 授業内容の理解度を筆記テストで評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

健康運動指導者のための最新フィットネス基礎理論　JAFA

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
エアロビックダンスⅠ，Ⅱの授業の単位を取得していること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **筋の強化エクササイズ**<br><br>筋の強化エクササイズにおいて、主な大筋群の強化の指導方法と、見本となる動きを習得し、正しい姿勢で指導できるように学習する。 | 指導の循環について調べ、特に観察・賞賛の仕方を調べまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **筋の強化指導法**<br><br>筋の強化エクササイズの主な大筋群の強化の指導方法と、見本となる動きを数種類習得し、その時の状況でどの動きが適しているか選択できる能力を養成する。 | フィットネス理論をまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **クールダウンエクササイズ**<br><br>主な大筋群のストレッチングの指導方法と、見本となる動きを習得する。観察･賞賛等も使いながら指導する。 | バイオメカニクスについて復習する。 | 1時間 |
| 第4回 | **クールダウン指導法**<br><br>筋のストレッチングの指導方法と、見本となる動きを数種類習得し、その時の状況でどの動きが適しているか選択できる能力を体得する。 | スポーツ栄養学について復習する。 | 1時間 |
| 第5回 | **メインエクササイズのプログラミング**<br><br>5分間のメインエクササイズのプログラミングとその指導、そして本人の正しい動きが課題です。プログラムは2分間の徐々に運動強度を上げていく、1分間ターゲットゾーンでキープして2分間で徐々に強度を落とすプログラムを作成、指導する。 | 運動強度等に関する計算方法をまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **メインエクササイズのプログラミングと評価**<br><br>5分間のプログラムを作成し指導の練習を実施する<br>自分で作成したプログラムを覚え、ベルカーブを描くプログラムになっているか確認し、立ち位置、見せ方を工夫できる能力を養う。 | プログラム作成に関してステップ等の選択の仕方を復習する。 | 1時間 |
| 第7回 | **メインエクササイズのプログラミングと伝え方**<br><br>指導法、特に効果的な見本の見せ方、受講者にわかりやすい言葉がけや、指導者としてふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いや受け答えが出来ているか確認する。 | 身だしなみ、言葉遣いの確認をする。 | 1時間 |
| 第8回 | **メインエクササイズのプログラミングと指導法**<br><br>前期に作成したプログラムを修正し、明確な指導ができるように声の大きさや表情、わかりやすい指示ができるようにする。 | キューイングのタイミングについて復習する。 | 1時間 |
| 第9回 | **メインエクササイズのプログラミング指導法と観察**<br><br>他の受講生とお互いのプログラムを指導し合い最終チェックを実施する。お互いに観察を行い、それに対して修正や賞賛ができる知識を深める。 | 指導時のクラスの雰囲気づくりを考察する。 | 1時間 |
| 第10回 | **発表**<br><br>メインエクササイズ、筋の強化、ストレッチングのグループ指導をお互いに発表し、評価しあう。良いところは賞賛し、足りないところは修正しよりよいものとなるよう学習する。 | 指導のタイミングと言葉がけをコリオグラフィーに合わせて作成する。 | 1時間 |
| 第11回 | **発表準備　ープログラミングー**<br><br>実技試験に向けて作成した5分間のプログラムを45分間に組み立てなおす。<br>本検定で指摘された個所を修正し、充分練習をする。 | エクササイズに使用する音楽をパートごとに選曲する。 | 1時間 |
| 第12回 | **発表準備　ー指導ー**<br><br>修正した45分間プログラムを流れるように指導する。<br>本検定で指摘された個所を修正し、見せ方の確認、さらに充分練習をする。 | 発表会の宣伝チラシの作成をしてくる。 | 1時間 |
| 第13回 | **実技発表会**<br><br>45分のプログラムを完成させ、授業の受講生以外の者を参加させ発表する。 | グループエクササイズについて調べてまとめる。 | 1時間 |
| 第14回 | **まとめおよび総評**<br><br>45分のプログラムを完成させ、授業の受講生以外の者を参加させ発表する。プログラム作成方法と指導についてレポート作成と発表（プレゼンテーション）。 | これまでの授業を振り返り学んだことを小レポートとしてまとめる。 | 1時間 |

SP-5004-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | アスレティックトレーナー特別講座(1) | | | | |
| 担当教員名 | 田中　忍 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツ現場で求められる医科学的支援について、アスレティックトレーナーの役割と業務の内容を理解する。アスレティックトレーナーのコンピテンシーを獲得していくためには、日頃から対象者の話をよく聴き、必要な情報を受け取った後、自分自身ができることと周囲の力を借りる必要があることを見極めて、対象者に対応することを念頭に行動していく必要がある。授業を通して、質問に応答すること、考えること、共有すること、伝えることに取り組む。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アスレティックトレーナーの現状理解と選択 | アスレティックトレーナーの資格を取得することの現実を知り、自身の目指す将来について選択することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | アスレティックトレーナーの役割の理解 | アスレティックトレーナーの役割を理解することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アスレティックトレーナーとしての言動 | 人と人の間で機能するアスレティックトレーナーに必要な振る舞い（聴く、伝える）ができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：連携先：アスレティックトレーナー（職種・キャリア形成の理解）)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業ごとの振り返り | 50 % | ： | 各授業の内容や気付いたことについてformsで回答する。 |
| 理解度と計画の発表 | 40 % | ： | アスレティックトレーナーの4つのコンピテンシーおよび資格を取得するためにすべきこととその計画についてまとめて発表する。 |
| 授業参加度 | 10 % | ： | ピアワークやグループワークで、「聴き方」「伝え方」を考えて参加しているかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

公益財団法人日本スポーツ協会、アスレティックトレーナー専門科目テキスト1巻アスレティックトレーナーの役割、2022年（新カリキュラム対応）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、次回の授業に向けて予習をすること。

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの過程認定に必要な科目である。
参考図書の購入方法は、授業時に説明する。

授業資料はteams・クラスノートブックで配布するため、パソコン持参で受講すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、情報の受け取り方**<br>授業の概要を理解する。イメージしているアスレティックトレーナーを共有し、これから目指すアスレティックトレーナーが獲得したい情報の受け取り方（情報収集と事前準備）を学ぶ。 | 必要事項を見直し、アスレティックトレーナーの資格制度について調べる。 | 4時間 |
| 第2回 | **アスレティックトレーナーの資格制度**<br>アスレティックトレーナーの行動範囲を理解し、資格を取得するための条件を知る。 | 資格取得の条件を理解し、できることから行動を開始する。 | 4時間 |
| 第3回 | **アスレティックトレーナーが学ぶこと**<br>アスレティックトレーナーが学ぶべきことを教育課程やカリキュラムに照らし合わせて理解する。 | 習得した科目について、復習していくスケジュールを立てる。 | 4時間 |
| 第4回 | **アスレティックトレーナーの役割と業務**<br>アスレティックトレーナーにはどのような役割と業務が求められるのかを理解する。 | コンピテンシーを支える知識と実践力をどのように獲得していくか考える。 | 4時間 |
| 第5回 | **関連資格**<br>アスレティックトレーナーと関連する資格について学ぶ。 | 将来目指したい姿を明確にし、できることから行動を開始する。 | 4時間 |
| 第6回 | **アスレティックトレーナーのコンピテンシーに応じた業務と運営**<br>４つのコンピテンシーそれぞれについて、「知識」「技能」「態度」をどのように獲得していくか、その際の学習のポイントについて学ぶ。 | 多くの授業にまたがって学んでいくことを整理する。 | 4時間 |
| 第7回 | **アスレティックトレーナー活動と倫理**<br>アスレティックトレーナーはスポーツ指導者の一員であることを認識し、言動に責任を持って活動するために、職業倫理について学ぶ。 | 起こりうる倫理的問題について、気をつけていくことをまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **アスレティックトレーナー自身の健康管理**<br>アスレティックトレーナー自身の精神的および身体的健康問題を未然に防ぐことができるよう、計画的および継続的な健康管理を学ぶ。 | 自身のストレスの原因と対処法をまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツ現場で留意すべき感染症**<br>感染症と伝播様式からその予防法について理解する。 | 自身や周囲の人の健康管理に活かせることがあれば、できることから行動を開始する。 | 4時間 |
| 第10回 | **アスレティックトレーナーの行動範囲と連携**<br>対象者を取り巻くさまざまな専門家や関係者との連携について、アスレティックトレーナーの立ち位置と求められることを理解する。 | 段のコミュニケーションの中で、改善できるところがあれば行動を開始する。 | 4時間 |
| 第11回 | **アスレティックトレーナーの実際**<br>アスレティックトレーナーとして活動している卒業生から、在学中の取り組みや現在の状況についての講義を受け、自身のキャリア形成に役立てる。 | 講義内容を要約し、気づいたことをまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **評価のための聞き取り**<br>外傷、障害発生時の評価方法であるHOPSについて理解し、聞き取った内容を報告する。 | 日常の中でも、相手が話しやすい「聴き方」ができているかを振り返り、できることから行動を開始する。 | 4時間 |
| 第13回 | **対応のための検査と評価**<br>外傷・障害の予防やコンディショニング・リコンディショニングで対応するために、身体運動の検査と評価方法および改善方法について学ぶ。 | 習得した評価と改善方法を自身で実践する。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめと総括**<br>スポーツ指導者の一員であるアスレティックトレーナーと活動するために、具体的に行動を開始したことおよびこれからどのように具体的に行動するかについて考えをまとめる。 | アスレティックトレーナーになるために、具体的な行動を開始する。 | 4時間 |

SP-5005-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | アスレティックトレーニング実習Ⅰ | | | | |
| 担当教員名 | 田中　忍 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アスレティックリハビリテーションの基礎知識をもとに実践能力を高め、「怪我からの安全で効率良い復帰」のための運動指導ができるように、主要なプログラムについて学び、具体的なリハビリテーションメニューについて実習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | リコンディショニングの理解 | リコンディショニング基礎知識を理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 基本的なリコンディショニングの実践 | 目的に応じたリコンディショニングの基本が実践できる |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アスレティックトレーナーとしての心構え | サポート業務を行う際に必要な自己犠牲の精神や、競技者の自立を促す教育的態度を身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・ディベート、討論

・その他(以下に概要を記述)

ICT（タッチタイピング）、ICT（PoerPoint）、ICT（Excel）、ICT（動画活用）、ICT（専門機材・アプリ活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

実技テストの評価は、「JSPO-AT現場実習ルーブリック」を用いて実施する。すべての項目で「実演できる」評価（４段階の最も良い評価）を獲得することが、JSPO-AT実技試験を受験する際の条件となる。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 理解度の評価 | 50　% | ：　リコンディショニングの基礎知識に関する内容について、formsで評価する。 |
| 実技テスト | 30　% | ：　代表的なスポーツ傷害受傷後のリコンディショニングに関して実技テストを行う。内容の正確性、リスク管理、対応の仕方について評価する。 |
| 授業参加度 | 20　% | ：　積極的に参加しているか、またアスレティックトレーナーとしての振る舞いができているかについて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・公益財団法人日本スポーツ協会、アスレティックトレーナー専門科目テキスト第7巻アスレティックリハビリテーション、2022年
・公益財団法人日本スポーツ協会、アスレティックトレーナー専門テキスト4巻リコンディショニング、2022年（新カリキュラム対応）
・広瀬統一、アスレティックトレーニング学、文光堂、2019年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加えて、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習しましょう。

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの過程認定に必要な科目です。
参考図書（専門科目テキスト）の購入は、授業時に説明します。

「身体構造と機能」および「救急処置法」を履修していることが望まれ、「アスレティックトレーナー特別講座(1)」および「現場実習Ⅰ」を習得してから履修してください。

授業は、teamsおよびクラスノートブックを活用して行いますので、パソコン持参で参加してください。

**授業計画**

| | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション、リコンディショニング概説**<br>授業内容、スケジュールなどを説明し、リコンディショニングについて概説する。 | リコンディショニングの概要をまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **リコンディショニングの考え方**<br>リコンディショニングの総論を学習する。 | 総論のポイントをまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **リコンディショニングで用いる代表的な手法（筋力）**<br>リコンディショニングにおける筋力トレーニングの段階的プログラミングを学習する。 | 筋力の評価方法をまとめる。 | 1時間 |
| 第4回 | **リコンディショニングで用いる代表的な手法（関節可動域・柔軟性）**<br>リコンディショニングにおける関節可動域および柔軟性の獲得について学習する。 | 主要な関節の可動域について、図式化し影響を与えうる筋のタイトネスについてまとめる。 | 1時間 |
| 第5回 | **リコンディショニングで用いる代表的な手法（バランス機能）**<br>リコンディショニングにおけるバランスおよび協調性トレーニングの段階的プログラミングを学習する。 | 運動の調整とトレーニング方法をまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **リコンディショニングで用いる代表的な手法（インソール、プレース）**<br>リコンディショニングにおけるインソールやブレースの使用目的および種類と特徴について学習する。 | インソールやブレースについて要点をまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **物理的刺激によるアプローチ**<br>リコンディショニングにおいて物理的刺激を活用することに関する考え方と基礎知識を学習する。 | 代表的な物理的刺激の手法についてまとめる | 1時間 |
| 第8回 | **徒手的アプローチ**<br>徒手的アプローチのリコンディショニングへの応用について学習する。 | 代表的な徒手的アプローチの種類と生体への作用についてまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **スポーツ外傷・障害後のコンディション不良に対する評価とリコンディショニング**<br>スポーツ外傷・障害後のコンディション不良に対する評価とリコンディショニングを理解し、プログラミングができるように学習する。 | 代表的なスポーツ傷害後のコンディション不良に対する評価とリコンディショニングをまとめる | 1時間 |
| 第10回 | **スポーツ動作の繰り返しによるコンディション不良に対する評価とリコンディショニング**<br>スポーツ動作の繰り返しによるコンディション不良に対する評価とリコンディショニングを理解し、プログラミングができるように学習する。 | 代表的なスポーツ動作の繰り返しによるコンディション不良に対する評価とリコンディショニングをまとめる。 | 1時間 |
| 第11回 | **関節別アプローチを踏まえた評価の視点**<br>関節別アプローチを踏まえた評価の視点を理解し、プログラミングができるように学習する。 | 関節別アプローチを踏まえた評価とリコンディショニングをまとめる。 | 1時間 |
| 第12回 | **リコンディショニングに必要な組織修復、治癒過程**<br>リコンディショニングに必要な骨・軟骨、靭帯、筋・筋膜・腱、半月板、神経組織の修復と治癒過程を学習する。 | 代表的なスポーツ外傷で損傷をうける組織の修復と治癒過程をまとめる。 | 1時間 |
| 第13回 | **コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応（筋力、関節可動域、柔軟性）**<br>コンディション不良に関係する筋力、関節可動域、柔軟性の問題への評価と対応を学習する。 | 代表例のリコンディショニングをまとめる。 | 1時間 |
| 第14回 | **コンディション不良に関係する各種問題への評価と対応（バランス機能、姿勢、アライメント）**<br>コンディション不良に関係するバランス機能、姿勢、アライメントの問題への評価と対応を学習する。 | 代表例のリコンディショニングをまとめる。 | 1時間 |

SP-5006-3-2

| 授業科目名 | アスレティックトレーニング実習Ⅱ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 小松　猛・武内　孝祐 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | （小松）スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場での医療従事者の実践経験を講義内容に結びつけている。（武内）現役のアスレティックトレーナーそして理学療法士として、スポーツ現場での実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

運動器に正確な計測方法を講義で学び、実際に計測しながら測定手技についても理解を深める。さらに、スポーツ外傷・障害の予防対策の基礎データとしてのアライメントチェックのポイントなど、メディカルチェックを行う際に必要とされる具体的なの方法を学ぶと共に、スポーツ外傷・障害の初期評価やリハビリテーション中の運動器の評価について理解を深め、自身のスポーツ活動や活動支援（トレーナーなど）に必要な具体的な身体開発手法を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 身体計測、スポーツ傷害別で必要とされる徒手検査など整形外科的評価を学ぶ | 学んだ知識と技能を、実際にアスレティックトレーナーとしてスポーツ現場で生かすことができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 症例定時に対し、どのスポーツ外傷・障害を疑いどのような評価が必要か、実技を通して学ぶ | アスレティックトレーナーとして、スポーツ現場で対応できる思考と判断ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 実習試験 | 70 % | ： アスレティックトレーナーとして必要とされる評価と対処方法に関して、与えられたテーマを実践する。その内容を評価する。 |
| 実習内容に関するレポート | 20 % | ： 実習を通して学んだ評価や対策について、十分理解したと言える内容であるかを評価する。 |
| 授業内課題 | 10 % | ： 授業で学んだ代表的なスポーツ障害の病態と評価方法に関して、課題の記述内容を評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 片寄正樹（編集） | ・公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③ | ・文光堂 | ・2011　年 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツ外傷・障害の基礎知識 | | |
| ・ | 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤ 検査・測定と評価 | ・ 文光堂 | ・ 2011 年 |

**参考文献等**

●整形外科・スポーツ傷害診察ハンドブック　別府諸兄（監訳）　（NAP limited）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

4月に実習に向けた総論的な講義を行い、9月に集中講義形式にて実践を伴う実習を行う。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびアスレティックトレーナーが必要な知識・手技について**<br>講義　アスレティックトレーナー実習Ⅱの目的と範囲について、実際のスポーツ現場でのメディカルサポート内容について学ぶ。 | トレーナーに必要な知識と仕事内容について、自分でも情報を収集しながら復習をする | 1時間 |
| 第2回 | **整形外科系メディカルチェックの基礎知識（身体計測方法と評価について）**<br>講義<br>具体的な身体計測の方法を理解する。例として、四肢の長さ、太さの計測、四肢アライメント計測。そして、その計測の記録方法なども学ぶ。<br>特に、筋力の評価（MMT）、関節可動域（ROM)については集中講義で実践してもらうため、各筋肉、各関節ごとに理解する。 | 身体計測のポイントを教科書などで確認しながら理解を深める | 1時間 |
| 第3回 | **整形外科系メディカルチェックのために必要な解剖について**<br>講義<br>身体各部の機能と障害の評価に必要な体幹（頚椎、胸椎、腰椎）、上肢、下肢それぞれの解剖について学ぶ。 | 解剖を改めて復習し、計測方法を再確認する | 1時間 |
| 第4回 | **関節可動域測定**<br>講義で学んだ関節可動域の測定方法について、具体的な計測に関する注意点について知る。角度計を用いて、実際にどの部分を計測しなければいけないかという具体的な解剖学的な指標を知る。 | 関節可動域測定のために必要な解剖、関節機能について復習する | 1時間 |
| 第5回 | **計測と評価について**<br>アスレティックトレーナーが実際にスポーツ現場で行っている計測と評価について、実例を紹介しながら学ぶ。 | 様々な徒手検査の方法と意義を理解し、自分でも情報を収集する | 1時間 |
| 第6回 | **筋力測定と形態計測**<br>徒手や機器を用いた筋力測定方法について学び、講義で学んだ人体の四肢・体幹のアライメントなどの見方を具体的に学ぶ。実際の身体計測がスムーズに行えるように理解を深める。 | 徒手筋力テストを再確認すること、異常なアライメントとはどういうものかを授業内容、著書などで情報収集する | 1時間 |
| 第7回 | **代表的な膝スポーツ外傷・障害の病態、評価と検査、リハビリテーション**<br>膝の代表的な外傷である靭帯損傷を中心に、その病態と必要な評価方法、そして具体的なリハビリテーションについて学ぶ。 | 膝関節の解剖と機能を復習する | 1時間 |
| 第8回 | **代表的な足関節・肩のスポーツ外傷・障害の病態、評価と検査、リハビリテーション**<br>足関節捻挫、肩関節脱臼膝を中心に、その病態と必要な評価方法、そして具体的なリハビリテーションについて学ぶ。 | 足関節と肩関節の解剖および機能を復習する | 1時間 |
| 第9回 | **種々のスポーツ障害の病態、評価と検査**<br>第7，8回で学んだ以外のスポーツ外傷や障害に関する評価方法と病態について学ぶ。 | 全般的な整形外科的評価方法について実践できるように再確認する | 1時間 |
| 第10回 | **症例について考える**<br>訴える症状などからどのような障害を考えるか、そのために必要な評価は何か、といったことを考えていく。スポーツ外傷・障害の特徴についても復習する。 | 様々な症状から考えられる外傷・障害について再確認する | 1時間 |
| 第11回 | **実習　計測と評価（頚部・体幹）**<br>頚椎および体幹の機能と障害の評価を学ぶ。そして、いままで学習した測定手技を用いて実践し、その測定結果について評価する。 | 頚椎および体幹の評価方法とスポーツ傷害について復習する | 1時間 |
| 第12回 | **実習　計測と評価（上肢・下肢）**<br>これまで学習した測定方法を用いて、上肢および下肢の機能と障害の評価する。お互いの身体を測定して機能異常の有無をチェックする。 | 上肢および下肢のスポーツ傷害で見られる身体特性を、授業内容や著書などを用いて復習する | 1時間 |
| 第13回 | **実習　実技発表（計測方法）** | 自分に与えられた課題についての正しい評価方法を再確認する | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 各個人に与えられた課題についてどのような測定手技を用いて評価するのか実技発表する。 | | |
| 第14回 | **実習　実技発表（傷害別の評価）**<br><br>各個人にそれぞれ与えられた異なる傷害に関するテーマについて、どのような評価方法を用いて行うべきか実技発表する。 | テーマに与えられたスポーツ傷害全体に関すること、その評価方法について復習する | 1時間 |

SP-5007-2-2

| 授業科目名 | 保健体育科教育法Ⅰ（体育） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 大西　祐司 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校体育専科講師として勤務し、小学校1年生から6年生までの全領域の体育授業を担当した経験を踏まえ、授業の計画、実践、評価について教授する。 | | | | |

**授業概要**

これまで受けてきた体育授業の経験（被授業経験）を出発点にして、「体育授業を学ぶ」視点に転換し、よい体育授業とは何かについて考える。体育科の基本的性格や歴史的な変遷、制度的条件について学ぶとともに、学習指導要領に基づいて教科目標や学習内容、学習評価などについて学ぶ。理論的な内容を踏まえた上で、体育授業の実践を見通し、年間指導計画の構想や単元計画及び授業計画（学習指導案）の立て方を理解し、実際に指導案を作成する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 体育科の基本的性格、歴史的な変遷、制度的条件 | 体育科教育学の理論的な背景を理解する。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 指導案の基本と立て方 | 指導計画を作成できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎回の課題（1～11回） | 44 % | ： 講義内容について、正しく理解できているか（4点×11回=44点）。 |
| 毎回の課題（12～14回） | 11 % | ： 指導案が正しく作成できているか（11点）。 |
| 期末試験 | 45 % | ： 体育科教育学に関する専門的知識、保健体育科の学習指導要領に関する知識が十分に修得できているか（45点）。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 文部科学省 | ・中学校学習指導要領解説 保健体育編 | ・東山書房 | ・2017　年 |
| 文部科学省 | ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 | ・東山書房 | ・2018　年 |

**参考文献等**

教科書に加え、適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

授業終盤から行われる学習指導案の作成では，各自がPCを持ち込んで課題に取り組みます。

2年次の早い段階から教職に対する使命感や学習意欲を持って授業に臨んでください。本講座を2年次に単位修得済みでないと、4年次に教育実習に行くことができません。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 月曜日２限

**場所：** 大西研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **保健体育科の基本的性格**<br>体育科教育学を学ぶことの意義を理解する。 | 被授業経験を振り返る。 | 4時間 |
| 第2回 | **保健体育科の歴史的変遷**<br>体育科の歴史（目標の変遷）を理解する。 | 楽しい体育について調べてくる。 | 4時間 |
| 第3回 | **保健体育科に関わる制度的条件**<br>学校や授業を取り巻く制度を理解する。 | 教育基本法、学校教育法について調べてくる。 | 4時間 |
| 第4回 | **保健体育教師の役割と期待**<br>保健体育科で求められる教師像について考える。 | 保健体育科の教師の特徴を書き出してくる。 | 4時間 |
| 第5回 | **学習指導要領の性格と読み方**<br>学習指導要領の位置付けと性格、その読み取り方を知る。 | 学習指導要領の総則「改訂の経緯及び基本方針」を読んでくる。 | 4時間 |
| 第6回 | **保健体育科の目標と学習内容**<br>学習指導要領に記された目標と指導内容を知る。 | 自分の専門種目に関する学習指導要領の記載内容を確認してくる。 | 4時間 |
| 第7回 | **保健体育科における学習評価**<br>単元の評価規準と各授業における観点別評価規準及び基準を理解する。 | 国立教育政策研究所が示している評価規準に関する資料を読んでくる。 | 4時間 |
| 第8回 | **保健体育における教材観**<br>体育授業における教材と教材観について知る。 | これまでの体育授業の経験から教材に該当するものをまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **保健体育科における指導観**<br>体育授業における指導観と生徒観について知る。 | 高校までの自分や自分のクラスの特徴を考えてくる。 | 4時間 |
| 第10回 | **体つくり運動の理論と実際**<br>体つくり運動の授業づくりについて考える。 | 体つくり運動に関する学習指導要領の記載内容を読んでくる。 | 4時間 |
| 第11回 | **体育理論の理論と実際**<br>体育理論の授業づくりについて考える。 | 体育理論に関する学習指導要領の記載内容を読んでくる。 | 4時間 |
| 第12回 | **指導計画の立て方**<br>単元計画、授業計画の重要性と立て方について知る。 | 書籍や論文から指導案を探し、読んでくる。 | 4時間 |
| 第13回 | **指導計画の作成**<br>学習指導案の作成を行う。 | 担当する領域・種目の学習指導要領の記載内容を読んでくる。 | 4時間 |
| 第14回 | **指導計画の修正**<br>単元計画、学習指導案の修正を行う。 | 指導案の修正に必要となる資料を集めてくる。 | 4時間 |

SP-5008-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **保健体育科教育法Ⅱ(保健)** | | | | |
| 担当教員名 | 股村・川合 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 川合英之：高等学校教員(17年)、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

学習指導要領に基づき、教育課程における保健の位置づけや今日的課題について理解するとともに、児童生徒の①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力、人間性等を育むための主体的・対話的で深い学びについて理解する。
理論的な内容を踏まえた上で、小学校・中学校・高等学校の保健の授業の実践を見通し、年間指導計画の構想や単元計画及び授業計画（学習指導案）の立て方を理解し、実際に指導案を作成する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 各校種の学習指導健康の保持増進の重要性を理解し、自身の生活習慣を見直し改善する意欲を持つこと。健康課題に興味を示し、主体的に情報収集や行動に取り組む姿勢を示すこと。 | 学生が保健分野におけるスポーツや身体活動の意義を理解し、健康増進を目的として積極的に取り組む姿勢を示しているかを評価する。授業内外での積極的な実践や興味関心の深さを重視する。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 疾病予防、栄養、ストレス管理、性教育、応急処置など、健康に関する科学的知識を正確に理解すること。それを日常生活や学習活動で実践し、他者にも伝えられる技能を身につけること。 | 健康管理や保健に関連する知識（生活習慣病の予防、栄養、応急処置など）を正しく理解し、適切に活用できるかを評価する。さらに、関連するスキルを的確に習得し、日常生活や指導場面で応用できることを基準とする。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 健康問題や社会的課題（例：生活習慣病や感染症予防、心の健康）について、情報を批判的に考察し、正しい判断を下す力を養う。適切なデータや事例を基に自分の考えを論理的に他者に伝える力を身につけること。 | 健康課題や保健指導に関して論理的に考え、科学的根拠やデータを基に適切な判断を下しているかを評価する。他者にわかりやすく伝える表現力や、保健指導に必要なコミュニケーション能力も重視する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の授業内の小レポート | 70 % | ：・各回１～5点で評価し合計70点満点とする。<br>・授業内容を踏まえた論述ができていれば3又は4点、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば5点、誤りや不足があれば2点。重大な誤りや不足があれば１点。 |
| 指導案の作成 | 30 % | ：・指導案が適切に作成され、それに基づき授業ができている。<br>大変よくできている30～25点、ある程度できている25～15点、できていない15点以下 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

保健科教育学会編「保健科教育法入門」大修館書店、2017年
森良一編著「中学校・高等学校保健科教育法」東洋館出版社、2016年
そのほか、書籍だけでなく映画やホームページなど参考文献を適宜指定するので参考にすること。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業に際しては、PC等を持参し授業内容の共有を図る。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　股村（木曜2限）・川合（火曜2限）

**場所**：　股村（研究棟B218）・川合（研究棟B308）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **保健科教育科が行われる場の理解：学校って必要？**<br>教育課程における保健授業の位置づけ、保健授業における今日的課題について理解する。<br>今日の健康問題と関連させた保健授業の重要性について理解する。 | 保健の授業をめぐる今日的課題について整理してまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **保健科教育の対象の理解：児童生徒の抱える現代的課題①**<br>保健指導上、配慮が必要となる児童生徒の事例について俯瞰し、理解を深める。具体的には体格（肥満／やせ）、学齢期の好発疾患であるむし歯（う歯）、眼科的所見の近視について理解する。 | どのような対応が可能か、調べて整理しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **保健科授業の対象の理解：児童生徒の抱える現代的課題②**<br>保健指導上、配慮が必要となる児童生徒の事例について俯瞰し、理解を深める。具体的には、眼科的所見であるコンタクトレンズや色覚バリアフリー、起立性調節障害、アレルギー疾患について理解する。 | どのような対応が可能か、調べて整理しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **保健科教育の歴史：なぜ「保健」「体育」なのか**<br>なぜ「保健」「体育」の合同教科なのか、戦前・戦中・戦後の歴史を俯瞰し理解を深める。 | 「保健」と「体育」の関連について理解を深めておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **保健科教育の担当者：保健体育科教諭と養護教諭と保健主事**<br>保健科教育の担当者に求められる役割と課題について理解を深める。 | 保健体育科教諭と養護教諭の教員免許取得課程について調べておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **アクティブラーニング①：ティーチングピラミッドとグループワーク**<br>アクティブラーニングの手法として、バズセッションを実際に体験し、活用できるようになる。 | どのようなテーマでバスセッションができるか、発展的に考えておく | 4時間 |
| 第7回 | **アクティブラーニング②：ジグソー法と熟達者への道**<br>アクティブラーニングの手法としてジグソー法を実際に体験し、活用できるようになる。 | どのようなテーマでジグソー法ができるか、発展的に考えておく | 4時間 |
| 第8回 | **保健学習における主体的・対話的で深い学び**<br>児童生徒の①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③学びに向かう力、人間性等を育むための主体的・対話的で深い学びについて理解する。 | 「主体的・対話的で深いまなび」の授業実践例を調べておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **中学校保健体育科「保健分野」・高等学校「科目保健」の指導計画と評価**<br>学習指導要領に基づく指導計画の作成と評価について理解する。 | 学習指導要領の指導計画と評価について調べておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **学習指導案作成の実際**<br>保健授業の学習指導案の作成方法について理解する。 | 学習指導案の実践例を調べておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **中学校の保健「健康な生活と疾病の予防」「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業実践**<br>「健康な生活と疾病の予防」「心身の機能の発達と心の健康」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。 | 中学校の保健「健康な生活と疾病の予防」「心身の機能の発達と心の健康」の教科書の内容を調べておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **中学校の保健「傷害の防止」「健康と環境」の模擬授業実践**<br>「傷害の防止」「健康と環境」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。 | 中学校の保健「傷害の防止」「健康と環境」の教科書の内容を調べておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **高等学校の保健「現代社会と健康」「安全な社会生活」の模擬授業実践**<br>「現代社会と健康」「安全な社会生活」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。 | 高等学校の保健「現代社会と健康」「安全な社会生活」の教科書の内容を調べておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **高等学校の保健「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の模擬授業実践**<br>「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の単元においてグループで考えた模擬授業を行う。 | 高等学校の保健「生涯を通じる健康」「健康を支える環境づくり」の教科書の内容を調べておく。 | 4時間 |

SP-5009-3-2

| 授業科目名 | 教材研究Ⅰ（体育） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 大西　祐司 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校体育専科講師として勤務し、小学校1年生から6年生までの全領域の体育授業を担当した経験を踏まえ、教材及び指導法について教授する。 | | | | |

**授業概要**

よい体育授業の実現に向けては、教材づくりがその中心的課題となる。本講座では、体育授業における教材研究の意義と方法について学び、各運動領域・種目の運動特性に触れながら、教材づくりの基本的視点（内容的視点、方法的視点）を理解する。学習指導要領に示されている各領域の目標及び指導内容を確認し、典型教材の理解を深める。また、教材に関わる教具の開発や工夫、教師の働きかけの重要性についても学ぶ。典型教材を踏まえ、個人またはペア、グループで協議しながらよりよい教材の創出に努める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 体育授業における教材の位置付け | 教材研究の意義と方法を理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 典型教材への理解 | さまざまな典型教材について理解することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎回の小レポート | 70　% | ：　授業内で扱われた理論や典型教材の紹介を踏まえて、課題に対して適切に論述しているか70点満点で評価する（5点×14回=70点）。 |
| まとめのレポート | 30　% | ：　14回の授業を通して学んだことをもとに、新たな教材提案の試みを30点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

岩田靖（2012）体育の教材を創る－運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて－（大修館書店）
文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説　保健体育編　（東山書房）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

講義だけでなく、教室内でできる実技を通してさまざまな典型教材に触れます。それらの典型教材を踏まえて、ペアやグループで教材の検討を行います。教育実習前に子どもを誘い込む教材について学びたい人は是非受講してください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　大西研究室（B206）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **教材研究の意義と方法**<br>授業の進め方と成績評価について知る。<br>教材研究の意義と方法を理解する。 | これまで経験したよい教材について振り返っておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **教材づくりの基本的視点（内容的視点）**<br>教材づくりの内容的視点について理解する。<br>学習指導要領の指導内容と教材の関係性を理解する。 | 学習指導要領の内容領域ついて調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **教材づくりの基本的視点（方法的視点）**<br>教材づくりの方法的視点について理解する。<br>学習指導要領の目標と教材の関係性を理解する。 | 球技（ゴール型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **「球技（ゴール型）」の教材**<br>「球技（ゴール型）」領域の教材について、理論と具体例を理解する。 | 球技（ネット型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **「球技（ネット型）」の教材**<br>「球技（ネット型）」領域の教材について、理論と具体例を理解する。 | 球技（ベースボール型）の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **「球技（ベースボール型））」の教材**<br>「球技（ベースボール型）」領域の教材について、理論と具体例を理解する。 | 体つくり運動の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **「体つくり運動」の教材**<br>「体つくり運動」領域の教材について、導入背景と具体例を理解する。 | 体育理論の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **体育理論の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。**<br>「体育理論」領域の教材について、導入背景と具体例を理解する。 | 武道、ダンスの教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **「武道」「ダンス」の教材**<br>「武道」領域の教材について、理論と具体例を理解する。<br>「ダンス」領域の教材について、理論と具体例を理解する。 | 器械運動の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **「器械運動」の教材**<br>「器械運動」領域の教材について、理論と具体例を理解する。 | 陸上競技の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **「陸上競技」の教材**<br>「陸上競技」領域の教材について、理論と具体例を理解する。 | 水泳の教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **「水泳」の教材**<br>「水泳」領域の教材について、理論と具体例を理解する。 | 中学校で実施されている教材や指導法の工夫について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **学校現場に学ぶ中学校の教材研究**<br>中学校で行われている教材研究の実際について理解する。 | 教材づくりの基本的視点でこれまでの教材を整理する。 | 4時間 |
| 第14回 | **教材案の検討と改善**<br>グループに分かれて、指定した運動領域・体育理論の教材案について検討する。 | グループで改善した教材案を完成させる | 4時間 |

SP-5010-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教材研究Ⅱ（保健）** | | | | |
| 担当教員名 | 股村・川合 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

保健の授業を実施するための基礎的力量を養うために、学習指導要領に基づく保健学習のねらい、内容、方法などについて学ぶとともに、教材づくりや授業づくりの学修を通して、効果的な保健授業の展開について具体的に検討する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 健康の維持・増進に関心を持ち、自分自身の生活習慣を見直し、改善しようとする意欲を評価する。また、健康課題に積極的に向き合い、家族や地域社会の健康づくりに貢献しようとする姿勢も重視する。 | スポーツに対する興味や参加意欲を持ち、授業内外で積極的に取り組む姿勢が見られる。自主的に学習や活動を継続する姿勢を示せる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 栄養、運動、休養、ストレス管理、疾病予防など、健康に関する基礎知識を理解し、それを生活に応用する能力を評価する。また、応急手当や感染症対策など、実践的な健康管理スキルも求める。総合的には、それらを模擬授業という形で表現することを評価する | 保健学習に関する基本的な知識（身体の仕組み、歴史、社会的活動など）を正確に理解し、それを基に適切な技能を実践できる能力が備わっている。模擬授業を実践する形で評価する。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 自分や他者の健康状態を適切に分析し、課題に対する解決策を考える力を評価する。また、模擬授業の形式として、健康に関する意見や提案を他者に分かりやすく伝え、周囲と協力して行動できる力や表現力も重視する。 | 保健学習の意義や学習効果の健康への影響を論理的に考察し、自らの意見や判断を的確に述べ、他者にわかりやすく伝える力を発揮する。模擬授業を実践する形で評価する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の授業内の小レポート | 56 % | ：・各回１～４点で評価し合計56点満点とする。<br>・授業内容を踏まえた論述ができていれば３点、そこに独自の見解や具体例等が示されていれば４点、重大な誤りや不足があれば１点。 |
| 模擬授業 | 20 % | ：・話し方は適切か（4点）<br>・教具は効果的か（4点）<br>・なにを聞いているのか具体的で理解しやすいか（4点）<br>・説明は内容が容易でイメージしやすいか（4点）合計20点 |
| まとめのレポート | 24 % | ：・授業内で作成した略案を基に指導案を完成させる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編
小学校体育の教科書、中学保健体育の教科書、高等学校保健体育の教科書

**履修上の注意・備考・メッセージ**

様々な教具やICTを含む学習方法を活用した保健の授業展開をめざして、グループで教材の工夫や検討を行いながら授業づくりを考える。中学校や高等学校だけでなく小学校での授業も視野に入れる。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

保健体育科教員を目指すための科目であり、授業の準備、模擬授業・観察、振り返り等と、受講生には授業外においても相当な負荷を与える。明確な目的意識、教師を志望する自覚と責任を持って受講すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜日2限

**場所**：　川合研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **保健授業を実施するに当たって学ぶこととは**<br>授業全体の計画に触れ、保健の授業実践に向けた意識を高める。<br>教育課程における保健の位置づけを理解する。<br>保健の授業を通して、児童生徒に身に着けさせたい能力について理解する。<br>模擬授業や討議を行うグループを決め、授業日程を計画する。 | 小学校・中学校・高校学習指導要領解説体育編、保健体育編「保健」を読んでおく。 | 4時間 |
| 第２回 | **学習指導要領と保健学習**<br>学習指導要領の保健の目標、内容、指導計画の作成及び内容の取り扱い等について学習する。 | 小学校・中学校・高校学習指導要領解説体育編、保健体育編「指導計画の作成と内容の取り扱い」を読んでおく。 | 4時間 |
| 第３回 | **「保健の教科書」教材の検討**<br>小・中・高等学校の保健の教科書の記述を教材という視点から検討し、保健に関する今日的課題、地域特性を踏まえるとともに、児童生徒の実態に応じた学習指導案の構成を検討する。 | 良い指導案の作成について調べておく。 | 4時間 |
| 第４回 | **多様な保健の教材**<br>教材としてのICT活用、発問、文章教材、学習活動、教具の工夫について、具体的な例に基づき学ぶとともに、模擬授業に向け効果的な教材を活用した学習指導案を作成する。 | 身近なICT機材を活用できるようにしておく。 | 4時間 |
| 第５回 | **保健学習における「主体的・対話的で深い学び」**<br>児童生徒の①知識、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等を育むための保健学習について検討する。 | 「主体的・対話的で深い学び」について調べておく。 | 4時間 |
| 第６回 | **保健の模擬授業（中学校）－健康な生活と疾病の予防－とその検討**<br>中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「健康な生活と疾病の予防」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 中学生を対象とした「健康な生活と疾病の予防」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第７回 | **保健の模擬授業（中学校）－心身の機能の発達と心の健康－とその検討**<br>中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「心身の機能の発達と心の健康」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 中学生を対象とした「心身の機能の発達と心の健康」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第８回 | **保健の模擬授業（中学校）－傷害の防止－とその検討**<br>中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「傷害の防止」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 中学生を対象とした「傷害の防止」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第９回 | **保健の模擬授業（中学校）－健康と環境－とその検討**<br>中学生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「健康と環境」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 中学生を対象とした「健康と環境」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第10回 | **保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康（喫煙・飲酒・薬物乱用と健康）－とその検討**<br>高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 高校生を対象とした喫煙・飲酒・薬物乱用と健康などの保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第11回 | **保健の模擬授業（高等学校）－現代社会と健康（生活習慣病、感染症）－とその検討**<br><br>高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 高校生を対象とした生活習慣病、感染症などの保健の模擬授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第12回 | **保健の模擬授業（高等学校）－安全な社会生活－とその検討**<br><br>高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「安全な社会生活」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 高校生を対象とした「安全な社会生活」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第13回 | **保健の模擬授業（高等学校）－生涯を通じる健康－とその検討**<br><br>高校生対象を想定して作成した教材・学習指導案に基づき、「生涯を通じる健康」の単元の保健の模擬授業を実施する。模擬授業後に、その授業や教材・学習指導案について評価・検討する。 | 高校生を対象とした「社会生活と健康」の保健授業について、保健教材・授業の工夫を考える。 | 4時間 |
| 第14回 | **模擬授業のリフレクション　まとめ**<br><br>小学生、中学生、高校生を想定した保健の授業づくりを振り返り、教材の工夫や授業行動の改善の在り方について検討する。 | 中学生、高校生対象を想定した保健の授業づくりを振り返り、授業改善の方策を考える。 | 4時間 |

SP-5011-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教育学概論** | | | | |
| 担当教員名 | **松本　圭将** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

誰もが「教育」を受けた経験があるため、誰もが「教育」を知っているように捉えがちである。しかし、教員にとって必要なのは、自らの経験の枠を超えた「教育」を知ることである。本講義では、教育の理念、歴史、思想を学ぶことで、今日の教育や学校教育のあり方についての理解を深めること目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 教育への関心・意欲 | 保健体育科教員になるために教育を学ぼうとする高い関心・意欲を持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 教育の理念・思想の理解 | 教育の理念・思想について、自分なりに整理して述べることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 教育の理念・思想と、実際の教育や学校との関係 | 教育について学んだことを踏まえて、今後のよりよい教育のあり方について考えることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 最終レポート | 50　% | ：　授業終了後、レポート課題を課す。授業内容について、自分で調べた内容を含めて、理解を深め、自分なりの考えを確立できているかという観点から評価する。 |
| 授業中の課題 | 50　% | ：　授業の最後に記入する小レポートなどの課題について、授業の内容に沿って課題にきちんと答えられているかどうかという観点から評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 勝野正章・庄井良信編著 | ・問いからはじめる教育学 改訂版 | ・有斐閣 | ・2022　年 |

**参考文献等**

汐見稔幸・伊東毅・高田文子・東宏行・増田修治編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。
安彦忠彦・児島邦宏・藤井千春・田中博之編著『新版　よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房、2020年。
三輪定宣『教育学概論　第二版』学文社、2019年。
中村高康・松岡亮二編著『現場で使える教育社会学教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房、2021年。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本講義は、教職免許状科目を兼ねていることから、教員として求められる教育学に関する知識・態度を涵養しようとするモチベーションの高い学生を対象として講義を行う。したがって、教職志望でない学生については、そうした意欲の高い学生と同等の姿勢で臨むことが求めれられる。その覚悟のない学生は履修を控えること。
なお、教職志望かどうかを問わず、そうした意欲的な学生の学修の妨げとなるような行為を行う学生は退室を命じる。くれぐれもそのつもりで履修すること。

受講生の理解度などを考慮して授業計画を変更することがあるので、授業内での指示をよく聞くこと。

毎回の授業にはPCを持参すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス／教育って何？**<br>授業の進め方や評価の方法について説明する。この授業の導入として、教育について受講生が持つ知識やイメージを共有する。 | 「教育」と聞いてイメージすることを考えておく | 4時間 |
| 第2回 | **よい教育ってどんな教育？**<br>よい教育とはどのようなものか、それが誰にとってどのように良い教育なのか。先人の考えを知ることで理解や考えを深める。 | （予習）教科書第1章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第3回 | **教育を社会の視点から考えてみよう**<br>教育は個人にとって意味のあるものであるだけでなく、社会にとっても意味のあるものであることを知り、多様な教育の捉え方について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第2章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第4回 | **子どもという存在／人間という存在**<br>子供観の変容を知ることで、子供や人間の捉え方が教育の在り方にどのように影響を与えてきたのか理解や考えを深める。 | （予習）教科書第3章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第5回 | **教え方は試行錯誤されてきた――教育方法の歴史**<br>教え方の歴史を学ぶことで、教え方と教育観の対応関係について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第4章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第6回 | **教育を受ける権利**<br>教育を受けることが当たり前になっていった歴史を知り、公教育の在り方について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第5章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第7回 | **子どもの学びを支える仕組み**<br>学びを支える仕組みを知り、公教育を支える制度の意義や課題について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第6章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第8回 | **前半のまとめ**<br>ワークを通じて、授業の前半に学んできた内容を振り返る。 | ワークに向けて準備をする。 | 4時間 |
| 第9回 | **子どものための学校ってどんな学校？**<br>学校の歴史を通じて、学校の在り方について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第7章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第10回 | **学校では何を学ぶの？**<br>学校で学ぶ内容がどのように決められているのかを学び、学校で学ぶ内容について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第8章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第11回 | **よい先生ってどんな先生？**<br>あるべき教師の姿について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第9章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第12回 | **どんなふうに子どもに接すればよいのか？**<br>子供の抱える課題について理解や考えを深める。 | （予習）教科書第10章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第13回 | **学校を卒業したら学ばなくてもよいのか？**<br>学校以外での学びの在り方について知り、人間の学びのなかでの学校教育の位置づけについて理解や考えを深める。 | （予習）教科書第12章を読み、疑問に思ったことをまとめておく／（復習）授業中に紹介した思想などを自分の言葉で整理する | 4時間 |
| 第14回 | **教育と学校の未来はどうなるの？**<br>今まで学んできたことを踏まえて、教育と学校の未来について自分の考えを深める。 | これまでの授業で学習した事項を振り返る。最終レポートを作成する。 | 4時間 |

SP-5012-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教職入門** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤・山手** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 黒澤寛己　高等学校教諭・生徒指導主事として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（7回）<br>山手隆文　小学校教諭・副校長として勤務した実戦経験を講義内容に結びつけている。（7回） | | | | |

**授業概要**

教員を目指す学生にとって最初に受講する入門科目である。具体的な講義内容は教員の役割、教員の職務内容、児童生徒への指導に関する内容となっている。教員に必要な知識や理論、実際の指導方法について学ぶ。また、様々な教育課題について各自が調査し、課題を作成することで教師にとって必要な知識や技能の定着を図る。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教員に必要な知識・技能などの能力 | 教員に必要な知識・技能などの能力を身に付ける。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 教員としての役割、自覚、責任感 | 教員として果たすべき役割、自覚、責任感を身に付ける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

成績評価については、毎時の教職に関する課題レポート、講義中に実施する確認テスト、期末テストにより
総合的に評価する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎時の課題レポート | 50 % | ： ワークブックの「教職に関するワークシート」「教職時事問題に関するレポート課題」 |
| 期末テスト | 50 % | ： 教員となるために必要な「教職」全般に関する基礎知識について出題し、評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 友添秀則・衛藤隆他24名 | ・ 最新中学校保健体育 | ・ 大修館書店 | ・ 2020 年 |

**参考文献等**

勝野正章・庄井良信(2015)『問いからはじめる教育学』有斐閣

**履修上の注意・備考・メッセージ**

受講者は、将来「教職」に就くという強い意思を持って履修すること。

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

また、毎時の学修課題以外に、各自で「教職」に関する資料を収集して知識習得に励むこと。
本授業では「教職入門ワークブック」を使用するので、必ず購入すること。購入方法については、別途指示する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 黒澤寛己研究室（研究棟3階）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **「教職」とは何か？**<br>「教職」に就くことの意味・意義とは何か、考察を加える。 | 「 教職」に就くことの意味・意義について、自分の考えを整理する。 | 4時間 |
| 第2回 | **教育の役割とは何か？**<br>教員に求められる職務の内容を理解し、その役割について考察を加える。 | 教員に求められる役割とは何か、整理する。 | 4時間 |
| 第3回 | **教員に求められる職務の現状と学習指導要領**<br>教員に求められる役割が多様化しつつある現状について、考察を加える。<br>学習指導要領の内容について、考察を加える。 | 教員に求められる役割がなぜ多様化しつつあるのか、その理由について考察を加える。 | 4時間 |
| 第4回 | **教員養成制度の現状とキャリアの選択**<br>教員養成制度の基本的枠組みを学んだうえで、「教職」に就くための今後の課題について各自で考察を行う。 | 「 教職」に就くために、今後、身に付けるべきことを整理する。 | 4時間 |
| 第5回 | **教員採用制度の現状**<br>教員採用制度とその実態について分析する。 | 各自が受験する都道府県で求める教師像を調べ、身に付けるべき資質・能力について整理する。 | 4時間 |
| 第6回 | **教員採用制度の課題**<br>教職に付くということが困難になっている状況を確認したうえで、非正規の教員が増加することに伴う課題を考察する。 | 非正規の教師が増えることに伴う課題について、講義の復習を合わせて意見を整理する。 | 4時間 |
| 第7回 | **教員研修制度の現状と教員免許更新制**<br>教員研修の種類・体系、法制度および教員免許更新制の現状について、整理する。 | 教員研修制度の現状および教員免許更新制の概要について整理する。 | 4時間 |
| 第8回 | **教職の意義、教員の役割**<br>ここまでの講義で扱った教職の意義や教員の役割について、再度確認を行う。<br>各自の理想的な教員像について、項目を整理する。 | これまでの講義で扱った項目について、整理する。 | 4時間 |
| 第9回 | **教員の服務規程と身分保障**<br>教員が守らなければならない服務規程と、その身分保障の実態について、考察する。 | 教員の服務規程と身分保障について、関連する法規の内容をまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **教員の専門性とその発達**<br>教員に求められる専門性とは何か、その発達を促すためには何が重要となるのか、考察を加える。 | 教員に求められる専門性について、考察を加える。 | 4時間 |
| 第11回 | **新たな教育課題への対応と教員の専門性**<br>新たな教育課題に対応するうえで、教員にはどのような専門性が求められるのか、特別支援教育の導入を事例として、検討を加える。 | 新たな教育課題に対応するために、教員には何が求められているかをまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **福祉的な課題への対応と教員の専門性**<br>「子どもの貧困」をはじめとする福祉的な課題に対応するために、教員にはどのような専門性が求められるのか、検討を加える。 | 福祉的な課題に対応するために、教員には何が求められているかをまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **「組織としての学校」と教員に求められる役割**<br>学校組織の一員として教員が果たすべき役割について、考察を加える。 | 日本の学校組織が持つ特徴について、まとめておくこと。 | 4時間 |
| 第14回 | **日本の教員文化**<br>日本の教員文化にはどのような特徴があるのか、検討を行う。 | 日本の教員文化の特質について、まとめておくこと。 | 4時間 |

SP-5013-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教師論** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤寛己・山手隆文** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 黒澤寛己　高等学校教諭・生徒指導主事として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。(7回)<br>山手隆文　小学校教諭・副校長として勤務した実戦経験を講義内容に結びつけている。（7回） | | | | |

**授業概要**

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容などを学ぶ。そして、それらの学修内容をもとに、教師の日常世界、教師の専門性と力量、学校づくりと学校経営などの内容を学び、さらに、学校現場で教師が実際に対応する様々な問題について、事例研究（ケースメソッド）を通じて具体的な理論や指導方法を身に付ける。さらに、現職教員へのインタビューを実施し、その内容を発表する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教師としての責任感と自覚。教育問題に対する知識と指導方法 | 教師としての責任感と自覚を身に付け、学校現場で直面する教育問題への指導方法を身に付ける。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 優れた教師の実践・事例研究 | 優れた教師の実践・事例研究を通じて、自身の教育理念を作成することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎時の取り組みと課題 | 70　% | ：　講義内で学習した概念や理論を基に、独自の視点で課題に対する論述が行われているかを評価する。 |
| 事例研究発表 | 30　% | ：　各自が調査してきた内容と考察について評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜、資料を配付します。

横山勝彦・来田宣幸・黒澤寛己他「ライフスキル教育-スポーツを通して伝える「生きる力」」昭和堂
小笹大道「教師道を磨く「二人の師」から学んだ思いと実践」PHP研究所

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習して下さい。なお、授業の後半には、現職教員（恩師など）へ各自がインタビュー調査を実施します。

将来、教師になるという強い意志を持って取り組んで下さい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 黒澤寛己研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **教師になることの意味**<br>教師論で学ぶ内容を理解する。<br>教師になることの意味を考える。<br>教員の資質とは何かを考察する。 | 教師に求められる力量について調べてまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **現職教師の現状**<br>現職教師の現状を理解する。<br>教育現場の課題について理解する。 | 大学における教員養成について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **教員養成教育のカリキュラムの基本枠組み**<br>教員養成カリキュラムの基本的枠組みを理解する。 | 教員養成教育の概略と現状の問題点を検討しまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **教師像の変遷と教師論**<br>教師像の変遷について理解する。 | 教師像を示す典型的な書物を一冊読み、感想文を書く | 4時間 |
| 第5回 | **教員養成制度**<br>現行制度化の教員養成について理解する。<br>改訂された教員養成カリキュラム・教員養成制度について理解する。<br>教育実習の位置づけと内容について理解する。 | 現行の教員養成制度について理解する。 | 4時間 |
| 第6回 | **教員採用制度**<br>選考としての教員採用制度のその実態を理解する。 | 各自が受験する都道府県が求める教師像を調べ、自分に不足している力を検討する | 4時間 |
| 第7回 | **教員研修の意義と制度**<br>教員研修の意義と法制度について理解する。<br>教員研修の種類と体系について理解する。<br>初任者研修制度について理解する。<br>教員免許更新講習制度について理解する。 | 教員研修制度の実態を調べてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **学校における教職員の多様化と協働**<br>学校における教職員の多様化と協働について理解する。<br>事例研究（生徒指導） | 学校における教員の仕事について調べてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **教師の職務**<br>教師の職務の多面性について理解する。<br>事例研究（学級担任・学級経営） | 公務員としての教師の仕事を調べてまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **教師の日常世界**<br>教師のキャリアプロセスについて理解する。<br>事例研究（進路指導） | 教師の日常的業務の多様性について調べてまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **教師の葛藤と発達**<br>教師の葛藤、成長・発達とは何かを理解する。<br>教師の発達と学校組織としての取り組みを理解する。<br>事例研究（主任業務） | 教師のキャリアプロセスについて調べてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **教師の専門性と力量①**<br>教師の資質、専門性を理解する。<br>事例研究（授業実践） | 教師の専門性について調べてまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **教師の専門性と力量②**<br>教育実践の協働と専門性の変容について理解する。<br>事例研究（部活動指導） | 体育教師の専門性と求められる力量について調べてまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **学校経営**<br>学校経営の変化について理解する。<br>事例研究（教育目標） | 担任業務や管理職の業務について調べてまとめる | 4時間 |

SP-5014-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教育制度論** | | | | |
| 担当教員名 | **松本　圭将** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

教育といえば「どう教えるか？」といった「教師と子供の関係」に注目するだろう。しかし、学校教育などの公教育においては教育制度に基づいた教育が展開されているのであり、教室での教育実践の「背景」としての教育制度やその意義への理解を深めることが教員には求められる。本講義では特に教員採用試験でも頻出の教育法規に基づいて、教育制度の理解を深めていく。
小テストなどを通して、知識の定着を図る。また授業では、グループワークなどを通じて、学んだ知識を使って考える機会を積極的に設ける。こうした活動を通して、試験対策の条文の丸暗記にとどまらない、教員になった際の皆さんの教育実践を充実させてくれるだろう教育制度の深い理解を目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教育制度・法規の理解 | 授業内で紹介された教育制度・法規の役割を正しく理解することができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 教育制度に関する俯瞰的思考 | 教育制度の理解に基づいて、俯瞰的に教育について考えることができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング、動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 期末試験 | 40　% | ：　授業で扱った教育法規に関する知識の理解と、それに基づいた思考力および表現力を評価する。 |
| 小テスト | 20　% | ：　日々の授業の理解度を、毎回の授業冒頭に行う択一・選択式の小テストの結果で評価する |
| 授業への参加度 | 40　% | ：　授業中に行った課題などについて、科目独自のルーブリックによって評価する |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 高見茂・開沼太郎・宮村裕子編著 | ・教育法規スタートアップ・ネクスト ver.2.0: Crossmedia Edition | ・昭和堂 | ・2023　年 |

**参考文献等**

高見茂監修『必携 教職六法　2026年度版』協同出版、2025年。
髙妻紳二郎編著『新・教育制度論』第2版、ミネルヴァ書房、2023年。

阿内春生編著『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂、2024年。
高見茂・服部憲児編著『教育行政提要（平成版）』協同出版、2016年。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本授業は教員採用試験も視野に知識の習得に重きを置いているため、予習・復習に力を入れてほしい。
また、授業にしっかり臨むことで理解が深まるため、居眠りや学習以外でのスマートフォンの使用、授業と関係のない雑談などは厳禁である。そうした最低限のルールを守れない学生には退出を求める場合もある。自分の将来のため、覚悟を持って授業に臨むこと。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス／教育制度とは何か？**<br>授業の進め方や評価の方法について説明する。この授業の導入として、教育制度に関する知識やイメージを共有・整理する。 | 他の教職の授業で学習した事項で教育制度にかかわる内容がなかったか振り返る。 | 4時間 |
| 第2回 | **教育において何が大切にされているのか？**<br>どのような価値観の下に公教育が展開されているかを学ぶ。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第3回 | **学校教育はどのような仕組みで行われているのか？(1)～総論～**<br>今まで受けてきた学校教育を、教育制度という点から捉えなおす。特に、学校制度全体に関する理論や日本の制度の大枠について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第4回 | **学校教育はどのような仕組みで行われているのか？(2)～各論～**<br>今まで受けてきた学校教育を、教育法規という点から捉えなおす。特に、各学校種の概要や、義務教育のあり方について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第5回 | **国は教育にどのようにかかわっているのか？**<br>国と教育のかかわりについて、法規と近年の政策について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第6回 | **都道府県や市町村は教育にどのようにかかわっているのか？**<br>地方自治体の教育委員会制度とその理念について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第7回 | **学校にはどれぐらいお金がかかっているのか？**<br>学校の設置・運営に関する諸制度と財政制度について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第8回 | **どうやって教育の質を保障しているのか？**<br>教育課程に関する制度について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第9回 | **教員の働き方はどうなっているのか？**<br>教員という仕事や身分などに関する制度ついて理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第10回 | **どのようによりよい教員を育てようとしているのか？**<br>教員の養成・採用・研修に関する制度について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第11回 | **公立と私立の違いは何か？**<br>私立学校に関する制度について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第12回 | **学校はどうやって安全を守っているのか？**<br>学校における安全（防犯、防災、いじめ対策など）を守るための法規と実践について理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第13回 | **地域は学校にとってどのような存在か？**<br>法規と事例の検討から地域と学校の連携に関する理解を深める。 | 授業中に指示された教科書の範囲を予習してくる。授業の復習を行い、小テストの対策をする。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ**<br>これまでの授業の内容を振り返るグループワークを通じて、これまでの教育制度に関する学びを振り返り、学んだ知識を整理する。 | 授業中に指示された課題の準備を行う。 | 4時間 |

SP-5015-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯教育論** | | | | |
| 担当教員名 | **金森　謙輔** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

人々は、子ども期・成人期・高齢期にわたって、学校の内外を問わず、あらゆる機会にあらゆる場所でさまざまな学習をおこなっている。これを生涯学習という。
そして、このような人々の生涯にわたる学習を支援するものとして生涯教育がある。生涯教育は、それがおこなわれる場所に着目すると、家庭教育・学校教育・社会教育の3つに大別される。
本科目では、学校外の学びを主として、社会生活の中にあるさまざまな例をもとに生涯教育について多角的に考えていく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 生涯学習・生涯教育をめぐる基礎的な事項に関する知識 | 生涯学習・生涯教育をめぐる基礎的な事項を理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 生涯学習・生涯教育をめぐる基礎的な事項に関する記述説明 | 生涯学習・生涯教育をめぐる基礎的な事項を記述で説明することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 生涯学習・生涯教育をめぐるディスカッションへの参加（発言） | 生涯学習・生涯教育をめぐるディスカッションに参加（発言）することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・その他(以下に概要を記述)

受けたコメントを次回の講義の冒頭にてフィードバックする。

**成績評価**

**注意事項等**

期末レポートを課します。レポート課題の内容は、講義中に公開します。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業への参加度 | 30　% | ：　授業時のご発言とその後にご提出いただく振り返りシートをもとに加点する。 |
| 期末レポート | 70　% | ：　原則、期末レポートにて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『生涯学習論入門』今西幸蔵
『災害ユートピア』　レベッカ・ソルニット
『実力も運のうち 能力主義は正義か?』　マイケル・サンデル
『スーダンの未来を想う』 関広尚世・金森謙輔他
『実践の倫理』ピーター・シンガー
『思いがけず利他』中島岳志
『弱いつながり』東浩紀

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 随時

**場所**： メールにて

**備考・注意事項**： 授業に関するご質問やご相談がございましたら、次の担当教員のメールアドレスにお問い合わせください。
muxa0209@gmail.com

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション**<br>生涯学習/教育とは何か | シラバスをよく読んできてください。 | 4時間 |
| 第2回 | **生涯学習と生涯教育**<br>生涯学習のなりたち①<br>学習機会の多様化・拡大化<br>生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 | 学習・教育とは何か考えてきてください。 | 4時間 |
| 第3回 | **生涯学習概念の基礎**<br>生涯学習のなりたち②<br>生涯学習の意義・特質<br>日本と諸外国における生涯学習の発展と特質 | 学士力（生涯学習力）について調べてください。 | 4時間 |
| 第4回 | **生涯学習制度**<br>生涯学習・社会教育行政の意義と役割<br>生涯学習・社会教育施設等の管理と運営 | 授業時のデ社会教育施設・生涯学習関連施設（公民館・生涯学習センター・図書館・博物館など）について調べてください。 | 4時間 |
| 第5回 | **生涯学習の事例①**<br>生涯学習を通じたスポーツ・文化芸術の発展<br>地方行政における生涯学習の取り組み | スポーツと生涯教育・学習の関連について考えてきてください。 | 4時間 |
| 第6回 | **生涯学習の事例②**<br>世界における取り組みの事例① | 海外での生涯学習の取り組みとスポーツについて考えてきてください。 | 4時間 |
| 第7回 | **生涯学習の事例③**<br>世界における取り組みの事例② | 海外での生涯学習の取り組みとスポーツについて考えてきてください。 | 4時間 |
| 第8回 | **生涯学習への「助成」**<br>「社会人の学び直し」政策 | リカレント教育、リスキリングについて調べてきてください。 | 4時間 |
| 第9回 | **生涯学習と市民社会①**<br>市民運動と生涯学習 | 市民社会について調べてきてください。 | 4時間 |
| 第10回 | **生涯学習と市民社会②**<br>国際協力と生涯学習・社会教育 | 授業時のディスカッション（発言）に備えて、エイジングについて調べてください。 | 4時間 |
| 第11回 | **新しい公共と市民運動**<br>ボランティアとは何か | 新しい公共について調べてきてください。 | 4時間 |
| 第12回 | **生涯学習とボランティア①**<br>教えること・学ぶことの相互行為<br>相互行為と地域コミュニティの強化 | スポーツとボランティアがどのように関係するか考えてきてください。 | 4時間 |
| 第13回 | **生涯学習とボランティア②**<br>ボランティア活動と「自己責任」 | 自己責任とは一体何か考えてきてください。 | 4時間 |
| 第14回 | **講義のまとめ**<br>講義のまとめ | 期末レポートに備えて、どのようなレポートを書くか考えてきてください。 | 4時間 |

SP-5016-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教育心理学** | | | | |
| 担当教員名 | **多賀谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校での学級経営，教科指導，生徒指導に関する実務経験，および通級指導教室担当として発達障害児童生徒への指導，保護者・担任への教育相談等の実務経験を踏まえ、実際の事例等にふれながら実践的な講義内容を行っている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

教師が行う学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で知っておくことが求められる、子どもの心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。そして、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。さらに、発達障害を含む障害をもつ子どもの特徴や指導・援助のあり方についての理解を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 児童・生徒の心身の発達の過程、及び学習に関する基礎的知識 | 児童・生徒の心身の発達の過程、及び学習に関する基礎的知識を身に付けることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 児童・生徒の発達課題 | 児童生徒の発達課題について理解し、適切に論じることができている。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 児童・生徒の心身の発達の過程、及び学習に関する基礎的知識の活用 | 児童・生徒の心身の発達の過程、及び学習に関する基礎的知識を活用することができている。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT(タッチタイピング)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内小レポート | 10 % | ： | 学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で理解しておくことが必要な子どもの成長・発達および学習に関するさまざまな知見について理解しようとする。 |
| 期末テスト/授業内小テスト | 50 % | ： | 学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で理解しておくことが必要な子どもの成長・発達および学習に関するさまざまな知見について理解し、身につけている。 |
| 発達に関するレポート課題 | 20 % | ： | 児童生徒の発達課題について理解し、適切に論じることができている。 |
| 自己評価実習 | 20 % | ： | ルーブリックに基づいて自分のレポート課題を自己評価/他者評価する実習を通して、学んだことを活用し、考えを深めることができる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「学習指導要領」文部科学省
「教育心理学の理論と実際」（河村茂雄・武蔵由佳編著，2021）図書文化
「コアカリキュラムで学ぶ教育心理学」（ 杉森伸吉共編著・松尾直博共編著・上淵寿共編著，2020)培風館
「教育心理学の最前線」（斎藤富由起・守谷賢二，2019）八千代出版
その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

この科目は教職必修科目なので、教員免許状取得希望者は必ず受講すること。
「介護等体験」、「教育実習」を履修するためには、この科目が履修済みであること(ゲート科目)
受講生へのメッセージ
この授業では、学習指導や生徒指導を効果的に進めていく上で理解しておくことが必要な子どもの成長・発達および学習に関するさまざまな知見について提供します。内容は、教育心理学や発達心理学、学習心理学、障害児教育学等多岐にわたっています。これまでの経験や、教育、子どもに対する関心をベースに、今後の教育実践に役立つ心理学知識を一つ一つ確実に身に着けていきましょう。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **発達とは**<br>【オリエンテーション】教育心理学の内容と方法、授業の概要及び到達目標、評価基準について知る。<br>・発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念、及び発達を理解することの意義について学ぶ。<br>・児童・生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用（学習説、成熟説、輻輳説）について学ぶ。 | 生まれてから今日まで、自身の成長を発達の視点で振り返る。 | 4時間 |
| 第2回 | **子どもの育ちの多様性（発達の心理学）**<br>・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達について学ぶ。 | ピアジェの理論と学校制度の関連についてまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **自己の発達と心理的適応**<br>・乳幼児期から青年期の各時期における心理社会的発達について学ぶ。 | エリクソンの理論にもとづいてこれまでの自身の発達についてまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **社会性の発達，道徳性発達理論**<br>・乳幼児期から青年期の各時期における社会性の発達について学ぶ。 | 生まれてから今日までの社会性の発達について振り返る。家族や周りの人にも聞く。 | 4時間 |
| 第5回 | **学習のメカニズム１　レスポンデント条件付け**<br>・様々な学習の形態や概念について学ぶ。<br>・レスポンデント条件付けについて学ぶ。 | レスポンデント条件付けの具体例について考える。 | 4時間 |
| 第6回 | **学習のメカニズム２　オペラント条件づけ**<br>・オペラント条件づけについて学ぶ。<br>・社会的学習理論について学ぶ。 | どのようにほめられるとよかったでしょうか。振り返って考える。 | 4時間 |
| 第7回 | **記憶の発達**<br>・記憶の多重貯蔵モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）について学ぶ。<br>・乳幼児期から青年期の各時期における記憶の発達、ワーキングメモリ、記憶方略について学ぶ。 | 今まで行ってきた記憶の方略について、書き出して、まとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **主体的な学びにつながる学習意欲（動機づけ理論）**<br>・日本の子どもの課題について知る。<br>・主体的学習を支える動機づけ・学習意欲の在り方について、発達の特徴と関連付けて学ぶ。 | 今までの学びを振り返り、外発的動機付けから内発的動機付けに変化したことについて書き出してまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **主体的学習を支える評価・測定①**<br>・学習評価の分類（規準・基準、相対評価・絶対評価、評価の役目、評価者）、学習過程を評価する方法について学ぶ。 | 今まで受けてきた教育評価を振り返り、あなたが受けたときに感じた気持ちや考えについてまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **主体的学習を支える評価・測定②**<br>・パフォーマンス評価について、ルーブリック評価と関連付けて学ぶ。<br>【ワーク】ご自身のレポートに関してルーブリックに沿って、評価する | 実際にルーブリック評価を行い、ルーブリック評価のよさについてまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **主体的学習を支える学習の理論・形態と過程**<br>・主体的学習を支える学習の理論・形態とその過程について学ぶ。<br>・代表的な学習方略について学ぶ。 | これからの学習評価の在り方について考える。 | 4時間 |
| 第12回 | **学級集団という関係性の中での学び**<br>・学校不適応の様相について学ぶ。<br>・主体的学習を支える学級集団づくりの在り方について、発達の特徴と関連付けて学ぶ。 | 今まで学んできたことを教育現場においてどのように活用できるかまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **主体的・対話的な深い学び**<br>・メタ認知、自己調整学習について学ぶ。 | 主体的な学習活動を支える要因についてまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ、今日的な教育課題について考える** | どのような教師になりたいか、まとめる。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| ・幼児、児童・生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ<br>・学校現場での今日的な教育課題について理解し、学んできたことをいかに活用していくかを考える。 | | |

SP-5017-2-2

| 授業科目名 | **特別支援教育論** | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | **多賀谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校において30数年の勤務経験があり、学級経営，教科指導，生徒指導，および通級指導教室担当として発達障害児童生徒への指導，保護者・担任への教育相談等の実務経験を踏まえ、実際の事例等にふれながら学校現場に対応した講義内容を行っている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により、特別の支援を必要とする児童・生徒の学習上又は生活上の困難を理解する。そして、それぞれの個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について理解する。さらに、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるような支援について考えを深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 特別の支援を必要とする児童・生徒の障害特性とその対応 | 特別の支援を必要とする児童・生徒の障害特性について理解し、特性に応じた支援方法を身に付ける。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 特別の支援を必要とする児童・生徒の予想される困難と特性に応じた対応 | 特別の支援を必要とする児童・生徒への学習上、生活上の予想される困難について考え、特性に応じた対応について説明することができる。 |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 特別の支援を必要とする児童・生徒への関心・意欲 | 特別の支援を必要とする児童・生徒に関して興味関心を持ち、サポートを含む対応方法等を意欲的に学ぼうとしている。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：臨床心理士（元病弱児の保護者・教員）（職種・キャリア形成の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング・動画活用・アプリ活用・PowerPoint）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| ワーク・グループ討議への参加 | 10 % | ： | 特別の支援を必要とする児童・生徒について関心を向け、学習上又は生活上の困難について理解しようとする。 |
| 授業内小レポート・小テスト・ワーク | 55 % | ： | 特別の支援を必要とする児童・生徒の障害特性について理解し、特性に応じた支援方法を身に付ける。 |
| プレゼンテーション | 20 % | ： | 特別の支援を必要とする児童・生徒への学習上、生活上の予想される困難について考え、特性に応じた対応について説明することができる。 |
| 全体討議・グループ討議 | 15 % | ： | 特別の支援を必要とする児童・生徒への、生きる力を身に付けていくことができるような支援について、学んだことを活用し、考えを深め、討論する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「高等学校教員のための特別支援教育」（大塚玲編著，2020）萌文書林
「インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門」（大塚玲編著，2019）萌文書林
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」（文部科学省，2018）
その他の参考文献については開講時に紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は特別支援教育全般についての知識理解と教師として重要な「インクルーシブな共生社会」の実現を積極的に担う人材を育成することを目的としており、常に教育をめぐる事象や動向に関心を持つことが大切である。また、与えられた事前課題や次回の授業に向けた予習に取り組むと共に、授業中は自分の考えを発表するなど、積極的に授業に参加することにより、到達目標の達成を目指している。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **特別支援教育の理念と基本的な考え**<br>【オリエンテーション】<br>・授業概要と到達目標・評価方法について知る。<br>・自身の障害に対する知識や理解度を確認する。<br>・特別支援教育とは何かについて考え、その理念と基本的な考え方について知る。 | 自分が学んできた特別支援教育について振り返る。我が国の特別支援教育の歩みと滋賀県の特別支援教育の現状について調べる。 | 4時間 |
| 第2回 | **特別支援教育の制度とインクルーシブ教育システム**<br>・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて学ぶ。<br>・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容について学ぶ。 | 特別支援教育の現行制度とインクルーシブ教育システムについてまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **特別支援教育の仕組み**<br>・特別支援教育コーディネーターの役割と意義を理解する。<br>・支援体制を構築することの必要性について学ぶ。<br>・個別の指導計画・個別の教育支援計画についての理解を深める。 | 視覚障害について調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **視覚障害のある児童・生徒の理解と支援**<br>・視覚障害のある児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。<br>・視覚障害のある児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。 | 聴覚障害について調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **聴覚障害のある児童・生徒の理解と支援**<br>・聴覚障害のある児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。<br>・聴覚障害のある児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。 | 肢体不自由について調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **肢体不自由のある児童・生徒の理解と支援**<br>・肢体不自由の児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。<br>・肢体不自由のある児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。<br>・バリヤフリー、ユニバーサルデザインなどの用語及び理学療法士、作業療法士について理解を深める。 | 病弱の特性について調べ、支援方法について考える。 | 4時間 |
| 第7回 | **病弱の児童・生徒の理解と支援【外部講師】**<br>・病弱の児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。<br>・病弱の児童・生徒に対する支援方法及び教育の場について学ぶ。<br>・病弱の児童・生徒を支える家族の心情について理解を深める。 | 知的障害の特性について調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **知的障害のある児童・生徒の理解と支援**<br>・知的障害ある児童・生徒の学習上、生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。<br>・知的障害ある児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。<br>・アセスメントの方法及びアセスメントに基づく支援方法について学ぶ。 | ADHD(注意欠如多動性障害)の特性について調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **ADHD(注意欠如多動性障害)のある児童・生徒の理解と支援**<br>・ADHD（注意欠如多動性障害）の児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。<br>・ADHD（注意欠如多動性障害）の児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。 | LD(学習障害)の特性について調べる。 | 4時間 |
| 第10回 | **LD（学習障害）のある児童・生徒の理解と支援**<br>・LD（学習障害）の児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。<br>・LD（学習障害）の児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。<br>・ユニバーサルデザイン化のための環境づくり・授業づくりについて知る。 | 自閉症スペクトラムの特性について調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **自閉症スペクトラムの児童・生徒の理解と支援** | 母語の問題等による学習上・生活上の困難について調べる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・自閉症スペクトラムの児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。<br>・自閉症スペクトラムの児童・生徒に対する支援方法について学ぶ。<br>・児童・生徒の不適切な行動への対応方法について学ぶ。 | | |
| 第12回 | **外国につながる児童・生徒の理解と支援**<br><br>・母語の問題等により特別の教育的ニーズのある児童・生徒の学習上・生活上の困難についての理解を深める。<br>・組織的な対応の必要性を理解する。 | 貧困の問題等による学習上・生活上の困難について調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **貧困家庭の児童・生徒の理解と支援**<br><br>・貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある児童・生徒の学習上・生活上の困難についての理解を深める。<br>・組織的な対応の必要性を理解する。 | 関係機関について調べる。 | 4時間 |
| 第14回 | **関係機関・家庭との連携**<br><br>・関係機関の役割と意義を理解する。<br>・関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解を深める。 | 今まで学んできた知識を学校現場でどのように活用できるかまとめる。 | 4時間 |

SP-5018-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教育課程論** | | | | |
| 担当教員名 | 松本　圭将 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

学校で行われる教育活動は、個々の教師が好き勝手に行っているものではない。本授業のテーマである教育課程とは、まさに学校レベルでの教育の目標や編成などを示したものであり、それに従って各教員は教育活動を展開させる。
本授業では、国が定める学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校教育における教育課程が有する役割・機能・意義の理解 | 教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 教育課程編成の構想 | 教育課程編成に関わる多様な理念や教育方法を活用して、教育課程を構想することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

課題は期日までに提出すること。出席しているだけでは得点にはならない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 60　% | ：　毎回の授業での提出物などを、授業内容がどれほど理解できているかという観点から評価する |
| 最終レポート | 40　% | ：　全14回の授業終了後に作成する最終レポートについて、授業内で提示する観点に基づいて評価する |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 尾崎博美・井藤元編 | ・ワークで学ぶ教育課程論［増補改訂版］ | ・ナカニシヤ出版 | ・2024　年 |

**参考文献等**

文部科学省『学習指導要領』（平成29年3月公示）
その他の参考文献については、適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
この授業では毎回、ノート型PCを持参すること。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション／教育課程とは何か？**<br>授業の進め方についての説明と教育課程とは何かを考える | シラバスをよく読んでおく | 4時間 |
| 第2回 | **人を計画的に育てることはどのように考えられてきたか？**<br>学校における生活知をめぐる教育論争とカリキュラム論の誕生について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、カリキュラムについてどのような論争が存在したのか、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第3回 | **「学び」の単位をどのように創り出したらよいだろうか？**<br>大村はまの「単元学習」について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、学びの単位を作り出す教育課程のあり方について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第4回 | **学校で用いられる「言葉」にルールはあるのか？**<br>カリキュラムにおける言語コードの規範と再生産について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、学校における「言葉」のあり方について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第5回 | **学習指導要領の何が変わったのか？どうして変えるのか？**<br>戦後幾度も改訂を繰り返してきた学習指導要領の変遷について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、時代の変化と学習指導要領の展開の関係について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第6回 | **なぜ「ゆとり教育」だったのか？**<br>1998年改訂学習指導要領において大きく展開された「ゆとり教育」について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、「ゆとり教育」の利点と課題について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第7回 | **現場の教師はどうやって授業を作るのか？**<br>授業づくりにおいて重要にされる「本質的な問い」について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、「本質的な問い」を踏まえた授業のあり方について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第8回 | **「頭がいい」ってどういうこと？**<br>教育課程設計の前提となる様々な資質・能力観について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、授業で学んだ資質・能力観と自分の持っているそれとの異同について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第9回 | **「主体的・対話的で深い学び」に教師はいらない？**<br>主体的・対話的で深い学びにおける教師の役割について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、よりよい主体的・対話的で深い学びの実践について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第10回 | **授業の”外”が授業／学校を変える？**<br>反転授業のあり方と可能性について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、反転授業の可能性と限界について、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第11回 | **教師がカリキュラムの開発・編成をおこなうことは可能か？**<br>学校を基盤としたカリキュラム開発のあり方について学ぶ | 授業の配布資料を確認し、カリキュラム・マネジメントにおいてどのような新しい教育実践が可能かについて、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第12回 | **実際の教育課程を考える①**<br>これまでの授業内容を踏まえ、特定のテーマを意識した教育課程を構想する | グループで教育課程のアイデアを作成する | 4時間 |
| 第13回 | **実際の教育課程を考える②**<br>前時で構想した教育課程をグループで発表する | グループで教育課程のアイデアを作成する | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ**<br>本講義における教育課程に関する学びの振り返りを行う | これまでの授業を振り返り、最終レポートの作成を行う | 4時間 |

SP-5019-2-2

| 授業科目名 | 道徳の指導法 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 松本　圭将 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

道徳教育を行う上で基礎となる道徳性に関する諸理論を学ぶとともに、道徳教育の歴史などの道徳教育自体に関する理論的な学びを通じて多角的な視点から道徳教育を理解する。
こうした理論的な理解を前提として、「特別の教科　道徳」の目標と内容を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現するための指導計画の作成及び指導方法の修得を目指す。また、「特別の教科　道徳」の時間だけでなく、学校教育全般を通じた道徳教育についても理解を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 道徳・道徳教育の諸理論の理解 | 道徳の本質や道徳教育の歴史・課題、学習指導要領に示された目標及び内容を理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 具体的な道徳の授業の計画 | 道徳に関する理論をもとに、実際の道徳の授業を構想することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

課題の提出にあたっては、期限を厳守すること。
レポート課題の作成の際は、引用や生成AI活用に関するルールなどを守り、不正行為を行わないこと。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題 | 40　% | ： | 毎回の授業での提出物などを、授業内容がどれほど理解できているかという観点から評価する |
| 中間レポート | 30　% | ： | 講義の前半終了時点で作成する中間レポートについて、道徳に関する諸理論についての理解と、それをどのように実践において活かしていくかという観点から評価する |
| 最終レポート | 30　% | ： | 全14回の授業終了後に作成する最終レポートについて、授業内で提示した指導案作成の注意点に基づいて評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

文部科学省『学習指導要領』（平成29年3月公示）

井藤元編『ワークで学ぶ道徳教育〔増補改訂版〕』ナカニシヤ出版、2020年。
上地完治編著『道徳教育の理論と実践』汐見稔幸・奈須正裕監修、アクティベート教育学09、ミネルヴァ書房、2020年。
その他の参考文献については、適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
この授業では毎回、ノート型PCを持参すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション／道徳教育とは何か？**<br>授業の進め方についての説明と道徳教育とは何かを考える | シラバスをよく読んでおく | 4時間 |
| 第2回 | **道徳とは何か？**<br>道徳性とはなにか、道徳に関する様々な思想を手がかりに考える | 授業の配布資料を確認し、道徳とは何か自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第3回 | **道徳教育には何が求められてきたのか？**<br>道徳教育の歴史について学び、現代の道徳教育においてどのようなことが求められているのかを考える | 授業の配布資料を確認し、道徳教育に求められることに対してどのような実践が可能か、自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第4回 | **道徳性はどのように発達するのか？**<br>道徳性の発達について学び、学校段階に応じた道徳教育について考える | 授業の配布資料を確認し、子供の発達に応じた道徳教育のあり方について自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第5回 | **学習指導要領は道徳をどのように教えることになっているのか？**<br>学習指導要領の内容について学び、実際の授業などにおいてどのような道徳教育が求められているのかを考える | 授業の配布資料を確認し、学習指導要領が求める道徳教育について自分なりに考えを整理する | 4時間 |
| 第6回 | **道徳の理論の振り返り**<br>授業の前半部分を振り返り、中間レポートを作成する | これまでの授業を振り返り、中間レポートを作成する | 4時間 |
| 第7回 | **道徳科の指導案**<br>道徳科の指導案の書き方について学び、実際に指導案を作成する | 自分が担当する授業の領域について、学習指導要領を確認する | 4時間 |
| 第8回 | **道徳科の授業設計と学習評価**<br>道徳科の授業設計と学習評価について学び、作成した指導案をブラッシュアップを図る | 指導案を完成させる | 4時間 |
| 第9回 | **道徳科における指導法**<br>道徳科における指導法について学び、作成した指導案においてどのような指導法を用いていくか考える | 教材を作成するなど模擬授業の準備を進める | 4時間 |
| 第10回 | **模擬授業の準備**<br>模擬授業に向けて最終の準備を行う | 指導案を確認し、模擬授業の準備を行う | 4時間 |
| 第11回 | **模擬授業（1）**<br>班ごとに模擬授業を行い、生徒役からフィードバックを受ける | 指導案を確認し、模擬授業の準備を行う。生徒役は受けた授業を自分が実践するならどう工夫できるか考える | 4時間 |
| 第12回 | **模擬授業（2）**<br>班ごとに模擬授業を行い、生徒役からフィードバックを受ける | 指導案を確認し、模擬授業の準備を行う。生徒役は受けた授業を自分が実践するならどう工夫できるか考える | 4時間 |
| 第13回 | **模擬授業（3）**<br>班ごとに模擬授業を行い、生徒役からフィードバックを受ける | 指導案を確認し、模擬授業の準備を行う。生徒役は受けた授業を自分が実践するならどう工夫できるか考える | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ**<br>道徳の理論に関する学びや模擬授業での取り組みを振り返り、本授業での道徳教育に関する学びの振り返りを行う | これまでの授業を振り返り、最終レポートの作成を行う | 4時間 |

SP-5020-3-2

| 授業科目名 | 総合的な学習の時間の指導法 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 西山　喜満主 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | * | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

変化の激しい社会に対応するため、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることが重要であることから「総合的な学習（探究）の時間」が近年ますます重要性を増している。
学習指導要領に基づき、理念・目標を理解するとともに、授業開発を行うテーマを設定し、教材研究を行い、学習指導案を作成する。次に、開発した授業に関して模擬授業を行い、そのことに関して協議することを通して、「総合的な学習（探究）の時間」に関する授業づくりの実践的能力を育成する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 総合的な学習の時間の基本的理念 | 総合的な学習の時間の基本的理念，目標，内容について理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 総合的な学習（探究）の時間の基礎的な実践能力 | 総合的な学習（探究）の時間の趣旨を踏まえた上で、指導案の作成や指導を行うことができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 教員としての自覚 | 変化の激しい時代を生きる教員に必要な能力を自覚できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

科目は2単位の科目であるため,平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し,次回の授業に向けて予習をすること。なお、授業に出席することが前提のため、出席に対しての加点および評価は行わない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 最終課題（レポート） | 40 % | ： | 総合的な学習（探究）の時間に関する理解度と、作成した学習指導案の内容や構成の適切性を評価する。 |
| 模擬授業への取組 | 30 % | ： | 模擬授業に対する積極性、授業準備の状況、振り返りに基づいて評価する。 |
| 授業への参加状況 | 30 % | ： | 発言状況、個人ワーク課題の提出と質などに基づいて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

朝倉淳・永田忠道編『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』学術図書出版社、2019年
関川悦雄・今泉朝雄編『特別活動・総合的学習の理論と指導法 第2版』（Next教科書シリーズ）弘文堂、2025年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・この授業では毎回、ノート型PCを持参すること。
・第1回にて、講義の進め方や評価の方法について詳しく説明する。受講を希望する場合は必ず出席すること。
・個人＆共同ワーク及び模擬授業などを通して、学生が主体的に取り組む参加型の授業を目指す。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

**備考・注意事項**：　授業の前後以外で質問等がある場合は、メールにて受け付けます。メールには必ず氏名と所属を明記してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション（授業の到達目標・評価の説明、総合的な学習の意義）**<br>講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。併せて、総合的な学習（探究）の時間を学ぶ意義を考える。 | シラバスを読んでおく。 | 4時間 |
| 第2回 | **総合的な学習（探究）の時間の歴史的変遷**<br>総合的な学習の時間の設置経緯と課題について理解する。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **総合的な学習（探究）の時間の目標と内容、評価**<br>総合的な学習（探究）の時間の目標と内容、評価について、学校段階による違いも含めて理解する。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第4回 | **総合的な学習（探究）の時間の事例①（自然・環境問題）**<br>総合的な学習の時間には、様々なテーマの設定が想定されている。その中でも、「自然・環境問題」などの現代的課題をテーマにした授業実践を検討する。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第5回 | **総合的な学習（探究）の時間の事例②（地域・学校の課題）**<br>総合的な学習の時間には、様々なテーマの設定が想定されている。その中でも、地域や学校の特色に応じた課題をテーマにした授業実践を検討する。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第6回 | **総合的な学習（探究）の時間の事例③（職業や自己の将来に関する課題）**<br>総合的な学習の時間には、様々なテーマの設定が想定されている。その中でも、職業や自己の将来に関する課題をテーマにした授業実践を検討する。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第7回 | **総合的な学習（探究）の時間の事例④（先進科学技術と社会）**<br>総合的な学習（探究）の時間には、様々なテーマの設定が想定されている。その中でも、先進科学技技術や社会に関する現代的課題をテーマにした授業実践を検討する。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第8回 | **模擬授業に向けた教材研究①（テーマ設定）**<br>総合的な学習の時間の単元を、グループに分けて実際に作ってみる。この回では、テーマ設定を行う。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。学習指導案のフォーマットをもとに、模擬授業に向けて授業内容を検討する。 | 4時間 |
| 第9回 | **模擬授業に向けた教材研究②（学習指導案の作成）**<br>前回設定したテーマに基づき、総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行う。 | 学習指導案のフォーマットをもとに、模擬授業に向けて授業内容を検討する。 | 4時間 |
| 第10回 | **模擬授業①**<br>前回までに作成した指導案をもとに模擬授業を実施する。模擬授業実施後は振り返りシートをもとに授業の改善点を検討し、より良い指導案になるよう修正する。 | 模擬授業の準備を進める。授業後は、振り返りシートをもとに授業の改善点等を検討する。 | 4時間 |
| 第11回 | **模擬授業②**<br>前回から引き続き、作成した指導案をもとに模擬授業を実施する。<br>模擬授業実施後は振り返りシートをもとに授業の改善点を検討し、より良い指導案になるよう修正する。 | 模擬授業の準備を進める。授業後は、振り返りシートをもとに授業の改善点等を検討する。 | 4時間 |
| 第12回 | **模擬授業③**<br>引き続き、作成した指導案をもとに模擬授業を実施する。模擬授業実施後は振り返りシートをもとに授業の改善点を検討し、より良い指導案になるよう修正する。 | 模擬授業の準備を進める。授業後は、振り返りシートをもとに授業の改善点等を検討する。 | 4時間 |
| 第13回 | **学習指導案の改善**<br>前回までの模擬授業の振り返りで判明した改善点を、履修者同士の意見交換も行いつつ自身の指導案に反映させる。 | 自身が作成した指導案に、検討した改善点を反映させる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **これからの総合的な学習（探究）の時間**<br><br>これからの総合的な学習（探究）の時間に期待されている役割や残されている課題を理解し、自分の考えをより具体的にしていく。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |

SP-5021-3-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **特別活動論** | | | | |
| 担当教員名 | 西山　喜満主 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目では、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の資質能力の育成が目指されている特別活動の教育課程における意義や目標を歴史的な背景にも目を向けつつ学習する。また、特別活動の教育的意義を踏まえた実践的な指導力を身につけていくために、学級活動、生徒会活動、学校行事等の具体的な実践事例から学び、生徒が主体的に取り組んでいくための指導・支援のあり方について考察する。さらに、学習指導案の作成や具体的な活動の提案を行い、特別活動に関する授業づくりの実践的能力を育成する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 特別活動の基本的理念の理解 | 特別活動の基本的理念、目標、内容について理解し、自分の言葉で説明できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 特別活動の基礎的な実践能力 | 特別活動の趣旨を踏まえた上で、指導案や活動提案の作成や指導を行うことができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 教員としての自覚 | 変化の激しい時代を生きる教員に必要な能力を自覚できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
なお、授業に出席することが前提のため、出席に対しての加点および評価は行わない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 最終課題（レポート） | 40 % | ： 特別活動に関する理解度と、作成した学習指導案の内容や構成の適切性を評価する。 |
| グループ課題への取り組み状況 | 30 % | ： グループ課題に対する積極性、貢献度、成果物に基づいて評価する。 |
| 授業への参加状況 | 30 % | ： 発言状況、個人課題の提出と質などに基づいて評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 吉田武男監修、吉田武夫・京免徹雄編著 | ・『特別活動』（MINERVA はじめて学ぶ教職14） | ・ミネルヴァ書房 | ・2020　年 |

**参考文献等**

広岡義之・林泰成・貝塚茂樹監修、上岡学編著『特別活動』（ミネルヴァ教職専門シリーズ12）ミネルヴァ書房、2021年
関川悦雄・今泉朝雄編『特別活動・総合的学習の理論と指導法 第2版』（Next教科書シリーズ）弘文堂、2025年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・この授業では毎回、ノート型PCを持参すること。
・第1回にて、講義の進め方や評価の方法について詳しく説明する。受講を希望する場合は必ず出席すること。
・個人＆共同ワーク及びプレゼンテーションなどを通して、学生が主体的に取り組む参加型の授業を目指す。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

**備考・注意事項**：　授業の前後以外で質問等がある場合は、メールにて受け付けます。メールには必ず氏名と所属を明記してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション（授業の到達目標・評価の説明、特別活動の意義）**<br>講義の進め方や評価の方法について詳細を説明する。併せて、特別活動を学ぶ意義を考える。〃 | シラバスを読んでおく。 | 4時間 |
| 第2回 | **教育課程における特別活動の位置付けと各教科との関連**<br>教育課程における特別活動の位置付けと各教科との関連について学び、今後の学習への見通しをもつ。〃 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **特別活動の歴史的変遷**<br>特別活動はいつ始まり、どのように変わってきたのか、その歴史的な変遷について理解を深める。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第4回 | **学級活動の特質と機能**<br>特別活動の構成領域の一つである学級活動について理解を深める。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第5回 | **学級活動に関するパフォーマンス課題①**<br>特別活動の構成領域の一つである学級活動について、前回学んだ知識を踏まえながらパフォーマンス課題に取り組む（指導案研究）。 | 授業の配布資料を踏まえつつ、パフォーマンス課題に取り組むための情報収集を行う。 | 4時間 |
| 第6回 | **学級活動に関するパフォーマンス課題②**<br>特別活動の構成領域の一つである学級活動について、前回学んだ知識を踏まえながらパフォーマンス課題に取り組む（提案内容の検討）。 | 授業の配布資料を踏まえつつ、パフォーマンス課題に取り組むための情報収集を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **学級活動に関するパフォーマンス課題③**<br>特別活動の構成領域の一つである学級活動について、前回学んだ知識を踏まえながらパフォーマンス課題に取り組む（活動の提案と振り返り）。 | パフォーマンス課題を振り返り、改善点を検討し反映させる。 | 4時間 |
| 第8回 | **特別活動における評価の考え方・方法**<br>特別活動における評価の考え方について理解し、実際どのような評価が行われているのかを学ぶ。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第9回 | **生徒会活動、学校行事の特質と機能**<br>特別活動を構成している生徒会活動と学校行事について理解を深める。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **生徒会活動、学校行事に関するパフォーマンス課題①**<br>特別活動を構成している生徒会活動と学校行事について、前回学んだ知識を踏まえながらパフォーマンス課題に取り組む（年間活動計画の作成）。 | 授業の配布資料を踏まえつつ、パフォーマンス課題に取り組むための情報収集を行う。 | 4時間 |
| 第11回 | **生徒会活動、学校行事に関するパフォーマンス課題②**<br>特別活動を構成している生徒会活動と学校行事について、前回学んだ知識を踏まえながらパフォーマンス課題に取り組む（提案内容の検討）。 | 授業の配布資料を踏まえつつ、パフォーマンス課題に取り組むための情報収集を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **生徒会活動、学校行事に関するパフォーマンス課題③**<br>特別活動を構成している生徒会活動と学校行事について、前回学んだ知識を踏まえながらパフォーマンス課題に取り組む（活動の提案と振り返り）。 | パフォーマンス課題を振り返り、改善点を検討し反映させる。 | 4時間 |
| 第13回 | **特別活動における家庭・地域等との連携の在り方**<br>特別活動の今後の在り方について、家庭や地域との連携に関連づけて理解を深める。 | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |
| 第14回 | **特別活動の充実に向けた一連の議論** | 授業の配布資料を熟読し、全体的な流れを意識しながら復習する。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| これからの特別活動に期待されている役割や残されている課題を理解し、自分の考えをより具体的にしていく。 | | |

SP-5022-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | 教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）（教育方法論） | | | | |
| 担当教員名 | 髙村　満衣 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

どのような授業をすれば上手く教えられるか。どのような教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのか。本授業では、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICTの効果的な活用や情報社会のなかで学び続ける力の育成方法を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教育の方法の基本的理念を把握し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力の育成のための主体的・対話的で深い学びについて理解する。 | 子どもの育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 指導と評価について理解し、授業を行なう上で求められる基礎的な指導技術を理解する。 | 学習指導案の基本的な要素と政策の流れを理解し、実際に設計することができる。学習者を支援する基本的指導方法を身につけ、活用できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 教育現場においけるICT活用の意義や効果的に利用する技術を理解する。学習指導や公務位置づけについても理解する。 | ICTを活用する意義や理論を理解し、学習指導や公務位置づけて説明ができ、なおかつ情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

原則、毎回出席すること。
規定数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業への参加状況 | 30 % | ： | 毎回の課題や授業における姿勢・態度について評価する。 |
| グループ作業への取組み状況 | 40 % | ： | グループでの授業計画案の発表への取り組みや、それにもとづく振り返りについて評価する。 |
| レポート | 30 % | ： | 授業で学んだことを修得しているかについて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

その都度紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は2単位の科目であり、授業外学修は毎回平均4時間求められる。詳細は毎回指示する。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

この授業では、ノート型パソコンの持参を求める。
第一回目において、講義の進め方や評価方法について詳しく説明する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

**備考・注意事項**：　授業前後以外で質問がある場合は、メールにて受け付けます。メールには必ず氏名と所属を明記してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション―教育方法を学ぶ意義**<br>これからの児童生徒たちに育みたい資質・能力を考える。また初回で講義の勧め方や評価方法について詳細に説明する。 | シラバスを読んでおく。 | 4時間 |
| 第2回 | **教師に求められる授業力**<br>教師に求められる資質・能力を考える。また、授業実践に関わる知識について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **様々な学びのあり方**<br>学びの成立に至るまでの経験やそこから得られる知識の特徴について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **学びの形態と学びの目標**<br>学びの基本的構造や学びの捉え方について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **動機づけと学習調整学習**<br>学びと動機づけについてメタ認知や主体的学びの基本的原理について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **批判的思考と学びの態度**<br>批判的思考と教育の関係性からメディアリテラシー、情報活用と情報モラルについて学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **授業設計の基礎**<br>授業をつくるとは何か。評価や学習環境のデザイン方法について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **授業を支える指導方法**<br>授業で必要とされる、また学びを引き出す指導技術について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **情報化への対応**<br>教師のICT活用方法や子どもの情報活用能力を育てる方法、また個別最適な学びにおける学習環境について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **授業設計**<br>学習目標の明確化、深い学びを導く教材研究、主体的・対話的な学習過程、学びが見える評価方法について学ぶ。 | 授業の配布資料に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **授業をデザインする**<br>これまで学んできたことをもとに、ICT・デジタルコンテンツを活用した授業をデザインするグループワークをおこなう。講義では、校務の効率化を支えるテクノロジーの役割について学ぶ。 | グループで授業計画をつくる。 | 4時間 |
| 第12回 | **学習環境のデジタル化を含む授業デザインの発表①**<br>グループで考えた授業デザインについて発表する。学生同士の相互評価と自身の振り返りも合わせておこなう。 | グループで授業計画をつくる。 | 4時間 |
| 第13回 | **学習環境のデジタル化を含む授業デザインの発表②**<br>グループで考えた授業デザインについて発表する。学生同士の相互評価と自身の振り返りも合わせておこなう。 | グループで授業計画をつくる。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業の実施と改善**<br>授業をどう実施し、改善するのかについて学ぶ。 | 模擬授業の振り返りをする。 | 4時間 |

SP-5023-2-2

| 授業科目名 | 生徒・進路指導論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 西口　利文 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 公認心理師（学生相談室室長兼カウンセラー）として，特に大学での危機対応に関する教育支援の運営や実務を担当している。 | | | | |

**授業概要**

本授業は，学校における生徒指導およびキャリア教育にかかる各課題および実践的介入のあり方について理解することを目的とします。この目的を果たすために，生徒指導およびキャリア教育に関する現状の課題を，理論的枠組みおよび実践モデルを踏まえて概説します。受講者においては，そうした課題への介入方法について，相互に意見交換を行いながら，その教育的意義を考察します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 生徒指導・キャリア教育に関する知識 | 生徒指導・キャリア教育の課題とその介入方法について理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 生徒指導・キャリア教育の課題や介入方法の分析力 | 生徒指導・キャリア教育の課題とその介入方法について，評価的な視点から考察できる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 到達目標に向けての自他の学びに対する積極性 | 自分の考えを他の受講生に向けて毎時間積極的に発言する。 |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 保健体育教員を目指す者としての生徒指導・キャリア教育に関する関心・意欲 | 保健体育教員を目指す者として，生徒指導・キャリア教育に関する関心・意欲をもっている。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

最終試験を受けないことおよび必修と指示した課題の不提出の場合，また全授業回の３分の１を超える欠席の場合は「不合格」となります。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 最終試験 | 40 % | ： | 到達目標に対する到達度 |
| 各回のレポート課題 | 40 % | ： | 生徒指導・キャリア教育の課題や介入方法の知識を踏まえて自分の考えを評価的な視点でまとめられているかを５段階で評価します。 |
| 授業での積極的な発言 | 20 % | ： | 自分の考えを他の受講生に向けて積極的に発言しているかを５段階で評価します。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 市川千秋監修　八並光俊・宇田光・山口豊一 編著 | ・『臨床生徒指導 応用編（学校心理学入門シリーズ）』 | ・ナカニシヤ出版 | ・2012　年 |

**参考文献等**

『生徒指導提要（改訂版）』（文部科学省，2022年）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

ゲート科目である。
授業中の無用な私語など，他の受講者に迷惑をかける行為については毅然と対応します。授業期間内に，１回注意された場合は，当該回を欠席扱いし，２回注意された場合は最終成績を「不可」とします。また，適宜，グループワークを実施しますが，積極的参加がみられないのみならず，他の受講生の学びの機会を尊重しない態度がみられる場合には，私語の件と同様な扱いをします。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　随時

**場所**：　メールにて

**備考・注意事項**：　質問はメールで受け付けます（nishiguchi@las.osaka-sandai.ac.jp　西口利文，所属：大阪産業大学）。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **《生徒指導および進路指導の意義および課題》**<br>生徒指導提要の概要およびこれまでの経緯 | 教員として生徒指導および進路指導の実践的指導力を育むために，いかなる準備が必要かについて考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **《生徒指導の開発的側面(1)》**<br>課程内教育（学習指導）を通じた生徒指導 | 生徒指導と学習指導はどのような関係があるといえるかについて，教科書や参考文献を参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **《生徒指導の開発的側面(2)》**<br>自己意識や社会性を高めるための生徒指導 | 学校でソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを実施するにあたり，予想される効果と実施上の課題について，Webなどを参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **《生徒指導の予防的側面(1)》**<br>規範意識の醸成に関する生徒指導（ゼロトレランス方式の例示），集団指導と個別指導の併用（PBISの例示） | ゼロトレランス方式が，どういった取り組みであるかについて，教科書や参考文献を参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **《生徒指導の予防的側面(2)》**<br>情報モラル教育としての生徒指導 | 生徒が日常でインターネットを利用するという前提に立った場合，生徒指導上の問題としてどのようなものがあるかについて，教科書や参考文献を参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **《生徒指導の予防的側面(3)》**<br>校則についての検討，反社会性・非社会性を予防する生徒指導 | 予防的な生徒指導の観点から，高等学校や中学校で定めることが重要だと考える校則について，教科書や参考文献を参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **《生徒指導の危機対応的側面(1)》**<br>反社会的行動・非社会的行動への対応 | 反社会的行動，非社会的行動の概念について調べた上で，青少年の子どもにおいて，反社会的行動や非社会的行動が生起する理由について，教科書や参考文献を参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **《生徒指導の危機対応的側面(2)》**<br>不登校への対応 | 不登校という現象が生起する理由および対応のしかたの見通しについて，教科書や参考文献を参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **《生徒指導の危機対応的側面(3)》**<br>いじめへの対応，チーム学校による組織的な指導体制 | いじめという現象が生起する理由および対応のしかたの見通しについて，，教科書や参考文献を参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **《進路指導（1）》**<br>キャリア教育の視点および指導体制と方法 | キャリア教育と進路指導の概念の共通点と違いについて，Webなどを参照しながら参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **《進路指導（2）》**<br>キャリア教育を支えるアセスメント | 教育におけるアセスメントの目的や意義について，Webなどを参照しながら参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **《進路指導（3）》**<br>事例を通じた具体的な指導についての検討 | 学校におけるキャリア教育の具体的な方法について，Webなどを参照しながら参照しながら整理しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **《進路指導（4）および最終試験》**<br>ガイダンスとカウンセリングのそれぞれのアプローチ，最終試験 | キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングの違いについて，Webなどを参照しながら参照しながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **《状況に適した生徒指導・進路指導》** | 「生徒指導や進路指導を担う教員の指導方法は，個々の生徒や状況に応じて変える必要がある」という考え方が成り立つ理由やその条件について，これまでの学んだ内容をふりかえりながら自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| フレキシブルリーダーシップ論，全体のふりかえり（最終試験をもとにしたふりかえりを含む） | | |

SP-5024-3-2

| 授業科目名 | 教育相談基礎論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 多賀谷　智子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校での学級経営，教科指導，生徒指導，および通級指導教室担当として発達障害児童生徒への指導，保護者・担任への教育相談等の実務経験を踏まえ、実際の事例等にふれながらワークを活用し、実践的な指導を行っている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。
この授業では、児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付ける。
そして、教育相談の基本的な考え方や進め方、専門機関等の連携も含めた、組織的な取り組み、カウンセリングの諸理論について理解する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教育相談に必要な基礎的知識 | 教育相談に必要な基礎的知識を理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 教育相談の今日的課題、および児童・生徒と児童・生徒を取り巻く環境との相互作用 | 教育相談の今日的課題、および児童・生徒と児童・生徒を取り巻く環境との相互作用を説明することができる。 |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 教育相談における今日的課題への関心・意欲 | 教育相談における今日的課題への興味関心を持ち、サポートを含む対応方法等を意欲的に学ぼうとしている。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング・動画活用・PowerPoint）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

・理解を深めるために、毎回ワークを課す。ワークには積極的に参加すること。ワークへの参加の意思がない場合、又は、明らかなマナー違反があった場合には、欠席とみなすことがある。
・この授業の必須課題として、自分の学び、気づきに対して、発展的に調べ、考えを深める課題を課す。そのまとめを動画に編集し、授業参加者へ公開し、ピア評価を実施する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| ワーク・グループ討議への参加 | 10 % | ： | 授業後半に行われるワークにおいて教育相談の今日的課題について理解しようとする。 |
| 授業内レポート・ワーク | 55 % | ： | 毎回の授業内レポート・ワークにおいて教育相談に必要な基礎的知識、および児童・生徒と児童・生徒を取り巻く環境との相互作用を理解する。 |
| プレゼンテーション | 20 % | ： | 第１２回～第１４回のプレゼンテーションにおいて教育相談の今日的課題、および対応について考え、説明することができる。 |

全体討議・グループ討議　：　第１２回～第１４回のプレゼンテーションにおいて児童・生徒が生きる力を身に付けていくことができるような支援について、学んだことを活用し、考えを深め、討論する。

15　％

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「生徒指導提要」（文部科学省）教育図書
「教育相談の理論と実際」（河村茂雄編，2021）図書文化
「教育相談の理論と方法」（会沢信彦，2019）北樹出版
「絶対に役立つ教育相談」（水野治久・本田真大・串崎真志，2017）ミネルヴァ書房

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

この科目は教職の必修科目なので、教員免許状取得希望者は必ず受講すること。
教育相談を効果的に進めていく上で、児童生徒と児童生徒を取り巻く環境との相互作用を理解し、実践的な力を養うことが大切です。この授業では、毎回、ワークを取り入れる予定です。教育相談の理論や技法を知り、学校生活において活用できるようになりましょう。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **学校における教育相談の意義と課題**<br>・授業の概要及び到達目標、評価基準について知る。<br>・教育相談とは何か，学校における教育相談の意義と課題について学ぶ。 | 教育相談の意義と課題についてまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **教育相談に関わる心理学の基礎的な理論**<br>・教育相談に関わる心理学（精神分析・行動主義心理学・人間性心理学等）の基礎的な理論・概念について学ぶ。<br>・心の問題を抱えたクライエントに関わる際の5つの基本的視点（①年齢により関わり方が異なる，②抱える心の問題の質に見合った関わり方が必要，③心の状態に見合ったタイミングがある，④分からない時にはコンサルテーションを受ける，⑤症状を取り除くことだけではなく，そのケースの生活全体を視野に入れた支援，将来を見越した支援が必要）について学ぶ。 | 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論についてまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **学校におけるカウンセリング**<br>・学校カウンセリングの特徴，３つの機能について学ぶ。<br>・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性について学ぶ。 | 学校カウンセリングの特徴と３つの機能についてまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **カウンセリングの基本技法**<br>・受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。 | 学校カウンセリングの方法についてまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **教育相談におけるアセスメント**<br>・アセスメントのための情報収集の基本，児童生徒を多面的に理解するためのアセスメントの基本について学ぶ。<br>・児童・生徒の不適応や問題行動の意味，及び児童・生徒の発するシグナルに気付き実態を把握する方法について学ぶ。 | 様々なアセスメント方法とその特徴についてまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **幼児期の発達課題と教育相談**<br>幼児期の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を学ぶ。 | 幼児期の教育相談についてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **児童期の発達課題と教育相談**<br>児童期の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を学ぶ。 | 児童期の教育相談についてまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **思春期・青年期の発達課題と教育相談**<br>思春期・青年期の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を学ぶ。 | 思春期・青年期の教育相談についてまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **いじめ問題への対応**<br>「いじめ」の定義と学校における実態・様相について知る。<br>・いじめ予防・対応について学ぶ。 | いじめの定義とその対応方法についてまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **不登校（園）と教育相談**<br>・不登校（園）・中途退学をめぐる状況を知り，予防・対応について学ぶ。<br>・校内連携によって支援を行った実践例を通して支援の方向性について学ぶ。 | 不登校（園）の社会的背景と予防についてまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **保護者支援と教育相談**<br>・職種や校務分掌に応じた教育相談の目標の立て方や進め方について学ぶ。<br>・保護者とのかかわりの重要性，保護者支援について学ぶ。 | 保護者とのかかわりを促進するための手立て，および保護者支援についてまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **学級担任が行う教育相談** | 学級集団づくりのポイント，および問題行動への対応についてまとめる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ・「学級」がもつ予防的機能，教師の相反する二つの指導行動について理解し、学級集団作りのポイントについて学ぶ。<br>・学級集団活動の際に起こりやすい問題行動についての対応方法（行動の機能を分析し，働きかけ方を変える）について学ぶ。 | | |
| 第13回 | **学校全体で進める教育相談**<br><br>・教育相談の計画の作成や校内体制の整備、及び組織的な取り組みの必要性について学ぶ。<br>・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー配置の背景，職務と役割について学ぶ。<br>・チーム支援の進め方について学ぶ。 | 校内組織体制とそれぞれの役割，チーム支援と校内連携についてまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **専門機関との連携**<br><br>・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について学ぶ。 | 地域にある専門機関について調べる。 | 4時間 |

SP-5025-3-2

| 授業科目名 | 教育相談と学校カウンセリング | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 金子　真理子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 中学校教諭、臨床心理士、京都府スクールカウンセラーとしての実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

この授業では、学校教育相談の意義と理論と方法について学校現場の実際に照らしながら学習する。学校現場で現在起こっていることについて幅広く紹介するとともに、興味・関心を自ら深めていく考え方も学ぶ。教育相談をすべての教師が行う教育活動の一環と捉え、「子どもを育てるカウンセリング」のための態度を学び「自分も育てる」ことを目標とする。またカウンセリングについての基礎的な知識、カウンセリングの諸理論について理解することも目標とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教育相談の意義・理論・方法を理解する。 | 実際の教育現場で使える技法を習得し、教育相談を有効利用できるようになる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 学習内容に関するミニレポート | 40　% | ：　学習内容についての理解度を評価する。 |
| レポート | 60　% | ：　レポート課題について、授業内容を踏まえ、論理的に記述できているか評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

内田利広　内田純子　2011　スクールカウンセラーの第一歩:学校現場への入り方から面接実施までの手引き
会沢信彦・安齋順子(編著)　2010　教師のたまごのための教育相談
黒沢幸子　2002　指導援助に役立つ　スクールカウンセリング・ワークブック　金子書房
一丸藤太郎・菅野信夫　2002　学校教育相談　ミネルヴァ書房
大前玲子・小野田正利　2015　体験型ワークで学ぶ教育相談　大阪大学出版会

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

場所：　　授業実施教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **教育相談の意義**<br>受講内容について説明する。<br>教育相談の意義や意味を学ぶ。 | 教育相談の意義について復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **教育相談の種類**<br>学校組織における教育相談について理解を深める。<br>教育相談・カウンセリング・生徒指導の異同について学ぶ。 | 教育相談の種類について復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **教育相談の理論と技法**<br>教育相談において必要となる理論を学ぶ。治療的・予防的・開発的カウンセリングについて学ぶ。教師として教育相談をどのように活用するか、児童・生徒とに対する向き合い方などにも触れる。 | 教育相談の理論と技法・カウンセリングについて復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **教育相談とカウンセリング**<br>教育相談で活用できるカウンセリング技術について学ぶ。カウンセラーはどのようにカウンセリングを行っているか。理解を深めるとともに、教育相談にどう生かしていくかを学び、活用できるようにする。 | カウンセリング技術について復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **スクールカウンセラー・校内及び関係機関との連携**<br>スクールカウンセラーの活用、校内・関係機関との連携の際に方法などについて学ぶ。実際に起こっている事例を元に、それぞれがどのような関りをしているかについても理解を深める。 | スクールカウンセリングについて復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **学級経営に生かす学校教育相談**<br>教育相談的な個及び学級へのアプローチを学ぶ。児童・生徒、学級、学年、学校全体をどう見立てていくか、そこに対する有効なアプローチの方法について学ぶ。 | 学級経営に有効な教育相談について復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **教師の自己理解**<br>指導・支援につなげる自己理解を学ぶ。自己理解をすることにより、自分の強み・弱み・特技・気をるける点などを客観的に理解する。 | 自己理解について復習しまとめておく。他に自己理解する方法について調べておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **小学校における子どもの問題**<br>小学校における発達の特徴と課題について学び、問題行動について検討する。問題行動の裏にある理由について考えを深める。 | 小学生における子どもの問題について復習しまとめておく。他に起こり得る問題について調べておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **中学校・高等学校における子どもの問題**<br>中学校・高等学校における発達の特徴と課題について学び、問題行動について検討する。この時期特有の問題行動、その背景となっていることについて理解を深める。 | 中学校・高等学校における子どもの問題について復習しまとめておく。他に起こり得る問題について調べておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **虐待の理解と支援**<br>虐待の理解と支援について学ぶ。虐待件数は年々増加の一途となっている。虐待とはどのようなものかについての正しい知識と、現在起こっていることについての理解とどのように対応するべきかについて学ぶ。 | 虐待の理解と支援について復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **発達障害の理解と支援**<br>発達障害の特徴と支援の方法を学ぶ。発達に課題を持つ児童・生徒を理解するとともに、必要な支援はどのようなものかを具体的に考える。 | 発達障害の理解と支援について復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **精神疾患の理解と支援**<br>学校現場で遭遇しやすい精神疾患について学ぶ。10代でも発症する可能性がある精神疾患について正しく理解する。またどのように対応するべきかについても学ぶ。 | 精神疾患の理解と支援について復習しまとめておく。他の精神疾患についても調べておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **保護者への理解と対応**<br>保護者支援という観点から保護者への対応を学ぶ。保護者に対応する時に気を付けるべき点と、心構えについて学ぶ。実際の事例にも触れ、対応についてより実践的に考えを深める。 | 保護者への理解と対応について復習しまとめておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **いじめの問題の理解と対応**<br>学校で起こっているいじめの問題について学ぶ。現在どのようないじめが起こっているのか、正しく理解をし、対応について考える。 | いじめの問題の理解と対応について復習しまとめておく。 | 4時間 |

SP-5026-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **福祉と介護** | | | | |
| 担当教員名 | **森本　創** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 中学校教員、社会福祉施設、社会福祉事務所で勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

小中学校の教員免許取得において社会福祉施設での介護等体験実習は必須であり、そのために必要な福祉と介護に関する基礎的知識を身につける。そして、教師として重要である児童生徒の家庭環境やその背景となる社会への洞察力を培うとともに、さらには一人ひとりの児童生徒をより深く理解しようとする福祉的態度を養うことを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 社会福祉の歴史と制度、多様性への理解、共生社会 | 福祉と介護に関する基礎的知識と教師として必要な福祉的態度を身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

本科目ではすべての授業を受講することを原則とし、原則公休は認めていない。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業への参加度 | 20 % | ： 積極的に授業に参加し、自分の意見を論理的に発表する。 |
| 毎回の課題シートの提出による授業理解 | 20 % | ： 講義内容を理解し、自分の考えを論理的に文章表現できる。 |
| 筆記試験またはレポート提出 | 60 % | ： 課題に対して論考するために必要な基礎的知識を身につけると共に、自分の考えを論理的に述べる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『新　社会福祉とは何か』（大久保秀子著　中央法規）
『教師を目指す人の介護等体験ハンドブック』（現代教師養成研究会編　大修館書籍）
『よくわかる社会福祉施設』（社会福祉法人全国社会福祉協議会　図書印刷）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は社会福祉全般についての基礎的知識理解と教師として重要な福祉的態度を養うことを目的としており、常に社会の事象や動向に関心を持つことが大切である。また、与えられた事前課題や次回の授業に向けた予習に取り組むと共に、授業中は自分の意見を発表するなど、積極的に授業に参加することにより、到達目標の達成を目指している。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 授業の前後

**場所：** 授業の教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、授業概要および導入（到達目標・評価方法・その他注意点）**<br>・学生自身の社会福祉に関する知識や理解を確認する。<br>・学生自身の将来の目標とそれに向けての意識を確認する。<br>・授業の目的と意義を理解し、本授業への動機づけとする。 | 本授業受講の目標を明確にする。 | 4時間 |
| 第2回 | **現代社会における社会福祉の意義と目的**<br>・社会福祉とは何かについて考え、その意義を理解する。<br>・社会福祉の概念と理念を理解する。<br>・教師を目指す学生が社会福祉を学ぶことの意義を理解する。 | 社会福祉の概念と理念に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **社会福祉のあゆみ1**<br>・我が国の社会福祉の歩みと到達点を理解する。<br>・滋賀県の社会福祉の現状と課題への理解を深める。 | 我が国の社会福祉の歩みに関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **社会福祉のあゆみ2**<br>・ヨーロッパの社会福祉の歩みと到達点を理解する。<br>・我が国と諸外国の社会福祉の特徴を比較し、その違いについて考える。 | ヨーロッパの社会福祉の歩みに関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **セーフティネットと公的扶助1**<br>・生活保護の意義と目的を理解する。<br>・生活保護制度への理解を深める。 | 社会福祉の法制度と行政機関に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **セーフティネットと公的扶助2**<br>・セーフティーネットをめぐる日本と諸外国との違いを理解する。<br>・生活保護の現状と課題についての理解を深める。 | 生活保護の意義と目的に関する資料への理解を深め、それに対する自分の意見や考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **子ども家庭福祉と現代社会の課題1**<br>・子ども家庭福祉の法制度と行政機関を理解する。<br>・子ども家庭福祉の相談機関と施設を理解する。 | 事前に児童福祉施設の種別と役割について調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **子ども家庭福祉と現代社会の課題2**<br>・子ども家庭福祉の現状と課題について理解を深める。<br>・少子化問題についての理解を深め、その対策を考える。 | 事前に子ども家庭福祉をめぐる問題について調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **高齢者福祉と現代社会の課題1**<br>・高齢者福祉の法制度と行政機関を理解する。<br>・高齢者福祉の相談機関と施設を理解する。 | 事前に高齢者福祉施設の種別と役割について調べる。 | 4時間 |
| 第10回 | **高齢者福祉と現代社会の課題2**<br>・高齢者福祉の現状と課題について理解を深める。<br>・高齢化問題についての理解を深め、その対策を考える。 | 事前に高齢者福祉をめぐる問題について調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **障害者福祉と現代社会の課題1**<br>・障害者福祉の法制度と行政機関を理解する。<br>・障害者福祉の相談機関と施設を理解する。<br>・主な障害とその特徴を理解する。 | 事前に障害者福祉施設の種別と役割について調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **障害者福祉と現代社会の課題2**<br>・障害者福祉の現状と課題についての理解を深める。<br>・「障害者権利条約」について学び、その意義や目的を理解する。 | 事前に障害者福祉をめぐる問題について調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **インクルーシブな共生社会を目指して1**<br>・これまでの授業を振り返り、我が国の現状と課題への理解を深める。<br>・「インクルーシブな共生社会」に向けた具体的取り組みについて理解する。 | 事前に興味関心のある福祉課題について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **インクルーシブな共生社会を目指して2**<br>・「インクルーシブな共生社会」の実現への課題について考える。<br>・「インクルーシブな共生社会」の実現に向けて、教師として社会人としてできることを考える。 | 「インクルーシブな共生社会」とはどのような社会なのか事前に考えまとめる | 4時間 |

SP-3102-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（川合）** | | | | |
| 担当教員名 | **川合　英之** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 高等学校教員(17年）、高等学校長（2年）、京都府教育委員会指導主事から保健体育課長までを歴任（12年）、元水球競技日本代表コーチ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全２８回） | | | | |

**授業概要**

本講義では、保健体育科教育学について深く学ぼうとするゼミ学生が基本的に習得しなければならない内容を中心に学修する。受講生が課題・論文等を要約した資料を作成して発表を行い、他の受講生の質疑を受けるスタイルで授業を進め、学習者が相互に理解を深め合う。
また、研究についての理解を深めるため、先行研究、各種文献などを調べ、研究の進め方、視点、具体的方法の検討、結論の導き方などについて理解するとともに、その発表方法についても習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 保健体育科教育学の理解 | 保健体育科教育学領域で学ぶべき内容を理解し説明できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 研究論文の理解 | 保健体育科教育学や学校教育に関する研究論文等を精読し、内容の要約と問題点の指摘ができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践 | 保健体育教員に必要な授業の実践力を身に付ける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 毎時のコメントカード | 30　% | ： | 講義内容及び意見・感想をまとめている。 |
| 課題発表 | 40　% | ： | 10点×4回<br>8～10点：内容・発表がよく理解で6から6～7点：内容・発表が理解できる。5点以下：内容・発表を行った。 |
| 課題レポート | 30　% | ： | 21点～30点：指定の形式に沿って独自の視点で書かれている。<br>20点以下：指定の形式に沿って書かれている。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 高橋健夫 | ・新版体育科教育学入門 | ・大修館書店 | ・2010　年 |

**参考文献等**

学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
保健体育科教員を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を中心に学習していくため、主体的に取り組むこと。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **保健体育科教育学の性格と領域**<br>保健体育科教育学とはどのような学問か、保健体育科教育学ではどのような研究が行われるのか、保健体育科教育学で何を学ぶのかについて学修する。 | 保健体育科教育の領域について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **保健体育科教育を取り巻く制度的条件**<br>教育制度とは何か、教育課程に関連する法令、教師教育に関する法令、スポーツの振興、子どもの体力向上に関する施策について学修する。 | 教育制度について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **保健体育と学習者**<br>子どもの運動に対する欲求とその変化、子どもの運動に対する態度とパーソナリティの関係、子どもの体力と運動技能の発達について学修する。 | 子どもの運動について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **保健体育の目標と内容**<br>保健体育の目標の設定構造、学習指導要領における目標の変遷、先進諸国における保健体育の目標、保健体育の目標と内容領域について学修する。 | 学習指導要領について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第5回 | **保健体育のカリキュラムの構成**<br>カリキュラムと教育課程、カリキュラム構成法、学校体育のカリキュラムの基準としての学習指導要領、新学習指導要領における保健体育のカリキュラムについて学修する。 | 保健体育科のカリキュラムについて発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第6回 | **よい体育授業の条件**<br>よい体育授業とは、二重構造で成り立つよい体育授業の条件、よい体育授業のための基礎的条件、よい体育授業のための内容的条件について学修する。 | よい体育授業とはどのようなものか、発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **保健体育の教材・教具論**<br>教材・教具とはなにか、教材づくりの基本的視点、単元教材の創出、教材のサイズ、教材の機能を高める「教具づくり」について学修する。 | 教材・教具について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **保健体育の学習指導論**<br>学習指導論の問題領域、学習指導の多様性、ストラテジーとしての学習指導について学修する。 | 学習指導の多様性について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **保健体育の学習形態論**<br>学習形態の考え方、保健体育の学習形態論、これからの学習形態の考え方について学修する。 | 保健体育授業の学習形態について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第10回 | **保健体育の学習評価**<br>保健体育の学習評価をめぐる課題、学習評価の考え方、体育における目標に準拠した学習評価の視点、学習指導があっての学習評価について学修する。 | 保健体育科の学習評価について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第11回 | **保健体育の授業評価**<br>保健体育の授業評価、授業評価の具体的な方法、授業評価を活用した研修の進め方について学修する。 | 保健体育科の授業評価について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **保健体育科教育の今日的課題**<br>保健体育科教育における今日的課題について学修する。 | 保健体育科の今日的課題について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の領域と課題設定・研究方法に関して**<br>各自が興味を持った過去の卒業研究を読み、その概要と問題点を発表する。 | 過去の卒業研究を調べ課題設定について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究課題の発表と検討**<br>各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表する。効果的なプレゼンテーション方法検討する。 | 卒業研究テーマと動機・目的・方法について発表の準備を行う。 | 4時間 |
| | 各自の卒業研究テーマと動機・目的・方法を発表する。効果的なプレゼンテーション方法検討する。 | | |
| | | | 4時間 |
| | | | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 4時間 |

SP-3102-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（大西）** | | | | |
| 担当教員名 | **大西　祐司** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

自身のスポーツに関する興味関心や疑問を手掛かりに、教師に求められる専門的知識や実践的指導力の基礎を培っていく。前半では、教師に求められる実践的指導力を向上させるために、それぞれの専門種目に関するマイクロティーチングを中心とした活動を行う。後半では、4年次の卒業研究に向け、興味のある論文や書籍を読み進め、周辺的知識を蓄え、仲間と共有する。最終的には、ミニ卒論として研究テーマを定め、卒業研究に向けた論文の作成し、発表を行う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | マイクロティーチング | 一人で体育授業を計画・実施することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 関連書籍や論文の検索と閲読 | 興味関心のある領域の知識を身に付ける。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | マイクロティーチング、ミニ卒論 | 主体的かつ協働的に活動に取り組むことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| マイクロティーチング | 30 % | ： 担当回のマイクロティーチングの計画と実施を30点満点で評価する。 |
| ミニ卒論 | 40 % | ： 授業のまとめ取り組むミニ卒論とその発表をルーブリックを用いて40点満点で評価する。 |
| 活動への取り組み | 30 % | ： 主体的かつ協働的な取り組みを30点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

岡出美則ほか（2021）体育科教育学入門 三訂版（大修館書店）
適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教師は専門的な知識や実践力はもちろんのこと、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、仲間やチームに対応する力も求められます。教師を目指す仲間とともに切磋琢磨して学びましょう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　大西研究室（B206）

**備考・注意事項**：　本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

教師は専門的な知識や実践力はもちろんのこと、豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、仲間やチームに対応する力も求められます。教師を目指す仲間とともに切磋琢磨して学びましょう。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション：目標の設定、役割分担**<br>本講座の目標と計画を確認する | なりたい教師像について考えてくる | 4時間 |
| 第2回 | **マイクロティーチングの実施計画①**<br>自身の専門種目の資料や学習指導要領解説の読み込む | 該当する専門種目の資料収集 | 4時間 |
| 第3回 | **マイクロティーチングの実施計画②**<br>マイクロティーチングの単元計画及び指導案の作成を行う | 学習指導要領の確認 | 4時間 |
| 第4回 | **マイクロティーチングの実施計画③**<br>マイクロティーチングのシナリオ作成を行う | シナリオを考える | 4時間 |
| 第5回 | **マイクロティーチングの実施とリフレクション**<br>マイクロティーチングを実施し、リフレクションを行う | リフレクションの観点の確認、過去の卒業論文を読んでくる | 4時間 |
| 第6回 | **卒業論文について①**<br>文献の収集方法を知り、関連論文を収集する | 興味のある研究キーワードを考える | 4時間 |
| 第7回 | **卒業論文について②**<br>キーワードに関する関連論文を読み、要約表を作成し紹介する | 文献をファイリングする | 4時間 |
| 第8回 | **卒業論文について③**<br>収集した関連論文をもとにミニ卒論のテーマを設定する | 必要に応じて文献を追加する | 4時間 |
| 第9回 | **卒業論文について④**<br>ミニ卒論の研究計画を立てる<br>論文の書き方を知る | 論文の書き方を知る | 4時間 |
| 第10回 | **卒業論文について⑤**<br>ミニ卒論の構成を理解し、作成する | 必要に応じて文献を追加する | 4時間 |
| 第11回 | **卒業論文について⑥**<br>ミニ卒論の読み合わせを行い、完成させる。 | ミニ卒論を修正する | 4時間 |
| 第12回 | **ミニ卒論発表会に向けて①**<br>ミニ卒論を完成させる | ミニ論文の遂行 | 4時間 |
| | 発表のためのプレゼンテーションの資料とシナリオを作成する | | |
| 第14回 | **ミニ卒論発表会**<br>ミニ卒論発表会の実施と振り返りを行う | 発表の振り返り | 4時間 |

SP-3102-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（黒澤）** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤　寛己** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 高等学校教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

学校現場（小・中・高等学校）における体育・スポーツ指導に関する事項について理解を深めることを目的とする。具体的には「保健体育科教育」に関する基礎的な理論、特別活動「健康安全・体育的行事」や「運動部活動」についての現状の課題を理解し、効果的な指導方法について検討する。また、学校現場での課題や実際の指導方法について事例研究を行う。そして、その結果についてグループディスカッションを行ったり、グループ発表を行うことによって知識及び技能の定着を図る。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 学校現場における体育・スポーツ指導の課題 | 学校現場における体育・スポーツ指導の課題について、自分の意見を発表することができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学校現場における体育・スポーツの効果的な指導方法 | 学校現場における体育・スポーツの効果的な指導方法を提案することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎回の小レポート | 60 % | ： 毎時の課題に対して、適切な内容の文章が書けているかについて評価する。 |
| まとめの課題レポート | 40 % | ： 体育・スポーツの理論を踏まえ、各自が興味関心を持った専門領域のレポートを作成する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

学習内容に即して、適宜参考資料を配布する。また、担当者が作成したワークブックを使用する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

学校スポーツ教育コースの基礎演習科目であるため、教員となることを念頭において自主的・主体的に取り組むこと。少人数グループでの活動を行うため、欠席する際には必ず連絡すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

場所：　　黒澤寛己研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **学校スポーツ教育演習での学びについて**<br>本講義の概要と年間計画を理解する。<br>各自の卒業までの研究計画を作成する。 | 各自の研究計画作成、関連資料の収集 | 4時間 |
| 第2回 | **保健体育科教員に求められる資質・能力**<br>保健体育科教員に求められる資質・能力を理解する。<br>学校経営の基本概念を理解する。<br>学校における保健体育科教員の果たすべき役割を理解する。<br>現行の教員研修制度を理解する。 | 保健体育科教員に関する事例調査 | 4時間 |
| 第3回 | **保健体育科教育学の性格と領域**<br>保健体育科教育学の概要を理解する。<br>保健体育科教育学の先行研究を調べる。 | 保健体育科教育に関する文献の要約と発表資料作成 | 4時間 |
| 第4回 | **保健体育科教育の歴史**<br>戦前・戦後の保健体育科教育について理解する。<br>学習指導要領の変遷を調べる。 | 保健体育科教育の歴史に関する文献の要約と発表資料作成 | 4時間 |
| 第5回 | **保健体育科教育の目標と内容**<br>学習指導要領における教科目標の変遷を調べる。<br>保健体育の目標と内容領域を理解する。 | 保健体育科教育の目標・内容についての要約と発表資料作成 | 4時間 |
| 第6回 | **単元指導計画の作成**<br>評価の観点及び単元の評価規準を作成する。<br>具体的評価規準を作成する。<br>指導と評価について理解する。 | 保健体育科単元指導計画案の事例収集と作成 | 4時間 |
| 第7回 | **体育理論の授業作り**<br>体育理論の学習指導のポイントについて理解する。<br>体育理論の単元計画を作成する。 | 体育理論の先行研究要約と発表資料作成 | 4時間 |
| 第8回 | **保健分野の授業作り**<br>保健分野の学習指導のポイントについて理解する。<br>保健分野の単元計画を作成する。 | 保健分野の先行研究要約と発表資料作成 | 4時間 |
| 第9回 | **体つくり運動の授業作り**<br>体つくり運動の学習指導のポイントについて理解する。<br>体つくり運動の単元計画を作成する。 | 体つくり運動の先行研究要約と発表資料作成 | 4時間 |
| 第10回 | **器械運動の授業作り**<br>学習指導要領における器械運動の内容について理解する。<br>器械運動の授業づくり・教材づくりについて理解する。 | 器械運動の先行研究要約と発表資料作成 | 4時間 |
| 第11回 | **運動部活動の指導計画**<br>運動部活動の指導内容について理解する。<br>運動部活動の評価規準について理解する。<br>運動部活動の指導計画案について理解する。 | 運動部活動指導の先行事例の要約と指導計画案作成 | 4時間 |
| 第12回 | **論文の書き方**<br>先行研究を読み取る。<br>論文の構成を理解する。<br>論文のタイプについて理解する。 | 論文作成に関する文献調査 | 4時間 |
| 第13回 | **文献研究**<br>引用文献の示し方・引用文の作成法を理解する。<br>文献リストの記載方法を理解する。<br>先行研究の提示方法を理解する。 | 論文執筆要項に関する先行事例調査 | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究論文に向けたレポート作成**<br>論文の章立てについて理解する。<br>キーワード・リード文について理解する。 | 授業研究に関する小レポート作成 | 4時間 |

SP-3102-3-1

| 授業科目名 | 学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（高松） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 髙松　靖 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目では、発生論的運動学の視点から、体育授業とスポーツの指導について深く学ぼうとするゼミ学生を対象とし、体育およびスポーツに携わる指導者として、基本的に習得すべき内容を学習する。体育の現場、あるいはスポーツの現場に起こる諸問題を挙げ、その事例について、受講生がそれぞれの考えを発表し、ディスカッションすることにより、問題解決に向けた方法を学習する。他の受講生とのディスカッションを通して、理解を深めていくようにする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 運動学習の構造理解 | 運動学習における位相構造や運動の構造について理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ運動におけるコツの表現 | あらゆるスポーツにおいて，運動学的観点から動きのコツを表現することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎時の小レポート | 50 % | ： 授業内で学習した発生論的運動学の理論を理解できているか小レポートで評価します。 |
| 課題プレゼンテーション | 30 % | ： 過去の卒業研究を要約し、各自の考えを述べられているか課題発表で評価します。 |
| 最終レポート | 20 % | ： 各自の卒業研究テーマの課題意識を述べられているか最終レポートで評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

マイネル．K　著　スポーツ運動学（大修館書店）
金子明友　著　身体知の形成上・下（明和出版）
高橋健夫　編著　体育科教育学入門（大修館書店）
金子明友　著　身体知の構造(明和出版)
金子明友　著　スポーツ運動学（明和出版）
金子明友　著　わざ伝承の道しるべ（明和出版）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本講義は、後期2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
保健体育科教員、スポーツ指導者を目指す学生として、最低限学んでおかなければならない項目や内容の検討を、運動学的視点から学習していく予定ですので、主体的に取り組んで欲しいと思っています。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 月曜2限（10:30-12:10）

**場所：** 髙松研究室（B205）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **発生論的運動学の性格と領域について**<br>発生論的運動学とはどのような学問か、どのような研究が行われるのかを学習する。 | 各自、学問領域の要約をする | 4時間 |
| 第2回 | **身体知の構造分析－始原論的構造分析について－**<br>発生論的運動学の身体知構造分析における始原論的構造分析について学習する。 | 各自、身体知の始原論的構造分析の要約をする | 4時間 |
| 第3回 | **身体知の構造分析ー体系論的構造分析についてー**<br>発生論的運動学の身体知構造分析における体系論的構造分析について学習する。 | 各自、体系論的構造分析の要約をする | 4時間 |
| 第4回 | **身体知の構造分析ー動感言語の体系についてー**<br>動感言語の体系論、体系論の縁取り分析とその方法について学習する。 | 各自、動感言語の体系について要約をする。 | 4時間 |
| 第5回 | **地平論的構造分析について**<br>動感創発地平分析とは、動感促発地平分析とは何かを学習する。 | 各自、地平論的構造分析の要約をする | 4時間 |
| 第6回 | **動感創発地平分析について**<br>動感創発領域における「形態化地平分析」「修正化地平分析」「自在化地平分析」とは何かを学習する。 | 各自、動感創発分析の要約をする | 4時間 |
| 第7回 | **動感促発地平分析について－素材化地平分析－**<br>動感促発領域における「観察地平分析」「交信地平分析」「代行地平分析」とは何かを学習する。 | 各自、素材化地平分析の要約をする。 | 4時間 |
| 第8回 | **動感促発地平分析について－処方化地平分析－**<br>動感促発領域における「道しるべ地平分析」「動感提示地平分析」「促発起点地平分析」とは何かを学習する。 | 各自、処方化地平の要約をする | 4時間 |
| 第9回 | **発生論的運動学領域の現場の役割と課題**<br>発生論的運動学の役割、身体知分析論の問題性、指導者養成の諸問題について学習する。 | 各自、発生論的運動学の役割と課題について要約する | 4時間 |
| 第10回 | **運動学習の意味について**<br>体育で何を学習するのか、活動内容としての運動学習、運動学習とその基礎理論、運動学習指導に求められるものについて運動学的視点から学習する。 | 各自、運動学習の意味について要約する | 4時間 |
| 第11回 | **運動学習と授業研究を考える**<br>授業研究で問題となること、運動学習指導のあり方について運動学的視点から学習する。 | 各自、運動学習と授業研究について要約する | 4時間 |
| 第12回 | **動きに構造を見つける**<br>動きの先取りを見つける、動きに系統性を見つける、動きの違いを見つける、修正の仕方を見つける | 各自、動きの構造について要約する | 4時間 |
| 第13回 | **動きかたを覚えさせるー初心者に動きを教えるためにー**<br>動きかたはどのように覚えるのか、覚えるのにどんな情報が必要か、指導ポイントをどうとらえるかについて運動学的な視点から学習する。 | 各自、動き方の指導について要約する | 4時間 |
| 第14回 | **動きかたを覚えさせるー子どもの動きの指導についてー**<br>意欲的に覚えさせるにはどうするか、新しい動きかたにどう取り組ませるか、子どもの動きの可能性をどう引き出し伸ばすかについて運動学的視点から学習する。 | 各自、動き方への取り組み方について要約する | 4時間 |

SP-3102-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（股村）** | | | | |
| 担当教員名 | 股村　美里 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

卒業研究に向けた基礎的力量を養う。基本的な研究方法を学ぶとともに、各自の研究テーマを定め、関連する先行研究を適切に探索し、レビュー・レポートする。その作業に基づいて、卒業研究として論文にまとめる準備を進めていくこととする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校保健に関する知識 | 現代社会における児童生徒の健康課題についての知識を身につける |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 学校保健に関する思考力・判断力・表現力 | 現代社会における児童生徒の健康課題に対して論理的に考察し、自らの意見を明確かつ説得力をもって表現できている。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート課題 | 25 % | ： 授業内容を踏まえた記述ができているか評価する |
| 担当課題発表 | 50 % | ： 与えられたテーマに基づいて、文献レビューあるいは研究を進め、プレゼンテーションを行う。教員を含めた相互評価により評価する。 |
| 最終レポート | 25 % | ： 与えられたテーマに基づいて、指定された形式で論理的な文章が書けているか、評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

その都度、書物、論文、視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）、ホームページなど適宜紹介します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

ガイダンスの時に、半年後の自分の達成目標について明記してもらいます。この講義を通じて、その各々の達成目標がどの程度実現できているか。それは皆さんの主体的な参加にかかっています。それにあたり、指導者としてのサポートをしていきますので、オフィスアワー等を活用し、次年度の卒業研究に向けて準備を進めてください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

場所：　　股村研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **【第１部】学校保健における研究とは①ガイダンスと未来予想図の策定**<br>本演習の全体の内容を把握し、年間を通じた長期目標および半年の中期目標、１か月ごとの目標を立てる | 自らの関心のあるテーマについて、なぜ関心があるのか説明できるように準備をして次回の演習に臨むこと | 4時間 |
| 第2回 | **②各自の研究課題の方向性の探索**<br>各自の興味のある研究課題について発表し、方向性を探る | 各自の興味のある研究課題について発表し、受講者相互で議論されたものを記録しておくこと。 | 4時間 |
| 第3回 | **③卒業研究論文例の紹介**<br>ゼミにおける過年度生の卒業論文のテーマやその内容についてレビューする | 過去の卒業論文について検索し、紹介できるように準備する。さらにそこで得られた疑問やアイデアを記録しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **【第２部】文献購読の実施①文献検索の方法**<br>具体的な文献（日本語論文）検索方法について、演習形式で学ぶ。 | 自らの興味関心のあるテーマについて、適切な文献の検索ができるようになること。 | 4時間 |
| 第5回 | **②学校保健領域における先行研究のレビュー**<br>学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。 | 文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。 | 4時間 |
| 第6回 | **③学校保健領域における先行研究のレビュー**<br>学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。 | 文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。 | 4時間 |
| 第7回 | **④学校保健領域における先行研究のレビュー**<br>学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。 | 文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。 | 4時間 |
| 第8回 | **⑤学校保健領域における先行研究のレビュー**<br>学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。 | 文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。 | 4時間 |
| 第9回 | **⑥学校保健領域における先行研究のレビュー**<br>学んだ文献検索の方法をもとに文献を選び、概要を共有する。 | 文献検索を行い、その文献について紹介するとともに、自らの研究関心とどのような結びつきを持つのか説明できるようになる。 | 4時間 |
| 第10回 | **【第３部】各自の研究課題構想①文献収集の準備**<br>自ら調べたいテーマを確定させ、検索ワードをいくつか定めること。 | 先行研究に徹底的にあたることによって、これまで何が明らかにされていて何がわかっていないのか明文化すること。 | 4時間 |
| 第11回 | **②文献収集の実施**<br>自らの調べたいテーマにおける検索ワードをもとに、文献検索を行い、文献収集を進める。 | 収集した文献は、適宜整理しながら、知見をまとめ、先行研究のリストとしてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **③各自の研究課題構想の文章化**<br>先行研究の知見をもとに、自らが明らかにしたいテーマについての問題の所在を明文化するとともに、発表準備を行う。 | 先行研究の知見を履修者内で共有できるようにプレゼンテーションの準備を行う。またプレゼンテーションの準備として、複数の他者と議論し、意見交換を行うこと。 | 4時間 |
| 第13回 | **【第４部】文献研究の共有　成果発表（１回目）**<br>各自の興味関心をもとに実施してきた文献レビューをもとに、その領域における研究の全体像を俯瞰する | 文献レビューに基づく先行研究の知見を履修者内で共有する。発表の仕方や構成についても互いに評価を行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **中期課題の見直しーこれまでの自分とこれからの自分ー**<br>半年間の文献に基づいた先行研究の探索を振り返って、達成できたこと、まだ不足していることを明確にする | 本演習を通して学んだことを振り返り、第14回目の授業に向けた課題を自ら立てる | 4時間 |

SP-3102-3-1

| 授業科目名 | 学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（山手） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 山手　隆文 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校にて、教諭（担任、体育専科）として勤務した実務経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

学校現場（小・中・高等学校）における体育・スポーツ指導に関して、保健体育科教員としての知識や授業の実践力を身につけることを目的とする。保健体育科教育に関する基礎的な理論、学習指導要領の体育・保健体育の位置づけについて理解し、効果的な指導法について検討する。また、卒業研究に向けて、先行研究を収集し、グループディスカッションや発表を通して共有する。最終的には、４年次の卒業研究に向けて、ミニ卒業研究レポートを作成し、発表する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する知識・技能 | 保健体育科教員に必要な知識・技能を身につけることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 卒業研究に向けての検討・発表 | 先行研究を調べ、卒業研究に向けての資料を収集して発表することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学校現場における保健体育・スポーツ指導に関する実践力の向上 | 保健体育科教員に必要な授業の実践力を身につけることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

本講義では、小レポート、課題発表、最終課題レポートによって評価する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート | 30 % | ： 授業内容を踏まえて、独自の視点で課題について、論述ができているかを評価する。 |
| ミニ卒業研究レポート | 40 % | ： 先行研究を調べ、卒業研究につながる発表になっているかを評価する。 |
| 活動への取り組み | 30 % | ： 主体的かつ協働的に活動に取り組むことができている。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

学習内容に即して、適宜、参考資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション**<br>本講義の概要説明をし、各自の卒業研究計画を考える。 | 各自の研究計画について考える。 | 4時間 |
| 第2回 | **保健体育科教育の目標と内容**<br>学習指導要領における目標と内容領域を調べる。 | 保健体育科教育の目標・内容について理解する。 | 4時間 |
| 第3回 | **各領域の単元づくり①**<br>各領域の授業・教材づくりに取り組む。 | 保健体育科の授業実践事例を収集する。 | 4時間 |
| 第4回 | **各領域の単元づくり②**<br>各領域の授業・教材・指導案づくりに取り組む。 | 過去の指導案を整理・収集する。 | 4時間 |
| 第5回 | **各領域の単元づくり③**<br>試しの模擬授業の計画を立案する。 | 資料を整理し、指導案を作成する。 | 4時間 |
| 第6回 | **各領域の単元づくり④**<br>試しの模擬授業を実施する。 | 指導計画・指導案を検討する。 | 4時間 |
| 第7回 | **各領域の単元づくり⑤**<br>試しの模擬授業を振り返り、指導案を修正する。 | 試しの模擬授業の反省点を踏まえ、指導計画・指導案を修正する。 | 4時間 |
| 第8回 | **各領域の単元づくり⑥**<br>模擬授業の振り返りをする。 | 模擬授業の振り返りを整理してまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **卒業研究論文について①**<br>先行研究の資料を収集する。 | 論文作成に関する文献を収集・要約をする。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究論文について②**<br>収集した先行研究をもとに、ミニ卒業研究レポートテーマを設定し、資料を調べる。 | ミニ卒業研究レポートのテーマを考え、資料を整理する。 | 4時間 |
| 第11回 | **卒業研究論文について③**<br>ミニ卒業研究レポートの作成に取り組む。 | ミニ卒業研究レポートの資料を参考にレポートを作成する。 | 4時間 |
| 第12回 | **卒業研究論文について④**<br>ミニ卒業研究レポート・発表資料を作成する。 | ミニ卒業研究の発表資料を準備する。 | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究論文について⑤**<br>ミニ卒業研究レポートの発表リハーサルをする。 | ミニ卒業研究レポートを互いに振り返り、修正する。 | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究論文について⑥と振り返り**<br>ミニ卒業研究レポートを発表し、来年度の卒業研究について考える。 | 各自の卒業研究計画の方向性を修正・確認する。 | 4時間 |

SP-3202-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | スポーツビジネス基礎演習Ⅱ（石井） | | | | |
| 担当教員名 | 石井　智 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊通年 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 大阪ガス株式会社におけるトップアスリートのマネジメント及び、上流営業部署におけるスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者などの実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

マネジメントの基礎知識および、スポーツマネジメントやマーケティング、スポンサーシップにおける応用知識をもとに社会課題の解決を目指した（卒業研究に向けての）研究課題を決定することを目的とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 自らが考える社会課題を設定し、それを解決するために方策をスポーツ（自らのスポーツ学についての学びやクラブ体験などから）を軸に考察する力の獲得 | スポーツにおける学びや経験が社会課題の解決に役立てることを実感し、社会に出てからも活躍できるという有能感を身に付けることができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 社会課題の発見とそれをスポーツで解決する能力、そしてそれを発信する能力の獲得 | 社会課題の本質を掘り起こし、それをスポーツで解決し、それをわかりやすく発信するスキルを身につける |

**学外連携学修**

有り(連携先：大阪ガス株式会社、株式会社オージースポーツ)

**授業方法**

・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| プレゼンテーション | 60　％ | ：　①研究テーマの発表、②研究の目的および重要性の発表、③研究方法の発表。それぞれが、問題意識が明確であるかなどで評価される：各２０％ |
| レポート | 40　％ | ：　①過去の卒業研究のレビュー、②一般の先行研究のレビュー。先行研究からどのような問題点を明確化するかなどで評価される：各２０％ |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツの組織文化と産業（横山勝彦、八木匡、松野光範編著　晃洋書房）2012年
スポーツ・マネジメント理論と実務（廣瀬一郎　東洋経済新報社）2009年
石井智（2006）　スポーツの価値を企業政策－ＣＳＲの視点から－」、同志社政策科学研究第8巻，135-147ページ

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
４年次の卒業論文に向けた準備を、１年間かけて計画的に行うとともに、情熱を注いで打ち込めるような研究テーマを自ら設定すること。
演習は、研究や実践に関する疑問について学生の皆さんが中心となって議論する場です。議論を活発にするために、毎回各自で発表する「ネタ」をしっかり準備頂く必要があります。演習前半に取り上げる各課題について、「これまで何がどこまで明らかにされてきたのか」、「今後は何を明らかにすべきか」という問いに答えられるようにしましょう。演習後半では皆さん自身が研究課題を決定し、３年生から段階的に卒業研究に取り組んでいきましょう。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよび演習の概説**<br><br>4年次の卒業研究に向けた動機づけと演習の概要の説明。卒業論文は学生が社会で活躍するための設計図であることを意識させ、問題意識の向上とそれを解決するためのスキルを、研究を通じて獲得することを実感することができる。 | 配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解する | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツに対する社会の要請**<br><br>現代社会が抱える課題について文献、ネットを通じてリサーチし、、それを解決することが果たしてスポーツで可能であるかについて理解することができる。 | 事前に配布資料をよく読み、スポーツと社会課題についての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第3回 | **現在のスポーツビジネスについての再評価**<br><br>現在のスポーツビジネスについての事例から成功の秘訣や失敗の本質について検討し、ビジネス自体、社会課題解決を目的とするものが多いという現状を理解することができる。 | 事前に配布資料をよく読み、スポーツビジネスについての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツイベント（メガイベント）の光と影についての検討**<br><br>これまでのメガスポーツイベントの評価を通じて、イベントの品質と顧客満足について学ぶことにいより、平昌オリンピック・パラリンピックの社会的評価を通してスポーツイベントの光と影について理解することができる。 | 事前に配布資料をよく読み、メガスポーツイベントについての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **カスタマーエクイティ（バリュー、ブランド、リレーションシップエクイティ）**<br><br>スポーツの消費者（顧客）の行動本質などカスタマーエクイティについて学ぶことができる。 | 事前に配布資料をよく読み、顧客価値についての各自の疑問についてまとめてくること | 4時間 |
| 第6回 | **参画動機（する、観る、支える）**<br><br>スポーツ消費者の購買動機因子について学ぶことができる。また、新たなマーケットとしてスポーツを支える人たちがどのような消費行動や、価値創造を行うのかについて研究を深めることができる。 | 事前に配布資料をよく読み、スポーツ消費者の動機についての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論１**<br><br>スポーツ観戦者からスポーツファンに変容するメカニズムを検討することによって、観戦者とファンの階層性について理解を深めることができる。 | 事前に配布資料をよく読み、スポーツ観戦者の特性について各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論２**<br><br>スポーツにおける顧客ロイヤルティについて学ぶことができる。また、製品関与についても学びを深めることができる。 | 事前に配布資料をよく読み、顧客ロイヤルティについての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論３**<br><br>スポーツ企業は今後スポーツの何を売っていくのか、という課題について、単なる製品やサービスだけでなく、感動を共有するなどの経験価値をいかに創造して販売するのかなどを視点に、企業としての戦略や組織マネジメントについて学ぶことができる。 | 事前に配布資料をよく読み、活性化した組織についての各自の考えをまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論４**<br><br>ブランド価値について学ぶことができる | 事前に配布資料をよく読み、ブランド価値についての各自の疑問についてまとめてくること | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論５**<br><br>アスリートは自らの価値をどう高めていくのかという課題について、アスリートのブランド価値の本質と価値創造という視点から学ぶことができる。 | 事前に配布資料をよく読み、アスリートの価値についての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論６**<br><br>スポーツにおけるブランドコミュニティについて学ぶことができる。 | 事前に配布資料をよく読み、ブランドコミュニティについての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツビジネスの持続可能性の理論と方法論７**<br><br>企業の社会的責任（CSR）について学ぶことができる。 | 事前に配布資料をよく読み、CSRについての各自の疑問についてまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **前期のまとめおよび総評**<br><br>前期のまとめとして（１）現代社会に生起する課題をグループごとにピックアップし、（２）なぜ起こるのか、（３）その課題を解決するためにスポーツは何ができるのか、について議論し（４）その解決策を考え、COC+のビジネスアイデアプランコンテストに出場し、他大学の学生の考えや、審査員などの社会人からの意見をいただくことによって、問題意識の向上、プレゼン作成スキルの向上を可能にすることができる。 | 発表の準備を行う | 4時間 |
| 第15回 | **後期の演習に関するオリエンテーションおよび演習の概説**<br><br>後期の演習の概要および卒業研究の意義を知ることができる。学習成果の発表・確認として、スポーツビジネスプランコンテストにエントリーし、発表を行うことを義務付ける。 | 配布資料をよく読み、演習の目標および流れについて理解しておくこと | 4時間 |
| 第16回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ー情報収集）** | 第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ゼミをふたつの班に分け、それぞれテーマの選定と情報収集として先行研究の渉猟を行い、毎回ひとりずつ、収集の成果（文献の内容）について発表を行い、他のメンバーとのディスカッションを行う。先行研究については学国語文献も含まれる。 | | |
| 第17回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ー情報収集2）**<br><br>各班ごとに収集の成果（文献の内容）について発表を行い、他のメンバーとのディスカッションを行う。 | 担当者は発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる | 4時間 |
| 第18回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ー情報収集３）**<br><br>班ごとに収集の成果（文献の内容）について発表を行い、他のメンバーとのディスカッションを行う。 | 担当者は発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめる | 4時間 |
| 第19回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ー実践活動）**<br><br>外部提携組織（NPO法人等）が企画するスポーツイベントに企画から参画し、目的を明確化した（集客、地域活性化等）イベントに参加することによって、お客様の反応等を感じることができる。 | イベントに必要な備品をそろえる等準備を行う | 4時間 |
| | 外部提携組織（NPO法人等）が企画するスポーツイベントに企画から参画し、目的を明確化した（集客、地域活性化等）イベントに参加することによって、お客様の反応等を感じることができる。 | | |
| 第21回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ー振り返り）**<br><br>イベントにおいてはそれぞれの班の問題意識からアンケート調査を実施し、先行研究における結果との比較等、研究に必要な方法論を学ぶことができる | アンケート調査の集計、解析 | 4時間 |
| 第22回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ーデータ解析）**<br><br>アンケート調査の解析の方法を学ぶことができる。またその結果をどうプレゼン資料に仕上げていくのかを学ぶことができる | プレゼン資料の作成 | 4時間 |
| 第23回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ープレゼン資料作成**<br><br>調査、分析したデータや先行研究との比較、考察等の研究成果をどうストーリー化し、プレゼンにつなげていく方法について学ぶことができる | プレゼンススキルについて先行研究にあたる | 4時間 |
| 第24回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ープレゼン練習）**<br><br>担当学生が実際にプレゼンし、それを他のメンバーが評価することによって、徐々に高いプレゼンスキルを獲得することができる | 第三グループは各自のテーマについて（１）文献の要約、（２）研究群の整理、（５）問題点についてまとめ、人数分の配布資料を準備してくること。その他は各自の考えをまとめる | 4時間 |
| 第25回 | **ビジネス提案の実践（ビジネスプランコンテストにおける発表資料作成のための活動ープレゼン練習**<br><br>担当学生が実際にプレゼンし、それを他のメンバーが評価することによって、徐々に高いプレゼンスキルを獲得することができる | 第一グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく | 4時間 |
| 第26回 | **卒業研究における研究方法の検討１**<br><br>4年次生の卒業研究中間発表会を視察し、研究方法について、（１）研究環境、（２）研究の種類、（３）測定尺度、（４）調査概要、（５）サンプリング方法をまとめ、発表できる。 | 第二グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく | 4時間 |
| 第27回 | **卒業研究における研究方法の検討２**<br><br>研究方法について、（１）研究環境、（２）研究の種類、（３）測定尺度、（４）調査概要、（５）サンプリング方法をまとめ、発表できる。 | 第三グループは発表の準備。その他は各自の研究課題の問題意識からの質問考えをまとめておく | 4時間 |
| 第28回 | **まとめ：マネジメント、マーケティング調査研究まとめ：卒業論文の実施に向けた留意点**<br><br>後期の授業を通して疑問に思ったこと、十分な理解が進まずもう一度説明が必要なトピックス、研究を実施する際の不安材料などを書き出し、それについて議論するできる。<br><br>１年間の取組を総括し、卒業論文の目的、重要性、意義、流れについて理解できる | 議論の準備 | 4時間 |

SP-3202-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス基礎演習Ⅱ（城島）** | | | | |
| 担当教員名 | **城島　充** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療取材などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家としてさまざまなテーマで執筆活動を続けた。以上の実践経験を講義内容に結びつけている。（全28回） | | | | |

**授業概要**

スポーツの魅力や問題点を伝えるジャーナリズムには、その時代のなかでそれぞれのスポーツシーンを切り取る視点が必要とされる。数多くのスポーツノンフィクション作品や新聞記事ををスクラップ帳にまとめ、熟読することでその視点を身につけたい。社会の変化とともに、ジャーナリズムの世界も多様化しており、それぞれのツールによる伝え方の違いも学ぶ。東京オリンピック・パラリンピックに関する動きも含め、そのときどきの話題をテーマに議論を深めていきたい。取材、執筆、編集、校閲作業を通じて実践的な能力も習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | ジャーナリズムの視点からみたスポーツの魅力の追求。 | さまざまなスポーツシーンを独自の視点で切り取ることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 文章で自分の思いや考えを伝える力 | ジャーナリズムの世界で切り取られたさまざまな視点から社会の森羅万象を学び、自分自身の視点と文章で伝える表現力を磨く。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 多様化する社会のなかに顕在化、あるいは潜在化する問題をジャーナリズムを通じて学ぶ。 | ジャーナリズムを通じて社会のあらゆる問題点、あるいは人間の素晴らしさについて学び、社会生活に役立つ基礎的な力を身につけることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| レポート提出 | 100 % | ： それぞれがスクラップした記事のなかから1つを選択し、その記事から何を感じたのか、レポートする。すべてのレポートをまとめて100点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

文藝春秋スポーツグラフィック誌「Number」に発表されたスポーツノンフィクション作品。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよび演習の概説**<br>授業のスケジュールや進め方、達成目標を確認し、評価方法などを説明する。Number誌の作品から気になった作品を一部選択する。 | 選択した作品を熟読する。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツノンフィクション入門** | 他の人が選んだ作品も熟読する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 前回の授業で選んだ作品についての批評会を行う。作者の視点がどこにあったのかを把握できているかどうかをチェックする。 | | |
| 第3回 | **スポーツノンフィクションの視点**<br>実際にどんな視点でスポーツノンフィクション作品が紡がれてきたのか。日本のスポーツノンフィクションの金字塔的作品と呼ばれる山際淳二氏の「江夏の21球」をはじめ、いくつもの作品を例にあげながら、その多様性について学ぶ。 | 例にあげた作品を熟読する。 | 4時間 |
| 第4回 | **新聞ジャーナリズムの研究**<br>一般紙、スポーツ紙の記事について検証する。雑誌で発表されるノンフィクションとの違いを学ぶ。 | 図書館で一般紙とスポーツ紙の朝刊に目を通し、関心のあるスポーツニュースを見つけておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **フォトジャーナリズムの研究**<br>スポーツの一瞬のシーンを切り取るフォトジャーナリズムについて研究する。一枚の写真が伝えるものはなにか。いくつかの作品を例にあげながら、その魅力と問題点について考察する。<br>。 | 図書館で新聞や雑誌のバックナンバーを調べ、印象に残った写真をコピーしておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **映像ドキュメンタリーの研究**<br>スポーツをテーマにした映像ドキュメンタリーについて研究する。実際に発表された作品を検証しながら、活字ジャーナリズムとの違い、その魅力と問題点について考察する<br>。 | 映像と活字ジャーナリズムの違いについて復習し、テレビが日々伝えるスポーツニュースから興味を持った映像を見つけておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツノンフィクションが完成するまで**<br>実際にどんな形でNumber誌の作品をできあがっていくのか。教員の作品をモデルに、企画の準備段階にやるべき作業や、締め切りを含む担当編集者とのやりとり、ゲラ検の内容などについて学ぶ。 | 作品が完成するまでのプロセスをしっかりと復習しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツコラムを書く**<br>自らのスポーツ体験をモチーフにコラムを書く。テーマを絞ることを意識して1200字程度の作品を書き上げる。 | 自分が書いた作品を徹底的に推敲する。 | 4時間 |
| 第9回 | **コラム批評会**<br>書き上げたコラムを全員が発表し、批評会を行う。 | 批評会で出た指摘を受け止め、作品を改稿する。 | 4時間 |
| 第10回 | **写真でスポーツを表現する**<br>自分の身近なスポーツシーンをカメラで撮影する。 | 一枚の写真にどんな意図を込めたのか、しっかりと復習する。 | 4時間 |
| 第11回 | **写真批評会**<br>撮影した写真を全員が発表し、批評会を行う。 | 批評会で出た指摘を受け止め、どんな写真を撮れば意図が伝わるのかを検証する。 | 4時間 |
| 第12回 | **テーマを選ぶ視点を学ぶ**<br>国内外を問わず、さまざまなスポーツシーン、アスリートについて学習し、そのなかでどんなテーマで取材を進めていくのか、ディスカッションしながら進めていく。 | さまざまな文献に目を通し、自分の視点でテーマを。 | 4時間 |
| 第13回 | **取材活動の準備**<br>自分たちならどんな記事が作れるのか、意見を出し合う。文献調査とインタビュー調査の対象者を絞っていく。 | どんな取材をすれば、いいのか。ゼミ活の内容をふまえて熟考する。 | 4時間 |
| 第14回 | **事前取材**<br>それぞれが決めたテーマについて、どんな関連記事があるのか。学術的な先行研究も含めて調べていく。 | 文献調査とインタビュー調査の基本について復習する。 | 4時間 |
| 第15回 | **取材活動の実践**<br>それぞれが決めたテーマについて、対象者やシーン、歴史を実際に取材する。 | 取材した内容を整理する。 | 4時間 |
| 第16回 | **記事原稿に使う写真の選定**<br>取材対象に関係した写真を集める。 | 撮影した写真を整理する。 | 4時間 |
| 第17回 | **取材の成果を整理する**<br>インタビュー調査の文字起こしや集めた資料の整理に取り組む。 | 必要な内容が手元に集めっているか確認する。 | 4時間 |
| 第18回 | **書き出しと構成について学ぶ**<br>原稿用紙6枚のボリュームでノンフィクション作品を書くにあたり、まずは書き出しと構成の工夫の仕方について学ぶ | 自分の好きな作品の書き出しを手元に集めておく | 4時間 |
| 第19回 | **ノンフィクション作品の執筆**<br>構成にしたがって、実際に文章を書いていく。 | プロの作品に目を通しておく。 | 4時間 |
| 第20回 | **ノンフィクション作品を完成させる**<br>原稿用紙6枚ｈどのボリュームのノンフィクション作品を完成させる | 自分の書いた作品を何度も推敲しておく | 4時間 |
| 第21回 | **作品のプレゼンと批評会** | 他の人の作品を何度も読み返しておく | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | それぞれの作品のテーマと視点をプレゼンテーションしたあと、作為を全員で読みあって批評しあう。 | | |
| 第22回 | **インタビュー実習**<br>実際にゲストスピーカーへのインタビューを行う。 | 取材したゲストスピーカーの言葉を整理する。 | 4時間 |
| 第23回 | **インタビュー実習作品の執筆**<br>教員が実際に取材したアスリートのテープお越しを参考に、インタビュー原稿を作成する。 | テーマからそれずに作品が書けているか、確認しておく。 | 4時間 |
| 第24回 | **インタビュー実習作品の批評会**<br>書き上げた作品を全員が発表し、批評会を行う。 | 批評会で出た指摘を受け止め、作品を改稿する。 | 4時間 |
| 第25回 | **テレビジャーナリズムについて学ぶ**<br>映像ドキュメンタリー番組を見て、活字ジャーナリズムとの違いについて学ぶ | 映像ジャーナリズムの役割について文献を集めておく | 4時間 |
| 第26回 | **テレビ局見学**<br>テレビ局(びわこ放送)を見学し、ローカルメディアがどんな形で取材活動をしているのか、現場のスタッフたちから学ぶ | びわこ放送が制作した番組を視聴しておく | 4時間 |
| 第27回 | **海外のニュース報道について学ぶ**<br>イギリスのBBCやアメリカのCNNが、ロシアのウクライナ侵攻をどのように報じているのか、字幕付きのニュースから考察する。 | 海外のジャーナリズムについての文献を集めておく | 4時間 |
| 第28回 | **ジャーナリズムの役割と未来について**<br>これまで学んできたことを通し、ジャーナリズムの役割について議論し、これからどんなジャーナリズムが求められるのか、その未来を展望していく。 | ジャーナリズムについての話し合いをまとめ、一年間の活動を総括する。 | 4時間 |

SP-3202-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | スポーツビジネス基礎演習Ⅱ（山本） | | | | |
| 担当教員名 | 山本　達三 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

卒業研究作成で必要なLaTeXの基礎（コード、作法）を学ぶんだ上で．興味のある先行研究（和文・英文）の文献要約・添削・発表を繰り返し，研究課題を絞り込み、最期の授業でゼミ内プロポーザルを実施する。こうした先行研究の要約発表を繰り返すことで、研究計画書作成，調査票作成，予備調査依頼，予備調査実施，基礎解析に関するスポーツマネジメント，スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動に関する知識および技能を実践する力を身につける．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する理論に関する知識・技能の修得． | スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する論文精読・要約を繰り返し行い，卒業研究に必要な知識技能を理解できるようになる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する先行研究の要約やプレゼンテーションによる思考力・表現力の修得． | スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する論文精読，TeXを用いた要約を繰り返し行う中で，帰納的考察，研究仮説の構築ができるようになる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

スポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する先行研究を学びながら，当該研究に必要な一連の研究プロセスを習得することを目的とし，３年次で研究計画を完成させることを目指す．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

ICT活用項目として，LaTeX（印刷組版ソフト）の活用，SPSS，AMOS，Rなどの活用をおこなう．

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 先行研究の発表 | 60　% | ： | 幅広い先行研究の要約と発表を複数回行う．要約の内容とプレゼンテーションの内容などを総合的に評価する． |
| 卒業研究に関する発表 | 40　% | ： | 先行研究を踏まえた卒業研究に必要な，研究目的，研究方法，研究の位置付け，新規性，分析方法，予想される結果などを十分に網羅しているか． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞，吉田政幸編著，2017），ミネルヴァ書房：京都．
LaTeX2ε　美文書作成入門（2017）
SPSSによる統計データ解析（2007）
EZRでやさしく学ぶ統計学(2019)
共分散構造分析［AMOS編］(2013)

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 火曜日2限

**場所**： 研究棟B311

**備考・注意事項**： 事前に下記のメールでアポイントを取ること
yamamoto-tatsu@g.bss.ac.jp

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **LaTeXのインストール、LaTeXのコードの基礎**<br>山本ゼミで使用する，LaTeXに関する基礎的な習熟を目指す | LaTeXのコードを習熟する | 4時間 |
| 第2回 | **英文先行研究について**<br>英文の先行研究の検索方法，文献要約の仕方を学ぶ | 英文先行研究の要約の仕方について習熟する。 | 4時間 |
| 第3回 | **先行研究の要約発表(1)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第4回 | **先行研究の要約発表(2)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第5回 | **先行研究の要約発表(3)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第6回 | **先行研究の要約発表(4)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第7回 | **先行研究の要約発表(5)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第8回 | **先行研究の要約発表(6)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第9回 | **先行研究の要約発表(7)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第10回 | **先行研究の要約発表(8)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第11回 | **先行研究の要約発表(9)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第12回 | **先行研究の要約発表(10)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第13回 | **先行研究の要約発表(11)**<br>各ゼミ生が自身の興味関心に基づいた先行研究（和論文，洋論文）の文献要約と発表を行う．<br>継続テーマ：LaTeXの習得 | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |
| 第14回 | **ゼミ内プロポーザル**<br>ゼミ内で卒業研究のプロポーザルを実施する． | 発表資料（LaTeXで作成した抄録A4で１枚、パワーポイント、論文本体PDF）を事前に用意しておく． | 4時間 |

SP-3202-3-1

| 授業科目名 | スポーツビジネス基礎演習Ⅱ（吉倉） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 吉倉　秀和 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 経済産業省サービス政策課スポーツ産業室長として、スポーツ産業政策に係る実務経験あり。 | | | | |

**授業概要**

この演習の一番の目的は、スポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングにおける基礎ならびに応用知識の習得を念頭に、問題点を把握し、卒業研究に向けて研究課題を決定することである。具体的には、調査方法、文章表現、プレゼンテーションなどの基本的知識の理解とその実践について、演習を通じて習得することを授業のゴールとし、スポーツビジネス現場での実践機会も設けることで理論と実務のギャップについても認識し、卒業後の進路に向けた自身の現状把握も第二目標として設定する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツビジネス研究領域に関する知識 | 学術論文や参考文献の購読を通じて、スポーツビジネスに関する専門用語や統計手法を理解できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| プレゼンテーション | 60　% | ：　①理論的な発表、②独自の見解が織り交ぜられているか、③発表に対する姿勢や準備 |
| レポート | 40　% | ：　①説明すべきテーマに対して簡潔に記されているか、②卒業研究に関するレビューに対して深い考察ができているか |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「スポーツマネジメント」原田宗彦・小笠原悦子編著，大修館書店
「スポーツマーケティング」原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高編，大修館書店
「スポーツファイナンス」武藤泰明著，大修館書店

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツビジネスを学ぶとは？**<br>スポーツビジネス研究領域に関する学習方法について解説する。 | 自身が高めたい専門性について検討すること。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第2回 | **スポーツビジネス界の現状**<br><br>スポーツビジネス界の現状について、資料を踏まえながらディスカッションを行う。 | 配布資料をもとに自身が考察したことについてレポートすること。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツチームのマネジメント**<br><br>チームづくりに関するノウハウを講義を中心に解説する。 | スポーツマネジメントについて、講義内容をもとに復習すること。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツリーグのマネジメント**<br><br>リーグのガバナンスについて、SWOT分析をもとに解説する。 | SWOT分析ならびにガバナンスに関する復習をすること。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツクラブのマネジメント**<br><br>クラブチームの損益に関する留意点について解説する。 | クラブチームの経営状況とその問題点について、レポートすること。 | 4時間 |
| 第6回 | **社会調査・データ分析について**<br>社会調査の基礎について学習し、調査をもとにしたデータ分析について理解する。 | 社会調査の基礎について、復習すること。 | 4時間 |
| 第7回 | **研究課題の選択：発表と議論（スポーツマネジメント）**<br><br>各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。 | 他のプレゼンテーションを参考に、自身の研究テーマに深みを持たせられるように検討すること。 | 4時間 |
| 第8回 | **研究課題の選択：発表と議論（スポーツマーケティング）**<br><br>各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。 | 幅広い知識の習得に向けた参考文献リストを作成すること。 | 4時間 |
| 第9回 | **研究課題の選択：発表と議論（スポーツ施設マネジメント）**<br>各自の研究テーマに関するプレゼンテーションをおこなう。 | 自身のプレゼンテーションに関する改善点について再検討する。 | 4時間 |
| 第10回 | **文献研究：発表と議論（卒業研究要旨集）**<br><br>各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。 | 文献のリストアップならびに入手方法について確認すること。 | 4時間 |
| 第11回 | **文献研究：発表と議論（学術論文雑誌）**<br><br>各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。 | 発表をもとに、再検索が必要とされる文献について検討すること。 | 4時間 |
| 第12回 | **文献研究：発表と議論（各種官公庁資料）**<br><br>各自の研究テーマに関する文献の収集ならびに発表をおこなう。 | 文献内において理解できなかった用語に対する再復習をおこなう。 | 4時間 |
| 第13回 | **研究方法の検討：発表と議論（アンケート調査）**<br><br>各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。 | 発表を参考に、自身の調査計画について改善点を列挙すること。 | 4時間 |
| 第14回 | **研究方法の検討：発表と議論（ヒアリング調査、フィールドワーク）**<br>各自の研究方法について、文献をもとに各自事前調査し、発表をおこなう。 | 最終的な調査計画を決定し、レポートとしてまとめること。 | 4時間 |

SP-3302-3-1

| 授業科目名 | 健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（佃） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佃　文子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等の実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全14回）。 | | | | |

**授業概要**

スポーツ医科学の実践について、トレーニング科学やスポーツ医学の知見（関連する文献等）を収集し原典を理解すると同時に、体験的知見との差について討議する。さらに各自の興味に応じた研究分野の情報収集と卒業研究に向けた予備調査・測定を行う。これらの演習は、卒業研究のテーマをしぼり、研究計画を立案するための重要な素地となる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 健康・トレーニング科学分野の課題に関する課題の発見や可決に必要な情報を収集・蓄積し課題解決策を提案 | 健康・トレーニング科学分野に係る課題に対して、知識・技能を適切に組み合わせて、解決に向けた考えや提案を適格に説明することができる |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 健康・トレーニング科学分野に関する学びを通した、他者の意見や行動の理解と、実習への主体的で協力的な態度 | 健康・トレーニング科学分野に関する学びを通して、自ら進んで他者と協働して課題解決への取組を実現できる力を身につける |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)
ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)、ICT(Excel)、ICT(動画活用)、ICT(専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業課題への取り組み | 40 % | ： 内容の妥当性と理論構成について、本学基準のルーブリックに基づいて評価します。 |
| 授業課題のプレゼンテーション | 30 % | ： 伝える内容のまとめ方50%、伝え方50%の割合で得点化します。 |
| ミニ卒論の計画と結果 | 30 % | ： ミニ卒論について、計画70%、結果の伝え方30%の割合で得点化します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜紹介する。必要に応じて検索し取り寄せる。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション、図書館利用方法の習熟**<br>授業の内容と進め方を理解する。論文検索や論文お取り寄せなど専門情報の検索方法と手続き、取り寄せや複写、引用に関するルールを理解する。 | 予習：トレーニング・健康分野で、自分自身が最も興味のある内容について、読んでみたい本や雑誌を見つけてくる 復習：読んだ雑誌や本を要約する | 4時間 |
| 第2回 | **アスレティックトレーニング活動の計画立案**<br>身近なスポーツフィールドで実施できる、トレーニング計画・コンディショニング計画・体力測定計画などを立案する。<br>何を根拠に立案したのか他者に説明する。<br>対象の問題点や課題に関する情報の把握方法を討議する。 | 予習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織から求められている内容をリサーチしてくる 復習：自身の身近なスポーツの現場で求められている、スポーツ傷害の管理・計画的なトレーニング・リカバリー方法などについて、組織的なサポート計画の素案を作成する | 4時間 |
| 第3回 | **過去の卒業論文の研究課題や問題提起の観点を理解する**<br>トレーニング・健康コースの卒業研究をもとに、研究課題や問題提起の観点を理解する | 予習：過去のコース内の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を5つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **過去の卒業論文の内容を討議し研究方法の理解を広める**<br>トレーニング・健康コース以外の卒業研究をもとに、研究方法を理解する。 | 予習：過去のコース外の卒業研究の抄録集から自身で興味が持てる内容を5つ探し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ過去の卒業研究の内容をまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **関連分野の研究文献の検索方法**<br>各種の学会にて発表された先行研究を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する。 | 予習：スポーツと健康の関連分野の学会から自身で興味が持てる研究報告を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ資料を読み要約する | 4時間 |
| 第6回 | **国内研究文献から研究課題や問題提起の観点を理解する**<br>各種の学術誌に発表された原著論文を文献検索し、研究課題や問題提起の観点を理解する。 | 予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み要約する | 4時間 |
| 第7回 | **国内研究文献から研究方法の理解を広める**<br>各種の学術誌に調べた文献等の概要をまとめる発表された原著論文を文献検索し、研究方法を理解する。 | 予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、研究方法について図にまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **国内の研究文献の発表を行う**<br>調べた文献をまとめて、発表や討議のための準備のための準備を行う。 | 予習：スポーツと健康の関連分野の学会誌等から自身で興味が持てる研究を二つ探し出し、PDFファイルとコピーを準備する 復習：選んだ文献を読み、主な結果を図示する | 4時間 |
| 第9回 | **国内の研究文献発表についてデスカッションを行う**<br>前週の研究発表の、特に結果の分析と考察について討議する。 | 予習：自身の発表した研究について、さらに結果と考察の理解を深める 復習：他者からの質問について不明な点を調べる | 4時間 |
| 第10回 | **課題検討会1回目　足部**<br>足部の運動機能に対するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する。 | 予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、足部のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：足部のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **課題検討会2回目　下肢** | 予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、下肢のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：下肢のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 下肢の運動機能に対するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する。 | | |
| 第12回 | **課題検討会3回目　体幹**<br><br>体幹の運動機能に関するトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する。 | 予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、体幹のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：体幹のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **課題検討会4回目　肩・肩甲帯**<br><br>上肢帯の運動機能についてのトレーニング計画・スポーツ傷害・アスレティックリハビリテーション・コンディショニングに関係するこれまでの学生個々の取り組みをもとに、アスリートが効果的にパーフォーマンスを向上させる手法について討議する。 | 予習：自身の経験又は身近な人物の経験から、肩・肩甲帯のスポーツ外傷・障害とそのリハビリテーションについてリサーチしてくる 復習：肩・肩甲帯のアスレティックリハビリテーションの主な段階と取り組む内容をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **総合討議**<br><br>取り組みを振り返り、各自の興味が持てた課題内容と、各研究の研究方法や分析方法と研究限界から自らの研究課題について置き換えて、卒業研究のとりかかりとなる小課題について研究計画を立てて発表する。 | 予習：学習を振り返り、興味が深まった研究と理解の浅い内容や課題について整理する 復習：洗い出された研究課題についてまとめる | 4時間 |
| 第*回 | **＊**<br>＊ | ＊ | 4時間 |

SP-3302-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（小松）** | | | | |
| 担当教員名 | **小松　猛** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小松　猛：スポーツ整形外科を専門とする臨床医として医療機関、スポーツ現場で医療従事者としての実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

卒業論文作成に向け研究目的の考え方、それを達成するための研究方法の立案とその技術の習得、得た結果のまとめ方、そしてその結果をどのように考察し、結論を見出すかについて具体的に勉強を進める。更に、トレーニング・健康に関する専門的知識を習得するため、スポーツ医学を中心とするテーマのプレゼンテーション、ディスカッション、論文抄読などをしながら、自らの研究テーマを探っていくことから始める。また、統計処理や適切な文献を選択する文献検索のコツについても学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ医学関連のテーマについて、ディスカッションするためのプレゼンテーション | プレゼンテーション、ディスカッションを通して、自分自身で考え、判断し、行動することができる |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グループでお互いが自主的に、そして協力しながら行う論文のまとめ、ミニ研究、そして報告するためのプレゼンテーション。 | グループ活動を通して、主体性や協調性をもって成果を出すことができる |

**学外連携学修**

有り(連携先：未定)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| レポート課題 | 50　% | ：　授業内で学んだトレーニング・健康に関する内容、学外で行ったフィールドワークや聴講した講演内容のサマリなどを、適切な表現を使って分かり易く伝えているかを評価。 |
| プレゼンテーション | 50　% | ：　スポーツ傷害、リハビリテーションなどの課題について、内容が分かり易く的確なプレゼンテーションになっているのかを評価。スライドの内容に関しても同様に評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

新版　スポーツ整形外科学　中嶋寛之（監修）　福林　徹・史野根生（編集）　「南江堂」
新・スポーツ医学　藤本繁夫・大久保　衞（編）　「嵯峨野書院」

その他、必要に応じて紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **本演習の目的と進め方**<br>本授業のガイダンス、スポーツに関する怪我の自己体験をプレゼンテーション | 適切な自己表現方法と経験したスポーツ傷害について復習 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ医学に関する知識の総復習**<br>筆記・口頭でのスポーツ医学に関する知識の確認 | 講義等で学習したスポーツ医学に関する知識を再確認する | 4時間 |
| 第3回 | **参考文献の調べ方**<br>あるテーマに対して、図書館やインターネットを用いての先行研究の検索方法を学ぶ | 自分の興味のあるテーマを検索して、検索方法を熟知する | 4時間 |
| 第4回 | **プレゼンテーションの作成：準備**<br>グループに分かれて、与えられた課題に対するプレゼンテーションのために必要な準備を理解する。 | グループでプレゼンテーションの進め方について話し合う | 4時間 |
| 第5回 | **プレゼンテーションの作成：スライド構成**<br>分かりやすいプレゼンテーションのために必要なプレゼン構成を理解する。 | パワーポイントの使いこなせるように情報を収集する | 4時間 |
| 第6回 | **プレゼンテーションの進め方**<br>作成したスライドを分かり易く伝えられるような進め方を学ぶ。 | 今後与えられる課題をイメージして、プレゼンテーションを繰り返す | 4時間 |
| 第7回 | **運動器の知識を深める（正常解剖と機能）**<br>運動器（関節や筋肉）の解剖および機能に関する各自の担当テーマを調べ、発表する | 運動器の解剖と機能の知識を整理して、正確に分かり易く発表できるように準備する | 4時間 |
| 第8回 | **運動器の知識を深める（上肢のスポーツ外傷・障害）**<br>上肢のスポーツ外傷・障害の受傷機転、診断、治療、具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する | 上肢の傷害に関する基礎知識を復習する | 4時間 |
| 第9回 | **運動器の知識を深める（下肢のスポーツ外傷・障害）**<br>下肢のスポーツ外傷・障害の受傷機転、診断、治療、具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する | 下肢の傷害に関する基礎知識を、今までの講義の資料などから再確認しておく | 4時間 |
| 第10回 | **運動器の知識を深める（頭頸部、体幹のスポーツ外傷・障害）**<br>頭頸部、体幹のスポーツ外傷・障害の受傷機転、診断、治療、具体的なリハビリテーションについて、各自の担当テーマを調べ、発表する | 比較的重症な外傷や障害については理解を深めておく | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツイベントでの救護活動の準備**<br>学外で行われるスポーツイベントについて救護活動を行うために、必要な知識（救急処置など）と心構え、他のメディカルスタッフとの協力体制について学ぶ。 | 救護のために必要な知識を再確認して、それに対する自分の考えをまとめておく | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツイベントでの救護活動の実践**<br>第11回授業で学んだ知識を生かして実際のスポーツイベントの救護活動に参加し、行った救護処置の内容について適切だったかを振り返り、最終的にどのような知見が得られたかをディスカッションする。 | 実践した救護活動の内容に関するレポートを作成する | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究のテーマを求めて（論文のプレゼンテーションとディスカッション）**<br>スポーツ外傷・障害の臨床研究を検索して、その中から各自の担当論文を調べ発表する。発表後にグループでディスカッションする。プレゼンテーション内容が分かり易いか、もし難しければ何が分からないのか、をグループディスカッションを通して問題抽出をする。 | 自分のプレゼンテーションで指摘された問題点について考える | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究のテーマを求めて（個人でのテーマ設定に関するプレゼンテーション）**<br>卒業研究テーマの設定に関してプレゼンテーションを行う。データの収集方法、分析の進め方、などが正しいのかをプレゼンテーションを通して検証する。 | プレゼンテーションを通して出てきた問題点に対して、どのように改善するべきかを考える | 4時間 |

SP-3302-3-1

| 授業科目名 | 健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（高橋） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 高橋　佳三 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、一年間を通して「各自が研究計画を立て、データを収集・分析し、考察を加えて論文を執筆する能力を養う」ことを目標とする。そのため前期では先行研究から各自が行いたい研究内容の問題点を抽出し、研究計画書を執筆する。そして２次元および３次元動作分析の手法を用いた実験とデータ分析を行う。後期には、前期に算出したデータを加工し、考察を行い、ミニ卒業論文を執筆する。これらの一連の内容を学修し、４年次の卒業論文執筆のための基礎的な能力を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツバイオメカニクスに関する知識の習得とその応用 | スポーツ技術について、スポーツバイオメカニクスの観点から分析するための知識を身につけ、実験機材の使用方法を理解し、実験計画を立案できる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツバイオメカニクスで用いられる実験・研究手法の習得 | 受講者同士で協力し合いながら、間違いのない方法で十分に実験を実施することができる。c |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)

ICT（Word、Excel、PowerPoint、MATLAB、Frame Diasなど）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 研究計画書 | 50　% | ：　先行研究のレビューが的確に行われ、実験計画が詳細に記されているかを評価する。 |
| 実験などへの参加度 | 50　% | ：　自身の実験の際に主導的立場で実験を行っているか、他の学生の実験に積極的に参加しているかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツバイオメカニクス（深代千之，桜井伸二，平野裕一，阿江通良著，朝倉書店）
バイオメカニクス　身体運動の科学的基礎（金子公宥，福永哲夫著，杏林書院）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 授業の前後

**場所：** 研究室（B306）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **文献読解（1）：文献検索、読解**<br><br>文献検索の方法、論文の読み方について理解する。<br><br>バイオメカニクスの研究論文を読み、先行研究で明らかにされていること、されていないことを読み取り、課題を明らかにする。 | 次回以降の授業で読む研究論文を検索し、印刷しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **文献読解（2）：レビュー作成、発表**<br><br>先行研究のレビューの作成法について学び、実際に作成する。レビューのプレゼンテーションをする。 | 先行研究のレビューを作成し、パワーポイントで発表資料を作成する。 | 4時間 |
| 第3回 | **研究計画（1）：研究計画書の書き方**<br><br>研究計画書の書き方について説明する。そしてレビューを元に研究計画を立て、研究計画書を作成する。 | 研究計画を発表できるよう、パワーポイントで資料を作成する。 | 4時間 |
| 第4回 | **研究計画（2）：研究計画の発表**<br><br>研究計画についてプレゼンテーションを行う。 | プレゼンテーションの際質問を受けた内容についてさらに調査を進める。 | 4時間 |
| 第5回 | **二次元および三次元画像撮影**<br><br>実際に映像を撮影することで、二次元および三次元画像撮影の方法（固定法、パンニング法、キャリブレーション法）を理解する。その際、カメラの設定内容についても理解を深める。 | 次週の授業に向けて、撮影した映像を変換しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **二次元データ分析（1）：デジタイズ法の理解**<br><br>デジタイズの方法を理解する。 | 次週の授業までにデジタイズを終わらせておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **二次元データ分析（2）：2次元実長換算、平滑化、速度算出**<br><br>2次元の実長換算について、概念や計算方法を理解する。また、平滑化（スムージング）について概念と手法を理解する。<br><br>微分法について理解し、2次元座標値を微分して速度を算出する。そして速度の意味（成分や合成など）について理解する。 | 次週の授業までに実長換算、平滑化、速度算出を終わらせ、問題があればデジタイズをやり直しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **二次元データ分析（3）：角度・角速度算出**<br><br>ベクトル間の角度の算出方法について理解する。そして部分角度と関節角度を算出し、それぞれの違いと意味について理解する。また部分角度と関節角度を微分して角速度を算出する。 | 算出したデータをExcelでまとめておく | 4時間 |
| 第9回 | **三次元データ分析（1）：三次元のデジタイズ法の理解**<br><br>カメラ2台以上でデジタイズを行う際の注意点など、デジタイズの方法を理解し、デジタイズを行う。 | 次週の授業までにデジタイズを終わらせておく. | 4時間 |
| 第10回 | **三次元データ分析（2）：三次元DLT法、平滑化、速度算出**<br><br>キャリブレーションポールのデジタイズ方法、カメラ定数の算出方法、3次元DLT法について理解する。<br><br>微分法により、三次元速度を算出する。 | 次週までに三次元速度算出まで行い、Excelにまとめておく | 4時間 |
| 第11回 | **三次元データ分析（3）：三次元キネマティクス（角度、各速度）算出**<br><br>三次元データにおける角度、角速度を算出し、データの意味を理解する。 | 次週の授業までにそれぞれのデータをエクセルでグラフ化しておく. | 4時間 |
| 第12回 | **統計処理**<br><br>t検定、分散分析、相関係数など、基礎統計量について理解し、基礎統計を行う。 | 次週からの考察に向け、統計処理を行っておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **考察、レポート執筆**<br><br>データを様々な組み合わせで並べ替え、考察のストーリーを考える。<br><br>ストーリーを元に、レポートを執筆する。 | 次週までにレポート執筆を終わらせておく | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ：発表**<br><br>執筆したレポートを発表し、ディスカッションを行う。 | ディスカッションで出た課題を元にレポートを修正し、提出する。 | 4時間 |

SP-3302-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（武田）** | | | | |
| 担当教員名 | **武田　哲子** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

トレーニング・健康・栄養に関する膨大な情報の中から信頼できる情報を選択し、理解した上でプレゼンテーションができる力を養うことを目的とする。
また、さまざまな研究手法を学び、自ら研究を計画し遂行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 健康やスポーツと栄養に関する学術的な情報の収集 | 情報収集を通して情報を整理する力を身につける |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 健康やスポーツと栄養に関する問題解決の考察 | スポーツ現場の問題を解決するための論理的思考能力を身につける |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 研究計画発表におけるディスカッション | 他者の発表を理解し、自身の考えを的確に表現できるようになる |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 研究テーマの探索 | スポーツ現場に関心を持ち、卒業研究のためのテーマを設定できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

・ICT(Excel)
・ICT(Word)
・ICT(Power point)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

課題発表は前期に2回、後期に2回行う。レポート作成は授業終了時に行う。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 課題発表 | 45 % | ： | 課題の理解，論理的な説明，発表のわかりやすさについて評価する |
| 課題取り組み状況 | 35 % | ： | 課題発表に向けて適切な文献検索，情報処理を行っているかについて評価する |
| レポート | 20 % | ： | 所定の書式に合わせて独自の考察を含めて論理的に取り組むことができているかを評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **卒業論文についての概説**<br>自然科学系の研究のテーマ設定について解説する. | 興味あるテーマについての卒業研究について下調べしておく. | 4時間 |
| 第2回 | **文献検索とその読み方、紹介方法について**<br>学術論文の書き方について解説する. | 卒論テーマに向けて関心事項からキーワードを選択する. | 4時間 |
| 第3回 | **文献抄読**<br>検索した文献を抄読し内容を理解する. | 文献を読み，文献のキーワードについて下調べおよび復習しておく. | 4時間 |
| 第4回 | **文献紹介準備**<br>探索した課題について先行研究を読み，課題を整理する. | 発表資料を準備する. | 4時間 |
| 第5回 | **発表資料の準備**<br>スポーツ現場における問題点について情報共有を行うためのプレゼンテーション資料を準備する. | 発表資料を完成させ，発表練習をする. | 4時間 |
| 第6回 | **文献紹介**<br>文献紹介（プレゼンテーション）を行い，内容に関して討論する. | プレゼンテーションで質問された事項など新たな課題を整理しておく. | 4時間 |
| 第7回 | **卒論研究計画の立案**<br>研究計画の立て方と研究の進め方について解説する. | 扱いたいテーマに関して下調べしておく. | 4時間 |
| 第8回 | **卒論研究計画の討論**<br>研究テーマについて発表し，テーマ設定や方法について討論する. | 発表の中でキーワードになった事柄について復習しておく. | 4時間 |
| 第9回 | **卒論研究計画のための先行研究探索**<br>研究テーマについての先行研究を探索する. | 先行研究を抄読するにあたり関連する事柄の基礎知識を復習しておく. | 4時間 |
| 第10回 | **卒論研究計画のための先行研究抄読**<br>研究テーマについての先行研究を抄読する. | 論文内でキーワードになる事柄について復習しておく. | 4時間 |
| 第11回 | **先行研究のプレゼンテーションの準備**<br>研究したいテーマに関連した研究の調べ方，まとめ方について解説する. | 先行研究のプレゼンテーション資料を完成させ発表練習する. | 4時間 |
| 第12回 | **先行研究のプレゼンテーション**<br>準備した資料に基づきプレゼンテーションを行う. | 関連する先行研究を検索し読み込んでおく. | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究発表会の参加**<br>研究方法、データの整理の仕方、プレゼンテーション方法について理解を深め、自身の研究活動に向けた課題を探索する. | レポートを作成する | 4時間 |
| 第14回 | **卒論研究テーマの発表**<br>研究テーマおよび計画について発表する. | 計画の修正を行い、実験や調査の準備をする | 4時間 |

SP-3302-3-1

| 授業科目名 | 健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（田中） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 田中　忍 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

自己や課題を探求し，調べて表現することを繰り返す．発表時には，時間を考慮して聞き手に見やすくわかりやすい資料を作成し，相手に伝わる発表が出来るようになる．プレゼンテーションは，内容と発表（資料の見やすさ，発表態度，声の大きさ，目線など）に分けて学生同士でも評価をし合いフィードバックを行う．また，卒業論文の作成に向け，興味のある課題を見つけ，文献を検索し，研究方法を理解する．信頼できる文献を元に課題を具体的に絞り込み，自ら卒業論文を作成できる力を身につける．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 相手に伝わるプレゼンテーション | 見やすくわかりやすい資料を作成し、相手に伝わる発表ができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 必要な資料の探索 | 他者を説得するために必要な資料を適切な方法で収集できる。 |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 卒業研究につながる「興味あること」の探求 | 自身の興味があることを卒業研究の題材として探求できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 文献検索と要約 | 40 % | ： | 卒業研究として取り組みたいテーマで信頼できる論文を探し、要約する。内容と話し方をそれぞれ評価する。教員評価と学生の相互評価を用いる。 |
| 研究計画書作成 | 40 % | ： | 卒業研究の計画書を作成し、パワーポイント資料を用いて発表する。 |
| 授業参加度 | 20 % | ： | 提出物の期限厳守、個人およびグループ活動時に積極的に参加しているかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜紹介する．

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業の概要と目標の設定**<br>研究テーマを決定していくために必要な情報をどのように収集していくかについて、概要を学ぶ．自己紹介の際に、研究として取り組む興味のあることを発表する． | 演習での学びを通して自立する見通しを立てる． | 4時間 |
| 第2回 | **文献検索**<br>学術論文の構成を理解し、トレーニング効果や二つの事柄の関係性について書かれた論文を検索する。 | 文献を検索し、5本の論文を読む。 | 4時間 |
| 第3回 | **論文要約**<br>自身の卒業研究のテーマに添った文献を要約する。 | 要約する項目に必要なことをまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **プレゼンテーション（文献要約について）**<br>要約した文献を発表する。発表者は、時間内に、何をどのように発表すれば伝わるかを考えて発表する。同時に評価者として、内容・話し方を評価する。 | 自身の発表を振り返る。 | 4時間 |
| 第5回 | **研究テーマを考える**<br>発表した文献について、卒業研究として行うためにさらに検討する必要があることや不足していることを検討する。 | 具体的に考えられるように再度文献を検索する。 | 4時間 |
| 第6回 | **研究テーマの発表**<br>どのようなことに取り組むかを発表する。 | 不足している情報を調べる。 | 4時間 |
| 第7回 | **研究計画書の作成**<br>研究計画書に記載する内容を理解し、作成していく。 | 文語で文章を書く。 | 4時間 |
| 第8回 | **研究計画書の発表準備**<br>研究計画書の発表は、自分の計画ではなく他者の計画を発表する。他者の計画を理解し、パワーポイントで資料を作成して発表する準備をする。 | お互いに協力をして、伝わりやすい発表にする。 | 4時間 |
| 第9回 | **研究計画書の発表準備（仕上げ）**<br>時間内にどのように発表すると伝わるかを考えて、互いの発表を仕上げる。 | プレゼンテーション資料を見やすく作成する。 | 4時間 |
| 第10回 | **研究計画書の発表**<br>他者の研究計画をプレゼンテーションする。同時に、評価者として内容・話し方を評価する。 | 発表を振り返る。 | 4時間 |
| 第11回 | **研究背景の充実**<br>研究計画のうち、背景について文章を書き進める。 | 文語で文章を記載する。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究方法の充実**<br>研究方法のうち、測定を行う際の注意点や記録の取り方について確認する。 | 具体的な測定のスケジュールを立てる。 | 4時間 |
| 第13回 | **研究結果の充実**<br>得られた研究結果をどのようにまとめるのかについて、確認する。自身が用いる分析方法について確認する。 | 必要な分析方法を理解する。 | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画の確認とまとめ**<br>測定の時期やスケジュールを決め、どのような見通しで卒業研究に取り組むかをまとめる。 | 実践できるように具体的にスケジュールを立てる。 | 4時間 |

SP-3302-3-1

| 授業科目名 | 健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（禰屋） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 禰屋　光男 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 日本陸上競技連盟科学委員、日本車いすバスケットボール連盟フィジカルフィットネスコンディショニングアドバイザー、国立スポーツ科学センター研究員、Singapore Sports Institute Physiologistとしてエリート競技者のサポートに従事した実践経験を講義内容に結びつけている | | | | |

**授業概要**

卒業論文の作成に向けて、研究目的の立て方、研究目的を達成するための研究方法の立案と企画方法の習得、得られた実験結果のまとめ方や統計に関する計算方法、そして、その結果に基づきどのような考察が立てたれるかについてのまとめなど、具体的に勉強を進めます。また、研究は、チームで進めていく場合が多いため、仲間同士のディスカッション能力、協調性も求められます。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ科学に関する様々な基礎的知識を用いた身体運動の複合的な構成 | 身体運動が様々な生理学的反応が複合的に関連して成立していることを理解する |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 研究内容を的確に表現するためのプレゼンテーション | 自身の研究成果を表現するためのプレゼンテーションができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング)
ICT(PowerPoint)
ICT(Excel)
ICT(動画活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**注意事項等**

実験で得られたデータをもとにレポートを作成する必要があるので、欠席しないでください。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各実験データに基づくレポート | 50 % | ： レポートに必要な内容が適切に記載され、十分な考察ができていること |
| 各実験データに基づくプレゼンテーション | 50 % | ： プレゼンテーションに必要な内容が含まれ、研究の意義などについてのプレゼンテーションができていること |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

なし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 随時

**場所**： 研究室

**備考・注意事項**： 初回講義時に説明します

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **データの解析とエクセルの活用（基本的な入力の方法）**<br>例示データを用いて，エクセルへのデータ入力について学習します. | エクセルにデータを入力する際の基本的な方法を復習すること | 4時間 |
| 第2回 | **データの解析とエクセルの活用（データの解析）**<br>例示データを用いて，エクセルでのデータ解析について学習します. | エクセルを用いたデータ解析の方法を復習すること | 4時間 |
| 第3回 | **データの解析とエクセルの活用（基本的なグラフの作成）**<br>例示データを用いて，エクセルでの基本的なグラフ作成について学習します. | エクセルを用いた基本的なグラフの作成の方法を復習すること | 4時間 |
| 第4回 | **データの解析とエクセルの活用（応用的なグラフの作成）**<br>例示データを用いて，エクセルでの応用的なグラフ作成について学習します. | エクセルを用いた応用的なグラフの作成の方法を復習すること | 4時間 |
| 第5回 | **データの解析つSPSSの活用**<br>例示データを用いて，SPSSでの分散分析の方法について学習します. | 分散分析について復習すること | 4時間 |
| 第6回 | **チームプロジェクト（研究の計画の立案）**<br>２～３名のチームを作り，研究テーマを設定します | 研究テーマと計画を整理すること | 4時間 |
| 第7回 | **チームプロジェクト（研究の実施）**<br>研究計画にそって、データを取得します | 実験結果をまとめておくこと | 4時間 |
| 第8回 | **チームプロジェクト（報告書の作成）**<br>取得したデータをもとに報告書作成の準備をします | 報告書を作成すること | 4時間 |
| 第9回 | **論文の書き方（基本的な書き方）**<br>チームプロジェクトのデータを活用して，論文の基本的な書き方を勉強します | 基本的な論文の書き方を復習すること | 4時間 |
| 第10回 | **論文の書き方（図表の作成）**<br>チームプロジェクトのデータを活用して，論文を書く際に必要な図表の作成方法を学びます | 図表の作成方法を復習すること | 4時間 |
| 第11回 | **論文の書き方（参考文献の検索と引用）**<br>論文を書く際に必要な参考文献の検索と引用の方法を学びます | 参考文献の検索方法と引用方法を復習すること | 4時間 |
| 第12回 | **研究報告（プレゼンテーションの準備）**<br>チームプロジェクトの研究の成果をプレゼンテーションにより発表する際のプレゼンテーション作成の基本を学びます | プレゼンテーション作成の際の基本的な方法を復習すること | 4時間 |
| 第13回 | **研究報告（プレゼンテーションの作成）**<br>チームプロジェクトの研究の成果報告するためのプレゼンテーションを作成します | 報告会のためのプレゼンテーションの準備をすること | 4時間 |
| 第14回 | **研究報告（プレゼンテーションによる報告会）**<br>チームプロジェクトの研究の成果について報告会を開催します | 報告会で指摘された問題点の修正点を検討する | 4時間 |

SP-3302-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（村瀬）** | | | | |
| 担当教員名 | **村瀬　陽介** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本講義では、4年次に実施する卒業研究に向けて、レポート・論文の書き方を基礎から学ぶ。レポート・論文には一定の形式があり、論理的飛躍や書いている本人しか理解できない内容は避けなければならない。本講義では、形式に沿った論文執筆方法を習得する。また自身の研究テーマ探索および決定を行うため、文献資料の調査方法を解説し実践する。具体的な研究手法についても、それぞれが選択した研究テーマに沿った手法を実技形式で学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 情報収集 | 自身が選択したテーマに関する文献を見つけることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 情報の整理 | 自身が選択したテーマに関する文献から得られた情報を整理することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | プレゼンテーション能力 | 自身が選択したテーマに関するプレゼンテーションができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業参加度 | 30 % | ： 授業内での積極的な発言を評価する。具体的には授業ごとに2回以上の発話をすること。 |
| レポート | 35 % | ： 形式に沿っていること、論理的な主張ができていることを評価する。 |
| 発表 | 35 % | ： 形式に沿っていること、プレゼンテーション技術を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年
『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　研究室（B209）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **地域スポーツ演習ガイダンスと論文作成の基礎知**<br>本科目の学習計画について説明し、卒業論文作成に必要な基礎知識の概要を学ぶ。 | シラバスを読み、授業の到達目標、評価方 法を理解しておく | 4時間 |
| 第2回 | **研究における文献、資料について**<br>研究における文献、資料とは何か、また辞書、百科事典、インターネットを用いた文献検索方法の概要を説明する。 | 授業内において「キーワード」提示し、それについて下調べをする | 4時間 |
| 第3回 | **文献検索の方法（データベース・サービスの利用）**<br>学術情報検索用のデータベース・サービスCiNii等を用いた文献検索方法を説明する。 | 第2回「研究における文献、資料につい て」で提示された「キーワード」を用い て、CiNii等により興味のある文献を入 手する。 | 4時間 |
| 第4回 | **レポート・論文執筆のルール（概要の説明）**<br>レポート・論文の基本的な書き方について概要を説明する。レポート・論文にふさわしい文言の選択、客観的な文章の書き方を練習する。 | 第2回～第3回で収集した文献について、講義中に練習した書き方を応用しミニレポートを作成する。 | 4時間 |
| 第5回 | **レポート・論文中に用いる図表の作成方法**<br>レポート・論文中に用いる図表の作成方法を説明する。 | 授業中に提示する練習用データを使 用し、レポート・論文にふさわしい形 式の図表を作成する。 | 4時間 |
| 第6回 | **アンケート調査報告型のレポート作成**<br>アンケート調査報告型のレポート作成方法について概要を説明し、作成する。 | アンケート調査報告書を作成するための資料として、各自でアンケート調査資料を収集する。 | 4時間 |
| 第7回 | **現地調査報告型のレポート作成方法**<br>現地調査報告型のレポート作成方法について概要を説明し、作成する。 | 現地調査報告書を作成するための資料として、各自で現地調査資料を収集しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **文献調査報告型のレポート作成方法**<br>文献調査報告型のレポート作成方法について概要を説明し、作成する。 | 文献調査報告書を作成するための資料とし て、各自で文献資料を収集しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **発表スライドの作成**<br>調査・研究内容を発表するために使用するスライドについて、作成のポイントを解説する。またこれまで作成したレポートを用いて、スライド作成ソフトを用い発表用スライドを作成する。 | これまで作成したレポート内容を復習し、内容を整理しておく | 4時間 |
| 第10回 | **スライドを用いた発表**<br>作成したスライドの発表方法についてポイントを説明し、第9回で作成したスライドを用いて発表をする。 | 作成したスライドの内容を再度吟味し、情報の取捨選択をする。 | 4時間 |
| 第11回 | **研究テーマに関わるキーワードの選定**<br>自身の関心のある分野の文献をもとに、5つ程度のキーワードを選定する。 | これまで収集した文献に再度目を通し、内容を復習しておく | 4時間 |
| 第12回 | **キーワードに関する資料の要約**<br>第11回で選定したキーワードを使用して、自身の研究に関連すると考えられる文献・資料を収集する。 | 収集した資料の内容を整理し、これまでの研究で明らかになっているポイントをまとめておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **研究テーマの決定およびテーマに沿った資料の収集**<br>研究テーマを決定し、研究テーマに関わる内容の文献を収集する。収集した文献の内容を整理し、問題点を整理する。 | 自身の関心のあるキーワードをもとに、研究テーマの候補を選定しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **研究テーマおよび研究手法に関するスライドの作成**<br>自身の研究テーマに関する問題を解決するための研究手法を決定し、テーマ及び研究手法についてスライドを作成し発表する。 | スライド作成方法の復習をしておく。 | 4時間 |

SP-3402-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング基礎演習Ⅱ（岡部）** | | | | |
| 担当教員名 | **岡部　優真** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

卒業論文作成へ向け、コーチング現場で活用される、運動の力学や動作の分析方法を学ぶ。また、先行研究の調査を通じて研究に関する理解を深める。
具体的には卒業研究に必要な基礎知識や各種測定機器の使用方法、データ解析に関する知識と技能、研究デザインの立案方法について学ぶことで、卒業論文のテーマを明確にする。さらに、測定したデータを分かり易く提示する方法や効果的なプレゼンテーションの方法についても学習することで、卒業論文制作へ向けたビジョンを確立する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ動作を科学的な視点で観察する姿勢の修得。 | 科学的知見に基づいてスポーツ動作を観察・評価できるようになる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツに関する各種測定機器の使用方法に関する知識と技能を習得。 | 測定に必要な機材と分析方法を理解し、適切な手段を選択できるようになる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 測定した各種データの加工方法する技能を習得して、加工したデータの"分かりやすい"提示・表現の知識と方法の習得。 | データを分かり易く整理して説明するスキルを身につける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

全ての課題については，3つの到達目標に対して以下5項目の観点から5段階評価する。
5点：適切であり優れている、4点：適切である、3点：一部適切である、2点：不足している、1点：大きく不足している。
1) 到達目標を達成しているか？
2) 自身の意見・考えを反映しているか？
3) 自身の経験に基づく具体例が示されているか？
4) 自身の卒業論文への発展性があるか？
5) 文章や資料の構成は適切であるか？

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内レポート | 25 % | ： 注意事項に示した4項目の合計点を平均して評価する。 |
| プレゼンテーション | 25 % | ： 注意事項に示した4項目の合計点を平均して評価する。 |
| 研究計画書 | 25 % | ： 注意事項に示した4項目の合計点を用いて評価する。 4）については，先行研究との関連性を評価に置き換えて評価する。 |

最終レポート課題　　：　注意事項に示した4項目の合計点を用いて評価する。

25　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）
動きの質的分析入門（ナップ）
陸上運動・競技の指導を考える基礎的研究（創文企画）
スポーツ・バイオメカニクス入門（杏林書院）
走る科学（大修館書店）
跳ぶ科学（大修館書店）
投げる科学（大修館書店）
マイネル・スポーツ運動学（大修館書店）
健康・スポーツ科学のためのRによる統計学入門（杏林書院）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

科目は2単位の科目であるため，平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる．
授業内では，各種方法・理論の基礎的部分を学習する．したがって，学習した理論を習得するためには，授業外時間を利用した学習が不可欠となる．また，各種の実験や測定を主体的に計画して実施することを求める．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業終了後など

**場所**：　講義場所、B211研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス：コーチングにおけるスポーツバイオメカニクス**<br>コーチングにおけるスポーツバイオメカニクスの役割と意義について説明するとともに，全体の授業計画や評価方法について概説する． | バイオメカニクスの”コーチング”に対する役割を調査してレポートにまとめる． | 4時間 |
| 第2回 | **文献の検索方法**<br>科学的に信頼のおける文献を検索する方法と文献資料を引用，参考する際の注意点について学習する． | 興味のある研究に関するキーワードを考え，文献検索の準備を行う． | 4時間 |
| 第3回 | **文献研究の方法**<br>各自が興味のある論文を検索し，その要点をまとめる． | 「緒言」「方法」「結果」「考察」の項目にはどのようなことが記述されているのかを調査する． | 4時間 |
| 第4回 | **文献研究の発表**<br>各自が興味を持ち，収集，要約した文献を要約したものを発表する．また，それぞれの発表に対する質疑応答を通して，より理解を深める． | 興味のある研究領域について考え，その領域を取り扱うジャーナルを調査しておく． | 4時間 |
| 第5回 | **運動の力学の理解**<br>身体の運動を理解する方法の一つとして，力学的な視点から運動を考える．<br>効率の良い運動と悪い運動との間に，どのような違いがあるのかを学習する． | 物理学的視点から見た運動とは，何を意味するのかについて調査しておく． | 4時間 |
| 第6回 | **身体重心の計算方法**<br>身体重心が何を意味するのか，どのような手順によって求められるのかを，手計算することによって学習する． | 身体重心とは何か，どのような時に変化するのかを調査しておく． | 4時間 |
| 第7回 | **ハイスピードカメラの使用方法**<br>ハイスピードカメラの使用方法を学び，動作分析を行うための設定を確認する． | 2次元動作分析と3次元動作分析の相違について調査して，それぞれに最低限必要なカメラの台数と配置方法について調査する． | 4時間 |
| 第8回 | **2次元座標値を用いた計算と分析の方法**<br>撮影した画像データをデジタイズすることで得られた2次元座標値の持つ意味を理解し，必要とする数値を算出する． | 2次元動作分析の利点について調査する． | 4時間 |
| 第9回 | **3次元座標値を用いた計算と分析の方法**<br>撮影した画像データをデジタイズすることで得られた3次元座標値の持つ意味を理解し，必要とする数値を算出する． | 3次元動作分析の利点について調査する． | 4時間 |
| 第10回 | **身体座標値を用いたスポーツ動作の分析**<br>身体座標値から算出された数値を用いて，スポーツ動作を分析・比較する方法を学習する． | 座標値を用いた速度や角度の計算方法について調査しておく． | 4時間 |
| 第11回 | **「Excel」「R」を用いた統計分析** | 統計について予習と復習を行う．「回帰式」「T検定」「分散分析」のキーワードを調査して説明できるようにしておく． | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 表計算ソフト「Excel（Microsoft）」，統計ソフト「R」を用いた統計分析の方法や，簡単なプログラミングについて学習する． | | |
| 第12回 | **統計分析手法の選択と実践**<br><br>提示されたサンプルデータを用いて，統計分析を行う．その際，学習した統計手法の中から適切な手法を選択し，実践する．また，得られた結果について，論文執筆，発表資料へ挿入できる，見やすく伝わりやすい図表の作成法について学び，実際に発表する． | 論文へ図表を挿入する際のルールについて調査する． | 4時間 |
| 第13回 | **研究のデザインの方法**<br><br>仮説を立てる方法と仮説を検証する方法を理解して，実践できるようになる． | これまでの学習，実践，文献研究を振り返り，自分の興味のある研究をまとめておく． | 4時間 |
| 第14回 | **研究デザインの発表，まとめと総評**<br><br>卒業研究において実施したい研究についてまとめ，発表する．これまでの実施内容を確認する． | これまでの学習内容を振り返り，レポート課題に取り組む． | 4時間 |

SP-3402-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング基礎演習Ⅱ（北村）** | | | | |
| 担当教員名 | **北村　哲** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

1.アクティブラーニングによる事例的に学習から、①指導者としての考えやスキル、②プレーヤーのセルフコーチングスキルについて理解し、指導や競技力向上に必要な実践的な観点や知見を学ぶ。主なアクティブラーニングとしてモチベーションビデオの作成、ディスカッションの実践、質問スキル向上実践、ファシリテーション実践を行う。
2.卒業研究に向けた研究法を学びながら個人またはグループ調査と発表を数多く実施し、プレゼンテーション能力の向上を図る。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 指導者としての考えやスキル、プレーヤーのセルフコーチングスキルなど指導や競技力向上に必要な実践的な観点や知見 | ①指導者としての考えやスキル、②プレーヤーのセルフコーチングスキルにおける重要点について述べることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | モチベーションビデオの作成、ディスカッションの実践、質問スキル向上実践、ファシリテーション実践等のアクティブラーニング | 各実践で主体的に実践できる、伝えるためのプレゼンテーションを工夫できる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 卒業研究に向けた研究法の学習、個人またはグループ調査と発表 | 学んだことと自身の経験を踏まえ、スポーツ課題を明確にし、解決に向けて行動できる。 |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 自身の体験・経験の振り返り | 自身のスポーツ実践での問題提起や興味に対して、深く追求できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

「ICT（タッチタイピング）」「ICT（Power Point）」「ICT（Excel）」「ICT（動画活用）」「ICT（専用機材・アプリ活用）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 調査学習発表 | 30 % | ： 各発表におけるプレゼンテーションの内容について、ルーブリックをもとに評価する。 |
| 調査学習レポート | 30 % | ： 各レポートに対してルーブリックをもとに評価する。 |
| ビデオレポート | | ： レポートに対してルーブリックをもとに評価する。 |

10　%

まとめレポート　　:　　レポートに対してルーブリックをもとに評価する。

30　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

その他授業時に適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4 時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツキャリアの自己分析**<br>基礎演習の進め方について説明およびコーチング実践の学び方について理解する。<br>自身が歩んできたスポーツキャリとこれまで受けてきたコーチングについて理解する（ディスカッション形式で履修者の多種多様な経験を理解する）。<br>またこれからのスポーツ活動についての計画を立て、PDCAサイクルにのっとったスポーツ活動を実施するための準備をする。 | 自身がこれまで受けたコーチングについて振り返り、まとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コーチング研究の実際①**<br>4年生の卒業研究ついて学び、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。 | 研究要旨を読み、事前学習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **コーチング研究の実際②**<br>4年生の卒業研究ついて学び、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。 | 研究要旨を読み、事前学習する。 | 4時間 |
| 第4回 | **所属チームの分析①**<br>自身が所属しているチームの特徴や現状を分析するための分析観点を整理し、分析シートを作成する。 | 作成した分析シートを用いて所属チームについて観察的分析をする。 | 4時間 |
| 第5回 | **所属チームの分析②**<br>分析結果について、ディスカッションしながら、チームの特徴と課題について整理する。<br>今後のチーム活動向上のための施策について考える。 | 作成した分析シートを用いて所属チームについて観察的分析をする。 | 4時間 |
| 第6回 | **チームビルディングの事例学習①**<br>スポーツチームのチームワーク形成の過程について、事例学習を行う。 | 事例集を予習する。 | 4時間 |
| 第7回 | **チームビルディングの事例学習②**<br>スポーツチームにおける課題解決の過程について、事例学習を行う。 | 事例集を予習する。 | 4時間 |
| 第8回 | **計画的活動の評価**<br>各自のスポーツ活動について、評価を実施し、今後の課題と取り組み内容について整理する。 | 活動評価のための客観的資料を収集する。 | 4時間 |
| 第9回 | **集計・統計処理の学習①**<br>自身が評価したスポーツ活動の評価資料をもとに、2ヶ月間の成果について、統計的解析手法を使って分析しながら、統計解析手法について学習する。（調査で得られたデータの整理方法、整理したデータの分析方法、分析したデータの提示方法：図表） | 授業時間では、分析時間が不足した内容への解析を進める。 | 4時間 |
| 第10回 | **集計・統計処理の学習②**<br>第9回授業に続き、自身が評価したスポーツ活動の評価資料をもとに、2ヶ月間の成果について、統計的解析手法を使って分析しながら、統計解析手法について学習する。また、自身でリサーチクエスチョンを設定し、設定した問いについて統計的手法を用いて分析評価を行う。 | 授業時間では、分析時間が不足した内容への解析を進める。 | 4時間 |
| 第11回 | **ミニ研究論文の作成**<br>第9回・第10回授業で収集した情報を用いて、ミニ論文を作成する。研究論文の流れと形式について学習する。 | ミニ研究論文を完成させる。 | 4時間 |
| 第12回 | **ミニ研究論文発表のためのスライド作成**<br>発表のためのスライドを作成する。発表のスタイルやプレゼンテーションスライドの構成や展開手法について学習する。 | スライドを完成させる。 | 4時間 |
| 第13回 | **ミニ研究論文の発表**<br>ゼミ内発表を実施する。 | 発表時のフィードバックを受け、各内容を修正する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **コーチング研究の学習**<br>卒業研究発表会への参加し、次年度に向けて自身の研究課題を設定する。 | 研究課題設定のための事前学習を行う。 | 4時間 |
| 第15回 | **あああああああ**<br>あああああああ | あああああああああ | 4時間 |

SP-3402-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング基礎演習Ⅱ（坂尾）** | | | | |
| 担当教員名 | **坂尾　美穂** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | (公財)日本サッカー協会におけるタレント育成・強化・普及活動（JFAアカデミー福島、JFAアカデミー堺、JFAナショナルトレセンコーチ、JFAエリートプログラム女子監督、U-17日本女子代表コーチ）、ドイツにおけるサッカー指導（MSVデュイスブルク）などの実践経験を講義内容に結びつけている。（全28回） | | | | |

**授業概要**

スポーツ選手を対象とした運動指導や，サッカー競技等のコーチング，ボールゲームを中心としたスポーツのゲーム分析・パフォーマンス分析を計画，実践する。そして卒業研究に向けた文献収集，文献レビューの作成，プレゼンテーション，スポーツとコーチングの実践，ゲーム分析・パフォーマンス分析の実際を行う．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自身の経験や実践現場に基づいて，発見した課題への解決方法を立案 | 多面的な視点を持って、論理的思考能力を発揮できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 実践力ある選手育成・組織マネジメントについての資質、能力 | 選手を実際に伸ばすことのできるコーチングや組織マネジメントを体得できる。 |
| 3. DP2.知識・技能 | サッカー競技や自身の専門競技を中心に、コーチングについて、コーチの実際の役割、資質、能力、方法論についての知識 | コーチに必要とされる能力を理解できる。 |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 自身の経験や実践している競技と他競技、他領域、他分野を関連付ける思考力 | 様々な知見を収集し、発展的な思考で物事をとらえることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

プレゼンテーションのために、予習や準備を求める。プレゼンテーションとともに準備物も確認する。積極的な意見交換や質問も重要視する。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| プレゼンテーション | ： | 3回のプレゼンテーション(30点×2回)60点<br>・テーマに対して理解があり、論理的である。15点<br>・テーマに対して自分の意見や考え、新しい視点がある。15点 |
| 60　% | | |
| レポート | ： | 2回のレポート(20点×2回)<br>・テーマに関する問題点や課題について、論理的に記述されている。10点<br>・自身の経験や社会の流れに即し、新たな課題や可能性について記述されている。5点<br>・自身の考えや新たな視点での提言が、明確かつ論理的に記述されている。5点 |
| 40　% | | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

映像を適宜使用する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス・コーチ学の研究とは**<br>本演習について、今後の計画と準備、心得、成績評価方法についてガイダンスを行う。研究ノートに、ノートの使用方法、まとめ方を指導する。また、コーチ学の研究について、例を紹介し、全体像を概観する。 | コーチ学について基礎知識を調べておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **卒業研究中間発表聴講①**<br>アスリートコーチングコースの中間発表に参加し、様々な領域、テーマ、研究方法、構成、研究手法について学修し、自身の卒業研究計画立案に役立てる。また、質疑応答での質問を通して、発問力、建設的批判能力を身につける。 | 図書館で興味ある先行研究を調べておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **卒業研究中間発表聴講②**<br>アスリートコーチングコースの中間発表に参加し、自身の卒業研究計画立案に役立てる。また、自身の研究テーマと近い研究発表について、レポートを作成し、要約力を身につける。 | 収集した文献資料を読んでおく。 | 4時間 |
| 第4回 | **レジュメ作成**<br>それぞれのキーワードあるいは自身の卒業研究に関連する文献を収集する。収集した文献あるいは提示された文献についてレジュメを作成する。レジュメ作成は抄録作成の要領で行う。 | 発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **プレゼン資料作成**<br>収集した文献あるいは提示された文献について作成したレジュメをもとにプレゼンテーション資料を作成する。プレゼンテーション資料には、画像や動画の使用、各自で作成した表やグラフの使用を行う。またプレゼンテーションの方法について学ぶ。 | わかりやすいプレゼンテーションの方法について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **グループA発表**<br>それぞれのキーワードに従い収集あるいは提示された文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **グループB発表**<br>それぞれのキーワードに従い収集あるいは提示された文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **グループA　発表と質疑応答**<br>それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **グループB　発表と質疑応答**<br>それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表の準備、リハーサルをしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究計画立案**<br>自身が取り組む卒業研究の方向性やテーマを決定し、方法を考える。測定や実験を行う場合は、使用機材の使用方法を学ぶ。 | 収集した先行研究で採用されている方法を確認しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **分析**<br>それぞれの競技を題材に、分析について理解する。目的や対象によって多種多様な分析があることを理解する。 | 静止画および動画を使用し、プレーの分析を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **プレゼンテーションの実践Aグループ　プレー分析**<br>個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。<br>コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。 | 映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **プレゼンテーションの実践Bグループ　プレー分析**<br><br>個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。<br>コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。 | 映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。 | 4時間 |
| 第14回 | **プレゼンテーションの実践Cグループ　プレー分析**<br><br>個の育成につながる分析の観点、手法と効果的な映像の使い方について理解する。<br>コーチング現場につながる分析を動作・個人の戦術行動・チームの戦術行動の観点から実践する。 | 映像を抽出・編集し、個の育成につながる分析結果についてプレゼンテーションを行う。他者の分析およびプレゼンテーションの内容について評価しコメントする。 | 4時間 |
| 第15回 | **文献収集　検索ファイリング**<br><br>図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。<br>前期の文献収集等を踏まえ、各学生の研究テーマ・キーワードを仮決定する。 | 振り返りから、自分に興味あるテーマ設定を考えておく。 | 4時間 |
| 第16回 | **競技に専門的な体力測定の実施**<br><br>サッカーに専門な20m走、5*10mシャトルラン、３歩バウンディング、垂直跳びなどを実施する．スパイクまたはトレーニングシューズを持参する．サッカーフィールドにて計測を実施する。 | 実際にフィジカル測定をするので、運動を行い体力をつけておく。 | 4時間 |
| 第17回 | **別テーマ選択から文献収集**<br><br>図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。 | 図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。 | 4時間 |
| 第18回 | **データの入力、基本統計量とグラフの出力**<br><br>体力測定のデータを入力する。得られたデータセットから平均値、標準偏差、最大値、最小値を算出する。各1回目と２回目による信頼性係数を算出する。各項目間の相関係数を算出する。項目間の散布図を作成する。得られたデータの解釈方法を解説し、理解を深める。 | 実際に測定したデータをどう活用するか、自分でまず考えておく。 | 4時間 |
| 第19回 | **グループA　グループで共同発表**<br><br>それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。 | 4時間 |
| 第20回 | **グループB　グループで共同発表とまとめ**<br><br>それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表準備(内容の整理・プレゼンリハーサル)をしておく。 | 4時間 |
| 第21回 | **スポーツ現場と研究**<br><br>プロ選手に関する動画を視聴し、スポーツ現場の実際とそれに対する科学的分析の視点に関して知見を深める。 | 実動画を見ながら必要な情報をメモにとり、実践されている科学的分析の視点についてまとめる。 | 4時間 |
| 第22回 | **海外スポーツ　Aグループ**<br><br>「海外」をキーワードに、育成システム・代表チーム・リーグ戦文化・プロフェッショナルスポーツ・クラブスポーツ・協会・指導法・教育に関して、興味のあるテーマについて発表する。 | パワーポイントを使用して海外のスポーツについて発表の練習をする。 | 4時間 |
| 第23回 | **海外スポーツ　Bグループ**<br><br>「海外」をキーワードに、育成システム・代表チーム・リーグ戦文化・プロフェッショナルスポーツ・クラブスポーツ・協会・指導法・教育に関して、興味のあるテーマについて発表する。 | パワーポイントを使用して海外のスポーツについて発表の練習をする。 | 4時間 |
| 第24回 | **文献収集　時間制限あり**<br>図書館データベースを用いて研究のキーワードに即した図書や雑誌を検索する。検索した資料を収集し、コピーを研究ノートにファイリングする。重要部分をマーキングし、次回のレジュメ作成に向けて情報を集約する。 | 図書館で興味ある文献を閲覧しておく。 | 4時間 |
| 第25回 | **レジュメ作成　討論つき**<br><br>収集した文献資料に基づき、レジュメを作成する。パソコンを用いて文書作成を行う。A4用紙1枚に収まるように要約する。テーマ、キーワード、著者、出版社、発行年、記事の主張、記事に対する評価、批判的意見、まとめ、を記述する。 | 図書館で、関連した文献を調べて、研究ノートにまとめておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第26回 | **グループA　討論**<br><br>それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第27回 | **グループB　討論**<br><br>それぞれの研究テーマ・キーワードに従い収集した文献を発表する。各学生３分の持ち時間で、レジュメに基づき発表する。２分間の質疑応答をへて、自分のテーマに対する理解を深める。他学生の発表を聴き、分野に関する理解を広める。 | 発表の準備(内容の整理と発表リハーサル)をしておく。発表内容の関連事項や疑問点について調べ、まとめる。 | 4時間 |
| 第28回 | **次年度研究計画の立案**<br><br>次年度の卒業研究に向けたテーマの決定，準備，調査・実験計画，データ収集・解析，本文執筆などの計画を立案する．スケジュール表を作成する． | テーマについて再考して、自分で計画を立ててみる。 | 4時間 |

SP-3402-3-1

| 授業科目名 | コーチング基礎演習Ⅱ（工藤） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 工藤　慈士 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | スポーツ少年団への講演や滋賀県水泳連盟特別強化スタッフとしてかかわった事例を扱い、スポーツ現場の課題を講義内容に結びつける。 | | | | |

**授業概要**

コーチングに関わる指導者の行動や諸問題に対する事例を紹介し、スポーツ心理学の観点を中心に自身の考えを整理・発表し、他者との意見の相違を図り、多様なコーチング哲学やポリシーの在り方について深く理解する。また、プレゼンテーションや汎用性のあるコーチングスキル習得を目指すため、文献や書籍から興味深い題材を選択し、卒業研究への学びにつながる思考力・実践力を養い、スポーツを題材に様々な観点から事象を考察し自身の競技力向上や指導現場など日常生活に応用可能なスキル習得を図る。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 事例を参考に実践的なコーチングに関する知識 | 幅広い競技種目を理解することで自身の競技への理解を深めることができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 自身の考えを整理・発表しプレゼンテーションを通してコーチング力を発揮する技能向上 | 卒業研究に向けて多角的にスポーツを捉え、考察し、プレゼンテーションすることができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | コーチングに関する事例からグループワークを通して相互に意見を交換する学ぶ姿勢 | グループワークを通して他者からの意見を傾聴し、相互に意見交換ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 期末レポート | 50 % | ： | 与えられたテーマに基づいて、論理的記述されていることを基準に評価する |
| プレゼンテーション | 30 % | ： | 研究テーマに関わるプレゼンテーションができているか評価する |
| グループワーク | 20 % | ： | コーチング事例を参考に、グループワークができているか評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

なし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス・コーチング概説**<br>本科目の授業展開について説明およびコーチングについて紹介する | コーチングの基礎知識についてまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **競技理解**<br>自身の専門種目やこれまで経験してきた競技についてのルールや歴史的背景、課題などディスカッション形式で展開し、大局的な競技理解を深める。 | 自身が従事した競技の歴史・文化などについてまとめる | 4時間 |
| 第3回 | **事例紹介**<br>コーチングに関わる事例を紹介し、コーチングにおける諸問題について理解する。その防止策についても共有する。 | 提供された資料を基に、コーチングの発展性・応用性についてまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **多様なコーチング方法の収集**<br>これまで経験してきたコーチングスタイルや文献、書籍などで見聞きした多様なコーチング法について共有し、さらに良いポイント・改善ポイントを全体で共有する。 | 自身の経験を踏まえ、コーチングの発展性・応用性についてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **文献収集**<br>心が動いたコンテンツ（CM、YouTube、映画、スポーツ映像など）を収集し、スライドに要約する。<br>プレゼンテーションに関わる引用方法について理解する。 | 興味関心のあるコーチング実践についてまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **発表①**<br>それぞれが持ち寄ったコンテンツを全体で共有し、心が動いたポイントについてスポーツ心理学の観点から考察する。 | 発表の準備、パワーポイントの使用方法についてまとめる | 4時間 |
| 第7回 | **発表②**<br>それぞれが持ち寄ったコンテンツを全体で共有し、心が動いたポイントについてスポーツ心理学の観点から考察する。 | 発表の準備、パワーポイントの使用方法についてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **質的研究**<br>質的研究法について紹介する。これまでの研究動向や様々な手法について概説する。 | 質的研究についてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **量的研究**<br>量的研究法について紹介する。心理尺度を用いて客観的データ採集、分析過程を概説する。 | 量的研究についてまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **文献講読**<br>卒業研究につながる資料を収集する。 | 文献を収集する | 4時間 |
| 第11回 | **研究計画の立案**<br>実現可能な研究テーマを設定する。 | 研究計画についてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **研究方法の立案**<br>実現可能な研究テーマに沿った研究方法を設定する。 | 分析方法までの具体的な展開についてまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **プレゼンテーションの理解**<br>聞き手が理解しやすいスライドの作成方法を紹介する。 | 研究発表におけるプレゼンテーションの基礎知識をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **プレゼンテーションの実践**<br>研究テーマを分かりやすく簡潔にまとめ、全体で発表する。 | 卒業研究にむけて準備する | 4時間 |

SP-3402-3-1

| 授業科目名 | コーチング基礎演習Ⅱ（渋谷） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 渋谷　俊浩 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷俊浩（全14回）：日本スポーツ協会公認コーチ4（陸上競技）・同協会コーチデベロッパーの資格及び実業団・大学生の指導経験を活かし、受講生の学びが深まるようサポートする。 | | | | |

**授業概要**

4年時のコーチング演習Ⅰ・Ⅱ（卒業研究の実施）へ向けた導入的な内容とする。上級生（他ゼミ含む）の卒業研究活動を概観（中間・最終発表会参加等）しながら、前期コーチング基礎演習Ⅰで学習した内容を基づき、各自の興味関心のある研究テーマを設定する。また、その研究課題を解決するために必要な研究資料（引用参考文献要約集等）の作成および実験・調査等を行う。さらに、まとめとしてグループおよび担当教員とのディスカッション等を通じて短編論文を執筆・発表（プレゼンテーション）する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 競技スポーツ・コーチングに関する諸理論の理解と実践 | 競技スポーツ・コーチングに関する諸理論を理解し、説明することができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 競技スポーツにおけるコーチング理論の実践 | コーチング（トレーニング含む）計画を立案し、自身や他者に対して適切なコーチングを実践することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

コース卒業研究中間発表会、最終卒業研究発表会への参加を必須とする。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 各自テーマの短編論文 | 50 % | ： | コーチングに関する基礎理論をふまえた、各自テーマの独創性・理解度・論理性等を50点満点で評価します。 |
| 研究資料（引用参考文献要約集等） | 20 % | ： | 各自で作成した研究資料の有用性について20点満点で評価します。 |
| 研究発表（プレゼンテーション） | 30 % | ： | プレゼンテーションの内容（作法・表現力・論理性等）を30点満点で評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各自の研究テーマに沿って、随時紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業内容の復習と、次回の授業に向けて予習をしてください。また、ディスカッション等では積極的に発言し、自主的の研究を進めてください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　授業教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス：前期の振り返りおよびコーチング分野の動向把握**<br>前期の授業内容を振り返るとともに、後期の授業スケジュール・課題等を確認する。<br>今期に行われた主要大会の結果やそれらへのコーチ分野の関わり等を把握し、今後の自身のコーチングに活かす方策を検討する。<br>コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。 | 前期の授業内容を振り返る。また、コーチング分野の動向について理解し、各自のテーマを構想しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第2回 | **研究発表会の聴講：コーチング分野の研究内容の理解**<br>研究発表会（卒業研究中間発表会等）を聴講し、コーチング分野の研究の実践例に触れる。<br>コーチングにかかわる様々な基礎理論を確認し、理解する。<br>コーチングにかかわる様々な研究・文献に触れる。 | コーチング分野の研究の実践例をまとめ、ノートに記録しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第3回 | **個人研究テーマの模索：引用参考文献検索**<br>これまでに学習した内容に基づき、自身の興味関心のある研究テーマを模索する。<br>コーチング分野の様々な研究論文・学術文献に触れ、自身の研究に関する示唆を得る。 | 自身の研究に関わる研究論文・学術文献をライブラリー・検索ソフトを用いて講読しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第4回 | **個人研究テーマの設定：研究資料の作成**<br>個人研究テーマを設定する。<br>自身の研究課題を解決するために有用な研究論文・学術文献等を要約し、研究資料を作成する。 | 自信が作成した研究資料を熟読し、研究の進め方を検討しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第5回 | **個人研究進捗状況報告会：ディスカッション**<br>各自の研究テーマと研究資料について全員でディスカッション（意見交換）し、他者の多様な視点からの示唆を得ながら研究の進め方を検討する。 | ディスカッションで受けたアドバイス・意見をまとめておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第6回 | **個人研究活動：調査・実験等の計画、ディスカッション**<br>自身の研究課題を解決するためにはどのような研究手法が適切かを検討し、全員でディスカッションしながら、工程を決める。 | 自身が選択した研究手法について、先行研究論文等を参考に精査しておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第7回 | **個人研究活動：調査・実験等の実施**<br>自身の研究活動（調査・実験等）を実践する。<br>積極的かつ自主的に研究を進める。 | データを整理し、まとめておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第8回 | **個人研究活動：結果の整理**<br>調査・実験で得られた結果（データ）を整理し、適切な分析方法等を検討する。 | データをまとめ、進捗状況報告会の準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第9回 | **個人研究進捗状況報告会：ディスカッション**<br>各自の研究の進捗状況（整理されたデータ等）について報告する。全員でディスカッション（意見交換）し、他者の多様な視点からの示唆を得ながら研究を進めていく。 | 報告会で受けたアドバイス・意見をまとめ、研究・短編論文執筆を進めていく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **個人研究活動：結果の分析・考察等**<br>得られた結果（データ）を適切な手法で分析し、研究資料（研究論文・学術文献要約集等）を参考に考察を加える。 | 結果をまとめ、短編論文の執筆を進める。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第11回 | **個人研究活動：結果報告・短編論文提出**<br>個人研究の結果を全員に報告し、短編論文を提出する。プレゼンテーションの準備をする。 | 自身の短編論文を熟読し、プレゼンテーションの準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第12回 | **個人研究発表会：プレゼンテーション・ディスカッション（前半）**<br><br>一人ずつ研究成果を報告（プレゼンテーション）する。（5名程度）<br>質疑応答を通じて自身の研究を振り返り、次年度の研究活動の準備を始める。 | プレゼンテーションで受けたアドバイス・意見をまとめ、これまでの取り組みを振り返っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第13回 | **個人研究発表会：プレゼンテーション・ディスカッション（後半）**<br><br>一人ずつ研究成果を報告（プレゼンテーション）する。（5名程度）<br>質疑応答を通じて自身の研究を振り返り、次年度の研究活動の準備を始める。 | プレゼンテーションで受けたアドバイス・意見をまとめ、これまでの取り組みを振り返っておく。自身のスポーツ活動現場で実践する。（コーチング・トレーニング） | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ：コーチング専門実習Ⅰ・Ⅱ受講へ向けて**<br><br>これまでにスポーツ・コーチング分野の授業で学習した内容を振り返り、4年次生での研究活動にどのように取り組んでいくのか（研究活動の工程）を検討する。 | 卒業研究の工程を検討し、研究行うための準備をしておく。自身のスポーツ活動現場で実践し（コーチング・トレーニング）、記録しておく。 | 4時間 |

SP-3402-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング基礎演習Ⅱ（竹川）** | | | | |
| 担当教員名 | **竹川　智樹** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 2015年～2020年：U21,U23日本代表コーチ、2015年～2021年：日本オリンピック委員会強化スタッフ、2018年：アジア競技大会スタッフ等の実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

コーチングにおける問題や疑問を自身で見つけ、それらをどのように解決していくかという能力を身につけることが重要であり、そのために調査をしたり、文献講読したり、討論や発表を行ったり、報告書や論文をまとめたりする「知的作業の基本」を身につけるための学習を行う。そしてコーチングに必要な知識について学びつつ、論文とは何か、研究とは何かを理解し、卒業論文作成のための基礎的な能力の向上を目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 卒業論文の作成準備と専門的な知識の獲得 | 基礎的研究を理解し、卒業論文を作成するための知識を獲得することができる |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツ学から新しい知識を取り入れ、自分の競技や指導に役立つ能力の養成 | 競技生活や指導現場においてスポーツ学からの新しい知識を生かし実践することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題評価 | 60　% | ：　授業内での課題に対しての理解度と独自性について評価する。<br>・課題をよく理解し独自性がある（60点）<br>・課題をおおよそ理解し独自性がある（50点）<br>・課題に対して一定の理解と独自性が見受けられる（40点） |
| 発表・プレゼンテーション | 40　% | ：　発表・プレゼンテーション<br>・プレゼンテーマに対して理解があり、的確な表現である（20点）<br>・プレゼンテーマに対して自身の意見や考えがあり、独自性がみられる（20点） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は４単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよびコーチングの理解**<br>コーチング演習の計画や内容、評価方法などについてガイダンスを行う。コーチングについての基礎的知見から概要を理解する。 | コーチングについての基礎的知見をまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **研究、論文とはなにか**<br>研究や論文とはどんなものなのかを、実際の論文を講読し、理解をする。 | 研究や論文について基礎的知識をまとめる | 4時間 |
| 第3回 | **コーチングに必要な基礎的知識（運動生理学、トレーニング科学）**<br>運動生理学やトレーニング科学について学び、コーチングに必要な基礎的な理解を得る。 | 運動生理学、トレーニング科学についてまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **コーチングに必要な基礎的知識（スポーツ心理学、メンタルトレーニング）**<br>スポーツ心理学、メンタルトレーニングについて学び、コーチングに必要な基礎を理解する。 | スポーツ心理学、メンタルトレーニングについてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **文献検索、文献収集方法**<br>図書館データベース等を用いて興味のあるテーマやキーワードに沿った図書や雑誌の検索、収集方法について学ぶ。 | 興味のあるテーマやキーワードについてまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **文献収集（指定されたテーマ、キーワード）**<br>指定されたテーマ、キーワードを用いて、関連する文献を３編以上収集する。 | 収集した文献を読む | 4時間 |
| 第7回 | **プレゼンテーション１（パワーポイントでの資料作成、操作方法）**<br>プレゼンテーションとは何かを考え、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成方法や操作方法について学ぶ。 | パワーポイントの使用方法についてまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **基礎的な統計１（平均、標準偏差、ｔ検定）**<br>研究論文に用いられる基礎的な統計について学び、研究論文講読の理解を深める。 | 平均や標準偏差、ｔ検定についてまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **基礎的な統計２（相関、他の統計）**<br>研究論文に用いられる基礎的な統計について学び、研究論文講読の理解を深める。 | 相関や他の統計についてまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **プレゼンテーション２（発表）**<br>効果的なプレゼンテーションの方法と発表シミュレーションを行い、伝わる技術を学ぶ。 | プレゼンテーションについてまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **卒業研究仮テーマの設定**<br>これまで行ってきた授業を振り返り、卒業論文の研究テーマやキーワードを仮設定する。 | 興味、関心、疑問点についてまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表およびグループ討論**<br>卒業研究の仮テーマ、仮計画の発表を行い、発表学生に対しての質疑応答およびグループ討論を行う。 | 研究計画についてまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業論文の研究計画の作成（緒言）**<br>目的を明確にし、研究背景についてまとめる。 | 卒業研究の目的をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **授業の総括および卒業研究へむけての心構え**<br>前期科目コーチング基礎演習Ｉを含め、１年間の授業を振り返り、まとめを行う。卒業研究へむけた課題の確認をする。 | 前期、後期の授業について確認し、特に重要と思われる事柄についてまとめる | 4時間 |

SP-3402-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング基礎演習Ⅱ（玉城）** | | | | |
| 担当教員名 | **玉城　耕二** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

バスケットボールを主としたコーチングに関わる内容について、スポーツ心理学やゲーム分析の観点から学ぶ。
また、言語技術教育に取り組むことで、思考力・想像力・分析力を高め、コーチングスキルや卒業論文作成の土台を構築する。
卒業研究に向けては、下記の3つ観点から学習を行う

1.言語技術と研究法・分析法の学習
2.自身の競技内容を定量・定性的に分析し、改善・向上に向けた計画の立案による学習
3.個人・グループ調査とプレゼンテーション能力向上に向けた学習

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 実践的なコーチングに関する知識 | コーチングに関する幅広い知識と指導者の経験や考え方などの思考の要因等について理解できる |
| 2. DP2.知識・技能 | コーチングに関わる知識を発揮するための技能 | スポーツを定量的・定性的に分析し、言語化できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | ゲーム分析に関する知識・技能 | 分析に基づき、自身の競技生活や指導場面でアウトプットすることができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 言語技術課題 | 20 % | ：①言語技術・コーチングの実践に関するレポート<br>②研究テーマ設定に関わるレポート<br>各10点 |
| プレゼンテーション | 40 % | ：①言語技術・コーチングの実践のプレゼン<br>②研究テーマ設定のプレゼン<br>各20点 |
| パフォーマンス分析 | 40 % | ：パフォーマンス分析に基づくPDCAの立案<br>40点 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 三森ゆりか | ・ 大学生・社会人のための言語技術トレーニング | ・ 大修館書店 | ・ 2013　年 |

**参考文献等**

その他授業時に適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4 時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **コーチングの実践的学びについて**<br>演習の進め方について説明およびコーチング実践の学び方について理解する | 自身がこれまで受けたコーチングについて振り返り、まとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コーチングについての理解①　自分の恩師のコーチング**<br>自身が受けてきたコーチングについて理解する（ディスカッション形式で履修者の多種多様な経験を理解する） | 授業時に取り上げられた恩師のコーチングについて、再度振り返る。 | 4時間 |
| 第3回 | **言語技術 スキルトレーニング（概説）**<br>言語技術の重要性とその目的を理解する<br>対話:面接などにも役立つ、論理的な受け答えの方法が身につける<br>コーチング場面・インタビュー場面を想像し、自身の経験を振り返る | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第4回 | **言語技術 スキルトレーニング（物語）**<br>物語：物語の構造を理解する<br>コーチング場面などで、端的かつ明確に伝える重要性を学ぶ | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第5回 | **言語技術 スキルトレーニング（物語・要約）**<br>物語・要約：物語の構造を理解し、要約や速読の実践につなげる<br>コーチング場面などで、端的かつ明確に伝える重要性を学ぶとともに、重要な情報を掴む力を育む | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第6回 | **言語技術 スキルトレーニング（説明①）**<br>説明：分かりやすく情報を伝達することができ、話の説得力を高める（優先順位に応じた説明）<br>コーチング場面などで、端的かつ明確に伝える重要性を学ぶとともに、重要な情報を掴む力を育む | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第7回 | **言語技術 スキルトレーニング（説明②）**<br>説明：より複雑な情報に対する説明力を育む（ストーリーの説明）<br>コーチ役と選手役に分かれ、自身が取り組む競技場面での説明の実践 | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第8回 | **言語技術 スキルトレーニング（報告）**<br>報告：レポートや報告書などで、事実や進捗状況を適切に伝える力を身に付ける | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第9回 | **言語技術 スキルトレーニング（クリティカルリーディング）**<br>クリティカルリーディング：批判的に聞くことで、分析的・論理的思考力を高める<br>情報化社会に生きるコーチとして、情報を鵜呑みにせず、数ある情報の中から<br>重要度の高い情報を取捨選別し、整理し、伝える力を身につける | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第10回 | **自身の競技実践の評価 -1-**<br>自分の競技でのスポーツパフォーマンスを評価する方法についての見識を広げる。 | 大学生のための言語技術トレーニング事前学習 | 4時間 |
| 第11回 | **自身の競技実践の評価 -2-**<br>自分の競技への取り組みを振り返り、質的・量的な観点から課題や問題点を明確にする。 | 自分自身の競技に関するフィールドワークおよび実践内容振り返りをまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **自身の競技実践の評価 -3-**<br>自分の競技への取り組みから課題や問題点を元に、改善するために計画の立案を行う。 | 自分自身の競技に関するフィールドワークおよび実践内容振り返りをまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **自身の競技実践の計画・報告** | 他の学生からのアドバイスやプレゼン内容を元に多様な考え方を学ぶ | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 改善するための計画をまとめて、プレゼンテーションへと発展させる。 | | |
| 第14回 | **プレゼンテーション①**<br><br>これまでの取り組みを活かして、自分自身の競技パフォーマンスを高めるための鍵を分析し、<br>プレゼンテーションを行う。<br>プレゼンテーションに対して、全体でディスカッションを行う。 | 実践の継続の中で得られた気づきや、効果についてまとめ報告する。また報告内容について他学生とディスカッションしながら、多くの経験知を得る。 | 4時間 |
| 第15回 | **コーチングに関わる研究方法①　スポーツ方法論に関わる研究**<br><br>スポーツ方法論に関わる研究の概観 | スポーツ方法論に関する研究論文を読む。コーチングに関わる研究方法②　　多様なコーチング分野の研究 | 4時間 |
| 第16回 | **コーチングに関わる研究方法②　多様なコーチング分野の研究に触れる**<br><br>4年生の卒業研究中間発表会に参加し、多様なコーチング分野の研究に触れ、コーチング研究についての理解を深める。 | スポーツ方法論に関する研究論文を読む | 4時間 |
| 第17回 | **コーチングに関わる研究方法②　スポーツ方法論に関わる研究**<br><br>スポーツ方法論に関わる研究を学ぶとともに、ゲーム分析について学びを深める | ゲーム分析に関する論文を調べてくる | 4時間 |
| | ゲーム分析の中でもSportscodeを用いた数量的分析を実践する | | |
| | Sportscodeを用いて、自分が取り組んでいるスポーツのゲーム分析を実践する。<br>グループワークを通じて、分析-評価-再計画というプロセスに取り組む。 | | |
| 第20回 | **プレゼンテーションの実践②**<br><br>ゲーム分析に関するグループワークに基づき、プレゼンテーションを実践する。<br>プレゼンテーションに対して、全体でディスカッションを行う。 | プレゼンテーションの準備作業を行う。 | 4時間 |
| 第21回 | **コーチングに関わる研究方法③　コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）**<br><br>コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）の概観 | コーチング事例に関わる研究（実験検証的研究）を読む | 4時間 |
| 第22回 | **ミニ論文作成①**<br><br>論文の作成方法についての実践的学習。グループ別に研究テーマを設定する。 | 日々の実践から課題を見出すためのフィールドワークを行う。 | 4時間 |
| 第23回 | **ミニ論文作成②**<br><br>論文の作成方法についての実践的学習。グループで先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について理解する。その後研究計画を作成する。 | 各自先行研究の調査、収集を行う | 4時間 |
| 第24回 | **ミニ論文作成③**<br><br>グループで、調査や実験を行い、調査や実験で得られたデータの整理方法について学習し整理する。 | グループで、調査や実験を行う | 4時間 |
| 第25回 | **効果的なプレゼンテーション**<br><br>相手に伝えるためには、どのような伝え方が効果的か？<br>効果的なプレゼン資料の作成方法を学ぶ。<br>簡単なアプリケーションなどを用いて効果的な資料作成を考える。 | プレゼンテーションの準備作業を行う。 | 4時間 |
| 第26回 | **プレゼンテーションの実践②**<br><br>ミニ論文発表会の実施 | 各自分担されたデータの整理を行う | 4時間 |
| 第27回 | **自身の研究テーマの立案①**<br><br>自身のスポーツ経験からの学術的興味のもと、先行研究を調査し、問題の所在や研究方法について整理する。 | 卒業研究に向けた先行研究調査 | 4時間 |
| 第28回 | **自身の研究テーマの立案②**<br><br>4年生の卒業研究発表会に参加し、先週までの自身らが行った研究と対比させながら、<br>卒業研究について深く思考し、自身の卒業研究のテーマについて立案する。 | 自身の研究テーマの立案② | 4時間 |

SP-3402-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング基礎演習Ⅱ（林）** | | | | |
| 担当教員名 | **林　弘典** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 全日本女子柔道強化コーチ（2005～2008年）、地方青少年武道錬成大会中央講師（2005～2022年）日本スポーツ協会コーチディベロッパー（2023年～現在）の3つ実務経験から、性別、年齢、競技種目に関わらず多様な学生に対応している。（1～14回） | | | | |

**授業概要**

小学校以前、小学校、中学校、高校までのスポーツ活動史を作成することを通して、どのようなコーチングが適切であり、適切でないかを学習する。また、自分のスポーツ活動を振り返り、プレーヤーとして良かった点や悪かった点（改善すべき点）を整理する。これを言語化することによって、文章作成能力や論理的思考を向上させる。さらに、自分や他人のスポーツ活動史の発表・質疑応答を通し、傾聴力やプレゼンテーション能力を高める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 他人のスポーツ活動史の質疑応答 | 他人のスポーツ活動史の質疑応答を興味や関心を持って傾聴できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 自分のスポーツ活動史の作成 | 卒業研究の手引きの形式で自分のスポーツ活動史を作成できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 自分のスポーツ活動史の発表 | 自分のスポーツ活動史の発表を通し、自分の考えをプレゼンテーションできる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自分のスポーツ活動史の作成 | 自分のスポーツ活動を振り返り、良かったこと悪かったことを整理できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 質疑応答 | 20 % | ： 第1～14回の質疑応答の妥当性を5段階で評価する。 |
| レポート | 20 % | ： 第14回に提出した自分のスポーツ活動史（表紙、目次、ページなどの体裁）の完成度を5段階で評価する。 |
| 発表 | 30 % | ： 第1～14回の発表内容の妥当性を5段階で評価する。 |
| レポート | 30 % | ： 第14回に提出した自分のスポーツ活動史の完成度（分量、内容）の妥当性を5段階で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

なし。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツ活動史（小学校以前・小学校1年生）**<br>小学校以前・小学校1年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 小学校以前・小学校1年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース卒業研究中間発表会（前半グループ）**<br>コース卒業研究中間発表会（前半グループ）の聴講を通してプレゼンテーションの方法や自分の卒業研究の内容を検討する。 | 前半グループの抄録を熟読する。 | 4時間 |
| 第3回 | **コース卒業研究中間発表会（後半グループ）**<br>コース卒業研究中間発表会（後半グループ）の聴講を通してプレゼンテーションの方法や自分の卒業研究の内容を検討する。 | 後半グループの抄録を熟読する。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツ活動史（小学校2年生）**<br>小学校2年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 小学校2年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツ活動史（小学校3年生）**<br>小学校3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 小学校3年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツ活動史（小学校4年生）**<br>小学校4年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 小学校4年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツ活動史（小学校5年生）**<br>小学校5年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 小学校5年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツ活動史（小学校6年生）**<br>小学校6年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 小学校6年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツ活動史（中学校1年生）**<br>中学校1年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 中学校1年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツ活動史（中学校2年生）**<br>中学校2年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 中学校2年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツ活動史（中学校3年生）**<br>中学校3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 中学校3年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツ活動史（高校1年生）**<br>高校1年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 高校1年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツ活動史（高校2年生）**<br>高校2年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 高校2年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツ活動史（高校3年生）**<br>高校3年生のスポーツ活動を振り返り、受けてきたコーチングを学習する。また、他人のスポーツ活動の発表を傾聴したり、自分の書いたスポーツ活動について発表・質疑応答を行う。 | 高校3年生のスポーツ活動をまとめておく。 | 4時間 |

SP-3402-3-1

| 授業科目名 | コーチング基礎演習Ⅱ（山田） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 山田　庸 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 山田教授は、2008年から2012年までプロサッカークラブでのコーチング経験を有している。 | | | | |

**授業概要**

卒業研究に向けた研究に必要なスキルを実践を通じて習得する。文献収集では、ライブラリーを活用した書籍と論文の収集を行い、要約を作成する。それらをまとめ、文献レビューの作成を行い卒業論文の文献研究の基礎とする。プレゼンテーションは見に卒論発表を通じて実践的に小立てごとにパワーポイント資料を作成し発表を実践する。，ミニ卒論を通じたパフォーマンス分析の実際を行う。取得データは、各個人の興味のあるスポーツから取得する。，データ入力および解析を行い、簡潔な研究を実践する。.

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | コーチングに関する知識，各種スポーツの現象を論理的に考え問題解決するためのスキル | コーチングを論理的に考え理解し，評価することができる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | コーチングに関する情報を集約し，判断し，適切なフィードバックを伝達する力 | 各種手法を用いてスポーツの情報を集約し，判断しプレゼンテーションすることができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

ICT（タッチタイピング），ICT（Excel），ICT（PowerPoint）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の発表資料及びプレゼン | 100 % | ： 各回の資料発表を全て行なった＝60点とし、①資料の様式が整っているか、②内容は適切であるか、③自分の意見や考察が適切に行われているか、④卒業研究に向けた関連性と計画性があるかについて評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

出席を重視し、各回の課題を丁寧に行なっていくことを求める。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　金曜４限

**場所**：　B207

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス/卒論キーワードをマインドマップでまとめる**<br><br>後期のゼミ活動＝情報戦略演習（ゼミ）について、予定と内容を確認する。<br>以前に出したキーワードから，卒論に向かってキーワードを整理し，文献収集や調査方法の狙いを具体化する. | 興味のあるスポーツについてスタッツなどの情報を検索する | 4時間 |
| 第2回 | **論文の収集とレビューの作成**<br><br>自分に必要な研究キーワードに基づき，論文を5本以上収集する. | 収集した文献をリスト化し整理しておく | 4時間 |
| 第3回 | **文献収集**<br><br>卒業論文キーワードに沿った論文を検索し，収集する．収集した論文を読み，A4用紙1枚の抄録にまとめる．抄録の書式について学習する. | 必要に応じて文献検索を追加で行う | 4時間 |
| 第4回 | **卒業研究中間発表会前半**<br><br>コーチングコースの卒論中間発表会前半に参加する．すべての発表を閲覧し，自由質問を行う．レポートを作成し提出する. | 興味のある卒業研究について関連文献を調査する | 4時間 |
| 第5回 | **卒業研究中間発表会後半**<br><br>コーチングコースの卒論中間発表会後半に参加する．すべての発表を閲覧し，自由質問を行う．レポートを作成し提出する. | 興味のある卒業研究について関連文献を調査する | 4時間 |
| 第６回 | **文献の発表**<br><br>検索した論文を抄録にまとめ，ゼミ内で発表する. | 関連の文献を探索する | 4時間 |
| 第7回 | **文献収集の発展**<br><br>前回の文献発表を踏まえ、新たな卒業論文キーワードに沿った論文を検索し，収集する．収集した論文を読み，A4用紙1枚の抄録にまとめる．抄録の書式について学習する. | 抄録まとめ作業をフォローする | 4時間 |
| 第8回 | **文献発表の発展**<br><br>検索した論文を抄録にまとめ，ゼミ内で発表する．前回の発表の反省点を生かし、自身の主張点として賛同する点や反対する点を具体的に述べる | 発表に基づき文献研究の章の構成を考える | 4時間 |
| 第9回 | **文献研究の実施**<br><br>これまでまとめた文献に加え、過去の卒業論文や学術論文、専門書籍を参考に対象となるスポーツに関する先行研究や知見を文献研究の章にまとめる。主にスポーツの指導書などを参考とし引用する | 文献研究の不足している部分を記述する | 4時間 |
| 第10回 | **ミニ論文の構想を立てる**<br><br>期末のミニ論文発表に向けて，キーワード，仮説を整理し，実験や調査の計画を立てる．研究仮説，対象，方法について考えて書き出していく. | 構想にそってスポーツパフォーマンスを確認し仮説を洗練させる | 4時間 |
| 第11回 | **ミニ卒論のデータ収集**<br><br>実際にデータを収集してみる．方法は，先行研究などを参考にする．実験やアンケートを実施する場合は，事前に被験者を確保する必要がある. | 必要に応じてデータ再収集やデータのクレンジングを行う | 4時間 |
| 第12回 | **ミニ卒論のデータ分析**<br><br>得られたデータからグラフを作成し，その特徴をまとめる．Excelにてグラフ作成し，PowerPointに貼り付けて体裁を整える. | 作成したスライドの体裁を整える | 4時間 |
| 第13回 | **論文発表のテクニック，資料作成**<br><br>山田教授の学会発表例および過去の卒業論文発表例を聴講し，学会発表スライドに必要な要素，発表のテクニックについて学ぶ．学んだことを活かして，実際にPowerPointスライドを作成する. | スライドの発表練習を行う | 4時間 |
| 第14回 | **ミニ卒論の発表**<br><br>収集したデータに基づき，ミニ論文発表を行う．発表は5分間，質疑応答3分間. | 今後の課題に従い、研究計画を立てる | 4時間 |
| 第*回 | **＊**<br><br>＊ | ＊ | 4時間 |

SP-3402-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | コーチング基礎演習Ⅱ（吉川） | | | | |
| 担当教員名 | 吉川　文人 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コーチングに関連する文献の調査をとおして、競技力に影響する因子とその分析方法を含め、コーチングの知識やスキルについて学びを広げ深める。また、コーチングを支援する情報通信技術とその応用事例についても学びを広げ深め、コーチングにおけるPDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルを効果的に実行する上で要請される能力の充実を図る。加えて、受講生自らの興味・関心を踏まえたコーチング研究に取り組み、学び続ける力の延伸を図る。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | コーチング及びコーチング学に関する課題への主体的な取組み、自己学習力の発揮 | 必要な情報を自ら収集し、整理・取り纏めを行い、自ら学びを広げ深めることができる |
| 2. DP2.知識・技能 | コーチング及びコーチング学に関する知識・実践知 | 授業内容及び課題の出題意図を踏まえ、ポイントを整理して端的に説明できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | コーチング及びコーチング学に関する言語活用能力 | コーチング実践に必要な知識 コーチングに関する論文のポイントをまとめた資料を作成することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | コーチングにかかる対自己力、対他者力 | コーチやコーチングを取り巻く課題について主体的に学びを広げ深めることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

下記のレポート評価については、各自が設定する研究課題に関連した先行研究や関連研究の論文を10件以上にわたって適切に引用し、レポート（報告書）を取りまとめることが期待される。

**成績評価の方法・評価の割合**　　**評価の基準**

レポート評価　50　%　：　授業で取り扱った内容や方法を踏まえ、各自で研究活動に取組み纏めた報告書について、プロセス管理の状況及びデータ分析、考察の充実度を含めた完成度に対して７段階で評価する。

プレゼンテーション評価　50　%　：　加点要因として授業中内の発言を含め、研究活動の成果発表のできばえについて、スライド資料の準備状況と口頭発表のできばえに対して６段階で評価する。

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

論文を中心に、随時紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

自己学習力を高められるように主体的に取り組むことを期待する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： オフィスアワー

**場所**： 研究室

**備考・注意事項**： 急に研究室を訪ねられても対応できないこともありますので、可能な限り、Mail等で事前に面会の約束を取り交わすようお願いします。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション及びスポーツ学とコーチング**<br>授業の進め方や内容について把握する。コーチングに関連の深いスポーツ学の細分野について概観し、コーチング学を俯瞰し包括的に捉える取り組みを行う。 | コーチング学を中心に紹介されている資料を収集し、浅く広く概観する予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **コーチング支援向け動作分析技術とその応用事例の紹介**<br>スポーツ競技者の強化に資することを意図して開発された動作分析技術とその応用事例の紹介を中心として、情報通信技術のスポーツ応用に関する事例を概観し、科学的エビデンスに基づくコーチングの在り方について考えを深める。加えて、コーチングにおけるＰＤＣＡサイクルの意義を理解するだけでなく、その過程で利活用可能な手段についても見識を広げる。 | コーチングに応用されている情報通信技術について資料の収集を図り、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **コーチング学研究の概観**<br>コース学生が取組んでいる研究の中間報告会への参加に向けて、研究報告及び報告書の意義や位置づけ、学習ポイントの一端について見識を広げる。様々な研究課題の研究報告に触れ、今後の研究活動を拡張する上で必要な基盤づくりをする。 | 興味関心のある研究発表を視聴し、報告内容の理解に努める。 | 4時間 |
| 第4回 | **コーチング学に関する発表の視聴**<br>コース学生が取組んでいる研究の中間報告会に参加し、発表を視聴する。様々な研究課題の研究発表を視聴し、研究活動全般の見識を広げる。 | 研究発表等の抄録に掲載された内容の理解に努める。 | 4時間 |
| 第5回 | **コーチの役割とコーチング行動**<br>著名なコーチのコーチングスタイルやエピソードを知るとともに、学際的な研究・調査の結果と関連づけてコーチの役割とコーチング行動について見識を広げる。 | 指導者からコーチングを受けてきた受講生各自の経験をもとに、コーチの役割とコーチング行動について網羅的にリストアップするなど、本テーマに関する予習を行う。 | 4時間 |
| 第6回 | **体力トレーニング及び運動学習とコーチング**<br>スポーツ競技の特性に応じて求められる行動体力について分類・整理し、からだの適応、期分け、体力トレーニングの計画立案等、研究の動向を多岐にわたって紹介する。加えて、古典的運動学習理論をはじめ、運動学習・制御の分野で議論されてきた問題について概観するとともに、脳神経系の機能と構造について理解を深め、コーチングとの関連について考える。加えて、運動学習のメタ認知に関する研究の動向について概観し、過去に学んだコーチの役割とコーチング行動について改めて別の角度から考える。 | 関心のあるスポーツ競技を取り上げ、重要視すべき技能や体力要素とそのトレーニング方法について資料を調べ、重要事項や関連事項をまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **研究法の概観**<br>コーチングに関連した卒業研究の意義や研究の進め方について概観する。また、先行関連研究の調査の仕方やその取り纏めの仕方について実践例を紹介する。さらに、コーチングに関する題材を取り上げ、先行関連研究の知見を踏まえた研究課題の策定例を紹介する。これらの授業内容を踏まえ、受講生各自が研究課題の策定に必要なプロセス管理に取組む。 | 興味関心のあるテーマについて論文を読み、そのテーマに関する研究動向の把握に努める。 | 4時間 |
| 第8回 | **文献の収集と取り纏めに関する実習**<br>学術論文に関する周辺知識について学習し、スポーツ学領域における一般的な学術論文の論理構成について概観する。また、文献の収集方法とその取り纏め方法について、いくつかの事例を紹介する。さらに、それらの学習内容を踏まえて、各自が興味・関心を持っているテーマに関して、文献の収集とその取り纏めを実習する。 | 関連した研究課題について複数にわたって文献の収集と取り纏めを試みる。 | 4時間 |
| 第9回 | **ゲーム・パフォーマンス分析実習（データの収集・加工）** | 興味・関心のある動作映像やゲームの映像を収録・収集する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 受講生各自が興味・関心のあるスポーツ動作や日常生活動作について分析目的を設定し、映像の収録からデータの加工・分析、可視化までのプロセスを実習する。この取組みをとおして、動作分析技術ひいては情報通信技術のコーチングへの応用可能性について学びを広げ深める。加えて、実習の体験や受講生間の情報共有をとおして、獲得した知識を応用展開する道筋について発想を広げる。 | | |
| 第10回 | **ゲーム・パフォーマンス分析実習（分析）**<br><br>前回に引き続き、データの収集・加工・分析・閲覧といったデータの処理過程を実習する。それらに加え、さらにデータを集計する上で必要な基本的な統計処理についても実習に挑戦し、ゲーム・パフォーマンス分析にかかるデータ処理の基本的なプロセスを一通り経験する。各自の実習内容とその実習を通して学び得た事項について、各自の発表をとおして学習内容の共有を図る。 | 興味関心のある研究テーマについて実施計画案を詳細化する。 | 4時間 |
| 第11回 | **研究課題の策定と研究構想の発表**<br><br>受講生各自の研究課題とその実施計画案を発表し、質疑応答を行う。発表及び質疑応答を踏まえ、研究計画案のブラッシュアップを図る。 | 研究計画及びスケジュールを策定する。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究活動のプロセス改善**<br><br>パーソナルプロジェクトマネジメントに必要な知識とスキルについて理解を深め、実践力を培う。各自の研究課題の構想を詳説し、改善事項を明確化する。また、一般的な資料の作成方法やプレゼンテーションの方法について理解を深める。加えて、各自の研究課題に関する補足事項について学びを深める。 | パーソナルプロジェクトマネジメントの知識やスキルの獲得を図り、当該研究活動を題材に実習を試みる。 | 4時間 |
| 第13回 | **研究報告書の作成と推敲**<br><br>研究報告書の作成と推敲に取り組む。On the job trainingを通して、実践力を培う。本授業時間終了までに実行することを求められた研究報告書（レポート）の提出と発表を完遂する。 | 研究報告書を取り纏め、発表資料を作成し、発表を反復練習する。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ及び総括**<br><br>学び得た事項を振り返ることに加え、実践応用の展望について概観する。 | コーチング学に関連の深いスポーツ学細分野の知見について網羅的に復習を試み、学修内容について内省する。 | 4時間 |

SP-3502-3-1

| 授業科目名 | 野外・レクリエーションスポーツ基礎演習Ⅱ（林） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林　綾子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アウトドアスポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、論文の読み方を学び、さらにデータの収集、分析、結果・考察について学ぶ。実践現場での経験や自身の興味や関心、問題意識に基づいて論文検索を行い、有益な情報収集、方法の活用から、自分の卒業研究のテーマを考える。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アウトドアスポーツ分野の先行研究の概観 | アウトドアスポーツに関する学術的理解が得られる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 研究を行うための知識・スキルの学習 | 論文構成を理解し、データ収集や分析について理解する。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 研究方法や研究デザインについての学習 | 自らの問いに基づき、研究デザインを考えることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 研究計画の立案、プロポーザルプレゼンテーション | 自らの問いに基づき研究のプロポーザルを作成し、プレゼンテーションを行うことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題・レポート | 40 % | ： トピックに関する課題に対するレポートを評価する。 |
| 課題発表 | 30 % | ： 課題に対してグループで取り組み、発表を行う。その内容を評価する。 |
| 最終課題 | 30 % | ： 最終課題であるプロポーザルとそのプレゼンテーションを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

田中敏・山際勇一郎（1989）ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法．教育出版.

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立て、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。主体的に学ぶ姿勢を持って取り組みましょう。

本科目は通年で2単位ずつ、4単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　木曜日３限

**場所**：　A402

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要説明および「研究」とは**<br>卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。 | 例として示された論文抄録を読む | 4時間 |
| 第2回 | **野外スポーツ関連研究の概観**<br>各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 論文抄録を読み、ワークシートに整理する。 | 4時間 |
| 第3回 | **データの取り扱い①**<br>データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。データの入力、集計を実際に行う。 | 各自データシートを完成させる。 | 4時間 |
| 第4回 | **データの取り扱い②**<br>入力したデータを用い、統計ソフトを使用しながら基本的な統計処理に取り組み、データ分析の基本を理解する。分析にて得られた結果を理解する。 | 各自で分析に取り組む。 | 4時間 |
| 第5回 | **データの取り扱い③**<br>分析によって得られた結果を理解し、結果をまとめ、結果から何が言えるのか、結果から考えられること（考察）は何か考え、結果のまとめ方を理解する。 | 結果の解釈、考察について書いてみる。 | 4時間 |
| 第6回 | **研究方法①観察法**<br>研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。 | 観察法でのデータをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **研究方法②質問紙法**<br>野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。 | 質問紙法のデータを整理する。 | 4時間 |
| 第8回 | **研究方法③面接法**<br>質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。 | 面接法データを整理する。 | 4時間 |
| 第9回 | **研究方法④実験研究**<br>実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。 | 紹介抄録を読む。 | 4時間 |
| 第10回 | **研究方法⑤文献研究**<br>文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。 | 論文検索を行い、興味のある論文を見つける。 | 4時間 |
| 第11回 | **先行研究のまとめ**<br>各自のテーマに基づいて検索し、見つけた３編の論文をまとめ、先行研究からわかることや疑問点、今後の課題を整理し、文献レビューとしてまとめる。 | 自分の興味のあるテーマに即した先行研究をまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **研究デザイン・信頼性・妥当性**<br>これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。また、研究遂行の重要な要素である信頼性と妥当性について理解する。それぞれの種類と内容、ある程度の信頼性と妥当性を確立するための方法について理解する。 | 自分のテーマに即したデザインを考える。 | 4時間 |
| 第13回 | **研究プロポーザル作成**<br>フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。 | 研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。 | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究プロポーザル発表** | プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| 各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。 | | |

SP-3502-3-1

| 授業科目名 | 野外・レクリエーションスポーツ基礎演習Ⅱ（黒澤） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 黒澤　毅 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本演習は、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について理解を深める。また、野外スポーツ関連の研究動向や研究手法の特徴などを理解する中で、基本的研究の理解を深める。さらに、実際に研究論文を書くために必要となる研究論文における論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学びながら、最終段階として、自らの卒業研究につながる研究デザインに発展させ、発表することで更なる理解を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 野外スポーツに関連する研究の理解 | 野外スポーツに関連する研究に関心を持ち、研究論文を書くための意欲を持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 論文構成、研究方法、文献検索、データの分析 | 論文を書くために必要となる論文構成、研究方法、文献検索、データの分析に関する知識を深めるとともに統計スキルを理解することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 研究デザイン作成と発表 | 何に興味を持ち、研究を進めるのかについて、知識を発展させながら思考し、プロポーザルにまとめて発表することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 研究デザイン作成と発表 | 研究論文のプロポーザルに基づき、計画的に進めるための課題を理解し、主体的な態度を養うことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 課題・レポート | 40 % | ： | トピックに関する課題・レポートを提示し、理解を評価する。 |
| 課題発表 | 40 % | ： | 自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解を評価する。 |
| 授業内小テスト | 20 % | ： | 研究法についての知識の理解を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。随時必要な場合には指定します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立てるための、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから

独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **授業概要説明および「研究」とは**<br>授業の年間計画の内容が卒業研究に取り組むにあたっての流れとなっている。卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。 | 論文抄録を読み、特に興味のあるものを３編ほど選んで読む。 | 4時間 |
| 第２回 | **野外スポーツ関連研究の概観**<br>各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 抄録をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第３回 | **研究と変数について**<br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第４回 | **データ分析における基本知識ー尺度と検定についてー**<br>データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 尺度・検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第5回 | **データの分析方法**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。また、入力したデータを用いて、統計ソフトを使用しながら分析する。 | 授業での分析を復習し、各自例題に取り組む。 | 4時間 |
| 第６回 | **結果のまとめ方ー結果と考察のまとめ**<br>分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。 | 授業の復習を行い、各自例題に取り組む。 | 4時間 |
| 第７回 | **研究方法①観察法**<br>研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。 | まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。 | 4時間 |
| 第８回 | **研究方法②質問紙法**<br>野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。 | 授業の復習、例題に取り組む。 | 4時間 |
| 第９回 | **研究方法③面接法**<br>質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。 | インタビューデータを整理し、まとめる。 | 4時間 |
| 第１０回 | **研究方法④実験研究**<br>実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。 | 授業を復習し、例題に取り組む。 | 4時間 |
| 第１１回 | **研究方法⑤文献研究**<br>文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。 | 授業を復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。 | 4時間 |
| 第１２回 | **文献検索の方法**<br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、興味のあるテーマに関する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第１３回 | **研究デザイン**<br>これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。 | 自分のテーマに即したデザインを考える。 | 4時間 |
| 第１４回 | **研究プロポーザル作成**<br>プロポーザル作成を目指し、先行研究からの知識を元に、テーマ設定を行い、変数の決定、方法の決定しながら研究プロポーザルを作成する。 | 研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。 | 4時間 |

SP-3502-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **野外・レクリエーションスポーツ基礎演習Ⅱ（橋本）** | | | | |
| 担当教員名 | **橋本　和俊** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

野外スポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析、結果・考察について学ぶ。最終目標として、野外スポーツ演習や卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 野外スポーツに関連する研究の理解 | 野外スポーツに関連する研究に関心を持ち、研究論文を書くための意欲を持つことができる |
| 2. DP2.知識・技能 | 論文構成、研究方法、文献検索、データ分析 | 論文を書くために必要となる論文構成、研究方法、文献検索に関する知識を身につけるとともに統計スキルについて理解することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 研究デザインの作成と発表 | 自分自身の興味からどのように研究を進めるかについて、授業で得た知識を発展させながら思考し、プロポーザルにまとめて発表することができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 研究デザインの作成と発表 | 研究論文をプロポーザルに基づき、計画的に進めるための課題を理解し、主体的な態度を養うことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
「ICT(タッチタイピング）、ICT(PowerPoint)、ICT(Excel)、ICT(動画活用)、ICT(専用機材・アプリ活用）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題・レポート | 40 % | ： トピックに関する課題・レポートを提示し、理解度を評価する。 |
| 課題発表 | 40 % | ： 各自の課題をまとめ、プレゼンテーションを行い、理解度を評価する。 |
| 授業内小テスト | 20 % | ： 研究法についての知識の理解度を評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 田中敏・山際勇一郎 | ・ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 | ・教育出版 | ・1989　年 |
| 日本野外教育学会 | ・野外教育研究法 | ・杏林書院 | ・2018　年 |

**参考文献等**

随時紹介します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
卒業研究作成に向けたとても重要な内容です。積み上げ式に授業が展開されるので、まずは欠席をしないこと。欠席をした場合は各自補填をすることを心がけてください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要説明、「研究」とは？**<br>卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文との文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解する。 | どのような文章表現の違いがあるかまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **野外スポーツ関連研究の概観**<br>本学の卒業論文抄録の課題に沿ってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 抄録を参照し興味のある内容を調べる | 4時間 |
| 第3回 | **論文構成**<br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において記述すべき重要な内容について理解する。 | 論文構成についてまとめる | 4時間 |
| 第4回 | **文献検索の方法**<br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について理解する。また、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、情報を整理し自身の考えを述べる。 | 実際に文献を検索し、興味のある論文を読む | 4時間 |
| 第5回 | **研究方法①観察法**<br>研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。 | どのような観察の方法があるかまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **研究方法②質問紙法**<br>野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。 | どのような質問紙（尺度）の内容があるかまとめる | 4時間 |
| 第7回 | **研究方法③面接法**<br>質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。 | どのようなインタビュー内容があるかまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **研究方法④実験研究**<br>実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。 | どのような実験のデザインがあるかまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **研究方法⑤文献研究**<br>文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。 | どのような文献研究（総説論文）があるかまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **変数の理解**<br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | それぞれの変数について説明できるようにまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **データ分析①尺度の信頼性・妥当性**<br>データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。またその信頼性と妥当性についても学習する。 | 尺度、信頼性、妥当性とは何か説明できりようにまとめる | 4時間 |
| 第12回 | **データの分析②データ入力・分析**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 入力方法やその分析の種類について説明できるようにまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **結果のまとめ方ー結果の理解と考察**<br>データ分析における基本的知識として、尺度の種類について、また数値の取り扱いについての基本知識を学習する。 | 課題の分析結果を理解し、課題を完成させる。 | 4時間 |
| 第14回 | **研究デザイン** | 研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。 | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。 | | |

SP-3602-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（藤松）** | | | | |
| 担当教員名 | **藤松　典子** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

健康・トレーニング・運動指導に関心があること、問題点、疑問点等をあげ討論・解決しながら自らの課題を探求する。自身の身体を使い、ウォーキングやランニング時のデータを収集し、レポートにまとめることにより卒業論文につなげるよう、課題をみつける。文献検索をし、論文を読み、内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションをする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツインライフの理解。 | 自分の身近なところでスポーツに関して疑問や、関心を突き詰めていく。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 社会の中のスポーツを理解 | 生涯スポーツの観点から、環境的、地域的理解を深める。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 論文検索とプレゼンテーション。 | 論文をまとめ発表する。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（Power Point）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 卒論計画レポート | 30 % | ： 計画・立案と目的設定の完成度を評価します。 |
| プレゼンテーション | 30 % | ： 卒業研究計画をプレゼンテーションする完成度を評価します。 |
| 卒論発表会レポート | 40 % | ： 卒論発表会に出席し、聴講した発表に対して意見をまとめる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて適宜紹介

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **生涯スポーツについてのディスカッション**<br>おい互いに相手のことを知る普段心がけている健康に関する行動を紹介する。<br>授業計画とゼミ活動として参加するボランティア等について理解する。 | 生涯スポーツの様々な立場から1つ問題点を探り、解決方法を発表できるようにまとめてくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **健康・体力づくりについて**<br>文献検索の仕方の復讐と検索した文献の収集をする。自分の現在の興味について突き詰めていく上で、まずはトレーニングと健康づくりについて考える。 | 様々な立場から興味ある立場を選び健康について発表できるようにまとめてくる。 | 4時間 |
| 第3回 | **トレーニングと健康・体力づくり、有酸素運動について<br>ー文献をまとめるー**<br>授業外でまとめてきたスポーツ生理学の単元を発表する。<br>関連する基本文献の講読と各自の検索した文献のまとめ。 | さらに文献を検索し、まとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **文献のまとめ方と発表**<br>授業外でまとめた、トレーニングの単元を発表する。<br>文献をまとめ発表する。お互いに質問し、討論する。 | 有酸素運動について調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **有酸素運動の実際　　ースロージョギングー**<br>心拍測定器を装着し、5～10kmを走る。走る前後の体重と走行距離、走行時間、心拍数を測定する。 | 有酸素運動と無酸素運動とのそれぞれの特性と目的を調べ違いをまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **有酸素運動の比較**<br>先行研究の検討 健康体力づくりのための有酸素運動について調べる。<br>前回の自分のデータの吸い上げ方を習得し、図を作成する。統計処理について学習する。 | 授業中に作成した図から結果と考察を作成する。 | 4時間 |
| 第7回 | **有酸素運動の効果と活用方法**<br>先行研究の検討　有酸素運動の効果について理解し、生活習慣病改善のための有酸素運動につなげる。 | 先行研究を引用しながら、緒論と考察を完成させる。 | 4時間 |
| 第8回 | **有酸素運動の実際　ーインターバル速歩ー**<br>心拍測定器を装着し、5～10kmをインターバル速歩を試みる。歩く前後の体重と走行距離を測定する。データを吸い上げ考察する。 | データの吸い上げと保存をし、図を作成する。 | 4時間 |
| 第9回 | **研究計画書の作成**<br>日頃から疑問に感じているスポーツに関することを挙げて、現状を理解する。 | 運動について意義、目的、効果を調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **研究計画書の発表資料作成**<br>自分の計画をPowerPointにわかりやすくなるよう工夫して作成する。 | 健康寿命について調べる | 4時間 |
| 第11回 | **研究計画書のゼミ内発表**<br>発表になれること、他の人の発表を聞き質問、意見交換ができるようにする。 | 各自の発表に関係する論文を検索してまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究計画書の修正**<br>自分の発表を振り返り、さらに分かりやすく修正する。 | 自分の興味のある論文を読む | 4時間 |
| 第13回 | **卒業論文作成の目的、方法を作成し、計画を立案する。**<br>何について調べたいのか、どのような方法でできるのか、どのような結果が予測されるのか、それが何の役に立つのか整理して作成する。 | 計画書を完成させる | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ　ー卒業論文へー**<br>これまでのまとめと振り返り、卒業論文の今後の計画を考える。本格的に卒業研究に取り組めるよう計画を立案する。 | 卒業論文のための課題を見つける。レポート作成 | 4時間 |

SP-3602-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（入谷）** | | | | |
| 担当教員名 | **入谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本講義では、4年次の卒業研究の論文作成に関する基本的な知識と技術を習得し、卒業論文計画書の完成と発表を目的とする。そのための生活習慣と健康、予防に関する先行研究の文献検索や検討を行い、知識を深め、具体的な研究手法について習得する。また研究課題を探求する上で必要な、一般的な知識や基本的な統計学についても学び知識を向上することを目標とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 論文作成の基本的知識と技能 | 質問紙調査や文献検索の方法などの卒業研究の論文作成に関する基本的な知識を習得できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 卒業論文計画書を作成し、自分の卒業論文の内容を思考・表見 | 卒業論文計画書が作成でき、他者へ卒業論文の内容をパワーポイントを作成し表現できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 卒業論文を実施するための技術や知識の習得のための主体性 | 主体的に疑問を明確にし、調べ課題解決できるよう取り組む |
| 4. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 失業研究論文作成への関心や意欲 | 4年次の卒業研究の論文作成に関して自分の実施したいテーマに関心を示し自ら取り組む |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
「ICTタイピング」「ICT　PowerPoint」」「ICT　Excel」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内演習および課題 | 40 % | ： | 論文作成にあたる基本的な技術の習得なための毎回の授業態度や知識習得。文献検索、レポート、一般知識の向上のための課題に対して評価する。 |
| 研究計画書の作成及び発表 | 50 % | ： | 自分の研究に関して、積極的・自主的に学びを進めているか、適切な進め方ができているか、研究計画書の作成及び発表について評価する |
| 論文検索状況 | 10 % | ： | 論文検索を積極的に行い、自分の研究について学びを深めているか評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「看護研究をはじめるための統計と臨床疫学」「横川博英, 藤林和俊　学研
「看護・医療系スタッフのための質問紙作成ワークブック」土屋雅子　診断と治療社

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　時間調整

**場所**：　研究室

**備考・注意事項**：　事前にメール等で日程調整してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **演習の目標、計画等のガイダンス,**<br>演習の全体の流れと目標の確認。卒業研究論文の概要を説明し、現状の興味のある研究を共有する | 卒業研究論文の概要および興味のある研究を調べる | 4時間 |
| 第2回 | **運動と健康に関する先行研究による知識の習得**<br>運動と健康に関する先行研究の読み合わせを行い、運動と健康に関する知識を習得と論文の記入方法を学ぶ | 運動と健康に関する先行研究を調べる | 4時間 |
| 第3回 | **質問紙調査に関する先行研究による知識の習得**<br>質問紙調査に関する先行研究の読み合わせを行い、量的調査のｎ知識を習得と論文の記入方法を学ぶ | 指定する論文を読む | 4時間 |
| 第4回 | **インタビュー関する先行研究による知識の習得**<br>インタビューに関する先行研究の読み合わせを行い、質的調査の知識を習得と論文の記入方法を学ぶ | 指定する論文を読んで論文の要約を行う | 4時間 |
| 第5回 | **文献検討①**<br>文献検索の具体的な方法を学ぶ | 論文検索を行い、文献を探す | 4時間 |
| 第6回 | **文献検索②**<br>キーワードにより文献検索を行う | 自分の関心のあるキーワードから論文を調べる | 4時間 |
| 第7回 | **文献検討①**<br>抽出した文献に関して文献検討を行う | 文献検討を文章化する | 4時間 |
| 第8回 | **課題、研究テーマの検討**<br>個別面談を通じ課題や研究テーマについて確認する自分の研究をPICOに表す | 課題や研究について整理する | 4時間 |
| 第9回 | **文献検討②**<br>自分の興味関心があるキーワードにより文献検索と文献検討をさらに行う | 文献検討し要約する | 4時間 |
| 第10回 | **文献検索した論文のまとめ**<br>抽出した論文を他者にわかるようにパワーポイントを作成し、発表の準備を行う | パワーポイントをまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **文献検索発表会の実施**<br>文献検索し的た内容を一人5分で発表(質疑応答5分）する | 事前に発表練習を行う | 4時間 |
| 第12回 | **4回生のプレ中間発表会参加**<br>プレ中間発表会に参加し、卒業研究論文の発表方法について理解する | プレ中間発表会に関する課題レポート作成する | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究計画書の作成**<br>先行研究の検索に基づき、目的や方法を検討し計画書を作成する | 研究計画書をワードで作成する | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究計画書の発表資料の作成・発表**<br>卒業研究計画書をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションの資料を作成し発表する | 卒業研究計画書をパワーポイントでまとめる | 4時間 |

SP-3602-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（黒須）** | | | | |
| 担当教員名 | **黒須　朱莉** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

卒業研究における基本的な知識と技術を習得し、卒業研究計画書（問題関心、先行研究の検討、研究の目的と課題、研究の方法）を完成させることを本演習の目的とする。そのために、まずはスポーツ文化に関する文献の輪読を行う。その際、文献講読の方法、レジュメの書き方、議論の方法などを学ぶ。次に、各自でブレーンストーミングを行い、個々の問題意識を明確にするとともに、関連する文献や先行研究を読み進めていく。その際、先行研究の収集方法や論文の読み方を学び、文献研究の基礎を固めていく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツ文化に関わる知識と自身の関心対象にかかわる／周辺の社会的・文化的環境に関する知識。 | スポーツ文化とは何か、その文化を創り、規定する諸条件について説明することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツの人文社会科学に関する知識・技能。 | 人文社会学的な物の捉え方、見方、考え方に関わる理論を説明することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツの人文社会科学的アプローチに対する理解。 | 論証研究を中心に、その方法論と手続きについて説明することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 他者の意見を傾聴し、自身の考えを言語化し、他者と建設的な議論を組み立てていく力。 | 他者のプレゼンテーションを受けて、論点を抽出し、それに対する自身の意見を論理的に述べることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）、ICT（PowerPoint）、ICT（Excel）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 70 % | ： 各自のスポーツ文化に関わるテーマを対象に文献調査を行い、その内容を踏まえてレポートを作成する。その内容（質および量）を評価する。 |
| プレゼンテーション | 20 % | ： 自身の問題意識を言語化し、レジュメやパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。その内容に筋が通っているか、根拠が適切な形で示せているか評価する。 |
| ディスカッション（議論） | 10 % | ： 他者のプレゼンテーションに対して、論点を適切に抽出し、自身の意見を論理的に述べられているか評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜、受講生の関心に応じて提示する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
日頃からスポーツに関する事象についてアンテナを張り、自身の問題関心を育てること。
そして、「本気で取り組みたいテーマ」を根気強く探そう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業の前後

**場所**： 授業の教室

**備考・注意事項**： メールでも受け付ける（kurosu@g.bss.ac.jp）。
メールには必ず、件名に「要件」を簡潔に記載し、本文には「氏名」を明記すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス（卒業論文作成の流れ）**<br>演習全体の流れを説明すると同時に、受講者が本演習を選んだ理由、関心のある事柄について発表する。 | 関心のある事象について、まずはインターネットを用いて調査し、その内容をまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **「論文」とは何か**<br>「論文」と「感想文」との違いについて理解する。 | 授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎①）を読む。 | 4時間 |
| 第3回 | **論文・レポート作成の基礎①文章表現**<br>論文・レポート作成時の基本的な文章表現方法について理解する。 | 授業の復習と、配布資料（論文・レポート作成の基礎②）を読む。 | 4時間 |
| 第4回 | **論文・レポート作成の基礎②章立て・構成**<br>論文・レポート作成時の基本的な章立て・構成について理解する。 | 授業の復習と、指定された章を中心に課題文献を読む。 | 4時間 |
| 第5回 | **文献講読①読み方の手法**<br>指定された課題文献をもとに、文献の読み方のテクニックを理解する。 | 授業で学んだ読み方を用いて、課題文献を再度読み、疑問点もまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **文献講読②議論の手法**<br>指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、ディスカッションの方法について理解する。 | 授業の復習、課題文献の疑問点をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **文献講読③議論の展開**<br>指定文献の内容と疑問点について発表するとともに、第6回の内容を踏まえてディスカッションを行う。 | 授業の復習、ディスカッションの内容の振り返りと、疑問点をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **文献講読④議論の発展**<br>第7回のディスカッションで挙がった論点について、補足資料を用いて再度議論する。 | 関心のあるテーマについて、その理由を踏まえてまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **卒論の仮テーマ設定に向けたプレ発表**<br>卒論の仮テーマ設定に向けて、各自が関心のある事象について主観的な理由と客観的な理由の両者を踏まえて発表する。 | 発表時にあがったアドバイスや、他の受講生からのコメントをまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **先行研究の検討①論文検索**<br>資料検索の方法として、図書館データベースの使用方法やCINIIによる論文検索の方法を理解する。 | テーマに関する文献及び先行研究一覧を完成させる。 | 4時間 |
| 第11回 | **先行研究の検討②研究の基礎知識**<br>配布した論文をもとに、研究手法や調査対象、全体の構成について理解する。 | 授業の復習と、先行研究を２点程度取り上げて読んでくる。 | 4時間 |
| 第12回 | **先行研究の検討③論文の読み方**<br>各自収集した先行研究をもとに、論文の読み方を理解する。 | 先行研究を２件程度取り上げ、レポートの形でまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **先行研究の検討④論文レビュー**<br>先行研究のレビューの方法を理解する。 | レポートをもとにパワーポイント資料を作成する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **まとめ・振り返り**<br><br>これまでの演習を踏まえて、卒論の仮テーマを設定・調査対象等についてまとめる。 | 第14回までの内容をレポートとしてまとめ、発表できるように準備する。 | 4時間 |

SP-3602-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（佐藤）** | | | | |
| 担当教員名 | **佐藤　馨** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、卒業研究にむけ論文の書き方を基礎から学ぶため、論文の書式や形式について学習する。さらに具体的な研究手法についても習得する。また、これまで習得したスポーツに関する知識を用いて、各自、卒業研究になり得る研究テーマの探索を1年かけて行なう。卒業研究テーマについては、「健康」「地域」「スポーツ振興」「こども」「高齢者」「障害者」「女性」「生涯スポーツ」「福祉」等のキーワードに関連するものを探索する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに関する研究課題の探索 | 各単元終了後、その内容に沿ったレポート課題を達成する |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツに関する研究課題の設定 | スポーツに関する研究課題を絞り込み、研究テーマを設定する |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| レポート課題 | 50 % | ： 各単元終了後に内容に沿ったレポートを提示し、それを評価する |
| レポート課題の発表 | 30 % | ： レポート課題で作成した内容を用いて、パワーポイントを作成し、それを用いて発表する |
| 卒業研究計画書 | 20 % | ： 授業の内容を踏まえ、卒業研究に必要な計画書を作成し、その内容について評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原喜康著　講談社現代新書　2002年『レポート・論文の書き方入門』　河野哲也著　慶応義塾大学出版会　2002年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【履修上の注意】
本授業は、PCで受講することが前提であるため、必ずPCを準備すること（スマホ受講は不可）。
本科目では、レポート課題が多く課せられるため、毎回4時間の授業外学修を有効に活用することが求められる。また、「授業外学修課題」では、毎回4時間程度設定されているため、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習が求められる。
また毎回課される課題を授業中に発表したり、それを使って授業を展開する。
【メッセージ】
学生本人の講義に対する理解度を推し測り、それを評価します。学生には、指示された課題、レポート等を確実に提出することを希望する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 授業の前後

**場所：** 授業教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **生涯スポーツ基礎演習：ガイダンスおよび本演習の概説**<br>卒業研究およびレポート作成に必要な基礎知識を学び、また学習計画について説明する | 生涯スポーツ基礎演習で実施する学習計画について熟読する | 4時間 |
| 第2回 | **論文・レポートのルール①基本的な書式について**<br>論文・レポートの基本的な書式について講義する | 入手した文献を参考に基本的な書式について理解し、まとめる | 4時間 |
| 第3回 | **論文・レポートのルール②インターネットによる資料の利用方法について**<br>インターネットを利用した資料の利用方法について説明する | インターネットによる資料を熟読し、まとめる | 4時間 |
| 第4回 | **論文・レポートのルール③引用・参考文献について**<br>引用文献、参考文献、注釈を理解し、盗用と引用・参考との違いについてに講義する | 授業でまとめた資料を参考に引用・参考文献についてまとめる | 4時間 |
| 第5回 | **論文・レポートのルール④実際にレポートを作成する**<br>授業で収集した資料を用いてレポートを作成する | 収集した文献を熟読し、まとめる | 4時間 |
| 第6回 | **レポート作成の方法①アンケート調査型レポートの作成**<br>アンケート調査型レポート作成の手順について説明し、実際にレポートを作成する | データによる資料を収集し、レポートを作成する | 4時間 |
| 第7回 | **レポート作成の方法②資料総括型レポートの作成**<br>資料総括型レポート作成の手順について説明し、実際にレポートを作成する | 収集した資料を用いてレポートを作成する | 4時間 |
| 第8回 | **レポート作成の方法③二次データ型レポートの作成方法**<br>二次データ型レポート作成の手順について説明し、実際にレポートを作成する | 二次データ資料を用いてレポートを作成する | 4時間 |
| 第9回 | **レポート作成の方法④パワーポイントによるプレゼンテーションについて**<br>パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法および資料作成を説明する | プレゼンテーションに必要な基礎知識を理解する | 4時間 |
| 第10回 | **レポート作成の方法⑤アンケート調査型レポートのプレゼンテーション資料作成**<br>作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する | アンケート調査型レポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する | 4時間 |
| 第11回 | **レポート作成の方法⑥資料総括型レポートのプレゼンテーション資料作成**<br>作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する | 資料総括型レポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する | 4時間 |
| 第12回 | **レポート作成の方法⑦二次データ型レポートのプレゼンテーション資料作成**<br>作成したレポートを用いて、パワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成する | 二次データ型レポートを用いてプレゼンテーション資料を作成する | 4時間 |
| 第13回 | **レポート作成の方法⑧二次データ型レポートのプレゼンテーション**<br>これまで作成したパワーポイント資料の中から1つ資料を選び、それを用いて実際にプレゼンテーションをする | 二次データによるパワーポイント資料を用いて発表準備をする | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究のテーマを見つけ、研究計画書を作成する**<br>これまで作成してきたレポート課題および発表資料から、最も自分の卒業研究に沿っている資料を選択し、それを用いて研究計画書（テーマ、研究目的、研究対象、研究方法）を作成する | これまで作成した資料を用いて、研究計画書を作成する | 4時間 |

SP-3602-3-1

| 授業科目名 | 生涯スポーツ基礎演習Ⅱ（中道） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 中道　莉央 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

4年次の卒業研究の執筆に向けて、それぞれ関心のあるテーマを見つけ、研究計画を作成することを目標とする。そのために、障がい者スポーツに関わる先行研究等を講読して障がい者スポーツに関する科学的知見を概観したり、各種フィールドワークを行って自身の問題意識を明確化したりする活動を行う。すべての活動には主体的かつ共同的に取り組み、つねに自分の関心事や問題意識を問いながら、関連領域における先行研究の成果と課題を文章や口頭で説明できるようにすることを目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 障がい者スポーツ領域研究に対する論理的思考 | 障がい者スポーツ分野における学術的あるいは実践的な成果と課題を根拠をもって考察し、論理的に重要と判断した内容を他者に伝えることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 障がい者スポーツ領域研究に対する論理的理解 | 障がい者スポーツ分野における学術的な成果・課題（先行研究等の諸文献から）と実践的な成果・課題（スポーツ現場から）を理解できる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：大阪市長居障がい者スポーツセンター、北大津養護学校ほか（地域・社会の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT（タッチタイピング、Power Point、動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 先行研究に関するレポート | 70 % | ： 論文としての体裁を保ちながら、先行研究を適切に要約し、それに対する自分の意見を根拠をもとに主張できているかどうかを評価する。 |
| 卒業研究計画書（発表含む） | 20 % | ： 適切な形式に則り、論理性のある計画書が作成できているかどうか、またこれにもとづき、パワーポイントを有効的に使った発表を行い、質疑に対する適切な応答ができているかどうかを評価する。 |
| 体験的活動におけるレポート | 10 % | ： 障がい者スポーツ現場で体験的に学んだ事柄を具体的かつ論理的に述べられているかどうかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じ、適宜紹介します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は4単位の授業であり、1回の授業に対して4時間程度の授業外学習（予習・復習）が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習する必要がある。
・本科目は座学だけではなく、さまざまな現場でのフィールドワークにも取り組むため、「現場から学ぶ」真摯な姿勢が求められる。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスおよび卒業研究の全体像**<br>演習全体の流れを確認し、この授業を選んだきっかけや理由、関心のある事柄等について発表し合う。 | 事前に配布した自己紹介カードを作成の上、関心のある事柄について簡潔にまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **先行研究の要約**<br>先行研究の構造を理解し、要約の方法を学ぶ。 | 先行研究の構造を理解し、自分なりに要約 | 4時間 |
| 第3回 | **先行研究の検討①（身体障がい者とスポーツ）**<br>身体障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。 | 事前に配布した発表者のレジュメ（身体障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。 | 4時間 |
| 第4回 | **先行研究の検討②（知的障がい者とスポーツ）**<br>知的障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。 | 事前に配布した発表者のレジュメ（知的障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。 | 4時間 |
| 第5回 | **先行研究の検討③（精神障がい者とスポーツ）**<br>精神障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。 | 事前に配布した発表者のレジュメ（精神障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。 | 4時間 |
| 第6回 | **先行研究の検討④（発達障がい者とスポーツ）**<br>発達障がい者とスポーツに関する先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。 | 事前に配布した発表者のレジュメ（発達障がい者のスポーツに関わる内容）を読み込む。 | 4時間 |
| 第7回 | **障がい者スポーツ現場での体験的活動①（特別支援学校）**<br>特別支援学校における障がい者スポーツに参画し、学校現場における障がい者スポーツ振興の現状と課題を学ぶ。 | 事前課題として特別支援学校におけるスポーツの取り組み状況を調べ、事後課題として気づきをまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **障がい者スポーツ現場での体験的活動②（障がい者スポーツセンター）**<br>障がい者スポーツセンターにおける障がい者スポーツに参画し、地域における障がい者スポーツ振興の現状と課題を学ぶ。 | 事前課題として障がい者スポーツセンターにおけるスポーツの取り組み状況を調べ、事後課題として気づきをまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **障がい者スポーツ現場での体験的活動①および②の振り返り**<br>特別支援学校および障がい者スポーツセンターにおける体験的活動での気づきを振り返り、ディスカッションを得て、学びを構造化する。また、これまでの演習を踏まえて、自分が卒業論文で取り組みたい大まかなテーマ設定・調査対象等についてまとめる。 | これまでの授業内容を振り返り、わかったこと、なお疑問に思うことを整理する。これを踏まえ、自分が卒業論文として取り組みたいテーマについてまとめておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **先行研究の検討①（質的研究：インタビュー）**<br>障がい者スポーツに関する研究の中で、質的調査（インタビュー）に取り組んでいる先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。 | 前期の生涯スポーツ基礎演習Ⅰで学んだ「質的研究」の内容を整理しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **先行研究の検討②（量的研究：アンケート）**<br>障がい者スポーツに関する研究の中で、量的調査（アンケート）に取り組んでいる先行研究を要約したレポートをもとに発表を行い、発表に対するディスカッションを行う。 | 前期の生涯スポーツ基礎演習Ⅰで学んだ「量的研究」の内容を整理しておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **テーマの設定および研究手法の検討**<br>各自で収集した先行研究やその他資料を参考にしながら、卒業研究のテーマを決定する。 | これまでの内容を振り返りながら、卒業研究のテーマとして取り上げたい内容を説明できるように資料作成や発表準備を行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **効果的なプレゼンテーションと資料の作成** | 授業で学んだポイントを押さえたスライドを作成し、発表練習を行う。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 効果的なプレゼンテーションのあり方について学び、これにもとづき資料を作成する。 | | |
| 第14回 | **演習のまとめ**<br><br>本演習の総括として、4年次の卒業研究の執筆に向けて、研究計画書を発表する。 | これまでの授業内容を振り返り、わかったこと、なお疑問に思うことを整理する。これを踏まえ、自分が卒業研究として取り組みたいテーマについてまとめておく。 | 4時間 |

SP-5027-4-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康運動指導士特別講座（１）** | | | | |
| 担当教員名 | **藤松、入谷、渡邊、小松** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

健康運動指導士とは、保健医療関係者と連携し安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整等を行う役割を担う者である。よりハイリスク者に対して安全で効果的な運動プログラムを作成し、目的に応じた効率的な指導ができる基本的な知識と技能を修得する。健康運動指導士養成テキストを使って学び、テキスト内容を分担、各自でまとめて発表する。発表資料等を作成し、発表後にまとめと確認をする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 健康運動指導士に関する関心 | 健康運動指導について関心を持ち、健康運動指導士の役割を理解できる |
| 2. DP2.知識・技能 | 健康運動指導士養成に必要な知識・技能 | 健康運動指導士養成に必要な、健康運動指導の知識・技能を身につける |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 健康運動指導士に関する知識や技能の表現 | 運動習慣を継続させるための知識と、実践方法を学び、パワーポイントを使用し発表できる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 主体的なプログラムの定評や指導 | 健康運動指導の知識・技能を身につけ、ハイリスク者にも配慮したプログラム提供、指導ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・その他(以下に概要を記述)

ICT（Power Point）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート・発表 | 30 % | ： 調べたことをまとめ皆が興味を持つように発表し、他者の発表を聞きまとめたものを毎回提出し、その内容・関心度合で評価する。 |
| 中間テスト | 30 % | ： 授業の前半の内容から筆記テスト（選択問題）の正解率で評価する。 |
| 学期末テスト | 40 % | ： 授業の全般の内容から筆記テスト（選択問題）の正解率で評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | ・健康指導士養成講習会テキスト上 | ・公益財団法人　健康･体力づくり事業財団 | ・2021　年 |

**参考文献等**

問題集を適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **健康づくり施策概論**<br>健康づくりの総説について学ぶ<br>授業オリエンテーションの聞き、自分の役割を理解する。 | 各自の担当項目を分担し、責任を持って調べ、まとめ、発表の準備をする。 | 4時間 |
| 第2回 | **社会環境の変化と健康課題**<br>人口の変遷、死亡原因の傾向を解説する。メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドロームの理解を深める。 | 自分の担当項目について調べ、まとめ、発表のプレゼンテーションを準備をする。 | 4時間 |
| 第3回 | **①健康概念と制度について　②生活習慣病　③介護予防概論　④健康づくり施策　⑤健康運動指導士の社会的役割**<br>①健康概念と制度について　②生活習慣病　③介護予防概論　④健康づくり施策　⑤健康運動指導士の社会的役割について学ぶ | 生活習慣病とメタボリックシンドロームについて調べてまとめてくる。 | 4時間 |
| 第4回 | **生活習慣病とメタボリックシンドローム**<br>メタボリックシンドロームの診断についてまた、肥満が誘発する疾病に関して現状と予防について解説する。 | 生活習慣病の予防の重要性について調べ、考察してくる。 | 4時間 |
| 第5回 | **生活習慣病とその予防**<br>予防対策ー運動・栄養・休養の関係とその重要性を理解する。 | 生活習慣予防のための運動プログラムの指導案を作成してくる。 | 4時間 |
| 第6回 | **健康運動指導士とは**<br>健康増進施設などの法律用語を解説、社会環境の整備について現状と課題を見つける。 | 高血圧の定義とわが国の現状について調べ、考察してくる。 | 4時間 |
| 第7回 | **中間試験と解説**<br>前半の授業の範囲で中間試験を実施し、不得意分野について明らかにし、理解を深める。 | 試験で出来なかった不得意な分野を確認し、もう一度分らない点を調べなおし、解決する。 | 4時間 |
| 第8回 | **耐糖能異常・糖尿病**<br>糖尿病が心血管を合併するリスクを高めることから、糖尿病の定義と分類、診断基準と予防・治療における運動の意義、注意点を理解する。 | 虚血性心疾患とリハビリテーションについて調べ、まとめてくる。 | 4時間 |
| 第9回 | **運動の基礎生理学（循環・呼吸）**<br>循環系及び呼吸器系と運動の機能を理解する。 | 既に取得しているスポーツ生理学等の復習を含めてまとめてくる。 | 4時間 |
| 第10回 | **運動の基礎生理学（神経・筋）**<br>神経系及び筋肉の構造と運動の機能を理解する | 既に取得しているスポーツ生理学等の復習を含めてまとめてくる。 | 4時間 |
| 第11回 | **運動とエネルギー代謝・内分泌と運動**<br>グルコースの代謝を理解する。また、ホルモンの定義と作用の特性・仕組みについて理解する。 | 運動･トレーニングに伴うホルモンの分泌変化について調べ、まとめてくる。 | 4時間 |
| 第12回 | **高血圧**<br>血圧の生理学的特性を理解し、運動と血圧の関係、運動の効果また、禁忌について理解する。 | 高血圧における運動実施上の注意点を調べ、説明できる要のまとめてくる。 | 4時間 |
| 第13回 | **環境と運動**<br>環境が体温調節機構を中心とする身体諸機能に与える影響について学習し、高温、寒冷、低酸素水中環境下における運動に関する専門知識を習得する。 | バイオメカニクス、力学の基礎について調べ、まとめてくる。 | 4時間 |
| 第14回 | **健康運動づくりの理論とまとめ**<br>運動条件と反応、トレーニングの減速、運動強度について学習し、具体的な運動種目について理解する。また、成長期や発育の関係、女性の特性等について学習する。 | 内科的障害と予防について調べ、まとめてくる。 | 4時間 |

SP-5028-4-2

| 授業科目名 | 健康運動指導士特別講座（２） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 藤松、入谷、渡邊、小松 | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | * | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

健康運動指導士養成に必要な、健康運動指導の知識・技能を身につける。一次予防のみならず、二次予防も含めた健康づくり運動を指導できる専門家に必要な幅広い知識を修得し、特定健診・特定保健指導において運動・身体活動支援を担えるように基礎知識を修得できるよう学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 健康運動指導士に関する関心 | 健康運動指導について関心を持ち、役割を理解できる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 健康運動指導士養成に必要な知識・技能 | 健康運動指導士養成に必要な、運動指導の知識・技能を身につける。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 健康運動指導士に関する知識や技能の表現 | 運動習慣を継続させるための知識と、実践方法を学び、パワーポイントを使用し発表できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 主体的なプログラムの定評や指導 | 健康運動指導の知識・技能を身につけ、ハイリスク者にも配慮したプログラム提供、指導ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（Power Point）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 小レポート | 30 % | ： | 自分で調べたことを発表しまとめたり、他者の発表を聞きまとめたものを毎回提出物し、その内容で評価する。 |
| 中間テスト | 30 % | ： | 授業の前半の内容から筆記テスト（選択問題）で理解度を正解率で評価する。 |
| 学期末テスト | 40 % | ： | 授業の後半の内容から筆記テスト（選択問題）で理解度を正解率で評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 健康・体力づくり事業財団 | ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下） | ・南江堂 | ・2021 年 |

**参考文献等**

問題集などその都度、紹介する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。前期の健康運動指導士特別講座（1）を受講していること。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **体力測定と評価**<br>体力の構成要素や、体力測定の意義と活用法について、体力の必要性について学習する。<br>後半の課題とグループ分け、担当の分担を行い、各自の課題を理解する。 | 体力測定について、実施する項目と測定する体力、実施方法などをまとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **健康運動づくりの実際（ウォーキング・ジョギング）**<br>ウォームアップとクールダウンの定義、目的と意義について理解する。ストレッチングの目的や効果、ジョギングや走り方のトレーニング方法などを理解する。 | わが国における運動実施者の割合、実施種目など現状を把握する。 | 4時間 |
| 第3回 | **健康運動づくりの実際（エアロビックダンスと水泳･水中運動）**<br>エアロビックダンス、水泳･水中運動の目的と意義を理解する。 | レジスタンス運動の種類や方法について調べ、まとめておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **救急処置**<br>救急処置、救急蘇生法など一次救命処置、応急処置方法について理解する。 | 救急処置、救急蘇生法など一次救命処置を理解し、実践できるよう調べてまとめてくる。 | 4時間 |
| 第5回 | **運動プログラム**<br>運動プログラムの基本的な考え方を理解し、対象特性に合わせた包括的な運動プログラムが作成できるようになる。 | 健康づくりのための適切なプログラムとは何か。運動実践の手順を示すプログラム案の作成。 | 4時間 |
| 第6回 | **検診結果の読み方**<br>特定健康診査の検査項目の基準値について理解し、保健指導判定値、受診勧奨値を理解する。安静時心電図の基本を理解し、電極装着の補助が出来るようになる。 | 運動プログラムの継続性について提案する。 | 4時間 |
| 第7回 | **中間試験と解説**<br>後期前半授業の内容を試験を行い、自分の不得意分野の内容について学びを深める。 | 試験で自分の不得意分野があればそこを集中して学習する。 | 4時間 |
| 第8回 | **メディカルチェック**<br>運動のための内科的メディカルチェックの重要性を理解し、健康運動指導士としてメディカルチェックの内容が説明できるようにする。 | スポーツ当日のセルフチェックの内容を説明できるようにする。 | 4時間 |
| 第9回 | **服薬者、生活習慣病に対する運動療法プログラム**<br>包括的な運動プログラムの基本例が作成できるようになる。運動プログラムの効果判定と、再運動プログラムの内容を作成できるように理解を深める。 | 運動負荷試験のプロトコルを理解し説明ができるようにまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **模擬試験（前半課題より）と行動変容理論**<br>練習問題を各自の担当より作成しお互いに練習問題を実施する。その後、出題者による解説を行う。運動の成果をもたらすためには行動の継続が重要である。行動変容の目的と行動変容理論・モデルおよび技法についての知識を習得する。 | 自分の不得意な課題を見つけ補うように学習する。行動変容に伴うカウンセリングに関して調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **こころと運動**<br>人と環境の係わり合いの中で生じるストレスとその生体への影響（健康障害）を理解する。また、こころの健康(メンタルヘルス)に関する国の対策を理解し、進退活動･運動の意義について説明できるようにする。 | ストレスマネジメントとカウンセリングについて調べてまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **食生活と健康運動**<br>健康の保持増進における栄養・食事の役割、食事摂取基準の概念を理解する。からだと栄養について、健康増進と食生活の原則を理解する。 | 身体活動量と食事摂取基準について調べてまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **栄養素の機能と代謝**<br>栄養素、および水の機能、主要な栄養素の体内代謝と食事摂取基準について、炭水化物、たんぱく質の代謝について理解する。ビタミン、ミネラルの役割について、水、運動時の代謝の特徴について理解する。 | 食生活指針と栄養・食事指導について考え方並びに指導方法を理解し、まとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **模擬問題（後半課題より）**<br>模擬問題実施・正否解説を行い試験の課題を探求する。 | テキストの上下巻を再度読み確認をする。疑問があれば解決する。 | 4時間 |

SP-5029-4-2

| 授業科目名 | アスレティックトレーナー特別講座(2) | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 片淵　建 | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | * | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アスレティックトレーナーの役割に準じて、スポーツ現場で求められる問題解決のために、メディカルチェックやスクリーニングなどの対応策を計画し、実践のための企画書を作成する。
さらに評価に基づく改善策についての指導案を作成し、フィードバックプレゼンテーションを作成する。
様々な種目と競技特性、競技のレベル、性別、専門的指導者の有無などを想定し、企画書とプレゼンテーションの妥当性を受講者同士で討議しながら、スポーツの現場に求められるスポーツの安全管理方策について理解を深める。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | アスレティックトレーニングを中心としたコンディショニング指導法 | スポーツ現場に求められるアスレティックトレーナーとして、基本的な役割のすべてを実践できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | アスリートファースト | 全ての人がスポーツ活動に安全に安心してに取り組むために、活動時のリスクに対する予防方策を計画できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| アスレティックトレーニングの指導案作成 | 50 % | ： アスレティックトレーニングについての例題や実際の課題について対応すべき内容の計画と具体的な指導案の作成について、理解度と精度について本学基準のルーブリックを用いて評価する。全体の成績の50%の配点とする |
| コンディショニングに関するプレゼンテーション | 50 % | ： メディカルチェックの立案、実施、実施後のフィードバックなど実践的取り組みに対する理解度と精度について本学基準のルーブリックを用いて評価する。全体の成績の50%の配点とする。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト　第3巻、5巻、6巻、7巻、8巻を購入すること。購入方法は授業開始時に指示する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
この科目は、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの過程認定を受けるために必要な科目です。履修制限として、AT特別講座（１）、AT実習Ⅰ、AT実習Ⅱを履修済みであること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツ現場の医科学的問題に対する対応**<br>各種スポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷やコンディショニングに係る医科学的問題と対応策について概説する。これらの問題の対応方法と個人情報の取り扱いや評価とフィードバック際の倫理的配慮についても学ぶ。 | 個人競技・チーム競技、球技系・記録競技系・格技系のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニングに関する問題点を抽出する 復習：個人情報の取り扱いや評価とフィードバックに関する注意事項をまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **個人競技・記録系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる**<br>個人競技・記録系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する。 | 予習：個人競技・記録競技系の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する | 4時間 |
| 第3回 | **個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案**<br>個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する。 | 予習：個人競技・チーム競技、球技系・記録競技系・格技系のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する | 4時間 |
| 第4回 | **個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック**<br>個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。 | 予習：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる | 4時間 |
| 第5回 | **個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ**<br>これまで計画した個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。<br>最終的に個人競技・記録系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。 | 復習：個人競技・記録系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる | 4時間 |
| 第6回 | **チーム競技・球技系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる**<br>チーム競技・球技系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する。 | 予習：チーム競技・球技系競技の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する | 4時間 |
| 第7回 | **チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案**<br>チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する。 | 予習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する | 4時間 |
| 第8回 | **チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック**<br>チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。 | 予習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる | 4時間 |
| 第9回 | **チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ**<br>これまで計画したチーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。<br>最終的にチーム競技・球技系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。 | 復習：チーム競技・球技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる | 4時間 |
| 第10回 | **格技系競技のスポーツ現場の医科学的問題をまとめる**<br>格技系競技のスポーツ現場を想定し、発生の多いスポーツ障害・外傷、コンディショニングにかかる問題点を討議する | 予習：格技系競技の競技特性やトレーニングの特徴を予習する 復習：授業時に他者が発表した内容をまとめて、問題点に対するスクリーニング案と予防的取組計画案を作成する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第11回 | **格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの立案**<br><br>格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックについて、項目、評価方法、実施規模とそれらに必要な物品やマンパワー、スペースと導線などについて提案し計画を作成する | 予習：格技系競技のスポーツ現場におけるスポーツ障害・外傷、コンディショニング問題点を抽出する 復習：スクリーニング案や予防的取組計画案に基づき、予算案を作成する | 4時間 |
| 第12回 | **格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックのフィードバック**<br><br>格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックを行った後のフィードバック方法を討議する。具体的にはアスリート向け、または指導者向けにフィードバック対象、フィードバックの項目、現れる問題を想定し、具体的なフィードバック方法を立案する。<br>授業外学修　(～500字) | 予習：格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック時に起こりうる問題に対するフィードバック方法を検討する 復習と課題：フィードバックシートを完成させる | 4時間 |
| 第13回 | **格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックまとめ**<br><br>これまで計画した格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェック案をまとめる。<br>最終的に格技系競技のスポーツ指導者に計画したスクリーニングやメディカルチェック案を提出し、実際に現場に導入するための改善意見を収集する。 | 復習：格技系競技のスポーツ現場のスクリーニング・メディカルチェックの改善意見に対する計画修正を行い全体をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **ジュニア世代に必要なスポーツ医科学的問題とスクリーニング**<br><br>発育発達が盛んなジュニア世代のアスリートに多いスポーツ医科学的問題への効果的なスクリーニングを検討し、メディカルチェックを立案する | 予習：ジュニア世代に多いスポーツ医科学的問題を調べる | 4時間 |

SP-5030-4-2

| 授業科目名 | アスレティックトレーニング実習Ⅲ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佃　文子 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | * | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実験・実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 佃：日本オリンピック委員会強化スタッフトレーナー（ソフトボール、スピードスケート、水泳）等、東京オリパラの安全管理に係る実践経験を、科学的根拠に結びつけながら講義している。（全14回） | | | | |

**授業概要**

スポーツ活動時の救急対応について総合的に実習し、外傷に対する救急対応だけではなく、熱中症予防や過換気、アナフィラキシーショック、各競技特性に応じた安全管理計画にも実践的に適切に対応できるように実習に取り組む。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 救急対応時に求められるスポーツ外傷・の評価 | 頭頚部外傷及び脳振盪・主要なスポーツ外傷発生時の評価を適切に実施できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツや教育活動中の内科的疾患に対する救急対応 | 労作性熱中症の評価と救急対応を適切に実施できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 競技における救急体制の指導実践 | 各競技特性を考慮した緊急時対応計画の実践に向けた運用指導ができる |

**学外連携学修**

有り(連携先：滋賀県内のスポーツイベントおよび学内の運動施設の安全管理)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・課題解決学習(PBL)

ICT(PowerPoint)、ICT(Excel)、ICT(動画活用)、ICT(専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業ごとの課題レポート | 50　% | ：　内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックに基づき評価する。 |
| 課題に対するプレゼンテーション | 50　% | ：　課題に対する計画と評価方法について、内容の妥当性30%　評価実技の正確さ30%、リスクマネジメント力20%、指導法としての妥当性20%で得点化する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | ・【2022年カリキュラム対応】5巻 救急対応JSPO-AT専門科目テキスト | ・公財）日本スポーツ協会 | ・2022　年 |

**参考文献等**

テキストの購入については、公益財団法人日本スポーツ協会HPから購入する。方法は授業開始時に周知する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

スポーツと安全管理とAT実習Ⅰを履修済みの事。また公財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー課程認定希望者のみを受講対象とする。
本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　授業実施教室

**備考・注意事項**：　急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション、スポーツ現場における救急対応の考え方と救急体制構築の留意点**<br>スポーツ現場の救急体制構築におけるJSPO-ATの役割と連携部門とのかかわり方を理解する。 | 復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **スポーツ現場における救急体制構築と計画**<br>スポーツ現場の救急体制の計画立案と事前調整に必要な事項を学ぶ。 | 事前にテキストを読み込んでくる。 | 1時間 |
| 第3回 | **スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順**<br>一次救命処置の必要性や重度の障害が残る可能性の確認のための初期評価や体位管理と保温、各種の搬送方法について学ぶ | 事前に主要な整形外科的テスト法を確認する。 | 1時間 |
| 第4回 | **外傷時の救急対応（一般的外傷）**<br>出血や打撲、捻挫や骨折などの対応方法を学ぶ | 事前に直接圧迫止血と関節圧迫止血方法を確認する。 | 1時間 |
| 第5回 | **外傷時の救急対応（頭頸部外傷）**<br>脳振盪・頭頚部外傷・脊椎損傷の疑いのある時の対応を学ぶ | 最新のSport Consussion Assecement toolの内容を確認する。 | 1時間 |
| 第6回 | **特殊な外傷・内科的疾患に対する救急対応（労作性熱中症）**<br>熱傷・凍傷・歯・眼などの顔面外傷などの対応を学ぶ。さらに熱中症の対応を学ぶ | 事前に暑さ指数と熱中症の対応法を確認する。 | 1時間 |
| 第7回 | **内科的疾患に対する救急対応（アナフィラキシー他）**<br>アナフィラキシーとその対応について学ぶ | 事前にアナフィラキシーガイドラインの内容を確認する | 1時間 |
| 第8回 | **競技特性に応じた救急体制の実際（個人記録種目）**<br>各競技特性と競技会開催規模に応じた緊急時対応計画を検討し作成する。スポーツ現場に提案し、改善意見を反映してプレゼンテーションする | 配布されたエマージェンシーアクションプラン（個人記録種目）を作成してくる | 1時間 |
| 第9回 | **競技特性に応じた救急体制の実際（ラグビー，サッカー等）**<br>各競技特性と競技会開催規模に応じた緊急時対応計画を検討し作成する。スポーツ現場に提案し、改善意見を反映してプレゼンテーションする | 配布されたエマージェンシーアクションプラン（屋外球技）を作成してくる | 1時間 |
| 第10回 | **競技特性に応じた救急体制の実際（野球・ソフトボール・テニス等）**<br>各競技特性と競技会開催規模に応じた緊急時対応計画を検討し作成する。スポーツ現場に提案し、改善意見を反映してプレゼンテーションする | 配布されたエマージェンシーアクションプラン（屋外バット・ラケット競技）を作成してくる | 1時間 |
| 第11回 | **競技特性に応じた救急体制の実際（バレー・バスケットボール・バドミントン等）**<br>各競技特性と競技会開催規模に応じた緊急時対応計画を検討し作成する。スポーツ現場に提案し、改善意見を反映してプレゼンテーションする | 配布されたエマージェンシーアクションプラン（屋内ネット競技）を作成してくる | 1時間 |
| 第12回 | **競技特性に応じた救急体制の実際（武道等）**<br>各競技特性と競技会開催規模に応じた緊急時対応計画を検討し作成する。スポーツ現場に提案し、改善意見を反映してプレゼンテーションする | 配布されたエマージェンシーアクションプラン（柔道・剣道）を作成してくる | 1時間 |
| 第13回 | **競技特性に応じた救急体制の実際（冬季滑走スポーツ等）**<br>各競技特性と競技会開催規模に応じた緊急時対応計画を検討し作成する。スポーツ現場に提案し、改善意見を反映してプレゼンテーションする | 配布されたエマージェンシーアクションプラン（冬季滑走スポーツ等）を作成してくる | 1時間 |
| 第14回 | **競技特性に応じた救急体制の実際（パラスポーツ等）・まとめ**<br>各競技特性と競技会開催規模に応じた緊急時対応計画を検討し作成する。スポーツ現場に提案し、改善意見を反映してプレゼンテーションする | 配布されたエマージェンシーアクションプラン（パラスポーツ）を作成してくる | 1時間 |

SP-5031-4-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教育実習指導** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤（寛）・川合・山手・大西・髙松** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | * | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 黒澤寛：高等学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。<br>川合：学校及び教育行政機関に管理職として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。<br>多賀谷・山手：小学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

３年次の事前指導において、教職の意義や役割、実習の目的や内容、実習までのスケジュール、保健体育の学習指導案作成についての理解を深め、実際に作成した指導案を基に模擬授業を行う事により各自の学習指導における問題点を明らかにして、教育実習までの学習課題を理解する。４年次の直前指導においては、教育実習に向けての心得や直前の準備等について理解する。事後指導においては、教育実習受け入れ校の教員による講話を伺い、教育実習を振り返り、自らの達成点や今後の課題を明らかにする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 教育実習の展望 | 教育実習の意義、内容、スケジュールなどについて理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 教育実習に対する責任と自覚、教員としての道徳心 | 教育実習に対する責任と自覚、教員としての道徳心を身に付ける。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 模擬授業のための指導案 | 30 % | ： 指導案の完成度について評価する。 |
| 模擬授業実施に関するレポート | 20 % | ： 模擬授業を行い、学んだことについて、自らの考えを記述できているか評価する。 |
| 形成的授業評価とリフレクション | 30 % | ： 適切に授業評価とリフレクションができているか評価する。 |
| 教育実習指導全体のレポート | 20 % | ： 教育実習指導を通して学んだことを振り返り、自らの達成点や今後の課題について記述できているか評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各学校種の「学習指導要領」「学習指導要領解説　保健体育編・体育編」（文部科学省）
各学校種の保健教科書
各学校種の体育実技テキスト

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
授業の日時、場所については、別途連絡（掲示等）する。

教育実習に関する記録等、指示された提出物を必ず提出すること。本授業は、学校で実施される「教育実習」に準じた基準で評価する。出席や提出物、補講テストの条件を満たした者以外は、教育実習に参加することができない。各自、教師としての自覚を持って授業に取り組むこと。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： オフィスアワー

**場所**： 黒澤寛己研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **教育職員の責務と教育実習の位置づけ**<br>学校教育において教師が果たす役割、教員に求められる資質･能力について学修するとともに、教育実習の意義と目的、教育実習で学ぶこと、教育実習までのスケジュールとやっておくべきことについて学修する。 | 教育実習ハンドブックを活用し、教育実習に対するイメージや心構えを涵養する。 | 4時間 |
| 第2回 | **体育実技の指導案の作成について**<br>体育実技の授業の設計、体育実技の指導案の実際例、指導案の作成における留意点について学修する。 | 体育実技の指導案の作成法についてまとめておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **保健・体育理論の指導案の作成について**<br>保健や体育理論の指導案の実際例、指導案の作成における留意点について学修する。 | 保健と体育理論の指導案の作成法についてまとめておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **授業構想と指導案の作成**<br>各自が担当する模擬授業の学習指導案を作成する。 | 担当する授業の構想を立て、指導案を作成する。 | 4時間 |
| 第5回 | **模擬授業の実践と省察①**<br>６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。<br>各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。 | 形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。 | 4時間 |
| 第6回 | **模擬授業の実践と省察②**<br>６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。<br>各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。 | 形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。 | 4時間 |
| 第7回 | **模擬授業の実践と省察③**<br>６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。<br>各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。 | 形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。 | 4時間 |
| 第8回 | **模擬授業の実践と省察④**<br>６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。<br>各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。 | 形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。 | 4時間 |
| 第9回 | **模擬授業の実践と省察⑤**<br>６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。<br>各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける。 | 形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。 | 4時間 |
| 第10回 | **模擬授業の実践と省察⑥**<br>６つの班に分かれて模擬授業に指導者と生徒役として参加する。<br>各領域の模擬授業の終了後、授業反省会で、担当指導教員と４年生から授業観察結果の講評を受ける | 形成的授業評価とリフレクションシートをまとめて提出する。 | 4時間 |
| 第11回 | **模擬授業のまとめ**<br>６回の模擬授業参加体験で学んだことのまとめと反省を行い、実習までの各自の課題を確認する。 | 反省で明らかになった課題を解決する手立てを考えてまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **教育実習に向けての指導案の実際**<br>教育実習の意義と目的を再確認し、実習校において担当する実際の授業の指導案を作成する。 | 実習まで担当する授業について調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **教育実習における実習生の行動**<br>教育実習生としての学校における行動、児童生徒への指導・対応、事務的業務等について確認を行う | 事前の準備や連絡について再確認しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **教育実習を振り返り、教師の資質について考える**<br>実習生受け入れ校の教員を講師に招き、講話を伺い、考えをまとめる | これまでの学びを振り返り、レポートを作成する。 | 4時間 |

SP-5032-4-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教育実習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤・山手** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | * | 単位数 | 4 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 黒澤寛己：高等学校おいて教諭・生徒指導主事として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。<br>川合英之：学校及び教育行政機関に管理職として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

教育実習校における現場実習を通して、教員になるために求められる資質・能力の習得、向上を図る。保健体育科の授業の設計と教材研究、計画立案、教材開発、学習指導と学習評価、授業観察および授業省察、授業改善を実際の生徒を対象として学ぶとともに、学級（ホームルーム）活動、学校行事、生徒指導、部活動等の指導、生徒理解の方法等に関する実践的な知識や技能の向上を図ることを通して、教職意識の高揚を図り、教職を目指すことの意義について実際体験を通して学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 教師の職責の理解 | 教職の重要性を理解できる。 |
| 2. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 教師の具体的業務の理解 | 教師の仕事や役割を理解できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 生徒指導力・学習指導力 | 生徒の特性や行動の背景にある思いを理解できる。 |
| 4. DP2.知識・技能 | 授業実践力 | 一定水準の授業ができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：各教育実習校)

**授業方法**

・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 教育実習校による評価 | 80 % | ： 教育実習に対する取り組みについて、各実習校が評価を行う。 |
| 教育実習日誌 | 10 % | ： 実習内容について適切にまとめられているか評価する。 |
| 作成した指導案の達成度 | 10 % | ： 指導案の達成度について評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

校種別の学習指導要領・学習指導要領解説保健体育編(文部科学省)

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は４単位科目の教育現場での実習であり、実習生活そのものが学修となる。
中学校教員免許状と高等学校教員免許状を取得しようとする者が履修する。
「教育実習指導」（１単位）に出席していない学生は、教育実習に参加することはできない。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **教育実習**<br><br>実習校で３週間以上行われる。<br>観察・参加・実習という展開過程で行われる。<br>具体的な内容については、授業や学級経営等の実践が、実習校の指導教員との緊密な連携･協力のもとに計画され、実施される。 | これまでの教職課程での学びを再確認しておくこと。実習校や生徒に関する情報収集、指導案の作成等、実習を円滑に遂行するために必要なことに取り組むこと。 | 4時間 |

SP-5034-4-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教職実践演習(中・高)** | | | | |
| 担当教員名 | **多賀谷・黒澤（寛）・山手・大西・高松・股村・松本** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | *1 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 川合：学校及び教育行政機関に管理職として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。<br>黒澤（寛）：高等学校において保健体育科教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。<br>多賀谷・山手：小学校において教諭として勤務した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

第1回目の授業で、履修カルテや教育実習体験の振り返りを通し、今後の学習課題を確認する。前半の授業では、人権教育、特別支援教育、総合的な学習の時間、生徒指導、特別活動、自然体験学習について、その意義や実際、教育の方法等を理解し、課題解決に向けた実際的な対応について学ぶ。後半の授業では、教員としての反省的実践者に必要な資質能力を育むため、保健や体育理論、道徳の模擬授業を行い、教師役と生徒役に分かれて参加し、授業観察と授業評価を行う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 教職に関する今日的教育課題の現状と対応 | 生徒指導、人権教育、特別支援教育等の今日的教育課題の現状と対応について理解し、論述することができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 教職の実践力 | 保健体育科授業における反省的実践者に必要な資質能力を高めることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 履修カルテ | 20 % | ： | 履修カルテにおいて教職課程の学びを振り返り、自身の今後の学習課題を確認する。 |
| レポート | 30 % | ： | 人権教育、道徳の指導、総合的な学習の時間、生徒指導、特別活動、自然体験学習について、その意義や実際、教育の方法等を理解し、課題解決に向けた実際的な対応について学ぶ。 |
| 教職課程ポートフォリオ | 20 % | ： | 自分が４年間に学んできたことを教職ポートフォリオに記録し、保健体育科授業における反省的実践者に必要な資質能力を高めることができる。 |
| 授業演習での評価シート | 30 % | ： | 授業内容の理解度を評価シートで評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし。適宜資料を配付します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は、２単位の科目であるため、平均すると毎４時間の授業外学修が求められる。
１年次から記録している教職ハンドブックの履修カルテに記録した内容を読み返して、自分が４年間に学んできたことを再確認しておくこと。
保健体育科教員としての資格を取るための総まとめの授業である。また、今までに学んできたことの再確認と身につけたことを試す授業でもある。４年後期の授業となるが、教員免許状取得者としてふさわしい態度で、最後まで気を抜かずに真剣に取り組むこと。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **教職実践演習について**<br>・授業オリエンテーション、学習カルテや教育実習体験の振り返りにより、学習課題を確認する。<br>・授業期間を通じて、履修カルテを含む大学における教職関連の学びに関するポートフォリオを完成させる。 | 各自の学習課題をまとめてレポートを作成する。 | 4時間 |
| 第2回 | **人権教育について**<br>教員経験者による人権教育に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、人権教育に関する課題を明らかにし理解を深める。 | 人権教育についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **道徳の指導について**<br>教員経験者による特別支援教育に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、道徳の指導に関する課題を明らかにし理解を深める。 | 道徳の指導ついての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **総合的な学習の時間について**<br>現場教員による総合的な学習の時間に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、総合的な学習の時間に関する課題を明らかにし理解を深める。 | 総合的な学習の時間についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **生徒指導について**<br>現場教員による生徒指導に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、生徒指導に関する課題を明らかにし理解を深める。 | 生徒指導についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **特別活動について**<br>教員経験者による特別活動に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、特別活動に関する課題を明らかにし理解を深める。 | 特別活動についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **自然体験学習について**<br>教員経験者による自然体験学習に関する講義を受け、提示された課題に関する意見交換やディスカッションを行い、自然体験学習に関する課題を明らかにして理解を深める。 | 自然な体験学習についての意見交換やディスカッションで検討された内容をレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **授業演習のためのオリエンテーション**<br>授業演習に関する説明<br>６班のグルーピングと模擬授業及び省察の方法を理解する。 | 授業観察評価法について復習しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **授業演習①**<br>２つの班に分かれて、模擬授業を行い、教師役と生徒役に分かれて参加する。<br>保健や体育理論、道徳の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。 | 模擬授業のリフレクションシートを作成する。 | 4時間 |
| 第10回 | **授業演習②**<br>２つの班に分かれて、模擬授業を行い、教師役と生徒役に分かれて参加する。<br>保健や体育理論、道徳の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。 | 模擬授業のリフレクションシートを作成する。 | 4時間 |
| 第11回 | **授業演習③**<br>２つの班に分かれて、模擬授業を行い、教師役と生徒役に分かれて参加する。<br>保健や体育理論、道徳の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。 | 模擬授業のリフレクションシートを作成する。 | 4時間 |
| 第12回 | **授業演習④**<br>２つの班に分かれて、模擬授業を行い、教師役と生徒役に分かれて参加する。<br>保健や体育理論、道徳の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。 | 模擬授業のリフレクションシートを作成する。 | 4時間 |
| 第13回 | **授業演習⑤**<br>２つの班に分かれて、模擬授業を行い、教師役と生徒役に分かれて参加する。<br>保健や体育理論、道徳の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。 | 模擬授業のリフレクションシートを作成する。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業演習⑥**<br>２つの班に分かれて、模擬授業を行い、教師役と生徒役に分かれて参加する。<br>保健や体育理論、道徳の模擬授業の終了後、担当指導教員との連携のもと、授業検討会に参加し、授業の省察を行う。 | 模擬授業のリフレクションシートを作成する。 | 4時間 |

SP-3101-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

各コースにおける専門領域の研究動向を概観し、卒業研究の課題設定に向けた情報の収集を学ぶ。また、卒業研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析について学ぶ。
社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要**<br><br>授業の年間計画の内容は卒業研究に取り組むための基盤学習となっている。<br>卒業研究遂行に必要な学習を計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、卒業研究論文の性質を理解する。 | 卒業生の卒業研究の要旨を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース専門領域・関連領域の概観**<br><br>各自が選んだ卒業研究の要旨３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 要旨をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **個人別課題発表-前半**<br><br>各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第4回 | **個人別課題発表-後半**<br><br>前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。<br>学生がそれぞれの課題を共有し理解することで、コース専門領域の関連研究の動向を理解する。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第5回 | **研究とは？変数とは？**<br><br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。<br>また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第6回 | **データ分析における基本的知識の習得-研究で用いる変数（尺度や頻度、測定値と補正値等）**<br><br>データ分析における基本的知識として、変数の種類と数値の取り扱いについての基本的知識を学習する。 | 尺度や頻度、測定値の扱いについて復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br><br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **卒業研究課題の探索**<br><br>個人別課題発表から掘り下げた卒業研究課題について | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **文献検索の方法**<br><br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、卒業研究課題に関連する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究課題の絞り込み**<br><br>卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **論文構成**<br><br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。 | 構成を理解し、選んだ論文を読み進める。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究課題と研究方法の検討**<br><br>卒業研究課題の研究計画を大まかに立案する．立案した計画と現在の課題を確認する | 研究計画の課題に対する対応策を検討しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の課題と研究構想発表会**<br><br>卒業研究の課題と研究計画についてゼミ内で発表する．他者の発表の理解を通じて，互いの卒業研究の課題を共有し，意見交換を行う． | 他者のピアレビューをもとに，研究構想の改善案をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画に基づく研究手続き、前期の学習のまとめ**<br><br>研究方法にのっとり研究の説明書，同意書などを作成し，物品の借用や施設の利用手続きなどを行う．演習Ⅰで不足している取り組みについて、教員の指導の下で課題に取り組む | 研究の説明書と同意書を完成させる。各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。 | 4時間 |

SP-3301-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

各コースにおける専門領域の研究動向を概観し、卒業研究の課題設定に向けた情報の収集を学ぶ。また、卒業研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析について学ぶ。
社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要**<br>授業の年間計画の内容は卒業研究に取り組むための基盤学習となっている。<br>卒業研究遂行に必要な学習を計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、卒業研究論文の性質を理解する。 | 卒業生の卒業研究の要旨を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース専門領域・関連領域の概観**<br>各自が選んだ卒業研究の要旨３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 要旨をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **個人別課題発表-前半**<br>各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。 | 互いにピアレビューを行い、不足していた情報や追加の課題を次週に発表できるように準備する | 4時間 |
| 第4回 | **個人別課題発表-後半**<br>前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。<br>学生がそれぞれの課題を共有し理解することで、コース専門領域の関連研究の動向を理解する。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第5回 | **研究とは？変数とは？**<br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。<br>また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第6回 | **データ分析における基本的知識の習得-研究で用いる変数（尺度や頻度、測定値と補正値等）**<br>データ分析における基本的知識として、変数の種類と数値の取り扱いについての基本的知識を学習する。 | 尺度や頻度、測定値の扱いについて復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **卒業研究課題の探索**<br>個人別課題発表から掘り下げた卒業研究課題について | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **文献検索の方法**<br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、卒業研究課題に関連する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究課題の絞り込み**<br>卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **論文構成**<br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。 | 構成を理解し、選んだ論文を読み進める。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究課題と研究方法の検討**<br>卒業研究課題の研究計画を大まかに立案する．立案した計画と現在の課題を確認する | 研究計画の課題に対する対応策を検討しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の課題と研究構想発表会**<br>卒業研究の課題と研究計画についてゼミ内で発表する．他者の発表の理解を通じて，互いの卒業研究の課題を共有し，意見交換を行う． | 他者のピアレビューをもとに，研究構想の改善案をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画に基づく研究手続き、前期の学習のまとめ**<br>研究方法にのっとり研究の説明書，同意書などを作成し，物品の借用や施設の利用手続きなどを行う．演習Ｉで不足している取り組みについて、教員の指導の下で課題に取り組む | 研究の説明書と同意書を完成させる。各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。 | 4時間 |

SP-3401-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・トレーニング科学演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 必修 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

各コースにおける専門領域の研究動向を概観し、卒業研究の課題設定に向けた情報の収集を学ぶ。また、卒業研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析について学ぶ。
社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

**評価の基準**

： 各ゼミによる

100 %

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要**<br>授業の年間計画の内容は卒業研究に取り組むための基盤学習となっている。<br>卒業研究遂行に必要な学習を計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、卒業研究論文の性質を理解する。 | 卒業生の卒業研究の要旨を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース専門領域・関連領域の概観**<br>各自が選んだ卒業研究の要旨３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 要旨をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **個人別課題発表-前半**<br>各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。 | 互いにピアレビューを行い、不足していた情報や追加の課題を次週に発表できるように準備する | 4時間 |
| 第4回 | **個人別課題発表-後半**<br>前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。<br>学生がそれぞれの課題を共有し理解することで、コース専門領域の関連研究の動向を理解する。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第5回 | **研究とは？変数とは？**<br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。<br>また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第6回 | **データ分析における基本的知識の習得-研究で用いる変数（尺度や頻度、測定値と補正値等）**<br>データ分析における基本的知識として、変数の種類と数値の取り扱いについての基本的知識を学習する。 | 尺度や頻度、測定値の扱いについて復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **卒業研究課題の探索**<br>個人別課題発表から掘り下げた卒業研究課題について | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **文献検索の方法**<br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、卒業研究課題に関連する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究課題の絞り込み**<br>卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **論文構成**<br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。 | 構成を理解し、選んだ論文を読み進める。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究課題と研究方法の検討**<br>卒業研究課題の研究計画を大まかに立案する．立案した計画と現在の課題を確認する | 研究計画の課題に対する対応策を検討しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の課題と研究構想発表会**<br>卒業研究の課題と研究計画についてゼミ内で発表する．他者の発表の理解を通じて，互いの卒業研究の課題を共有し，意見交換を行う． | 他者のピアレビューをもとに，研究構想の改善案をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画に基づく研究手続き、前期の学習のまとめ**<br>研究方法にのっとり研究の説明書，同意書などを作成し，物品の借用や施設の利用手続きなどを行う．演習Ｉで不足している取り組みについて、教員の指導の下で課題に取り組む | 研究の説明書と同意書を完成させる。各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。 | 4時間 |

SP-3501-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 必修 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

各コースにおける専門領域の研究動向を概観し、卒業研究の課題設定に向けた情報の収集を学ぶ。また、卒業研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析について学ぶ。
社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要**<br>授業の年間計画の内容は卒業研究に取り組むための基盤学習となっている。<br>卒業研究遂行に必要な学習を計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、卒業研究論文の性質を理解する。 | 卒業生の卒業研究の要旨を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース専門領域・関連領域の概観**<br>各自が選んだ卒業研究の要旨３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 要旨をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **個人別課題発表-前半**<br>各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。 | 互いにピアレビューを行い、不足していた情報や追加の課題を次週に発表できるように準備する | 4時間 |
| 第4回 | **個人別課題発表-後半**<br>前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。<br>学生がそれぞれの課題を共有し理解することで、コース専門領域の関連研究の動向を理解する。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第5回 | **研究とは？変数とは？**<br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。<br>また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第6回 | **データ分析における基本的知識の習得-研究で用いる変数（尺度や頻度、測定値と補正値等）**<br>データ分析における基本的知識として、変数の種類と数値の取り扱いについての基本的知識を学習する。 | 尺度や頻度、測定値の扱いについて復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **卒業研究課題の探索**<br>個人別課題発表から掘り下げた卒業研究課題について | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **文献検索の方法**<br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、卒業研究課題に関連する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究課題の絞り込み**<br>卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **論文構成**<br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。 | 構成を理解し、選んだ論文を読み進める。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究課題と研究方法の検討**<br>卒業研究課題の研究計画を大まかに立案する．立案した計画と現在の課題を確認する | 研究計画の課題に対する対応策を検討しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の課題と研究構想発表会**<br>卒業研究の課題と研究計画についてゼミ内で発表する．他者の発表の理解を通じて，互いの卒業研究の課題を共有し，意見交換を行う． | 他者のピアレビューをもとに，研究構想の改善案をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画に基づく研究手続き、前期の学習のまとめ**<br>研究方法にのっとり研究の説明書，同意書などを作成し，物品の借用や施設の利用手続きなどを行う．演習Ｉで不足している取り組みについて、教員の指導の下で課題に取り組む | 研究の説明書と同意書を完成させる。各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。 | 4時間 |

SP-3601-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **野外・レクリエーションスポーツ演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 必修 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

各コースにおける専門領域の研究動向を概観し、卒業研究の課題設定に向けた情報の収集を学ぶ。また、卒業研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析について学ぶ。
社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

**評価の基準**

： 各ゼミによる

100 %

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要**<br>授業の年間計画の内容は卒業研究に取り組むための基盤学習となっている。<br>卒業研究遂行に必要な学習を計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、卒業研究論文の性質を理解する。 | 卒業生の卒業研究の要旨を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース専門領域・関連領域の概観**<br>各自が選んだ卒業研究の要旨３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 要旨をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **個人別課題発表-前半**<br>各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。 | 互いにピアレビューを行い、不足していた情報や追加の課題を次週に発表できるように準備する | 4時間 |
| 第4回 | **個人別課題発表-後半**<br>前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。<br>学生がそれぞれの課題を共有し理解することで、コース専門領域の関連研究の動向を理解する。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第5回 | **研究とは？変数とは？**<br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。<br>また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第6回 | **データ分析における基本的知識の習得-研究で用いる変数（尺度や頻度、測定値と補正値等）**<br>データ分析における基本的知識として、変数の種類と数値の取り扱いについての基本的知識を学習する。 | 尺度や頻度、測定値の扱いについて復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **卒業研究課題の探索**<br>個人別課題発表から掘り下げた卒業研究課題について | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **文献検索の方法**<br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、卒業研究課題に関連する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究課題の絞り込み**<br>卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **論文構成**<br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。 | 構成を理解し、選んだ論文を読み進める。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究課題と研究方法の検討**<br>卒業研究課題の研究計画を大まかに立案する．立案した計画と現在の課題を確認する | 研究計画の課題に対する対応策を検討しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の課題と研究構想発表会**<br>卒業研究の課題と研究計画についてゼミ内で発表する．他者の発表の理解を通じて，互いの卒業研究の課題を共有し，意見交換を行う． | 他者のピアレビューをもとに，研究構想の改善案をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画に基づく研究手続き、前期の学習のまとめ**<br>研究方法にのっとり研究の説明書，同意書などを作成し，物品の借用や施設の利用手続きなどを行う．演習Ｉで不足している取り組みについて、教員の指導の下で課題に取り組む | 研究の説明書と同意書を完成させる。各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。 | 4時間 |

SP-3201-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生涯スポーツ演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

各コースにおける専門領域の研究動向を概観し、卒業研究の課題設定に向けた情報の収集を学ぶ。また、卒業研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、データの分析について学ぶ。
社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要**<br>授業の年間計画の内容は卒業研究に取り組むための基盤学習となっている。<br>卒業研究遂行に必要な学習を計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、卒業研究論文の性質を理解する。 | 卒業生の卒業研究の要旨を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース専門領域・関連領域の概観**<br>各自が選んだ卒業研究の要旨３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 要旨をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **個人別課題発表-前半**<br>各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。 | 互いにピアレビューを行い、不足していた情報や追加の課題を次週に発表できるように準備する | 4時間 |
| 第4回 | **個人別課題発表-後半**<br>前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。<br>学生がそれぞれの課題を共有し理解することで、コース専門領域の関連研究の動向を理解する。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第5回 | **研究とは？変数とは？**<br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。<br>また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第6回 | **データ分析における基本的知識の習得-研究で用いる変数（尺度や頻度、測定値と補正値等）**<br>データ分析における基本的知識として、変数の種類と数値の取り扱いについての基本的知識を学習する。 | 尺度や頻度、測定値の扱いについて復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **卒業研究課題の探索**<br>個人別課題発表から掘り下げた卒業研究課題について | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **文献検索の方法**<br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、卒業研究課題に関連する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究課題の絞り込み**<br>卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **論文構成**<br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。 | 構成を理解し、選んだ論文を読み進める。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究課題と研究方法の検討**<br>卒業研究課題の研究計画を大まかに立案する．立案した計画と現在の課題を確認する | 研究計画の課題に対する対応策を検討しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の課題と研究構想発表会**<br>卒業研究の課題と研究計画についてゼミ内で発表する．他者の発表の理解を通じて，互いの卒業研究の課題を共有し，意見交換を行う． | 他者のピアレビューをもとに，研究構想の改善案をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画に基づく研究手続き、前期の学習のまとめ**<br>研究方法にのっとり研究の説明書，同意書などを作成し，物品の借用や施設の利用手続きなどを行う．演習Ｉで不足している取り組みについて、教員の指導の下で課題に取り組む | 研究の説明書と同意書を完成させる。各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。 | 4時間 |

SP-3101-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コースの学びと関連したスポーツ学における課題を設定し、卒業研究論文を書くために必要となる多様なデータの分析方法や、結果・考察・結論の書き方について学ぶ。社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第3回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第5回 | **研究結果の分析①概要把握**<br>結果をまとめるために必要な情報を単純集計し、単純な表やグラフを完成させる. | グラフや表を作成する | 4時間 |
| 第6回 | **結果の分析②詳細**<br>研究の観点に沿った結果の分析方法を理解し、入力データ等を目的に合わせて分析する。 | 目的に応じた分析を行う | 4時間 |
| 第7回 | **コース中間発表会**<br>各学生が設定した研究課題と研究計画の進捗を、コース発表会で報告し、研究の課題などについて討論する。 | 指導教員や学生がピアレビューを行い、課題を解決するための情報を整理し卒業研究論文の完成に向けて対応策を準備する。 | 4時間 |
| 第8回 | **考察の書き方**<br>例題などを用いて、関連する先行研究と研究結果を比較し、相違点や関連性について、理解する。 | 結果の信頼性や妥当性について要点をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **結論の書き方**<br>研究のまとめと簡潔な主張表現を学ぶ。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第10回 | **研究のまとめ**<br>研究のまとめとして、短く簡潔な要旨を作成する | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第11回 | **研究要旨の校正**<br>適切な表現や、わかりやすいグラフや表を用いて内容の可視化を行う。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第12回 | **研究に関するプレゼンテーションを練る**<br>先行研究を基に研究内容の要点をわかりやすくパワーポイントにする。互いにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの課題を確認する | 他者のピアレビューをもとに，プレゼンテーションの改善案をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **研究に関するプレゼンテーション**<br>実際にプレゼンテーションを行い、研究の内容や課題について共有する | プレゼンテーションの課題を振返る | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>自身の研究の課題やコース関連領域における発展的な研究課題について理解を深める。 | 要点をまとめて研究取組み全体の復習を行う | 4時間 |

SP-3301-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コースの学びと関連したスポーツ学における課題を設定し、卒業研究論文を書くために必要となる多様なデータの分析方法や、結果・考察・結論の書き方について学ぶ。社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第3回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第5回 | **研究結果の分析①概要把握**<br>結果をまとめるために必要な情報を単純集計し、単純な表やグラフを完成させる。 | グラフや表を作成する | 4時間 |
| 第6回 | **結果の分析②詳細**<br>研究の観点に沿った結果の分析方法を理解し、入力データ等を目的に合わせて分析する。 | 目的に応じた分析を行う | 4時間 |
| 第7回 | **コース中間発表会**<br>各学生が設定した研究課題と研究計画の進捗を、コース発表会で報告し、研究の課題などについて討論する。 | 指導教員や学生がピアレビューを行い、課題を解決するための情報を整理し卒業研究論文の完成に向けて対応策を準備する。 | 4時間 |
| 第8回 | **考察の書き方**<br>例題などを用いて、関連する先行研究と研究結果を比較し、相違点や関連性について、理解する。 | 結果の信頼性や妥当性について要点をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **結論の書き方**<br>研究のまとめと簡潔な主張表現を学ぶ。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第10回 | **研究のまとめ**<br>研究のまとめとして、短く簡潔な要旨を作成する | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第11回 | **研究要旨の校正**<br>適切な表現や、わかりやすいグラフや表を用いて内容の可視化を行う。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第12回 | **研究に関するプレゼンテーションを練る**<br>先行研究を基に研究内容の要点をわかりやすくパワーポイントにする。互いにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの課題を確認する | 他者のピアレビューをもとに，プレゼンテーションの改善案をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **研究に関するプレゼンテーション**<br>実際にプレゼンテーションを行い、研究の内容や課題について共有する | プレゼンテーションの課題を振返る | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>自身の研究の課題やコース関連領域における発展的な研究課題について理解を深める。 | 要点をまとめて研究取組み全体の復習を行う | 4時間 |

SP-3401-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・トレーニング科学演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 必修 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コースの学びと関連したスポーツ学における課題を設定し、卒業研究論文を書くために必要となる多様なデータの分析方法や、結果・考察・結論の書き方について学ぶ。社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第3回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第5回 | **研究結果の分析①概要把握**<br>結果をまとめるために必要な情報を単純集計し、単純な表やグラフを完成させる. | グラフや表を作成する | 4時間 |
| 第6回 | **結果の分析②詳細**<br>研究の観点に沿った結果の分析方法を理解し、入力データ等を目的に合わせて分析する。 | 目的に応じた分析を行う | 4時間 |
| 第7回 | **コース中間発表会**<br>各学生が設定した研究課題と研究計画の進捗を、コース発表会で報告し、研究の課題などについて討論する。 | 指導教員や学生がピアレビューを行い、課題を解決するための情報を整理し卒業研究論文の完成に向けて対応策を準備する。 | 4時間 |
| 第8回 | **考察の書き方**<br>例題などを用いて、関連する先行研究と研究結果を比較し、相違点や関連性について、理解する。 | 結果の信頼性や妥当性について要点をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **結論の書き方**<br>研究のまとめと簡潔な主張表現を学ぶ。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第10回 | **研究のまとめ**<br>研究のまとめとして、短く簡潔な要旨を作成する | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第11回 | **研究要旨の校正**<br>適切な表現や、わかりやすいグラフや表を用いて内容の可視化を行う。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第12回 | **研究に関するプレゼンテーションを練る**<br>先行研究を基に研究内容の要点をわかりやすくパワーポイントにする。互いにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの課題を確認する | 他者のピアレビューをもとに，プレゼンテーションの改善案をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **研究に関するプレゼンテーション**<br>実際にプレゼンテーションを行い、研究の内容や課題について共有する | プレゼンテーションの課題を振返る | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>自身の研究の課題やコース関連領域における発展的な研究課題について理解を深める。 | 要点をまとめて研究取組み全体の復習を行う | 4時間 |

SP-3501-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **コーチング演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コースの学びと関連したスポーツ学における課題を設定し、卒業研究論文を書くために必要となる多様なデータの分析方法や、結果・考察・結論の書き方について学ぶ。社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第3回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第5回 | **研究結果の分析①概要把握**<br>結果をまとめるために必要な情報を単純集計し、単純な表やグラフを完成させる. | グラフや表を作成する | 4時間 |
| 第6回 | **結果の分析②詳細**<br>研究の観点に沿った結果の分析方法を理解し、入力データ等を目的に合わせて分析する。 | 目的に応じた分析を行う | 4時間 |
| 第7回 | **コース中間発表会**<br>各学生が設定した研究課題と研究計画の進捗を、コース発表会で報告し、研究の課題などについて討論する。 | 指導教員や学生がピアレビューを行い、課題を解決するための情報を整理し卒業研究論文の完成に向けて対応策を準備する。 | 4時間 |
| 第8回 | **考察の書き方**<br>例題などを用いて、関連する先行研究と研究結果を比較し、相違点や関連性について、理解する。 | 結果の信頼性や妥当性について要点をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **結論の書き方**<br>研究のまとめと簡潔な主張表現を学ぶ。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第10回 | **研究のまとめ**<br>研究のまとめとして、短く簡潔な要旨を作成する | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第11回 | **研究要旨の校正**<br>適切な表現や、わかりやすいグラフや表を用いて内容の可視化を行う。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第12回 | **研究に関するプレゼンテーションを練る**<br>先行研究を基に研究内容の要点をわかりやすくパワーポイントにする。互いにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの課題を確認する | 他者のピアレビューをもとに，プレゼンテーションの改善案をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **研究に関するプレゼンテーション**<br>実際にプレゼンテーションを行い、研究の内容や課題について共有する | プレゼンテーションの課題を振返る | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>自身の研究の課題やコース関連領域における発展的な研究課題について理解を深める。 | 要点をまとめて研究取組み全体の復習を行う | 4時間 |

SP-3601-4-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **野外・レクリエーションスポーツ演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **ゼミ担当教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コースの学びと関連したスポーツ学における課題を設定し、卒業研究論文を書くために必要となる多様なデータの分析方法や、結果・考察・結論の書き方について学ぶ。社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要**<br><br>授業の年間計画の内容は卒業研究に取り組むための基盤学習となっている。<br>卒業研究遂行に必要な学習を計画的に進めていく必要性について理解する。また、導入としてこれまでに書いてきたエッセイやレポートと論文と言われる文章の違いに着目し、卒業研究論文の性質を理解する。 | 卒業生の卒業研究の要旨を読み、特に興味のあるものを３編ほど選び、読んでくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース専門領域・関連領域の概観**<br><br>各自が選んだ卒業研究の要旨３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 要旨をまとめるワークシートを完成させ、次週の発表に向け、準備を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **個人別課題発表-前半**<br><br>各自の興味に基づいて選択した論文の内容、方法、結果、論文を読んだ感想や疑問点などを発表する。他の受講生がその論文について理解できるように発表するプレゼンテーション能力の向上も目的としている。 | 互いにピアレビューを行い、不足していた情報や追加の課題を次週に発表できるように準備する | 4時間 |
| 第4回 | **個人別課題発表-後半**<br><br>前回に引き続き、個人別課題の発表を行う。<br>学生がそれぞれの課題を共有し理解することで、コース専門領域の関連研究の動向を理解する。 | 発表の評価から、自身の理解やプレゼンテーションをふりかえる | 4時間 |
| 第5回 | **研究とは？変数とは？**<br><br>これまでの勉強、学習と研究との違いを理解する。特に、研究の意義や目的、また目的達成のための方法についての基本的な考え方を理解する。<br>また、研究を行う上で重要な「変数」とは何か、またその種類と関係性について理解する。さまざまな研究タイトルからその変数の種類を読み取り、研究の趣旨が理解できるようになることを目指す。 | 授業の復習を行い、理解を深める | 4時間 |
| 第6回 | **データ分析における基本的知識の習得-研究で用いる変数（尺度や頻度、測定値と補正値等）**<br><br>データ分析における基本的知識として、変数の種類と数値の取り扱いについての基本的知識を学習する。 | 尺度や頻度、測定値の扱いについて復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br><br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **卒業研究課題の探索**<br><br>個人別課題発表から掘り下げた卒業研究課題について | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **文献検索の方法**<br><br>インターネットや図書館のデータベース、その他のデータベースを用いた文献検索の方法について、実際に行いながら習得する。また、調べた文献を手に入れる方法を理解し、実際に自分の興味のあるテーマに関する論文を調べ、探し出し、手に入れ、読む。 | 学んだ検索方法を用いて、卒業研究課題に関連する原著論文を３編見つける。 | 4時間 |
| 第10回 | **卒業研究課題の絞り込み**<br><br>卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 卒業研究課題に関連するキーワードを書き出し、研究構想をまとめる | 4時間 |
| 第11回 | **論文構成**<br><br>例題となる論文を読み、論文とはどのような構成で展開されているか理解する。またそれぞれの章において述べるべき重要な内容について理解する。 | 構成を理解し、選んだ論文を読み進める。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究課題と研究方法の検討**<br><br>卒業研究課題の研究計画を大まかに立案する．立案した計画と現在の課題を確認する | 研究計画の課題に対する対応策を検討しまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **卒業研究の課題と研究構想発表会**<br><br>卒業研究の課題と研究計画についてゼミ内で発表する．他者の発表の理解を通じて，互いの卒業研究の課題を共有し，意見交換を行う． | 他者のピアレビューをもとに，研究構想の改善案をまとめる | 4時間 |
| 第14回 | **研究計画に基づく研究手続き、前期の学習のまとめ**<br><br>研究方法にのっとり研究の説明書，同意書などを作成し，物品の借用や施設の利用手続きなどを行う．演習Ⅰで不足している取り組みについて、教員の指導の下で課題に取り組む | 研究の説明書と同意書を完成させる。各自で理解不十分なトピックを復習し、必要に応じて教員の確認を受ける。 | 4時間 |

SP-3201-4-1

| 授業科目名 | 生涯スポーツ演習Ⅱ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | ゼミ担当教員 | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コースの学びと関連したスポーツ学における課題を設定し、卒業研究論文を書くために必要となる多様なデータの分析方法や、結果・考察・結論の書き方について学ぶ。社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につける。また、多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツに求められる課題に対する新たな価値創造 | 理解社会がスポーツに求めている内容や課題を理解したうえで、新たな価値を創造し、よりよい解決策を提案し、実現できる力を身につけていること |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会に対する課題発見・解決 | 多様化・複雑化する社会において、すでに存在する、あるいは新たに生まれる課題を発見し、地域の人や企業の人をはじめ関係する人と人間関係を構築して、課題共有し、協働して解決策を見出し、実行できる力を身につけていること |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各ゼミによる

100 %

**評価の基準**

： 各ゼミによる

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

各ゼミによる

**履修上の注意・備考・メッセージ**

各ゼミによる

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第3回 | **データ分析における基本的知識の習得-検定**<br>データ分析における基本的知識として、数値の検定について学習する。 | 検定について復習を行い、理解を深める。次回の予習を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **データの分析方法ーデータ入力**<br>実際にどのようにデータを入力するのか理解する。データを入力するためのフォーマットを作成し、データ入力を行う。 | 授業の復習を行い、データ入力を完成させる。 | 4時間 |
| 第5回 | **研究結果の分析①概要把握**<br>結果をまとめるために必要な情報を単純集計し、単純な表やグラフを完成させる. | グラフや表を作成する | 4時間 |
| 第6回 | **結果の分析②詳細**<br>研究の観点に沿った結果の分析方法を理解し、入力データ等を目的に合わせて分析する。 | 目的に応じた分析を行う | 4時間 |
| 第7回 | **コース中間発表会**<br>各学生が設定した研究課題と研究計画の進捗を、コース発表会で報告し、研究の課題などについて討論する。 | 指導教員や学生がピアレビューを行い、課題を解決するための情報を整理し卒業研究論文の完成に向けて対応策を準備する。 | 4時間 |
| 第8回 | **考察の書き方**<br>例題などを用いて、関連する先行研究と研究結果を比較し、相違点や関連性について、理解する。 | 結果の信頼性や妥当性について要点をまとめる | 4時間 |
| 第9回 | **結論の書き方**<br>研究のまとめと簡潔な主張表現を学ぶ。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第10回 | **研究のまとめ**<br>研究のまとめとして、短く簡潔な要旨を作成する | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第11回 | **研究要旨の校正**<br>適切な表現や、わかりやすいグラフや表を用いて内容の可視化を行う。 | 指導教員の添削指示のもと修正する | 4時間 |
| 第12回 | **研究に関するプレゼンテーションを練る**<br>先行研究を基に研究内容の要点をわかりやすくパワーポイントにする。互いにプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの課題を確認する | 他者のピアレビューをもとに，プレゼンテーションの改善案をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **研究に関するプレゼンテーション**<br>実際にプレゼンテーションを行い、研究の内容や課題について共有する | プレゼンテーションの課題を振返る | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>自身の研究の課題やコース関連領域における発展的な研究課題について理解を深める。 | 要点をまとめて研究取組み全体の復習を行う | 4時間 |

SP-1036-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | ICTⅢ | | | | |
| 担当教員名 | 大山口　雅 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | * | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 医療法人におけるシステム管理業務を担当している。その一環としてレセプトデータをもとに簡単な統計処理作業をするが、その際EXCELのいくつかの機能を利用する。その経験をもとに、目的物の作成のためにどのようにEXCELを使うことができるかを知らせることができる。 | | | | |

**授業概要**

スポーツデータを用いて情報を「見える化」し，統計処理を行い調査するために，表計算アプリであるExcelは有用である．EXCELには多くの機能が実装されており、、この授業では情報処理論・ICT1・ICT2で行ってきた内容に加え統計処理の考え方や関数の利用方法を中心に学ぶ。具体的には，関数によるデータの集計，グラフによる見える化，統計処理等を学ぶ．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | EXCELとPythonの知識 | 授業や自身で調べることでEXCELとPythonで何ができるかを理解する |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | EXCELやPythonを用いた目的の資料作成 | 自身が必要としている資料をEXCELやPythonを用いて作成できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

講義とコンピュータを使った自習を行う

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

提出課題と授業参加度で評価する。期末試験は実施しない予定

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 提出課題 | 70　% | ：　内容に応じて点数化する |
| 授業参加度 | 30　% | ：　受講態度、課題の作成過程、友達へ教えてあげているかなどを総合的に判断 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特に指定しない

**履修上の注意・備考・メッセージ**

14回でやるにはかなりの内容です。一部の内容は紹介程度で終わる可能性があります。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後、メール等であれば随時

**場所**：　授業の教室、メール等であれば問わない

**備考・注意事項：** メールはどのような内容であっても必ず返信します。返信があまりにも来ない（最大2～3日）場合は、再送するか別の手段で連絡してください

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **平均などの値を使ってデータの傾向を知るための基本的な考え方を学ぼう**<br>たくさんあるデータをまとめてひとつの値で代表させ、データ全体の傾向を知るための基本的な考え方を学びます | 基本統計量（代表値）について調査する | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツデータの項目間の関係性を調べよう①　ー散布図を使って対象者の特徴を見える化するー**<br>関連性がありそうな2つのスポーツデータを使って，散布図を作成し対象者の特徴を見える化します．さらに，グループに分類して評価する方法を実践します． | 散布図を使った例を調査する | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツデータの項目間の関係性を調べよう②　ー相関係数を使ってデータ間の関係を数値化するー**<br>関連性がありそうな2つのスポーツデータを使って，前回活用した散布図で扱う2つの計測値から相関係数を算出して，データ同士の関連性を数値化します． | 相関係数について調査する | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツデータの項目間の関係性を調べよう③　ー回帰分析を使ってパフォーマンスを予測するー**<br>関連性がありそうな2つのスポーツデータを使って，その関係性を回帰直線で表します．また，回帰式からパフォーマンスの予測値を算出します． | 回帰分析や回帰式を活用した例を調査する | 4時間 |
| 第5回 | **データの出現確率の基本的な考えについて学ぼう**<br>データの出現割合には一定のモデルがあります。その考え方について学びます | 確率分布（正規分布等）について調査する | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツのスタッツデータの特徴を分析しよう① ープレー回数や人数を関数を使って楽に数えるー**<br>プレーごとに文字列で記録されたスポーツデータから，そのプレー回数をカウントします．カウントを楽に速く行うために有効なCOUNTIF関数を使用する方法を紹介します． | スタッツデータについて調査する | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツのスタッツデータの特徴を分析しよう② ー帯グラフ，円グラフをつかって回数データを見える化するー**<br>カウントされたプレー回数データから，帯グラフや円グラフを使って見える化し，グループごとの特徴を見える化します． | 帯グラフや円グラフの活用例を調査する | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツのスタッツデータの特徴を分析しよう③ ークロス集計表をつかってプレー回数データを集計するー**<br>二つの要素からデータをカウントし集計するクロス集計表を作成します．ピボットテーブルやCOUNTIF関数などを用いて行う方法を紹介します． | クロス集計表について調査する | 4時間 |
| 第9回 | **いくつかのデータからこれらのデータを含む大きな集団についての予測を立てるための考え方と基本的な知識を学ぼう**<br>自分で集めたデータをもとに考察されることが一般的にも当てはまるかどうか。またそれを世間一般の人たちにも納得してもらえるための手法を学びます。 | 統計的推測、区間推定、検定について調査する | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツのスタッツデータの特徴を分析しよう④ ーカイ二乗検定をつかってプレー回数のばらつきを比較するー**<br>プレー回数などの度数データを分析するカイ二乗分析を用いて，回数の大小に有意な差（ばらつき）があるかを検証します． | カイ二乗検定の活用について調査する | 4時間 |
| 第11回 | **平均を計算しグループの差を比較しよう① ー棒グラフや折れ線グラフをつかって差をくらべるー**<br>平均値が得られる２グループのデータを用いて，棒グラフや折れ線グラフを行いてグループ間の差がありそうかを比較します． | 棒グラフや折れ線グラフの活用について調査する | 4時間 |
| 第12回 | **平均を計算しグループの差を比較しよう② ーt検定をつかって２グループの有意差を検証するー**<br>平均値が得られる２グループのデータを用いて，t検定を行い有意な差があるかどうかを検証します． | t検定を用いた研究について調査する | 4時間 |
| 第13回 | **平均を計算しグループの差を比較しよう③ ー分散分析をつかって３グループの有意差を検証するー**<br>平均値が得られる３グループのデータを用いて，1元配置分散分析を行い有意な差があるかどうかを検証します． | 分散分析について調査する | 4時間 |
| 第14回 | **総合演習（時間があれば実施）　ーデータを見える化，統計処理しレポートを作成するー**<br>これまで行ってきたグラフによる見える化や統計処理を用いて，総合課題に取り組みます． | 公開されているスポーツデータについて調査する | 4時間 |

SP-1037-2-1

| 授業科目名 | キャリアデザインⅢ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 清水　克彦 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 在京放送局で報道番組を担当するかたわら就活（インターンシップ、採用面接）担当、他大学でも就活講座を開催。 | | | | |

**授業概要**

キャリアデザインとは、世の中の動きを知ることから始まります。そのうえで「自分はどういう人間なのか」「何が得意（好き）なのか」を把握し、これからの生き方や働き方について考えることがスタートラインになります。担当教員は、在京放送局でキャスターや報道ワイド番組のチーフプロデューサーを務めてきたので、授業の最初に大事な時事問題を概説したうえで、キャリアデザインに関する講義を行います。
１年生の皆さんには、来る就職活動や社会人生活に備え、社会構造の変化を知り自分を知る、そして漠然とではあっても将来像が描けるような授業にしていきたいと思っています。講義前半では、皆さんのこれからの暮らしに関わる時事問題も解説していきますし、論理的な文章の書き方も随時教えるので、積極的な参加を希望します。楽しみながら学んでいきましょう！

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 時事問題解説、リテラシーテスト | 世の中の動きに明るくなる、言語・非言語のリテラシーが身につく |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | ディベートや発表が理由を交えてできる | 思考力と表現力が身につき、自分頭で考え表現できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | ゲスト講師招聘 | 業界に興味関心を抱くことができる |

**学外連携学修**

有り(連携先：キャリア支援課、関西圏企業人事担当（未定））

**授業方法**

・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)
ICT（動画活用、タイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

授業への積極的な姿勢＋課題レポート、発表を総合的に勘案する
教室の後方、左右の壁際のブロックには座らないこと。
私語は禁止、パソコン、スマホ、飲み物の持ち込みは可。ノートを持参し、授業に集中して取り組むこと。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業への参加姿勢 | 10 % | ： | 積極的に参加し、自分の頭で考え言葉にできる |
| 課題レポート | 50 % | ： | 時事問題とキャリアに関する課題に対し、エビデンスを交えて説得力のある文章を書くことができる |
| リテラシーテスト | 40 % | ： | 大手企業への就職に不可欠な言語、非言語に関するリテラシーが一定の水準以上ある |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|

東洋経済新報社　・就職四季報　総合版 2026-2027年版　・東洋経済新報社　・2024　年

**参考文献等**

特になし　※必要な場合に指示したり、オリジナルレジュメを配布する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、一定の授業外学修が求められる。ただ、他科目や部活動にかかる時間を勘案し、予習時間は必要最小限にする。まだ将来像が描けていない学生も多いとは思うが、自分の人生がかかっているととらえ、授業に集中して取り組んでほしい。なお、企業の採用試験では時事問題が問われるケースがあるため、ニュース番組は見ておく習慣をつけてほしい。
中間、期末レポートの再試はしないので、課題レポートもリテラシーテストも、スポーツの重要な大会と同様、「１発勝負」と考え、取り組んでもらいたい。リテラシーテストは６割以上正解することが必須。

教室の後方のブロックおよび両サイドの壁際に座らず中央前方に座ること。なお、ゲスト講師の授業は、ゲストのスケジュールの都合で登壇回が変更になる可能性がある。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業後に受け付ける

**場所**：　主として教室内

**備考・注意事項**：　いつでも呼び止めて質問してほしい

リテラシーテストで正答率が低かった学生は「コモンズ」で指導を受けること。間違えるのは構わないので次に同じような問題で間違えないようにしておくこと。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションと職業レディネス**<br>前期の復習～働き方改革で、就職や就職後のキャリア形成がどう変化しているのかを概観。職業意識を測るためキャリアレディネスも実施予定。 | 前期の復習をしておく | 4時間 |
| 第2回 | **日本人の年収と暮らし**<br>時事問題＋年収分布、現代人とお金　物価高に賃上げが追い付いていない実情や今後の人生でどの程度のお金が必要になるのかを考察 | 日本人の年収と伸びを理解しておく | 4時間 |
| 第3回 | **業界研究①　民間企業の採用担当者によるゲスト講義**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界紹介　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見る、業界について復習しておく | 4時間 |
| 第4回 | **就活のフロー**<br>時事問題＋就活までの流れ　首都圏では２年次から就活モードが高まり、外銀や外コンは早期採用に踏み切っている。最初のキャリア形成となる就活について知る　※場合によってはWebで有識者を結ぶ可能性もあり。 | ニュース番組を見ておく | 4時間 |
| 第5回 | **業界研究②　民間企業の採用担当者によるゲスト講義**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界紹介　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見る、業界について復習する | 4時間 |
| 第6回 | **論理的思考（ロジカルシンキング）と批判的思考（クリティカルシンキング）**<br>時事問題＋ロジカルシンキング、クリティカルシンキング序論⇒本論⇒結論で説得力のある文章を作成して提出 | ニュース番組を見る、文章の書き方を学ぶ | 4時間 |
| 第7回 | **業界研究③　民間企業の採用担当者によるゲスト講義**<br>時事問題＋ゲスト講師による業界紹介　ゲスト講師は所属する企業や組織に関する話だけでなく、業界全体、求める学生像にも言及するので、その視座に学ぶ | ニュース番組を見る、業界について復習する | 4時間 |
| 第8回 | **ストーリーテリング**<br>時事問題＋「スペックよりもストーリー」　自分自身にキャッチコピーをつけてみる、自分の部活動やアルバイト体験から得た学びをストーリーで語ってみる | ニュース番組を見る、ストーリーテリングを復習する | 4時間 |
| 第9回 | **キャリア形成～自己ＰＲ**<br>時事問題＋自己ＰＲ　４００字で自分の強みや良い部分をまとめ発表し提出する | 早期に自己PRを完成させる | 4時間 |
| 第10回 | **キャリア形成～ガクチカ**<br>時事問題＋ここまでの学生時代、もっとも力を入れて取り組んできたこと　４００字で「ガクチカ」をまとめて提出 | 早期に「ガクチカ」を完成させる | 4時間 |
| 第11回 | **キャリア形成～過去最大の挑戦**<br>時事問題～過去最大の挑戦　４００字で「過去最大の挑戦」についてまとめて提出 | 早期に「過去最大の挑戦」を完成させる | 4時間 |
| 第12回 | **キャリア形成～周囲を巻き込んだ経験**<br>時事問題＋誰かを巻き込んで何かを成し遂げた経験　４００字で「誰かを巻き込んで何かを成し遂げた経験」をまとめて提出 | 早期に「周りを巻き込んだ経験」を完成させる | 4時間 |
| 第13回 | **課題レポート** | 授業の復習、『就職四季報』を読み研究しておく | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 時事問題とキャリアに関して、それぞれ４００字程度記述するレポートを実施。教科書に指定した『就職四季報 総合版 2026-2027年版』（東洋経済新報社）、および前期「キャリアデザインⅡ」で指定した２冊の教科書のみ持ち込み可。<br>スマホやパソコンなどは持ち込み禁止。日頃から学習しておくことが単位取得のためには必要。 | | |
| 第14回 | **リテラシーテスト**<br><br>企業の多くが採用試験で課す適性検査。言語と非言語のテストを実施。形式に慣れ、一定の正答率を目指す | 言語、非言語のＳＰＩ 方式に慣れておく | 4時間 |

SP-1039-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **デジタルスキル入門** | | | | |
| 担当教員名 | 高橋　克毅 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

科学技術の進歩やプラットフォームの発展に伴って、学問や実社会において個人に求められるスキルは徐々に変化し、より高度化しています。本授業では、コンピューターを用いた文章作成、データの収集・整理・分析、プレゼンテーションの作成といったデジタルスキルが必要な場において、最新のAI（主に生成AI）技術やデータサイエンスのアプローチを活用する方法を学び、自らの考えを表現できることを目的としています。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | AI・データサイエンスの基礎知識・実践技能 | ・AIやデータサイエンスの意味と価値が理解できる。<br>デジタルスキルが必要とされる場においてAIやデータサイエンスを活用できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | AI・データサイエンスを活用した自己表現 | AIやデータサイエンスを活用して、自らの考えを表現することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT(Excel, Word, PowerPoint, Copilot)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小レポート | 70 % | ： 計14回実施する。指定された内容に従った提出方法・構成・完成度のレポートであるかどうかを各5点満点で評価する。 |
| 授業内発表 | 30 % | ： 計3回実施し、指定された内容に従った構成・完成度の発表であるかどうかを各10点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適宜指定します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

授業には必ずノートパソコンを持参してください。Excel, Word, PowerPoint等の基本的なツールを使用した経験があると望ましいです。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 随時

**場所：** Teamsあるいは授業教室

**備考・注意事項：** 質問はTeamsや授業前後の教室にて随時受け付けます。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **AI・データサイエンスの基礎**<br>AI・データサイエンスの基礎知識・注意点を学ぶ、Copilotを使ってみる | 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第2回 | **情報の収集・要約**<br>Copilotを使った情報収集・要約の方法・注意点を学び、実践する | Copilotの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第3回 | **文章の生成・校正**<br>Copilot・Wordを使った文章生成の方法・注意点を学び、実践する | Copilot・Wordの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第4回 | **文章の翻訳**<br>Copilot・Wordを使った文章翻訳の方法・注意点を学び、実践する | Copilot・Wordの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第5回 | **画像の生成**<br>Copilotを使った画像生成の方法・注意点を学び、実践する | Copilotの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第6回 | **画像の発表**<br>Copilotを使って生成した画像を発表する | 発表の準備をする 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第7回 | **データの収集**<br>Copilot・Excelを使ったデータ収集の方法・注意点を学び、実践する | Copilot・Excelの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第8回 | **データの整理**<br>Copilot・Excelを使ったデータ整理の方法・注意点を学び、実践する | Copilot・Excelの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第9回 | **データの分析**<br>Copilot・Excelを使ったデータ分析の方法・注意点を学び、実践する | Copilot・Excelの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第10回 | **データ分析結果の発表**<br>Copilot・Excelによるデータ分析の結果を発表する | 発表の準備をする 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第11回 | **音声認識・対話**<br>Copilotを使った音声認識・対話の方法・注意点を学び、実践する | Copilotの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第12回 | **プレゼンテーション資料の作成**<br>Copilot・Powerpointを活用したプレゼンテーション資料の作成方法を学び、実際に資料を作成する | Copilot・PowerPointの使い方を予習する 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第13回 | **プレゼンテーション①**<br>Copilot・PowerPointを用いて自らの考えを発表する（受講者全体の半分の人数による発表） | 発表の準備をする 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |
| 第14回 | **プレゼンテーション②**<br>Copilot・PowerPointを用いて自らの考えを発表する（残りの人数による発表） | 発表の準備をする 授業で紹介した内容を復習する | 4時間 |

SP-1040-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **書道** | | | | |
| 担当教員名 | 秀蓮 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 前期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義・実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 1998年より、書師 秀蓮として活動開始。企業の屋号や商品の題字、展示作品を手がける。<br>滋賀銀行「かけはし」/レクサス大津「湖」/日本電気硝子「挑」「開」/平和堂社是/上海日本領事館「桜」等/個展 京都・東京等　多数 | | | | |

**授業概要**

一人のアスリートとして、一人の大学生として、そして一人の人間として、感性「心」の書道と出会い、自分の中に潜在している感性の働きを磨き、決断力や創造力、自我を手放す心を高めてほしい。書を通して、最高の「心」をつかむ体感は、スポーツと変わらないものです。人の目を気にすることなく、自分の中にある燃えるものを表現する感動を味わってほしい。常識とは、自分の知らない他人の考えでしょう。自分の「心」で考え、自分の「手」でものを創り出す。この感動ある経験が、皆さんの人生に少しでも役に立つことを心から願っています。
また、14回の授業を通して、夢に向かう「志」を持ち続けるための、自分にとって"大切な言葉"を考え出すこと。私も毎回授業で、人生の支えとなっている言葉を紹介します。ただ言葉を知識としてもっているだけでは役に立たず、自分の腹におさめてこそ、その言葉は"本物"となります。書を通して導く助けとなりたいです。
最後に、まわりの異なる感性を認め、お互いに笑顔で、あたたかい言葉が漂う教室づくりを育んでいきたいと思います。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 古典の実習 | 「カタチ」だけではなく、その背景やエッセンスを学びとることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 創作 | 単に感性のままではなく、自分の想いを明らかにし、何度も表現をねり直し研ぎ澄ましていくことができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 創作 | 「夢は今を生きる力」。この年齢であるからこそ、真剣に考え抜くことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・その他(以下に概要を記述)
　・創作時は、自分で文字や言葉を考えてくる（自選）。
　・準備、片付け

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　一人一人や全体に対して言葉かけをする。

**成績評価**

**注意事項等**

※感性「心」を評価することはできません。しかし、創作するということは、とても強いエネルギーが必要であり、人と比べて上手い下手ではなく、自分の感性を出すために最大限の努力をしているかどうかは作品に表れています。
また、作品にはその人の心がけ（日常や振り返り）も宿っているものです。聖人君子でなくていい。作品に少しずつ成長が見えるとうれしいです。
私の指導の内省も含め、加味させてください。

| 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---|---|
| 全作品 | ： |
| 100　% | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・恩師　横田無縫先生

**履修上の注意・備考・メッセージ**

私の授業では、2回目より毎回、硯で墨を磨ります。
思い切り書に向かってほしいので、汚れてもよい服装で参加して下さい。
ふり返りシートや、作品記入のため、鉛筆・消しゴムも持参して下さい。
消耗品（墨・紙・ファイルなど）は購入していただきます。※授業内、物品用意します
硯・文鎮・毛せんは、大学で備品として用意して下さいます。

※教材費3,000円程度必要(変動の可能性あり)

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業前後

**場所**：　授業実施教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **【導入】オリエンテーション**<br>・自己紹介<br>・感性「心」の書道-3つの目標<br>・道具の準備<br>※毎回ふり返りシート記入 | 目標を全員で共有する | 4時間 |
| 第2回 | **【導入】書写と書道**<br>・講義＋「言葉は人生を拓く」<br>・実習「課題」<br>※毎回墨を磨る、準備、片付け | 清書提出 | 4時間 |
| 第3回 | **【展開】書写から書道へ**<br>・講義<br>・実習「課題」作品 | 筆のポテンシャルを知る | 4時間 |
| 第4回 | **【展開】表現方法Ⅰ**<br>・講義<br>・技術研究<br>・実習（部分練習） | 感性を表現するための技術を研究し、身につける | 4時間 |
| | ・実習「課題」作品 | | |
| 第6回 | **【展開】表現方法Ⅱ**<br>・講義<br>・技術研究<br>・実習（部分練習） | 感性を表現するための技術を研究し、身につける | 4時間 |
| | ・実習「課題」作品 | | |
| 第8回 | **【展開】板書計画と臨機応変力**<br>・講義と実践（黒板） | 手書きの文字の力を効果的に生かす | 4時間 |
| 第9回 | **【展開】創作トレーニング①**<br>・実習「課題」作品 | 筆のポテンシャルを生かして感性をひらく | 4時間 |
| 第10回 | **【展開】創作トレーニング②**<br>・実習「課題」と「自選」作品 | 固定概念をこわす | 4時間 |
| 第11回 | **【展開】創作**<br>・実習「自選」作品 | ″スポーツと書″想像力と創造力を高める | 4時間 |
| 第12回 | **【まとめ】感性「心」の創作**<br>・熟考<br>・実習（試作） | 信念をもってあるがまま表現開放 | 4時間 |
| | ・実習「自選」作品 | | |
| 第14回 | **【まとめ】「作品鑑賞会」**<br>・作品鑑賞会 | 顔が一人一人違うように、感性「心」も一人一人違うことが、自然の美しさ。自分もまわりも大切に受け入れられると、心のあたたかさを感じる | 4時間 |

SP-1041-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **人間と芸術** | | | | |
| 担当教員名 | **足立　恵理子** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

この授業では、人間や社会と芸術の関わりについて考えます。
普段、何気なく使っている「芸術」という言葉の成り立ちを知ることから出発し、芸術だけでなく日常の暮らしの中にある身近なものへと考察を広げてゆきます。それと同時に、それぞれの事象に潜む歴史的背景を知り、人間および社会と芸術の関わりについて理解を深めていきます。
この授業を通して、受講生はそれぞれの関心に応じて自分自身の専門的な学修課題との接点を発見し、独自のものの見方を養うことができます。
前提知識は特に必要ありません。授業を受けながら身につけていきましょう。
この授業から、日々の生活や創作に生かすことのできるヒントや知識を身に着けてもらえたらと思います。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 人間や社会と芸術の関わりについての知識と理解 | 人間や社会と芸術の関わりについて、歴史的な具体例や様々なジャンルの具体例を通して理解する。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 人間や社会と芸術の関わりについての知識と実践 | 人間社会と芸術の関わりについて授業を通して得た知識を、現代社会に応用できるようになる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・その他(以下に概要を記述)
提出された課題について授業内で適宜コメントします

**成績評価**

**注意事項等**

原則として毎回出席すること。規定回数以上（3分の2以上）の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題 | 50　% | ： | 毎回提出してもらう授業内課題によって、授業への能動的な参加態度、学習内容の理解度を評価する。 |
| 試験（レポート） | 50　% | ： | 14回の授業終了後、授業内容に基づくレポート試験を課す。授業内容を自分なりに消化して自分自身の実践に活かす態度が身についているかどうかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で指示

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間程度の授業外学修が求められる。 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
授業の中では、多くの人名や専門的な用語が出てきます。わからない用語は自主的に調べることで、毎回の授業内容を自分なりに消化し、普段の実践に活用する姿勢を

持ってください。授業ではその都度参考文献を紹介しますので、関心のあるものを読んで、主体的に学んでください。
　また、美術館やアートイベント等に積極的に出かけることで、授業で得た知識を応用してください。実際に作品を見ることによって、現代社会における芸術の役割についての関心が高まります。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　随時対応

**場所**：　メールでの対応

**備考・注意事項**：　担当者は非常勤講師のため、主にメールでの対応

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **人間と芸術**<br>これまで芸術が、人間や社会といかに関わってきたのか。そのことを俯瞰する意義について考えます。各回の概要を伝え、この講義についてのイメージを持つとともに、目的を確認します。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第2回 | **さまざまな芸術**<br>私たちが何気なく使っている「芸術」という言葉の成り立ちについて学びます。絵画・彫刻・建築・音楽・詩など各ジャンルと「芸術」という言葉の対応関係から紐解いてみましょう。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第3回 | **「芸術」概念の成立**<br>前回に引き続き、「芸術」の成り立ちについて理解を深め、現代の私たちの「芸術」への理解と比較してみましょう。「芸術」という言葉が確立した時代に、「芸術」がどのようなものとして考えられていたか学びます。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第4回 | **芸術にまつわる諸概念**<br>前回に引き続き、「芸術」について取り上げます。この言葉が確立した時代の重要概念である「崇高」や「天才」についても学びます。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第5回 | **「様式」からみる西洋美術史**<br>ここまで学んできた「芸術」への理解を踏まえつつ、「様式」という観点から西洋美術史を概観します。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第6回 | **イコノロジー**<br>前回に引き続き、美術史について学びます。今回は「イコノロジー」を取り上げ、絵画を見る視点について学びましょう。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第7回 | **現代アート 分析美学の視点から**<br>デュシャンの「泉」を出発点に、現代アートの成り立ちについて学びます。見方のわからないことの多い現代アートについて理解を深め、自身の鑑賞に役立てましょう。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第8回 | **プラトン前編**<br>2000年以上前の古代の人が「芸術」についてどう考えていたのか。今回はプラトンの思想を取り上げます。私たちの「芸術」についての理解と比較・考察してみましょう。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第9回 | **プラトン後編**<br>前回に引き続き、プラトンについて学びます。今回は「美しさ」についてです。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第10回 | **アリストテレス**<br>前回に引き続き、古代における「芸術」について学びます。今回はアリストテレスの思想を取り上げます。私たちの「芸術」についての理解と比較・考察してみましょう。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第11回 | **プロティノス**<br>前回に引き続き、古代における「芸術」について学びます。今回はプロティノスの思想を取り上げます。私たちの考える「芸術」についての理解と比較・考察してみましょう。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第12回 | **日常美学**<br>今回と次回で、私たちの暮らしの中での美について目を向けます。今回は身近な美しいものに目をむける「日常美学」について学びます。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第13回 | **民藝**<br>ここまで学んできた「芸術」に対抗する形で展開された「民藝運動」について学びます。ここまでの内容を振り返りつつ、日々の暮らしの中の美しいものに目をむける「民藝」への理解から私たちの暮らしへと目を向けましょう。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>「美」「感性」「芸術」という三つの視点からこれまでの内容を振り返ります。 | 配布資料とノートによる該当箇所の復習 | 4時間 |

SP-1042-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **統計学基礎** | | | | |
| 担当教員名 | **關戸啓人・上阪彩香** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本授業では、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムに基づき、社会における統計学の役割を理解し、統計学を通じてデータサイエンスを行う基礎となる知識を獲得することを目指す。統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目標とする。前半では、データの要約や視覚化、相関と因果、回帰を取り上げる。後半では、統計的推定・検定の基礎となる具体的な方法論を学び、それらの意味と意義、特徴と限界を知り、データの分析結果を批判的に見る目を養う。本講義を通じて、社会での実例を含むいくつかの例を用いて理解を深めることで、統計学によって様々な現象を理解する一つの視点を獲得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 日常生活や社会活動で必要とされる統計学への理解を深める。 | データおよびデータの分析結果を批判的に見ることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 日常生活や社会活動で必要とされる統計学の正しいデータの扱い方の基礎を身に付ける。 | データの誤用・悪用を発見できる。<br>検定・推定の考え方を理解し、調査や実験の結果を正しく解釈できる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 統計学による課題解決・課題探索の方法の提案できる。 | 課題解決に当たって、適切な手法を選択するための考え方を身につけること。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

・その他(以下に概要を記述)

ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 70 % | ： 毎回授業の後に、小テストを実施します。 |
| 定期試験 | 30 % | ： 指定した範囲を的確に理解しているかを評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

教養としてのデータサイエンス（内田 誠一 他著、ISBN：978-4-06-523809-7、講談社）2021年
確率・統計入門（小針 アキ宏著、ISBN：9784000051576、岩波書店）1973年
データサイエンスの基礎（浜田 悦生著、ISBN：978-4-06-517000-7、講談社）2019年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

講義資料やその他の資料は適宜配布する。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** 随時

**場所：** メールにて

**備考・注意事項：** 質問は、メールにて受け付けます。メールには必ず氏名と所属を明記してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業に関するガイダンスと社会における統計学・データサイエンスの意義**<br>記述統計と推測統計、社会における統計学及びデータサイエンスの重要性について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **データからの情報抽出（1） 尺度水準、量的データの要約**<br>統計データの分類及び量的データの整理・要約について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第3回 | **データからの情報抽出（2） 質的データの要約**<br>質的データの整理・要約について、具体的な例を挙げて紹介する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **データからの情報抽出（3） データの可視化**<br>データの可視化を取り上げ、適切なデータの見せ方について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第5回 | **データからの情報抽出（4） 変数の変換**<br>標準化などの変数の変換及びその意義について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第6回 | **データからの情報抽出（5） 相関と因果**<br>相関関係と因果関係の違いについて説明し、散布図及び相関係数について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **データからの情報抽出（6） 回帰**<br>回帰直線及び決定係数について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第8回 | **データからの情報抽出（7） まとめと補足**<br>第1回から7回目までのまとめ及び補足を行う。 | 第１回目から7回目までの復習を行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **統計的推測の考え方（1） 推測統計の基礎**<br>標本抽出及び推測統計の基礎的な事項・考え方について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第10回 | **統計的推測の考え方（2） 標本分布と信頼区間**<br>標本分布及び信頼区間について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第11回 | **統計的推測の考え方（3） 統計的検定の基礎**<br>統計的検定の基礎的な事項・手続きについて講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **統計的推測の考え方（4） t検定**<br>対応のないt検定及び対応のあるt検定について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第13回 | **統計的推測の考え方（5） カイ二乗検定**<br>適合度の検定及び独立性の検定について講義する。 | 小テストを受け、講義内容の理解度を確かめ、復習を行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **統計的推測の考え方（6） まとめと補足**<br>第9回から13回目までのまとめ及び補足を行う。 | 第9回目から13回目までの復習を行う。 | 4時間 |

SP-1044-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **機能解剖学** | | | | |
| 担当教員名 | 田中　忍 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

機能解剖学は、身体の動きを筋の働きから科学的に分析する学問であり、各関節や筋の構造から身体がどのように機能しているのかについて学ぶ。関節は、構成する骨の形によって種類と特徴があり、筋の形状や付着部によって、身体の各部位で動きが大きく異なることを理解する。各関節は、可動する範囲がある程度決まっており、この基準に対する過不足は、身体に何かしら問題を引き起こす原因となる。基準と照らし合わせて関節運動を理解し、スポーツ外傷・障害の予防または外傷・障害後の機能回復や、スポーツ動作の改善および向上に役立てるようになることを目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 機能解剖の概要 | 各関節を構成する骨の形状と付着する筋の働きによって、各関節がどのように機能するかを理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 効果的な筋力強化やストレッチングへの応用 | 各関節の動きと可動範囲から、効果的な筋力強化やストレッチングの方法に応用できる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 身体運動・スポーツ動作への応用 | 各関節の運動を身体全体での運動や動作に応用することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）、ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 理解度の評価 | 60　% | ：　第1回から第12回の授業内容について、毎回formsを用いて評価する。 |
| 実践の評価 | 40　% | ：　上肢、体幹・下肢に関する効果的なトレーニングやストレッチングおよびケアの方法への応用について、第13・14回授業時にformsで評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・河野一郎・片寄正樹（監修）、アスレティックとレーナ専門基礎科目テキスト１運動器の機能と構造　スポーツ動作の機能解剖、文光堂、2024年
・中村千秋（翻訳）、身体運動の機能解剖、医道の日本社、2022年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、次回の授業に向けて予習しましょう。

「身体構造と機能」の単位を習得済みであることが望まれます。
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの過程認定に必要な科目です。

授業資料はteams・クラスノートブックで配布しますので、パソコンで受講してください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよび解剖学用語の振り返り**<br>授業の概要を理解し、身体運動を表現する際に必要な解剖学用語（肢位、方向、動き等）について振り返る。 | 解剖学用語を用いて身体運動を表現できるように復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **頭頚部・体幹の関与が大きいスポーツ動作**<br>頭頚部・体幹の関与が大きい代表的なスポーツ動作とその仕組みについて学ぶ。 | 代表的な動作について復習する。 | 4時間 |
| 第3回 | **頭頚部の機能と構造**<br>頭頚部の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 頭頚部の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **体幹の機能と構造**<br>体幹の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 体幹の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **上肢の関与が大きいスポーツ動作**<br>上肢の関与が大きい代表的なスポーツ動作とその仕組みについて学ぶ。 | 代表的な動作について復習する。 | 4時間 |
| 第6回 | **肩甲帯・肩関節・上腕部の機能と構造**<br>肩甲帯・肩関節・上腕部の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 肩甲帯・肩関節・上腕部の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **肘関節・前腕部の機能と構造**<br>肘関節・前腕部の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 肘関節・前腕部の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **手関節・手指の機能と構造**<br>手関節・手指の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 手関節・手指の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **下肢の関与が大きいスポーツ動作**<br>下肢の関与が大きい代表的なスポーツ動作とその仕組みについて学ぶ。 | 代表的な動作について復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **骨盤帯・股関節・大腿部の機能と構造**<br>骨盤帯・股関節・大腿部の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 骨盤帯・股関節・大腿部の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **膝関節の機能と構造**<br>膝関節の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 膝関節の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **下腿部・足関節・足部の機能と構造**<br>下腿部・足関節・足部の運動学の要点、運動に関与する組織、筋の走行と機能、主要なランドマークとその確認について学ぶ。 | 下腿部・足関節・足部の機能と構造についてまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **上肢の動き**<br>上肢の各関節の動きをもとに、複数の関節と筋が関与する上肢の身体運動を理解する。これらをもとに、効果的なエクササイズの方法を理解する。 | 上肢の動き、関与する筋、可動範囲を考慮し、実際にエクササイズを行いながら整理する。 | 4時間 |
| 第14回 | **体幹と下肢の動き**<br>体幹と下肢の動きをもとに、身体全体の関節と筋が関与する身体運動を理解する。これらをもとに、効果的なエクササイズの方法を理解する。 | 体幹と下肢の動き、関与する筋、可動範囲を考慮し、実際にエクササイズを行いながら整理する。 | 4時間 |

SP-1045-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **生命と科学** | | | | |
| 担当教員名 | **中川　宏治** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 地方公務員（林業職）として20年間勤務し、林業振興や環境教育などに従事した。その間、琵琶湖環境科学研究センターにおいて、滋賀県の森林をフィールドとした政策課題研究に6年間携わったほか、ケニア共和国のメルー国立公園において青年海外協力隊（環境教育）のボランティア活動に2年間取り組んだ。 | | | | |

**授業概要**

生命の本質を追求し、生物の多様性や自然環境、人類の健康と平和を守るためには、生命科学の知識を深めることが大切です。また、生命科学の学びは、本学の周囲に広がる豊かな自然や文化に親しんだり、卒業後、さまざまな仕事に従事する中で大いに役立つと考えられます。本授業では、身近な自然環境、特に森林に焦点を当て、人間を含む生物の進化の過程や生態、人間と自然の共存のあり方などについて理解することを目指します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 生命科学の基本的な知識と考え方 | 習得した生命科学の知識をスポーツや学生生活に活かす |
| 2. DP2.知識・技能 | 生命科学の基本的な知識と考え方 | 科学的思考を通して生命を理解できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 生命科学技術と社会との関係に関する考え方 | 科学的思考を通して自然環境の保全に向けた解決策を提案できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各講義終了後の小レポート | 50 % | ： 授業に対する取り組み状況を総合的に評価 |
| 最終レポート | 50 % | ： 授業内容に関する小レポートを課す。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

『現代生命科学』（東京大学生命科学教科書編集委員会編、羊土社）、『生命の大進化40億年史-古生代編』（土屋健著、講談社）、『生命の大進化40億年史-中生代編』（土屋健著、講談社）、『生命の大進化40億年史-新生代編』（土屋健著、講談社）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本学の周囲に広がる豊かな自然や文化に親しみながら、生命科学の知識を深めていきましょう。
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすることを心掛けてください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよび基本概念の導入**<br>授業の概要を説明し、生命の定義や、生命科学の考え方について理解する。 | 身の回りの動植物や微生物について整理し、それらの共通する特徴を調べてみる。 | 4時間 |
| 第2回 | **森、川、湖、海のつながり** | 森林の変化が他の生態系に及ぼす影響について調べてみる。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 森林と河川、湖沼、海洋の各生態系のつながりを理解し、生態系の構造と動態について学ぶ。 | | |
| 第3回 | **森林の生態と分布**<br>森林の生態の特徴と、分布を決める要因について理解を深める。 | 比良山系の森林の分布について調べてみる。 | 4時間 |
| 第4回 | **森林の植物**<br>植物の基本的な知識、生態、進化について理解を深める。 | 自然環境に出かけ、植物に関する発見・気づきをまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **森林の動物**<br>動物の基本的な知識、生態、進化について理解を深める。 | 自然環境に出かけ、動物に関する発見・気づきをまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **森林の昆虫**<br>地球上で最も種数の多い生物である昆虫に注目し、その基本的な知識、生態、進化について理解を深める。 | 自然環境に出かけ、昆虫に関する発見・気づきをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **土壌はどのようにつくられるのか**<br>生態系の構造と動態について、生態系の基盤となる土壌に着目し、その形成過程について理解を深める。 | 土壌動物の種類についてまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **競争する植物**<br>生物間の相互作用について、植物の種間競争を取り上げ、そのメカニズムについて理解を深める。 | 植物の種間競争についてまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **植物と動物の生存戦略**<br>生物間の相互作用について、食物連鎖や擬態などの戦略を理解する。 | 動物の生存戦略についてまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **人間と野生動物の軋轢**<br>森林に生息するツキノワグマおよびニホンジカを事例に、人間と野生動物の軋轢と対策について理解を深める。 | 人間と野生動物の共存について自分の考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **外来種問題とは何か**<br>人間の活動により他の地域から入ってきた外来種に着目し、外来種問題の現状、侵入要因や人間社会に対する影響などについて理解を深める。 | 滋賀県の外来種問題について、特定の種を取り上げ、自分の考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **人間の働きかけで守られる自然環境**<br>大学周辺の身近な里山を事例に、里山の自然の特徴と、人間の働きかけにより保全される生物多様性について理解を深める。 | 人間と里山の自然の共存について自分の考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **宇宙から見た地球環境**<br>現在の地球の森林や湖沼、河川といった生態系や人間による開発の現状についてリモートセンシング技術の成果や文献資料などを用いて概観する。 | 森林生態系について、日本と諸外国の現状を比較し、自分の考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **生命科学の未来**<br>生命科学技術の進歩と社会との関わりについて森林政策に着目し概説し、生命科学の課題と未来について考える。 | 森林の生物多様性を保全していく上での森林政策と生命科学のそれぞれの課題について自分の考えをまとめる。 | 4時間 |

SP-2036-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツとイノベーション** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉　秀和** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 本授業は学外からの特別講師として4回に渡り本学客員教授が授業を担当する。客員教授は多様なスポーツ界の中で世界レベルのアスリートとして活躍し、引退後もスポーツの価値、スポーツそのものを普及させるために活動している。 | | | | |

**授業概要**

本授業はスポーツ学部の必修科目として位置づいており、特に2年次からのコース選択における重要な授業科目となっている。地域社会のスポーツ環境に目を向けながら、日本のプロスポーツ界の現状と未来や教育的観点から見たスポーツの現状と課題など、幅広い内容を取り扱う。特に客員教授の授業を各１回設けており、サッカー、バレーボール（女子）、車椅子バスケットボール、アーティスティックスイミングの専門家からの講義により、より幅広い分野、より深い専門領域への関心意欲を高めることを目的として実施する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツが持つ価値に対する理解課題 | あらゆる立場から見たスポーツ社会の現状と未来について理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ観戦課題 | スポーツ社会の現状を理解した上で、自ら思考して行動に移すことができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツにおける課題整理と提案課題 | スポーツ実践現場を肌で感じ、スポーツの未来に向けた具体的課題について協働して取り組むことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**注意事項等**

本授業は後半部分にフィールドワークを含むため、毎回の授業回とは異なるスケジュールを告知して実施します。
なお、

| 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---|---|
| 授業後の課題レポート | ： 内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックに基づいて評価する |
| 100 % | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業時に随時配布します

**履修上の注意・備考・メッセージ**

アクティブラーニングを通して、スポーツへの興味関心を広げるとともに、自らが進みたいと考えるコース（専門領域）の立場から今後のスポーツ社会について思考します。

課題が課された場合、特に要約などについてはAIを用いて作成する場合がある。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業の概要説明（シラバス紹介、ルーブリックの確認）およびスポーツ学概観**<br>スポーツ学を概観するとともに、本授業の位置付けの観点からスポーツ現場の現在と未来について、可能性を理解する。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **プロスポーツの観点から見たスポーツ界の現状と未来**<br>プロスポーツの観点から見たスポーツ界の現状と未来について、理解を深める。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツ政策の観点から見たスポーツ界の現状と未来**<br>スポーツ政策の観点から見たスポーツ界の現状と未来について、理解を深める。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **学校スポーツの観点からみた現状と未来**<br>学校スポーツの観点からみた現状と未来について、理解を深める。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **エンターテイメント・スポーツの世界**<br>エンターテイメント・スポーツの世界を代表する本学客員教授の奥野史子氏に登壇いただき、スポーツの現状と未来について理解を深める。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **プロサッカー選手がJクラブの経営者になって思うスポーツの世界**<br>これまで日本のサッカー界を牽引してきた元プロサッカー選手であり、現在は株式会社セレッソ大阪の代表取締役社長である本学客員教授の森島寛晃氏に登壇いただき、スポーツの現状と未来について理解を深める。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **「怒らないコーチング」からスポーツを考える**<br>元日本代表女子バレーボール選手であり、現在は「監督は怒ってはいけない大会」を主催している本学客員教授の益子直美氏に登壇いただき、スポーツの現状と未来について理解を深める。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **パラスポーツの普及・発展から考えるスポーツの現状と未来**<br>2000年シドニーパラリンピックでは男子車いすバスケットボール日本代表キャプテンを務めた、本学客員教授の根木慎志氏に登壇いただき、スポーツの現状と未来について理解を深める。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第9, 10, 11回 | **大学スポーツを考える「試合を観戦する」①**<br>実際のスポーツ現場（公式戦）を観戦する中で、それぞれの視点に立って大学スポーツの現状と未来について考える。<br>①観戦する公式戦を選択し、その中でどのような視点で観戦し、何を学びたいかを考える。<br>②実際の試合観戦（①に基づき、試合観戦に出向く）<br>③観戦後に、学んだ点や未来の発展に向けた考えについて、レポートする。<br>授業時間として３コマ分を充当する。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第12, 13, 14回 | **大学スポーツを考える「試合を観戦する」②**<br>実際のスポーツ現場（公式戦）を観戦する中で、それぞれの視点に立って大学スポーツの現状と未来について考える。<br>①観戦する公式戦を選択し、その中でどのような視点で観戦し、何を学びたいかを考える。<br>②実際の試合観戦（①に基づき、試合観戦に出向く）<br>③観戦後に、学んだ点や未来の発展に向けた考えについて、レポートする。<br>授業時間として３コマ分を充当する。 | 授業内に指定されたキーワードに従って、自らの考えをまとめる。 | 4時間 |

SP-2037-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツフィールドワークⅠ** | | | | |
| 担当教員名 | **黒須・中道・清水・各コース教員** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | オリンピック・パラリンピックの現場において、指導者やスタッフとして活躍の経験を持つ教員等が含まれている。 | | | | |

**授業概要**

スポーツ現場において、さまざまな志向性を持ってスポーツを「する」人の立場に立ち、その人の生きがいや幸福（well-being）に関するニーズの現状や課題をフィールドワークを通じて、実践的に理解する。また、この課題解決に対して、自らが専攻するコースの学問領域がどのように貢献できるのかを学ぶことをねらいとする。
2025年度においては、10月24～27日（公開練習含む）に滋賀県で開催される「第24回全国障害者スポーツ大会」をフィールドとし、「選手団サポーター」として活動する。具体的には、大会に参加する選手が快適な環境のもとで競技を行うことができるよう、大会実施本部員（滋賀県職員）と協働し、案内、介助、誘導等のサポートを行い、大会運営の円滑化を図るとともに、選手との交流を通じて、大会を一緒に盛り上げる等の活動を行う。これらを通じて、大会運営や競技のあり方、選手について、各コースで設定された観点からの理解を深め、自らが専攻するコースでの学びにどのようにつなげていけるかを考える。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 課題やニーズの発見 | スポーツ現場で生じる課題やニーズを積極的に発見しようとすることができる |
| 2. DP2.知識・技能 | ささえるスポーツに関する知識 | 社会がスポーツに求めるニーズや課題に関する知識を習得することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 解決策の提案 | 社会がスポーツに求めるニーズや課題を理解したうえで、よりよい解決策を自分なりに提案し、表現することができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | ささえるスポーツの推進 | フィールドワーク先で関係する人と人間関係を構築しながら、主体的に、ささえるを含む広義のスポーツ活動を推進しようとすることができる |

**学外連携学修**

有り(連携先：滋賀県（全国障害者スポーツ大会）＿自治体、NPOの理解および地域・社会の理解)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**注意事項等**

授業はフィールドワークを中心に展開するため、通常の授業時間とは異なるスケジュールで行われます

| 成績評価の方法・評価の割合 | 評価の基準 |
|---|---|
| 授業後の課題レポート | ： 内容の妥当性と論理性について、独自のルーブリックにもとづいて評価する |
| 100 % | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業時に適宜配布します

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、毎回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業全体のガイダンス、第24回全国障害者スポーツ大会（わたSHIGA輝く障スポ）とは**<br>授業の全体像について理解する。<br>第24回全国障害者スポーツ大会（以下、わたSHIGA輝く障スポ）の全体像（大会目的、実施競技等）について、理解を深める。 | わたSHIGA輝く障スポについて、授業前に配信された資料に十分に目を通しておく。授業後は、理解を深めた内容をレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **パラスポーツ現場を学ぶ①（水泳・卓球）（外部講師）**<br>パラ水泳およびパラバレーボールの競技特徴や背景、選手理解、サポートの実態について、理解を深める。 | パラ水泳およびパラバレーボールについて、授業前に配信された資料に十分に目を通しておく。授業後は、理解を深めた内容をレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **パラスポーツ現場を学ぶ②（卓球・ソフトボール）（外部講師）**<br>パラ卓球およびパラソフトボールの競技特徴や背景、選手理解、サポートの実態について、理解を深める。 | パラ卓球およびパラソフトボールについて、授業前に配信された資料に十分に目を通しておく。授業後は、理解を深めた内容をレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第4回 | **障スポ直前のガイダンス、選手団サポーターとは**<br>わたSHIGA輝く障スポに参加する選手および役員の案内・介助・誘導等のサポートを行い、円滑な大会運営に協力する学生ボランティアとしての役割等について、理解を深める。 | 選手団サポーターについて、授業前に配信された資料に十分に目を通しておく。授業後は、理解を深めた内容をレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第5回 | **フィールドワーク①（公式練習①：選手理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（公式練習）に選手団サポーターとして参加し、公式練習に臨む選手について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク①について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **フィールドワーク②（公式練習②：競技理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（公式練習）に選手団サポーターとして参加し、担当する選手団が取り組む競技について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク②について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **フィールドワーク③（大会1日目①：選手理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（1日目）に選手団サポーターとして参加し、大会に臨む選手について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク③について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第8回 | **フィールドワーク④（大会1日目②：競技理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（1日目）に選手団サポーターとして参加し、各競技について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク④について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **フィールドワーク⑤（大会1日目③：大会理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（1日目）に選手団サポーターとして参加し、大会運営等について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク⑤について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第10回 | **フィールドワーク⑥（大会2日目①：選手理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（2日目）に選手団サポーターとして参加し、大会に臨む選手について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク⑥について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第11回 | **フィールドワーク⑦（大会2日目②：競技理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（2日目）に選手団サポーターとして参加し、各競技について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク⑦について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第12回 | **フィールドワーク⑧（大会2日目③：大会理解）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（2日目）に選手団サポーターとして参加し、大会運営等について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク⑧について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第13回 | **フィールドワーク⑨（閉会式）**<br>わたSHIGA輝く障スポ（閉会式）に選手団サポーターとして参加し、閉会式について、各コースで定められた観点にもとづき、実践的理解を深める。 | フィールドワーク⑨について、レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第14回 | **わたSHIGA輝く障スポ振り返り、まとめ**<br>わたSHIGA輝く障スポ（フィールドワーク①～⑨）を振り返りながら、今回のフィールドワークに学んだスポーツの現状や課題を整理し、自らが専攻するコースでの学びにどのように活かしていけるのかについて、考える。 | 総括レポートをまとめる。 | 1時間 |

SP-2039-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ゲームパフォーマンス分析概論** | | | | |
| 担当教員名 | **山田・玉城** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 山田庸教授は2006年より7年間プロサッカークラブにコーチとして在籍しゲームパフォーマンス分析を経験してきた経験がある．また，玉城講師は2010年からプロバスケットぼるクラブにコーチとして従事し，以後ユニバーシティーゲームズバスケットボール女子日本代表チーム アシスタントコーチとして分析を経験している．

**授業概要**

主に球技においてデータや動画などを用いて行うゲームパフォーマンス分析はコーチングの効率化や試合のパフォーマンス向上のために有益な手法である．近年では，データを集計し分析するテクノロジーが発達しスポーツアナリストがプロクラブや代表チームに在籍し活躍するなど発展を続けている．本講義では，スポーツパフォーマンス分析の祖ともいえるオドノヒューの著書をベースに，実践例を交えながらゲームパフォーマンス分析を概観する．できるだけ初めての学生にもわかりやすく分析事例，映像，データを交えながら学習し，分析の体験と通じて理解を深める．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | ゲームパフォーマンス分析に対する関心・意欲 | ゲームパフォーマンス分析に対する関心・意欲が芽生え，スポーツのパフォーマンス分析への理解が高まる |
| 2. DP2.知識・技能 | ゲームパフォーマンス分析の知識と分析に関するスキル | ゲームパフォーマンス分析の知識と分析に関するスキルが高まる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | ゲームパフォーマンス分析のデータに対する適切な分析による意思決定とフィードバックの表現 | ゲームパフォーマンス分析が行え，データに対する適切な分析による意思決定とフィードバックを作成し表現できる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | ゲームパフォーマンス分析の課題に対し必要なデータやスキルを自ら調査し課題を解決する態度と行動 | ゲームパフォーマンス分析の課題に対し必要なデータやスキルを自ら調査し課題を解決する態度と行動がとれる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・eラーニング、反転授業

ICT（タッチタイピング），ICT（Excel），ICT（動画活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の課題や小レポート | 100 % | ： その回の授業内容を正しく理解したうえで，適切な文字数，適切な回答ができているか否か．文字数や内容に不足がないか． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツパフォーマンス分析入門　ピーター・オドノヒュー　著　大修館書店
スポーツパフォーマンス分析への招待　橘肇　著　ブックハウスHD
モチベーションビデオがスポーツ集団の集団効力感に与える影響　永尾雄一　著　九州大学博士論文
https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/1441015/hues321.pdf

**履修上の注意・備考・メッセージ**

毎回パソコンでのタッチタイピングレポートを課すので，パソコンを必ず持参すること．
大人数で分析の体験を行うので，実施する際は主体的に行動すること．

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ゲームパフォーマンス分析とは**<br>本講義の全体を俯瞰し，各回で行う学習内容を概観する．また，スポーツパフォーマンス分析とは何か，その方法と目的を概観する | 身近なスポーツのスタッツを調査する | 4時間 |
| 第2回 | **記述的ゲームパフォーマンス分析の実際**<br>プレーを記録する記述分析は現在分析ツールを用いて実行されることが多い．早くから記述分析が発展してきたネット型球技のバドミントンを例に，紙とペンを用いて記述分析を実施しその仕組みを体感する． | オリンピックなどのバドミントンの試合動画を視聴しルールやプレーの流れを理解する | 4時間 |
| 第3回 | **質的分析と量的分析**<br>スポーツパフォーマンス分析は，質的分析と量的分析に二分される．今回はおもに動作の内容に着眼し，動画や観察を中心に行われる質的分析と，トラッキングやバイオメカニクスなどから得られる量的分析について学習し議論する． | スポーツのプレーを解説している動画を検索しキーファクターを探索する | 4時間 |
| 第4回 | **専用アプリによるパフォーマンス分析**<br>トップアスリートに限らず近年では地域のクラブや部活動においても記述分析と動画編集を同時に行うアプリケーションが活用されている．ダートフィッシュ，Sportscodeといったアプリケーションについてその機能を学び得られる情報から分析を体験する． | パフォーマンス分析アプリのホームページや関連サイトを検索し活用事例を探索する | 4時間 |
| 第5回 | **情報のフィードバック①**<br>パフォーマンス分析の結果，選手やコーチに伝えること＝フィードバックをどのように行うが重要である．そもそもフィードバックとは何かを学習するとともに，フィードバックの方法を中心にスポーツ現場ではどのように行われているのか具体例を学習する． | スポーツのデータ分析サイトを検索し調査する | 4時間 |
| 第6回 | **情報のフィードバック②**<br>データの取得が比較的容易になった昨今，データが多くあふれている現状がある．「何を」「なぜ」「誰が」「どこで」「いつ」「どのように」伝えるのか，情報の取捨選択について，各種スポーツを題材に議論する | スポーツのスタッツまとめサイトを探索し重要な情報を調査する | 4時間 |
| 第7回 | **リアルタイム分析**<br>ダートフィッシュなどのアプリでは試合中の映像を録画しながらスタッツを取り即座に再生するリアルタイム分析機能がある．ここではリアルタイム分析の方法とめりとと | リアルタイム分析に関する情報を検索しまとめる | 4時間 |
| 第8回 | **熟達者のブレインモデル　ーテキストマイニングの活用ー**<br>パフォーマンスの質的分析には，プレーの感覚やキーファクターをテキストデータにすることで整理される．ブレインモデル®の事例を紹介したうえで，それぞれのスポーツに必要な | テキストマイニングの無料ツールを検索しWEB記事のテキストデータを分析する | 4時間 |
| 第9回 | **スポーツパフォーマンスのデータと情報**<br>スポーツのデータには，数字の情報量によって種類がある．また，スポーツのアクションによって計測されるパフォーマンス指標が，本当に妥当なものかどうか，または信頼できるものかどうか，検証する必要がある．データの尺度とパフォーマンス指標，アクション変数を中心に，スポーツの指標について学習し議論する． | 信頼性と妥当性についてスポーツの論文を検索し調査する． | 4時間 |
| 第10回 | **タイムモーション分析**<br>GPS装置の発達と普及によって走行距離やスプリント数などを計測するタイムモーション分析が発展している．実測したデータをもとにタイムモーション分析を学習しデータの加工とフィードバックを試行する． | タイムモーション分析を行っている論文を検索し調査する | 4時間 |
| 第11回 | **分析システムの開発**<br>分析システムの開発ゲームパフォーマンス分析を行う前に，コーチや選手といったユーザーがほしい要求に沿った指標を決定し，効率の良いデータ収集と報告を行う分析システムを構築する必要がある．試合システムの要求分析（ニードアナリシス）とシステムの設計・リニューアルいったガイドラインについて学習し議論する． | 興味のあるスポーツのルールを調査しプレーを分解して図示する | 4時間 |
| 第12回 | **ゲームパフォーマンス分析の事例①　サッカー**<br>サッカーのゲームパフォーマンス分析は動画のタギングとプレースタッツの収集が行われている．主に活用されている対戦相手及び自チームのハイライト動画，ワールドカップで示されている各種指標について学習し，分析システムBepro11にて観測されたデータに基づき分析を試行する． | サッカーのスタッツサイトを探索し調査する | 4時間 |
| 第13回 | **モチベーションビデオ**<br>選手のプレー集動画や印象的なイベントのスナップショット，感傷的な音楽を加えたモチベーションビデオはスポーツパフォーマンスのフィードバック方法である．アナリスト永井氏の博士論文をもとに，モチベーションビデオの構成と効果について学習する． | 永井雄一氏のモチベーションビデオに関する博士論文を一読する | 4時間 |
| 第14回 | **ゲームパフォーマンス分析の事例②　バスケットボール** | バスケットボールの公開スタッツや公開映像を調査する | 4時間 |

| | | |
|---|---|---|
| バスケットボールのゲームパフォーマンス分析は，ボックススコアと呼ばれるスタッツとプレーの動画を活用して行われている．プロクラブなどで用いられている分析方法について学習する． | | |

SP-2041-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ヨガ・ピラティス** | | | | |
| 担当教員名 | **山本　かなえ** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

ヨガ・ピラティスの考えに基づいた呼吸法や骨・関節の動作的性質を自ら動いて理解し、自己のコンディション調整や対象者に対するコンディションを整える方法を習得。目的に応じた運動を提供でき、対象者を観察し修正ができるプレゼンテーション能力を養う力を身につける。※ヨガ・ピラティスの要素を取り入れたA-yogaの考えを元に授業を展開します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 人の身体に対する知識を身につける | 骨や関節の動作的性質を理解し、授業で学んだことがアウトプットできるようになる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | ヨガ・ピラティスの動きを通して自分自身の身体の癖に気づく(歪み・不調) | 様々な動作や呼吸法による調整法(コンディショニング)を学び、自己を調整する知識を身につけ、対象者に伝える能力を身につけることができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 対象者に対して、競技・パフォーマンスに必要な動きや自己の思い・考えを伝える能力を身につける | アスリートから高齢者など様々な対象者に必要な動きが提供でる多様性を身につけ、個々の現場で実践ができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題 | 60 % | ： 毎時のパフォーマンスもしくは毎時の授業外課題への取り組みを60点満点で評価する。 |
| レポート | 20 % | ： 課題レポートの内容から理解度を評価する。 |
| 発表 | 20 % | ： 発表した内容から理解度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

A-yoga　アスリート進化論　山本邦子著　発売：扶桑社

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項：**　基本的に対面とする

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ＹＯＧＡ(A-yoga)の概念**<br>ヨガとピラティスの要素を含むA-yogaの基本の動きを習得・授業計画、到達目標を知る | ヨガ・ピラティスの歴史を調べ実際に動いてみる。 | 1時間 |
| 第2回 | **姿勢チェック方法**<br>姿勢を調整する際の軸のとり方、体重の乗せ方や身体のどの部分をみるのか？など、自己の身体を知って対象者の身体がみれるようになる。 | 自己の姿勢を観察。正面・右横・左横・後ろからをチェック。写真に撮ることを推奨。見返しながら自己評価 | 1時間 |
| 第3回 | **足元(土台)の調整法と安定を知る**<br>立ち方(姿勢)の土台となる足の構造や足元のどこに意識を向けることで姿勢が安定し、スポーツの場面にもつながるのかを知る。 | 足の骨・関節について調べる | 1時間 |
| 第4回 | **呼吸に関係する筋・関節・骨を知る**<br>呼吸時に必要な骨・関節・筋肉を知り、自ら動いて連動を体感。得た知識を元に自己や対象者の呼吸状態がみれるようになる。 | 呼吸に関係する筋肉についてまとめる | 1時間 |
| 第5回 | **呼吸と自律神経の関係**<br>呼吸と心拍の関係を知り、ヨガでおこなわれている様々な呼吸法を知る。姿勢や足と呼吸の連動を知ることで自己の調整につなげる。 | 自律神経について調べ、まとめる | 1時間 |
| 第6回 | **運動面と運動軸**<br>矢状面・前額面・水平面それぞれの動きを知り、動作の組み合わせを考える。日常の動作やスポーツとの関連性を学び、自己の日常動作、スポーツにつながる動きを知る。 | 運動面・運動軸を調べ、自己の日常やスポーツとのつながりをまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **足部～骨盤帯について(下肢)**<br>足元～膝～骨盤の骨や関節位置の調整から筋の緊張・弛緩について学び、足元の可動性と安定性について学ぶ。 | 股間節と自己の日常動作やスポーツとの関係性についてまとめる。 | 1時間 |
| 第8回 | **骨盤帯～脊柱について**<br>骨盤から脊柱の骨や関節位置の調整から筋の緊張・弛緩について学び、足元から骨盤帯、脊柱の可動性と安定性について学ぶ。 | 脊柱の骨、関節、筋肉を調べ、自己の日常動作やスポーツとの関係性をまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **脊柱～肩甲骨・肩関節について**<br>脊柱から胸郭、肩甲骨、肩関節位置の調整から筋の緊張・弛緩について学び、足元から脊柱、肩関節の可動性と安定性について知る。 | 胸郭・肩甲骨と自己の日常生活やスポーツとの関係性についてまとめる。 | 1時間 |
| 第10回 | **動作の組み立て①**<br>計画・構成。スポーツにつながる動作やコンディショニングにつながる動きを自己や対象者のスポーツや日常につながる内容を習得。 | 日常生活での座る・立つ・歩く動作分析。レポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第11回 | **動作の組み立て②**<br>発表に向けて伝える練習。コーチングの要素を取り入れ、自ら設定した目標に向かって動きを組み立てる練習。 | 伝える練習をして成果と課題をレポートにまとめる。 | 1時間 |
| 第12回 | **発表①**<br>５人ずつのグループにわかれて、１人１５分間で学んできたことを発表する。<br>グループレッスンの実践と効果について | 個人でおこなう運動と複数やグループでおこなう運動の特長、違いをまとめる | 1時間 |
| 第13回 | **発表②**<br>１２回目と同じく学んできたことの発表。受ける側はレポート記入<br>マンツーマンセッションの実践と効果について | 物事を誰かに伝える際に必要な要素や注意点などまとめる。 | 1時間 |
| 第14回 | **まとめ**<br>自己の日常生活やスポーツの場面で授業の内容がどのようにつながってくるのかをディスカッション | これまでの授業を振り返り学んだことをレポートとしてまとめてくる | 1時間 |

SP-2043-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **トレーニング** | | | | |
| 担当教員名 | **渡邊　裕也** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実技 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 明治安田厚生事業団研究員、NPO法人京都運動器障害予防研究会理事として従事してきた一般の人々（子ども、勤労者、高齢者）の健康維持、増進につながる活動やアスリートのサポートといった実践経験を講義内容に活用している。 | | | | |

**授業概要**

何でも便利で効率的な21世紀の人間社会は，人々にとって住みよい世界であることに疑いはない．しかしながらが，「運動をしない」あるいは「できない環境」が原因で生じる健康問題が山積している．そのような中で，健康やその基盤となる体力の維持・向上を目的として行うフィットネスに大きな注目が集まっている．本授業では，幅広い人々を対象としたトレーニングに着目し，各種体力の維持・向上を目的とするトレーニングの基礎的知識および技術の習得を目指す．身体組成を改善するエクササイズ，筋力・筋パワーを向上させるレジスタンスエクササイズ，全身持久力を向上させるエクササイズを取り扱う．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | トレーニングの意義の理解 | 自身の健康づくりや体力づくりを実践することができるようになる． |
| 2. DP2.知識・技能 | 体力要素に応じたトレーニングの理解 | 各種体力要素の維持・向上を目的として行うトレーニングの基本を理解する． |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 各種トレーニングの基礎的理解 | アスリートから高齢者まで幅広い対象に適応可能な運動の基礎的な知識を習得する． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

成績は，毎回の課題と期末レポートにより評価する．

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の課題 | 50 % | ： 各回の理解度を確認し，評価する． |
| 期末レポート | 50 % | ： トレーニングの意義を正確に理解しているかを評価する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

健康・体力づくり事業財団「健康運動実践指導者養成テキスト」
NSCA「ストレングストレーニング&コンディショニング（第4版）」

**履修上の注意・備考・メッセージ**

授業資料があればTeamsを通じて配信します．
本科目は1単位科目であり，毎回1時間程度の授業外学修が必要です．「授業外学修課題」に取り組むことに加え，授業で取り扱った内容を丁寧に復習してください．また，必要に応じて次回の授業の予習をしてください．

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびトレーニング室の利用方法の確認**<br><br>授業の概要を説明するとともに，トレーニング室の利用方法を確認する．あわせて，体力を高く保つことがスポーツパフォーマンスのみならず，健康維持，増進にもつながることを理解する． | 安全なトレーニングルーム利用のポイントを復習する． | 1時間 |
| 第2回 | **トレーニング機器を使ったエクササイズ①下肢の種目**<br><br>運動生理学の内容（レジスタンスエクササイズの基礎）を確認し，トレーニング機器（マシン）を使ったエクササイズを行う．下肢の種目を中心に説明する． | 下肢のマシントレーニングの特性や主働筋を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第3回 | **トレーニング機器を使ったエクササイズ②胸部と肩部の種目**<br><br>運動生理学の内容（トレーニングの原理・原則）を確認し，トレーニング機器（マシン）を使ったエクササイズを行う．胸部，肩部の種目を中心に説明する． | 胸部と肩部の各種マシントレーニングの特性や主働筋を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第4回 | **トレーニング機器を使ったエクササイズ③背部と腕部の種目**<br><br>運動生理学の内容（筋の活動様式）を確認し，トレーニング機器（マシン）を使ったエクササイズを行う．背部，腕部の種目を中心に説明する． | 背部と腕部のマシントレーニングの特性や主働筋を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第5回 | **トレーニング機器を使ったエクササイズ④体幹の種目**<br><br>運動生理学の内容（運動単位）を確認し，トレーニング機器（マシン）を使ったエクササイズを行う．体幹の種目を中心に説明する． | 体幹のマシントレーニングの特性や主働筋を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第6回 | **フリーウエイトの基礎①下肢の種目**<br><br>フリーウエイトの概要を確認し，スクワットを中心とした下肢の種目の実施方法を学ぶ．適切なフォームの習得を目指す． | 下肢のフリーウエイト種目の特性や主働筋を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第7回 | **フリーウエイトの基礎②胸部の種目**<br><br>ベンチプレスを中心とした上肢の種目の実施方法を学ぶ．適切なフォームの習得を目指す． | 胸部のフリーウエイト種目の特性や主働筋を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第8回 | **フリーウエイトの基礎③背部の種目**<br><br>ベントオーバーローを中心とした上肢の種目の実施方法を学ぶ．適切なフォームの習得を目指す． | 背部のフリーウエイト種目の特性や主働筋を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第9回 | **パワートレーニング①クイックリフト**<br><br>爆発的な力発揮能力の強化に必要なパワートレーニングの実施方法を学ぶ．ハングクリーンなどのクイックリフトを中心に説明する． | クイックリフトの特性を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第10回 | **パワートレーニング②プライオメトリクス**<br><br>爆発的な力発揮能力の強化に必要なパワートレーニングの実施方法を学ぶ．ドロップジャンプなどのプライオメトリクスを中心に説明する． | プライオメトリクスの特性を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第11回 | **パワートレーニング③その他**<br><br>爆発的な力発揮能力の強化に必要なパワートレーニングの実施方法を学ぶ．クイックリフトやプライオメトリクス以外の内容を実施する． | その他のパワートレーニングの特性を理解し，基本姿勢と動作を復習する． | 1時間 |
| 第12回 | **マシンを使わないレジスタンストレーニング**<br><br>いつでも，どこでも実施可能なエクササイズの意義を再確認するとともに，実施方法を学ぶ． | 自体重やゴムバンドなどを利用したエクササイズの特性を理解する． | 1時間 |
| 第13回 | **サーキットトレーニング**<br><br>多種目のエクササイズを連続的に行うサーキットの意義と実施方法を学ぶ． | サーキットトレーニングの目的や効果について，理解を深める． | 1時間 |
| 第14回 | **多様なトレーニング**<br><br>授業を通じて実施してきた多様なトレーニングについて整理する． | スポーツパフォーマンスの向上だけでなく健康維持，増進に寄与するトレーニングについての理解を深める． | 4時間 |

SP-3104-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **競技スポーツトレーニング論** | | | | |
| 担当教員名 | **渋谷　俊浩** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷俊浩（全14回）：日本スポーツ協会公認コーチ（コーチ4：陸上競技）・同協会コーチデベロッパーの資格および実業団・大学での指導経験を活かし、受講生が競技力向上に必要な知識・技能を習得できるようサポートします。 | | | | |

**授業概要**

近年、アスリートの競技力は目覚ましい向上を見せており、コーチ・指導者にとってはこれらをサポートしアスリートの目標達成を促すことは非常に重要な使命・役割とされています。
そこで本授業では、受講生自身がこれまでに実践してきたトレーニングについて、諸種のトレーニングの基礎理論をふまえながら振り返り（トレーニング再考）、今後さらに多様化・複雑化する競技スポーツの現場において論理的かつ柔軟なコーチング・指導が実践できる力を養うことを目的とします。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | トレーニングの基礎理論の理解 | 競技力向上に必要なトレーニングに関する基礎理論を理解し、競技スポーツの現場で実践することができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 競技スポーツの現場における課題発見能力および課題解決能力の習得 | 競技スポーツのトレーニング現場に存在する様々な課題を抽出し、適切な解決方法を提案・実施することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内課題（ミニレポート等） | 30 % | ： 授業内容（専門用語等）が正しく理解できているかを評価します。 |
| 理解度確認レポート（前半） | 20 % | ： 前半の授業内容をふまえたうえで、与えられたテーマについて自身の実践例や具体例を挙げて、自身の考えを論述できているかを評価します。 |
| 種目別課題発表 | 20 % | ： 授業内容をふまえたうえで、自身の専門種目について実践例や具体例を挙げて、自身の考えをわかりやすく発表できているかを評価します。 |
| 最終課題レポート | 30 % | ： 全授業内容をふまえたうえで、与えられたテーマについて自身の考えを具体的かつ論理的に述べているかを評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・Reference Book ㈶日本スポーツ協会
・競技力向上のトレーニング戦略 テューダー・ボンパ著、尾縣貢・青山清英監訳
・コーチング学への招待　日本コーチング学会編集

・陸上競技のコーチング学 日本陸上競技学会

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。
また、受講生の皆さん各々がこれまで実践してきた「トレーニング」を振り返るために、「練習日誌」や「トレーニング記録」「○○ノート」などが重要な資料となります。ぜひ、授業に持参してください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業後

**場所**： 授業教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション・競技スポーツトレーニングの基礎**<br>授業概要・到達目標等を確認し、競技スポーツおよびそのトレーニングの現状について理解する。また、今後の授業で必要となる資料の準備をする。 | 競技スポーツ及び競技力向上のためのトレーニングの現状をまとめておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **トレーニングの基礎理論：競技力向上とトレーニング・トレーニングの種類**<br>アスリートの競技力向上とトレーニングの関係性について、またトレーニングの基礎理論（トレーニングの種類）について理解する。 | 授業内で紹介されたトレーニングの基礎論について実践例をいくつか挙げておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **トレーニングの基礎理論：競技カレンダーの把握**<br>トレーニングについて検討を加えていくために、まず自身の専門種目の競技カレンダーを把握しておくことが重要であることを理解する。 | 中央競技団体HP等を参考に、自身及び専門種目の競技カレンダーを把握しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **トレーニングの基礎理論：トレーニングの原理・原則**<br>自身および専門種目にとってより適切なトレーニングを検討するために、その根拠となる基礎理論「トレーニングの原理・原則」について理解する。 | 授業内で紹介されたトレーニングの基礎論について実践例をいくつか挙げておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **トレーニングの基礎理論：ピリオダイゼーション理論の概観**<br>自身および専門種目にとってより適切なトレーニングを検討するために、その根拠となる基礎理論「ピリオダイゼーション理論」について理解する。 | 授業内で紹介されたトレーニングの基礎論について実践例をいくつか挙げておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **トレーニングの基礎理論：トレーニングの原理・原則、ピリオダイゼーション理論の実際**<br>トレーニングの原理・原則およびピリオダイゼーション理論が実際のトレーニング現場でどのように反映されているのかを理解し、自身が実践してきたトレーニングと比較検討する。<br>加えて、トレーニングと回復・休息の関係性について理解する。 | 授業内で紹介されたトレーニングの基礎論が、自身が実践してきたトレーニングにどのように反映されているか検討しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **前半の理解度評価：中間課題作成**<br>前半授業内容をふまえ、自身がこれまで実践してきたトレーニングにおける課題・問題を抽出し、その改善・解決法を検討する。 | 授業を通じて明らかになった自身及び専門種目の課題とその解決法をまとめておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **トレーニングの基礎理論：体力トレーニングの手段・方法**<br>自身および専門種目にとってより適切なトレーニングを検討するために、その根拠となる基礎理論「体力トレーニングの手段・方法」について理解する。 | 授業内で紹介されたトレーニングの基礎論が、自身が実践してきたトレーニングにどのように反映されているか検討しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **トレーニングの基礎理論：技術トレーニングの手段・方法**<br>自身および専門種目にとってより適切なトレーニングを検討するために、その根拠となる基礎理論「技術トレーニングの手段・方法」について理解する。 | 授業内で紹介されたトレーニングの基礎論が、自身が実践してきたトレーニングにどのように反映されているか検討しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **トレーニング再考：アスリート・専門種目の実践例と自身のトレーニングの比較検討**<br>アスリートや専門種目におけるトレーニングの実践例を概観することで、自身のトレーニングを再考するためのデータ・情報等を把握する。加えて、「練習日誌」「トレーニングノート」等から自身のこれまでのトレーニングを振り返り、実践例と比較検討することで、これまでの授業の成果をふまえて自身のトレーニングを再考する。 | 授業で紹介された実践例と自身の実践を比較検討しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **トレーニング計画立案の基礎：関連諸理論の把握、長期・中期トレーニング計画の立案**<br>自身および専門種目のトレーニング計画を立案するために参考となる関連諸理論について理解したうえで、競技カレンダーの把握等のこれまでの授業内容をふまえ、グループワークで自身および専門種目の「長期・中期トレーニング計画」を立案する。 | トレーニング計画立案に参考となる諸理論の概要をまとめておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **長期・中期トレーニング計画の立案・発表** | 中・長期計画を図示しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | グループワークで自身および専門種目の「長期・中期トレーニング計画」を立案し、グループごとに発表することで新たな気付き・知見を得、トレーニング計画に改善を加える。 | | |
| 第13回 | **長期・中期トレーニング計画の発表・ディスカッション**<br><br>グループワークで作成した「長期・中期トレーニング計画」を発表する。さらに、ディスカッションを通じて新たな気付き・知見を得ることで、トレーニング計画に改善を加える。 | 他グループの発表等を参考に、自身及びグループの資料を精査しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ：最終課題「短期トレーニング計画」の立案**<br><br>授業で習得した知識・技能を活用し、自身および専門種目の次年度の活躍・競技力向上に向けて今年度冬期に実践する「短期トレーニング計画」を立案する。 | 今年度冬期に実践する短期計画を図示しておく。 | 4時間 |

SP-3105-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **グッドコーチング論Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **北村　哲** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 北村哲：日本テニス協会JTAアカデミー委員会委員として指導者養成および日本スポーツ協会コーチデベロッパーとして公認コーチ養成に関わっている実務経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

コーチは、スポーツの意義と価値を理解した上でスポーツとは何かを、何のためにスポーツ指導をしているのかを常に自分自身に問いかけ、成長し続ける必要がある（文部科学省，2018）。成長し続けられるコーチ、どの時代においても良いコーチと認知されるために必要な事項は多岐にわたる。本授業科目では、プレーヤーの未来に関わる指導者の思考・判断に関わる事項や実際のコーチングを適切な方法で実施し、プレーヤーと良好な関係を築くための態度・行動に関する事項など、グッドコーチに求められる様々な事項について学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | コーチ自身の成長、プレーヤーの未来に関わる指導者の思考・判断に関わる事項や実際のコーチングを適切な方法で実施し、プレーヤーと良好な関係を築くための態度・行動に関する知識についての各トピックについて自己の体験に置き換えた省察学習 | グッドコーチに求められる「思考・判断」および「態度・行動」における各トピックに対して、体験を含めて自分の意見を述べることができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 多くのコーチがどのように自身のスキルを向上させているかについての事例学習 | グッドコーチングに求められる「思考・判断」および「態度・行動」について、授業で学んだことを実践し、新たな体験知を獲得している。 |
| 3. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | コーチの成長に関わる事項についての学習 | 課題作成において、授業内容から幅広く、また授業外の情報を多く取り入れることができる。もしくは深められる。 |
| 4. DP2.知識・技能 | コーチ自身の成長、プレーヤーの未来に関わる指導者の思考・判断に関わる事項や実際のコーチングを適切な方法で実施し、プレーヤーと良好な関係を築くための態度・行動に関する知識についての学習 | グッドコーチに求められる知識を理解し、自身の成長に繋げるための素地を獲得している。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

「ICT（タッチタイピング）」「ICT（PowerPoint）」「ICT（動画活用）」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小テスト | 20　% | ：　授業内容の理解度（知識・技能：10%)を評価します。 |
| まとめレポート | 80　% | ：　求められるグッドコーチングについてのまとめレポートを評価します。（1）授業内容への関心(関心・意欲：10%)、（2）自身の経験や考えを明確に示せている か(思考・判断・表現：30%)、授業内容をスポーツ活動へどのように実践していくか（学びに向かう力：30%）についてルーブリックに基づいて評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて授業内で紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
履修について、「スポーツ指導論」「コーチョング理論」の単位を習得していることが望ましい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： オフィスアワー

**場所**： 研究室

**備考・注意事項**： 担当教員へメールで質問を送ってください／急に尋ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください／初回講義時に説明します※／学期初めに掲示します※

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション　コーチの成長について**<br>本講義の進め方について確認する。現代のコーチに何が求められているのか、コーチングに関わる社会課題を通して成長できるコーチについて理解する。 | コーチングに関わる社会課題を探索する | 4時間 |
| 第2回 | **コーチングの実際**<br>事例学習を等して、コーチングがプレイヤーにどのように影響するのか理解する。 | 自身とコーチとの関係性について整理する。 | 4時間 |
| 第3回 | **コーチの哲学**<br>事例学習を通して、コーチの持つ哲学がどのようなコーチング行動につながっていくのか理解する。 | これまでで師事した指導者の哲学を考える。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツの意義と価値**<br>スポーツの意義と価値について学習するとともに、コーチのあり方について理解する。 | 自身の体験におけるスポーツの意義と価値について整理する。 | 4時間 |
| 第5回 | **コーチの成長**<br>コーチの学習・成長サイクルについて学習する。 | 学習サイクルの各要素について、自身の体験を題材に実践してみる | 4時間 |
| 第6回 | **コーチの幸福**<br>事例学習を通して、コーチの幸福について考える。 | 事例調査により事例を整理しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **コーチの制御行動**<br>事例学習を通してコーチの制御行動とはどのようなものか理解する。 | 各スポーツ種目における指導中の事故事例について整理する。 | 4時間 |
| 第8回 | **コーチの制御行動によるプレーヤーへの影響**<br>コーチの制御行動によるプレーヤーへの影響について学習する。 | 自身のスポーツ経験において制御された事柄についてまとめておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **コーチの自立性支援行動**<br>プレーヤーの主体性を引き出すとされる自立支援行動について、自身の体験や様々な事例を通して学習する。 | 自身の体験・経験についてまとめておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **フェアプレイ教育**<br>スポーツにおけるフェアプレイについて、自身の体験や経験を振り返りながら、どのような教育方法があるか探索する。 | 自身の体験・経験についてまとめておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **コーチのリーダーシップとマネジメント**<br>事例学習を通してコーチのリーダーシップと様々なマネジメント行動について学習する。 | 事例を収集しておく。 | 4時間 |
| | コーチのリーダーシップと様々なマネジメント行動に関する理論について学習する。 | | |
| 第13回 | **コーチの暴力・ハラスメント行動**<br>なぜ、コーチが暴力・ハラスメント行動をとるのか探索学習する。 | 事例収集を行っておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **グッドコーチ**<br>これまでの授業内容を振り返り、グッドコーチングについて整理する。 | 望ましいコーチングについて自身の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第15回 | **＊＊＊**<br>＊＊＊ | ＊＊＊ | 4時間 |

SP-3106-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **アウトドアスポーツ概論** | | | | |
| 担当教員名 | 中川・橋本 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | * | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

近年、アウトドアスポーツは多様な分野を含み複合領域として展開されている。本科目は、アウトドアスポーツを野外教育と環境教育の大きく2つの視点から概観する。野外教育については、スポーツ学との関連から様々なアウトドアスポーツの形態や実践について広く概説する。環境教育については、学びの対象となる環境を自然・社会・経済などを含めて幅広くとらえ、野外教育的手法を取り入れた体験に着目しながら、環境教育の概念や歴史、手法について広く概説する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 野外教育と環境教育に関する知識 | 野外教育や環境教育の理論を理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 野外教育と環境教育の意義 | 野外教育と環境教育の効果や多様な対象者に対する意義について説明することができる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 野外教育や環境教育の理念の体現 | 野外教育の人間性の育成の理念や環境倫理などの視点を説明することができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内外でのレポート | 60 % | ： 授業内もしくは授業外での課題レポート作成の内容を評価する |
| 期末テスト | 40 % | ： 期末に実施されるテストにて評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業時に随時紹介する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業の前後
**場所**： 授業の教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業オリエンテーション、野外教育と環境教育の概念**<br>オリエンテーションを実施し、授業構成や評価について確認する。また、基本的な野外教育と環境教育の概念について学修する。 | 野外教育と環境教育の目的や考え方をレポートとしてまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **野外教育の理論と実際**<br>野外教育の基本的な理論と活用される多様なフィールドとその実践事例について概観する。 | 原体験や体験学習サイクルについて自分自身の経験を基に説明するレポートを作成する | 4時間 |
| 第3回 | **学校教育でのアウトドアスポーツ**<br>学校教育の現場で実践されるアウトドアスポーツや学習指導要領に記載される自然体験活動について概観する。 | 学習指導要領にどのようなアウトドアスポーツがあるのか調べる。 | 4時間 |
| 第4回 | **アスリート支援のためのアウトドアスポーツ**<br>部活動やアスリートを対象に実践される自然を活用したチームビルディング考え方やその実践例について概観する。 | スポーツ界で実践されるチームビルディングの事例について調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **アウトドアツーリズムとアウトドアビジネス**<br>ツーリズムとして実践されるアウトドアについてビジネスの視点を紹介しながら概説する。 | ツーリズムの実際やアウトドアビジネスについて調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **ウェルネスとアウトドアスポーツ**<br>身体的な健康だけでなく精神的な健康（ウェルビーイング）に役立つアウトドアスポーツについて概観する。 | ウェルネスを目的としたアウトドアスポーツについて調べる。 | 4時間 |
| 第7回 | **アウトドアスポーツの研究（データサイエンス）**<br>アウトドアスポーツの領域での研究について他分野との関連も踏まえながら概観する。 | アウトドアスポーツ関連の研究について調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **環境教育の理論と実際**<br>環境教育が対象とする「環境」の定義と、教育の基本的な理論を確認し、野外教育的手法を取り入れた実践事例について概観する。 | 五感を用いた自然体験について自分自身の経験をまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **地球環境と環境問題**<br>環境教育の基礎となる地球環境と環境問題に関して、自然・社会・経済の観点から知識を深める。 | 地球環境と環境問題について最新情報を収集し、自然・社会・経済の観点から自分の考えをまとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **学校が主体となる環境教育**<br>野外教育的な手法を取り入れた環境教育について学校の役割について概観する。 | 学校が主体となる環境教育の事例について調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **家庭と地域社会が主体となる環境教育**<br>野外教育的な手法を取り入れた環境教育について家庭と地域社会の役割について概観する。 | 家庭または地域社会が主体となる環境教育の事例について調べる。 | 4時間 |
| 第12回 | **湖西地域の自然と社会**<br>環境教育の学習者が学びの対象とする環境のうち、自然と社会に着目し、湖西地域を事例にその仕組みと相互の関係性について理解を深める。 | 湖西地域の自然環境や社会環境の特徴について調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **環境教育の手法**<br>野外教育的な手法を取り入れた環境教育について、自然を感じるプログラムやインタープリテーションの手法などについて知識を深める。 | 環境教育の手法について調べる。 | 4時間 |
| 第14回 | **総括・まとめ：これからのアウトドアスポーツ**<br>全体を振り返り、野外教育と環境教育を統合した、アウトドアスポーツの今後の進め方を考える。 | アウトドアスポーツの今後の進め方についてまとめる。 | 4時間 |

SP-3204-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス現場のイノベーション** | | | | |
| 担当教員名 | **城島　充** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | リモート講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療取材などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。「拳の漂流」「ピンポンさん」（いずれも講談社）や児童書などの長編ノンフィクションのほか。文藝春秋『Number』誌などで多くの作品を発表、現在も産経新聞で連載記事を執筆している。 | | | | |

**授業概要**

スポーツの価値をどのような視点で切り取れば、ビジネスとして成立するのだろうか。スポーツビジネスに関する具体的なケースをテキストに、それぞれの歴史的背景や構造的な特徴、現状における課題や今後の展望について検証する。日本と海外のプロスポーツの比較や、オリンピックなどのメガイベントのビジネスの変遷など、幅広いテーマに対して分析できる視点や知識を身に着けるとともに、スポーツビジネスの世界で求められう人材についても探求できるようになる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツをビジネスとして成立させるために必要な要素を学び、社会におけるスポーツの価値を高めていくために必要なを思考力を養う。 | スポーツビジネスの具体例を通して、スポーツの魅力をさまざまな視点から見いだすとともに、現代のスポーツビジネスにおける問題点を論理的に理解できる。、 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 毎回提出のレポートに対する評価 | ： | 毎回の授業で提示する課題についてのレポートを、理解力、構成力、視点、文章力などから５段階で評価する。 |
| 100　% | | |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

動画テキストだけではなく、文書のテキストも共有するので、しっかりと文章を読み込むようにしてください。
レポートの提出をもって出席とします。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　金曜2限

**場所**：　研究室

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|
| 第1回　**スポーツビジネスを取り巻く世界** | 添付資料を熟読し、講義内容を深く理解する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | スポーツビジネスとはなにか。スポーツとビジネスがどう関わっているのか、さまざまなジャンルやテーマで日々動いているスポーツビジネスの具体連を紹介する。 | | |
| 第2回 | **アスリートの価値を高めるマネジメントビジネス**<br><br>サニーサイドアップが手がけたビジネスを参考に、アスリートのマネジメントについて、その歴史的な変遷や、メディアの現場で起きている現象について学ぶ。 | 配布資料を熟読し、アスリートのマネジメントの実態を理解しておく | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツとエンターテイメント**<br><br>ネットフリックで公開されたドラマ「極悪女王」が、現実の女子プロレス界や、メディアの世界に与えた影響について検証する。また、フィクションとノンフィクションのつながりをビジネスのメンから考察していく。 | 配布資料を熟読し、フィクションとスポーツの関係性について理解しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **肥大化するオリンピックビジネスの歴史と意義**<br><br>コロナ禍で一年延期したうえで、無観客で開催された2021東京オリンピックのレガシーについて考察する。オリンピックというメガイベントをビジネスとしてとらえたときの歴史的背景や転換期、現在の問題点について検証するとともに、オリンピックのあるべき姿について考察する。 | 添付資料を熟読し、オリンピックの歴史を理解しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **オリンピックビジネスにおけるスポンサーシップについて**<br><br>1984年のロサンゼルスオリンピックで商業主義に舵をきった近代オリンピックとスポンサーの関係性について考察する。放映権を含めたオリンピックに関するさまざまな権利について検証するとともに、スポンサー離れが報じられるなか、オリンピックとスポンサーの関係性について考える。 | 配布資料を熟読し、オリンピックについての知識を深めておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **パラリンピックビジネスの歴史と意義**<br><br>プロ宣言をするアスリートが増えてきたパラスポーツとビジネスの関係性の変化を、パラリンピックの歴史を追いながら検証する。 | 配布資料を熟読し、パラリンピックの歴史について理解しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツビジネスと地域振興**<br><br>水球を街づくりの柱にした新潟県柏崎市など、スポーツを地域振興の柱として取り組んでいる自治体の実例を検証するとともに、滋賀国スポについても地域振興の視点から考察する。 | 配布資料を熟読し、滋賀国スポの取り組みについて理解しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **スタジアムビジネスと都市づくり**<br><br>長崎に誕生した長崎スタジアム・シティの取り組みを検証しながら、スポーツ施設を核とした都市作りについて考察する。 | 配布資料を熟読し、長崎スタジアムについて学習しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **プロボクシングビジネスとウエートオーバー**<br><br>プロボクシングの世界で、減量に失敗し、計量オーバーをするボクサーが増加している。競技の根源を揺るがす事態だが、それでも興行面での理由などからウエートオーバーしたボクサーがリングにあがるケースも少なくない。興行というビジネスに翻弄されるプロボクシング界のあるべき姿について考察する。 | 配布資料を熟読し、ウエートオーバーの問題点を理解しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツブランドのCM戦略**<br><br>スポーツブランドのビジネスを主に広告戦略に注目しながら、検証する。古くはマイケルジョーダンとNIKEの契約、最近では河村勇輝選手とアシックスの契約などをとりあげ、スポーツブランドの販売戦略がスポーツビジネスに及ぼす影響について考察する。 | 配付資料を熟読し、アスリートとスポーツブランドの関係性について理解しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツベッティング導入をめぐる議論**<br><br>日本でも導入が検討されているスポーツベッティングをめぐる議論に注目し、ビジネスとギャンブルの境界線、導入の是非についてさまざまな意見を集める。海外のケースを参考にしながら、日本社会とスポーツビジネスにとって最も有益な選択肢について考察する。 | 配付資料を熟読し、スポーツベッティングについての情報を集めておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **格闘技ビジネスの変遷**<br><br>日本に一大ブームを巻き起こしたK-1やPRIDEという格闘技イベントを振り返りながら、現在のRIZINをめぐる問題点について検証する。地下格闘技やブレイキングダウンというイベントの是非もビジネスの視点から考察していく。 | 配付資料を熟読し、日本の格闘技に関する知識を得ておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **マイナースポーツの発展とビジネス**<br><br>マイナースポーツと呼ばれる世界でプロ宣言したアスリートたちをビジネスの視点からとりあげ、その現状と問題点を検証する。同時に、アスリートのセルフマネジメントについての考察も重ねていく。 | 配付資料を熟読し、マイナースポーツとビジネスについて学習しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **eスポーツの広がりとスポーツビジネスの未来**<br><br>アジア大会で正式種目に採用されたeスポーツを取り巻く世界の現状と、ミラノあるべき姿をビジネス面に焦点をあてながら検証する。 | 配付資料を熟読し、eスポーツに関する知識を蓄積しておく。 | 4時間 |

SP-3205-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ情報処理概論** | | | | |
| 担当教員名 | 吉川　文人 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

予防医学的なスポーツの意義を踏まえヘルスケアを含む日常動作や競技スポーツのゲーム・パフォーマンス分析で取扱われるスポーツ動作に焦点を絞り、人の動作をとおして得られる生体情報を分析対象として、その周辺知識を整理しながら情報処理に必要な基礎的事項を学ぶ。実例や実習をとおして、スポーツ情報処理プロセスをデザインし、処理を実行するために必要な知識とスキルについて土台作りを行う。データフィードバック活動に必要なプロセスとして、分析対象とする動作とその分析目的、評価観点の整理を踏まえ、データの収集からはじめ、結果の生成及びコンテンツのフィードバックに至るまでに必要な作業内容について概観し、概論以降で専門的に学ぶ専門科目の学びの準備をする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ領域のデータサイエンス基礎力 | スポーツ情報処理の基本的活用法について、実例を挙げて論理的に説明できる |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツ領域のデータサイエンス基礎力を応用するために必要な自己学習力 | 事例報告に必要な調べ学習を主体的に実行できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
　ICT(タッチタイピング、PowerPoint、Exel、動画、専用機材・アプリ）を活用

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　ICT(タッチタイピング、PowerPoint、Exel、動画、専用機材・アプリ）を活用

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| プレゼンテーション評価 | 50　% | ：　データ収集についてのグループ学習の成果発表及びデータフィードバックについてのグループ学習の成果発表について全体それぞれ25%（25%×2）で、授業で取扱った内容の理解度とプレゼンテーションのできばえで評価する。 |
| レポート評価 | 20　% | ：　授業で取扱った内容について理解度をレポート評価（全体の20%）で評価する。 |
| 授業内内小テスト | 30　% | ：　授業内小テスト（10%×3回）の正答率で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

馴染みがなく難しいと感じることが多い科目であると思われますが、授業で取扱う内容のポイントを抑え、実習をとおして確認しながら、実際に自分で手を動かして処理できる事項を増やしていきましょう。この履修をとおして、スポーツを「する人」と「支える人」の両面を視野に入れながら、学修した事項を実際に応用してみよう。さらには、様々なスポーツ競技・種目、分析対象動作、分析目的に幅広くチャレンジできる土台作りをしましょう。科目全体をつうじて、自己学習力の発揮も期待しています。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション及び本科目で取扱うスポーツ情報処理の概要**<br><br>本科目の目的、到達目標、評価方法について理解し、授業の進め方や概要について把握する。情報学及び情報工学の応用範囲の一つとして位置付けられるスポーツ（学）とそこで取扱われるデータについて概観し、主要な学習内容とその応用可能性について学びを広げ深める。 | IT、ICTがスポーツ応用されている実例について調べ学習をし、分析対象、分析目的及び評価観点について整理してみよう。 | 4時間 |
| 第2回 | **競技スポーツ向けパフォーマンス分析の活動例から学ぶスポーツ情報処理**<br><br>競技スポーツの現場において実行され得るパフォーマンス分析の一端として、動作の質的向上を図ることを目的としたフィードバック活動の実例を紹介する。分析対象動作、分析目的、評価観点、データ処理、データ分析、データの可視化延いてはフィードバック活動の一連のプロセスに関する具体例をとおして、本科目で取扱うスポーツ情報処理の学習内容について包括的に把握する。 | 授業担当者が公表している論文を読み、授業で取扱われた内容の理解を深めるとともに、第3～4回の授業内容の予習をする。 | 4時間 |
| 第3回 | **競技スポーツ向けゲーム分析の活動例から学ぶスポーツ情報処理**<br><br>競技スポーツの現場において実行され得るゲーム分析の一端として、戦術行動及び行動体力の質的向上を図ることを目的としたフィードバック活動の実例を紹介する。分析対象とする事象、分析目的、評価観点、データ処理、データ分析、データの可視化延いてはフィードバック活動の一連のプロセスに関する具体例をとおして、本科目で取扱うスポーツ情報処理の学習内容について包括的に把握する。 | 授業担当者が公表している論文を読み、授業で取扱われた内容の理解を深めるとともに、第4回の授業内容の予習をする。 | 4時間 |
| 第4回 | **ヘルスケア向けパフォーマンス分析の活動例から学ぶスポーツ情報処理**<br><br>ヘルスケア志向で実行する運動を含め日常生活動作の質的向上を図ることを目的としたフィードバック活動の実例を紹介する。分析対象動作、分析目的、評価観点、データ処理、データ分析、データの可視化延いてはフィードバック活動の一連のプロセスに関する具体例をとおして、本科目で取扱うスポーツ情報処理の学習内容について包括的に把握する。 | 授業担当者が公表している論文を読み、授業で取扱われた内容の理解を深めるとともに、第2～4回の授業内容の復習をする。 | 4時間 |
| 第5回 | **デジタル情報処理の基礎**<br><br>C.E.シャノンの情報理論の一端を知り、アナログ・デジタル変換により得られたデジタル情報の特長の理解をとおして、測定評価の“正確性”といった観点について考える。また、デジタル表現や情報量、コンピュータの基本的な構成と動作について学びを深める。 | 授業で取扱ったデバイスの仕様の把握に努め、そのデバイスの応用可能性について整理する。 | 4時間 |
| 第6回 | **事象と確率変数及びスポーツ情報処理の枠組みの基礎**<br><br>ゲーム・パフォーマンス分析において動作の質的向上を図ることを目的として情報処理プロセスをデザインするときに取り扱われるデータの周辺知識を把握する。また、ゲーム・パフォーマンス分析研究の文献購読をとおして、分析対象としての事象と可視化された結果との対応について整理・議論しながら、スポーツ情報処理の中で取扱われる事象と確率変数、統計処理の枠組みについて基本事項の理解に努める。 | 基本統計量について調べ学習をし、基本事項の理解を図る。 | 4時間 |
| 第7回 | **データ収集の基礎（実習の説明とデバイスAパターンの実習）**<br><br>前半において、後半の実習課題を説明し、そこで用いるセンサーデバイスの使い方と仕様について把握する。後半の実習では、グループ毎に割り当てられたセンサーデバイスを用いることを前提に、分析対象動作、分析目的、評価観点を策定し、実際にデータを収集し、各自所有のパソコンを用いて収集したデータを確認する。スポーツ情報処理におけるデータ収集までのプロセスについて実習形式で学習する。 | 授業で取扱ったデバイスの仕様の把握に努め、そのデバイスの応用可能性について整理する。端的にわかりやすく口頭発表をするために、発表資料を作成し、口頭発表の質的向上を図る。 | 4時間 |
| 第8回 | **データ収集の基礎（デバイスB&Cパターンの実習）**<br><br>グループ毎に割り当てられたセンサーデバイスを用いることを前提に、分析対象動作、分析目的、評価観点を策定し、実際にデータを収集し、各自所有のパソコンを用いて収集したデータを確認する。スポーツ情報処理におけるデータ収集までのプロセスについて実習形式で学習する。 | 授業で取扱ったデバイスの仕様の把握に努め、そのデバイスの応用可能性について整理する。端的にわかりやすく口頭発表をするために、発表資料を作成し、口頭発表の質的向上を図る。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第9回 | **データ収集の基礎（デバイスDパターンの実習と実習のまとめ）**<br><br>前半では、グループ毎に割り当てられたセンサーデバイスを用いることを前提に、分析対象動作、分析目的、評価観点を策定し、実際にデータを収集し、各自所有のパソコンを用いて収集したデータを確認する。スポーツ情報処理におけるデータ収集までのプロセスについて実習形式で学習する。後半では、使用デバイス、分析対象動作、分析目的、評価観点、各自で視認したコンテンツの内容を共有し、データの収集方法とその周辺知識について学びを広げ深める。 | 授業で取扱ったデバイスの仕様の把握に努め、そのデバイスの応用可能性について整理する。端的にわかりやすく口頭発表をするために、発表資料を作成し、口頭発表の質的向上を図る。 | 4時間 |
| 第10回 | **実例から学ぶデータ処理の基礎**<br><br>パフォーマンス分析向けに収集した動画像ファイルに対してデータ収集以降のデータ処理ひいては分析をデザインするときに、データの整理、加工、編集、処理方法のしかたを知り、動画像処理の方法について基礎的事項を把握する。また、実例をとおしてデータ処理の効率化がどのようになされているのかを概観し、データ処理の自動化の必要性やその後の波及効果等を含め、スポーツ情報処理におけるデータ処理の見識を広げる。 | 授業で取扱ったデバイスの仕様の把握に努め、そのデバイスの応用可能性について整理する。 | 4時間 |
| 第11回 | **データ可視化の基礎**<br><br>第7～9回で収集したデータをもとに、各種グラフの作成やユーザーエクスペリエンスを意識したコンテンツ表示に必要な処理方法、分析方法の一端を知る。データの目的に応じて可視化するためのコンテンツの作成とそれぞれの解釈に取組む実習をとおして、データの可視化に関連した周辺知識の理解を広げ深める。 | 第7～9回で収集したデータを対象としてグラフや映像クリップ等を含むコンテンツに作成にチャレンジし、不明な事項について調べ学習をする。 | 4時間 |
| 第12回 | **データフィードバック活動の計画**<br><br>第7～9回で収集したデータをもとに、各種グラフの作成やユーザーエクスペリエンスを意識したコンテンツ表示に必要な処理方法、分析方法の一端を知る。データの目的に応じて可視化するためのコンテンツの作成とそれぞれの解釈に取組む実習をとおして、データの可視化に関連した周辺知識の理解を広げ、深める。 | フィードバックの対象及び主体双方が質的向上を図る活動内容について構想し、そのために必要な情報処理プロセスとそれを構成する要素について整理する。 | 4時間 |
| 第13回 | **データフィードバック活動についての発表**<br><br>実施もしくは企画したデータフィードバック活動についてのプレゼンテーションをとおして、実習の成果を共有する。 | 端的にわかりやすく口頭発表をするために、発表資料を作成し、口頭発表の質的向上を図る。 | 4時間 |
| 第14回 | **学習内容の振り返りとまとめ**<br><br>本概論科目で取扱った基礎的事項のなかでも、特に重要な内容について振り返り、その上で本科目の学修ポイントをまとめる。より先進的・発展的学習内容を扱かった教材に基づく話題と関連づけて、スポーツ×データサイエンスにより期待されるスポーツ界の将来像について自分の考えを広げ深める。 | 本科目で学び得た事項を整理する。 | 4時間 |

SP-4115-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **教育経営論** | | | | |
| 担当教員名 | 多賀谷・山手・川合 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 多賀谷：小学校教員（指導教諭）の実務経験を有する。<br>山手：小学校教員（管理職）の実務経験を有する。<br>川合：高等学校教員（管理職）及び教育委員会での実務経験を有する。 | | | | |

**授業概要**

学校の経営は関係法令・規則等に基づき組織と施設・設備を十分に機能させ、児童生徒及び保護者、地域社会から信頼されて教育活動を行うことにより成り立つ。学校設置者から付与された権限を適切に執行し、有効な教育成果をあげることが求められる。
本講義では、学校経営を取りまく「ひと（児童生徒、教職員、保護者など）」、「もの（施設・設備など）」「かね（財務）」など様々な要因を実践事例を交えて理解し、教員としての学校での働き方の実際を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校経営・学級経営の基礎的知識 | 学校経営・学級経営の基礎的知識を理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 学校経営・学級経営の実際 | 学校経営・学級経営の今日的課題、および対応法について適切に説明することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学校組織を構成する教員 | 学校経営・学級経営の基礎的知識を活用し、学校組織の中で積極的に行動できる人間性を身に付けることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 毎時のレポート | 30 % | ： | 学校経営・学級経営の基礎的知識が理解できている。 |
| 最終課題レポート | 70 % | ： | 学校経営・学級経営の基礎的知識を活用し、学校組織を構成する教員の視点で学校経営・学級経営の今日的課題、および対応法について適切に論述できている。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

生徒指導提要（文部科学省）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、毎回4時間の授業外学修が求められる。
授業外学修課題に取り組むことにより、授業の内容が理解しやすくなるので積極的に行うこと。
授業に際しては、ＰＣ等のデバイスを活用し授業内容の共有化を図る。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **学校経営の概観**<br>学校を設置し、教育活動を円滑・効果的に進めるための「ひと」、「もの」、「かね」などを概観し、次回以降の具体的要因を学ぶ基礎を考える。 | 学校の組織について調べておく。 | 4時間 |
| 第２回 | **学校に関する法令と組織**<br>・日本国憲法からはじまる学校教育に関する法令・規則、地方地自体の条例、規則、規定等に基づく学校の組織体制を理解する。<br>・これらの法令等により学校の運営に必要な組織とはどのようなものか具体的に考える。また、国、地方自治体から学校に付与された権限の適切な執行について理解し、円滑な学校経営を考える。 | 教育に関係する法令を調べておく。 | 4時間 |
| 第３回 | **学校の財務と施設管理**<br>・学校の運営に必要な予算の種類（予算科目）を理解し、適切な執行方法を理解する。<br>・児童生徒の安全な学校生活につながる施設・設備の充実・改修などの維持管理体制の実際を理解する。 | 学校予算の内訳を調べておく。 | 4時間 |
| 第４回 | **学校の教育目標とカリキュラムマネジメント**<br>・いろいろな学校の教育目標を調べ、どんな実践がされているかを学ぶ。<br>・カリキュラムマネジメントの実践例をもとに、現状と課題について理解する。 | 学校の教育目標とカリキュラムマネジメントについて調べておく。 | 4時間 |
| 第５回 | **児童生徒の安全安心**<br>学校安全について、いろいろな学校の取り組みを調べ、児童生徒が安全で安心な学校生活を送るためには何が必要でどんな方法があるかを理解する。 | 安全で安心な学校とは何かを調べておく。 | 4時間 |
| 第６回 | **生徒指導（学級経営）**<br>学校教育目標の実現に向けて学級を効果的に組織し、運営する方法を理解する。 | 学級経営の意義と目的について調べておく。 | 4時間 |
| 第７回 | **生徒指導（人権教育）**<br>・人権教育の理念と目的について理解する。<br>・人権の意義やその重要性についての正しい知識、および、日常生活の中で人権上問題のあるような出来事に接した際に直感的にその出来事はおかしいと思う人権感覚を身に付ける重要性を理解する。 | 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律について調べておく。 | 4時間 |
| 第８回 | **生徒指導（不登校、いじめ）**<br>・不登校・中途退学をめぐる状況を知り、その予防・対応について理解する。<br>・「いじめ」の定義と学校における実態・様相について知り、いじめ予防・対応について理解する。 | いじめ防止対策推進法について調べておく。 | 4時間 |
| 第９回 | **生徒指導（支援を必要とする児童生徒）**<br>・特別の支援を必要とする児童生徒の困難を理解する。<br>・それぞれの個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について理解する。 | 「合理的配慮」について調べておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **教職員の服務と健康**<br>・教職員の服務にはどのようなものがあるかを学び、実際の学校現場での現状を理解する。<br>・教職員の健康を考え、働き方改革についての現状と課題を学ぶ。 | 教職員の服務について調べておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **学校からの情報発信**<br>現在の情報発信にはどのような手段があるかを学び、学校現場ではどのように活用し、どのような効果があるのかを理解する。 | 学校からの情報発信にはどのようなものがあるかを調べておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **学校評価**<br>各学校の学校評価とはどのようなものかを学び、計画立案・実施・評価の流れを理解する。 | 学校評価について調べておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **関係機関・団体との連携**<br>学校をとりまく関係機関・団体にはどのような組織があるかを考え、学校の教育活動を支援する方法・手段を理解する。 | 学校関係機関・団体を調べておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **チーム学校の在り方**<br>前回まで学修してきた内容から、チーム学校の在り方を考え、効果的な学校経営について理解する。 | チーム学校について調べておく。 | 4時間 |

SP-4217-2-2

| 授業科目名 | トレーニング活動の立案と評価 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 渋谷　俊浩 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷俊浩（全14回）：日本スポーツ協会公認コーチ（コーチ4：陸上競技）・同協会コーチデベロッパーの資格および実業団・大学での指導経験を活かし、受講生が競技力向上に必要な知識・技能を習得できるようサポートします。 | | | | |

**授業概要**

競技力を向上させるためには、自身が行っているスポーツに関する知識とその理解に加えて、スポーツの実践を通して得られる多くの経験と実践知が必要不可欠です。
本授業では、1年次で学習したトレーニングの基礎理論を基に、優れたコーチやアスリートが実践している「トレーニングサイクル」等の諸理論について学習し、自身の競技力向上に向けて適切なトレーニング活動の計画を立案と実践、さらにはその評価ができるようになることを目指します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | トレーニングに関する諸種の基礎理論の理解 | 競技力向上に必要なトレーニングに関する基礎理論を理解し、実践することができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | トレーニング活動の現場における課題発見能力およびその解決能力の習得 | トレーニング活動における新たな課題を発見し、さらにはその課題を適切に解決する方策を提案・実施することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題：前半（ミニレポート等） | 20 % | ： | 授業内容（専門用語等）を、実践例と関連付けて正しく理解できているかを評価します。 |
| 理解度確認レポート（中間） | 20 % | ： | 前半の授業内容をふまえたうえで、与えられたテーマについて自身の実践例や具体例と関連付けて考察・論述できているかを評価します。 |
| 授業内課題：後半（ミニレポート等） | 20 % | ： | 授業内容（専門用語等）を、実践例と関連付けて正しく理解できているかを評価します。 |
| 最終課題（プレゼンテーション、レポート） | 40 % | ： | 全授業内容をふまえたうえで、与えられたテーマについて自身の考えを具体的かつ論理的に発表・論述できているかを評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

・Reference Book ㈶日本スポーツ協会
・競技力向上のトレーニング戦略 テューダー・ボンパ著、尾縣貢・青山清英監訳
・コーチング学への招待　日本コーチング学会編集
・陸上競技のコーチング学 日本陸上競技学会

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。また、得られた知見については必ず競技現場において実践してみましょう。
受講生の皆さん各々がこれまで実践してきた「トレーニング」を振り返るために、「練習日誌」や「トレーニング記録」「○○ノート」などが重要な資料となります。ぜひ、授業に持参してください。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業後

**場所**： 授業教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション・競技力向上の仕組み**<br>授業概要・到達目標等を確認し、1年次に学習したトレーニングに関する基礎理論を実際例を基に振り返りながら、自身のトレーニング活動の現状について整理・理解する。 | 今後の授業に向けて練習日誌等の資料を準備・整理しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツトレーニングの基礎理論：スポーツトレーニングサイクルの理解**<br>優れたコーチやアスリートが実践している「スポーツトレーニングサイクル」について学習し、自身の実践例と照らし合わせながら理解する。 | 練習日誌等を基に、自身がこれまでに実施してきたトレーニング（トレーニング計画含む）のトレーニングサイクルについてまとめておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツトレーニングの基礎理論：スポーツパフォーマンス構造論の理解**<br>競技力（スポーツパフォーマンス）向上に必要な「スポーツパフォーマンス構造論」について学習し、自身の実践例と照らし合わせながら理解する。 | 練習日誌等を基に、自身がこれまでに実施してきたトレーニング（トレーニング計画含む）の構造についてまとめておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **トレーニング目標論およびトレーニング手段論・トレーニング方法論の理解**<br>「トレーニングサイクルの思考・行動循環モデル」から、「トレーニング目標論」「トレーニング手段論」「トレーニング方法論」について学習し、自身の実践例と照らし合わせながら理解する。 | 練習日誌等を基に、授業内容と自身がこれまでに実施してきたトレーニング（トレーニング計画含む）の目標・手段・方法について比較検討しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **トレーニング計画論の理解**<br>「トレーニングサイクルの思考・行動循環モデル」から、「トレーニング計画論」について学習し、自身の実践例と照らし合わせながら理解する。 | 練習日誌等を基に、授業内容と自身がこれまでに実施してきたトレーニングの計画立案について比較検討しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **トレーニング実践論・試合行動論の理解**<br>「トレーニングサイクルの思考・行動循環モデル」から、「トレーニング実践論」「試合行動論」について学習し、自身の実践例と照らし合わせながら理解する。 | 練習日誌等を基に、授業内容と自身がこれまでに実施してきたトレーニング（トレーニング計画含む）の実践・試合行動について比較検討しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **トレーニングアセスメント論の理解**<br>トレーニングサイクルの思考・行動循環モデル」から、「トレーニングアセスメント論」について学習し、自身の実践例と照らし合わせながら理解する。 | 練習日誌等を基に、授業内容と自身がこれまでに実施してきたトレーニング（トレーニング計画含む）のトレーニングアセスメントについて比較検討しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **前半の理解度評価：中間課題作成**<br>前半の授業内容をふまえ、自身がこれまで実践してきたトレーニングにおける課題・問題を抽出し、その改善・解決方策を検討する。 | 授業を通じて明らかになった自身および専門種目の課題とその解決方策をまとめておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **トレーニング計画の立案：競技カレンダーの把握・ピリオダイゼーション理論の理解**<br>自身および専門種目にとってより適切なトレーニングを実践していくために、まず「競技カレンダー」を把握し、「ピリオダイゼーション理論」と照らし合わせながら検討を加えていく。 | 中央競技団体HP等を参考に、自身および専門種目の競技カレンダーを図示するなどして把握しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **トレーニング計画の立案：長期計画・中期計画**<br>授業で得た知識・技能を活用し、グループワークで自身および専門種目の「長期・中期トレーニング計画」を立案する。 | グループで作成した長期計画・中期トレーニング計画を図示しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **長期計画・中期計画の発表・ディスカッション**<br>グループワークで作成した「長期・中期トレーニング計画」を発表する。さらに、ディスカッションで得た新たな気付き・知見を活用し、トレーニング計画を改善する。 | 他グループの発表等を参考に、自身およびグループの資料を精査しておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **トレーニング計画の立案：短期（月間・週間）計画** | グループで作成した短期（月間・週間）トレーニング計画を図示しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 授業で得た知識・技能に加え、「長期・中期トレーニング計画」の発表・ディスカッションで得た新たな気付き・知見を活用し、グループワークで自身および専門種目の「短期（月間・週間）トレーニング計画」を立案する。 | | |
| 第13回 | **短期計画の発表・ディスカッション**<br><br>グループワークで作成した「短期（月間・週間）トレーニング計画」を発表する。さらに、ディスカッションで得た新たな気付き・知見を活用し、トレーニング計画を改善する。 | 他グループの発表等を参考に、自身及びグループの資料を精査しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ：最終課題「自身のトレーニング活動の評価」**<br><br>授業で修得して知識・技能等をふまえ、自身が立案したトレーニング計画と、それに基いて実践したトレーニングについて評価し、今後のスポーツ活動における競技力向上方策を検討する。 | 今後自身が実践するトレーニング計画を図示しておく。 | 4時間 |

SP-4313-2-2

| 授業科目名 | アウトドアスポーツマネジメント | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 橋本　和俊 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

近年、アウトドアスポーツは多様化し、様々な形態や種目などが発展している。中でも、キャンプ活動においては、オートキャンプやグランピングなど様々な形が生まれ親しまれている。本科目は、とくに教育的なキャンプ活動で実践される『組織キャンプ』についての企画・運営・評価について学ぶ。キャンプを運営していく上での組織づくりから指導者（キャンプカウンセラー）の役割、安全・健康管理などのリスクマネジメント、広報、事業評価、効果測定などについて学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | キャンプのハードスキル | キャンプの運営に必要な知識や、リスクマネジメントについて理解できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | キャンプの指導者としてのソフトスキル | キャンプの指導者としての指導方法について説明できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | キャンプの指導者としての心得 | アウトドアスポーツの指導者としての心得とさらなる成長を目指すことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
「ICT(タッチタイピング)」

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| プログラムデザイン | 40 % | ： | キャンプのプログラムのねらい（目的）や企画・立案を評価する |
| マネジメントデザイン | 40 % | ： | キャンプのマネジメントの理解度を評価する |
| 授業内小テスト | 20 % | ： | キャンプのマネジメントに関する知識について評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時紹介します

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

［メッセージ］
キャンプ運営の基礎になる内容です。どのようにキャンプを企画・運営し、指導していくかのノウハウを学びます。演習形式の授業も行います。フレッシュマンキャンプセミナー、アウトドアキャンプの補助としての経験に活かされることを期待します。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後

**場所**：　授業の教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業のオリエンテーションおよびキャンプの発祥**<br>キャンプの語源は？自然体験活動とキャンプの定義は？教育キャンプ・組織キャンプの歴史について、様々な国を例について概説する。 | キャンプ体験や自然体験について自身の経験についてレポートにまとめる | 4時間 |
| 第2回 | **キャンプ組織と指導者養成**<br>教育キャンプ、組織キャンプについて、目的を達成するために必要な組織内の役割やシステムを知る。 | キャンプ指導者の役割を確認し、自然体験活動の指導者養成団体について調べる | 4時間 |
| 第3回 | **対象理解**<br>対象となる青少年、幼児、小学生、中高生、スペシャルニーズの特性をを知るとともに、様々なアウトドアスポーツ・キャンプの実践を紹介する | 幼児キャンプ、スペシャルニーズキャンプなどの多様な実践の取り組みついて調べる | 4時間 |
| 第4回 | **キャンプの企画**<br>企画に必要なねらい・6W2H1Sについてオリエンテーションキャンプを例に概説し、自分自身の興味のある目的・対象や興味のある活動でプログラムをデザインしてみる。 | キャンプを企画する | 4時間 |
| 第5回 | **装備と食料**<br>キャンプの企画の中でもマネジメントの大きな部分をを占める装備・食料（食事）計画の留意点について概説する。 | 2泊以上のキャンプ活動を想定し、必要な装備（個人、班、団体）についてリストを作成する | 4時間 |
| 第6回 | **キャンプの安全管理と健康管理**<br>キャンプ、自然体験活動における安全管理、安全教育の観点の具体的内容について概説する。また、キャンプの健康面・衛生面からの事例から説明を加える。 | アウトドアで事故が発生する要因や自然界に潜む危険要因についてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **キャンプでの危険：KYTとRME**<br>キャンプ・自然体験活動における指導者の危険予知責任・危険回避責任の内容を概説する | 危険予知トレーニング、リスクマネジメントエクササイズを実施する。 | 4時間 |
| 第8回 | **キャンプ中の事故と法的責任**<br>キャンプ・自然体験活動における事故時れを概説する。刑事判例、民事判例から指導者の責任について具体的な内容を知る。 | アウトドアやアウトドアスポーツ中の事故の判例を調べる。 | 4時間 |
| 第9回 | **フィールドと施設**<br>キャンプで利用される施設について民間・公立・国立の施設の現状や指定管理者制度にういて概説する。 | 多様な自然を活用したフィールドとその施設を調べる。 | 4時間 |
| 第10回 | **アウトドアスポーツの広報**<br>ビジネスモデルとして民間や附属センターで実践されているキャンプ<br>、自然体験活動の広報について調べ、分析する。 | 2泊以上のアウトドアスポーツ・キャンプ活動の参加者募集のパンフレットを作成する。 | 4時間 |
| 第11回 | **キャンプの観察と記録**<br>安全の観点から、自然体験活動実施中の指導者の観察を組織的役割から実施する。 | キャンプカウンセラー（班担当指導者）としてキャンプの1日を記録する。 | 4時間 |
| 第12回 | **キャンプの評価と効果**<br>自然体験活動の事業としての評価測定の方法と教育目的から効果測定の方法を知る。 | キャンプに関する研究についての評価・測定方法、教育目的を調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **キャンプの意義と指導者としての成長**<br>参加者の成長とそれに関わる指導者の成長の意義について議論し、指導者としての心得を再確認する。 | キャンプの標語を作成し、指導の心得の10箇条を作成する。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ及び総評**<br>各自で作成したキャンプ・アウトドアスポーツのプログラムデザイン・マネジメントデザイン・ポスター・評価方法について発表する。 | 実際に企画したプログラムやマネジメントの評価を行う。 | 4時間 |

SP-4406-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ政策・文化基礎演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **石井・黒須・佐藤・中道** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツ政策を学ぶ上で必要な「問題発見」の知識を習得することが当授業の目的である。なお、「社会課題」の解決に向けて、どのようにスポーツを活用できるのか。この点に関する学びの導入として当授業は位置づけられる。具体的には「社会課題」という一つの問題を発見するための視点を実際の事例を通して学ぶ。その際、学外連携学修として学外の組織と連携した授業を展開する。こうした一連の学びや方法を通して、問題を発見するための知識を身に付けることをねらいとする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 手段としてのスポーツに関する関心・意欲 | 社会課題を解決するための手段としてのスポーツの意義やあり方に関心をもって、授業課題に取り組むことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 手段としてのスポーツに関する知識の獲得 | 社会課題を解決するための手段としてのスポーツの意義やあり方に関する基礎知識を身に付けることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 「課題解決のためのスポーツ活用」に関する視点の獲得 | スポーツと社会課題の関係について、根拠にもとづき論理的に述べることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会課題の解決に向けた主体性や協調性の獲得 | 学生同士のグループワークや外部講師との意見交換を通して課題解決策を検討し、主体的な取り組みや協調性の重要性を理解し、実践することができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：NPO法人まちづくりスポット大津)

**授業方法**

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
「ICT　タイピング」「ICT　PowerPoint」「ICT　Excel」

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| グループワーク及びプレゼンテーションに関する取り組み | 60　% | ：　グループワークでの発言の有無、資料作成・プレゼンテーションにおける作業貢献度（量と質）、授業中の質問・意見発表等の有無を評価する。 |
| 授業課題（ワークシート） | 25　% | ：　指示された授業課題について、過不足なく記述ができているかを評価する。 |
| 期末レポート | 15　% | ：　レポート課題に対して、独自の観点から論じられているか、論理的に記述されているかを評価をする。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜授業内で参照する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【履修上の注意】
授業はグループワークを基本として進行する。
自主的に情報収集し、積極的にグループワークに参加する姿勢が必要である。
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項**：　　コース教員が全員担当する授業であるため、ガイダンス時に連絡先の詳細を提示する。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス、スポーツ政策・文化とは①**<br>授業全体の概要及び成績評価等について解説を行う。そのあと、スポーツ政策・文化コースのコースポリシーにもとづいたこの授業の位置づけや意義について理解を深める。 | コースの学びのなかで自分が関心をもっている領域や対象についてミニレポートに記載する。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ政策・文化とは②**<br>スポーツ政策やスポーツ文化を学んだり、考えたりする上で前提としておさえておくべき「スポーツの体験的な喜びや魅力」について理解する。 | 次週から取り組む学外連携学修に向けた準備として、連携先に関する情報を事前に調べておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **学外連携先についての調べ学習**<br>「NPO法人まちづくりスポット大津」の組織、理念、活動内容、スポーツとの関係等について調べ学習を行う。また、次週に向けた質問内容について熟考する。 | 調べ学習の内容を改めて整理し、次週の授業に活用可能な「メモ」に簡易化し、落とし込む。 | 4時間 |
| 第4回 | **外部講師による講和（NPO法人まちづくりスポット大津）**<br>①外部講師から「NPO法人まちづくりスポット大津」の組織、理念、活動内容、スポーツとの関係についての講和をいただき、先週の内容と合わせて総合的に理解する。また、②質疑を実施し、議論を行う。③外部講師から、実際の地域や社会における課題について提示いただく。 | ①～③の内容を次週に向けて整理する。 | 4時間 |
| 第5回 | **グループワーク：課題に対する検討①**<br>第4回で提示された「社会課題」を対象に、どのようにその課題をスポーツを用いて解決できるかグループで議論し、必要に応じて客観的なデータの収集や分析も行う。 | 検討①のグループワークシートを完成させる。 | 4時間 |
| 第６回 | **グループワーク：課題に対する検討②**<br>前回行った議論とデータ等の材料を用いて、提案内容を具体化する。 | 検討②のグループワークシートを完成させる。 | 4時間 |
| 第7回 | **グループワーク：課題に対する検討③他グループ間チェック**<br>前回具体化した提案内容を、他グループに簡易プレゼンし、質疑応答を通して、内容をブラッシュアップする。 | 検討③のグループワークシートを完成させる。 | 4時間 |
| 第8回 | **グループワーク：資料作成①**<br>「社会課題」の解決に向けたスポーツを用いた提案の内容を、対外的な発表として耐え得る資料（パワーポイント）として作成する。 | 資料（パワーポイント）に必要事項、内容をすべて記載しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **グループワーク：資料作成②他グループ間チェック**<br>資料（パワーポイント）を、他グループ間でチェックし、質疑応答を通して、「見せ方」をブラッシュアップする。 | 資料（パワーポイント）を完成させておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **グループワーク：発表練習**<br>作成した資料（パワーポイント）にもとづき、発表原稿を作成し、発表練習を行う。 | 本番に向けて練習しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **発表会①と講評（前半５グループ）**<br>外部講師（NPO法人まちづくりスポット大津）の前で、提示された「社会課題」に対するスポーツを活用した解決策の提案をプレゼンする（前半５グループ）。外部講師からは講評をもらう。 | 発表グループは発表の反省を、聴講グループは発表グループの講評をメモとして記載する。 | 4時間 |
| 第12回 | **発表会②と講評（後半５グループ）**<br>外部講師（NPO法人まちづくりスポット大津）の前で、提示された「社会課題」に対するスポーツを活用した解決策の提案をプレゼンする（後半５グループ）。外部講師からは講評をもらう。 | 外部講師（NPO法人まちづくりスポット大津）を招聘し、提示された「社会課題」に対するスポーツを活用した解決策の提案をプレゼンする。 | 4時間 |
| 第13回 | **グループで振り返り＆発表**<br>計2回の講評内容を受けて、どのようにその内容を受け止め、グループの気づきや学びにつなげたのか、反省と課題点をグループ内で議論し、発表する。 | 他のグループの省察も含めて発表内容を整理する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **全体振り返り**<br>授業全体の総括を行い、学外連携学修を通して学んだ社会課題の解決にスポーツを活用する視点を個々人で整理する。 | 期末レポートに取り組むこと。 | 4時間 |

SP-4407-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ政策・文化基礎演習II** | | | | |
| 担当教員名 | **石井・黒須・佐藤・中道** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

スポーツ政策を学ぶ上で必要な「問題発見」における問題の本質を理解することが当授業の目的である。なお、「社会課題」の解決に向けて、どのようにスポーツを活用できるのか。この点についての理解を、基礎演習Ⅰの内容を踏まえて深化させる学びの場として当授業は位置づけられる。具体的には「社会課題」という問題の本質について、コース教員の専門性にもとづく学術的な理論を学ぶ。こうした理論に立脚した実践力の基礎を身に付けることをねらいとする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 手段としてのスポーツに関する関心・意欲 | 社会課題を解決するための手段としてのスポーツの意義やあり方に関心をもって、授業課題に取り組むことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 社会課題の解決に向けた理論的知識の獲得 | 社会課題における問題の本質を学術的な理論に基づき理解することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 「課題解決のためのスポーツ活用」に関する学術的背景を踏まえた視点の明確化と言語化 | スポーツと社会課題の関係について、学術的根拠にもとづき論理的に述べることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 社会課題の解決に向けた主体性や協調性の獲得 | 学術的な理論を現場の社会課題に適用するために、他者と建設的な議論を展開することができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：未定)

**授業方法**

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

「ICT　タイピング」

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業課題（小テスト） | 30 % | ： | スポーツ政策に関わる理論について、要点を理解しているかどうか評価する。 |
| 授業課題（ミニレポート） | 30 % | ： | 指示された授業課題について、過不足なく記述ができているかを評価する。 |
| 期末レポート | 20 % | ： | レポート課題に対して、独自の観点から論じられているか、論理的に記述されているかを評価をする。 |
| 授業内課題（議論） | 20 % | ： | 指示された授業課題について、他者と建設的な議論を展開できているか、発言の回数や質を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適宜授業内で参照する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

【履修上の注意】
本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項**：　コース教員が全員担当する授業であるため、ガイダンス時に連絡先の詳細を提示する。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス及び基礎演習Ⅰの振り返り**<br>授業全体の概要及び成績評価等について解説を行う。そのあと、基礎演習Ⅰで学んだ内容と課題について振り返りを行う。 | 基礎演習Ⅰの期末レポートの内容の振り返りをしておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方①スポーツ政策の理論**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ政策の理論について学ぶ。 | スポーツ政策の理論の全体像を整理しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方②スポーツ政策の理論と実践**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ政策分野における実践研究の事例について学ぶ。 | スポーツ政策の実践研究の共通点や相違点について整理しておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方③スポーツ政策の理論と課題**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ政策における課題について学ぶ。 | スポーツ政策の課題について具体例を踏まえて整理しておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方④スポーツ社会学の理論**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ社会学の理論について学ぶ。 | スポーツ社会学の理論の全体像を整理しておく。 | 4時間 |
| 第６回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑤スポーツ社会学の理論と実践**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ社会学分野における実践研究の事例について学ぶ。 | スポーツ社会学の実践研究の共通点や相違点について整理しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑥スポーツ社会学の理論と課題**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ社会学における課題について学ぶ。 | スポーツ社会学の課題について具体例を踏まえて整理しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑦スポーツ文化の理論**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ文化の理論について学ぶ。 | スポーツ文化の理論の全体像を整理しておく。 | 4時間 |
| 第9回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑧スポーツ文化の理論と実践**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ文化分野における実践研究の事例について学ぶ。 | スポーツ文化の実践研究の共通点や相違点について整理しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑨スポーツ文化の理論と課題**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なスポーツ文化における課題について学ぶ。 | スポーツ文化の課題について具体例を踏まえて整理しておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑩アダプテッド・スポーツの理論**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なアダプテッド・スポーツの理論について学ぶ。 | アダプテッド・スポーツの理論の全体像を整理しておく。 | 4時間 |
| 第12回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑪アダプテッド・スポーツの理論と実践**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なアダプテッド・スポーツ分野における実践研究の事例について学ぶ。 | アダプテッド・スポーツの実践研究の共通点や相違点について整理しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **コース教員による問題発見の視点及び考え方⑫アダプテッド・スポーツの理論と課題**<br>「問題発見」における問題の本質を理解するために必要なアダプテッド・スポーツにおける課題について学ぶ。 | アダプテッド・スポーツの課題について具体例を踏まえて整理しておく。 | 4時間 |
| 第14回 | **全体振り返り**<br>各担当教員による授業全体の総括を行い、スポーツ政策における学問的理論、実践研究、課題の3点の内容について整理する。 | 期末レポートに向けて授業資料全体を振り返っておく。 | 4時間 |

SP-4417-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツ会計・ファイナンス** | | | | |
| 担当教員名 | **藤原　裕司** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 金融機関・スタートアップ支援機関の勤務した実務経験を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

本授業では、スポーツビジネスにおける財務・会計の基礎を学び、スポーツクラブやイベント、リーグ運営等の経済的側面を理解することを目的とします。スポーツ業界の収益モデルや財務諸表の読み方、資金調達方法、スポンサーシップの役割などを学び、クラブ経営や選手の資産管理といった実務的な視点を身につけます。また、国内外のスポーツビジネスの成功事例や財務課題をケーススタディとして取り上げ、実践的な思考力を養います。さらに、スポーツテクノロジーの発展やESG投資の影響など、最新のトピックについても触れ、未来のスポーツ業界における持続可能な経営戦略を考察します。全14回のオンデマンド授業を通じて、スポーツビジネスに携わる人材として必要なファイナンス・会計の知識を体系的に習得し、実務に活かせるスキルを養うことを目指します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツ業界における会計とファイナンスの財務会計の基本概念を理解し、知識・技能の修得 | スポーツ業界における会計とファイナンスの財務会計の基本知識・技能を持って財務分析ができるようになる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツ業界における会計とファイナンスの基本概念を理解し、財務状況の分析から考察・思考・表現ができる。 | スポーツ業界における会計とファイナンスの財務会計の基本知識・技能を応用して、財務分析を行い、考察・思考・表現できるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**成績評価の方法・評価の割合**

各回の課題や小レポート　100　%

**評価の基準**

：　各回の授業内容を正しく理解したうえで，適切な文字数、適切な回答ができているか否か、文字数や内容に不足がないか。

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて授業内で指示する

**履修上の注意・備考・メッセージ**

オンデマンド授業のため、各回の課題（小レポート）が重要。個人だけでなくグループワークもあるため、チームで課題に取り組む必要あり。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツビジネスとは？**<br>＊ | ＊ | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ市場の動向と経済的インパクト**<br>＊ | ＊ | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツビジネスのビジネスモデル** | ＊ | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | * | | |
| 第4回 | スポーツと会計の基礎<br>* | * | 4時間 |
| 第5回 | スポーツファイナンスの基礎<br>* | * | 4時間 |
| 第6回 | スポーツクラブ・団体の収益構造<br>* | * | 4時間 |
| 第7回 | スポーツとスポンサーシップ<br>* | * | 4時間 |
| 第8回 | スポーツ放映権とメディアビジネス<br>* | * | 4時間 |
| 第9回 | スポーツイベントの経済効果と収益管理<br>* | * | 4時間 |
| 第10回 | スポーツ選手のファイナンス<br>* | * | 4時間 |
| 第11.回 | スポーツ関連スタートアップと新規事業<br>* | * | 4時間 |
| 第12回 | スポーツビジネスにおける投資とM&A<br>* | * | 4時間 |
| 第13回 | スポーツとサステナビリティ・ESGファイナンス<br>* | * | 4時間 |
| 第14回 | まとめとケーススタディ<br>* | * | 4時間 |

SP-4607-2-1

| 授業科目名 | スポーツパフォーマンス分析基礎演習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 高橋・山田・吉川・岡部・玉城 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目では、スポーツパフォーマンス分析コースで学ぶ基礎的知識や技能を習得することを目的とする。前半は、グループに分かれて所属教員それぞれより動作分析、映像分析、ゲーム分析、パフォーマンス分析などに関する知識や技能を習得する。後半は、卒業論文の作成に必要な学術論文の要約や代表的な統計処理の手法等を学ぶ。また、スポーツフィールドで実際にスポーツパフォーマンス分析を行い、活躍している方の講義を聴き、現場におけるスポーツパフォーマンス分析の現状を理解する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツパフォーマンス分析における課題の探索 | スポーツパフォーマンス分析における課題を見出し、科学的根拠と実践的方法の接点と限界を説明することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 4年次の卒業論文の作成に向けた、課題設定やその解決方法を考えるための専門的な知識や技能 | 動作分析、映像分析、ゲーム分析、パフォーマンス分析領域における専門的な知識や技能を習得し、4年次の卒業論文に向けた課題設定ができるようになる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 卒業論文の作成に向けた、課題設定やその解決に向けた提案 | 動作分析、映像分析、ゲーム分析、パフォーマンス分析領域における課題について説明し、科学的根拠を示して解決の方法を提案することができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

ICT：タッチタイピング、PowerPoint、Excel、動画活用、専用機材を使用

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 領域別の授業に対する取り組み | 50 % | ： 各教員それぞれが2回の担当授業における成果を10点満点で評価（10点×5名）する。詳細は各担当者より授業内で伝達する。 |
| ゼミ選択と自然科学系領域の課題の理解 | 30 % | ： ゼミ選択に向けた自己理解とゼミ選択に向けた学習課題（15点×2回）。 |
| ゼミ形式の専門領域学習の取り組み | 20 % | ： ゼミ選択・専門領域における学習成果を24点満点で評価する。（10点×2回） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適時指定する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業時間前後の休み時間

**場所**： 教室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツパフォーマンス分析に関わる学問領域を理解し、自らの志向性と関連分野との関係性とそれらに必要な基礎的知識について理解を深める**<br>授業の進め方および到達目標や成績評価等について確認する。<br>第2回以降の授業の実施場所、準備物等を確認する。授業の進め方と到達目標および成績評価について確認する。特にレポート課題での評価の観点について理解する。 | 次週から始まる内容のうち，興味深いことについて予習をする. | 4時間 |
| 第2回 | **2次元動作分析のための撮影方法の習得（高橋）**<br>動作分析を行う上で欠かせない、高速度カメラを用いた動作の撮影方法を学修する。そして、2次元動作分析の撮影方法を学修する。 | 授業内容を元に、動作分析に適したビデオカメラについて検索・調査を行う | 4時間 |
| 第3回 | **2次元動作分析のためのデジタイズ法の習得（高橋）**<br>2次元動作分析のためのデジタイズ手法を学修し、2次元座標を算出する。 | 授業内容を元に、4点実長換算を用いた2次元座標を算出する | 4時間 |
| 第4回 | **パフォーマンスの言語化と集約（山田）**<br>パフォーマンスを分析・評価するためのパフォーマンスモデルを作成し、動作や戦術について深く言語化する。対象となるスポーツについて、運動や戦術行動を局面ごとに細分化し、それぞれに必要とされる要素をグループディスカッションとKJ法により集約しまとめる。また、AIやテキストマイニングツールを活用し、テキストデータの要約と分析を試行する。 | ユーザーローカルHPのテキストマイニングツールを使ってテキストマイニングを試行してみる | 4時間 |
| 第5回 | **心理的競技能力検査DIPCA-3の実施と評価（山田）**<br>心理的な能力をアンケートから評価することができる心理的競技能力検査DIPCA-3を実際に回答し、自分の記録をテンプレートに出力し、自己評価する。能力ごとに設定された改善のための要因から自分自身の能力向上のための取り組みを自己フィードバックする。 | DIPCA-3に関する論文や資料を検索し、活用方法を調査する | 4時間 |
| 第6回 | **二次元動作映像分析にかかる処理方法とその応用可能性（吉川）**<br>分析対象動作及び分析対象を踏まえ撮影・収録された動作映像に対する処理方法を概観し、それぞれの長所、短所について考察するとともに、それぞれの応用可能性について見識を広げる。 | 二次元動作映像分析に関する処理方法についてまとめる | 4時間 |
| 第7回 | **二次元動作映像分析にかかる処理方法（吉川）**<br>いくつかのスポーツ競技・種目への適用事例を踏まえ、受講生各自が興味・関心を持つ動作映像処理にかかるデータ処理及びデータ分析のプロセスやデータフィードバック活動の具体的な活動内容に必要な事項ついて学修し、見識を広げる | 授業内容を元に、先行研究を検索して具体的な活動内容を計画する | 4時間 |
| 第8回 | **映像を用いたスポーツパフォーマンス分析の種類と特徴（岡部）**<br>様々なスポーツ現場において実践されている、映像を用いたスポーツパフォーマンス分析の種類と特徴について学修する。 | TV放送で流れているスポーツパフォーマンスの可視化方法について調査する。 | 4時間 |
| 第9回 | **スマートフォンアプリを用いたスポーツパフォーマンス分析の実践（岡部）**<br>スマートフォンやタブレットを用いて撮影した映像データを用いてスポーツのパフォーマンスを可視化する手法の種類について学び、簡単な分析を実践する。 | スポーツパフォーマンス分析用のスマートフォン向けアプリの種類について調査する。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツパフォーマンス分析における質的・量的分析の実践（玉城）**<br>スポーツパフォーマンス分析を行うために用いられる情報の種類毎の特徴を掴むとともに、質的・量的分析における長所と短所を把握する。 | 質的研究と量的研究について文献などを元に概観する | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツパフォーマンス分析を支えるテクノロジーの進化（玉城）**<br>手作業による記述分析を実施することで、現代のスポーツにおけるスポーツテクノロジーの進化について学修し、その見識を広げる。 | 記述分析を完了させる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第12回 | **教員によるゼミ紹介**<br><br>コース教員の取り扱いテーマを基に、自己の専門領域の関連性や具体的な研究課題について理解を深める。<br>他者やグループでのディスカッションにより、自己の興味のある専門領域と関連する領域における研究課題について思考を深める。 | コース教員とディスカッションを行い、今後の研究課題をまとめる | 4時間 |
| 第13回 | **外部講師による講義**<br><br>スポーツフィールドにおいてスポーツパフォーマンス分析を行い、活躍している方による講義を聴き、講師及びグループでディスカッションを行う。 | 外部講師の実績（研究・実践）について調査し、講義内容についてさらに理解を深める | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ**<br><br>これまでの授業をまとめ、後期に取り組む研究や実践的課題研究の計画を立てる。 | 研究・実践的課題研究の計画をコース教員と話し合う | 4時間 |

SP-4608-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツパフォーマンス分析基礎演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | 高橋・山田・吉川・岡部・玉城 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目では、スポーツパフォーマンス分析基礎演習Ⅰで学んだ基礎的知識や技能を元に、実際の現場でスポーツパフォーマンス分析を行い、実践力を身につけることを目的とする。前半は、各教員がそれぞれの専門分野について講義し、実際にデータ収集および分析を行う。その際、グループワークやスポーツフィールドでのデータ収集など、実際の現場に近い形での授業を行う。また、スポーツフィールドで実際にスポーツパフォーマンス分析を行い、活躍している方の講義を聴き、現場におけるスポーツパフォーマンス分析の現状を理解する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | データの収集を行う上での、課題設定やその解決方法を考えるための専門的な知識や技能 | 動作分析、映像分析、ゲーム分析、パフォーマンス分析領域における専門的な知識や技能を習得し、4年次の卒業論文に向けた課題設定ができるようになる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | データ分析およびフィードバックに向けた、課題設定やその解決方法の提案 | 動作分析、映像分析、ゲーム分析、パフォーマンス分析領域における課題について説明し、科学的根拠を示して解決の方法を提案することができるようになる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | データ収集やフォードバックを行う際の、グループワークに対する主体性や協調性 | スポーツパフォーマンスはチームで行われるため、主体性や協調性を持ってデータ収集やフィードバックに関わることができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク

ICT：タッチタイピング、PowerPoint、Excel、動画活用、専用機材を使用

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 領域別の授業に対する取り組み | 50 % | ： | 各教員それぞれが2回の担当授業における成果を10点満点で評価（10点×5名）する。詳細は各担当者より授業内で伝達する。 |
| ゼミ選択と自然科学系領域の課題の理解 | 30 % | ： | ゼミ選択に向けた自己理解とゼミ選択に向けた学習課題（15点×2回）。 |
| ゼミ形式の専門領域学習の取り組み | 20 % | ： | ゼミ選択・専門領域における学習成果を24点満点で評価する。（10点×2回） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適時指定する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業時間前後の休み時間

**場所**： 教室

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツパフォーマンス分析に関わる学問領域を理解し、自らの志向性と関連分野との関係性とそれらに必要な基礎的知識について理解を深める**<br>授業の進め方と到達目標および成績評価について確認する。特にレポート課題での評価の観点について理解する。<br>第2回以降の授業の実施場所、準備物等を確認する。 | 次週から始まる内容のうち，興味深いことについて予習をする. | 4時間 |
| 第2回 | **3次元動作分析のための動作の撮影方法の修得（高橋）**<br>3次元動作分析を行うための撮影を行う。3次元動作分析で分析できる試技について理解する。 | 3次元動作分析 | 4時間 |
| 第3回 | **3次元動作分析のためのデータ処理（高橋）**<br>第3回で撮影したデータを元にデジタイズを行い、3次元座標を算出する。 | 授業内容を元に、3次元座標を算出しておく | 4時間 |
| 第4回 | **パフォーマンスのスタッツ分析におけるデータ収集と解析（山田）**<br>サッカーを実例に、ダートフィッシュなどのアプリを用いてタギングによるスタッツの収集を行う。収集データをエリアや成否などの名義尺度データにより分類し、グラフを作成し見える化したものを評価しスライドを作成する。 | J STATS REPORTを検索しスタッツ分析の事例を調査する | 4時間 |
| 第5回 | **パフォーマンスのスタッツ分析のプレゼンテーション（山田）**<br>サッカーを実例に、ダートフィッシュなどのアプリを用いて収集したデータによる評価をスライドを用いて発表する。動画、データを活用したプレゼンテーションを実践する。 | 中高生・スポーツデータ解析コンペティション―2023―のポスターを調査する | 4時間 |
| 第6回 | **実例から学ぶ２次元動作映像のデータ処理（吉川）**<br>受講生各自が興味・関心を持つスポーツ競技・種目について分析対象動作及び分析目的を設定するために、先ずゲーム・パフォーマンスにかかる先行関連研究の知見について調べ学習を行う。データ処理に用いる道具立ての特性を踏まえ、受講生が実習するデータ処理プロセスの実行可能性について議論し、その構想を取り纏める。 | ゲーム・パフォーマンスにかかる先行関連研究を検索し、内容を理解する | 4時間 |
| 第7回 | **実例から学ぶ２次元動作映像に基づくデータフィードバック（吉川）**<br>受講生各自が興味・関心を持つスポーツ競技・種目の分析対象動作について、データフィードバック対象にコンテンツをフィードバックするまでのプロセスを実習し、スポーツパフォーマンス分析の分野における2次元動作映像の活用方法とその応用可能性について見識を広げる。 | 2次元動作映像の活用方法とその応用可能性について検討し、理解を深める | 4時間 |
| 第8回 | **関節角度と身体重心の算出方法（岡部）**<br>２次元座標データから身体の各関節角度や身体重心位置を算出する方法を学び、身近なスポーツ動作を例に挙げて実際に算出する。 | 身体重心を用いたスポーツ動作分析の事例について調査する。 | 4時間 |
| 第9回 | **関節角度と身体重心算出の実践（岡部）**<br>Excel（Microsoft）を用いて、２次元座標データから、身体の各関節角度や身体重心位置を算出し、グラフを作成する手法を学ぶ。 | 部分重心の概念と係数について調査する。 | 4時間 |
| 第10回 | **競技力向上のための映像分析ツールの活用（玉城）**<br>ボールゲームにおいて質的・量的な分析の双方を活用する重要性を理解するために、ゲーム・パフォーマンス分析の種類や特性を学修する。その上で、映像分析ツールが果たす役割とその支援可能性を理解する。 | ゲーム・パフォーマンス分析の種類や特性を理解し、先行研究を概観する | 4時間 |
| 第11回 | **映像分析ツールを活用したデータフィードバック（玉城）**<br>ボールゲームにおける選手・チームの意思決定を支援するためのデータフィードバック方法について、複雑な事象が絡まり合うスポーツパフォーマンスを要約するプロセスと、その優先順位を学修する。 | 実際にデータフィードバックが行われている事例を調査し、まとめる | 4時間 |
| 第12回 | **ゼミの選択およびゼミ活動に関するディスカッション**<br>学生の希望を調査してゼミ選択を行う。そしてゼミごとに担当教員とディスカッションを行い、次年度以降の活動について理解を深める。 | コース教員とディスカッションを行い、今後の研究課題をまとめる | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第13回 | **外部講師による講義**<br><br>スポーツフィールドにおいてスポーツパフォーマンス分析を行い、活躍している方による講義を聴き、講師及びグループでディスカッションを行う。 | 外部講師の実績（研究・実践）について調査し、講義内容についてさらに理解を深める | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ**<br><br>これまでの授業をまとめ、3年次専門実習およびゼミ活動において取り組む研究や実践的課題研究の計画を立てる。 | 研究・実践的課題研究の計画をゼミ教員と話し合う | 4時間 |

SP-4616-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **ハイパフォーマンスの科学** | | | | |
| 担当教員名 | **岡部　優真** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

ハイパフォーマンスの科学では、スポーツバイオメカニクスのデータを用いて、アスリートのパフォーマンスを科学的に分析し、向上させる方法を学びます。現代のスポーツ科学において、データ解析と可視化は不可欠な要素となっており、本授業ではPythonを活用してこれらの技術習得を目指します。スポーツ動作の２次元座標データ、３次元座標データ、床反力系から得られたデータなど、実際のデータを扱いながら、スポーツ現場へアドバイスを提供する方法を学習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | 実際のデータセットを用いたプロジェクトを通じて、問題を発見し、解決策を考え、実行する能力の習得 | スポーツバイオメカニクスのデータを客観的に捉え、動作課題をを指摘できるようになる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学習した内容（理論・実践）をスライド資料にまとめて発表する能力およびスポーツ現場へのデータ提供 | 学習した内容をハイパフォーマンスの実現に結び付けることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

毎回の講義では、学習内容に関するレポート課題の提出を求める。
やむなく講義を欠席する際には、レポート課題の内容を自主的に調査して提出すること。
授業の復習・予習を目的とした自宅学習課題の提出を求めることから、自宅での学習・調査が必須となる。
プレゼンテーションやグループ課題の準備のために、授業時間外での学習・調査・発表準備が必要となる。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各講義におけるレポート課題 | 50 % | ： 到達目標を達成している：評価の基準×5点（25点満点）<br>個人やグループの意見が述べられているか？：評価の基準×4点（20点満点）<br>自身の活動への応用内容が述べられているか？：評価の基準×1点（5満点） |
| 授業内プレゼンテーション | 40 % | ： プレゼンテーション作成と発表への貢献・参加度：評価の基準×4点（20点満点）<br>到達目標を達成している：評価の基準×3点（15点満点）<br>個人やグループの意見が述べられているか？：評価の基準×1点（5点満点） |
| 予習・復習課題 | 10 % | ： 全ての課題が提出されおり、全ての回答が適切になされている：評価の基準×2点（10点満点） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

データサイエンス教本 ： Pythonで学ぶ統計分析・パターン認識・時系列データ分析・深層学習（オーム社）
R・Pythonによる統計データ科学（勉誠出版）
Pythonの絵本 ： Pythonを楽しく学ぶ9つの扉 （翔泳社）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
本講義を受講するに際して、スポーツバイオメカニクス概論、動作分析法、スポーツバイオメカニクス理論と実践Ⅰ、スポーツバイオメカニクス理論と実践Ⅱを履修していることが望ましい。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業終了後など

**場所**： 講義場所、B211研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業の概要説明と目標設定**<br>授業の概要、目標、評価方法、使用ツールの紹介。現在のICTスキルと目標を確認し、全体の流れを理解する。 | Excel（Microsoft）の基本t京奈操作方法を理解しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **Python環境のセットアップ**<br>Pythonのインストール手順、IDEの設定、基本的な作業環境の構築方法を学ぶ。 | Pyhtonの動作環境や各種ディストリビューションについて調査する。 | 4時間 |
| 第3回 | **Pythonの基礎**<br>Pythonの基本文法、データ型、制御構文について学び、簡単なプログラムを作成する。 | Pythonプログラミング言語の特徴について調査する。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツバイオメカニクスデータ収集とクリーニング**<br>スポーツバイオメカニクスデータの収集方法、データクリーニングの基本手法を学ぶ。 | FrameDiasやViconNexus等のソフトウエアから出力されるデータの特徴を整理する。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツバイオメカニクスデータの可視化**<br>MatplotlibやSeabornを使った基本的なデータの可視化手法を学び、グラフを作成する。 | 基本的なグラフの種類や、スポーツバイオメカニクスの分野で多用されるデータの化しか方法について調査する。 | 4時間 |
| 第6回 | **NumPyとPandasの基礎**<br>NumPyとPandasを使ったデータ操作の基本を学び、データフレームの操作方法を習得する。 | 「NumPy」や「Pandas」がどのような特徴を持ったライブラリであるかを調査する。 | 4時間 |
| 第7回 | **SciPyによるデータ解析**<br>SciPyを使ったデータ解析手法の基本を学び、統計解析や信号処理の基礎を習得する。 | 「Scipy」がどのような特徴を持ったライブラリであるかを調査する。 | 4時間 |
| 第8回 | **時系列データの解析**<br>時系列データの基本概念、解析手法を学び、Pythonでの実装方法を習得する。 | 時系列データの特徴やデータ配列について調査する。 | 4時間 |
| 第9回 | **モーションキャプチャデータの前処理**<br>モーションキャプチャデータの前処理方法を学び、データの整形やノイズ除去を行う。 | ViconNexusで出力できるCSVデータの種類について調査する。 | 4時間 |
| 第10回 | **モーションキャプチャデータの基本的な描画**<br>基本的なモーションキャプチャデータの描画方法を学び、2Dプロットを作成する。 | Python上での2Dプロットの手法と具体的な実装例について調査する。 | 4時間 |
| 第11回 | **モーションキャプチャデータの詳細な描画**<br>詳細な描画手法を学び、3Dプロットの作成方法を習得する。 | Python上での3Dプロットの手法と具体的な実装例について調査する。 | 4時間 |
| 第12回 | **モーションキャプチャデータの応用的な描画**<br>応用的な描画手法を学び、アニメーションの作成方法を習得する。 | Python上でのアニメーション作成の手法と具体的な実装例について調査する。 | 4時間 |
| 第13回 | **モーションキャプチャデータの実践的な描画**<br>実際のデータセットを用いた描画プロジェクトを行い、研究発表へ応用可能な実践的なスキルを習得する。 | 研究発表におけるモーションキャプチャデータの可視化方法について調査する。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめと発表**<br>授業の総括を行い、学生同士の発表とフィードバックを通じて学びを深める。 | 学修した理論や手法を、自身のスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |

SP-4618-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツパフォーマンス特別講義** | | | | |
| 担当教員名 | 高橋　佳三 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

「スポーツパフォーマンス分析特別講義」は、スポーツ科学の理論と実践を融合させ、学生がスポーツパフォーマンスの向上に寄与する分析技術を習得することを目的としています。本講義では、データ分析、ビデオ解析、バイオメカニクス、心理学的アプローチなど、多角的な視点からスポーツパフォーマンスを評価し、改善策を提案する能力を養います。さらに、実際のスポーツ現場での応用を通じて、理論と実践のギャップを埋めることを目指します。外部講師による講演やディスカッションを通じて、最新の研究動向や実践例を学び、学生の視野を広げることも重視します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツパフォーマンス分析がスポーツの成果向上にどのように寄与するかを理解し、その知識を深めるために自主学修する意欲を持つ | スポーツパフォーマンス分析がスポーツフィールドで役立つための知識を自主学修するための関心・意欲を醸成できる |
| 2. DP2.知識・技能 | 外部講師の講演や最新の研究動向に触れることで、スポーツ科学の進展について学修する | スポーツ科学の進展について最新の研究動向に触れながら理解できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 収集したデータを基にパフォーマンスを評価し、分析結果をプレゼンテーションやレポートとしてまとめ、明確かつ説得力のある形で発表するスキルを身につける | 収集したデータを基にパフォーマンスを評価し、具体的な改善策を提案する能力を養い、分析結果をプレゼンテーションやレポートとしてまとめ、明確かつ説得力のある形で発表するスキルを身につけることができる |

**学外連携学修**

有り(連携先：外部講師（未定）)

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

ICT：Word、Excel、PowerPoint、その他各教員が使用する専門アプリ

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 出席と参加 | 20 % | ： 授業でのディスカッションや演習への積極的な参加状況を評価する。 |
| 課題 | 30 % | ： 各回の授業後に出される課題の提出や、データ分析やビデオ解析の実践課題について評価する。 |
| 学期末プロジェクト | 50 % | ： 学期末に発表するプロジェクトの内容とそのプレゼンテーション<br>プロジェクトの独創性、分析の深さ、実践的な応用力について評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適時指定します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業時間前後の休み時間

**場所**：　教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクションとオリエンテーション**<br>授業の概要と目的を説明し、スポーツパフォーマンス分析の基本概念について講義を行う。 | 次週から始まる内容のうち、興味深いことについて予習をする。 | 4時間 |
| 第2回 | **データ分析の基礎**<br>データ収集方法と統計解析の基本について講義し、実際のスポーツデータを用いた演習を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第3回 | **ビデオ解析技術**<br>ビデオ解析ソフトの使い方について講義し、実際の試合映像を用いた分析の演習を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第4回 | **バイオメカニクスの基礎**<br>運動の力学的原理について講義し、バイオメカニクスを用いたパフォーマンス評価についての演習を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第5回 | **心理学的アプローチ**<br>スポーツ心理学の基本理論について講義し、メンタルトレーニングの実践を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第6回 | **フィジカルコンディショニング**<br>トレーニングプログラムの設計について講義し、フィジカルテストとその評価方法に関する演習を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第7回 | **チームスポーツのパフォーマンス分析**<br>チーム戦術と個人パフォーマンスの関係について講義し、チームスポーツにおけるデータ活用について演習を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第8回 | **個人スポーツのパフォーマンス分析**<br>個人競技におけるパフォーマンス評価について講義し、個別トレーニングの設計について演習を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第9回 | **外部講師講演**<br>最新のスポーツパフォーマンス研究について外部講師の講演を聴き、講演後にディスカッションを行う。 | 外部講師の講演内容についてまとめ、それに関するレポートを提出する。 | 4時間 |
| 第10回 | **外部講師講演に関するディスカッション**<br>実際のスポーツ現場での分析事例について講義し、外部講師の講演内容と照らし合わせてディスカッションを行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第11回 | **最新技術の応用**<br>ウェアラブルデバイスとそのデータ活用について講義し、最新の分析ツールとソフトウェアを用いた演習を行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第12回 | **ケーススタディ**<br>実際のスポーツチームや選手のケーススタディについて講義し、問題解決のための分析手法についてディスカッションを行う。 | 授業内でできなかった演習内容や提示された課題について提出する。 | 4時間 |
| 第13回 | **プロジェクト発表準備**<br>学期末プロジェクトの準備を行う。発表内容をブラッシュアップする。 | 次週の発表に向けた準備をグループごとに行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **プロジェクト発表とフィードバック**<br>学生によるプロジェクト発表を行い、教員と学生からのフィードバックを行う。 | フィードバックを元にプロジェクトをブラッシュアップする。 | 4時間 |

SP-4619-2-2

| 授業科目名 | スポーツバイオメカニクス理論と実践Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 高橋・岡部 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

この授業の目的は、スポーツバイオメカニクスの基本理論とその応用について学ぶことです。学生は、運動のバイオメカニクス的原則を理解し、スポーツパフォーマンスの向上や怪我の予防に役立てるための知識を身につけます。具体的には、運動の分析方法や測定技術を学び、実際のスポーツシーンでの応用力を養います。高橋は主にデジタイズの手法を用いた分析方法、岡部は主にモーションキャプチャーを用いた分析方法について講義します。

また、最新の研究成果や技術を取り入れ、実践的なスキルを高めることを目指します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツバイオメカニクスで用いられるデータ収集方法の習得 | スポーツバイオメカニクスで用いられるデータ収集方法（ビデオ撮影、デジタイズ、2次元および3次元動作分析）を利用してデータ収集ができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツバイオメカニクスの原理を元にしたスポーツ動作の理解 | 運動のバイオメカニクス的原則を理解し、スポーツの動作についてスポーツバイオメカニクス的観点から理解できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

ICT：Office、フレームディアス（デジタイズ）、MATLABまたはPython（計算）、Visual3D（モーションキャプチャ）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 研究計画の立案 | 25 % | ： 研究計画立案への取り組み（レポートや課題などを含む） |
| 実験方法の理解度 | 25 % | ： 撮影および計測方法（撮影、モーションキャプチャーなど）の理解度（レポートや課題などを含む） |
| 実験や計測への取り組み | 25 % | ： 実験準備、実験や計測、研究対象者など、実験や計測に関する全ての事象への取り組み（レポートや課題などを含む） |
| フィードバックやプレゼンの内容 | 25 % | ： データ算出や研究対象者へのフィードバック、プレゼンテーションなど（レポートや課題などを含む） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適時指示します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業時間前後の休み時間

**場所**： 教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス：スポーツバイオメカニクスの基本概念**<br>授業の目的と概要について説明する。また、スポーツバイオメカニクスの基本概念や運動のバイオメカニクス的原則について、これまで受講した授業（スポーツバイオメカニクス概論など）を元にディスカッションを行う。 | 次週から始まる内容のうち、興味深いことについて予習をする。 | 4時間 |
| 第2回 | **撮影機材について（理論編）**<br>動作分析を行う上で必要な動作の撮影を行う際の、高速度カメラに関して、ピント、シャッタースピード、撮影スピードなど必要な設定が行えるよう、詳細を理解する。 | 授業内容を元に、動作分析に適したビデオカメラについて検索・調査を行う | 4時間 |
| 第3回 | **2次元動作分析のための撮影と実長換算について（理論編）**<br>2次元動作分析では、4点実長換算、4点実長換算（パンニング）、2次元パンニングDLT法などの手法も用いて2次元座標を算出する。本講では、2次元座標の算出方法について、理論を理解する。 | 授業内容を元に、4点実長換算を用いた先行研究を検索し、読んでおく | 4時間 |
| 第4回 | **平滑化について（理論編）**<br>2次元実長換算を行うと、基本的にはデータにノイズが含まれる。そのノイズを除去するために、平滑化（スムージング）が行われる。本講では、平滑化の考え方、計算方法、最適遮断周波数の決定方法などについて理解する。 | 授業内容を元に、平滑化を用いた先行研究を検索し、最適遮断周波数についての記述などについて理解する。 | 4時間 |
| 第5回 | **3次元動作分析のためにキャリブレーションについて（理論編）**<br>3次元動作分析では、2台以上で撮影した映像から3次元座標を算出するが、その際に必ず必要となるのがキャリブレーションであり、キャリブレーションポールや較正マークを撮影してそこからカメラ定数を計算する。本講では、キャリブレーションの方法とカメラ定数の計算方法について理解する。 | 授業内容を元に、カメラ定数を用いた先行研究を検索し、理解する。 | 4時間 |
| 第6回 | **3次元座標算出について（理論編）**<br>2台以上のカメラで撮影した身体分析点をデジタイズし、DLT法を用いて3次元座標を算出する。本講では2台以上のカメラからのデジタイズ手法と、デジタイズデータからの3次元座標算出方法について理解する。そして、平滑化を行う。 | 授業内容を元に、3次元動作分析を行っている先行研究を検索し、方法について理解する。 | 4時間 |
| 第7回 | **2次元および3次元座標からのパラメータ算出について（理論編）**<br>2次元および3次元座標が算出できたら、速度や角度などのパラメータを算出する。本講では速度算出の方法（3点微分法や5点微分法）、角度算出方法（三角関数や移動座標系の設定）などについて理解する。 | 授業内容を元に、先行研究を検索してどのようなパラメータが比較されているかを理解する。 | 4時間 |
| 第8回 | **モーションキャプチャとは（モーションキャプチャの技術と収集可能なデータ）**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムの技術と、光学反射式モーションキャプチャシステムを用いて収集可能なデータの種類や活用される分野について理解する。 | モーションキャプチャの導入事例（映画、アニメーション、スポーツ等）について調査する。 | 4時間 |
| 第9回 | **モーションキャプチャとは（システムを構成する機材と設置・設定の方法）**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムにおける赤外線カメラ、ハイスピードカメラ、フォースプレート等、各種接続機材の設定項目について理解する。 | VICONカメラの特徴について調査する。 | 4時間 |
| 第10回 | **モーションキャプチャを用いたデータの収集**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムを用いて身体分析点の３次元座標値を収集する。 | ３次元座標データの基本的な取り扱いや、解釈の仕方について調査する。 | 4時間 |
| 第11回 | **身体モデルの理解と作成**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムを用いて収集した静止姿勢のデータをもとに作成する身体モデル（セグメント、リンク構造）について理解する。 | スポーツバイオメカニクスにおける「セグメント」「リンク構造」の概念について調査する。 | 4時間 |
| 第12回 | **Plug-in Gaitモデルを用いたスポーツ動作の撮影**<br>Plug-in Gaitモデルを用いたスポーツ動作の解析方法について学び、データを収集する。 | Plug-in Gaitモデルに必要な各種パラメータについて調査し、測定方法を理解しておく。 | 4時間 |
| 第13回 | **モーションキャプチャデータのクリーニング** | モーションキャプチャデータを含むバイオメカニクスデータの基本的なクリーニング方法について調査する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 光学反射式モーションキャプチャシステムを用いて収集したデータのクリーニング方法について学び、実際に収集したデータを他のソフトウエアでも扱える形式へ変換する。 | | |
| 第14回 | **授業のまとめ**<br><br>デジタイズやモーションキャプチャを用いた動作分析の方法についてまとめると共に、卒業論文に向けた研究計画の立案などを行い、スポーツバイオメカニクス的な研究方法について理解を深める。 | 研究計画をまとめ、提出する | 4時間 |

SP-4620-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツバイオメカニクス理論と実践Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **高橋・岡部** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

この授業の目的は、スポーツバイオメカニクスの応用と高度な分析技術を習得することです。学生は、より複雑な運動の解析や、個別のスポーツ選手に対するパフォーマンス評価を行う能力を養います。さらに、実際のデータを用いたケーススタディを通じて、理論と実践を結びつける力を強化します。最終的には、スポーツ科学の専門家として、現場での問題解決能力を高め、スポーツの現場で即戦力となる人材を育成することを目指します。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツバイオメカニクスで用いられるデータの処理方法の理解 | 理論と実践Ⅰで収集したデータを、Excel、Matlab、Pythonなどのプログラム言語を用いて処理することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 処理したデータを元にしたプレゼンテーション方法の理解 | 処理したデータを元に、分かりやすくプレゼンテーションを行う事ができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

ICT：Office、フレームディアス（デジタイズ）、MATLABまたはPython（計算）、Visual3D（モーションキャプチャ）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| プログラミングの理解 | 50 % | ： プログラミング言語を用いて、プログラムを作成・運用することができる。 |
| プレゼンテーション | 50 % | ： プレゼンテーションの資料を整え、分かりやすくプレゼンテーションすることができる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

適時指示します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業時間前後の休み時間

**場所**： 教室

備考・注意事項：

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス：スポーツバイオメカニクスの歴史と成り立ち**<br>授業の目的と概要について説明する。また、スポーツバイオメカニクスの歴史と成り立ちについて理解する。 | 次週から始まる内容のうち、興味深いことについて予習をする。 | 4時間 |
| 第2回 | **撮影機材について（実践編）**<br>高速度カメラを用いて、ピント、シャッタースピード、撮影スピードなどを合わせながら、動作の撮影を行う。 | 撮影した映像を整理し、次週以降の授業で利用しやすいようにまとめておく | 4時間 |
| 第3回 | **2次元動作分析のための撮影と実長換算について（実践編）**<br>フレームディアスというアプリを用いて身体分析点をデジタイズし、4点実長換算、4点実長換算（パンニング）、2次元パンニングDLT法を用いて2次元座標を算出する。 | 次週の授業までにデジタイズを終えておく。 | 4時間 |
| 第4回 | **平滑化について（実践編）**<br>データのノイズを除去するための平滑化について、最適遮断周波数を決めながら平滑化を行う。 | 次週までに平滑化を終えておく。 | 4時間 |
| 第5回 | **3次元動作分析のためにキャリブレーションについて（実践編）**<br>3次元座標算出のために撮影したキャリブレーションポールを元に、カメラ定数を算出する。 | 次週までに、カメラ定数を算出しておく。 | 4時間 |
| 第6回 | **3次元座標算出について（実践編）**<br>デジタイズした身体分析点とカメラ定数から、3次元座標値を算出する。 | 次週までに3次元座標値を算出しておく。 | 4時間 |
| 第7回 | **2次元および3次元座標からのパラメータ算出について（実践編）**<br>2次元および3次元座標が算出できたら、速度（3点微分法や5点微分法）や角度（三角関数や移動座標系の設定）などのパラメータを算出する。 | 授業内容を元に、パラメータを算出しておく。 | 4時間 |
| 第8回 | **モーションキャプチャを用いた撮影の事前準備（機材の役割と設営）**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムを構築する各種機材の役割、適切な接続方法を理解し、システムの起動とデータベースの作成までを実践する。 | LANケーブルの取り扱いについて、特にコイル巻きの方法について調査し、理解する。 | 4時間 |
| 第9回 | **モーションキャプチャを用いた撮影の事前準備（キャリブレーション）**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムにおけるキャリブレーションの方法を理解した上で、データ収集の環境を適切に構築し、キャリブレーションを実践する。 | モーションキャプチャシステムにおけるキャリブレーションの特徴について調査する。 | 4時間 |
| 第10回 | **モーションキャプチャデータの構造**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムを用いて収集した身体分析点の３次元座標値を出力し、出力されたデータの構造を理解する。 | ViconNexusで出力できるCSVデータの種類について調査する。 | 4時間 |
| 第11回 | **ラベリング、ギャップフィリング、フィルタリングの方法**<br>光学反射式モーションキャプチャシステムを用いて収集した静止姿勢のデータをもとに作成する身体モデル（セグメント、リンク構造）を試技映像に読み込み、ラベリング、ギャップフィリング、フィルタリングを行う方法を学び、実践する。 | Butterworth filterという手法の仕組みと利用される場面について調査する。 | 4時間 |
| 第12回 | **Plug-in Gaitモデルを用いたスポーツ動作の解析**<br>Plug in Gaitモデルを用いて収集したデータの出力方法と解析方法を理解し、実践する。 | Plug-in Gaitモデルによって算出できるデータの種類について調査する。 | 4時間 |
| 第13回 | **解析結果の可視化と発表**<br>モーションキャプチャを用いて収集したデータを解析した結果を可視化し、スライドを用いて発表する。 | 研究発表におけるモーションキャプチャデータの可視化方法について調査する。 | 4時間 |
| 第14回 | **授業のまとめ**<br>デジタイズやモーションキャプチャを用いた動作分析の方法についてまとめると共に、卒業論文に向けた研究計画の立案などを行い、スポーツバイオメカニクス的な研究方法について理解を深める。 | 研究計画をまとめ、提出する | 4時間 |

SP-4515-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツマネジメント・ガバナンス論** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉　秀和** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 経済産業省スポーツ産業室長として、国内スポーツ産業政策に関する従事経験あり。 | | | | |

**授業概要**

本講義では、スポーツマネジメントとガバナンスに関する基本概念、原則、実践例について学習するとともに、スポーツ組織の運営や管理手法、ガバナンスの課題とその解決策について自身の考察や見解を通じて明らかにし、スポーツ界の健全な発展に寄与するための基盤を築くことを目指す。
本講義を修了した学生は、スポーツマネジメントとガバナンスに関する基礎知識を理解し、実践的な課題解決のスキルを身につけることを期待したい。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツマネジメント・ガバナンスに関する基礎的理解 | スポーツマネジメントとガバナンスの基本的な理論やスポーツ組織、イベント運営における実践的な課題を理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツマネジメント・ガバナンスの課題に関する考察 | ガバナンスの重要性が課題に対する解決策について、自身の意見を具体的に述べることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 授業内レポート | 40　% | ：　講義内容を踏まえ、自身の考えや意見について論じることができているか。 |
| 期末レポート | 60　% | ：　講義内容を踏まえ、自身の考えや新たな視点による意見などが明確かつ論理的に記述されているか。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

本講義はオンデマンド形式にて実施するため、計画的な受講が出来るよう自己管理に努めること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **導入：スポーツマネジメントとガバナンス**<br>本講義における概要説明とスポーツマネジメント・ガバナンスに関する基本概念を理解する。 | 授業資料による復習を通じて、基本的知識の理解を深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツ組織の構造と機能**<br>スポーツ団体における概要や運営構造を理解するとともに、その機能や課題について理解を深める。 | 授業資料による復習を通じて、基本的知識の理解を深める。 | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツイベントの運営と管理**<br>スポーツイベントにおける企画立案、運営、資金調達に関する基本を理解するとともに、そのマネジメント手法やリスクに関する理解を深める。 | 授業資料による復習を通じて、基本的知識の理解を深める。 | 4時間 |
| 第4回 | **ガバナンスの原則：透明性と説明責任**<br>ガバナンスにおける透明性と説明責任に関する基本的事項を理解するとともに、各事例を通じて、その重要性を理解する。 | 配布資料をもとに自身の見解をまとめること。 | 4時間 |
| 第5回 | **ガバナンスしての倫理的課題**<br>トップアスリートにおける倫理的課題（ドーピングや八百長問題等）について、基礎的知識を理解するとともに、現状や課題ならびに国際基準に関する事項について理解を深める。 | 配布資料をもとに、倫理的課題に関する問題点について、理解と考察に努めること。 | 4時間 |
| 第6回 | **資金管理とスポンサーシップ**<br>スポーツ団体における資金管理マネジメントとスポンサーとの契約ならびに倫理的配慮に関する理解を深める。 | 配布資料をもとに、資金管理に関する問題点について、理解と考察に努めること。 | 4時間 |
| 第7回 | **ジェンダーと多様性社会**<br>スポーツマネジメントとしてのインクルージョンと多様性に関する理解ならびに重要性について学ぶ。 | 配布資料をもとに、ジェンダーと多様性社会に関する問題点について、理解と考察に努めること。 | 4時間 |
| 第8回 | **国内スポーツガバナンスの事例**<br>国内スポーツ組織のガバナンスにおける成功事例をもとに、現状と課題について理解を深める。 | 国内スポーツガバナンスの現状について、復習しながら理解を深める。 | 4時間 |
| 第9回 | **国際スポーツガバナンスの事例**<br>国際スポーツ組織のガバナンスにおける成功事例をもとに、現状と課題について理解を深める。 | 国際スポーツガバナンスの現状について、復習しながら理解を深める。 | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツDXならびにデジタル化の影響**<br>スポーツ組織におけるテクノロジー導入がガバナンスに与える効果や影響について理解を深める。 | 授業資料による復習を通じて、基本的知識の理解を深める。 | 4時間 |
| 第11回 | **地域スポーツのガバナンス**<br>地域社会におけるスポーツ運営の現状や課題について、実例をもとに理解を深める。 | 授業資料による復習を通じて、基本的知識の理解を深める。 | 4時間 |
| 第12回 | **危機管理とリスクマネジメント**<br>スポーツイベントにおける事故や自然災害、スポーツ組織による不祥事への対応について基礎的知識を理解するとともに、対応方法に関する理解を深める。 | 授業資料による復習を通じて、基本的知識の理解を深める。 | 4時間 |
| 第13回 | **プロスポーツリーグにおけるマネジメント・ガバナンス**<br>プロスポーツリーグにおけるガバナンス手法に関する理解を深め、国内プロスポーツリーグにおける最適なマネジメントについて理解を深める。 | 授業資料による復習を通じて、基本的知識の理解を深める。 | 4時間 |
| 第14回 | **未来のスポーツガバナンス**<br>スポーツ組織やスポーツビジネス現場におけるマネジメントやガバナンスについて、これまでの講義をまとめるとともに未来について展望・解説をする。 | スポーツ組織におけるガバナンスの今後について、自身の考察をまとめておく。 | 4時間 |

SP-4516-2-2

| 授業科目名 | 実践的ノンフィクション論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 城島　充 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 産経新聞の社会部記者として事件や災害、小児医療取材などを担当したあと、フリーのノンフィクション作家に。「拳の漂流」「ピンポンさん」（いずれも講談社）や児童書などの長編ノンフィクションのほか。文藝春秋『Number』誌などで多くの作品を発表し、現在も新聞連載を執筆している。（全14回） | | | | |

**授業概要**

さまざまな情報が多様なツールを通じて発信される現代においても、関心を持ったテーマについて調査・取材をし、集めた情報を精査したいうえで自らのフィルターを通して物語を作成していくノンフィクション文学の価値は変わらない。本授業では、歴史に残るノンフィクション作品や担当教員自身が発表してきた作品を教材に、様々なテーマについて「見る」「聞く」「書く」というそれぞれの作業について学ぶとともに、テーマを切り取る視点、適切な取材方法、そして読み手に伝わる文章技術にいたるまで、実践的なアプローチからノンフィクション文学について学ぶ力を深めていく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | テキストにしたノンフィクション作品を詳しく検証することで、実社会でのさまざまな出来事の背景や内実を詳しく知ることの意義について学ぶ、 | ノンフィクション作品を読み込むことで、歴史的な出来事への理解や社会問題に切り込む視点を学び、さまざまな社会課題と向き合う力を身につける。、 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | どのような文章表現が、それぞれの真相を多くの人に伝えるために適切なのか。文章表現の在り方について学ぶ。 | 興味を持ったテーマに対し、自分の視点で問題点を指摘するとともに、その内容を適切な文章で表現することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 様々なツールが発達し、真偽不明な情報が社会に広がるなか、真実を追い求めるノンフィクションの価値を認識し、現代社会におけるその価値について学ぶ。 | 古今東西のノンフィクション作品が社会にどのような影響を与えたのかを理解し、自らの視点で社会を見つめる力を身につけることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各授業時の提出課題 | 80 % | ： 毎回提示するテーマに対する小レポートで評価。 |
| 授業態度 | 20 % | ： 授業時の質疑応答やケース討議での発言内容により、授業貢献度を評価。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

教科書は使用せず、毎回授業資料を配付、または提示します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
・規定の回数以上の授業を欠席した場合は、成績評価の対象外となる。やむを得ず授業を欠席する場合は、文書にて速やかに届け出ること。
・遅刻・途中退室・授業中の私語・携帯電話の使用など、他の受講生の迷惑となる行為を禁止する。
・授業中は、ディスカッションや質疑にも積極的に参加すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業時間の前後の時間帯

**場所**：　授業教室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ノンフィクションとはなにか。**<br>担当教員が発表した長編・中編・短編それぞれのノンフィクション作品を紹介しながら、それぞれの作品が完成するまでにどんな作業が必要だったのか。具体的に振り返ることで、ノンフィクション作品が世に出るまでの過程について検証する。 | 今までに読んだノンフィクション作品について印象に残ったことを整理しておく。 | 4時間 |
| 第2回 | **ノンフィクションの手法について**<br>担当教員が発表した「拳の漂流」と「ピンポンさん」（いずれも講談社）という長編ノンシクションを、執筆方法の違いから検証する。私ノンフィクションというジャンルについての学びも深めたい。 | 二つの作品の表現方法の違いを理解しておく。 | 4時間 |
| 第3回 | **ノンフィクション作品が生まれるきっかけ**<br>担当教員が作品を発表してきた経験から、荻村伊智朗氏と吉祥寺の小さな卓球場を守り続けた女性との交流を描いた短編「武蔵野のローレライ」と長編「ピンポンさん」がそれぞれ生まれた具体的なきっかけについて検証、テーマへのアプローチの仕方を考察する。 | 作品が生まれるきっかけにはなにが必要なのか、自分なりの視点を持っておく | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツの魅力を切り取る視点**<br>スポーツを題材にしたノンフィクションにはどんな視点が必要なのか。神戸製鋼の8連覇をサントリーが阻んだラグビーの日本選手権と、初の決勝トーナメント進出を前にした日本代表がニュージーランドに大逆転負けを喫したバスケットボールの世界選手権。この２つの試合をどんな視点で切りとったのか、担当教員自身の作品を検証する。 | スポーツノンフィクションの魅力について、自分の考えをまとめておく。 | 4時間 |
| 第５回 | **映像ドキュメンタリーと活字によるノンフィクションの違い**<br>元メジャーリーガーのイチローさんが取り組んでいる高校野球指導をとりあげた映像のドキュメンタリーと、活字によるインタビューを教材に、それぞれの利点や問題点について検証する。 | イチローさんの取り組みついて、その動機を理解しておく。 | 4時間 |
| 第６回 | **自然災害とノンフィクション**<br>担当教員が社会部記者時代に取材した阪神淡路大震災をテーマに、後に出版した「兄ちゃんのランドセル」という児童書が果たした役割と、その後の音楽やテレビメディアとのつながり広について検証、災害を語り継ぐためにノンフィクション作品が果たすべき役割について考察する。 | 阪神淡路大震災の被害について報じた過去の記事を手元に集めておく | 4時間 |
| 第７回 | **日常の生活とノンフィクション**<br>学生生活のなかで印象に残ったことを、自分の文章で表現する。日常の風景をどんな視点できりとればノンフィクション作品になるのか、実際に文章表現する体験から考察する。 | 日常生活のなかでテーマを選定する視点を養う。 | 4時間 |
| 第８回 | **文章の構成、推敲の重要性**<br>自分の視点と感受性で書いた作品をテキストに、修正すべきポイントを検証し、文章を何度も書き直す推敲作業の重要性を学ぶ。 | 自分が書いた作品を何度も読み直し、修正すべきポイントを見つけておく | 4時間 |
| 第９回 | **インタビュー調査～近くにいる人の物語**<br>いくつかのグループを作り、それぞれのグループのなかでインタビューされる人を選び、他のメンバーがいろんな視点からインタビューし、原稿を執筆する。 | テキストにしたインタビュー記事を熟読しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **ノンフィクションと書き手の個性**<br>同じ人を対象にしながら、インタビューをする人によってどんな違いが生まれるのか、実際に執筆したインタビュー記事から検証する。 | 配布資料を熟読し、一番印象的なことをメモしておく。 | 4時間 |
| 第11回 | **j事前学習～人物インタビューをする前にやるべきこと**<br>外部からゲストを招いてのインタビュー実習を前に、どんな準備をしておくべきなのか。対象人物似関する情報をどのように厚め、どんな視点から質問をしていくのか。大きなテーマとともに、具体的な質問事項を考える。 | 対象人物に関する資料をしっかり読み込んでおく。 | 4時間 |
| 第12回 | **インタビュー実践（模擬記者会見）** | 書き上げた作品を何度も推敲しておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | ゲストを授業に招き、模擬記者会見を開催する。事前に準備した質問をぶつけ、返ってきた言葉をノートに書き留める作業を通じて、その人物のどこに焦点をあててノンフィクションを書くべきか考察する。 | | |
| 第13回 | **作品批評**<br><br>インタビューをもとにそれぞれが書き上げたノンフィクション作品を批評する。 | 文章表現の多様性について、配布したテキストをしっかりと読み込んでおく | 4時間 |
| 第14回 | **ノンフィクションの果たす役割について**<br><br>これまでの講義と実践を踏まえ、ノンフィクション文学が現代社会に果たす役割について考察する。 | 授業で配布したテキストにしっかり目をとおしておく。 | 4時間 |

SP-4621-1-1

| 授業科目名 | スポーツデータサイエンス（スポーツ学研究法Ⅰ） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 山田　庸 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 担当教員の山田庸は，2006年よりJリーグ徳島ヴォルティスなどのプロクラブでの指導実績がある．また2021年よりサッカーU16/17日本女子代表フィジカルコーチとしてフィットネスデータの分析を担当している． | | | | |

**授業概要**

スポーツには様々なデータが存在し，サイエンス分野も多岐にわたる．大学での研究を遂行するにあたり必要不可欠なデータサイエンスについて総論および各論について学習する．
具体的には，スポーツで扱われるデータサイエンスについて，データの種類や分析手法について学習する．また近年さまざまな活用事例がみられるスポーツ界でのAIの活用事例についても紹介する．スポーツデータを分析する際の量的分析と質的分析の関係について学習し，さらに各スポーツ分野でのスポーツデータの活用事例を紹介し，どのような応用が可能かを議論する．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツデータについて様々な分野の活用事例やデータサイエンスに対する関心・意欲 | スポーツデータやデータサイエンスの内容について関心が高まる |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツデータとデータサイエンスの方法と活用事例に関する知識と分析のための技能 | スポーツデータとデータサイエンスの方法と活用事例に関する知識と分析のための技能が高まる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | スポーツデータの応用についてどのようなものがあるかという思考，判断，発表の表現 | スポーツデータの応用について思考し，どのような活用方法があるかを発表できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・問答法・コメントを求める
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング），ICT(Excel)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の課題や小レポート | 100 % | ： その回の知識を活用し，個人の意見や判断を加えたうえで設問に対して妥当な回答をしていること．また，限られた時間内にレポートや表計算などの与えられた課題を達成できること． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特にない

**履修上の注意・備考・メッセージ**

毎回の授業で，パソコンを使用します．タッチタイピング課題及びExcelでの課題では，スマホでの回答は原則として認めません．

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | スポーツのデータサイエンス | データサイエンスについてインターネットで調査する | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 本講義の全体を俯瞰し，各回で行う学習内容を概観する．また，スポーツにおけるデータの種類とサイエンス分野について学習する． | | |
| 第2回 | **スポーツデータ①パフォーマンスデータ**<br><br>スポーツデータの最もシンプルなデータは競技パフォーマンスの記録である。陸上競技などの個人種目ではタイムや距離が示され、球技などでは得点のほかプレー回数や成功率などのスタッツが示される。これらについて概観しそのデータ集約方法や分析事例を解説する。 | スタッツについて各競技やリーグの公式ページからデータを検索する | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツデータ②トラッキングデータ（GPS、弾道計測）**<br><br>近年のGPSや同画像処理技術の発達により選手やボールの位置情報を追尾したトラッキングデータが用いられる。この回ではトラッキングデータの活用事例を紹介し、各指標の算出方法や評価方法について解説する。 | Baseball Savantを検索しメジャーリーグStatcastデータを検索する | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツデータ③ビジネスデータ**<br><br>スタジアム運営やグッズ販売などでは、商品の在庫データやアンケートデータなどが用いられる。スポーツビジネスにおけるデータサイエンスの活用事例を解説する。 | 経済産業省「Jリーグの成長戦略について」資料を閲覧し学習する | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツデータ④動画像とバイオメカニクス**<br><br>スポーツのパフォーマンス全体を示すためには動画像が有用である。スポーツの動画像から位置情報やバイオメカニクス関連のデータを抽出する手法を解説する。 | 日本陸上競技連盟の「バイオメカニクスデータ集」を閲覧し検討する | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツデータ⑤スポーツ医科学の実験データ**<br><br>スポーツ医科学分野では実験により精密なデータを収集する。スポーツ医科学分野の研究論文で用いられるデータ収集方法や分析について解説する。 | JSPOのスポーツ医・科学研究報告の報告書データを閲覧し学習する | 4時間 |
| 第7回 | **4つの尺度に応じたデータ処理方法①**<br><br>名義・順序・間隔・比率の４つの尺度について学習する。この回では特に間隔・比率尺度について学習する。また、平均・標準偏差や偏差値などを解説し、棒グラフやレーダーチャートの活用方法について学習する。 | 統計局HPの「総合学習のための補助教材」から「統計グラフとその利用」資料にて学習する | 4時間 |
| 第8回 | **4つの尺度に応じたデータ処理方法②**<br><br>名義・順序・間隔・比率の４つの尺度について学習する。この回では特に名義・順序尺度について学習する。スタッツ分析で用いるプレー回数のカウント、度数分布表、ヒストグラム、クロス集計表の活用方法について学習する。 | 統計局HPより「統計をグラフにあらわそう」を検索し閲覧・学習する | 4時間 |
| 第9回 | **アスリートコーチング・パフォーマンス分析のデータ**<br><br>２年次から配属される各コースの中から、スポーツパフォーマンス分析コース、アスリートコーチングコース関連の優秀卒業研究論文を取り上げ、データの収集、分析方法と結果について学習する。 | 本学卒業研究抄録集からコーチングコースの文献を検索し学習する | 4時間 |
| 第10回 | **トレーニング科学・健康スポーツ医科学のデータ**<br><br>２年次から配属される各コースの中から、トレーニング科学コース、健康・スポーツ医科学コース関連の優秀卒業研究論文を取り上げ、データの収集、分析方法と結果について学習する。 | 本学卒業研究抄録集から健康トレーニング科学コースの文献を検索し学習する | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツ政策文化・ビジネス・メディアのデータ**<br><br>２年次から配属される各コースの中から、スポーツ政策・文化コース、スポーツビジネス・メディアコース関連の優秀卒業研究論文を取り上げ、データの収集、分析方法と結果について学習する。 | 本学卒業研究抄録集からスポーツビジネスコースの文献を検索し学習する | 4時間 |
| 第12回 | **学校スポーツ・アウトドアスポーツコースのデータ**<br><br>２年次から配属される各コースの中から、学校スポーツコース、アウトドアスポーツコース関連の優秀卒業研究論文を取り上げ、データの収集、分析方法と結果について学習する。 | 本学卒業研究抄録集から学校スポーツ・野外スポーツコースの文献を検索し学習する | 4時間 |
| 第13回 | **データサイエンスの実践①**<br><br>これまで紹介したスポーツデータについて、用意されたいくつかのデータサンプルを活用し学生独自の観点からExcelを活用しデータをまとめ、グラフなどを活用し見える化し、その意味を分析しレポートにまとめる。この回ではデータの選択、仮説の設定、分析を行う。 | 授業内で用いたデータを異なる形で分析して学習する | 4時間 |
| 第14回 | **データサイエンスの実践②**<br><br>前回から開始したスポーツデータを用いたデータサイエンスの実践について、Powerpointを活用しレポートにまとめる。また、自己フィードバックについてのAIのCopilotを用いて検索集約しまとめる。完成したスライドを用いて発表した動画を作成し提出する。 | Copilotをもちいて幾つかのスクリプトを追加し求めるレポートを作成する | 4時間 |

SP-4315-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **カヤック（マリンスポーツ）** | | | | |
| 担当教員名 | **黒澤・林・橋本** | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 野外教育・スポーツ関連実務経験・資格のある野外スポーツ教員が担当し、琵琶湖での活動・実践を行う非常勤講師に依頼して、カヤックのスキルを獲得する過程でパドリングやセルフリカバリー・グループレスキューによる安全管理技術と能力の向上を図る。 | | | | |

**授業概要**

大学が立地する恵まれた環境としての琵琶湖を用いたマリンスポーツを展開する。具体的な種目としてカヤックを取り上げ、活動を安全に楽しむための基本的スキルを身につけ、課題達成することの喜びを仲間と共有する体験を通して、自己の新たな気づきや、他者との関わり方を学ぶ。特に、用いる自然環境としての水辺環境はリスクを伴う活動であることからも、実際に体験することで、自然環境に対する理解を深め、安全に楽しむための知識についても学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 琵琶湖岸におけるマリンスポーツ活動の実践 | 琵琶湖でのマリンスポーツを通して、自然や人との関わりについて関心・意欲を持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | カヤックの実践 | カヤックを行うためのスキルと琵琶湖に対する環境への理解を深めることができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | カヤックの実践 | アウトドアスポーツに対するリスク認知を通して備えるべき自己管理能力や判断力について思考し、実践できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 自然環境の中でのマリンスポーツ実践 | 自然環境の中での体験を通して、更なる学びへの向上心を持つことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 事前学習 | 10 % | ： | マリンスポーツ実践のための基礎知識を身に着け、主体的な準備への取り組みを評価する。 |
| 実習プログラム内における実技課題達成度 | 70 % | ： | ２日間にわたる実習についての取り組みおよび課題に対する達成度を評価する。 |
| 事後学習 | 20 % | ： | 体験をふりかえって作成したレポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

大学が立地する琵琶湖を用いたマリンスポーツとして、カヤック活動を2～3日間にわたり体験します。水上を自由にカヤックを通した仲間との交流から新たな発見や学びがたくさんあります。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　随時

**場所**：　研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第１回 | **事前オリエンテーション**<br>マリンスポーツの目的や日程、準備する装備や服装に関するオリエンテーションを行う。 | 自然を活用したプログラムに対する目的への理解を深める | 4時間 |
| 第２回 | **琵琶湖の特性**<br>実習場所としての琵琶湖について、歴史や文化に触れながら理解を深める。 | 琵琶湖の歴史や文化、人々の関わりについて理解を深める。 | 4時間 |
| 第３回 | **マリンスポーツ種目特性の理解**<br>カヤックの種目特性について理解を深める。 | 各種目の都癖について理解を深める。 | 4時間 |
| 第４回 | **マリンスポーツ実践（2日間）**<br>マリンスポーツ実践<br>＜カヤック＞<br>１日目：集合・オリエンテーション<br>パドル操作・カヤックポロ<br>２日目：集合・オリエンテーション<br>グループレスキュー・カヤックツアー<br>・カヤックレース・実習のまとめ | 準備して実習に取り組む。 | 4時間 |
| 第５回 | **実習を通した学びの評価**<br>マリンスポーツを通した学びについて目標達成度を評価するとともに、今後の学びへの活用方法について理解を深める。 | キャンプ活動の展開について理解を深める。 | 4時間 |

SP-4316-1-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | スノースポーツI（スノースポーツ） | | | | |
| 担当教員名 | 黒澤・林・橋本 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

冬の特有の環境で実施されるスノースポーツを取り上げる。そのなかでも特に、「アルペンスキー」を実施する。アルペンスキーのスキル獲得や技術向上の過程から、自然環境に対する理解、リスクマネジメント、雪上（ゲレンデ）でのルールやマナー、冬季のアウトドアスポーツの楽しさや魅力について学ぶ。また、仲間との集団生活を通して協調性や社会性を身につけ、日常生活では得ることのできない集団での振る舞いや態度を身に付ける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 冬季野外スポーツのアルペンスキーの実践 | アルペンスキーの体験を通して、自然や人との関わりについて関心・意欲を持つことができ |
| 2. DP2.知識・技能 | アルペンスキーの実践 | アルペンスキーを行うためのスキルと雪の特性や冬季の自然に対する環境への理解を深める |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アルペンスキーの実践 | 冬季のアウトドアスポーツに対するリスク認知を通して、備えるべき自己管理能力や判断力について思考し、実践できる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 冬季の自然環境の中でのアルペンスキーの実践 | 自然環境の中での体験を通して、更なる学びへの向上心を持つことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 実習プログラム内における実技課題達成度 | 70 % | ： 実習についての取り組み度を評価する。 |
| 実習後レポート | 20 % | ： 体験をふりかえって作成したレポートによって、実習の目標についての達成度を評価する。 |
| 事前授業における理解と準備への取組 | 10 % | ： スノースポーツに必要な基礎知識の理解度と実習に対する取り組みを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

アウトドアスポーツコース教員によって独自に作成したテキスト「雪を楽しむ」を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

大学から遠く離れた環境での実習です。心身の準備をしっかり行い、万全のコンディションで実習に挑みましょう。

本科目は1単位の科目であるため、平均すると、毎回1時間の授業外学修が求められる。集中での実習科目ではあるが、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **事前オリエンテーション**<br><br>スノースポーツ実習の概要説明と個人調査票の記入、技術レベル確認アンケートを行い、冬の自然環境、アルペンスキーの技術について理解を深める。 | テキストやその他資料を活用し、実習を行う場所について、アルペンスキーについてある程度の知識を持って実習に臨む。 | 1時間 |
| 第2回 | **冬の気候と雪**<br><br>冬季野外スポーツにおけるフィールドを活用するための、冬の気候の特徴や雪の特性についての知識・理解を深める。 | 日本各地域の気候についての特徴を調べる。 | 1時間 |
| 第3回 | **スキーの歴史と文化**<br><br>スキーについての歴史について学習する。また、実習地である新潟・赤倉温泉の歴史や文化について理解を深める。 | スキーの歴史や文化について整理する。 | 1時間 |
| 第4回 | **スノースポーツのリスクマネジメント**<br><br>雪山の自然環境や、スノースポーツに内在する危険（リスク）ついて理解を深める。 | リスクに対してどのように向き合うのか、心構えや対策を調べる。 | 1時間 |
| 第5回 | **雪上実習**<br><br>日程：2026年2月中旬（予定）　現地3泊4日（2024年度例）<br>場所：新潟県妙高市赤倉温泉スキー場、赤倉観光リゾートスキー場<br>宿舎：赤倉温泉スキー場周辺ホテル　等<br><br>実習プログラム<br>１日目　集合・バスにて移動・宿舎入館、実習諸注意　等<br>＜アルペンスキー講習①②＞足慣らし・足並みチェック（班分け）<br>夜プログラム：講義（冬季野外スポーツの理論と実際）<br>２日目　午前・午後　＜アルペンスキー講習③④＞<br>夜プログラム：班別ミーティング<br>３日目　午前・午後　＜アルペンスキー講習⑤⑥＞<br>夜プログラム：<br>４日目　午前　＜アルペンスキー講習⑦＞閉講式<br>午後　バスにて移動・解散 | 毎日の実習日誌に、その日の技術的学習内容、講義やミーティングでの学習内容、集団生活からの学びなどふりかえり、記録を付ける。 | 1時間 |
| 第6回 | **実習を通した学びの評価**<br><br>スノースポーツ実習を通した学びについて目標達成度を評価するとともに、今後の学びへの活用方法について理解を深める。 | 自然を活用した実習特有の学びについて理解を深める。 | 1時間 |

SP-1046-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | コンピューターリテラシーⅠ | | | | |
| 担当教員名 | 田尻　良 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 前期・後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

授業概要：表計算ソフトおよびワープロソフトは、あらゆる分野で利用されている。この科目ではそれらの代表的なソフトの一つであるMicrosoft-ExcelとMicrosoft-Wordを基礎から学習し、文章処理、表の作成と編集、データの統計処理、データベース機能の利用、各種の統計データの活用等を習熟する。　あらゆるデータをMicrosoft-ExcelとMicrosoft-Wordを用いて処理し、分析し、レポートとしてまとめることにより、Microsoft-ExcelとMicrosoftWordを使いこなせるようになることを目標とする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | コンピューターに関する基礎知識 | 収集したデータを分析・理解し、資料としてまとめることができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

原則として毎回出席すること。コンピュータ機器を扱うため講義室内での飲食は厳禁とする。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 課題提出 | 14 % | ： | 第1回～第14回の講義内で配布する課題を提出することにより、各回1点×14回とする。 |
| レポート | 10 % | ： | レポートは5点×2回とする。評価基準は指定した提出様式に則してレポート作成していれば5点。則していなければ、そこから減点とする。 |
| 小テスト | 16 % | ： | 与えられた問題に対しWordとExcelを用い、適切な機能を用いて処理を行えるのかを確認する。 |
| 試験 | 60 % | ： | 与えられた問題に対しWordとExcelを用い、適切な機能を用いて処理を行えるのかを確認する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。基礎的な操作や機能の復習から入り、応用、実践と進んでいきます。今後の大学生活や社会生活においても必要な基礎知識となりますので、自信有無にかかわらず積極的に学んでいきましょう。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項：**　講義後に教室にて対応します。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **文章処理演習(1)　文章作成機能の基礎**<br>講義の概要説明と、Wordへの入力・変換・レイアウトを整えた文章作成等の基礎機能の確認。 | ワード入力について、実際に操作し、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第2回 | **文章処理演習(2)　グラフィック機能**<br>画像や図形などの挿入、ワードアートの利用による、より見やすい文章作成等のグラフィック機能の確認。 | グラフィック機能について、実際に操作し、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第3回 | **文章処理演習(2)　文章のレイアウト**<br>段組み、グラフ・表・数式の挿入を理解し、様々なレポート提出様式に対応した文章作成等のレイアウトを整えたレポートの作成。 | 文章作成について実際に操作し、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第4回 | **表計算演習(1)　表計算機能の基礎**<br>Excelへの入力、表の作成、簡単な表計算等の基礎機能の確認。 | 表作成について実際に操作し、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第5回 | **表計算演習(2)　SUM関数等　関数の活用 (1)**<br>SUM関数、AVERAGE関数、STDEV関数などを理解。 | 関数計算を実際に行い、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第6回 | **表計算演習(3)　IF関数等　関数の活用 (2)**<br>RANK関数、COUNT関数などを理解。 | 関数計算を実際に行い、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第7回 | **表計算演習(4)　ネスト等　関数の活用 (3)**<br>COUNT関数、ネストなどを理解。 | 関数計算を実際に行い、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第8回 | **表計算演習(5)　グラフの基礎　グラフの活用 (1)**<br>棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散布図の作成。 | グラフ作成を実際に行い、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第9回 | **表計算演習(6)　ヒストグラム　グラフの活用 (3)**<br>ヒストグラムの作成。 | ヒストグラム作成を実際に行い、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第10回 | **グラフの応用　散布図と回帰分析　グラフの活用 (2)**<br>散布図の作成、回帰直線と予測 | データ予測を実際に行い、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第11回 | **表計算演習(8)　相関係数**<br>分析ツールを用いて相関係数をもとめる。 | 相関係数を実査にもとめ、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第12回 | **表計算演習(9) データベース2(統合機能等)**<br>データベースの活用集計機能、ピボットテーブルなどを理解。 | 集計機能を実際に操作し、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第13回 | **表計算演習(10) データベース3(データの抽出・ピボットテーブル)**<br>ブックとワークシートの活用複数ブック間で集計と統合、複数のワークシートの同時編集。 | ピボットテーブルを実際に操作し、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |
| 第14回 | **プレゼンテーション演習 PowerPointの基礎確認**<br>PowerPoint機能の基本操作スライド作成からスライドショー開始までの基本操作を理解。 | 実際にスライドを作成し、イメージをつかんでおく。 | 4時間 |

SP-1047-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | コンピューターリテラシーⅡ | | | | |
| 担当教員名 | 大山口　雅 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | 前期・後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 医療法人におけるシステム管理業務を担当している。その一環としてレセプトデータを法人内のフォーマット（EXCEL形式）に置き換える作業をするが、その際EXCELのいくつかの機能を利用する。その経験をもとに、目的物の作成のためにどのようにEXCELを使うことができるかを知らせることができる。 | | | | |

**授業概要**

EXCELは表計算ソフトウェア（アプリ）の代表で事実上の世界標準と捉えて問題ない。EXCELには多くの機能が実装されており、それらすべてを網羅することは困難であるが、この授業では情報処理論・コンピュータリテラシ1で行ってきた内容に加えいくつかの新しい関数、基本統計量、記述統計学、推測統計学について学ぶ。ただし、SPSSに関しては個人のコンピュータにインストールされていないことを鑑み紹介程度にとどめる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | EXCELの知識 | 授業や自身で調べることでEXCELで何ができるかを理解する |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | EXCELを用いた目的の資料作成 | 自身が必要としている資料をEXCELを用いて作成できる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

講義と各自コンピュータを使った実習を行う。

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

提出課題と授業参加度で評価する。期末試験は実施しない予定

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 提出課題 | 70　% | ：　内容に応じて点数化する |
| 授業参加度 | 30　% | ：　受講態度、課題の作成過程、友達へ教えてあげているかなどを総合的に判断 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特に指定しない

**履修上の注意・備考・メッセージ**

特になし

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　授業の前後、メール等であれば随時

**場所**：　授業の教室、メール等でれば問わない

**備考・注意事項：** メールはどのような内容であっても必ず返信します。返信があまりにも来ない（最大2～3日）場合は、再送するか別の手段で連絡してください

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **相対指定、絶対指定、ROUND関数**<br>EXCELの復習<br>ROUND関数（四捨五入）、相対指定、絶対指定 | 相対指定、絶対指定、ROUND関数について調べる | 4時間 |
| 第2回 | **平均、標準偏差、標準化**<br>基本統計量（平均、標準偏差） | 平均、標準偏差について調べる | 4時間 |
| 第3回 | **標準化**<br>正規分布・標準正規分布と標準化 | 標準化について調べる | 4時間 |
| 第4回 | **相関係数**<br>相関係数 | 相関係数について調べる | 4時間 |
| 第5回 | **クラメールの連関係数**<br>クラメールの連関係数 | クラメールの連関係数について調べる | 4時間 |
| 第6回 | **検定**<br>検定について | 検定について調べる | 4時間 |
| 第7回 | **カイ二乗検定**<br>カイ二乗検定 | カイ二乗検定 | 4時間 |
| 第8回 | **ｚ検定、有意差（両側・片側）**<br>ｚ検定、有意差（両側・片側） | ｚ検定、有意差（両側・片側）について調べる | 4時間 |
| 第9回 | **ｔ検定**<br>ｔ検定 | ｔ検定について調べる | 4時間 |
| 第10回 | **ボンフェローニの多重比較検定**<br>ボンフェローニの多重比較検定 | ボンフェローニの多重比較検定について調べる | 4時間 |
| 第11回 | **１元配置分析、分析ツール**<br>１元配置分析、分析ツール | １元配置分析、分析ツールについて調べる | 4時間 |
| 第12回 | **線形単回帰分析**<br>線形単回帰分析 | 線形単回帰分析について調べる | 4時間 |
| 第13回 | **因子分析、COUNT系、IF関数、シリアル値の扱い**<br>因子分析、COUNT系、IF関数、シリアル値の扱い | 因子分析、COUNT系、IF関数、シリアル値について調べる | 4時間 |
| 第14回 | **文字操作関数、IFERROR関数、SUBTOTAL関数、VLOOKUP関数**<br>文字操作関数、IFERROR関数、SUBTOTAL関数、VLOOKUP関数 | 文字操作関数、IFERROR関数、SUBTOTAL関数、VLOOKUP関数について調べる | 4時間 |

SP-5035-4-2

| 授業科目名 | アスレティックトレーニング実習Ⅳ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 佃　文子 | | | | |
| 学年・コース等 | 4 | 開講期間 | * | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 滋賀県競技力向上対策本部医科学専門スタッフトレーナーとして、国体強化練習や国体などに帯同した実践経験を講義内容に結びつけている。（全14回） | | | | |

**授業概要**

スポーツの安全管理のために、各種のリスクを想定し事前のリスク評価を企画し、実際にメディカルチェックを実施し、測定結果に基づいたフィードバックや具体的な対応策を提案する。エビデンスに基づいた健康管理と競技力向上を支援するための指導者として貢献できるように実習を行う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツの安全管理やリスクマネジメントに関する知識 | スポーツのメディカルチェックに必要な事項と項目を説明できる |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 対象者やスポーツの種目に応じたスポーツのメメディカルチェックの計画やフィードバックの作成 | 対象者に応じたスポーツのメディカルチェックを企画、運営し、得られた結果からフィードバックを作成できる |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | メディカルチェックの運営と実践 | メディカルチェックに関する学びを通して、企画の運営と測定にかかわるスタッフの調整ができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

ICT(PowerPoint)、ICT(Excel)、ICT(動画活用)、ICT(専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| メディカルチェックの企画立案に関する課題レポート<br>50　% | ： | 内容の妥当性と論理性について、ルーブリックに基づき評価する。 |
| メディカルチェックのフィードバックの作成とプレゼンテーション<br>50　% | ： | 課題に対するフィードバック資料の適正60%、指導者や対象者に対するフィードバックのプレゼンテーション40%で評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| | ・公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト | ・公財）日本スポーツ協会 | ・　　年 |

**参考文献等**

テキストの購入については、公益財団法人日本スポーツ協会HPから購入する。方法は授業開始時に周知する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

履修は、AT実習Ⅰ及びⅡを修得済みであること。
本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業前後

**場所**： 授業実施教室

**備考・注意事項**： 急に訪ねられても対応できないこともありますので可能な限り事前に何らかの方法でアポイントを取ってください。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **イントロダクション、安全管理と健康管理の理論とフィードバックの基礎**<br>健康管理と安全管理の基礎的事項と、リスクマネジメントを行うための要因を書き出す。 | 復習：テキスト該当ページを要約し、内容を図や表にまとめる。 | 1時間 |
| 第2回 | **メディカルチェック①の企画**<br>大学生のスポーツプレーヤーに対する健康管理のためのメディカルチェックを企画する。<br>対象者の規模に合わせてスケジュールをたて、導線や準備物、必要な人員等を含めて企画書を作成する。 | 予習：スポーツのメディカルチェックについて予習する。復習：企画するための工程表をまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **メディカルチェック①の実際**<br>大学生スポーツプレーヤーに対する健康管理のためのメディカルチェックに参加する | 予習：メディカルチェック項目の具体的な測定方法などを予習する。復習：実施したメディカルチェックのデータを入力しまとめる。 | 1時間 |
| 第4回 | **メディカルチェック①の結果まとめ**<br>第3回で実施したメディカルチェックのデータを整理して、フィードバックに必要な書式やレポート・フィードバックの方法を検討する。 | メディカルチェックのデータ分析を行う。 | 1時間 |
| 第5回 | **メディカルチェック①のフィードバック資料作成**<br>フィードバック資料を作成し、メディカルチェックを行った対象者と指導者にフィードバック資料を返却する。 | フィードバック資料の作成を行う | 1時間 |
| 第6回 | **メディカルチェック②の企画**<br>大学生のスポーツ特性に合わせたメディカルチェックを企画する。スポーツ特性に合わせて対象チームと調整を行いメディカルチェックの内容を準備し、具体的な実施スケジュールを立てて、導線や準備物、必要な人員等を含めて企画書を作成する。 | 予習：対象となるスポーツ特性を予習する。復習：企画するための工程表と企画書をまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **メディカルチェック②の実際**<br>大学生のスポーツプレーヤーに対する健康管理のためのメディカルチェックを実施する。<br>想定内外の事案に対応しながら、メディカルチェックを実行する。 | 予習：メディカルチェック項目の具体的な測定方法などを予習する。復習：実施したメディカルチェックのデータを入力しまとめる。 | 1時間 |
| 第8回 | **メディカルチェック②の結果まとめ**<br>第7回で実施したメディカルチェックのデータを整理して、フィードバックに必要な書式やレポート・フィードバックの方法を検討する。 | メディカルチェックのデータ分析を行う。 | 1時間 |
| 第9回 | **メディカルチェック②のフィードバック資料作成**<br>フィードバック資料を作成し、メディカルチェックを行った対象者にフィードバック資料を返却する。 | フィードバック資料の作成を行う | 1時間 |
| 第10回 | **メディカルチェック③の企画**<br>スポーツ特性に特化したメディカルチェックを企画する。対象者の現状や課題をヒアリングし、スポーツ特性とプレーヤー（チーム）の課題に合わせた測定項目を検討し、必要なメディカルチェックの内容を準備し企画書を作成する。 | 予習：スポーツのメディカルチェックについて予習する。復習：企画書をまとめる。 | 1時間 |
| 第11回 | **メディカルチェック③の実際**<br>スポーツ特性に特化したメディカルチェックを実施する。<br>想定内外の事案に対応しながら、メディカルチェックを実行する。 | 予習：チーム課題やスポーツ特性を予習する。復習：企画するための工程表と企画書をまとめる。 | 1時間 |
| 第12回 | **メディカルチェック③の結果まとめ**<br>第11回で実施したメディカルチェックのデータを整理して、フィードバックに必要な書式やレポート・フィードバックの方法を検討する。 | メディカルチェックのデータ分析を行う。 | 1時間 |
| 第13回 | **メディカルチェック③のフィードバック資料作成**<br>フィードバック資料を作成し、メディカルチェックを行った対象者と指導者にフィードバック資料を返却する。 | フィードバック資料の作成を行う | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **まとめ　全体の課題討議**<br>3つのメディカルチェックを通じた課題を討議する。さらに指導現場から監督・コーチなどの指導者からいただいたフィードバックに対する改善策を作成する。 | まとめのレポートを作成する | 1時間 |
| 第15回 | **＊**<br>＊ | ＊ | 4時間 |

SP-3102-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（多賀谷）** | | | | |
| 担当教員名 | **多賀谷　智子** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校での学級経営，教科指導，生徒指導に関する実務経験，および通級指導教室担当として発達障害児童生徒への指導，保護者・担任への教育相談等の実務経験を踏まえ、実際の事例等にふれながら実践的な講義内容を行っている。 | | | | |

**授業概要**

学校現場を中心に教育の場における行動と心理に関して、卒業研究における基本的な技術を習得し、卒業研究に関する計画書を完成させ、卒業研究に向けた準備を行うことを本演習の目的とする。そのために、問題への関心を深め、個々の問題意識を明確にし、関連する先行研究を探索し、読み進める。その際、先行研究の収集方法や論文の読み方を学び、レジュメ作成、ゼミ内でのプレゼンテーション発表を行う。そして、発表内容への質疑応答を踏まえ、考えを仲間とシェアリングすることで個々の研究への問題意識を精査していく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 文献検索および講読 | 興味関心のあるテーマに関する文献を調べることができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 文献発表、卒業論文計画書に関する発表 | 卒業論文計画書を作成し、その内容を説明することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 他者との意見交流 | 他者の発表に対して、自分の考えを論理的に伝えることができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 授業内課題 | 60 % | ： | 興味関心のあるテーマに関する文献を調べることができる。 |
| プレゼンテーション | 30 % | ： | 卒業論文計画書を作成し、その内容を説明することができる。 |
| ディスカッション（意見交流） | 10 % | ： | 他者の発表に対して、適切な論点で自分の意見を述べることができる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

自主的な活動を望みます。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション・研究とは何か**<br>本演習の目的と全体の流れを把握し、目標を確認する。<br>本演習を選択した理由、および卒業研究を踏まえた個々の関心のあるテーマについて共有する。 | 関心のあるテーマについて調べる。 | 4時間 |
| 第２回 | **興味関心、問題意識の発生から研究課題へ**<br>各自の興味関心のある研究課題、問題意識のある事象について発表し、方向性を探る。<br>研究課題が似ている本学の卒業論文のテーマや内容についてレビューする。 | 本学の卒業論文テーマ・紀要について調べる。 | 4時間 |
| 第３回 | **文献検索の方法**<br>具体的な文献検索方法について、演習形式で学ぶ。 | 自らの興味関心のあるテーマについて文献検索を行う。 | 4時間 |
| 第４回 | **文献の収集**<br>自ら調べたいテーマにおける検索ワードをもとに文献検索を行い、文献収集を進める。 | 収集した論文の課題と明らかになったことを理解する。。 | 4時間 |
| 第５回 | **論文の体裁・読み方**<br>論文・レポート作成に関する基礎的な事項（論文の体裁）について理解する。 | 収集した論文について論文の体裁を確認する。 | 4時間 |
| 第６回 | **論文の文章**<br>論文・レポート作成に関する基礎的な事項（論文の文章）について理解する | 収集した論文について論文の文章を確認する。 | 4時間 |
| 第７回 | **文献講読のための資料作成**<br>各自のテーマに沿った文献に関する資料を作成する。<br>その文献の課題、研究方法、結果、考察（結果から明らかになったこと、明らかにならなかったこと、さらなる課題）、参考文献を中心にまとめる。 | 発表のための資料を作成する | 4時間 |
| 第８回 | **文献の共有（報告）**<br>各自のテーマに沿った文献に関する報告を行い、先行研究の知見を共有する。<br>他者の報告を聞き、質疑応答を行うことで問題意識を明確化させる。 | 参考文献リストから関心のある論文を調べる。 | 4時間 |
| 第９回 | **４年次生の中間発表会に参加**<br>中間発表会に参加し、自らの興味関心のあるテーマについて深める。<br>卒業研究の発表方法について理解する。 | 発表内容に関する課題レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第10回 | **データの収集方法を学ぶ**<br>先行研究を参考にし、データの収集方法に関して学ぶ。 | データの収集法について調べる。 | 4時間 |
| 第11回 | **研究の設計**<br>研究のタイプ（レビュー研究、記述的な研究、分析的な研究）について学ぶ。<br>先行研究を参考にし、収集されたデータをどのように扱っているのかを理解し、自身の研究の設計の参考にする。 | 自身の研究のタイプを明らかにする。 | 4時間 |
| 第12回 | **卒業論文計画書の作成**<br>先行研究の検索に基づき、目的や方法を検討し、計画書を作成する。 | 卒業論文計画書を作成する。 | 4時間 |
| 第13回 | **卒業論文計画書の発表**<br>卒業論文計画書をパワーポイントにまとめ、プレゼンテーション資料を作成し、発表する。 | 卒業論文計画書の発表資料を作成 | 4時間 |
| 第14回 | **４年次生の卒業論文発表会に参加**<br>卒業論文発表会に参加し、自らの研究の進め方の参考にする。<br>卒業研究の発表方法について理解する。 | 発表内容に関する課題レポートを作成する。 | 4時間 |

SP-3102-3-1

| 授業科目名 | 学校スポーツ教育基礎演習Ⅱ（松本） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 松本　圭将 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

子どもたちの家庭状況が学校での学びに大きな影響を及ぼすし、どういった政策が展開されているかを知ることは、日々の教育活動に見通しを持って取り組むことにつながる。「スポーツができるだけ」「授業技術が高いだけ」の教員は、少なくとも日本の学校において求められている教師像ではない。
本ゼミでは、特に教育制度学や教育行政学あるいは教育社会学など社会科学的なアプローチから教育学について理解を深め、思考し、表現することを目指す。そうすることで、教員として、部活動支援員として、地域スポーツの指導者として、あるいは親として…多様な形で教育に関わることになるだろうみなさんが、教育や社会、人間について多面的なものの見方ができるようになることが最終的な目標である。
特に3年生後期のゼミでは、教育学に関する知見を文献購読を通じて学び、そして文献の内容に意見や疑問を持って議論することで、教育に関する広い知見の獲得を目指す。また、文献購読のレジュメ作成を通じて、卒業論文の作成で求められる研究に必要なスキルの習得も目指していく。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 教育への幅広い関心 | 教育現場での活躍に向けて、教育に関する関心を持つことができる |
| 2. DP2.知識・技能 | 教育に関する知識 | 広く教育に関する知識を理解し、学びを深めていく上で必要な技術を利用することができる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 教育課題の把握と説明 | 現代の教育について問題点や改善点を考え、自分の意見を説明することができる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 教育を主体的に学ぶ姿勢 | 主体的に難しい課題に取り組むことができる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 発表 | 60 % | ： | 発表資料の完成度と質疑応答を含めて準備のできた発表ができているかどうかを評価する。 |
| ゼミ内課題 | 30 % | ： | ゼミ中に取り組んだ課題の完成度を評価する。 |
| ゼミへの参加 | 10 % | ： | ゼミ中の議論への参加度合い（積極性）を評価する。 |

**使用教科書**

指定する

| 著者 | タイトル | 出版社 | 出版年 |
|---|---|---|---|

松岡亮二編著 ・ 教育論の新常識 ・ 中央公論新社 ・ 2021 年

**参考文献等**

中村高康・松岡亮二編著『現場で使える教育社会学教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房、2021年。
汐見稔幸・伊東毅・高田文子・東宏行・増田修治編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。
安彦忠彦・児島邦宏・藤井千春・田中博之編著『新版　よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房、2020年。
阿内春生編著『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』昭和堂、2024年。
戸田山和久『最新版　論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版、2022年。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

履修人数や履修者の関心によって授業計画等を変更する場合がある。
ゼミ内での活動とゼミに向けての準備物を評価する。ゼミ中には積極的に議論に参加し、発言すること。また、時間外での学修や準備を怠ることのないようにすること。
議論を深めるため、自分の担当回以外の文献も読んだ上で毎回のゼミに臨むこと。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス・教育について学ぶ**<br>ゼミの進め方や目標を確認する。教育について学ぶことの意味について考える | 今まで教育について学んできたことを振り返る。 | 4時間 |
| 第2回 | **教育学を知る**<br>コースや教職の授業で今まで学んできた教育学に関する情報を共有し、今後の学びに向けて議論する。 | 教育について、自分の関心を確認する。 | 4時間 |
| 第3回 | **論文とは何か？**<br>論文やレポートの構成や書き方について学び、論理的文章の構成を理解する。 | 教科書を読んで、論理的文章の構成を確認する。 | 4時間 |
| 第4回 | **文献購読の準備**<br>文献購読を行う際の流れや、レジュメの作成方法、文献の読み方について学ぶ。 | 教科書などの担当箇所を読み、発表レジュメを作成する。 | 4時間 |
| 第5回 | **論文の調べ方**<br>インターネットでの論文や図書の探し方を学び、実際に探す。参考文献の書き方のルールを学ぶ。 | 論文や図書を検索し、ルールに則ってまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **卒論中間発表会見学**<br>卒論の中間発表会に参加し、研究や卒業論文について理解を深める。 | 面白いと思った発表についてまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **文献購読①**<br>教科書について、担当者からレジュメをもとに報告を行い、その内容をもとに議論する。 | テキストの該当箇所を読んで、意見や疑問点をまとめておく。自分の発表の準備をする。 | 4時間 |
| | 教科書について、担当者からレジュメをもとに報告を行い、その内容をもとに議論する。 | | |
| | 教科書について、担当者からレジュメをもとに報告を行い、その内容をもとに議論する。 | | |
| 第10回 | **文献購読②**<br>指定文献について、担当者からレジュメをもとに報告を行い、その内容をもとに議論する。 | テキストの該当箇所を読んで、意見や疑問点をまとめておく。自分の発表の準備をする。 | 4時間 |
| | 指定文献について、担当者からレジュメをもとに報告を行い、その内容をもとに議論する。 | | |
| | 指定文献について、担当者からレジュメをもとに報告を行い、その内容をもとに議論する。 | | |
| 第13回 | **関心報告①**<br>半期のゼミでの学び中で、興味を持ったトピックについて、近年の動向や主要文献などを調べて報告する。 | 自分の関心を持ったトピックについて、情報収集をし発表レジュメを作成する。 | 4時間 |
| 第14回 | **関心報告②**<br>半期のゼミでの学び中で、興味を持ったテーマについて、近年の動向や主要文献などを調べて報告する。 | 自分の関心を持ったトピックについて、情報収集をし発表レジュメを作成する。 | 4時間 |

SP-3202-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス基礎演習Ⅱ（齊藤）** | | | | |
| 担当教員名 | **齊藤　恵理称** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 外資系コンサルティングファームで、国内外企業やパブリックセクターのパブリックリレーションの戦略コミュニケーションに関する実務、米国および日本のオリンピック・パラリンピックの組織委員会のコミュニケーション活動やパートナー企業のスポンサーシップ、アクティベーションの戦略立案と実行に関する実務、adidas、テーラーメイドをはじめとするスポーツブランドのブランディング、パブリックリレーションに関する実務を経験。男子プロゴルフツアー、ホッケーリーグ、各種スポーツイベントのコミュニケーション活動に関する実務に携わる。グローバルスポーツビジネスの実務経験から、実践で活かせる知識とスキルの習得につながる教育を行う。 | | | |

**授業概要**

グローバルでスポーツビジネスが成長を続ける中、国内外スポーツビジネスの動向を理解するとともに、スポーツビジネスの理論的な学びに加え、スポーツビジネスの現場における実践的な体験を通じて、将来スポーツ関連企業のみならず、視野を広げ、多様な業界や一般企業を含めたキャリア形成にもつながる授業を目指す。
卒業研究の制作にむけて、必要な知識やスキルを身につけると同時に、社会やビジネスの現場で必要となる実践的な考え方や資料作成やプレゼンテーションなどの能力の向上にも取り組む。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | スポーツビジネス、コミュニケーションについての理解を深め、自身の関心のある分野をみつける | 関心のあるテーマでどのような研究やビジネスが行われているのか調べる能力を身につけるとともに、メンバーに共有し互いのレベルを高める |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 関心のあるテーマについて、文献やインタビューなどで先行研究を行い、研究計画を策定する | 研究計画についてプレゼンテーションを行い、資料作成、発表の表現のスキルを習得する |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 取り組み姿勢 | 20 % | ： ゼミへの出席もしくは課題や週報の提出を行う（3分の２以上） |
| 関心分野の先行研究 | 30 % | ： 関心テーマの決定や卒論制作にむけた論文を探し、内容を理解、ゼミのメンバーに共有し（５本程度）、ディスカッションを行うことで理解度を確認する |
| カンファレンスや視察、フィールドワークへの参加 | 30 % | ： 1回以上参加、もしくは参加できなくても参加した人の体験から学び、理解度や興味関心を確認する |
| プレゼンテーション | 20 % | ： 卒論制作にむけたテーマと方向性を習得したスキルを踏まえてプレゼンテーションを行う |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

Strategic Sport Communication　(Paul M Pedersen ) ２０２０年
パーパス 「意義化」する経済とその先 (岩嵜博論 , 佐々木康裕　NewsPics) 2021年

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学習が求められる。
『授業外学習課題』に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜日の4限、授業の前後

**場所**：　研究室

**備考・注意事項**：　研究室に訪問する際には事前にsaito-e@gbss.ac.jpにメールでの連絡が必須となります。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンスとイントロダクション**<br>ゼミの目的や活動の概要、評価方法の説明を行う。<br>また研究のテーマであるグローバルスポーツコミュニケーション分野についての説明を行い、学生の関心分野の共有とグループ分けを行う。 | 授業後に内容についてわからなかった点や疑問を持った点について自身でも調べ理解を深める。 | 4時間 |
| 第2回 | **グローバルスポーツコミュニケーションの現状**<br>グローバルスポーツの市場動向やスポーツの社会における役割、スポーツコミュニケーションの研究の概要について説明を行う。課題例を基にディスカッションを行う。 | 関心を持ったテーマに関連する文献を探し、読み込む | 4時間 |
| 第3回 | **メディア環境の変化とスポーツビジネス**<br>メディアの環境がどう変化しているか、デジタルメディアがスポーツに与える影響は何か、OTTサービスとスポーツコンテンツの進化について説明を行う。PESOへの理解を深め、メディア戦略の事例分析をグループで行う。 | メディア戦略の事例分析を各自で別の視点を用いて行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツスポンサーシップ**<br>スポンサーシップのグローバルの動向、共創型の取り組みへの変化、今後の成長の可能性について、各種の事例を用いて説明を行う。その後、グループで事例のポイントについてディスカッションを行い、理解を深める。 | スポンサーシップに関して自身の関心や視点で文献を調べ、どのような研究が行われているか理解を深める。 | 4時間 |
| 第5回 | **ブランドとスポーツマーケティング**<br>スポーツを活用したブランド戦略について、事例を用いてブランドのストーリーテリング、ナラティブについて説明し、グループでソーシャルリスニングを行い、反響分析を行う。 | ストーリーテリングやナラティブについての自身の関心や視点で文献を調べ、どのような研究が行われているか理解を深める。 | 4時間 |
| 第6回 | **卒業論文テーマ設定ワークショップ**<br>学生各自のテーマの絞り込みを行い、論文の構成や研究方法など卒業論文の制作に必要な要素について説明を行う。テーマに関するワークショップを行いプレゼンテーションを行う。 | 効果の指標にどのようなものがあるか自身で調べて理解を深める | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツの社会における役割とインパクト**<br>オリンピック・パラリンピックやサッカーワールドカップ、ラグビーカップなどの国際スポーツイベント経済的効果、社会への影響、スポーツイベントの効果や成果の可視化の動向や重要性について説明し理解を深める。<br>グローバルで進むスポーツを通じた社会問題解決への取り組みについて説明し、実現にむけて鍵となる要素は何か、今後の日本の地域社会においてどのような取り組みが地域の成長につながるかについてグループでディスカッションし、イベントのプランニングを行う。 | 社会におけるスポーツの役割について改めて自身で考え、理解を深める | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツDX**<br>デジタル技術を活用してスポーツコンテンツや産業の価値を再構築し、顧客体験や運営効率を向上させる取り組みについて説明し、DXを活用した未来のスポーツについてグループでディスカッションを行い、理解を深める。 | スポーツDXの事例を調べてポイントをまとめ、グループで共有する | 4時間 |
| 第9回 | **データ分析とスポーツマーケティング**<br>データドリブンのマーケティング戦略のグローバルの動向について説明を行い、どのようなデータ活用の可能性があるかグループでディスカッションし、理解を深める。 | データドリブンマーケティングについて自身でも調べて理解を深める。 | 4時間 |
| 第10回 | **効果を最大化するコンテンツ**<br>コンテンツ制作におけるキーメッセージやストーリーの重要性と基本的なメッセージの構造、パーパス起点、相手視点などのポイントについて説明を行い、グループでキーメッセージ作成を行う。 | 各自で事例研究を行い、グループに共有する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第11回 | **アスリート、チームのSNS戦略**<br><br>アスリートやチームのSNS活用と意義、リスクについて説明を行う。反響のセンチメントやコンテンツによるインパクトの違いなどを踏まえ、SNSのコンテンツ制作や運用、今後の活用の方向性についてディスカッションを行う。 | ディスカッションの内容を踏まえ、自身の考え方やアイデアをグループに共有する。 | 4時間 |
| 第12回 | **グローバルスポーツとガバナンス**<br><br>日本における競技団体やスポーツ界のガバナンスについて、実際におきた不祥事の事例を活用して重要性について説明を行う。不祥事がなぜ起きるのか、グループでディスカッションを行い改善策を模索することで理解を深める。 | 事例研究を行い、グループに共有する。 | 4時間 |
| 第13回 | **卒業論文研究計画作成ワークショップ**<br><br>研究計画の作成について説明を行い、学生各自のテーマに基づき研究計画を作成を行い、発表のプレゼンテーションを作成する。 | 次週のプレゼンテーションにむけて準備を行う。 | 4時間 |
| 第14回 | **．総括とプレゼンテーション**<br><br>研究計画に関するプレゼンテーションを行い、質疑応答、フィードバックを行う。総括と卒業論文に向けたアドバイスを行う。研究計画書の作成について説明を行う。 | プレゼンテーションへのフィードバックのポイントを振り返り、不足分を補えるよう自身で調べて対応する | 4時間 |

SP-3202-3-1

| 授業科目名 | スポーツビジネス基礎演習Ⅱ（明） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 明　世熙 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

ゼミ単位で多様な角度よりスポーツビジネスについて探求および学習を行う。ゼミ配属直後より、日本国内大学生を対象としたスポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）にグループとして参加し、スポーツビジネスおよび産業へ新しいアイデアを提案する一連の過程を全員で取り組む。また、専門実習でのグループワークや卒業研究の本格的な取り組みの前に研究への理解を行う。同時にスポーツビジネス業界で活躍できる人材として成長するために必要な能力をゼミ活動を通じてトレーニングする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | スポーツビジネスにおける多様な分野に興味を持つ。 | スポーツビジネスへの個人の関心および意欲を高めることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 個人の経験のあるスポーツ種目以外で、スポーツビジネスを専攻とする大学生水準の知識を取得する。 | 一般大学生が持つ教養および知識に加えて、各自が経験した、また経験してないスポーツ種目について簡単な説明およびビジネスについて説明することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 全てのゼミ活動において、主体的に自分の考えおよび意見を周辺と共有しながら自分の言葉で表現する。 | 毎回のゼミ演習で1分間スピーチを実施、また毎月の個人レポートおよび1 on 1ミーティングで自分を表現し、1人で考えることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 積極的にゼミ活動に参加し、自ら学ぶ姿勢で取り組む。 | スポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）、専門実習のグループワークを積極的に実施し、コミュニケーション能力を向上させる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| グループワーク | 20 % | ： 日本全国の大学生を対象に行われるスポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）にグループとして参加し、新しいアイデアでのスポーツビジネスおよび産業における政策を論文およびプレゼンテーションで提案することができる。 |
| 一般教養および知識の取得 | 20 % | ： 毎月、スポーツ以外の興味および関心分野に関するレポートを作成し、他のゼミメンバーと共有する。また、全員のレポートを閲覧し、ご自身の考えをコメントすることができる。 |
| 研究活動への理解 | 20 % | ： 卒業研究に本格的に取り組む前に実施する専門実習でのグループワークにあたり、研究活動への基礎的な理解および論理的な思考、学術的な資料の作成および解釈ができる。 |
| スポーツビジネスへの理解 | | ： スポーツビジネス業界の社会人としての必要な教養、マナー、知識に加わり、ご自身のキャリア開発に向けて真剣に考え、行動として実施することができる。 |

20 %

ゼミメンバーとの協力作業 : チームのメンバーとして、ゼミメンバーと協力しながら、ゼミ活動および演習授業での活動に積極的に参加することができる。同期以外のコース内同級生、ゼミ先輩などともコミュニケーションをとりながら自主的に学びに向き合うことができる。

20 %

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

毎週、別途配布いたします。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

・ゼミ配属の直後よりスポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）参加への取り組みが始まるので、夏休みの期間中にしっかり取り組める時間が確保できる人の履修が望ましい。

・主体的に学びに取り組み、ゼミメンバーと積極的にコミュニケーションをとりながら活動したい人がの望ましい。

・また、全体的にゼミ活動の回数や課題が多いので、学業以外に部活、アルバイト、学連などの活動に時間を使いたい人には負担が大変大きいので、再考すること。前例の活動と両立したい場合は、事前に相談すること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 授業終了後

**場所**： 講義室

**備考・注意事項**： ゼミ生とは、月1回 1 on 1 ミーテイングを実施いたします。
詳細については、ゼミ配属後に別途説明いたします。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **SPJグループワーク**<br>スポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）参加のために必要な資料作成および発表準備 | 毎週、毎月ゼミ内で別途出します。 | 4時間 |
| | スポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）参加のために必要な資料作成および発表準備 | | |
| | スポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）参加のために必要な資料作成および発表準備 | | |
| 第4回 | **SPJ最終リハ**<br>スポーツ政策学生会議（Sport Policy for Japan）参加のために必要な資料作成および発表準備の最終確認 | 毎週、毎月ゼミ内で別途出します。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツビジネス業界および就職活動への理解**<br>スポーツビジネス業界への理解および就職活動にあたり必要な知識および個人理解を含むゼミメンバー同士での業界や業種などのリサーチと議論 | 毎週、毎月ゼミ内で別途出します。 | 4時間 |
| 第6回 | **研究活動の理解（資料検索、論文解読）**<br>卒業研究に向けた、研究活動への基礎的な理解および知識の取得 | 毎週、毎月ゼミ内で別途出します。 | 4時間 |
| 第7回 | **専門実習グループワーク・その他（ゼミ生と詳細は議論して決定）**<br>専門実習で取り組むグループワークの進捗確認およびグループワーク実施<br>また、ゼミ生と議論し、その時に必要な活動を追加で実施 | 毎週、毎月ゼミ内で別途出します。 | 4時間 |
| | 専門実習で取り組むグループワークの進捗確認およびグループワーク実施<br>また、ゼミ生と議論し、その時に必要な活動を追加で実施 | | |
| | 専門実習で取り組むグループワークの進捗確認およびグループワーク実施<br>また、ゼミ生と議論し、その時に必要な活動を追加で実施 | | |
| | 専門実習で取り組むグループワークの進捗確認およびグループワーク実施<br>また、ゼミ生と議論し、その時に必要な活動を追加で実施 | | |
| | 専門実習で取り組むグループワークの進捗確認およびグループワーク実施<br>また、ゼミ生と議論し、その時に必要な活動を追加で実施 | | |
| | 専門実習で取り組むグループワークの進捗確認およびグループワーク実施<br>また、ゼミ生と議論し、その時に必要な活動を追加で実施 | | |
| 第13回 | **専門実習プレゼン最終確認**<br>専門実習で取り組むグループワーク最終提出および発表に向けた最終確認 | 毎週、毎月ゼミ内で別途出します。 | 4時間 |
| 第14回 | **振り返り**<br>後期のゼミ活動および本人の3年生の学び振り返り、4年生に向けた計画作成 | 毎週、毎月ゼミ内で別途出します。 | 4時間 |

SP-3302-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・トレーニング科学基礎演習Ⅱ（渡邊）** | | | | |
| 担当教員名 | **渡邊　裕也** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 明治安田厚生事業団研究員，NPO法人京都運動器障害予防研究会理事として従事してきた一般の人々（子ども，勤労者，高齢者）の健康維持，増進につながる活動やアスリートのサポートといった実践経験を講義内容に活用している． | | | | |

**授業概要**

本授業では，「各種身体機能の評価方法やデータ処理法を習得すること」「学術論文を読む能力を身につけること」「プレゼンテーション能力を身につけること」に主眼を置く． また，文献の情報などをもとにメンバー全体で研究課題を選定し，予備実験を行う．予備実験終了後には，データを分析し結果を取りまとめる． 一連の取り組みを通じて卒業研究を遂行するための基礎的手順を学習する．さらに，メンバー同士のディスカッション能力や協調性の向上も目指す．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 健康・トレーニング科学の基礎的理解 | 卒業研究の基盤となる基礎的な知識と技能を習得する． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | データ解析方法の理解とプレゼンテーションの練習 | 取得データを分析し，それを適切に発表する能力を身につける． |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 予備実験の実施（課題設定，データ取得，データ処理） | ゼミメンバーと協力して課題に取り組む能力を身につける． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

**注意事項等**

成績は，ゼミでの取り組み状況およびプレゼンテーション，レポートで評価する．

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 先行研究を紹介するプレゼンテーション | 50 % | ： プレゼンテーションの内容で評価する． |
| 予備実験のデータを使ったレポート | 50 % | ： データ処理の理解度とレポート内容から評価する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

必要に応じて，授業の中で紹介する．

**履修上の注意・備考・メッセージ**

授業資料はTeamsを通じて配信します．授業には，各自PCを持参してください．
本科目は2単位科目であり，毎回4時間程度の授業外学修が必要です．「授業外学修課題」に取り組むことに加え，授業内容を丁寧に復習してください．また，必要に応じて次回の授業の予習をしてください．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 随時

**場所**： 研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション**<br>授業の概要を説明するとともに，これまでにゼミで行ってきた卒業研究を紹介する． | 健康・トレーニング科学の分野における自身の興味や関心を振り返り，整理する． | 4時間 |
| 第2回 | **エクセルを使ったデータ処理①**<br>統計解析の方法を説明し，実際のデータを使った相関分析の方法を学ぶ．分析結果の解釈について理解を深める． | エクセルを用いたデータ解析の方法を復習する． | 4時間 |
| 第3回 | **エクセルを使ったデータ処理②**<br>統計解析の方法を説明し，実際のデータを使ったt検定およびカイ二乗検定の方法を学ぶ．分析結果の解釈について理解を深める． | エクセルを用いたデータ解析の方法を復習する． | 4時間 |
| 第4回 | **エクセルを使ったデータ処理③**<br>統計解析の方法を説明し，実際のデータを使った一元配置分散分析および多重比較の方法を学ぶ．分析結果の解釈について理解を深める． | エクセルを用いたデータ解析の方法を復習する． | 4時間 |
| 第5回 | **エクセルを使ったデータ処理④**<br>パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の概要を説明し，実際のデータを使ったノンパラメトリック検定の方法を学ぶ．分析結果の解釈について理解を深める． | エクセルを用いたデータ解析の方法を復習する． | 4時間 |
| 第6回 | **SPSSを活用したデータ処理**<br>重回帰分析，偏相関分析，二元配置分散分析について学ぶ．分析結果の解釈について理解を深める． | これまでに紹介した統計手法について，理解を深める． | 4時間 |
| 第7回 | **先行研究の紹介①**<br>先行研究を紹介するパワーポイントファイルを作成し，発表する．発表後のディスカッションを通じて，学術論文を深く読解する． | 発表者は紹介する先行研究の選定とプレゼンテーションを準備する．発表およびディスカッションを振り返り，論文内容の理解を深める． | 4時間 |
| 第8回 | **先行研究の紹介②**<br>先行研究を紹介するパワーポイントファイルを作成し，発表する．発表後のディスカッションを通じて，学術論文を深く読解する． | 発表者は紹介する先行研究の選定とプレゼンテーションを準備する．発表およびディスカッションを振り返り，論文内容の理解を深める． | 4時間 |
| 第9回 | **先行研究の紹介③**<br>先行研究を紹介するパワーポイントファイルを作成し，発表する．発表後のディスカッションを通じて，学術論文を深く読解する． | 発表者は紹介する先行研究の選定とプレゼンテーションを準備する．発表およびディスカッションを振り返り，論文内容の理解を深める． | 4時間 |
| 第10回 | **先行研究の紹介④**<br>先行研究を紹介するパワーポイントファイルを作成し，発表する．発表後のディスカッションを通じて，学術論文を深く読解する． | 発表者は紹介する先行研究の選定とプレゼンテーションを準備する．発表およびディスカッションを振り返り，論文内容の理解を深める． | 4時間 |
| 第11回 | **先行研究の紹介⑤**<br>先行研究を紹介するパワーポイントファイルを作成し，発表する．発表後のディスカッションを通じて，学術論文を深く読解する． | 発表者は紹介する先行研究の選定とプレゼンテーションを準備する．発表およびディスカッションを振り返り，論文内容の理解を深める． | 4時間 |
| 第12回 | ***グループワーク①予備実験の計画***<br>数名のチームを作り，予備実験を計画する． | 実験の目的と計画を整理する． | 4時間 |
| 第13回 | ***グループワーク②予備実験の実施***<br>計画した実験を実施し，データを取得する． | 取得したデータをまとめるとともに，プレゼンテーションの準備を進める． | 4時間 |
| 第14回 | ***グループワーク③予備実験のデータ解析と発表***<br>グループのメンバーで協力して，取得したデータを統計的に解析し，パワーポイントにまとめる．発表とディスカッションを通じて，実験結果の理解を深める． | 結果をレポートにまとめる． | 4時間 |

SP-4114-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ教育基礎演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **大西・川合・黒澤・多賀谷・山手・髙松・股村・松本** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

本科目では、2年次までに習得した体育・スポーツに関する基礎知識を活用して、学校スポーツ教育に関する知識、理論、指導方法について習得することを目的としている。具体的には、小学校、中学校、高等学校における保健体育授業、特別活動（健康安全・体育的行事）、運動部活動の指導に関する内容である。コース教員が専門とする各運動領域の指導理論や指導方法を中心に、グループ活動や発表などを通じて実践的な知識と技能を身に付けることを目指している。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校教育に関わる専門的な知識 | 学校教育の専門性について理解することができる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 学習指導要領に示されている保健体育科各領域の運動特性と指導法 | 保健体育科各領域の運動特性と指導法について理解することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 保健体育科教育、特別活動、運動部指導の検討 | 保健体育科教育、特別活動、運動部の効果的な指導方法について提案することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の取り組みと小レポート | 70 % | ： 各回の取り組みと小レポートの内容について評価する。 |
| まとめの課題レポート | 30 % | ： 全14回を通じて、学んだこと、身に付けたことを課題レポートとして、最後にまとめる。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「中学校学習指導要領解説　保健体育編」
「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」

その他、必要な資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本授業は、学校スポーツ教育コースの基礎演習科目である。将来、各自が学校教育に関わることを念頭において、責任と自覚を持って真剣に取り組むこと。また、課題の提出については期限を厳守すること。実習を伴う授業については、トレーニングウエア・体育館シューズなどが必要である。授業内で、パソコンやタブレット端末を使用することがあるので、担当者の指示に従うこと。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間：** オフィスアワー

**場所：** 山手隆文研究室

**備考・注意事項：** 質問に来る際には、事前に連絡をすること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション　学校スポーツの学びを体感する①**<br>本授業の内容や計画について理解する。その後、実際にアリーナでスポーツを通して学びを体感し、今後に向けた仲間づくりを行う。 | 仲間づくりの重要性を理解する。 | 4時間 |
| 第2回 | **学校スポーツの学びを体感する②**<br>実際にアリーナでスポーツを体感する中で、グループごとに課題解決に向けて、協力して取り組む。 | 課題解決に向けて、グループで協力する重要性を理解する。 | 4時間 |
| 第3回 | **体育授業における集団行動の指導法①**<br>中学校・高等学校の体育授業で行う「集団行動」の実技指導について理解する。<br>実際にアリーナでグループに分かれて、集合、整列、行進など技能を身に付ける。 | 集団行動の指導法に関する資料を理解する。 | 4時間 |
| 第4回 | **体育授業における集団行動の指導法②**<br>「集団行動」の発展的な動きを身につけ、グループで協力して集合、整列、行進など技能を身に付ける。 | 集団行動の指導法に関する知識を習得する。 | 4時間 |
| 第5回 | **小学校における生徒指導**<br>小学校における生徒指導について、具体的な事例をもとに理解する。 | 小学校における生徒指導の課題についてまとめる。 | 4時間 |
| 第6回 | **小学校における体育・保健指導**<br>小学校における体育・保健指導について、具体的な事例をもとに理解する。 | 小学校学習指導要領の体育科の内容を調べる。 | 4時間 |
| 第7回 | **進級による指導における自立活動の実際**<br>学校学習指導要領における自立活動の教育課程上の位置づけと内容について理解する。 | 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）のさまざまな事例について調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **部活動指導の現状と課題**<br>学習指導要領における、部活動の取り扱いについて理解する。<br>部活動の現状と課題について理解する。 | 部活動に関する資料を収集し、その内容をまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **保健科教育の実践力を再確認する。**<br>実際の保健授業を通じて保健科教育の実践力を確認する。 | これまでに自分の受けてきた保健科学習を思い出してまとめておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **体育授業における教師の観察力について**<br>体育授業における教師の観察力について、実際の授業事例を通して理解する。 | 教師の授業観察力に関する資料をまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **現代の教育課題と教育政策**<br>現代の教育課題や近年の教育政策で取り組まれている事項を理解する。 | ニュースや政府や自治体の文書を検索し、具体的な課題やそれに対する政策的対応をまとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **保健体育科教員としての資質・能力**<br>保健体育科教員になるための資質・能力について理解する。<br>生徒を指導する際に必要な理論や知識について検討する。 | 各都道府県の教員採用試験要項を調べる。 | 4時間 |
| 第13回 | **学校安全（危機管理意識）**<br>学校現場での危機管理意識をもち、学校安全について理解する。 | 学校安全について調べ、学校現場での現状を理解する。 | 4時間 |
| 第14回 | **学校スポーツの課題と対策について**<br>本授業（全14回）を通して学んだ、学校スポーツの課題について、自身が興味関心を持った内容を取り上げて、その対策や解決策について記述する。 | 学校体育・スポーツの課題についてまとめる。 | 4時間 |

SP-4512-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス基礎演習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉・石井・城島・山本・齊藤・明** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 石井：大阪ガス株式会社でのトップアスリートのマネジメント及びスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者など<br>城島：プロのスポーツライターとして（トップアスリートやスポーツに関する著作多数）の実践経験など<br>斎藤：日本ゴルフツアー機構広報アドバイザー，ホッケージャパンリーグ理事など広報業務など<br>吉倉：経済産業省スポーツ産業室長として、国内スポーツ産業政策に従事<br>明：福岡ソフトバンクホークス球団職員として実務を経験 | | | | |

**授業概要**

本演習では，スポーツビジネスの現場で起こっているさまざまな事象を知り，それらを専門的に学ぶために必要な基礎的マネジメント・マーケティング・統計スキル，質的研究の基礎を身につけることを目的とする．
到達目標
・スポーツビジネスに関する文献・資料・データを検索し，それを読んで理解できるようになる．
・ブランドイメージ，製品関与，ブランドロイヤルティ（行動的ロイヤルティ，態度的ロイヤルティ），製品満足度，再購買意図，顧客エンゲージメントなどに関する学内でのスポーツブランド選好調査（ミズノ，アシックス，ナイキ，アディダス，アンダーアーマー）を実施し，ブランド毎のグループにまとめて報告できるようになる．
・スポーツメディアに関する研究法を理解できるようになる．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツメーカーやプロスポーツクラブを対象としたスポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルの知識・技能の修得 | スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを用いて仮説検証できるようになる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | (1)スポーツメーカーやプロスポーツクラブを対象としたスポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを応用した仮説検証結果の思考・判断・表現(2)スポーツメディアによって発信された情報の思考・判断・表現 | (1)スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを応用した仮説検証結果の思考・判断・表現ができるようになる．(2)メディアを通じて受け取ったスポーツのシーン，アスリートの言葉から自分の視点でスポーツの魅力について考察でき，適切な文章で表現できる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

授業の内容は，Teams上に事前にアップロードする．また，ICT活用として，powerpoint，excel，SPSSなどのアプリを活用する．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

各授業回で，質問・感想・要望などの聞き取りをおこない，内容に応じて，teams一般スレッドでの回答や，次週授業で履修者全員に説明をおこなう．

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 抄録作成 | 20 % | ： 学内で収集したスポーツブランド選好調査データの特定ブランドに対する解析結果，及びプロポーザル（提案・企画内容）をA4用紙１枚にまとめ，適切にまとめているかを評価する． |
| プレゼンテーション | 30 % | ： 学内で収集したブランド選好調査データの特定ブランドに対する解析結果に基づいた，提案内容（プロポーザル）が説得的で論理的に構成されているかを評価する． |

ビジネスデータ統計解析　　：　収集したデータを統計的知識に基づいて分析、考察して報告しているかを評価する.

30　%

個人評価　　：　グループワークの中で，主体的で積極的に関わったどうかの観点から，個人を評価する.

20　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツ産業論・第7版（原田宗彦編著　杏林書院）
よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞・吉田政幸編著，ミネルヴァ書房）
超初心者向けSPSS統計解析マニュアル（米川和雄，山崎貞政著，北大路書房）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項**：　事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください.
石井：ishii-sa@bss.ac.jp（オフィスアワー：水曜日３限）
城島：jyojima@bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
山本：yamamoto-tatsu@bss.ac.jp（オフィスアワー：火曜日3限）
斉藤：saito-e@bss.ac.jp（オフィスアワー：月曜日4限）
吉倉：yoshikura-h@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
明：myoung@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日　1限）

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **スポーツビジネスの理論や現場の事例を知る，（1）（2）（3）**<br><br>(1)「卓球プロリーグ『Tリーグ』発足 までの道のり」Tリーグチェアマンを務める松下浩二はなぜ，日本に卓球のプロリーグを作ろうとしたのか．着想からリーグ発足まで30年にわたる挑戦を振り返りながら，スポンサー獲得や放映権をめぐる曲折，彼が頭の中で描いているTリーグの未来図について学ぶ.<br>（担当：城島）<br><br>(2)「スポーツと企業戦略」プロスポーツチームの企業としての成長戦略のみならず，スポンサードする企業の目的や戦略などを学び，スポーツビジネス発展の方法論を検討する.<br>（担当：石井）<br><br>(3)「スタジアム観戦者データを用いた統計解析」Jリーグクラブの観戦者行動モデルとスタジアム種別・席種・会員種別による観戦者行動や心理の違いについて学ぶ.<br>（担当：山本） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツビジネス現場を知る（4）（5）（6）**<br><br>(4)「コミュニケーションを通じた広告広報戦略」スポーツビジネス現場におけるコミュニケーション戦略について学ぶ.<br>（担当：斎藤）<br><br>(5) 経産省スポーツ産業室室長として関わったスポーツビジネス現場やスポーツマネジメントについて学ぶ.<br>（担当：吉倉）<br><br>(6)NPB球団および球場ビジネスについて学ぶ.<br>（担当：明） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツメーカーのブランド選好調査研究に関する説明**<br><br>スポーツブランドのブランドイメージ，製品関与，ブランドロイヤルティ（行動的ロイヤルティ，態度的ロイヤルティ），製品満足度，再購買意図，顧客エンゲージメントなどに関する学内でのスポーツブランド選好調査（ミズノ，アシックス，ナイキ，アディダス，アンダーアーマー）の説明．調査で用いる各調査変数の用語・心理尺度・統計処理について学ぶ.<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツメディア（ジャーナリズム・広報戦略）を対象とした調査研究**<br><br>スポーツメディアの歴史を学びながら，それぞれの時代に報じられたスポーツのシーンやアスリートの言葉をテキストにして，そのシーンや言葉が持つ意味について考える.<br>（担当：城島・斉藤） | 配布資料をよく読み、スポーツメディア研究について復習すること。 | 4時間 |
| 第5回 | **基礎統計について学ぶ** | 配布資料をよく読み、基礎統計について復習すること。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 調査にて得られた回答をデータ化するために，エクセルを用いた処理方法について学ぶ．また，SPSSを用いた基礎解析（信頼性分析，合成変数の作成，度数分布，平均値，中央値，分散，標準偏差，不偏標準偏差，自由度，正規分布）について理解する．<br>（担当：山本・吉倉・明） | | |
| 第6回 | **データ処理・基礎統計について学ぶ（χ二乗検定，平均値の検定，相関分析）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，χ2乗検定，平均値の検定，相関分析などの処理方法について学ぶ．（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、χ2乗検定，平均値の検定，相関分析について復習すること。 | 4時間 |
| 第7回 | **基礎統計について学ぶ（t検定、マン・ホイットニーのU検定、効果量）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，t検定、マン・ホイットニーのU検定，効果量について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、t検定，マン・ホイットニーのU検定，効果量について理解を深める。 | 4時間 |
| 第8回 | **基礎統計について学ぶ（1要因分散分析：対応なし・対応あり）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，対応なし・対応ありの1要因分散分析と効果量について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、対応なし・対応ありの1要因分散分析と効果量の理解を深める | 4時間 |
| 第9回 | **基礎統計について学ぶ（2要因分散分析：対応なし・なし、対応あり・なし、対応あり・あり）**<br><br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，重回帰分析について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、対応なし・対応ありの2要因分散分析の理解を深める | 4時間 |
| 第10回 | **スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（基礎集計：グラフの作成）**<br><br>統計処理ソフトを用いて算出した統計量をもとに，エクセルを用いてグラフを作成する方法を学ぶ．その後，グループワーク．<br>（担当：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | 統計処理ソフトを用いた基礎集計について、グラフを用いて報告できるようにすること。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（学術論文の読み方）**<br><br>卒業論文における研究の目的，問題の所在，学術的貢献，データ収集，データ分析，主な結果・結論などを読み取れるように，それぞれの特徴について学習する．その後，グループワーク．<br>（担当：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | スポーツビジネス研究領域における学術論文について理解し、また熟読できるようにすること。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツビジネスに関する情報をまとめる（スライドの作成方法）**<br><br>グラフおよび表にまとめた分析結果を，パワーポイントスライドに落とし込み，プレゼンテーション資料の作成方法，構成内容，論旨展開，図表の効果的な使い方，図表の体裁などを学ぶ。その後，グループワーク．<br>（担当：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | スポーツビジネスに関する現状について、二次情報をパワーポイントに落とし込み、適切な表現が出来るように努めること。 | 4時間 |
| 第13回 | **スポーツブランド選好調査のグループ毎の報告（1）**<br><br>スポーツブランド選好調査のグループ毎（ミズノ，アシックス，ナイキ，アディダス，アンダーアーマー）の報告，プレゼンテーション（1）（評価：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | 各グループにおけるプレゼンテーションに対する自身の考察をまとめること。 | 4時間 |
| 第14回 | **スポーツブランド選好調査のグループ毎の報告（2）**<br><br>スポーツブランド選好調査のグループ毎（ミズノ，アシックス，ナイキ，アディダス，アンダーアーマー）の報告，プレゼンテーション（2）（評価：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | 各グループにおけるプレゼンテーションに対する自身の考察をまとめること。 | 4時間 |

SP-4217-2-1

| 授業科目名 | アスリートコーチング基礎演習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 北村・渋谷・林・竹川・工藤・坂尾 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

コース教員それぞれより、アスリートコーチングコースにおける専門領域（競技力向上、コーチング、科学的支援（情報によるスポーツ支援））に関する（1）スポーツ現場での実践経験や研究活動および教員の指導・支援の実践ポリシー（方針・哲学）についての授業を行い、コーチングについての実践的理解を深める。また、スポーツ現場を分析・議論するための（2）各知識と（3）論理的分析技術力の向上（論理的分析技術、ディスカッション）のほか、（4）これまでの自身のスポーツキャリアを省察し、プレーヤーの分析（他者分析）の土台となる対自己力を高め、スポーツ現場で求められる種々の分析スキルの獲得と向上を目指す。そして、3年次の専門実習と4年次の演習および卒業研究のための基礎力を養う。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 授業概要に記載した各内容（1）から（4）への学習 | 授業内容を幅広く取り上げながらアスリートコーチングコースでの学びの可能性を説明できる |
| 2. DP2.知識・技能 | 授業概要に記載した各内容（1）から（4）への学習 | 学習した内容について、要点を明確にして説明できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 授業概要に記載した各学習内容（1）から（4）におけるグループワークやディスカッションおよびレポート作成 | 授業内容と経験も踏まえ自身の考えを明確に示せる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 授業概要に記載した内容（4）における各種ワークとレポート作成 | これからの自身の成長についての考えを明確に示せる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
ICT(タッチタイピング)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題レポート | 20 % | ： それぞれの授業回担当者が提示する課題レポート（第1から7回分）を評価します。①コーチング活動への関心度（5%：関心・意欲）、②授業内容の理解度（10%：知識・技能）、③自身の経験や考えを明確に示せているか（5%：思考・判断・表現）の観点から評価します。 |
| 自己省察実践 | 35 % | ： 自己理解のための省察およびレポートにおいて、①コーチングにおける「自己理解」の理解度（5%：知識・技能）および②分析力（10%：思考・判断・表現）、③これからの自己成長への課題（20%：学びに向かう力）観点から評価します。 |
| 技術言語実践 | 20 % | ： 実践を通して、①ペアワーク等への実践意欲（5%：関心・意欲）、言語技術の理解度（5%：知識・技能）と③ワークの際の自己の経験とうから総合的に思考・判断し実践できるているか（10%：思考・判断・評価）について評価します。 |
| 最終課題レポート | | ： 今後の実践課題と計画について簡潔に述べるものとします。①アスリートコーチングコースでの学びの可能性（10%：関心・意欲）、②自身の経験や考えを明確に示せているか（5%：思考・判断・表現）、③今後の自身の成長計画を明確に示せているか（10%：学びに向かう力）について評価しま |

す。

25　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特に使用しないが、各回において参考図書や資料を設定している。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　各担当教員オフィスアワー

**場所**：　各担当教員研究室

**備考・注意事項**：　各担当教員のオフィスアワー参照

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション、**<br>本授業のオリエンテーションを行うとともに、アスリートコーチングに求められる事項について確認する。 | スポーツ指導論の授業資料を復習する。 | 4時間 |
| 第2回 | **北村哲の実践キャリアとポリシー**<br>北村哲の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 北村哲の実践活動や研究活動について事前調べを行う、また授業後に実践および研究活動と実践ポリシーについて復習をする。 | 4時間 |
| 第3回 | **渋谷俊浩の実践キャリアとポリシー**<br>渋谷俊浩の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 渋谷俊浩の実践活動や研究活動について事前調べを行う、また授業後に実践および研究活動と実践ポリシーについて復習をする。 | 4時間 |
| 第4回 | **林弘典の実践キャリアとポリシー**<br>林弘典の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 林弘典の実践活動や研究活動について事前調べを行う、また授業後に実践および研究活動と実践ポリシーについて復習をする。 | 4時間 |
| 第5回 | **竹川智樹の実践キャリアとポリシー**<br>竹川智樹の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 竹川智樹の実践活動や研究活動について事前調べを行う、また授業後に実践および研究活動と実践ポリシーについて復習をする。 | 4時間 |
| 第6回 | **坂尾美穂の実践キャリアとポリシー**<br>坂尾美穂の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 坂尾美穂の実践活動や研究活動について事前調べを行う、また授業後に実践および研究活動と実践ポリシーについて復習をする。 | 4時間 |
| 第7回 | **工藤慈士の実践キャリアとポリシー**<br>坂尾美穂の競技力向上、コーチング、情報によるスポーツ支援に関するスポーツ現場での実践経験や研究活動、またその際の実践ポリシー（方針・哲学）に関する授業を行い、コーチングについての実践的理解を深めるために必要な基礎的知識を学習する。 | 工藤慈士の実践活動や研究活動について事前調べを行う、また授業後に実践および研究活動と実践ポリシーについて復習をする。 | 4時間 |
| 第8回 | **指導者としての基礎的スキル（対自己力、対他者力）の学習**<br>指導者としての基礎的スキルでもある対自己力および対他者力について学習するとともに、コーチングの文脈の重要性について学習する。 | 幼少期の運動記録や身体の発育情報の収集をする | 4時間 |
| 第9回 | **自己省察による対自己力およびコーチングの文脈の理解①** | 学童期前半の運動記録や身体の発育情報の収集 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 幼少期（0から5歳）の生活および運動経験、自身のアントラージュについて、グループワークや資料の整理を通して省察する。 | | |
| 第10回 | **自己省察による対自己力およびコーチングの文脈の理解②**<br>小学校期（6から12歳）の生活および運動経験、自身のアントラージュについて、グループワークや資料の整理を通して省察する。 | 中学期の運動記録や身体の発育情報の収集 | 4時間 |
| 第11回 | **自己省察による対自己力およびコーチングの文脈の理解③**<br>中学期（13から15歳）の生活および運動経験、自身のアントラージュについて、グループワークや資料の整理を通して省察する。 | 高校期の運動記録や身体の発育情報の収集 | 4時間 |
| 第12回 | **自己省察による対自己力およびコーチングの文脈の理解④**<br>高校期（16から18歳）の生活および運動経験、自身のアントラージュについて、グループワークや資料の整理を通して省察する。 | 大学期の運動記録や身体の発育情報の収集 | 4時間 |
| 第13回 | **自己省察による対自己力およびコーチングの文脈の理解⑤**<br>大学期（19から20歳）の生活および運動経験、自身のアントラージュについて、グループワークや資料の整理を通して省察する。 | これまでの省察を整理し、自分史を作成する | 4時間 |
| 第14回 | **コーチングにおける論理的分析技術に触れる**<br>指導現場で求められる論理的分析技術について学習し、テクストやイラスト分析を事例に実践する。 | 授業外課題に取り組む | 4時間 |

SP-4313-2-1

| 授業科目名 | アウトドアスポーツ基礎演習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林・黒澤・橋本・中川 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アウトドアスポーツ・野外教育の基礎的な知識および技術を実践的に学ぶ。具体的には、自然環境における冒険教育と環境教育を軸に、実際の体験や、体験を基にした基礎的知識の理解を目指す。また、自然環境に対するリスクマネジメントの考え方や、キャンプマネジメントの基礎についても体験から身に付ける。これらの体験を通しアウトドアスポーツコース専門科目での学修・スキルの基礎的知識とスキルを身に付け、卒業までの到達目標がイメージできるようになる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 多様なアウトドアスポーツを体験し、その魅力の体感し、より関心・意欲を高めることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 多様なアウトドアスポーツ体験から、実践に関する知識や技術を身に付ける。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 実践の場において、安全や効果的な展開のために自ら考え、判断し、表現できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 体験を通した理解や思考力を活かし、自己や集団にとってよりポジティブな関わり方ができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

ICT(タッチタイピング）、ICT（powerpoint）、ICT（Excel)、ICT(動画活用)、ICT(専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| リフレクションレポート | 60 % | ： 毎回の実践後のレポートから学びを評価する。 |
| アウトドアプログラムに関するレポートおよび発表 | 40 % | ： レポート内容や発表を通し、理解度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時紹介します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。

＜メッセージ＞
アウトドアスポーツコースでの最初の専門の授業です。多様な体験を通してアウトドアスポーツの楽しさを満喫しながら、基礎的な理論や技術を身に付けましょう。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業オリエンテーション・アウトドアスポーツの概観**<br>授業のオリエンテーションを実施し、新たなコースメンバーや教員との相互理解を図る。また、アウトドアスポーツの分野・領域についての理解を深める。 | アウトドアスポーツ・野外教育の定義についてまとめる。 | 4時間 |
| 第2回 | **アウトドアプログラム実践①：アイスブレークアクティビティ**<br>アウトドアプログラム実践としての「アイスブレイクアクティブティ」を体験し、活動の意味や他者との関わり方、自分自身の表現方法について理解を深める。 | 体験を通した自身の気づきや学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **アウトドアプログラム実践②：イニシアティブゲーム**<br>アウトドアプログラム実践としての「イニシアティブゲーム」を体験し、グループでの課題解決を通して、コミュニケーション、信頼関係について理解を深める。 | 体験を通した自身の気づきや学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **基礎理論①アウトドア活動と仲間作り**<br>アウトドアプログラム実践①②を通して、アウトドア活動がどのように仲間作りやチームビルディングに活用されるのか理論的な理解を深める。 | アウトドア活動の仲間作りやチームビルディングへの活用事例を調べる。 | 4時間 |
| 第5回 | **アウトドアプログラム実践③：環境教育１**<br>アウトドアプログラムの実践として、環境教育プログラムを体験し、体験から感じる事、気付くことから環境教育の理解を深める。 | 環境教育実践事例について調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **アウトドアプログラム実践④：環境教育２**<br>アウトドアプログラムの実践として、発展的・多様な環境教育プログラムを体験し、環境理解や行動変容へのつながりについて考える。 | 体験を通した自身の気づきや学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第7回 | **基礎理論②環境教育**<br>実践③④の体験をふりかえり、環境教育の目的や行動変容へのプロセスについて理論的な理解を深める。またアウトドアスポーツの環境教育への活用や役割について考える。 | 実践事例を調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **ベーシックキャンプの計画・準備**<br>ベーシックキャンプの実践に向けた立案や具体的な準備を行う。キャンプで行う活動としてのマリンスポーツや、野外炊事、テント泊それぞれについての装備や使用法用、安全管理について学びながら準備を進める。 | 実践に向けた役割における準備を行う。 | 4時間 |
| 第9回 | **アウトドアプログラム実践⑤マリンスポーツ１**<br>大学艇庫前の琵琶湖岸において、マリンスポーツの実践としてカヤックに取り組む。安全なカヤック実施のための基礎知識や基本操作、安全管理について実践を通して学ぶ。 | カヤックに関する知識・技術を復習し、身に付ける。 | 4時間 |
| 第10回 | **アウトドアプログラム実践⑤マリンスポーツ2**<br>継続してカヤック実践を行い、パドリング技術の向上やレスキュー技術の習得を目指す。 | カヤック実施を通して得られた自然環境の理解についてまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **アウトドアプログラム実践⑥キャンプ１**<br>キャンプの基本的な知識や技術を実践を通して身に付ける。まずは、2日間過ごす生活環境の設置の実践を行う。自然環境の中で安全で快適に過ごすことができるよう、テントやタープを設置し、調理や食事を行う環境を整え、実際に宿泊を実践することからアウトドアリビングスキルを習得する。 | 実践からの学びを確認し、まとめる。 | 4時間 |
| 第12回 | **アウトドアプログラム実践⑥キャンプ２**<br>キャンプの基本的な知識や技術を実践を通して身に付ける。計画した食事メニューを自然環境の中でキャンプ用の調理用具を用いて野外炊事を行い、食事を行い、安全に実施するスキルを身に付ける。 | 実践からの学びを確認し、まとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **基礎理論③④マリンスポーツ・キャンプ**<br>マリンスポーツとキャンプの実践をふｒかえり、それぞれについての理論的理解を深める。また、自然環境を活用する上でのリスクマネジメントや、環境配慮についても理解する。 | 実践体験からの学びをレポートにまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **総括・まとめ**<br>前期での多様な実践や理解をまとめ、夏季の専門実習において発展的な学びへつなげられるよう議論から学びを深める。 | 本科目での学びや気づきについてレポートを作成する。 | 4時間 |

SP-4705-2-1

| 授業科目名 | トレーニング科学基礎演習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 武田・佃・藤松・田中 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アスリートの競技力向上やスポーツを行う人の健康増進をサポート・指導するために必要な基礎的知識や技能を習得することを目的とする。具体的には、トレーニング、スポーツ医学、生理学、スポーツ栄養学に関わる測定方法、評価方法を学ぶ。前半は測定方法や評価方法の理論を学び知識を習得する。後半はグループワークによってそれら測定の実践や評価方法を学ぶ。これらによってスポーツ現場におけるトレーニング・コンディショニング指導方法を習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | トレーニング科学領域における課題の探索 | トレーニング科学における課題を見出し、科学的根拠に基づいた状況の理解、説明ができるようになる |
| 2. DP2.知識・技能 | スポーツ現場で用いるトレーニング科学に関連する測定方法の理解 | 手法、理論、実践方法を理解する |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グループワークにおける課題の取り組み | 意見交換をしながら自身の思考を深め、課題克服ができるようになる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・ディベート、討論

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| トレーニング科学についての基礎知識の理解 | 25 % | ： | 各教員が基礎知識に関して学習課題を提示し理解度を評価する |
| 各種測定方法の理解と実践 | 25 % | ： | 各教員が専門とする測定手法に関して学習課題を提示し理解度を評価する |
| 授業の達成目標の理解と課題の探索 | 50 % | ： | 授業の達成目標を理解し、スポーツ現場においてどのように活用できるか考察するレポート課題によって関心意欲、学びに向かう姿勢、理解度を評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。ただし、本科目は各種実習を行い、そこで得られたデータをもとにレポート作成を行うことが多いことから実習の時間を欠席するとレポート作成が困難になることを理解して臨むこと。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **コースポリシー、授業目標の説明とトレーニング科学分野の概説**<br>この授業を通して達成すべき目標を確認し，トレーニング科学分野においてどのように貢献できるかスポーツ現場の現状を踏まえ考える. | 授業で取り扱った内容およびコースでの学びについて目標設定のレポートを作成する | 4時間 |
| 第2回 | **トレーニング科学分野の基礎知識（栄養）武田**<br>トレーニング指導において必要な栄養学的知識について概説する. | 栄養素や栄養の働きについて復習する | 4時間 |
| 第3回 | **トレーニング科学分野の基礎知識（身体評価）田中**<br>トレーニング指導において必要な身体評価の知識について概説する. | 関節の形状、代表的な筋の名前について復習しておく | 4時間 |
| 第4回 | **トレーニング科学分野の基礎知識（筋力評価）佃**<br>トレーニング指導において必要な筋力評価の知識について概説する. | 関節の回転運動を用いた筋力測定について復習する | 4時間 |
| 第5回 | **トレーニング科学分野の基礎知識（持久的能力）藤松**<br>トレーニング指導において必要な持久的能力評価の知識について概説する. | 持久的能力評価の指標について復習する | 4時間 |
| 第6回 | **食事調査の手法（武田）**<br>食事調査の手法について学び，自身の食事評価を実践する. | 食事記録を行い、分析の準備をする | 4時間 |
| 第7回 | **食事調査の評価（武田）**<br>自身の食事調査結果を分析し、栄養素等必要量との比較から食生活を評価する方法を学ぶ. | 評価結果のレポートを作成する | 4時間 |
| 第8回 | **姿勢と柔軟性：関節別アプローチ（田中）**<br>関節別アプローチの概念を理解する. | 関節の形状、代表的な筋の名前について復習しておく | 4時間 |
| 第9回 | **姿勢と柔軟性評価（田中）**<br>姿勢と代表的な上肢・下肢の柔軟性の測定評価を行い，各グループで向上のためのプログラムを立案する. | パフォーマンスやケガの予防と柔軟性の関係について調べておく | 4時間 |
| 第10回 | **さまざまな筋力の評価（佃）**<br>筋収縮の特性や関節の可動範囲における筋出力の特性について学ぶ．筋の張力を正確に測る方法があるのかや筋力測定方法における限界や注意事項を理解する. | 関節の回転運動を用いた筋力測定について復習する | 4時間 |
| 第11回 | **立ち上がりテスト他の測定評価（佃）**<br>立ち上がりテスト等の筋力評価について測定方法を実習する | 測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと. | 4時間 |
| 第12回 | **持久的能力測定の手法（藤松）**<br>持久的能力測定の手法について学び，測定を実践する. | 持久的能力評価の指標について復習する | 4時間 |
| 第13回 | **持久的能力測定の評価（藤松）**<br>持久的能力測定の結果を分析し評価方法を学ぶ. | 持久的能力測定についてのレポートを作成する | 4時間 |
| 第14回 | **トレーニング科学分野の基礎知識のまとめと応用に向けて**<br>これまでの授業内容を振り返り、それらの知識をスポーツ現場で活用する際の課題について考察する. | これまでの授業内容について復習しておく | 4時間 |

SP-4706-2-1

| 授業科目名 | 健康・スポーツ医科学基礎演習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 禰屋・入谷・小松・渡邊・村瀬 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | JOC強化スタッフ医・科学支援（小松医師・禰屋パラアスリートサポート）としての帯同実践経験や，スポーツ科学者として国際エリート競技サポート（禰屋）の帯同実践経験等を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

本科目では、健康・スポーツ医科学で学ぶ基礎的知識や技能を習得することを目的とする。主にグループに分かれて所属教員それぞれより医学、運動生理学、運動生化学、産業保健学、トレーニング科学領域の知識や技能を習得する。本科目では各領域の基礎的な課題を設定して、実習形式で測定法などを学ぶ。そのうえで、健康・スポーツ医科学コースの概要を理解する。また、卒業研究など、さらに高い専門性につなげるため、学術論文の要約や代表的な統計処理の手法等を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 健康・スポーツ医科学領域における課題の探索 | スポーツ医科学や健康科学における課題を見出し、科学的根拠と実践的方法の接点と限界を説明することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 健康・スポーツ医科学の実践に向けた、課題設定やその解決方法を考えるための専門的な知識や技能 | 医学、運動生理学、運動生化学、産業保健学、トレーニング科学領域における専門的な知識や技能を習得し、卒業論文に向けた課題設定ができるようになる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 卒業研究などに必要な高い専門性を習得するための課題設定やその解決の探索・企画 | 医学、運動生理学、運動生化学、トレーニング科学領域における課題について説明し、科学的根拠を示して解決の方法を提案することができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング)
ICT(PowerPoint)
ICT(Excel)
ICT(動画活用)
ICT(専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 領域別の授業におけるレポート | 80 % | ： | 各教員それぞれが２回の担当授業における成果を16点満点で評価（16点×5名）する。詳細は各担当者より授業内で伝達する。 |
| 期末レポート | 20 % | ： | この授業全体の内容に関するレポート・課題を20点満点で評価する。詳細は各担当者より授業内で伝達する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **健康・スポーツ医科学の概要**<br><br>健康・スポーツ医科学領域の研究・学習分野の概要を理解する。この領域を構成する、スポーツ医学・運動生理学・運動生化学・産業保健学・トレーニング科学がどのような学習領域であるかを各専門の教員からの説明を理解する。また、この授業の実施方法および到達目標や成績評価等について確認する. | 健康・スポーツ医科学の概要について理解すること。 | 4時間 |
| 第2回 | **健康・スポーツ医科学領域を構成する各専門分野の実習の概要**<br><br>次週から開始する各実習の概要を各教員からの説明を受けて理解する。<br>翌週からのグループ分けと実施場所，準備物等を確認する．特にレポート課題での評価の観点について理解する. | 次週から始まる内容のうち，興味深いことについて予習をする. | 4時間 |
| 第3回 | **上肢・体幹の関節可動域（ROM）および徒手筋力テスト（MMT）の正確な計測と実践（小松）**<br><br>角度計（ゴニオメーター）を用いて上肢の各関節および体幹の正確なROMの計測方法を学び，それを実践する．また，徒手筋力テスト（MMT）による上肢の筋肉の正確な計測方法を学び，それを実践する．それぞれの測定結果を記録し，計測手技の習得状況の確認を最終的に行う. | 測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと. | 4時間 |
| 第4回 | **下肢の関節可動域（ROM）および徒手筋力テスト（MMT）の正確な計測と柔軟性の評価の実践（小松）**<br><br>角度計（ゴニオメーター）を用いて下肢の各関節の正確なROMの計測方法、そして徒手筋力テスト（MMT）による下肢の筋肉の正確な計測方法を学び，それを実践する．また，筋タイトネス，関節弛緩性の正しい評価方法を学び実践する．測定結果を記録し，測定手技の習得状況の確認を最終的に行う. | 測定方法の手順を復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと. | 4時間 |
| 第5回 | **体力測定の意義と実際（入谷）**<br><br>体力測定の意義、測定方法についての講義及び、握力、長座体前屈、イス立ち座り、閉眼片脚立ち、3分間歩行などを実際計測で実施者としての指導方法を学ぶ | 体力測定の実施方法について調べる | 4時間 |
| 第6回 | **高齢者における体力測定の意義と実際（入谷）**<br><br>ロコモティブシンドローム、フレイル予防の一環としての高齢者の体力測定の実施方法及び実技をを学ぶ | ロコモティブシンドローム、フレイルについて調べておく | 4時間 |
| 第7回 | **骨格筋量の評価（渡邊）**<br><br>生体電気インピーダンス法や超音波法を用いた骨格筋量評価を学ぶする．あわせて、身体組成評価の意義を理解する. | 骨格筋のはたらきについて，予習する．自身の骨格筋量データの特徴をレポートにまとめ提出する. | 4時間 |
| 第8回 | **アイソキネティックダイナモメーターを用いた筋力測定（渡邊）**<br><br>Biodexを用いて、等尺性ならびに等速性筋力を測定する．測定方法や各活動様式の特性を学ぶ. | 筋の活動様式について，予習する．骨格筋量と筋機能の関連をレポートにまとめ，提出する. | 4時間 |
| 第9回 | **バイオマーカーの測定意義（村瀬）**<br><br>アスリートのみならず、健康づくりにおいても運動・トレーニング計画の立案や効果の測定には生理学的指標を用いたコンディション評価が欠かせない。バイオマーカーの基礎知識とその測定意義について講義形式で学ぶ。 | バイオマーカーの測定意義について、用語や内容を復習しておく。 | 4時間 |
| 第10回 | **バイオマーカーの測定手法（村瀬）**<br><br>バイオマーカーの測定に使用する用具について、使用方法を学び手技を習得する。また、生体試料のひとつとして唾液の採取方法を学ぶ。 | 測定したデータについて、課題レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第11回 | **筋の力発揮時の力ーパワー関係の測定（繭屋）**<br><br>ベンチプレス動作を用いて、挙上重量の増加に伴う発揮筋力・パワーを測定し、これらの関係について理解する。 | 測定したデータを整理しておくこと | 4時間 |
| 第12回 | **筋の力発揮時の力ーパワー関係のデータ分析（繭屋）**<br><br>前回測定し、記録したデータを整理し、筋が力を発揮する場合の力ーパワー曲線を描画し、その関係を理解する。 | 描画した力ーパワー曲線から両者の関係を理解しておくこと | 4時間 |
| 第13回 | **レポートプレゼンテーションの作成方法**<br><br>12回目までの各実習のデータなどを利用して、健康・スポーツ医科学分野で求められるレポートのプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。 | レポートプレゼンテーション作成の概要を理解しておくこと | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第14回 | **レポートプレゼンテーションの作成と完成**<br><br>前回作成を始めたレポートプレゼンテーションを各教員の指導の下に改善させてレポートプレゼンテーションを完成させる | 健康・スポーツ医科学分野のプレゼンテーションの注意点を理解しておくこと | 4時間 |

SP-4115-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **学校スポーツ基礎演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **大西・川合・黒澤・多賀谷・山手・髙松・股村・松本** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 川合、黒澤、多賀谷、山手、髙松、大西：小学校、中学校、高等学校において教員として勤務した実践経験を踏まえ、授業づくりや指導技術について教授する。 | | | | |

**授業概要**

前期の学校スポーツ基礎演習Ⅰから学ぶ対象や範囲を広げて授業内容を展開する。前期同様、小・中学校の保健体育授業、特別活動（健康安全・体育的行事）、運動部活動の参観を行うが、より充実したものにするため、予め自分たちで問いを設定し参観に臨む。後半は3年次のゼミ選択に向けて、各教員の研究について理解を深めるとともに、学校スポーツに関わる研究領域の理論と事例に触れながら、専門的かつ実践的な知識を身に付ける。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 学校教育に関わる専門的な知識 | 学校教育の専門性について理解できる。 |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | 教育事象の観察と分析 | 保健体育、特別活動、運動部活動の課題を発見し、解決策を提案することができる。 |
| 3. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グループ活動での取り組みの姿勢 | 主体性や協調性を発揮することができる。 |

**学外連携学修**

有り(連携先：近隣の小中学校（①職種・キャリア形成の理解））

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク
・その他(以下に概要を記述)
ICT（タッチタイピング）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 各回の小レポート | 72 % | ： 各回（12回分）の授業理解度を問う小レポート（12回×6点） |
| 参観時の小レポート | 20 % | ： 学校現場の参観で課される小レポート（1回：2単位時間×20点） |
| 参観の取り組みの姿勢 | 8 % | ： 学校現場の参観に関わるグループ活動での取り組みの姿勢（8点） |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

「中学校学習指導要領解説　保健体育編」
「高等学校学習指導要領解説　保健体育編」

その他、必要な資料を配布する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本講座の後半では、3年次のゼミ選択に向けて各教員の研究や専門性について説明をする。その内容を踏まえて、今後の学びの方向性を定め、見通しをもって主体的に学ぶことを期待する。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　オフィスアワー

**場所**：　大西研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **学校教育を観察する意義**<br>本講座の目標や内容、評価について理解する。<br>学校現場で行われている教科教育や学校・学級経営、部活動の目的や位置づけを再確認する。 | 学校教育の営みを調べてくる。 | 4時間 |
| 第2回 | **学校教育を観察する方法**<br>学校現場で行われている教科教育や学校・学級経営、部活動を観察評価する方法を理解するs。 | 興味のある観察評価法についてまとめる。 | 4時間 |
| 第3回 | **学校現場の参観（3回目）①**<br>近隣の小中学校に出向き、保健体育授業、特別活動、運動部活動を観察する。 | 観察の観点について振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第4回 | **学校現場の参観（3回目）②**<br>近隣の小中学校に出向き、保健体育授業、特別活動、運動部活動を観察する。 | 観察の観点について振り返りを行う。 | 4時間 |
| 第5回 | **学校現場の参観（3回目）の振り返り**<br>観察したデータや振り返りに基づき、グループで情報を整理し、全体に共有する。<br>ゼミ選択の目的と方法を知る。 | 個人で収集したデータを整理する。 | 4時間 |
| 第6回 | **保健体育科教員の実践的指導力**<br>保健体育科教員に求められる授業や行事、部活動での実践的指導力について理解する。 | 保健体育科教員免許状について調べる。 | 4時間 |
| 第7回 | **教員採用試験と教員の資質能力**<br>近年の教員採用試験の傾向とそこで求められる教員の資質能力について理解する。 | 自身が受験予定の自治体の採用試験の過去問を調べる。 | 4時間 |
| 第8回 | **学校を取り巻く教育政策**<br>国や各自治体、学校で示される教育政策と教員の役割や責務について理解する。 | 教育法令について復習する。 | 4時間 |
| 第9回 | **学校教育における心理学**<br>学校教育で求められる心理学の実用や教員とスクールカウンセラーの連携について理解する。 | 教育心理学について復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **子供の発育発達と運動**<br>子供の生活習慣や運動経験の実態を踏まえ、子供の抱える運動に関する課題を理解する。 | 子供の発育発達について復習する。 | 4時間 |
| 第11回 | **子供の運動学習と運動学**<br>子供は運動をどのように身につけるのか、そのためにどのような指導が有効なのかについて運動学の視点から理解する。 | 自身の専門種目の運動獲得の経験を振り返る。 | 4時間 |
| 第12回 | **保健科教育の研究**<br>保健科教育の理論や方法、事例について理解する。 | 保健科教育の関連資料をまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **体育科教育の研究**<br>体育科教育の理論や方法、事例について理解する。 | 体育科教育の関連資料をまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **学校スポーツの学びとキャリア形成**<br>本講座（全14回）を通して学んだことを踏まえ、自身が今後どのような学びの方向性を持ちキャリア形成につなげていきたいかを再考する。 | 体育、スポーツ、教育に関する職種を調べる。 | 4時間 |

SP-4513-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス・メディア基礎演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉・城島・山本・齊藤・明** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 石井：大阪ガス株式会社でのトップアスリートのマネジメント及びスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者など<br>城島：プロのスポーツライターとして（トップアスリートやスポーツに関する著作多数）の実践経験など<br>斎藤：日本ゴルフツアー機構広報アドバイザー，ホッケージャパンリーグ理事など広報業務など<br>吉倉：経済産業省スポーツ産業室長として、国内スポーツ産業政策に従事<br>明：福岡ソフトバンクホークス球団職員として実務を経験 | | | | |

**授業概要**

本演習では，スポーツビジネスの現場で起こっているさまざまな事象を知り，それらを専門的に学ぶために必要な基礎的マネジメント・マーケティング・統計スキル，質的研究の基礎を身につけることを目的とする．
到達目標
・スポーツビジネスに関する文献・資料・データを検索し，それを読んで理解できるようになる．
・グループワークを通じて、スポーツビジネス・メディアに関する研究を理解し、調査ならびに統計解析を通じて、専門的な学びならびに研究に関する基礎的知識が理解できるようになる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツメーカーやプロスポーツクラブを対象としたスポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルの知識・技能の修得 | スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを用いて仮説検証できるようになる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | (1)スポーツメーカーやプロスポーツクラブを対象としたスポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを応用した仮説検証結果の思考・判断・表現(2)スポーツメディアによって発信された情報の思考・判断・表現 | (1)スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツ消費者行動の基礎知識と基礎的な統計スキルを応用した仮説検証結果の思考・判断・表現ができるようになる．(2)メディアを通じて受け取ったスポーツのシーン，アスリートの言葉から自分の視点でスポーツの魅力について考察でき，適切な文章で表現できる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・その他(以下に概要を記述)

授業の内容は，Teams上に事前にアップロードする．また，ICT活用として，powerpoint，excel，SPSSなどのアプリを活用する．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)

各授業回で，質問・感想・要望などの聞き取りをおこない，内容に応じて，teams一般スレッドでの回答や，次週授業で履修者全員に説明をおこなう．

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 抄録作成 | ： | 学内で収集したスポーツブランド選好調査データの特定ブランドに対する解析結果，及びプロポーザル（提案・企画内容）をA4用紙１枚にまとめ，適切にまとめているかを評価する． |
| 20 % | | |
| プレゼンテーション | ： | 学内で収集したブランド選好調査データの特定ブランドに対する解析結果に基づいた，提案内容（プロポーザル）が説得的で論理的に構成されているかを評価する． |
| 30 % | | |

ビジネスデータ統計解析　：　収集したデータを統計的知識に基づいて分析、考察して報告しているかを評価する.

30　%

個人評価　：　グループワークの中で，主体的で積極的に関わったどうかの観点から，個人を評価する.

20　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツ産業論・第7版（原田宗彦編著　杏林書院）
よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞・吉田政幸編著，ミネルヴァ書房）
超初心者向けSPSS統計解析マニュアル（米川和雄，山崎貞政著，北大路書房）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**備考・注意事項**：　事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください.
石井：ishii-sa@bss.ac.jp（オフィスアワー：水曜日３限）
城島：jyojima@bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
山本：yamamoto-tatsu@bss.ac.jp（オフィスアワー：火曜日3限）
斉藤：saito-e@bss.ac.jp（オフィスアワー：月曜日4限）
吉倉：yoshikura-h@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
明：myoung@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日　1限）

| **授業計画** | | **学修課題** | **授業外学修課題にかかる目安の時間** |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ***ガイダンス（スポーツビジネス・メディアを研究するとは？）***<br>本講義における学修目標の確認をはじめ、スポーツビジネス・メディアを研究する事に対する意義や取り組み方法ならびにスケジュールを確認しながら、専門的学習の基礎的知識の理解を深める。 | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第2回 | **スポーツビジネス・メディアに関する研究計画を立てる**<br>グループワークを通じて、スポーツビジネス・メディアに関する研究とは何か？を理解し、本演習における研究テーマや調査概要といった研究計画を立案する。 | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第3回 | **スポーツビジネス・メディアに関する調査計画を立てる**<br>グループワークを通じて、スポーツビジネス・メディアに関する調査を実施するための概要やスケジュール、調査対象ならびに調査項目に関する検討を行い、調査計画を立てる。 | 配布資料をよく読み、講義内容を深く理解する | 4時間 |
| 第4回 | **スポーツビジネスデータの分析（パラメトリック検定）**<br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，パラメトリック検定について学ぶ．（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、パラメトリック検定について復習すること。 | 4時間 |
| 第5回 | **スポーツビジネスデータの分析（ノンパラメトリック検定）**<br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，ノンパラメトリック検定について学ぶ．（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、ノンパラメトリック検定について復習すること。 | 4時間 |
| 第6回 | **スポーツビジネスデータの分析（2要因分散分析）**<br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，2要因分散分析について学ぶ．（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、2要因分散分析について復習すること。 | 4時間 |
| 第7回 | **スポーツビジネスデータの分析（因子分析）**<br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，因子分析について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、因子分析について理解を深める。 | 4時間 |
| 第8回 | **スポーツビジネスデータの分析（重回帰分析）**<br>統計処理ソフト（SPSS）とスポーツブランドデータを用いて，重回帰分析について学ぶ．<br>（担当：山本・吉倉・明） | 配布資料をよく読み、重回帰分析の理解を深める | 4時間 |
| 第9回 | **ゼミ選択に向けたガイダンス**<br>各ゼミにおける専門的な学習の理解や研究動向について学ぶ。 | 配布資料をよく読み、自身のキャリアについて検討する。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第10回 | **スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（基礎集計：グラフの作成）**<br><br>統計処理ソフトを用いて算出した統計量をもとに，エクセルを用いてグラフを作成する方法を学ぶ．その後，グループワーク．<br>（担当：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | 統計処理ソフトを用いた基礎集計について、グラフを用いて報告できるようにすること。 | 4時間 |
| 第11回 | **スポーツビジネスに関する資料・データを読み取る（学術論文の読み方）**<br><br>卒業論文における研究の目的，問題の所在，学術的貢献，データ収集，データ分析，主な結果・結論などを読み取れるように，それぞれの特徴について学習する．その後，グループワーク．<br>（担当：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | スポーツビジネス研究領域における学術論文について理解し、また熟読できるようにすること。 | 4時間 |
| 第12回 | **スポーツビジネスに関する情報をまとめる（プレゼン準備）**<br><br>グラフおよび表にまとめた分析結果を，パワーポイントスライドに落とし込み，プレゼンテーション資料の作成方法，構成内容，論旨展開，図表の効果的な使い方，図表の体裁などを学ぶ。その後，グループワーク．<br>（担当：城島・石井・山本・斎藤・吉倉・明） | スポーツビジネスに関する現状について、二次情報をパワーポイントに落とし込み、適切な表現が出来るように努めること。 | 4時間 |
| 第13回 | **グループプレゼンテーション（1）**<br><br>統計に関するグループプレゼンテーションを実施する。 | 各グループにおけるプレゼンテーションに対する自身の考察をまとめること。 | 4時間 |
| 第14回 | **グループプレゼンテーション（2）**<br><br>統計に関するグループプレゼンテーションを実施する。 | 各グループにおけるプレゼンテーションに対する自身の考察をまとめること。 | 4時間 |

SP-4218-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **アスリートコーチング基礎演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **北村・渋谷・林・竹川・工藤・坂尾** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 渋谷俊浩・林弘典・北村哲・坂尾美穂：コーチデベロッパーとして日本スポーツ協会のコーチ養成に関わっている実践経験を、講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

コーチングに求められる基礎スキルの獲得を目指す。授業内容は主に、(1) 言語スキルの実践学習（問答スキル、説明スキル、分析スキル）と (2) コーチングコミュニケーションスキルの実践学習および (3) 指導実践演習を通して、コーチングスキルの基礎の獲得を目指すとともに、学習内容を自身のスポーツ現場で実践を通して向上を目指す。また翌年からのゼミでの学びに向けて、コース教員の専門領域について理解を深め、自身の専門的学びの方向性を明確にする。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | レポート作成時における情報収集 | 授業内容をさらに広げ、深めることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 言語技術、コーチングコミュニケーション、運動学習、プログラム立案に関わる知識 | 授業内容を理解し、専門知識について説明できる |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 各授業におけるレポート作成やディスカッション | 授業内容と経験も踏まえ自身の考えを明確に示せる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 学習内容の実践 | スポーツ現場におけるセルフコーチングおよび他者へのコーチングにおいて、学んだ内容を実践し新たな課題を見出せる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 言語技術に関するレポート | 10 % | ： 課題レポートを評価します。自身の経験や考えを明確に示せているか（10%：思考・判断・表現）についてルーブリックを基に評価します。 |
| コーチングコミュニケーションに関するレポート | 10 % | ： 課題レポートを評価します。自身の経験や考えを明確に示せているか（10%：思考・判断・表現）についてルーブリックを基に評価します。 |
| 指導実践に関わるレポート | 10 % | ： 課題レポートを評価します。自身の経験や考えを明確に示せているか（10%：思考・判断・表現）についてルーブリックを基に評価します。 |
| 各教員課題レポート | 20 % | ： 課題レポートを評価します。授業内容の理解度（知識・技能：20%）についてルーブリックを基に評価します。 |
| まとめレポート | 50 % | ： 課題レポートを評価します。(1) 情報収集（関心・意欲：20%）(2) 授業内容のスポーツ活動での実践と課題の抽出（学びに向かう力：30%）についてルーブリックを基に評価します。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特に使用しないが、各回において適宜示します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**： 各担当教員オフィスアワー

**場所**： 各担当教員研究室

**備考・注意事項**： 各担当教員のオフィスアワー参照

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーション**<br>授業内容の理解と半期の自己成長のための現状把握と目標設定を行う。 | 提示された資料の学習から次週の予習を行う。 | 4時間 |
| 第2回 | **言語技術①問答**<br>問答スキル向上に向けて、問答の理論の学習と実践演習に取り組む。 | 授業で取り組んだ内容についてスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |
| 第3回 | **言語技術②説明のスキル**<br>説明スキル向上に向けて、説明の理論学習と実践演習に取り組む。 | 授業で取り組んだ内容についてスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |
| 第4回 | **言語技術③分析のスキル**<br>分析スキル向上に向けて、分析の理論学習と実践演習に取り組む。 | 授業で取り組んだ内容についてスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |
| 第5回 | **コーチングコミュニケーション　傾聴と問いかけ**<br>傾聴と問いかけのスキル向上に向けて、理論学習と実践演習に取り組む。 | 授業で取り組んだ内容についてスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |
| 第6回 | **指導実践演習①　ブラインドのエクササイズ**<br>ブラインドでのエクササイズ指導を題材に指導スキル向上に向けた実践演習に取り組む。 | 授業で取り組んだ内容についてスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |
| 第7回 | **指導実践演習②　未体験エクササイズ**<br>未経験のエクササイズ指導を題材に指導スキル向上に向けた実践演習に取り組む。 | 授業で取り組んだ内容についてスポーツ現場で実践する。 | 4時間 |
| 第8回 | **コース教員の専門領域の理解①（渋谷）**<br>コース教員のゼミ活動(専門的学び、これまでの卒業研究)についての事例紹介から、コース教員の専門領域とこれからの学びについて理解する。 | 授業内容について復習する。 | 4時間 |
| 第9回 | **コース教員の専門領域の理解②（林）**<br>コース教員のゼミ活動(専門的学び、これまでの卒業研究)についての事例紹介から、コース教員の専門領域とこれからの学びについて理解する。 | 授業内容について復習する。 | 4時間 |
| 第10回 | **コース教員の専門領域の理解③（竹川）**<br>コース教員のゼミ活動(専門的学び、これまでの卒業研究)についての事例紹介から、コース教員の専門領域とこれからの学びについて理解する。 | 授業内容について復習する。 | 4時間 |
| 第11回 | **コース教員の専門領域の理解④（坂尾）**<br>コース教員のゼミ活動(専門的学び、これまでの卒業研究)についての事例紹介から、コース教員の専門領域とこれからの学びについて理解する。 | 授業内容について復習する。 | 4時間 |
| 第12回 | **コース教員の専門領域の理解⑤（工藤）**<br>コース教員のゼミ活動(専門的学び、これまでの卒業研究)についての事例紹介から、コース教員の専門領域とこれからの学びについて理解する。 | 授業内容について復習する。 | 4時間 |
| 第13回 | **コース教員の専門領域の理解⑥（北村）**<br>コース教員のゼミ活動(専門的学び、これまでの卒業研究)についての事例紹介から、コース教員の専門領域とこれからの学びについて理解する。 | 授業内容について復習する。 | 4時間 |
| 第14回 | **まとめ** | これまでの自習的な実践活動の内容をまとめておく。 | 4時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 半期の学習内容の整理と、各スキルのスポーツ現場での実践を振り返り、その効果の検証とコーチングスキルとしての重要性について、検討する。また、今後の学びの方向性について考える。 | | |
| 第15回 | ＊＊＊<br>＊＊＊ | ＊＊＊ | 4時間 |

SP-4315-2-1

| 授業科目名 | アウトドアスポーツ基礎演習Ⅱ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 林・黒澤・橋本・中川 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アウトドアスポーツ・野外教育の基礎的な知識および技術を実践的に学ぶ。具体的には、自然環境における冒険教育と環境教育を軸に、実際の体験や、体験を基にした基礎的知識の理解を目指す。また、自然環境に対するリスクマネジメントの考え方や、キャンプマネジメントの基礎についても体験から身に付ける。これらの体験を通しアウトドアスポーツコース専門科目での学修・スキルの基礎的知識とスキルを身に付け、卒業までの到達目標がイメージできるようになる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 多様なアウトドアスポーツを体験し、その魅力を体感し、より関心・意欲を高めることができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 多様なアウトドアスポーツ体験から、実践に関する知識や技術を身に付ける。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 実践の場において安全や効果的な展開のために自ら考え、判断し、表現できる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | アウトドアスポーツに対する理解と実践体験 | 体験を通した理解や思考力を活かし、自己や集団にとってよりポジティブな関わり方ができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

ICT(タッチタイピング）、ICT(Powerpoint)、ICT（Excel）、ICT(動画活用)、ICT（専用機材・アプリ活用）

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| リフレクションレポート | 60 % | ： 実習後の報告書による目的・目標達成度を評価する。 |
| レポートおよび発表 | 40 % | ： レポート内容や発表を通し、野外スポーツプログラム実践や理論についての理解度を評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時紹介します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回4児あkんの授業外学修が求められる。

＜メッセージ＞
多様なアウトドアスポーツを実際に仲間と共に体験し、まずは自身の成長からアウトドアスポーツの魅力を理解し、専門として学びを深める意義を共有し、共にアウトドアを追求するコミュニティを形成していきましょう。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業オリエンテーション・野外教育基礎概念**<br>基礎演習Ⅰからの継続としての授業の発展について理解する。また、これまでに学習した理論の確認と、より多様な環境や活動に関わるリスクや展開について学ぶ。 | 多様な環境・活動に関わるリスクについて調べる。 | 4時間 |
| 第2回 | **登山計画・ナビゲーションスキル**<br>グループでの安全な登山実施のために、必要な基礎知識・技術を学び、計画を立てる。特にナビゲーションスキルとしての読図やコンパスの活用について学ぶ。 | 実施する登山ルートについてしらべる。 | 4時間 |
| 第3回 | **アウトドアプログラム実践⑦登山１**<br>グループで比良山系にて日帰り登山を実施する。授業にて学んだナビゲーションスキルを実際に活用し、目的地へたどり着く。 | 体験をふりかえり、学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第4回 | **アウトドアプログラム実践⑦登山2**<br>グループでの比良山系での日帰り登山にて、授業で学んだリスクに対してのマネジメント実践や、グループで協力しながら登山実践を行う。 | 体験をふりかえり、学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第5回 | **基礎理論⑤登山**<br>登山体験をふりかえり、体験の意味を理解する。また、安全な登山実施に必要な知識や技術について理解を深める。また、山岳環境にて行うアウトドアスポーツの多様性についても理解を広げる。 | 山岳環境を用いる多様なアウトドアスポーツについて調べる。 | 4時間 |
| 第6回 | **サイクリング計画**<br>グループでのサイクリング実施に必要な知識・技術について学び、実施計画を立てる。 | サイクリング実施の準備を行う。 | 4時間 |
| 第7回 | **アウトドアプログラム実践⑧サイクリング１**<br>グループで日帰りサイクリングを実施する。これまでに習ったナビゲーションスキルや、安全なサイクリングのための知識を実践にて応用する。 | 体験をふりかえり、学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第8回 | **アウトドアプログラム実践⑧サイクリング２**<br>グループで日帰りサイクリングを実施する。これまでに習ったリスクや環境についての知識、集団との関わり方を実践にて応用する。 | 体験をふりかえり、学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第9回 | **基礎理論⑥サイクリング**<br>サイクリング実践をふりかえり、体験の意味を理解する。また、安全なサイクリング実施に必要な知識や技術について理解を深め、サイクリングの多様な活用や可能性について議論を行い、理解を深める。 | サイクリングの多様な活用について調べる。 | 4時間 |
| 第10回 | **環境倫理（Leave No Trace）**<br>自然環境での活動には、環境へのインパクト（ダメージ）が伴い、インパクトを最小限に抑えるための知識や技術が求められる。環境倫理プログラムとして普及しているLNTについて学び、今後の実践にて活用できる理解を深める。 | LNTについての理解をまとめる。 | 4時間 |
| 第11回 | **冬のアウトドアスポーツ**<br>冬季アウトドアスポーツの種類や特性、リスクについて理解する。また、実践で行うアルペンスキーについての知識を身に付ける。 | スキー実践の準備を行う。 | 4時間 |
| 第12回 | **アウトドアスポーツ実践⑨アルペンスキー１**<br>大学近郊のスキー場にて、アルペンスキーを実施する。安全に滑走するための技術を実践を通して身に付ける。 | 体験をふりかえり、学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第13回 | **アウトドアスポーツ実践⑨アルペンスキー２**<br>大学近郊のスキー場にて、アルペンスキーを実施する。身に付けた滑走技術を用い、多様な環境にて滑走を行い、雪面状況に応じた技術の応用、発展を図る。また、アルペンスキー実施に関わるリスクについても理解を深める。 | 体験をふりかえり、学びをまとめる。 | 4時間 |
| 第14回 | **基礎理論⑦スノースポーツ・まとめ**<br>アルペンスキー体験をふりかえり、体験の意味を理解する。また、スキー滑降に関わる知識や技術についての理解をふかめ、冬の自然環境を活用したアウトドアスポーツの展開について理解する。<br>基礎演習ⅠとⅡでの体験や体験からの学びをまとめる。 | 最終レポートに取り組む。 | 4時間 |

SP-4707-2-1

| 授業科目名 | トレーニング科学基礎演習Ⅱ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 武田・佃・藤松・田中 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

アスリートの競技力向上やスポーツを行う人の健康増進をサポート・指導するために必要な技能、実践方法を習得することを目的とする。具体的には、体力測定方法、またその評価方法と体力向上のための指導方法を学ぶ。前半は測定方法や評価方法の理論を学び知識を習得する。後半は体力測定を行いそのデータを用いて評価、改善のための指導方法について学ぶ。これらによってスポーツ現場におけるトレーニング・コンディショニング指導方法を習得する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 体力評価、トレーニング指導の実践と課題の探索 | 適切な評価・指導方法の知識を実践し、スポーツ現場で活用できるようになる |
| 2. DP2.知識・技能 | 体力評価、トレーニング指導の理解 | 適切な評価・指導方法の知識を理解する |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 体力測定の運営とトレーニング指導の実践 | 計画的に体力測定を運営刷ることができるようになる．また評価結果をもとに効果的なトレーニング指導ができるようになる |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | グループワークによる課題の取り組み | 意見交換をしながら思考を深め、課題克服ができるようになる |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 体力測定についての基礎知識の理解 | 10 % | ： | 各教員が基礎知識について学習課題を提示し理解度を確認する |
| 体力測定の計画と運営 | 35 % | ： | 計画の立案と運営方法について学習課題を提示し理解度を確認する |
| データの集計と評価 | 10 % | ： | 体力測定で得られたデータの集計と評価について学習課題を提示し、データ処理の正確さと理解度を確認する |
| 体力測定の評価とトレーニング指導 | 35 % | ： | 評価結果をもとにトレーニング指導を計画・発表させ理解度や表現力を評価する |
| 外部講師による講義のレポート | 10 % | ： | 外部講師による講義を聴きレポートを作成させ関心意欲、理解度を評価する |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

特になし

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は4単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業の達成目標の説明と体力評価、トレーニング指導についての概説**<br>本科目で行う体力測定について基礎知識と実践方法およびそれに基づいたトレーニング指導について概説する. | 基礎演習Ⅰで学んだ内容を復習しておく | 4時間 |
| 第2回 | **体力測定に関する基礎知識（身体組成）武田**<br>体格、身体組成測定の各手法について学ぶ. | 測定方法の手順を復習しておくこと | 4時間 |
| 第3回 | **体力測定に関する基礎知識（柔軟性）田中**<br>体力測定で用いる柔軟性の測定手法について学ぶ. | 測定方法の手順を復習しておくこと | 4時間 |
| 第4回 | **体力測定に関する基礎知識（筋力）佃**<br>体力測定で用いる筋力の測定手法について学ぶ. | 測定方法の手順を復習しておくこと | 4時間 |
| 第5回 | **体力測定に関する基礎知識（持久力）藤松**<br>体力測定で用いる持久力の測定手法について学ぶ. | 測定方法の手順を復習しておくこと | 4時間 |
| 第6回 | **体力測定の運営計画**<br>体力測定の実施に向けて、測定手法の確認を行う．また手順を決定し、必要な道具の準備や環境整備を行う. | 第2～5回の授業内容について復習しておく | 4時間 |
| 第7回 | **体力測定の運営**<br>グループに分かれ、各測定を行う. | 運営後振り返りのレポート作成を行う | 4時間 |
| 第8回 | **体力測定の実践**<br>体力測定に参加し、実施者からみた測定の課題について考える. | 実施後振り返りのレポート作成を行う | 4時間 |
| 第9回 | **測定結果の集計方法**<br>表計算ソフトを用い、データ集計方法を学ぶ. | 集計結果の概要についてレポートを作成する | 4時間 |
| 第10回 | **測定結果の評価方法**<br>集計したデータを統計的に分析し測定結果を評価する. | 評価結果の概要についてレポートを作成する | 4時間 |
| 第11回 | **トレーニング指導の立案**<br>評価結果をもとにしたトレーニング指導の立案方法について学ぶ. | トレーニング指導を立案し、実践するための準備をしておく | 4時間 |
| 第12回 | **トレーニング指導の実践**<br>立案したトレーニング指導について発表し、相互評価を行う. | トレーニング指導についてのレポートを作成する | 4時間 |
| 第13回 | **トレーニング科学における研究テーマの紹介**<br>各教員による専門分野の研究テーマについて紹介を行い、ゼミ選択および卒業研究のテーマ探索を行う. | 興味ある研究テーマについて下調べしておく | 4時間 |
| 第14回 | **トレーニング科学を活用したスポーツ現場での活動の実際と課題**<br>トレーニング科学の知識を実際にスポーツ現場で活用して活動している事例として外部講師による講義を行う. | 講義内容を聴き、スポーツ現場での活動の実際と課題についてレポートを作成する | 4時間 |

SP-4708-2-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **健康・スポーツ医科学基礎演習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **禰屋・入谷・小松・渡邊・村瀬** | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | JOC強化スタッフ医・科学支援（小松医師・禰屋パラアスリートサポート）としての帯同実践経験や，スポーツ科学者として国際エリート競技サポート（禰屋）の帯同実践経験等を講義内容に結びつけている。 | | | | |

**授業概要**

本科目では、「健康・スポーツ医科学基礎演習Ⅰ」の知識、技能をもとに、健康・スポーツ医科学で学ぶ基礎的知識や技能を習得することを目的とする。主にグループに分かれて所属教員それぞれより医学、運動生理学、運動生化学、産業保健学、トレーニング科学領域の知識や技能を習得する。本科目では各領域の基礎的な課題を設定して、実習形式で測定法などを学ぶ。そのうえで、健康・スポーツ医科学コースの概要を理解する。また、卒業研究など、さらに高い専門性につなげるため、学術論文の要約や代表的な統計処理の手法等を学ぶ。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 健康・スポーツ医科学領域における課題の探索 | スポーツ医科学や健康科学における課題を見出し、科学的根拠と実践的方法の接点と限界を説明することができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 健康・スポーツ医科学の実践に向けた、課題設定やその解決方法を考えるための専門的な知識や技能 | 医学、運動生理学、運動生化学、産業保健学、トレーニング科学領域における専門的な知識や技能を習得し、卒業論文に向けた課題設定ができるようになる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 卒業研究などに必要な高い専門性を習得するための課題設定やその解決の探索・企画 | 医学、運動生理学、運動生化学、トレーニング科学領域における課題について説明し、科学的根拠を示して解決の方法を提案することができるようになる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・その他(以下に概要を記述)

ICT(タッチタイピング)
ICT(PowerPoint)
ICT(Excel)
ICT(動画活用)
ICT(専用機材・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 領域別の授業におけるレポート | 80 % | ： | 各教員それぞれが２回の担当授業における成果を16点満点で評価（16点×5名）する。詳細は各担当者より授業内で伝達する。 |
| 期末レポート | 20 % | ： | この授業全体の内容に関するレポート・課題を20点満点で評価する。詳細は各担当者より授業内で伝達する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業内で適宜紹介する。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、本授業の成績は、ゼミを決定する際の一材料となる。欠席の際は、所定の届を提出し、各自で担当者から課題を聞いて提出すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **健康・スポーツ医科学を構成する専門分野の概要**<br>基礎演習Ⅰで学んだ各専門分野の実習をもとに、より専門性の高い各専門分野の実習の概要を学ぶ。また、また、この授業の実施方法および到達目標や成績評価等について確認する. | 各専門分野の実習の概要について理解しておくこと | 4時間 |
| 第2回 | **データ処理の概要**<br>次回から取り組む各実習の前に、データを取得する場合の一般的な注意事項、また、データの基本的処理方法を学ぶ | データ取得・分析の注意事項や処理方法を理解しておくこと | 4時間 |
| 第3回 | **傷害予防プログラム，体幹機能評価の実践（小松）**<br>代表的なスポーツ傷害の予防プログラムである“The 11＋”を実践することで，運動中のフォームなど細かい注意点などを理解する．また体幹機能評価（Kraus-Weberテスト変法）の方法について実践を通して学ぶ. | 「The 11+」と「Kraus-Weberテスト変法」の内容と各運動の意義について復習しておくこと．また，測定の結果を整理しておくこと. | 4時間 |
| 第4回 | **統計学的手法を用いたデータ分析（小松）**<br>傷害予防プログラム実践時や体幹機能評価のデータを用いて，比較をしたり関係性を調べたりするため，統計ソフトを用いてデータの分析をする. | t検定，相関といった基本的な分析方法の復習，そしてデータの整理をしておくこと. | 4時間 |
| 第5回 | **体力測定に基づいた結果票の作成（入谷）**<br>体力測定の結果を見える化し、他者に理解してもらえるツールを作成する<br>自身の体力測定の結果及びコース全体の比較を行いグラフ化する | 日本の体力の現状、結果票を調べる | 4時間 |
| 第6回 | **体力測定に基づいた結果票の発表（入谷）**<br>体力測定に基づいた結果票について学生同士での発表を行い、修正箇所をみつける<br>結果票の修正を行う | 結果票の修正を行う | 4時間 |
| 第7回 | **表面筋電図の理解と実践①（渡邊）**<br>表面筋電図を使った筋の活動動態の評価方法を学ぶ．筋活動についての生理学的知識を再確認する. | 筋活動のしくみについて，予習する．表面筋電図の概要をレポートにまとめ，提出する. | 4時間 |
| 第8回 | **表面筋電図の理解と実践②（渡邊）**<br>レジスタンスエクササイズを異なる負荷で実施した際の主働筋の筋活動レベルを表面筋電図法で評価する. | 表面筋電図の概要を予習する．自身の測定データを考察し，レポートを提出する. | 4時間 |
| 第9回 | **唾液試料の採取およびBradford法の実践（村瀬）**<br>Bradford法の方法、および使用する機器について学ぶ。また唾液試料を採取し、総タンパク濃度を測定する。 | 測定に使う用具の使用方法について復習しておくこと。 | 4時間 |
| 第10回 | **唾液試料の総タンパク濃度の算出（村瀬）**<br>測定した基準試料の吸光度から検量線を作成し、唾液試料中の総タンパク濃度を算出する。 | 授業中に作成した検量線、算出した総タンパク濃度を用いて課題レポートを作成する。 | 4時間 |
| 第11回 | **有酸素性運動の生理学的評価の実施方法（繭屋）**<br>有酸素性運動中の酸素摂取量，心拍数，血中乳酸濃度を測定し，有酸素運動時の運動強度評価の方法を学ぶ. | 測定時の注意事項を理解しておくこと | 4時間 |
| 第12回 | **有酸素性運動の生理学的評価（繭屋）**<br>前回実施した酸素摂取量などの測定結果をもとに、データの分析を行い、有酸素性パフォーマンスの評価を完成させる | 有酸素性パフォーマンスの評価方法を理解しておくこと | 4時間 |
| 第13回 | **レポートプレゼンテーションの作成方法**<br>基礎演習Ⅰで学んだレポートプレゼンテーションの方法の知識をもとに、12回目までの各実習のデータなどを利用して、さらに専門性の高い健康・スポーツ医科学分野で求められるレポートのプレゼンテーションの作成方法を学ぶ。 | 基礎演習Ⅰで学んだ内容とともに、レポートプレゼンテーション作成の概要を理解しておくこと | 4時間 |
| 第14回 | **レポートプレゼンテーションの作成と完成**<br>前回作成を始めたレポートプレゼンテーションを各教員の指導の下に改善させてレポートプレゼンテーションを完成させる。<br>また、ゼミ選択の準備として、各教員の専門内容について詳細に学ぶ。 | 健康・スポーツ医科学分野のプレゼンテーションの注意点を理解しておくこと。また、ゼミ選択に向けて自身の興味がどの分野であるかを検討しておくこと | 4時間 |

SP-5036-1-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **アスレティックトレーナー現場実習Ⅰ** | | | | |
| 担当教員名 | 田中　忍 | | | | |
| 学年・コース等 | 1 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

JSPO-AT資格を大学在学中に受験する際に必要となることについて、実践を通して学ぶ。アスレティックトレーナーの役割を学んだ後（アスレティックトレーナー特別講座（１））、これからアスレティックトレーナーとして活動するために獲得すべきことについて理解し、まずはアスレティックトレーナーの活動を見学して学ぶ。さらに、競技者に対応するときに準備しておくこと・立ち振舞やコミュニケーション・評価に基づいた指導をするための準備を体得することを目指す。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | JSPO-ATの役割と業務の実践準備 | JSPO-ATの役割と業務ですべきことを理解し、実践にむけた準備ができる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 支える側の適切な立ち振舞と目標を実現するための実践 | 目標から、いつまでに何をどのように身につけるのか、逆算して行動できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・見学、フィールドワーク

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

活動報告は、「JSPO-AT現場実習ルーブリック」を用いて評価する。すべての項目で「実演できる」評価（４段階の最も良い評価）を獲得することが、JSPO-AT実技試験を受験する際の条件となる。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 活動終了時の問答 | 40 % | ： 事前の準備と、要点の発表について４段階で評価する。 |
| 毎回の報告 | 10 % | ： 活動内容を、JSPO-AT現場実習チェックシートおよび日誌に報告しているか、４段階で評価する。 |
| 解剖学の確認テスト | 50 % | ： 筋の名前と形態および代表駅な関節運動を対応させられるかを、独自のカードを用い時間内に正確に答えられるかを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

アスレティックトレーナー専門科目テキスト（2022年カリキュラム対応）１～６巻

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。

JSPO-AT資格の取得を目指し、４年次に受験することを前提に5限以降や、長期休暇中に授業を実施します。

アスレティックトレーナー特別講座（１）および、身体構造と機能、救急処置法を受講していることが望まれます。

また、この科目の単位を習得していることが、アスレティックトレーナー実習を履修する際に必須とします。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよびJSPO-ATの役割と業務の確認**<br>授業の進め方や評価方法を理解し、JSPO-ATの役割と業務を実践するためにすべきことを確認する。 | 現場実習を進めるための大まかな計画を立てる。 | 1時間 |
| 第2回 | **JSPO-ATの役割（業務全般）**<br>「主となる実習場所でのJSPO-ATの活動」および「対象者の年齢や性質に応じたJSPO-ATの活動」を見学して学ぶ。 | JSPO-ATの役割（業務全般）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **JSPO-ATの役割（マネジメント）**<br>「JSPO-ATを取り巻く医・科学スタッフおよびアントラージュの関わり」および「JSPO-ATによるリスクマネジメント」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | JSPO-ATの役割（マネジメント）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第4回 | **健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防（リスク管理と予防）**<br>「スポーツ環境（実習現場）におけるリスクの把握と整備」および「重篤なスポーツ外傷・障害・事故の予防」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | 健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防（リスク管理と予防）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第5回 | **健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防（データ活用）**<br>「スポーツ活動現場における感染症対策」および「対象者のコンディションの把握とデータ活用」を見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | 健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防（データ活用）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防（再発予防）**<br>「再発予防としての動作の見方」および「競技・種目特性、対象者特性を踏まえたスポーツ外傷・障害予防の取り組み」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | 健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防（再発予防）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第7回 | **コンディショニング（測定評価とプログラム作成）**<br>「パフォーマンス向上に向けた各種測定と評価指標の活用」および「対象・目的に応じたプログラムの計画」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | コンディショニング（測定評価とプログラム作成）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第8回 | **コンディショニング（ウォームアップとリカバリー）**<br>「ウォームアップ」および「リカバリー」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | コンディショニング（ウォームアップとリカバリー）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **コンディショニング（各論）**<br>「競技・種目特性および体力特性に応じたコンディショニング」について見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | コンディショニング（各論）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第10回 | **リコンディショニング（検査測定と評価結果の活用）**<br>「リコンディショニングに必要な検査・測定及び評価結果の活用」および「対象に応じた道具を用いたアプローチ」について見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | リコンディショニング（検査測定と評価結果の活用）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第11回 | **リコンディショニング（エクササイズ・不良動作）**<br>「リコンディショニングエクササイズの実践」および「スポーツ動作の問題に対するリコンディショニング」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | リコンディショニング（エクササイズ・不良動作）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第12回 | **救急対応（計画・立案）**<br>「緊急時対応計画の立案・作成」および「緊急時の状況把握および対象評価と救急対応」ならびに「対象者に応じた運搬法」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | 救急対応（計画・立案）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第13回 | **救急対応（実践）**<br>「実習環境に応じた救急対応」および「実習環境に応じた救急体制の構築」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | 救急対応（実践）についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |
| 第14回 | **環境に応じた実習**<br>「アンチ・ドーピング教育やドーピングコントロールの実際」「ICTの活用」「一次救命処置（心停止）」「緊急時における初期評価、体位管理と保温」について、見学やシミュレーション学習で学ぶ。 | 環境に応じた実習についてチェックリストを用いてまとめる。 | 1時間 |

SP-5037-2-2

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | アスレティックトレーナー現場実習Ⅱ | | | | |
| 担当教員名 | 田中　忍 | | | | |
| 学年・コース等 | 2 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | | | | | |
| 実務経験の概要 | | | | | |

**授業概要**

身体各部位の代表的なスポーツ傷害について、アスレティックトレーナーとして一人で対応できるようになることを目指す。この授業を履修するまでに授業や授業外の時間で断片的に学んできたことについて、総合的に評価して判断し、改善を目指すための計画と介入を行う。スポーツ傷害のメカニズムから、必要な測定評価、改善点についてのプログラム作成と指導、見通し通りに進行しているかどうかの振り返り等を実践し、記録を残す一連の活動をスムーズに行えるよう実習する。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP3.思考・判断・表現 | JSPO-ATとしての知識と技能の応用 | これまでに培ってきた知識と技能を、競技者の状況に応じて対応できる。 |
| 2. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | JSPO-AT業務遂行のための改善 | JSPO-ATの役割と業務をより安全で効率良く実践できる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・実験、実技、実習

・問答法・コメントを求める

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

**成績評価**

**注意事項等**

実践的活動は、JSPO-AT現場実習ルーブリックを用いて評価する。すべての項目で「実演できる」評価（４段階の最も良い評価）を獲得することが、JSPO-AT実技試験を受験する際の条件となる。

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 対応方法選択のための確認テスト | 50　% | ： 関節運動または筋名から、必要なエクササイズやケアの方法を段階別に対応させられるかを独自のカードを用い時間内に正確に答えられるかを評価する。 |
| 実践的活動 | 50　% | ： 聞き取り内容から、必要な評価、改善するための介入方法の選択とプログラム作成およびその指導ができているか、４段階で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

アスレティックトレーナー専門科目テキスト（2022年カリキュラム対応）１～６巻

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
JSPO-AT資格の取得を目指し、４年次に受験することを前提に、5限以降や長期休暇中に授業を実施します。

現場実習Ⅰの単位を習得していることを必須とします。

| 授業計画 | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **オリエンテーションおよび習得状況の確認**<br>この授業の到達目標と評価等を理解し、JSPO-ATの役割や業務についてこれまでの習得状況を振り返る。 | 自身の現在地を明確にし、目標に対する今後の計画を立てる。 | 1時間 |
| 第2回 | **足部・足関節のスポーツ傷害**<br>代表的な足部・足関節のスポーツ傷害について、メカニズム、必要な評価、観察すべき動きについて学ぶ。 | 足部・足関節のスポーツ傷害を復習し、対応するときに必要なことをまとめる。 | 1時間 |
| 第3回 | **足部・足関節のスポーツ傷害に対する測定評価**<br>足部・足関節の動きに関与する筋の付着部を理解した上で、関節可動域測定およびタイトネステストを実践し、参考値と比較して評価する。 | スムーズに測定・評価が実施できるよう復習する。 | 1時間 |
| 第4回 | **足部・足関節のスポーツ傷害に対する介入**<br>足部・足関節の測定・評価から、介入するセルフケアやエクササイズ方法について、レベル別プログラムを作成し、指導する。 | レベル別の介入指導ができるように復習する。 | 1時間 |
| 第5回 | **膝・大腿部のスポーツ傷害**<br>代表的な膝のスポーツ傷害について、メカニズム、必要な評価、観察すべき動きについて学ぶ。 | 膝・大腿部のスポーツ傷害を復習し、対応するときに必要なことをまとめる。 | 1時間 |
| 第6回 | **膝・大腿部のスポーツ傷害に対する測定評価**<br>膝・大腿部の動きに関与する筋の付着部を理解した上で、関節可動域測定およびタイトネステストを実践し、参考値と比較して評価する。 | スムーズに測定・評価が実施できるよう復習する。 | 1時間 |
| 第7回 | **膝・大腿部のスポーツ傷害に対する介入**<br>膝・大腿部の測定・評価から、介入するセルフケアやエクササイズ方法について、レベル別プログラムを作成し、指導する。 | レベル別の介入指導ができるように復習する。 | 1時間 |
| 第8回 | **腰部のスポーツ傷害**<br>代表的な腰部のスポーツ傷害について、メカニズム、必要な評価、観察すべき動きについて学ぶ。 | 腰部のスポーツ傷害を復習し、対応するときに必要なことをまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **腰部のスポーツ傷害に対する測定評価**<br>腰部の動きに関与する筋の付着部を理解した上で、関節可動域測定およびタイトネステストを実践し、参考値と比較して評価する。 | スムーズに測定・評価が実施できるよう復習する。 | 1時間 |
| 第10回 | **腰部のスポーツ傷害に対する介入**<br>腰部の測定・評価から、介入するセルフケアやエクササイズ方法について、レベル別プログラムを作成し、指導する。 | レベル別の介入指導ができるように復習する。 | 1時間 |
| 第11回 | **肩のスポーツ傷害**<br>代表的な肩のスポーツ傷害について、メカニズム、必要な評価、観察すべき動きについて学ぶ。 | 肩のスポーツ傷害を復習し、対応するときに必要なことをまとめる。 | 1時間 |
| 第12回 | **肩のスポーツ傷害に対する測定評価**<br>肩の動きに関与する筋の付着部を理解した上で、関節可動域測定およびタイトネステストを実践し、参考値と比較して評価する。 | スムーズに測定・評価が実施できるよう復習する。 | 1時間 |
| 第13回 | **肩のスポーツ傷害に対する介入**<br>肩の測定・評価から、介入するセルフケアやエクササイズ方法について、レベル別プログラムを作成し、指導する。 | レベル別の介入指導ができるように復習する。 | 1時間 |
| 第14回 | **その他の代表的なスポーツ傷害の対応**<br>頭部・下腿などのスポーツ傷害について、必要な測定評価の実施と評価に基づく介入および指導を実践する。 | スムーズに対応できるよう復習する。 | 1時間 |

SP-4116-3-1

| 授業科目名 | 学校スポーツ教育専門実習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 大西・川合・黒澤・多賀谷・山手・髙松・股村・松本 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 小学校、中学校、高等学校において教員として勤務した実践経験を踏まえ、授業づくりや指導技術について教授する。 | | | | |

**授業概要**

模擬授業は、教師役にとって実際に教師行動（説明や声かけなど）の実践を積むことができ、生徒役や観察役にとっても、「体育授業を学ぶ」という意味で価値が認められている。学校体育の実技領域を対象に、グループで模擬授業を計画し実施する。その際、組織的観察法を用いて客観的に評価し、授業後には協同的な省察を行う。このPDCAサイクルを繰り返すことで、受講生が保健体育授業に関する専門的知識や実践的指導力を向上させるとともに、反省的実践家としての資質能力を高めることをねらいとしている。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 模擬授業の計画 | 授業を構想し、指導案を正しく書くことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 模擬授業の実施 | 計画した指導案に沿って授業を展開することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 模擬授業の振り返り | 客観的な事実に基づき、批判的かつ建設的に授業を振り返ることができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 模擬授業に関わる活動 | 仲間と協同して活動することができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 小レポート | 42 % | ： | 授業内の課題または模擬授業のリフレクションシートを3点×14回=42点満点で評価する。 |
| 模擬授業の計画と実施 | 30 % | ： | 計画した指導案とその授業実践を模擬授業評価シートに沿って30点満点で評価する。 |
| 模擬授業の振り返り | 28 % | ： | 模擬授業の反省と改善策をレポートにまとめたものを28点満点で評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育科編（東山書房）
その他、教材づくりに必要な関連書籍

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

模擬授業の指導案を作成する際は，各自もしくはグループでPCを持ち込んで活動します。

本科目は、模擬授業を二箇所で同時に展開します。したがって、第5回～第8回と第10回～第13回では、領域・種目を入れ替えて行います。

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　月曜2限

**場所**：　大西研究室（B206）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **模擬授業を実施する意義と実施方法**<br>模擬授業を実施する意義について学修する。 | 模擬授業の意義について調べてくる。 | 1時間 |
| 第2回 | **授業分析の方法**<br>授業を観察評価するための期間記録と相互作用について学ぶ。 | 過去の模擬授業の動画を視聴する。 | 1時間 |
| 第3回 | **授業省察の意義**<br>過去の模擬授業の映像を分析し、省察する意義について学ぶ。 | 過去の模擬授業の動画を視聴する。 | 1時間 |
| 第4回 | **模擬授業の進め方と計画**<br>模擬授業の進め方と計画（グループ、種目、教材）を確認しグループで活動する。 | 指導案の大枠を書き記す。 | 1時間 |
| 第5回 | **指導案の立案**<br>グループで指導案を立案する。 | 指導案を一通り完成させる。 | 1時間 |
| 第6回 | **模擬授業の試し**<br>グループで試しの模擬授業を実施し、指導計画を検討する。 | 指導案の修正事項を整理する。 | 1時間 |
| 第7回 | **指導案の修正**<br>試しの模擬授業を踏まえ、指導計画を修正する。 | 指導案を完成させる。 | 1時間 |
| 第8回 | **模擬授業（1）球技**<br>模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。 | 授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる（球技）。 | 1時間 |
| 第9回 | **模擬授業（2）体つくり運動**<br>模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。 | 授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる（体つくり運動）。 | 1時間 |
| 第10回 | **模擬授業（3）陸上競技**<br>模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。 | 授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる（陸上競技）。 | 1時間 |
| 第11回 | **模擬授業（4）武道**<br>模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。 | 授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる（武道）。 | 1時間 |
| 第12回 | **模擬授業（5）器械運動**<br>模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。 | 授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる（器械運動）。 | 1時間 |
| 第13回 | **模擬授業（6）水泳**<br>模擬授業の実施と授業観察、授業評価を行う。 | 授業の振り返りをリフレクションシートにまとめる（水泳）。 | 1時間 |
| 第14回 | **振り返りとまとめ**<br>ダイジェスト映像を用いて教材及び教師行動について協同的に省察し、学びを共有する。 | 指導案やリフレクションシートを整理する。 | 1時間 |

SP-4117-3-1

| 授業科目名 | 学校スポーツ教育専門実習Ⅱ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 大西・川合・黒澤・多賀谷・山手・髙松・股村・松本 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 高等学校にて保健体育科教諭として勤務した教員の実践経験を講義内容に結びつけている（全14回） | | | | |

**授業概要**

本科目は，模擬授業を中核とした集中授業である．専門実習Ⅰからの発展として，体育実技だけでなく保健や体育理論の座学の模擬授業にも取り組む．集中授業による実習になるため，各グループでの資料作成，授業作り等に継続して取り組むことが目指される．保健体育授業（保健・体育理論・体育実技）に関する専門的知識，実践的な指導力を向上させる．多角的な視点から授業を検討し，授業を作る力，授業を観る力，授業を改善する力等を向上させる．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | 模擬授業の計画 | 保健・体育理論・体育実技の授業を計画でき，正しく指導案を書くことができる． |
| 2. DP2.知識・技能 | 模擬授業の実施 | 計画した指導案に沿って授業を展開することができる． |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 模擬授業の振り返り（省察） | 多角的かつ客観的に模擬授業を振り返ることができる． |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 指導案作成および模擬授業、振り返りに関わる活動 | 仲間と協同して活動することができる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・課題解決学習(PBL)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 | |
|---|---|---|---|
| 模擬授業における振り返りシート | 30 % | ： | 模擬授業を通し，授業に対して適切な評価とリフレクションをするためのリフレクションシートを評価する． |
| 模擬授業の計画と実施 | 40 % | ： | 授業が綿密に計画され，確実に実施され，実態に応じて臨機応変に対応できているものを評価する． |
| 最終レポート | 30 % | ： | 一貫した単元計画と詳細な毎時の指導案が作成でき，授業実践を通して，自己の課題を見つけ，振り返りができているものを評価する． |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

高橋健夫　編著　「体育授業を観察評価する」（明和出版）
文部科学省（2018）小学校学習指導要領解説　体育編（東山書房）
文部科学省（2018）中学校学習指導要領解説　保健体育編（東山書房）
文部科学省（2019）高等学校学習指導要領解説　保健体育・体育科編（東山書房）

指導計画，指導資料に関わる文献・資料については，適宜相談に応じる．

**履修上の注意・備考・メッセージ**

1単位の科目であるため，平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる．
本科目は，学校スポーツ教育コース３年次生の必須科目である．本科目を受講するためには専門実習Ｉを修得していることが前提となるため，未履修の場合には履修することができない．
保健体育科教員に必要な実践的力量としての知識や技能について検討し，体験し，修得することを目指した授業となる．模擬授業実践前の授業以外の時間での話し合いや模擬模擬授業，リフレクションと内容検討が大切な学修になる．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　各ゼミの教員指定の時間

**場所**：　各ゼミの研究室

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業展開の検討**<br>授業会場における，細部にわたる授業展開の検討を行う． | 授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第2回 | **体育実技授業の展開（ダンス）**<br>体育実技のダンス領域の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実施者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | ダンスの授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第3回 | **体育実技授業の展開（器械運動）**<br>体育実技の器械運動の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実施者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | 器械運動の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第4回 | **体育実技授業の検討（ダンスおよび器械運動）**<br>体育実技のダンスと器械運動領域のデータから授業実践者は自己評価を行う．また，相互評価や指導者評価を行う．<br>体つくり運動や器械運動に関わる総括的な討議を行う． | 討議結果のまとめ | 1時間 |
| 第5回 | **保健授業の展開（健康な生活と疾病の予防）**<br>保健分野における「健康な生活と疾病の予防」の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | 健康な生活と疾病の予防の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第6回 | **保健授業の展開（心身の機能の発達と心の健康）**<br>保健分野における心身の機能の発達と心の健康の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | 心身の機能の発達と心の健康の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第7回 | **保健授業の展開（障害の防止）**<br>保健分野における傷害の防止の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | 傷害の防止の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第8回 | **保健授業の展開（健康と環境）**<br>保健分野における健康と環境の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | 健康と環境の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第9回 | **保健授業の検討**<br>保健授業のデータから授業実践者は自己評価を行う．また，相互評価や指導者評価を行う．<br>保健授業に関わる総括的な討議を行う． | 討議結果のまとめ | 1時間 |
| 第10回 | **体育理論授業の展開（運動やスポーツの多様性）**<br>体育理論における運動やスポーツの多様性の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | 運動やスポーツの多様性の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第11回 | **体育理論授業の展開（運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方）** | 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 体育理論における運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | | |
| 第12回 | **体育理論授業の展開（文化としてのスポーツの意義）**<br><br>体育理論における文化としてのスポーツの意義の授業実践・授業観察から得られたデータの整理・分析を行う．<br>また，授業実践者・授業観察者・学習者から得られたデータの整理・分析も行う． | 文化としてのスポーツの意義の授業観察で得られたデータの整理・分析．授業計画の検討と授業準備．授業記録の作成 | 1時間 |
| 第13回 | **体育理論授業の検討**<br><br>体育理論授業のデータから授業実践者は自己評価を行う．<br>また，相互評価や指導者評価を行う．<br>体育理論に関わる総括的な討議を行う． | 討議結果のまとめ | 1時間 |
| 第14回 | **実習の総括**<br><br>授業実践，授業参加，授業観察，授業分析の体験で得られた成果をレポートにまとめる． | 実習全体の反省とリフレクションシートの作成 | 1時間 |

SP-4154-3-1

| 授業科目名 | スポーツビジネス専門実習Ⅰ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 担当教員名 | 吉倉・石井・城島・山本・齊藤・明 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 石井：大阪ガス株式会社でのトップアスリートのマネジメント及びスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者など<br>城島：プロのスポーツライターとして（トップアスリートやスポーツに関する著作多数）の実践経験など<br>斎藤：日本ゴルフツアー機構広報アドバイザー，ホッケージャパンリーグ理事など広報業務など<br>吉倉：経済産業省スポーツ産業室長として国内スポーツ産業政策に従事<br>明：福岡ソフトバンクホークス球団職員として実務を経験 | | | | |

**授業概要**

スポーツビジネスデータ（スポーツブランド選好データ，プロスポーツクラブでの観戦者データ，フィットネス会員データ）を用い，プロスポーツ現場やスポーツビジネス現場での課題解決に必要な基礎的な統計的知識と技術，解釈方法などを理解するとともに，スポーツマネジメント・スポーツマーケティング，スポーツメディアにおける専門的な知識・技能を身につける．さらには，スポーツビジネス基礎演習と一体的に連携し，研究仮説に基づく調査項目の作成をグループで作成できるようになることを目的とする．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツマネジメントやスポーツマーケティングの先行研究で用いられている研究仮説や研究結果を解釈できるようになるための統計知識・技術 | グループワークを通じて，スポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する研究論文を読みこなせるようになる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する理論や先行研究を踏まえた上で，新規性のある研究テーマを構築できる思考力・表現力 | グループワークを通じて，スポーツマネジメントやスポーツマーケティングに関する研究仮説を構築できるようになる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・課題解決学習(PBL)

自主学習支援のため，授業の内容は，teams上に事前にアップロードする．また，ICT活用として，powerpoint，excel，SPSSなどのアプリを活用する．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

各授業回で，質問・感想・要望などの聞き取りをおこない，内容に応じて，teams一般スレッドでの回答や，次週授業で履修者全員に説明をおこなう．

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 小テスト | 20 % | ： 各回の統計授業を受けて，次週に小テストを実施する． |
| 定期テスト | 40 % | ： スポーツビジネスデータを用いた，統計知識と研究解析・解釈に関する定期テストをおこなう． |
| 期末レポート | 40 % | ： 学外実習に関するレポートを作成する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

スポーツ産業論・第7版（原田宗彦編著　杏林書院）
よくわかるスポーツマーケティング（仲澤眞・吉田政幸編著，ミネルヴァ書房）
超初心者向けSPSS統計解析マニュアル（米川和雄，山崎貞政著，北大路書房）

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため，平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる．
「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けて予習をすること．

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　各教員の時間帯は下記参照

**場所**：　各教員の研究室

**備考・注意事項**：　事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください．
石井：ishii-sa@bss.ac.jp（オフィスアワー：水曜日３限）
城島：jyojima@bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
山本：yamamoto-tatsu@bss.ac.jp（オフィスアワー：火曜日3限）
斉藤：saito-e@bss.ac.jp（オフィスアワー：月曜日4限）
吉倉：yoshikura-h@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
明：myoung@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日1限）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **ガイダンス/スポーツビジネス専門実習の最前線**<br>本講義の趣旨、到達目標などを提示するとともに、大学生を対象としたスポーツビジネス実習事例を紹介する。（担当：吉倉） | 配布物をよく読んで翌週の研究の種類・研究デザインを予習しておく． | 1時間 |
| 第2回 | **スポーツビジネスデータ分析（パラメトリック検定）**<br>スポーツビジネスデータを用いて，対応のないt検定，対応のあるt検定，効果量について学ぶ．（担当：山本，吉倉，明） | 配布資料を読み返し，対応のないt検定，対応のあるt検定，効果量について復習する． | 1時間 |
| 第3回 | **スポーツビジネスデータ分析（ノンパラメトリック検定）**<br>ススポーツビジネスデータを用いて，ノンパラメトリック分析（カイ２乗検定），正規性の検定マン・ホイットニーのU検定，ウィルコクスンの符号付き順位検定，効果量について学ぶ（担当：山本，吉倉，明） | 配布資料を読み返し，ノンパラメトリック分析について復習する． | 1時間 |
| 第4回 | **スポーツビジネスデータの分析（分散分析）**<br>スポーツビジネスデータを用いて，対応のない1要因分散分析，対応のある1要因分散分析，効果量について学ぶ．（担当：山本，吉倉，明） | 配布資料を読み返し、分散分析について理解を深める。 | 1時間 |
| 第5回 | **スポーツビジネスデータの分析（多変量分散分析）**<br>スポーツビジネスデータを用いて，多変量分散分析について学ぶ．（担当：山本，吉倉，明） | 配布資料を読み返し，多変量分散分析について復習する． | 1時間 |
| 第6回 | **スポーツビジネスデータの分析（因子分析）**<br>スポーツビジネスデータを用いて，因子分析について学ぶ。（担当：山本，吉倉，明） | 配布資料を読み返し，因子分析について復習する． | 1時間 |
| 第7回 | **スポーツビジネスデータの分析（重回帰分析）**<br>スポーツビジネスデータを用いて，重回帰分析について学ぶ。（担当：山本，吉倉，明） | 配布資料を読み返し，重回帰分析について復習する． | 1時間 |
| 第8回 | **スポーツビジネス実習事前学習（情報収集）**<br>スポーツビジネス実習に向けて、グループ毎による事前学習をおこなう。（担当：コース教員） | 実習先に関する情報を集め、グループ間共有できるようにまとめる。 | 1時間 |
| 第9回 | **スポーツビジネス実習事前学習（情報共有と目標設定）**<br>スポーツビジネス実習に向けて、グループで目標設定をおこなう。（担当：コース教員） | 実習における目標に対して、自身がどう取り組むかまとめる。 | 1時間 |
| 第10,11,12回 | **スポーツビジネス実習**<br>スポーツビジネス各専門領域における実習をおこなう。（担当：コース教員） | 実習における成果や反省事項などをまとめておく。 | 1時間 |
| 第13回 | **スポーツビジネス実習事後学習（振り返り）**<br>グループ間における振り返りを実施する。（担当：コース教員） | グループ間における振り返りをもとに、自身の取り組みについて自己評価する。 | 1時間 |
| 第14回 | **卒業研究プロポーザル発表会への参加**<br>卒業研究プロポーザル発表会へ参加し、理論と実践について学ぶ。 | 自身の卒業研究に関する構想と計画を立てる。 | 1時間 |

SP-4155-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **スポーツビジネス専門実習Ⅱ** | | | | |
| 担当教員名 | **吉倉・石井・城島・山本・齊藤・明** | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | ＊ | 単位数 | 1 |
| 授業形態 | 実習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 石井：大阪ガス株式会社でのトップアスリートのマネジメント及びスポーツによる健康なまちづくり事業の責任者など<br>城島：プロのスポーツライターとして（トップアスリートやスポーツに関する著作多数）の実践経験など<br>斎藤：日本ゴルフツアー機構広報アドバイザー，ホッケージャパンリーグ理事など広報業務など<br>吉倉：経済産業省スポーツ産業室長として、国内スポーツ産業政策に従事<br>明：福岡ソフトバンクホークス球団職員として実務を経験 | | | | |

**授業概要**

各ゼミ単位の4名～5名程度のグループ単位で，学外の「プロサッカークラブ」，「プロバスケットボールクラブ」，「スポーツ施設利用者」，「スポーツクラブ会員」，「スポーツ小売利用者」，「スポーツメデイア（新聞社・雑誌社）」を対象としたアンケート・インタビュー調査を行って，プレゼンテーションしてもらう．具体的には，スポーツ現場の課題解決（PBL）を意図したスポーツマネジメント，スポーツマーケティングに関する量的研究を行うか，もしくは，スポーツメディアを対象とした質的研究を行う．これらの，実践的な知識，技能，実践力を養うことで，卒業研究の予行演習とするとともに，スポーツビジネス分野で活躍できる専門的な人材育成を行う．なお，「スポーツビジネス基礎演習II」および「スポーツ消費者行動論」と連携した授業運用を行う．

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP2.知識・技能 | スポーツマネジメント・スポーツマーケティングの先行研究や理論に基づいて実施した調査研究データを用いた仮説検証方法および統計解析の修得 | スポーツマネジメント・スポーツマーケティングの先行研究と対比して，自分たちの調査結果データから仮説検証ができるようになる． |
| 2. DP3.思考・判断・表現 | スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツメディアの先行研究や理論に基づいて，自分たちの実施した調査研究データを先行研究と対比しながら帰納的な統計的仮説検証や，演繹的な質的考察できる思考力と表現力の修得 | スポーツマネジメント・スポーツマーケティング・スポーツメディアに関する調査研究データを用いた考察や思考・表現ができるようになる． |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・課題解決学習(PBL)

自主学習支援のため，授業の板書は，teams上に事前にアップロードする．また，ICT活用として，powerpoint，excel，SPSSなどのアプリを活用する．

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

各授業回で，質問・感想・要望などの聞き取りをおこない，内容に応じて，teams一般スレッドでの回答や，次週授業で履修者全員に説明をおこなう．

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 調査研究プレゼンテーション | 30 % | ： グループ単位で調査研究に関する発表を行う．研究目的・研究仮説と研究方法・研究結果・考察の一貫性や妥当性を評価する． |
| 調査研究に関する抄録 | 30 % | ： 調査研究に関する抄録を発表時に提出する．研究の背景・目的・方法・結果・考察の一貫性・ストーリー性・妥当性を評価する． |
| グループワークにおける個人評価 | 20 % | ： グループワークにおいて主体的・積極的に取り組んでいるかを評価する． |

各教員のミニ講義に対するミニレポート　　：　毎授業のミニ講義に対するミニレポート

20　%

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

授業の中で適宜紹介する.

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。なお，「スポーツビジネス基礎演習II」および「スポーツ消費者行動論」と連携した授業運用を行う.

**オフィスアワー・授業外での質問の方法**

**時間**：　各教員の曜日時限

**場所**：　各教員の研究室

**備考・注意事項**：　事前に，下記のメールにてアポイントを取ってください.
石井：ishii-sa@bss.ac.jp（オフィスアワー：水曜日３限）
城島：jyojima@bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
山本：yamamoto-tatsu@bss.ac.jp（オフィスアワー：火曜日3限）
斉藤：saito-e@bss.ac.jp（オフィスアワー：月曜日4限）
吉倉：yoshikura-h@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：金曜日2限）
明：myoung@g.bss.ac.jp（オフィスアワー：水曜日　3限）

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | ***ガイダンス/グループ研究について***<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第2回 | **卒業研究中間発表会への参加**<br>卒業研究中間発表会に参加し、自身の卒業研究に対するイメージを構築する。 | 自身の卒業研究に関する構想を立てる。 | 1時間 |
| 第3回 | **卒業研究へ向けたミニ講義(1)（30分）（担当：山本）**<br>卒業研究へ向けたミニ講義（30分）（担当：山本）<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第4回 | **卒業研究へ向けたミニ講義(2)（30分）（担当：山本）**<br>卒業研究へ向けたミニ講義（30分）（担当：山本）<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第5回 | **卒業研究へ向けたミニ講義(3)（30分）（担当：山本）**<br>卒業研究へ向けたミニ講義（30分）（担当：山本）<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第6回 | **卒業研究へ向けたミニ講義(4)（30分）（担当：山本）**<br>卒業研究へ向けたミニ講義（30分）（担当：山本）<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第7回 | **卒業研究へ向けたミニ講義(5)（30分）（担当：山本）**<br>卒業研究へ向けたミニ講義（30分）（担当：山本）<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第8回 | **卒業研究へ向けたミニ講義(6)（30分）（担当：山本）**<br>卒業研究へ向けたミニ講義（30分）（担当：山本）<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第9回 | **卒業研究へ向けたグループワーク(1)**<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第10回 | **卒業研究へ向けたグループワーク(2)**<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第11回 | **卒業研究へ向けたグループワーク(3)**<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第12回 | **卒業研究へ向けたグループワーク(4)**<br>◎ゼミ単位グループワーク | 共有された授業資料の復習 | 1時間 |
| 第13回 | ***グループ研究報告（1）***<br>各グループの調査結果を発表する（1）<br>◎他グループの発表への省察と感想 | 他グループの抄録内容に目を通し，他グループに質問できるようにしておく. | 1時間 |
| 第14回 | ***グループ研究報告（2）***<br>各グループの調査結果を発表する（2）<br>◎他グループの発表への省察と感想 | 他グループの抄録内容に目を通し，他グループに質問できるようにしておく. | 1時間 |

SP-3502-3-1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名 | **野外・レクリエーションスポーツ基礎演習Ⅱ（中川）** | | | | |
| 担当教員名 | 中川　宏治 | | | | |
| 学年・コース等 | 3 | 開講期間 | 後期 | 単位数 | 2 |
| 授業形態 | 演習 | | | | |
| 実務経験のある教員による授業科目 | 該当する | | | | |
| 実務経験の概要 | 滋賀県の林業職員を20年間務めた。その間、琵琶湖環境科学研究センターにおいて、滋賀県の森林をフィールドとした生態学や造林学、計画学の研究に6年間携わったほか、ケニア共和国のメルー国立公園において青年海外協力隊（環境教育）のボランティア活動に2年間取り組んだ。 | | | | |

**授業概要**

アウトドアスポーツ関連の研究動向を概観し、基本的研究の理解を深める。また、研究論文を書くために必要となる論文構成や研究方法、文献検索の方法、論文の読み方を学び、さらにデータの収集、分析、結果・考察について学ぶ。実践現場での経験や自身の興味や関心、問題意識に基づいて論文検索を行い、有益な情報収集、方法の活用から、自分の卒業研究のテーマを考える。最終目標として、卒業研究につながる研究デザインに発展させる。

**養うべき力と到達目標**

| | 具体的内容： | 目標： |
|---|---|---|
| 1. DP1.スポーツに対する関心・意欲 | 野外スポーツに関連する研究の理解 | 野外スポーツに関連する研究に関心を持ち、研究論文を書くための意欲を持つことができる。 |
| 2. DP2.知識・技能 | 論文構成、研究方法、文献検索、データの分析 | 論文を書くために必要となる論文構成、研究方法、文献検索、データの分析に関する知識を深めるとともに統計スキルを理解することができる。 |
| 3. DP3.思考・判断・表現 | 研究デザイン作成と発表 | 何に興味を持ち、研究を進めるのかについて、知識を発展させながら思考し、プロポーザルにまとめて発表することができる。 |
| 4. DP4.学びに向かう力、人間性など（主体性・多様性・協調性） | 研究デザイン作成と発表 | 研究論文のプロポーザルに基づき、計画的に進めるための課題を理解し、主体的な態度を養うことができる。 |

**学外連携学修**

無し

**授業方法**

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・課題解決学習(PBL)
・その他(以下に概要を記述)
ICT(タッチタイピング)、ICT(Excel)、ICT(専用機器・アプリ活用)

**課題や取組に対する評価・振り返り**

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

**成績評価**

| 成績評価の方法・評価の割合 | | 評価の基準 |
|---|---|---|
| 課題・レポート | 40 % | ： トピックに関する課題に対するレポートを評価する。 |
| 課題発表 | 30 % | ： 課題に対してグループで取り組み、発表を行う。その内容を評価する。 |
| 最終課題 | 30 % | ： 最終課題であるプロポーザルとそのプレゼンテーションを評価する。 |

**使用教科書**

特に指定しない

**参考文献等**

随時必要な場合には指定します。

**履修上の注意・備考・メッセージ**

本演習を通して、卒業研究につながる研究計画を立てるための、必要な知識や技術を身に着けます。実習や実践を通して各自が現場での問題意識や興味を高め、そこから独自のテーマを見出し、問題解決に取り組む一つのアプローチとしての研究法を身に付けます。
本科目は通年で2単位ずつ、4単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。授業外学修課題に取り組むことに加え、毎回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習すること。

| 授業計画 | | 学修課題 | 授業外学修課題にかかる目安の時間 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | **授業概要説明および「研究」とは**<br>卒業研究遂行に必要な学習と計画的に進めていく必要性について理解する。エッセイやレポートなどと、論文と言われる文章の違いに着目し、研究論文の性質を理解するとともに、文献検索の方法について理解する。 | 論文抄録を読む。 | 4時間 |
| 第2回 | **野外スポーツ関連研究の概観**<br>各自が選んだ卒業論文抄録３編を課題にそってまとめ、疑問点や問題点を整理する。 | 論文抄録を読み、ワークシートに整理する。 | 4時間 |
| 第3回 | **統計学的手法および基本統計量**<br>統計学的手法について理解する。また、代表値や平均、分散といった基本統計量について定義を確認する。利用可能な統計データの一つであるオープンデータの種類を概説する。 | 各自データシートを完成させる。 | 4時間 |
| 第4回 | **統計データの分析**<br>入力したデータを用い、統計ソフトを使用しながら基本的な統計処理に取り組み、データ分析の基本を理解する。また、分析によって得られた結果を理解する。 | 各自で分析に取り組む。 | 4時間 |
| 第5回 | **自然環境の分析**<br>森林や河川、湖沼などの自然環境について、レクリエーションの場としての特徴を把握するため、地理情報システムを用いた地形や景観などの地理的条件の分析手法について理解する。 | 各自で分析に取り組む。 | 4時間 |
| 第6回 | **結果のまとめ方ー結果と考察のまとめ**<br>分析結果のまとめ方を理解し、各自得られた結果をまとめる。考察とは何か理解し、出てきた結果の考察を行う。各自が行った結果についても考察を行う。 | 授業の復習を行い、各自例題に取り組む。 | 4時間 |
| 第7回 | **研究方法①観察法**<br>研究の原点である観察法について、その理論を学び、実際の観察法を実践し、データをまとめることから手法を理解する。 | まとめたデータを整理し、結果を出し、考察する。 | 4時間 |
| 第8回 | **研究方法②質問紙法**<br>野外スポーツ研究にて最も幅広く活用されている質問紙法について学び、その種類や具体的方法を理解する。 | 授業の復習、例題に取り組む。 | 4時間 |
| 第9回 | **研究方法③面接法**<br>質的データ収集法としての面接法について、その理論を学び、実際にミニインタビューを実施し、データ収集し、まとめる活動を通して手法を理解する。 | インタビューデータを整理し、まとめる。 | 4時間 |
| 第10回 | **研究方法④実験研究**<br>実験研究法の手法を学び、野外スポーツ分野において実践するための知識を身に付ける。 | 授業を復習し、例題に取り組む。 | 4時間 |
| 第11回 | **研究方法⑤文献研究**<br>文献の種類やその特徴について学び、また文献をデータとして用いた研究について先行研究から理解を深め、すべての研究において必要な文献レビューの意義や手法を理解する。 | 授業を復習し、例題に取り組む。キーワードを整理する。 | 4時間 |
| 第12回 | **研究デザイン**<br>これまでの研究に関する理解を整理する。またそれらの知識を用いた研究デザインについて理解する。研究の種類の選択、テーマに即した手法の選択、研究実践のための具体的なデザインの考案について学ぶ。 | 自分のテーマに即したデザインを考える。 | 4時間 |
| 第13回 | **研究プロポーザル作成**<br>フォーマットに則りプロポーザルをまとめ、個人指導を受ける。修正を繰り返し、完成させる。 | 研究課題を設定し、デザインを考える。プロポーザル作成。 | 4時間 |
| 第14回 | **卒業研究プロポーザル発表**<br>各自準備してきたプロポーザルを発表する。それぞれのプロポーザルについて、そのオリジナリティや実現性、学習程度について評価を受ける。また、他の研究についてもよりよいものとなるよう質問、フィードバックを行う。 | プロポーザル発表にて受けた評価から、今後の卒業論文研究への具体的計画をたてる。 | 4時間 |